元総社蒼海遺跡群（38）

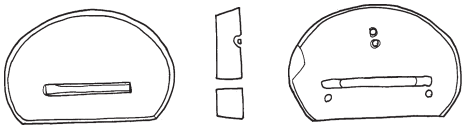
前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

２０１２．３

前 橋 市 教 育 委 員 会

元総社蒼海遺跡群（38）

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書



3ｂ区Ｈ－９号住居跡出土の丸鞆（Ｓ＝1/2）

２０１２．３

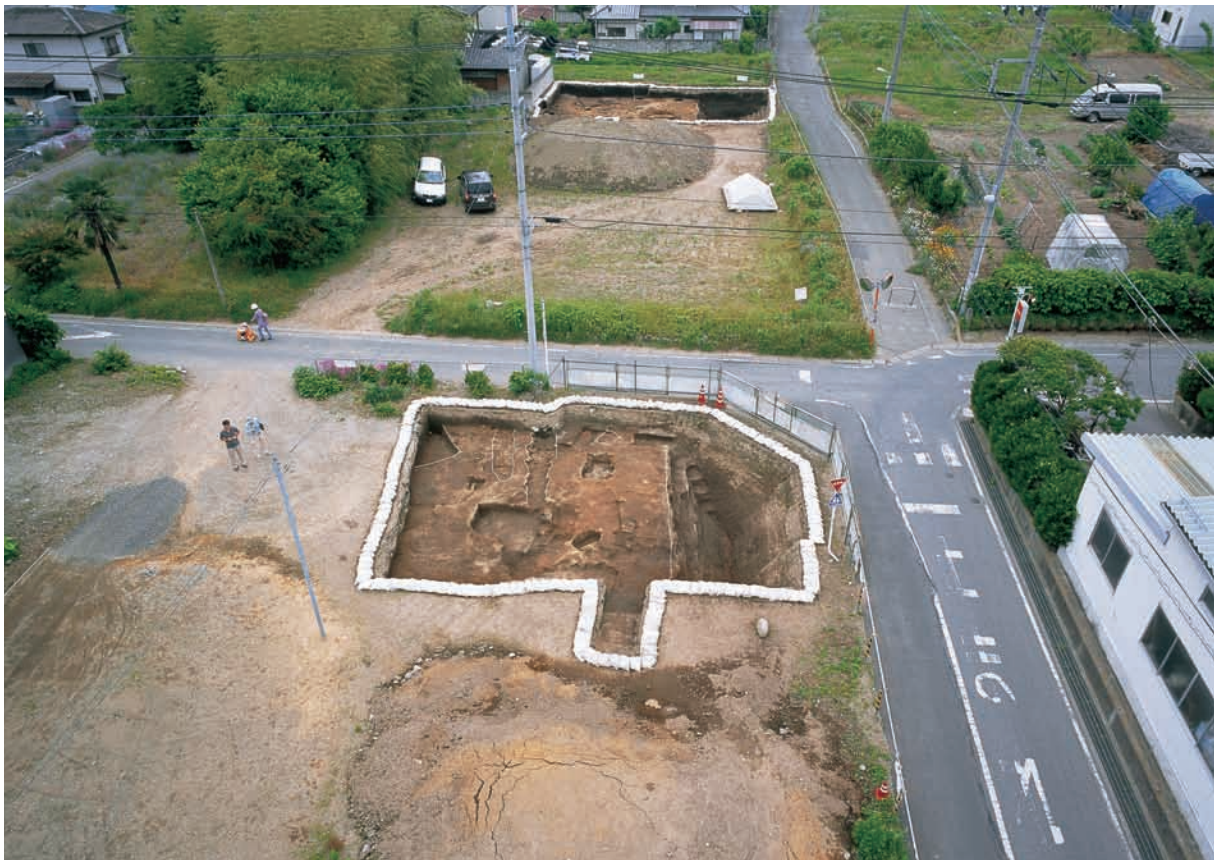
前橋市教育委員会

15区　祭祀跡遺物出土状態（東から）

口絵 2

1区　調査区遠景（北から）

3区　調査区遠景（東から）



5区　調査区全景（北から）

8区　調査区遠景（東から）

口絵 4

15区　祭祀跡遺物集合①

15区　祭祀跡遺物集合②

はじめに

前橋市は、関東平野の北西最奥部に位置する群馬県の中央、上毛三山のひとつ名峰赤城を背にし、利根川や広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情に溢れる県都です。市域は豊かな自然環境にも恵まれ、2万年前から人々が生活を始めました。そのため市内のいたる所に人々の息吹を感ぜられる歴史遺産が存在します。

古代において前橋台地には、広大に分布する穀倉地帯を控え、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめ王山古墳・天川二子山古墳といった首長墓が連綿と築かれ、上毛野国の中心地として栄えました。また、続く律令時代になってからは総社・元総社地区に山王廃寺、国分僧寺、国分尼寺、国府など上野国の中枢をなす施設が次々に造られました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎬をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられ、「関東の華」とも呼ばれた厩橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の一大生産地であったことから、横浜に至る街道は「日本のシルクロード」とも呼ばれ、横浜港からは前橋シルクの名で海外に輸出され、近代日本の発展の一翼を担いました。

今回、報告書を上梓する元総社蒼海遺跡群（38）は古代上野国の中枢地域の調査であります。上野国府推定区域に隣接することから、調査成果に多くの注目を集めております。今回の調査では、国府そのものに関連する遺構の検出・確認はかないませんでしたが、古墳時代から平安時代にいたる多くの竪穴住居跡を検出しました。今は一本の糸に過ぎない調査成果も織り上げて行けば、国府や国府のまちの姿を再現できるものと考えております。残念ながら、現状のままでの保存が困難なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、関係機関や各方面の多大なるご配慮・ご尽力により調査事業を円滑に進められことができました。また、記録的な猛暑そして寒風の中、発掘調査担当者・作業員のみなさんに厚くお礼申しあげます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成24年3月

前橋市教育委員会

教育長　佐　藤　博　之

例　　言

1　本報告書は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う元総社蒼海遺跡群（38）発掘調査報告書である。
2　調査主体は、前橋市教育委員会管理部文化財保護課である。
3　発掘調査の要項は次のとおりである。

調　査　場　所　　群馬県前橋市元総社町1816番地１　ほか
発 掘 調 査 期 間　　平成23年５月９日～平成23年12月21日
整理・報告書作成期間　　平成23年12月22日～平成24年３月19日
発 掘 ・ 整 理 担 当 者　　藤坂和延・細野泰宏・瀧澤重雄、並木勝洋・阿久澤智和（発掘調査係員）

4　本書の原稿執筆・編集は藤坂・細野・瀧澤、並木・阿久澤が行った。
5　発掘調査・整理作業にかかわった方々は次のとおりである。

青木あつ子・青木麻耶・阿部シゲ子・石倉稔夫・大木伸二・神山早苗・小畑憲治・齋藤簡詳・佐藤　修・品川祐二・下田真弓・下平勇樹・関根その子・高澤京子・高野　繁・瀧上政信・武井洋子・多田啓子・田辺　昇・角田節子・角田昌幸・渡木秋子・中澤光江・仲野正人・中林美智子・奈良啓子・庭山皓正・橋本ちづる・平林しのぶ・星野和子・堀込とよ江・町田妙子・町田敏彦・真庭武志・峰岸あや子・矢島忠・山田哲也・湯浅道子

6　発掘調査で出土した遺物は、前橋市教育委員会文化財保護課で保管されている。

凡　　例

1　挿図中に使用した北は、座標北である。
2　挿図に国土交通省国土地理院発行の１：200,000地形図(宇都宮、長野)、１：25,000地形図(前橋)、１：6,000前橋市現形図を使用した。
3　遺跡の略称は、23Ａ130-38である。
4　遺構及び遺構施設の略称は、次のとおりである。

Ｈ…古墳・奈良・平安時代の竪穴住居跡　Ｔ…竪穴状遺構　Ｗ…溝跡　Ａ…道路状遺構　Ｄ…土坑
ＤＢ…土壙墓　Ｐ…ピット・貯蔵穴(住居内P_5を貯蔵穴とした。)　Ｘ…性格不明遺構　Ｏ…風倒木跡

5　遺構・遺物の実測図の縮尺は、原則的に次のとおりである。その他、各図スケールを参照されたい。

遺構　　全体図…1/200　住居跡・竪穴状遺構・溝跡・土坑・ピット…1/60　竈・炉断面図…1/30
遺物　　土器・鉄製品…1/3、1/4　石器・石製品・土製品…2/3、1/3　鉄器・鉄製品…1/2　瓦…1/6

6　計測値については、(　) は現存値、[　] は復元値を表す。
7　セクション注記と遺物観察表の色調については、新版標準土色帳（小山・竹原 1967）を基準とした。
8　遺構平面図の----------は推定線を表す。
9　スクリーントーンの使用は、次のとおりである。

遺構平面図　焼　土…　　粘　土…
遺構断面図　構築面…
遺物実測図　須恵器断面…　　灰釉陶器断面…　　灰釉陶器表面…
緑釉陶器断面…　　内　黒…　　粘土、たたき…
いぶし焼成…　　煤、炭化物付着…

10　主な火山降下物等の略称と年代は次のとおりである。

As-B　（浅間Ｂ軽石：供給火山・浅間山、1108年）
Hr-FP（榛名二ッ岳伊香保テフラ：供給火山・榛名山、６世紀中葉）
Hr-FA（榛名二ッ岳渋川テフラ：供給火山・榛名山、６世紀初頭）
As-C　（浅間Ｃ軽石：供給火山・浅間山、４世紀前半）

目　　次

目　　次
口 絵 写 真
は じ め に
例言・凡例
目次・図版目次・挿図目次・表目次

Ⅰ　調査に至る経緯 …… 1

Ⅱ　遺跡の位置と環境
1　遺跡の立地 …… 1
2　歴史的環境 …… 1

Ⅲ　調査方針と経過
1　調 査 方 針 …… 7
2　調査経過及び概要 …… 7

Ⅳ　各区の遺構と遺物
1区 …… 11
2区 …… 24
3区 …… 28
4区 …… 64
5区 …… 71
6区 …… 73
7区 …… 81
8区 ……101
9区 ……112
10区 ……121
11区 ……128
13区 ……132
14区 ……135
15区 ……137
16区 ……155

Ⅴ　ま　と　め
1　前方後方形周溝墓について ……159
2　古墳時代後期の祭祀跡について ……160

写 真 図 版
抄　　録
奥　　付

図　　版

口絵１　15区　祭祀跡遺物出土状態
　　２　１区　調査区遠景
　　３　３区　調査区遠景
　　４　５区　調査区全景
　　５　８区　調査区遠景
　　６　15区　祭祀跡遺物集合①
　　７　15区　祭祀跡遺物集合②

ＰＬ.１　１区調査区全景、Ｈ－１号住居跡
ＰＬ.２　１区Ｈ－２～４号住居跡
ＰＬ.３　１区Ｈ－５～８号住居跡、Ｗ－１号溝跡全景
ＰＬ.４　２区調査区全景、Ｗ－１号溝跡、Ｉ－１号井戸跡、３ａ区Ｈ－１号住居跡
ＰＬ.５　３ａ区Ｈ－２～８号住居跡、Ｗ－１号溝跡
ＰＬ.６　３ａ区Ｈ－９・10・14～17・23号住居跡
ＰＬ.７　３ａ区Ｈ－８・18～23号住居跡
ＰＬ.８　３ａ区住居跡の重複状態（Ｈ－16～20・22・23住居跡）、Ｂ－１号掘立柱建物跡、Ｄ－２号土坑
ＰＬ.９　３ｂ区Ｈ－１～３・８・９・12号住居跡
ＰＬ.10　３ｂ区Ｈ－６・８・９号住居跡、４ｃ区調査区全景
ＰＬ.11　４ａ区調査区全景、Ｗ－１号溝跡、４ｂ区調査区全景、Ｈ－１～４号住居跡、５区Ｈ－１住居跡
ＰＬ.12　５区調査区全景、Ｗ－３号溝跡、Ｈ－１号住居跡、６区Ｗ－１号溝跡、６区Ｈ－１号住居跡
ＰＬ.13　６区調査区全景、Ｈ－２・３号住居跡、Ｄ－１号土坑
ＰＬ.14　７ａ区調査区全景、Ｗ－１・２号溝跡
ＰＬ.15　７ｂ区調査区全景、Ｈ－１号住居跡
ＰＬ.16　７ｂ区Ｈ－２～６号住居跡、Ｗ－３号溝跡
ＰＬ.17　７ｃ区調査区全景、Ｈ－７～10号住居跡
ＰＬ.18　７ｃ区Ｈ－10～15号住居跡、Ｏ－１号落ち込み
ＰＬ.19　７ｄ区調査区全景、Ａ－１号道路状遺構、Ｈ－16号住居跡
ＰＬ.20　７ｅ区調査区全景、Ｈ－17・19・20号住居跡
ＰＬ.21　８区調査区全景、Ｈ－１・２号住居跡、Ｄ－３号土坑
ＰＬ.22　Ｄ－３号土坑、Ｔ－１・２・３号竈構築材採掘坑、Ｉ－１号井戸跡、Ｗ－１号溝跡
ＰＬ.23　８区Ｗ－１～４号溝跡
ＰＬ.24　９区調査区全景、Ｈ－１～３号住居跡
ＰＬ.25　９区Ｈ－３・４号住居跡、Ｗ－１～３号溝跡、Ｔ－１号竪穴状遺構、Ｄ－２号土坑
ＰＬ.26　10区調査区全景、Ｈ－１～４号住居跡、Ｐ２号ピット、Ｗ－１・２号溝跡
ＰＬ.27　11区調査区全景、Ｈ－１～２号住居跡、Ｄ－２号土坑、Ｉ－１号井戸跡
ＰＬ.28　13区調査区全景、Ｈ－１号住居跡、Ｗ－１号溝跡、14区調査区全景
ＰＬ.29　15区Ｈ－１～４号住居跡
ＰＬ.30　15区調査区全景
ＰＬ.31　15区Ｈ－４～７号住居跡
ＰＬ.32　15区Ｈ－８～11号住居跡
ＰＬ.33　15区Ｈ－12・14号住居跡、Ｔ－１号竪穴状遺構、Ｂ－１号掘立柱跡、Ｗ－１～３号溝跡
ＰＬ.34　16区調査区全景、Ｈ－１号住居跡、水田跡
ＰＬ.35　16区Ｈ－１号住居跡、作業風景
ＰＬ.36　１～３ａ区出土遺物
ＰＬ.37　３ａ・３ｂ区出土遺物
ＰＬ.38　３ｂ区～４ｂ区出土遺物
ＰＬ.39　６区・７区出土遺物
ＰＬ.40　７～９区出土遺物
ＰＬ.41　９・10区出土遺物
ＰＬ.42　10・15区出土遺物
ＰＬ.43　15・16区出土遺物
ＰＬ.44　３ｂ区鉄製品集合、８区石製品集合
ＰＬ.45　15区出土臼玉・管玉集合、３ａ・３ｂ区石製品、３ｂ区出土瓦集合

挿　　図

Fig.１　元総社蒼海遺跡群位置図 …… ２
Fig.２　周辺遺跡図 …… ４
Fig.３　グリッド設定図・調査区位置図 …… ８
Fig.４　１区全体図 …… 11
Fig.５　１区基本層序 …… 11
Fig.６　１区Ｈ－１・３・４号住居跡 …… 17
Fig.７　１区Ｈ－２・６・７号住居跡 …… 18
Fig.８　１区Ｈ－５号住居跡、Ｂ－１号掘立柱跡 …… 19
Fig.９　１区Ｈ－８号住居跡、Ｐ－１～７号ピット …… 20
Fig.10　１区Ｗ－１号溝跡、Ｉ－１号井戸跡、Ｏ－１・２号落ち込み、Ｐ－８～13号ピット …… 21
Fig.11　１区Ｈ－１・２号住居跡出土遺物 …… 22
Fig.12　１区Ｈ－３～５・７・８号住居跡、Ｗ－１号溝跡出土遺物 …… 23
Fig.13　２区基本層序 …… 24
Fig.14　２区全体図 …… 24
Fig.15　２区Ｗ－１号溝跡、Ｉ－１号井戸跡 …… 25
Fig.16　２区Ｉ－１号井戸跡出土遺物 …… 25
Fig.17　３区全体図（1） …… 26
Fig.18　３区全体図（2） …… 27
Fig.19　３区基本層序 …… 28
Fig.20　３ａ区Ｈ－１・３号住居跡 …… 41
Fig.21　３ａ区Ｈ－２・４～６号住居跡 …… 42
Fig.22　３ａ区Ｈ－７・８号住居跡 …… 43
Fig.23　３ａ区Ｈ－９・10・15号住居跡 …… 44
Fig.24　３ａ区Ｈ－11～14号住居跡 …… 45

Fig.25　3 a区H―16・17号住居跡、D―1・2号土坑 …… 47
Fig.26　3 a区H―18～20号住居跡 …… 48
Fig.27　3 a区H―21・22号住居跡 …… 49
Fig.28　3 a区H―23号住居跡、B―1号掘立柱建物跡、
X―1号遺構 …… 50
Fig.29　3 a区W―1号溝跡、3 b区H―1・2号住居跡 …… 51
Fig.30　3 b区H―3～7号住居跡 …… 52
Fig.31　3 b区H―8～13号住居跡 …… 54
Fig.32　3 a区H―1～4号住居跡出土遺物 …… 56
Fig.33　3 a区H―5・7～9号住居跡出土遺物 …… 57
Fig.34　3 a区H―10～12、14～16・18号住居跡出土遺物 …… 58
Fig.35　3 a区H―18・20・21・23号住居跡、X―1号遺構、
3 b区H―1・2号住居跡出土遺物 …… 59
Fig.36　3 b区H―2・3・5・6号住居跡出土遺物 …… 60
Fig.37　3 b区H―6～9・12号住居跡出土遺物 …… 61
Fig.38　3 b区H―6号住居跡出土瓦(1) …… 62
Fig.39　3 b区H―6号住居跡出土瓦(2) …… 63
Fig.40　3 b区出土鉄製品 …… 63
Fig.41　4区全体図 …… 66
Fig.42　4 a区W―1号溝跡、4 b区H―2号住居跡 …… 68
Fig.43　4 b区H―1・2号住居跡 …… 69
Fig.44　4 b区H―1・2号住居跡、W―1号溝跡出土遺物 … 70
Fig.45　5区基本層序 …… 71
Fig.46　5区全体図 …… 72
Fig.47　5区H―1住居跡、W―1号溝跡 …… 73
Fig.48　6区基本層序 …… 73
Fig.49　6区全体図 …… 75
Fig.50　6区H―1・3号住居跡 …… 77
Fig.51　6区H―2号住居跡、W―1溝跡、D―1号土坑 …… 78
Fig.52　6区H―1～3号住居跡、D―1号土坑出土遺物 …… 79
Fig.53　7区全体図 …… 80
Fig.54　7区基本層序 …… 81
Fig.55　7区H―1・2・4号住居跡 …… 90
Fig.56　7区H―3・5～7号住居跡 …… 91
Fig.57　7区H―8・9号住居跡 …… 92
Fig.58　7区H―10～12号住居跡 …… 93
Fig.59　7区H―13～16号住居跡 …… 94
Fig.60　7区H―17・18号住居跡 …… 95
Fig.61　7区H―19・20号住居跡、D―1～3号土坑、
P―1号ピット、W―1号溝跡 …… 96
Fig.62　7区W―1～3号溝跡、A―1号道路状遺構 …… 97
Fig.63　7区I―1・5～7号井戸、O―1～5号
落ち込み …… 98
Fig.64　7区H―1～14号住居跡出土遺物 …… 99
Fig.65　7区H―17～20号住居跡出土遺物 ……100
Fig.66　8区基本層序 ……101
Fig.67　8区全体図 ……101
Fig.68　8区H―2号住居跡、D―1～10号土坑 ……106
Fig.69　8区W―1～4号溝跡 ……107
Fig.70　8区W―1号溝跡、T―1～3号竪穴状遺構、
I―1号井戸跡、D―11号土坑 ……108
Fig.71　8区H―1号住居跡、D―3号土坑出土遺物 ……109
Fig.72　8区D―3号土坑、W―1号溝跡出土遺物 ……110
Fig.73　8区D―3号土坑、T―2・3号竪穴状遺構、
W―1・4号溝跡出土遺物 ……111
Fig.74　9区全体図 ……112
Fig.75　9区基本層序 ……112
Fig.76　9区H―1・2号住居跡、T―1号竪穴状遺構 ……116
Fig.77　9区H―3・4号住居跡、D―2号土坑、
P―1～9号ピット ……117
Fig.78　9区W―1～3号溝跡、O―1号落ち込み ……118
Fig.79　9区H―1～3号住居跡出土遺物 ……119
Fig.80　9区H―3号住居跡、D―2号土坑出土遺物 ……120
Fig.81　10区全体図 ……121
Fig.82　10区H―1～3号住居跡、W―1・2号溝跡 ……124
Fig.83　10区H―4号住居跡、D―1号土坑、P―1号ピット
……125
Fig.84　10区H―1・2号住居跡出土遺物 ……126
Fig.85　10区H―2～5号住居跡、D―1号土坑出土遺物 ……127
Fig.86　11区全体図 ……128
Fig.87　11区基本層序 ……128
Fig.88　11区H―1・2号住居跡 ……130
Fig.89　11区I―1号井戸跡、D―1・2号土坑、P―1・
3～6号ピットH―1・2号住居跡、I―1号井戸
跡出土遺物 ……131
Fig.90　13区全体図 ……132
Fig.91　13区H―1号住居跡、W―1・2号溝跡 ……133
Fig.92　14区全体図 ……135
Fig.93　14区基本層序 ……135
Fig.94　14区W―1～3号溝跡 ……136
Fig.95　14区W―1・3号溝跡出土遺物 ……136
Fig.96　15区基本層序 ……137
Fig.97　15区全体図 ……137
Fig.98　15区H―1・2・12号住居跡、畠跡 ……144
Fig.99　15区H―3・4号住居跡 ……145
Fig.100　15区H―5号住居跡 ……146
Fig.101　15区H―6・7・9・13号住居跡 ……147
Fig.102　15区H―8号住居跡 ……148
Fig.103　15区H―10・11・14号住居跡、T―1号竪穴状遺構 …149
Fig.104　15区W―3号溝跡、D―8・11号土坑 ……150
Fig.105　15区W―1・2号溝跡、B―1号掘立柱跡、
D―1～4・10号土坑 ……151
Fig.106　15区D―5～7・9・12・13号土坑、
H―1・3・7号住居跡出土遺物 ……152
Fig.107　15区H―4～6・8号住居跡出土遺物 ……153
Fig.108　15区H―9・10・13号住居跡、W―3号溝跡出土遺物
……154
Fig.109　16区基本層序 ……155
Fig.110　16区全体図 ……155
Fig.111　16区H―1号住居跡、Hr-FA下水田跡 ……156
Fig.112　16区H―1号住居跡、Hr-FA下水田跡出土遺物 ……158
Fig.113　前方後方形周溝墓模式図 ……159
Fig.114　祭祀跡遺物出土状態 ……160
Fig.115　器種別出土状態 ……160
Fig.116　祭祀跡と住居跡 ……160
Fig.117　祭祀跡出土遺物(1) ……164
Fig.118　祭祀跡出土遺物(2) ……165
Fig.119　祭祀跡出土遺物(3) ……166

表

Tab. 1　元総社蒼海遺跡群周辺遺跡概要一覧表 …… 5
Tab. 2　1区　住居跡一覧表 …… 14
Tab. 3　1区　溝跡計測表 …… 14
Tab. 4　1区　土坑・ピット・井戸跡計測表 …… 14
Tab. 5　1区　古墳・奈良・平安時代出土土器観察表 …… 15
Tab. 6　1区　石器・石製品観察表 …… 16
Tab. 7　1区　銅製品観察表 …… 16
Tab. 8　1区　土製品観察表 …… 16
Tab. 9　1区　瓦観察表 …… 16
Tab.10　2区　古墳・奈良・平安時代出土土器観察表 …… 24
Tab.11　3区　住居跡一覧表 …… 34
Tab.12　3区　溝跡計測表 …… 35
Tab.13　3区　土坑・井戸跡計測表 …… 36
Tab.14　3区　古墳・奈良・平安時代出土土器観察表 …… 36
Tab.15　3区　石器・石製品観察表 …… 39
Tab.16　3区　土製品観察表 …… 39
Tab.17　3区　鉄器・鉄製品観察表 …… 39
Tab.18　3区　瓦観察表 …… 40
Tab.19　4ｂ区　住居跡等一覧表 …… 65
Tab.20　4区　溝跡計測表 …… 65
Tab.21　4区　古墳・奈良・平安時代出土土器観察表 …… 67
Tab.22　5区　住居跡一覧表 …… 72
Tab.23　5区　溝跡、その他計測表 …… 72
Tab.24　5区　土坑計測表 …… 72
Tab.25　6区　住居跡一覧表 …… 75
Tab.26　6区　溝跡計測表 …… 75
Tab.27　6区　土坑・井戸跡計測表 …… 75
Tab.28　6区　古墳・奈良・平安時代出土土器観察表 …… 76
Tab.29　6区　鉄器・鉄製品観察表 …… 76
Tab.30　7区　住居跡一覧表 …… 87
Tab.31　7区　土坑・ピット・井戸・落ち込み一覧表 …… 88
Tab.32　7区　溝跡・道路状遺構一覧表 …… 88
Tab.33　7区　出土遺物観察表 …… 88
Tab.34　8区　住居跡等一覧表 ……103
Tab.35　8区　溝跡計測表 ……104
Tab.36　8区　土坑・井戸跡計測表 ……104
Tab.37　8区　古墳・奈良・平安時代出土土器観察表 ……104
Tab.38　8区　石器・石製品観察表 ……105
Tab.39　8区　鉄製品観察表 ……105
Tab.40　8区　土製品観察表 ……105
Tab.41　8区　瓦観察表 ……105
Tab.42　9区　住居跡等一覧表 ……114
Tab.43　9区　溝跡計測表 ……114
Tab.44　9区　土坑・ピット計測表 ……114
Tab.45　9区　古墳・奈良・平安時代出土土器観察表 ……114
Tab.46　9区　瓦観察表 ……115
Tab.47　10区　住居跡一覧表 ……122
Tab.48　10区　溝跡計測表 ……122
Tab.49　10区　土坑・ピット計測表 ……123
Tab.50　10区　古墳・奈良・平安時代出土土器観察表 ……123
Tab.51　11区　住居跡一覧表 ……129
Tab.52　11区　土坑・ピット・井戸跡計測表 ……129
Tab.53　11区　古墳・奈良・平安時代出土土器観察表 ……129
Tab.54　11区　石器・石製品観察表 ……129
Tab.55　11区　土製品観察表 ……130
Tab.56　13区　住居跡一覧表 ……134
Tab.57　13区　溝跡計測表 ……134
Tab.58　14区　溝跡計測表 ……136
Tab.59　14区　出土遺物観察表 ……136
Tab.60　15区　住居跡等一覧表 ……141
Tab.61　15区　溝跡計測表 ……141
Tab.62　15区　土坑・ピット計測表 ……141
Tab.63　15区　古墳・奈良・平安時代出土土器観察表 ……142
Tab.64　15区　石器・石製品観察表 ……143
Tab.65　15区　土製品観察表 ……144
Tab.66　16区　住居跡一覧表 ……157
Tab.67　16区　古墳・奈良・平安時代出土土器観察表 ……157
Tab.68　前橋市内の主な前方後方形周溝墓の規模 ……159
Tab.69　祭祀跡出土遺物の内訳と比率 ……161
Tab.70　坏の分類 ……161
Tab.71　各遺跡の祭祀跡出土遺物 ……161
Tab.72　祭祀跡出土遺物観察表 ……163

Ⅰ　調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴い実施され、12年目にあたる。本調査地は、周辺で埋蔵文化財調査が長年に渡って行われていることから、遺跡地であることが確認されている。

平成23年４月22日付けで、前橋市長　高　木　政　夫（区画整理第二課）より前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出された。前橋市教育委員会ではこれを受け、５月10日に現地での発掘調査を開始するに至った。

なお、遺跡名称「元総社蒼海遺跡群（38）」（遺跡コード：23Ａ130-38）の「元総社蒼海」は区画整理事業名を採用し、数字の「（38）」は過年度に発掘調査を実施した遺跡と区別するために付したものである。

Ⅱ　遺跡の位置と環境

１　遺跡の立地

前橋市は、利根川が赤城・榛名の両火山の裾合を経て関東平野を望むところに位置し、地形・地質の特徴から、北東部の赤城火山斜面、南西部の前橋台地利根川右岸、南部から南西部にかけての前橋台地の利根川左岸、東部の広瀬川低地帯という４つの地域に分けられる。

本遺跡の立地する前橋台地は、約24,000年前の浅間山噴火によって引き起こされた火山泥流堆積物とそれを被覆するローム層（水成）から成り立っている。台地の東部は、広瀬川低地帯と直線的な崖で画されていて、台地の中央には現利根川が貫流している。現在の利根川の流路は中世以降のもので、旧利根川は現在の広瀬川流域と推定される。台地の西部には榛名山麓の相馬ヶ原扇状地が広がり、榛名山を源とする中小河川が利根川に向かって流下し、台地面を刻んで細長い微高地を作り上げている。総社・元総社付近の染谷川や牛池川は、微高地との比高３ｍ～５ｍを測り、段丘崖上は桑畑を主とした畑地として利用されてきた。

本遺跡は、前橋市街地から利根川を隔て、西へ約３㎞の地点、前橋市元総社町地内に所在している。南東へ約１㎞の所に上野国総社神社があり、すぐ西には関越自動車道が南北に走っている。さらに、遺跡地の南側には国道17号線、主要地方道前橋・群馬・高崎線が東西に走り、東側には市道大友・石倉線が南北に走り、これらの幹線道路を中心にオフィスビルや大規模小売店が進出している。本遺跡はこれらの幹線道路から奥に入ったところに位置し、周囲には田畑が多い住宅地という静かで落ち着いた環境である。

２　歴史的環境

本遺跡地周辺には、古墳時代後期から終末までの上野地域と中央政権との関連をうかがわせる総社古墳群と山王廃寺、古代の中心地であった上野国府、さらに、中世には長尾氏により国府の堀割を利用し築かれたとされる蒼海城があり、歴史的環境に優れている。周辺の埋蔵文化財発掘調査によって、これまで連綿と続いてきた歴史を物語る多くの新しい知見が集積されている。

縄文時代の遺跡としては、前期・中期の集落跡が検出された産業道路東・西遺跡や上野国分僧寺・尼寺中間地域が筆頭に挙げられ、縄文文化を考える上で重要な資料といえる。

弥生時代の調査例は少ない。当時の稲作の様子を示す水田・集落跡等が検出された日高遺跡、後期住居跡が検出された上野国分僧寺・尼寺中間地域や桜ヶ丘遺跡、下東西遺跡等に散見するだけである。

古墳時代の遺跡としては、まず本遺跡の北東に広がる総社古墳群が挙げられる。総社古墳群を代表するも

Fig. 1　元総社蒼海遺跡群位置図

のには、前方後円墳である遠見山古墳、川原石を用いた積石塚である王山古墳、前方部と後円部にそれぞれ横穴式両袖型の石室が築造された前方後円墳の総社二子山古墳、両袖型横穴式石室をもつ方墳の愛宕山古墳、県内古墳最終末期と考えられ仏教文化の影響を強く受けた方墳の宝塔山古墳があり、この地域と中央との関係を考えるうえで重要な意味をもつ古墳群といえる。また、宝塔山古墳の南西500ｍには白鳳期の建立と考えられる山王廃寺跡（放光寺）がある。さらにこの寺の塔心礎や石製鴟尾、根巻石等の石造物群は、宝塔山古墳の石棺や蛇穴山古墳の石室と同系統の石造技術を駆使して加工されている。これらのことから、この寺は上野地域を治めていた「上毛野氏」の氏寺であり、この古墳群には「上毛野氏」一族が葬られているとも考えられている。これらから、この地が「車評」の中心地として、仏教文化が古墳文化と併存しながら機能していた様子が窺える。なお、平成18年度から５カ年計画で「山王廃寺範囲内容確認調査」が実施され、平成18年度では「講堂」の版築基壇や「回廊」の北東根石、平成19年度では「金堂」の版築基壇や「回廊」の西側根石が、平成20年度では「塔」の基壇とその周辺部が確認された。さらに平成21年度では「推定中門」と「西側南側回廊」の周辺部が、平成22年度は北西隅の回廊と接するように「基壇建物跡」と「北方建物郡」が確認された。

奈良・平安時代になると、上野国府、国分僧寺、国分尼寺の建設と相まって、本地域は古代の政治的・経済的・文化的中心地としての様相を呈してくる。律令期における国司の政治活動拠点で地方を統治する機能をもつ国府は、元総社地区に置かれたとされる。

国府に関連する遺跡には、県下最大級の掘立柱建物跡が検出された元総社小学校校庭遺跡や「國厨」「曹司」「国」「邑厨」等と書かれた墨書土器や人形が出土した元総社寺田遺跡などがある。また、国府域の推定を可能にした大規模な東西方向の溝跡が検出された閑泉樋遺跡や元総社蒼海遺跡群（7）（9）（10）と南北方向の溝跡が検出された元総社明神遺跡の調査成果により、国府域の東北外郭線が想定されるに至った。さらに、周辺遺跡からは、官人が用いたと考えられる円面硯、巡方（腰帯具）、緑釉陶器も出土し、国府について考えるうえで貴重な資料となっている。

国分僧寺は大正15年に国指定史跡となり、昭和40年代から部分的ながら調査が進められるようになった。本格的な発掘調査は昭和55年12月から始まり、主要伽藍の礎石、築垣、塀等が確認されている。さらに、国分尼寺の調査では、昭和44・45年に推定中軸線上のトレンチ調査が行われ伽藍配置が推定できるようになった。平成12年に前橋市埋蔵文化財発掘調査団で南辺の寺域確認調査を行い、東南隅と南西隅の築垣、それと平行する溝跡や道路状遺構が確認された。国分僧寺、国分尼寺周辺では、関越自動車道建設に伴う発掘調査が行われ、上野国分僧寺・尼寺中間地域では、当時の大規模な集落跡や掘立柱建物群が検出されている。

また、群馬町（現高崎市）の調査等により、本遺跡から約1.5㎞南の地点にＮ―64°―Ｅ方向の東山道（国府ルート）があることが推定されている。推定日高道は、日高遺跡で検出された幅約4.5ｍの道路状遺構を国府方面へ延長したものである。これらは、当時の交通網を物語る重要な遺構である。

中世に至り、永享元年（1429）、上野国守護代の長尾氏によって古代国府跡に築かれた蒼海城は城郭としての機能を有し県内でも最古級に位置づけられる。しかも、県下最初の城下町を形成したと考えられている。蒼海城の縄張りは国府と関係が深く、現在の本地域の主要道路はこの縄張りに沿って造られていると推測される。

このように歴史的に重要な役割を果たしてきた総社・元総社地区であるが、その中でも上野国府が所在したと推定される元総社地区は注目される地域の一つである。元総社蒼海土地区画整理事業に伴い、平成11年より継続的に本地域の発掘調査が行われている。これにより、手付かず状態であった本地域の全容が明らかになっていくであろう。今後、この調査の進捗によって、上野国府や蒼海城が解明されていくことを期待する。

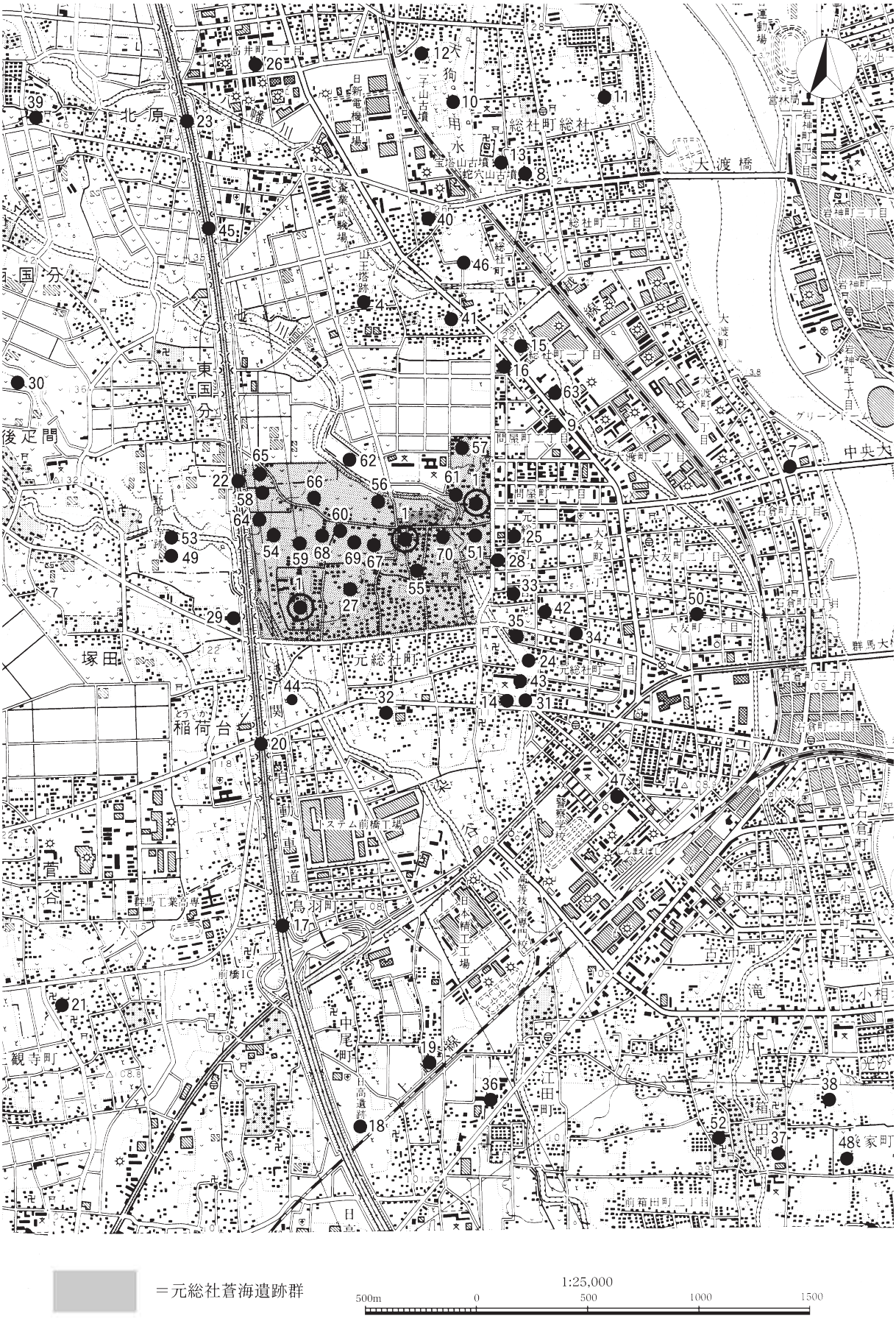


Fig. 2　周辺遺跡図

Tab. 1　元総社蒼海遺跡群周辺遺跡概要一覧表

番号	遺 跡 名	調査年度	時代：主な遺構・出土遺物
1	元総社蒼海遺跡群（38）	2011	本遺跡
2	上野国分寺跡	1980～1988	奈良：金堂基壇・塔基壇
3	上野国分尼寺跡	(1999)	奈良：西南隅・東南隅築垣
4	山王廃寺跡	(1974)	奈良：塔心礎・根巻石・金堂基壇・講堂版築・回廊礎石
5	東山道（推定）	—	
6	日高道（推定）	—	
7	王山古墳	1972	古墳：前方後円墳（６ｃ中）
8	蛇穴山古墳	1975	古墳：方墳（８ｃ初）
9	稲荷山古墳	1988	古墳：円墳（６ｃ後半）
10	愛宕山古墳	1996	古墳：円墳（７ｃ初）
11	遠見山古墳	未調査	古墳：前方後円墳（５ｃ後半）
12	総社二子山古墳	未調査	古墳：前方後円墳（６ｃ末～７ｃ初）
13	宝塔山古墳	未調査	古墳：方墳（７ｃ末）
14	元総社小学校校庭遺跡	1962	平安：掘立柱建物跡・柱穴群・周濠跡
15	産業道路東遺跡	1966	縄文：住居跡
16	産業道路西遺跡	1969	縄文：住居跡
17	中尾遺跡（事業団）	1976	奈良・平安：住居跡
18	日高遺跡（事業団）	1977	弥生：水田跡・方形周溝墓・住居跡・木製農具、平安：条里制水田跡
19	日高遺跡（高崎市）	(1978)	弥生：水田跡
20	鳥羽遺跡（事業団）	1978～1983	古墳：住居跡・鍛冶場跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡（神殿跡）
21	正観寺遺跡Ⅰ～Ⅳ（高崎市）	1979～1981	弥生：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
22	上野国分僧寺・尼寺 中間地域（事業団）	1980～1983	縄文：住居跡・配石遺構、弥生：住居跡・方形周溝墓、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡、中世：掘立柱建物跡・溝状遺構・道路状遺構
23	北原遺跡（群馬町）	1982	縄文：土坑・集石遺構、古墳：水田跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡
24	元総社明神遺跡Ⅰ～ⅩⅢ	1982～96	古墳：住居跡・水田跡・堀跡、奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：住居跡・溝跡
25	閑泉樋遺跡	1983	奈良・平安：溝跡
26	柿木遺跡・Ⅱ遺跡	1983,1988	奈良・平安：住居跡・溝跡
27	草作遺跡	1984	古墳：住居跡、平安：住居跡、中世：井戸跡
28	閑泉樋南遺跡	1985	古墳：住居跡、奈良・平安：溝跡
29	塚田村東遺跡（群馬町）	1985	平安：住居跡
30	後疋間遺跡Ⅰ～Ⅲ（群馬町）	1985～1987	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：道路状遺構
31	寺田遺跡	1986	平安：溝跡
32	天神遺跡・Ⅱ遺跡	1986,1988	奈良・平安：住居跡
33	屋敷道路・Ⅱ遺跡	1986,1995	古墳：住居跡、平安：住居跡、中世：堀跡・石敷遺構
34	堰越遺跡	1987	奈良・平安：住居跡・溝跡
35	大友屋敷Ⅱ・Ⅲ遺跡	1987	古墳：住居跡、平安：住居跡・溝跡・地下式土坑
36	勝呂遺跡	1987	平安：水田跡
37	村前遺跡	1987	平安：溝状遺構・水田跡
38	五反田遺跡	1987	平安：水田跡
39	熊野谷遺跡	1988	縄文：住居跡、平安：住居跡・溝跡
40	村東遺跡	1988	古墳：住居跡・溝跡、奈良・平安：住居跡、中世：堀跡
41	昌楽寺廻向遺跡・Ⅱ遺跡	1988	奈良・平安：住居跡
42	堰越Ⅱ遺跡	1988	平安：住居跡
43	元総社寺田遺跡Ⅰ～Ⅲ（事業団）	1988～1991	古墳：水田跡・溝跡、奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
39	熊野谷Ⅱ・Ⅲ遺跡	1989	平安：住居跡
44	弥勒遺跡・Ⅱ遺跡	1989,1995	古墳：住居跡、平安：住居跡
45	国分境遺跡（事業団）	1990	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
45	国分境Ⅱ遺跡	1991	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
45	国分境Ⅲ遺跡（群馬町）	1991	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・畠跡、中世：土壙墓
46	大屋敷遺跡Ⅰ～Ⅵ	1992～2000	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：掘立柱建物跡・地下式土坑・溝跡
47	元総社稲葉遺跡	1993	縄文：土坑、平安：住居跡・瓦塔
48	五反田Ⅱ遺跡	1995	平安：水田跡
49	上野国分寺参道遺跡	1996	古墳：住居跡、平安：住居跡
50	大友宅地添遺跡	1998	平安：水田跡
51	総社閑泉明神北遺跡	1999	古墳：畠跡・水田跡・溝跡、中世：溝跡
52	箱田川西遺跡	1999	古墳：溝状遺構、平安：水田跡
53	元総社西川遺跡（事業団）	2000	古墳：住居跡・畠跡、奈良・平安：住居跡・溝跡
54	元総社小見遺跡	2000	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝・道路状遺構
55	元総社宅地遺跡１～23トレンチ	2000	古墳：住居跡、平安：住居跡・掘立柱建物跡・鍛冶場跡・溝跡・道路状遺構、中世：溝跡、近世住居跡
56	元総社小見内Ⅲ遺跡	2001	古墳：住居跡・溝跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡、中世：掘立柱建物跡・溝跡
57	総社甲稲荷塚大道西遺跡	2001	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：畠跡、近世：溝跡
57	総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡	2001	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・溝跡、近世：溝跡
51	総社閑泉明神北Ⅱ遺跡	2001	古墳：住居跡・溝跡、平安：住居跡・溝跡

番号	遺 跡 名	調査年度	時代：主な遺構・出土遺物
58	元総社小見Ⅱ遺跡	2002	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡、中世：溝跡・道路状遺構
59	元総社小見Ⅲ遺跡	2002	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：溝跡・道路状遺構
59	元総社草作Ⅴ遺跡	2002	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
60	元総社小見内Ⅳ遺跡	2002	奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡、中世：土壙墓
61	総社甲稲荷塚大道西Ⅲ遺跡	2002	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・畠跡・溝跡
61	総社閑泉明神北Ⅲ遺跡	2002	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
62	元総社北川遺跡（事業団）	2002～2004	古墳：水田跡・溝跡、奈良・平安：住居跡・畠跡、中近世：掘立柱建物跡、水田跡、火葬墓
63	稲荷塚道東遺跡（事業団）	2003	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・溝跡・竈構築材採掘痕・井戸跡
64	元総社小見Ⅳ遺跡	2003	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
65	元総社小見Ⅴ遺跡	2003	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：掘立柱建物跡
61	総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡	2003	古墳：畠跡、中世：畠跡
60	元総社小見内Ⅵ遺跡	2003	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：井戸跡
66	元総社小見内Ⅶ遺跡	2003	縄文：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡、中世：畠跡・溝跡
67	元総社小見内Ⅷ遺跡	2003	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：竪穴状遺構
64	元総社小見Ⅵ遺跡	2004	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
68	元総社小見Ⅸ遺跡	2004	奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
68	元総社小見内Ⅸ遺跡	2004	奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
69	元総社小見内Ⅹ遺跡	2004	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・工房跡・粘土採掘坑、中世：溝跡・土壙墓
70	総社閑泉明神北Ⅴ遺跡	2004	古墳：水田跡、奈良・平安：住居跡
—	元総社蒼海遺跡群（1）	2005	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：溝跡・土壙墓
—	元総社蒼海遺跡群（2）	2005	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：溝跡・土壙墓
—	元総社蒼海遺跡群（3）・元総社小見Ⅶ遺跡	2005	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
—	元総社蒼海遺跡群（4）	2005	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
—	元総社蒼海遺跡群（5）	2005	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：周溝状遺構・土壙墓
—	元総社蒼海遺跡群（6）	2005	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：溝跡・土壙墓
—	元総社蒼海遺跡群（7）	2005	奈良・平安：住居跡・溝跡
—	元総社蒼海遺跡群（8）	2006	奈良・平安：住居跡
—	元総社蒼海遺跡群（9）・（10）	2006	縄文：竪穴住居跡、古墳：竪穴住居跡、奈良・平安：竪穴住居跡・掘立柱建物跡・溝跡・土坑、中世：溝跡
—	元総社蒼海遺跡群（11）	2006	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
—	元総社蒼海遺跡群（12）	2006	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：井戸跡
—	元総社蒼海遺跡群（13）	2008	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・工房跡・溝跡、中世：溝跡・土壙墓
—	元総社蒼海遺跡群（14）	2008	古墳：住居跡・水田跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡、中世：溝跡、竪穴状遺構・井戸跡
—	元総社蒼海遺跡群（15）	2008	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：溝跡
—	元総社蒼海遺跡群（16）	2008	奈良・平安：住居跡・畠跡、中世：溝跡
—	元総社蒼海遺跡群（17）	2008	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・竪穴状遺構、中世以降：土壙墓・井戸跡、不明：住居跡・溝跡
—	元総社蒼海遺跡群（18）	2008	平安：住居跡
—	元総社蒼海遺跡群（19）	2008	古墳：小区画水田路、中世：井戸跡
—	元総社蒼海遺跡群（20）	2008	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・竪穴状遺構・溝跡、中世：土壙墓・溝跡
—	元総社蒼海遺跡群（21）	2009	中世：蒼海城の堀跡・盛土状遺構
—	元総社蒼海遺跡群（22）	2009	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
—	元総社蒼海遺跡群（23）	2009	古墳：住居跡、平安：土坑、中世：蒼海城の堀跡
—	元総社蒼海遺跡群（24）	2009	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良･平安：住居跡･竪穴状遺構、中世方形　竪穴・井戸跡
—	元総社蒼海遺跡群（25）	2009	古墳：住居跡、平安：住居跡、中世：南宋～元時代の青白磁梅瓶２個体
—	元総社蒼海遺跡群（27）	2009	奈良・平安：住居跡、中世：蒼海城の堀跡
—	元総社蒼海遺跡群（28）	2009	古墳：住居跡、平安：住居跡
—	元総社蒼海遺跡群（29）	2009	古墳：住居跡、平安：住居跡、中世：蒼海城の堀跡
—	元総社蒼海遺跡群（30）	2009	古墳：住居跡、平安：住居跡、中世：堀跡、土壙墓
—	元総社蒼海遺跡群（31）	2010	古墳：住居跡、中世：蒼海城の堀跡
—	元総社蒼海遺跡群（34）	2010	奈良・平安：住居跡、中世：溝跡・土壙墓・土坑
—	元総社蒼海遺跡群（35）	2010	縄文：住居跡、奈良・平安：住居跡　中世：蒼海城の堀跡
—	元総社蒼海遺跡群（36）	2010	古墳：畠跡　平安：住居跡、水田跡、中世：土坑、蒼海城の堀跡

Ⅲ　調査方針と経過

1　調査方針

委託された調査箇所は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う道路建設予定地が主たる調査地であるため、幅６ｍの極めて狭長なトレンチ状の調査区が中心となっている。総調査面積は約3,000㎡である。現地での調査では、遺構の付番等における混乱をさけるため、調査区全体を１～16区に区分した。遺構番号は、各区ごとに個別に付番することとし、１区Ｈ－１号住居跡、２区Ｈ－１号住居跡のように遺構の前に必ず地区名を付すこととした。

グリッド座標については国家座標（日本測地系）Ｘ＝＋44000・Ｙ＝－72200を基点（Ｘ０・Ｙ０）とする４ｍピッチのものを使用し、２区においては、西から東へＸ51、52、53…、北から南へＹ84、85、86…と付番し、グリッド呼称は北西杭の名称を使用した。

本遺跡のＸ52・Ｙ85の公共座標は以下のとおりである。

日本測地系	Ｘ＝＋43,660.000	Ｙ＝－71,992.000	
緯　　度	36°23′27″.3193	経　　度	139°01′53″.5311
子午線収差角	28′32″.6	増　大　率	0.999964

なお、平成11年３月11日の東日本大震災に伴い、地形が歪んだため誤差が生じた。座標補正プログラムが発表になったのは、すべての調査区への方眼杭の設置が終了したあとであったため、今回の調査区において、Ｘ座標が0.0618～0.619m、Ｙ座標が－0.4638～－0.4650ｍの誤差が生じている。

調査方法については、表土掘削・遺構確認・方眼杭等設置・遺構掘下・遺構精査・測量・全景写真ので行うこととした。このうちの遺構確認については、基本的に As-C・Hr-FP 軽石と As-B 軽石が混入する土層を手がかりにした。

図面作成は、平板・簡易遣り方測量を用い、遺構平面図は原則として１/20、住居跡竈は１/10の縮尺で作成した。遺物については平面分布図を作成し、台帳に各種記録を記載しながら収納した。包含層の遺物はグリッド単位で収納し、重要遺物については分布図・遺物台帳の記載を行い収納した。

2　調査経過及び概要

現地調査は平成23年５月10日から12月21日まで行った。

元総社蒼海遺跡群（38）の調査地は15ヵ所に分かれており、それぞれ１～11・13～16区と呼称した（12区は欠番）。なお、３区については、公図と現況での土地利用の違いから未調査区が存在したため、新たに調査を実施する箇所を３ｂ区とし、３区を３ａ区と呼称した。また、調査時期等により４区は４ａ・４ｂ・４ｃの３区に分かれ、７区は７ａ・７ｂ・７ｃ・７ｄ・７ｅの５区に分かれる。

調査班は２班で構成し、１班は３ａ・３ｂ・４ａ・４ｂ・４ｃ・５・６・10・13・16区の10調査区を調査。２班は１・２・７ａ・７ｂ・７ｃ・７ｄ・７ｅ・８・９・11の10区を調査した。

１・２・14・15・16区は蒼海遺跡群の北東部あたり、古墳時代の住居跡が多数検出された。牛池川沿いの16区からは Hr-FA 下の水田跡が確認できた。また、多くの土器が集中して出土した祭祀跡が15区から検出された。

３・４・５・６区は推定上野国府跡の北部にあたる地域であるが、４ｃ・５・６区を南北に走行する蒼海城の堀と考えられる溝跡が検出された。３ａ・３ｂ区では古墳時代から平安時代の住居跡が多数検出された。特筆される遺物としては３ｂ区のＨ－９号住居跡から出土している。

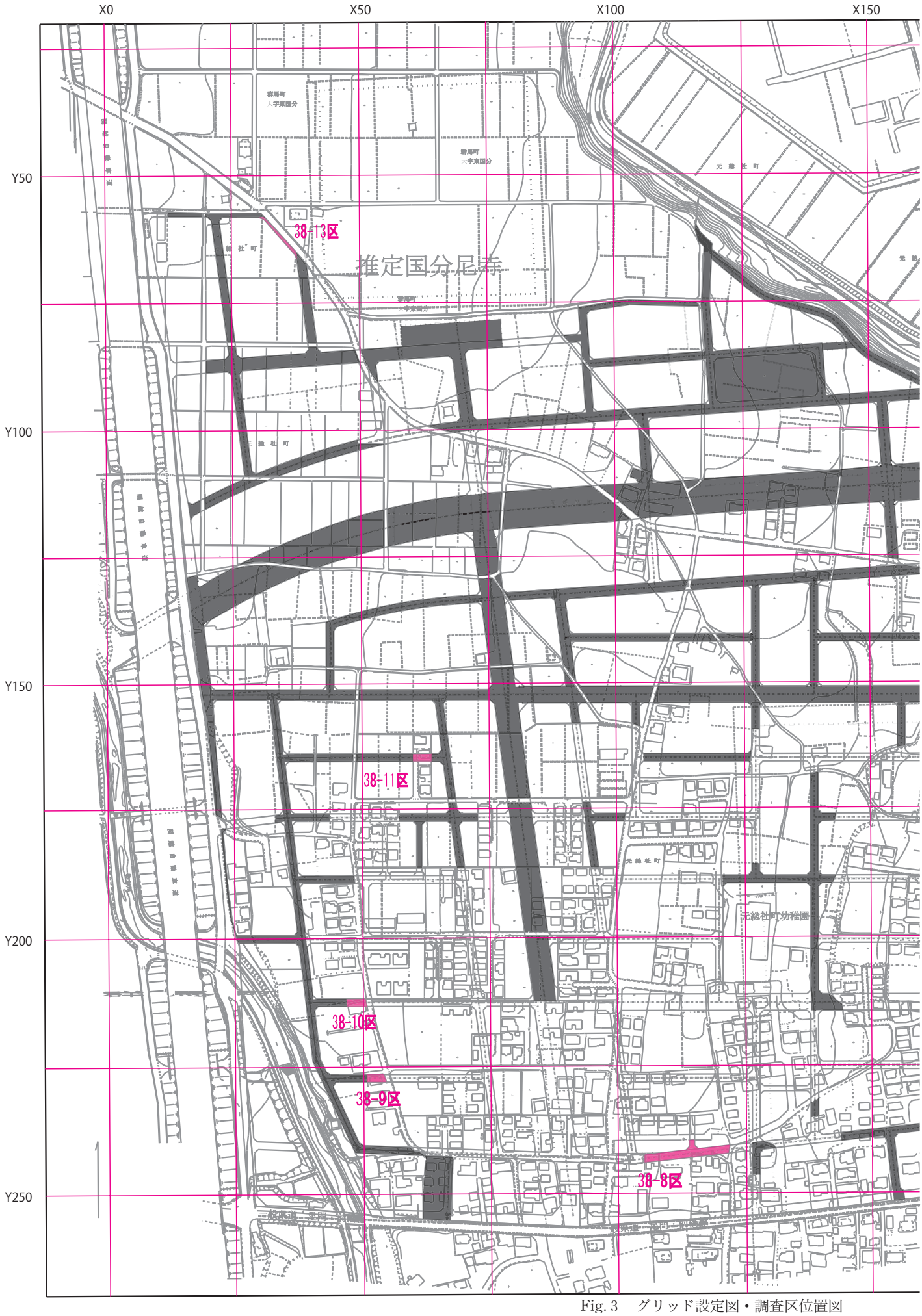
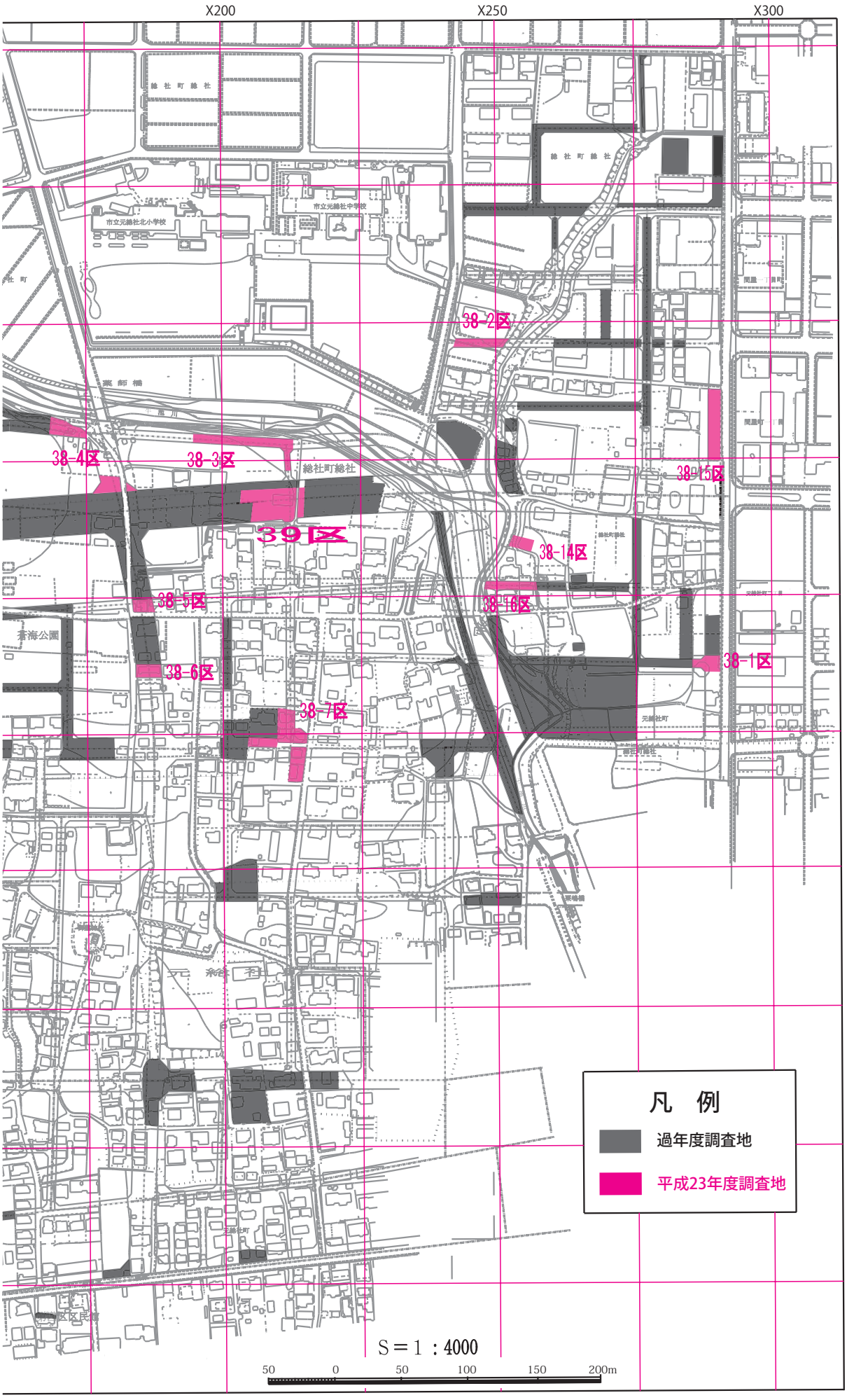


Fig. 3　グリッド設定図・調査区位置図


X200
X250
X300
総社町総社
市立元総社北小学校
市立元総社中学校
栗師橋
38-4区
38-3区
39区
38-2区
38-15区
38-14区
38-16区
38-5区
38-6区
38-7区
38-1区
蒼海公園
元総社町
凡　例
過年度調査地
平成23年度調査地
S＝1：4000
50 0 50 100 150 200m

7区は推定上野国府域ないであったため、国府に関連する施設（掘立柱跡等）の検出を期待したが、東在方向に走行する蒼海城の堀跡や古墳時代の住居跡、10世紀代の住居跡が確認され、国府に関連する遺構、遺物等の検出・出土はなかった。

8・9・10・11区は蒼海遺跡群の南西部にあたる。蒼海城の堀と考えられる溝跡が検出した。また、竈構築材として利用されている砂質凝灰岩の採掘跡が8区から検出した。9区からは竈の構築材に複数の瓦が使用されている住居跡があり、その中の2枚の瓦から「正」及び「廿」文字が刻書されていた。

13区は推定国分尼寺の南側にあたる。調査区が道路の拡張に伴う箇所であるため幅2m、長さ35mと非常に細長く、検出できた遺構も竪穴住居跡1軒及び溝2条と極めて少ない。

それぞれの、調査区において、遺構精査後、記録図面の作成・記録写真の撮影を実施し、調査区の埋め戻しを行い調査を終了した。

12月21日に現場事務所・機材等の撤収作業を実施。翌日より文化財保護課庁舎に戻り、出土遺物・図面・写真等の整理作業及び報告書作成にあたり、本報告書の発行をもってすべての作業を終了した。

Ⅳ　各区の遺構と遺物

1区

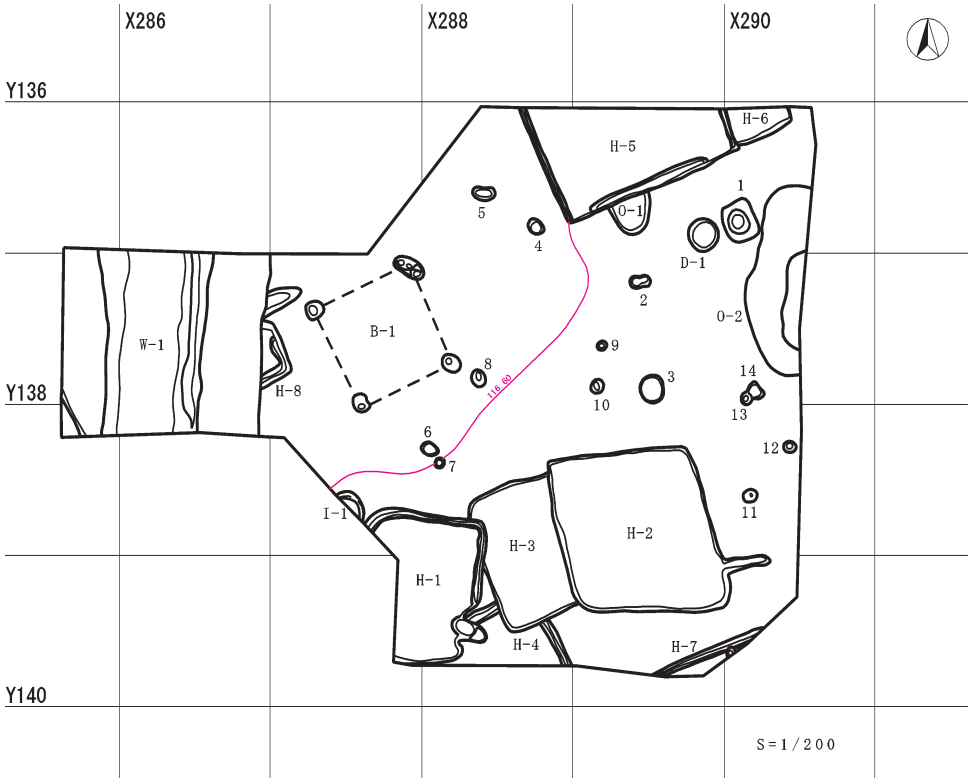
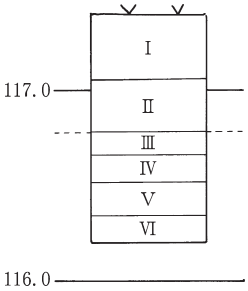


Fig. 4　1区全体図



1区　基本層序

Ⅰ	表土		
Ⅱ	暗褐	○○	As-B 混土層
Ⅲ	暗褐	○○	As-C・Hr-FP 混土層
Ⅳ	暗褐	○○	総社砂層への漸移層
Ⅴ	褐	○○	総社砂層への漸移層
Ⅵ	にぶい黄褐	○○	総社砂層

Fig. 5　1区基本層序

調査区の概要

平成22年度に発掘調査を行った元総社蒼海遺跡群（35）3区に隣接する調査区。竪穴住居跡8軒、土坑1基、溝1条が検出された。古墳時代の住居跡が多く、煙道が長く伸びた竈を持つ特徴的な住居跡があった。覆土から銅鈴が出土した住居跡は竈が石組みであり、羽釜片やカワラケが検出されたことから他の住居跡と較べると新しい時代と考えられる。

(1)　竪穴住居跡

H－1号住居跡（Fig. 6、PL. 1）

位置　X287・288、Y138・139グリッド　**主軸方向**　N―95°―E　**形状等**　東西(3.22)m、南北(4.08)m、

壁現高28.0cm。　**面積**　(8.92)㎡　**床面**　平坦な貼り床。　**竈**　東壁南角に施設。主軸方向N―111°―E、全長113.0cm、最大幅73.0cm、焚口部幅27.0cm。袖部から煙道部にかけて多くの石で構築されていた。焚口部は凹み、煙道部は急激に立ち上がる。煙道は東壁より65cm程張り出す。　**貯蔵穴等**　北西部の柱穴のみ検出。22×20cmの円形で深さは38cm。　**周溝**　東壁と北壁で確認。幅20cm前後、深さ4cm程度であり、断面は逆台形。　**重複**　H―3・4と重なり、新旧関係はH―4→H―3→本遺構。　**出土遺物**　土師器40点、須恵器97点、瓦11点、銅製品1点、石製品1点、灰釉陶器1点。そのうち須恵器高台椀2点、須恵器羽釜2点、土釜2点、カワラケ2点、丸瓦2点、平瓦3点、銅鈴1点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から11世紀前半と考えられる。

H―2号住居跡（Fig.7、PL.2）

位置　X288～290、Y138・139グリッド　**主軸方向**　N―87°―E　**形状等**　東西4.68m、南北4.38m、壁現高29.0cm。　**面積**　17.32㎡　**床面**　平坦な床面。　**竈**　東壁南寄りに敷設。主軸方向N―80°―E、全長206.0cm、最大幅73.0cm、焚口部幅[37.0]cm。焚口部は若干凹み、煙道部は極めて緩やかに立ち上がる。煙道は東壁より120cm程張り出し、煙道部先端には煙突代わりの土器が据えられていた。　**貯蔵穴等**　検出されず。　**周溝**　精査を行ったが確認されなかった。　**重複**　H―3と重なり、新旧関係はH―3→本遺構。　**出土遺物**　土師器132点、須恵器12点、石製品10点。そのうち土師器5点、土師器小甕1点、土師器甕1点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から7世紀前半と考えられる。

H―3号住居跡（Fig.6、PL.2）

位置　X288・289、Y138・139グリッド　**主軸方向**　N―69°―E　**形状等**　東西(2.51)m、南北(3.78)m、壁現高20.0cm。　**面積**　(7.76)㎡　**床面**　平坦な床面。　**竈**　東壁に敷設されたと考えられるが、重複関係により確認できず。　**貯蔵穴等**　検出されず。　**周溝**　精査を行ったが確認されなかった。　**重複**　H―1・2・4と重なり、新旧関係はH―4→本遺構→H―2→H―1。　**出土遺物**　土師器12点、須恵器2点、石製品7点。そのうち軽石1点を図示。　**時期**　覆土や重複関係から6世紀代と考えられる。

H―4号住居跡（Fig.6、PL.2）

位置　X287～289、Y139グリッド　**主軸方向**　N―60°―E　**形状等**　東西(4.04)m、南北(2.62)m、壁現高44.0cm。　**面積**　(5.41)㎡　**床面**　平坦な貼り床。　**竈**　東壁に敷設されたと考えられるが、重複関係により確認できず。　**貯蔵穴等**　北東部の柱穴のみ検出。37×30cmの楕円形で深さは60cm。　**周溝**　調査区の範囲で全周する。幅18cm前後、深さ5cm程度であり、断面は逆台形。　**重複**　H―1・3と重なり、新旧関係は本遺構→H―3→H―1。　**出土遺物**　土師器12点、須恵器27点、縄文土器1点、土製品1点。そのうち須恵器高杯1点、紡錘車1点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から5世紀後半から6世紀前半と考えられる。

H―5号住居跡（Fig.8、PL.3）

位置　X288～290、Y136グリッド　**主軸方向**　N―67°―E　**形状等**　東西(4.07)m、南北(3.44)m、壁現高33.0cm。　**面積**　(11.52)㎡　**床面**　平坦な貼り床。　**竈**　東壁に敷設されたと考えられるが、調査区外のため確認できず。　**貯蔵穴等**　南西部柱穴は32×31cmの円形で深さ35cm。南東部柱穴は44×42cmの円形で深さ69cm。南東隅の貯蔵穴は78×73cmの楕円形で深さ62.5cm。　**周溝**　調査区の範囲で全周する。幅7～15cm、深さ5cm程であり、断面は逆台形。　**重複**　H―6と重なり、新旧関係はH―6→本遺構。　**出土遺物**　土師器101点、須恵器6点、石製品2点、中世1点。そのうち土師器5点、須恵器甕1点を図示。　**時期**　覆土

や出土遺物から 6 世紀前半と考えられる。

Ｈ－６号住居跡（Fig. 7 、PL. 3 ）

位置　Ｘ290、Ｙ136グリッド　**主軸方向**　Ｎ―67°―Ｅ　**形状等**　東西(1.57)ｍ、南北(0.53)ｍ、壁現高25.0㎝。　**面積**　(1.29)㎡　**床面**　平坦な床面。　**竈**　東壁に敷設されたと考えられるが、調査区外のため確認できず。　**貯蔵穴等**　検出されず。　**周溝**　精査を行ったが確認されなかった。　**重複**　Ｈ－５と重なり、新旧関係は本遺構→Ｈ－５　**時期**　覆土や重複関係から 6 世紀前半と考えられる。

Ｈ－７号住居跡（Fig. 7 、PL. 3 ）

位置　Ｘ289･290、Ｙ139グリッド　**主軸方向**　Ｎ―67°―Ｅ　**形状等**　東西(3.30)ｍ、壁現高42.5㎝。　**面積**　(1.15)㎡　**床面**　平坦な貼り床。　**竈**　住居跡のほとんどが調査区外のため確認できず。　**貯蔵穴等**　検出されず。　**周溝**　調査区の範囲で全周する。幅10㎝前後、深さ 3 ㎝程度であり、断面は逆台形。　**出土遺物**　土師器15点。そのうち土師器高杯 1 点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から 6 世紀前半と考えられる。

Ｈ－８号住居跡（Fig. 9 、PL. 3 ）

位置　Ｘ285～287、Ｙ136～138グリッド　**主軸方向**　Ｎ―65.5°―Ｅ　**形状等**　東西(5.96)ｍ、南北(3.50)ｍ、壁現高36.0㎝。　**面積**　[12.51]㎡　**床面**　重複によりわずかしか残っていないが、平坦な床面と考えられる。　**竈**　東壁中央に敷設。主軸方向Ｎ―68°―Ｅ、全長143.0㎝、最大幅114.0㎝、焚口部幅32.0㎝。煙道部は緩やかに立ち上がる。煙道は東壁より110㎝程張り出す。　**貯蔵穴等**　北西部柱穴は43×42㎝の円形で深さ67㎝。南西部柱穴は42×40㎝の円形で深さ57㎝。南東部柱穴は36×25㎝の円形で深さ69㎝。南東隅の貯蔵穴は70×60㎝の楕円形で深さ66.5㎝。底部から石と土器片が出土。　**重複**　Ｗ－１と重なり、新旧関係は本遺構→Ｗ－１。　**出土遺物**　土師器34点、須恵器 1 点。そのうち土師器 2 点、土師器高杯 1 点、土師器甕 2 点、須恵器甕 1 点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から 6 世紀後半から 7 世紀代と考えられる。

⑵　溝跡

Ｗ－１号溝跡（Fig.10、PL. 3 ）

位置　Ｘ285･286、Ｙ136～138グリッド　**主軸方向**　Ｎ－２°―Ｅ　**形状等**　逆台形。長さ4.84ｍ、深さ79.5㎝、最大上幅556.0㎝、最大下幅156.0㎝　**重複**　Ｈ－８と重なり、新旧関係はＨ－８→本遺構。　**出土遺物**　土師器57点、須恵器11点、瓦 4 点、石製品 1 点、緑釉陶器 5 点、中世 1 点。そのうち平瓦 1 点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から中世と考えられる。

⑶　土坑、ピット、井戸跡、落ち込み（Fig. 9 ・10）

土坑、ピットについては、Tab. 4 土坑・ピット・井戸等計測表を参照のこと。

⑷　グリッド等出土遺物

土師器 9 点、鉄製品 1 点を出土。

Tab. 2　1区　住居跡一覧表

遺構名	位置	規模（m）			面積	主軸方向	竈		周溝	主な出土遺物		
		東西	南北	壁現高(cm)	(㎡)		位置	構築材		土師器	須恵器	その他
H－1	X287・288 Y138・139	(3.22)	(4.08)	28.0	(8.92)	N－95°－E	東壁南角	石、粘土	－		高台椀	土釜
H－2	X288～290 Y138・139	4.68	4.38	29.0	17.32	N－87°－E	東壁南寄り	粘土	－	坏、甕		
H－3	X288・289 Y138・139	(2.51)	(3.78)	20.0	(7.76)	N－69°－E			－			
H－4	X287～289 Y139	(4.04)	(2.62)	44.0	(5.41)	N－60°－E			－		高杯	
H－5	X288～290 Y136	(4.07)	(3.44)	33.0	(11.52)	N－67°－E			有	坏	甕	
H－6	X290 Y136	(1.57)	(0.53)	25.0	(1.29)	N－67°－E			－			
H－7	X289・290 Y139	(3.30)	－	42.5	(1.15)	N－67°－E			有		高杯	
H－8	X285～287 Y136～138	(5.96)	(3.50)	36.0	(12.51)	N－65°－E	東壁中央	粘土	－	坏、甕		

Tab. 3　1区　溝跡計測表

遺構名	位置	長さ(m)	深さ（cm）		上幅（cm）		下幅（cm）		主軸方向	断面形	時期
			最大	最小	最大	最小	最大	最小			
W－1	X285・286 Y136～138	4.84	79.5	67.0	556.0	528.0	156.0	14.0	N－2°－E	逆台形	中世

Tab. 4　1区　土坑・ピット・井戸等計測表

遺構名	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	出土遺物	備考
D－1	X289 Y136	87.0	80.0	11.0	円形	土1	
P－1	X289・290 Y136	104.0	84.0	32.5	隅丸方形	土2	
P－2	X289 Y137	56.0	28.0	27.5	長楕円形	土1	
P－3	X289 Y137	74.0	54.0	11.0	楕円形		
P－4	X288 Y136	48.0	34.0	28.0	楕円形		
P－5	X288 Y136	60.0	34.0	41.0	長楕円形		
P－6	X287・288 Y138	48.0	35.0	17.5	楕円形		
P－7	X288 Y138	30.0	26.0	25.0	円形		
P－8	X288 Y137	48.0	36.0	24.5	楕円形		
P－9	X289 Y137	28.0	24.0	13.0	円形		
P－10	X289 Y137	40.0	34.0	23.5	円形		
P－11	X290 Y138	40.0	34.0	38.0	円形		
P－12	X290 Y138	36.0	30.0	25.0	円形		
P－13	X290 Y137・138	31.0	30.0	31.0	円形		
P－14	X290 Y137	45.0	[36.0]	30.5	隅丸方形		
O－1	X289 Y136	100.0	117.0	22.0	長楕円形		
O－2	X290 Y136・137	502.0	151.0	－	長楕円形		
I－1	X287 Y138	100.0	35.0	90.0	楕円形	土3	

Tab. 5　1区　古墳・奈良・平安時代出土土器観察表

番号	出土遺構 層　位	器種名	①口径　②器高 ③底径	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備　考
1－1	H－1 床直	須恵器 坏	①14.2　②4.2 ③6.2	①細粒　②良好 ③橙　④完形	轆轤整形。口縁部：大きく外反する。内外面轆轤なで。体部：大きく外傾する。内外面轆轤なで。底部：やや上げ底。回転糸切り。	5	酸化焔
1－2	H－1 床直	須恵器 高台椀	①[15.1]　②8.4 ③11.9	①細粒　②良好 ③橙　④3/4	轆轤整形。口縁部から底部、高台部：内外面轆轤なで。底部から緩やかに外傾し、口縁部で大きく外反する。後付け高台。体部より直線的に外傾して開く。	12	酸化焔
1－3	H－1 床直	須恵器 羽釜	①[22.8]　②(10.8) ③—	①細粒　②良好 ③にぶい黄橙　④破片	轆轤整形。口縁部：内外面轆轤なで。ほぼ直立する。鍔部：ほぼ水平に張り出す。胴上部：内面轆轤なで。外面縦位の篦削り。胴下部から底部：欠損。	22	酸化焔
1－4	H－1 床直	須恵器 羽釜	①[17.8]　②(9.5) ③—	①細粒　②良好 ③明赤褐　④口縁破片	轆轤整形。口縁部：内外面轆轤なで。わずかに内傾する。鍔部：水平やや下方に張り出す。胴上部：内面なで。外面縦位の篦削り。胴下部から底部：欠損。	13	酸化焔
1－5	H－1 床直	土師器 土釜	①[24.0]　②(11.5) ③—	①細粒　②良好 ③橙　④破片	轆轤整形。口縁部：大きく外反する。内外面横なで。胴上部：内外面轆轤なで。胴中部：内面轆轤なで。外面縦位の篦削り。輪積み痕あり。胴下部から底部：欠損。	7	酸化焔
1－6	H－1 床直	土師器 土釜	①[25.8]　②(12.8) ③—	①細粒　②良好 ③橙　④破片	轆轤整形。口縁部：大きく外反する。口縁から胴上部：内外面轆轤なで。輪積み痕あり。胴下部から底部：欠損。	2	酸化焔
1－7	H－1 覆土	かわらけ	①9.8　②2.3 ③5.1	①細粒　②良好 ③浅黄橙　④3/4	轆轤整形。小型の器形。口縁部：やや外傾する。体部：内外面轆轤なで。底部：やや上げ底。回転糸切り。	33	酸化焔
1－8	H－1 覆土	かわらけ	①8.8　②2.0 ③5.6	①細粒　②良好 ③にぶい橙④ほぼ完形	轆轤整形。小型の器形。口縁部：煤付着。やや外傾する。体部：内外面轆轤なで。底部：わずかに上げ底。回転糸切り。	1	酸化焔
1－9	H－2 床直	土師器 坏	①11.8　②3.3 ③—	①細粒　②良好 ③橙　④ほぼ完形	口縁部：短く直立する。内外面横なで。体部から底部：内面なで。外面横位の篦削り。底部：丸底。	9	
1－10	H－2 床直	土師器 坏	①11.0　②3.5 ③—	①細粒　②良好 ③橙　④完形	口縁部：わずかに外傾する。内外面横なで。体部から底部：内面なで。外面斜位の篦削り。底部：丸底。	10	
1－11	H－2 床直	土師器 坏	①10.4　②3.2 ③—	①細粒　②良好 ③橙　④ほぼ完形	口縁部：素口縁。内外面横なで。体部から底部：内面なで。外面斜位の篦削り。底部：丸底。	16	
1－12	H－2 覆土	土師器 坏	①10.8　②4.0 ③—	①細粒　②良好 ③橙　④完形	口縁部：ほぼ直立する。内外面横なで。体部から底部：内面なで。外面斜位の篦削り。底部：丸底。	17	
1－13	H－2 床直	土師器 坏	①10.9　②3.4 ③—	①細粒　②良好 ③橙　④3/4	口縁部：直立よりやや内傾する。内外面横なで。体部から底部：内面横なで。外面横位と斜位の篦削り。底部：丸底。	11	
1－14	H－2 床直	土師器 小甕	①[12.6]　②(5.5) ③—	①細粒　②良好 ③橙　④破片	口縁部：短く外反する。内外面横なで。胴上部：内面なで。外面横位の篦削り。胴中部から底部：欠損。	14	
1－15	H－2 床直	土師器 小甕	①14.6　②18.3 ③7.6	①細粒　②良好 ③橙　④ほぼ完形	口縁部：大きく外傾する。内外面横なで。胴部：内面なで。外面斜位の篦削り。胴中位で最大径。底部：平らに近い丸底。	16	
1－16	H－4 覆土	須恵器 高坏	①17.6　②12.2 ③11.6	①細粒　②良好 ③暗灰黄　④ほぼ完形	轆轤整形。口縁部：外傾する。口縁底部に一段の張り出し。内外面轆轤なで。体部から底部：内面轆轤なで。外面回転篦削り調整の後、体上部に４条１組の波状文を施す。脚部：轆轤なでの後、等間隔で３ヶ所にスリットを入れる。		
1－17	H－5 床直	土師器 坏	①11.8　②4.7 ③—	①細粒　②良好 ③明赤褐　④1/2	口縁部：内斜口縁。内外面横なで。体部から底部：内面なで。放射状篦みがきを施す。外面横位と斜位の篦削りの後、篦みがき。底部：丸底。	7	
1－18	H－5 床直	土師器 坏	①[13.6]　②(5.0) ③—	①細粒　②良好 ③明赤褐　④1/3	口縁部：やや内湾する。内外面横なで。体部：内面なで。放射状篦みがきを施す。外面横位の篦削りの後、篦みがき。底部：欠損しているが丸底と思われる。	4	
1－19	H－5 床直	土師器 坏	①[13.2]　②4.7 ③—	①細粒　②良好 ③明赤褐　④1/6	口縁部：内斜口縁。内外面横なで。体部から底部：内面なで。放射状篦みがきを施す。外面横位の篦削りの後、篦みがき。底部：丸底。	1	
1－20	H－5 床直	土師器 坏	①[12.8]　②(4.2) ③—	①細粒　②良好 ③橙　④1/4	口縁部：内斜口縁。内外面横なで。体部：内面なで。放射状篦みがきを施す。外面横位と斜位の篦削り。底部：欠損しているが丸底と思われる。	5	
1－21	H－5 床直	土師器 坏	①[12.0]　②(4.8) ③—	①細粒　②良好 ③橙　④1/2	口縁部：ほぼ直立している。内外面横なで。体部：内面なで。外面横位の篦削り。底部：欠損しているが丸底と思われる。	11	
1－22	H－5 床直	須恵器 甕	①—　②— ③—	①細粒　②良好 ③灰　④頸部破片	轆轤整形。頸部：12条１組の波状文を２段に施す。胴部から底部：欠損	13	波状文
1－23	H－7 覆土	土師器 高坏	①(7.0)　②(3.3) ③—	①細粒　②良好 ③橙　④接合部のみ	坏部：欠損。脚部：大きく外傾して開く。内外面なで。接合部：粘土塊充填。		
1－24	H－8 床直	土師器 坏	①[13.4]　②4.9 ③—	①細粒　②良好 ③橙　④1/3	口縁部：緩やかに外傾し口縁端で直立する。内外面横なで。体部から底部：内面なで。内黒。放射状篦みがきを施す。外面横位の篦削り。底部：丸底。	3	
1－25	H－8 覆土	土師器 坏	①[11.4]　②4.0 ③—	①細粒　②良好 ③橙　④1/3	口縁部：緩やかに外傾する。内外面横なで。体部から底部：内面なで。外面横位の篦削り。底部：丸底。	1	
1－26	H－8 床直	土師器 高坏	①—　②(5.0) ③—	①細粒　②良好 ③橙　④破片	口縁部：わずかに内斜する。内外面横なで。体部から底部：内面なで。外面縦位の篦削り。接合部：粘土塊充填。脚部：欠損。	5	
1－27	H－8 覆土	土師器 甕	①[16.8]　②(8.9) ③—	①細粒　②良好 ③にぶい黄橙　④破片	口縁部：緩やかに外反する。内外面横なで。胴上部：内面なで。外面縦位の篦削り。胴中部から底部：欠損。	10	
1－28	H－8 覆土	土師器 甕	①—　②(5.2) ③8.2	①細粒　②良好 ③明赤褐　④底部	口縁部から胴中部：欠損。胴下部：内面なで。外面縦位と斜位の篦削り。底部：平底。篦削り。	9	
1－29	H－8 床直	須恵器 甕	①—　②— ③—	①細粒　②良好 ③灰　④破片	轆轤整形。口縁部：欠損。胴部：内外面叩き。内面は当て具の青海波文、外面は叩き板の縄目が残る。底部：欠損。	7	

Tab. 6　1区　石器・石製品観察表

番号	出土遺構／層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重さ	石材	遺存度	登録番号	備　考
1－石1	H－1　床直	礫	10.70	5.90	2.00	135	緑泥片岩	剝離片	2	
1－石2	H－2　床直	蔬編石	11.60	6.40	3.20	330	安山岩	完形	S 1	
1－石3	H－2　床直	蔬編石	14.80	8.00	4.87	880	安山岩	完形	S 2	
1－石4	H－2　床直	蔬編石	13.95	5.15	4.00	380	安山岩	完形	S 3	
1－石5	H－2　床直	蔬編石	14.20	5.35	3.60	430	安山岩	完形	S 4	
1－石6	H－2　床直	蔬編石	12.00	5.30	3.67	320	安山岩	完形	S 5	
1－石7	H－2　床直	蔬編石	13.25	5.10	4.40	360	凝灰角礫岩	完形	S 6	
1－石8	H－2　床直	蔬編石	12.75	5.90	4.30	420	安山岩	完形	S 7	
1－石9	H－2　床直	蔬編石	11.05	4.20	3.75	280	安山岩	完形	S 8	
1－石10	H－2　床直	蔬編石	10.85	5.05	2.70	250	安山岩	完形	S 9	
1－石11	H－2　床直	蔬編石	14.90	6.25	4.43	640	安山岩	完形	S10	
1－石12	H－3　床直	軽石	7.50	6.20	2.60	98	角閃石安山岩	ほぼ完形	1	
1－石13	H－3　床直	礫	14.40	6.72	5.65	800	凝灰角礫岩	完形	18	
1－石14	H－3　床直	蔬編石	14.35	6.75	5.00	700	安山岩	完形	S 1	
1－石15	H－3　床直	蔬編石	14.25	7.25	4.70	730	安山岩	完形	S 2	
1－石16	H－3　床直	蔬編石	14.30	7.00	5.24	750	安山岩	完形	S 3	
1－石17	H－3　床直	蔬編石	15.85	6.25	5.00	740	安山岩	完形	S 4	
1－石18	H－3　床直	蔬編石	14.00	6.85	5.00	750	砂岩	完形	S 5	

Tab. 7　1区　銅製品観察表

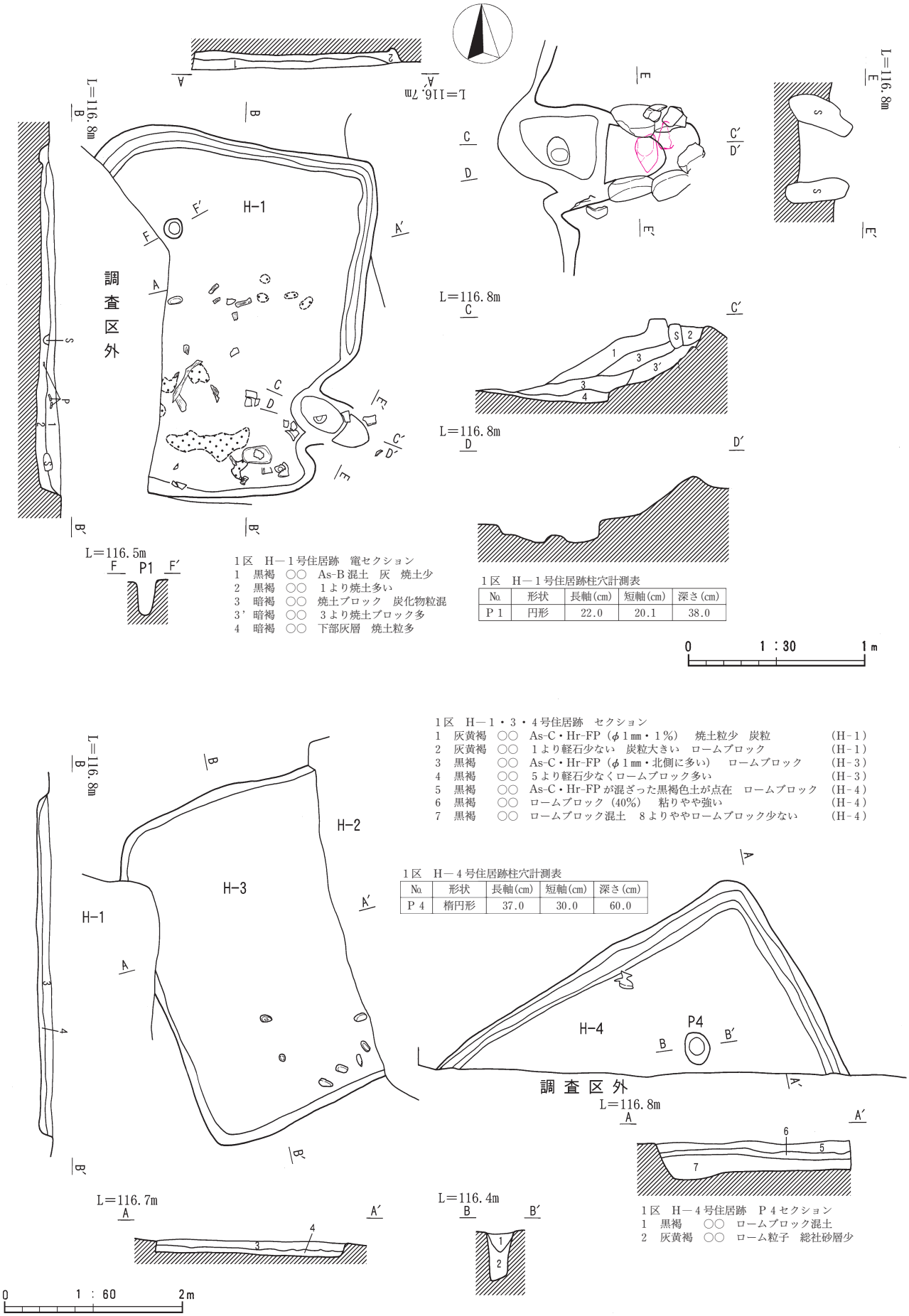
番号	出土遺構／層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重さ	遺存度	登録番号	備　考
1－銅1	H－1　覆土	銅鈴	2.60	2.60	2.30	9.10	ほぼ完形		

Tab. 8　1区　土製品観察表

番号	出土遺構／層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	遺存度	登録番号	備　考
1－土1	H－4　床直	紡錘車	6.60	6.40	1.40	完形	4	土器底部転用

Tab. 9　1区　瓦観察表

番号	出土遺構 層位	器種名	①長さ ②厚さ	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
1－瓦1	H－1 床直	丸瓦	①13.5 ②1.4	①細粒　②良好 ③橙　④1/3	凹面：布目あり。凸面：篦なで。側面：面取り1回。	19	
1－瓦2	H－1 床直	丸瓦	①11.5 ②1.2	①細粒　②良好 ③橙　④1/6	凹面：布目あり。凸面：篦なで。側面：面取り2回。	17	
1－瓦3	H－1 覆土	平瓦	①13.5 ②1.9	①細粒　②良好 ③灰白　④破片	一枚作り。凹面：布目あり。凸面：縦位と横位の縄目文圧痕あり。側面：面取り2回。	28	
1－瓦4	H－1 床直	平瓦	①11.0 ②1.7	①細粒　②良好 ③灰白　④破片	一枚作り。凹面：布目あり。凸面：縦位の縄目文圧痕あり。側面：欠損。	36	
1－瓦5	H－1 床直	平瓦	①7.9 ②1.1	①細粒　②良好 ③浅黄　④破片	一枚作り。凹面：布目あり。凸面：篦なで。側面：面取り2回。		
1－瓦6	W－1 覆土	平瓦	①7.5 ②1.7	①細粒　②良好 ③灰　④破片	一枚作り。凹面：布目あり。凸面：篦なで。		



1区　H－1号住居跡　竈セクション
1　黒褐　○○　As-B混土　灰　焼土少
2　黒褐　○○　1より焼土多い
3　暗褐　○○　焼土ブロック　炭化物粒混
3'　暗褐　○○　3より焼土ブロック多
4　暗褐　○○　下部灰層　焼土粒多

1区　H－1号住居跡柱穴計測表

No.	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
P 1	円形	22.0	20.1	38.0

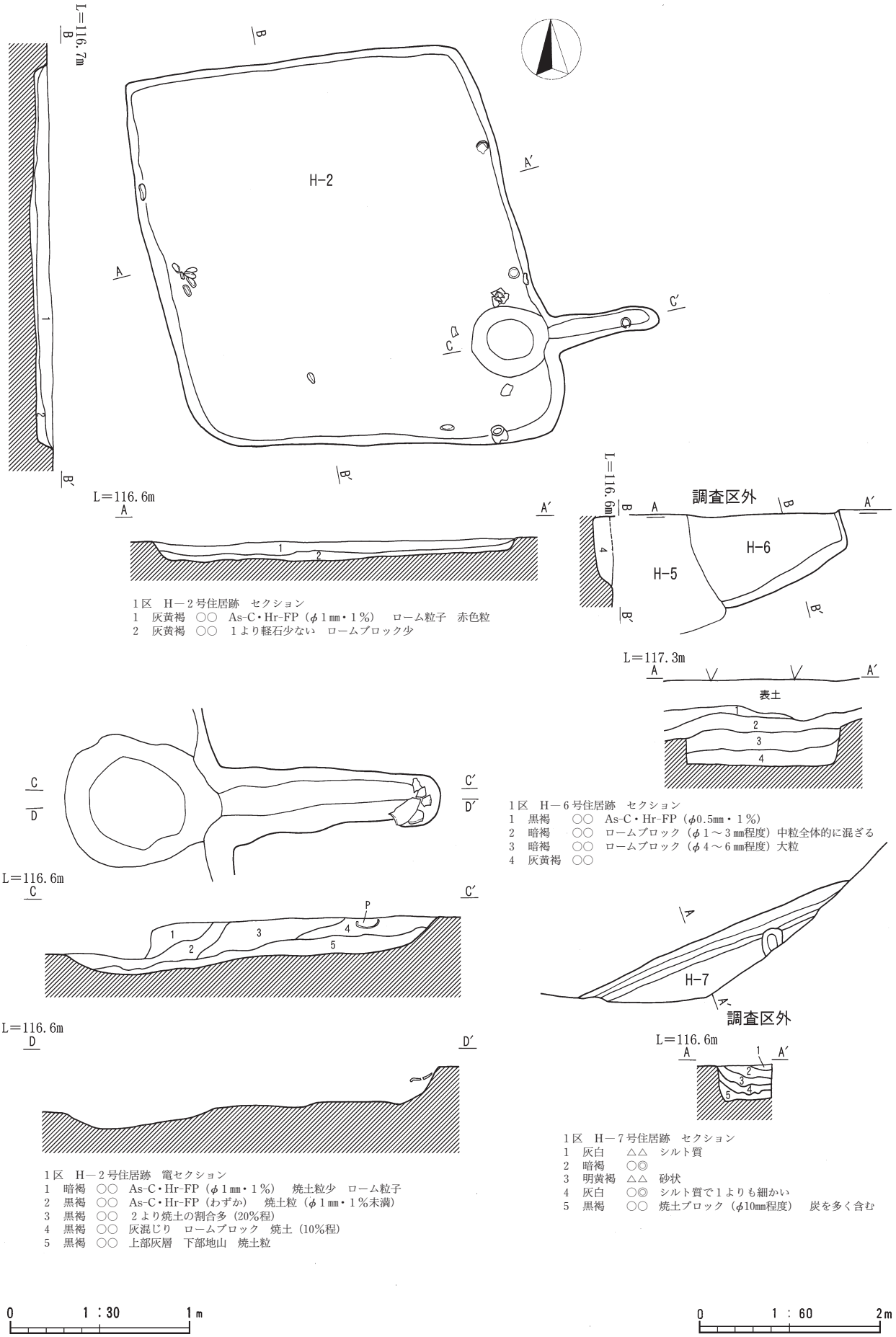
1区　H－1・3・4号住居跡　セクション
1　灰黄褐　○○　As-C・Hr-FP（φ1㎜・1％）　焼土粒少　炭粒　(H-1)
2　灰黄褐　○○　1より軽石少ない　炭粒大きい　ロームブロック　(H-1)
3　黒褐　○○　As-C・Hr-FP（φ1㎜・北側に多い）　ロームブロック　(H-3)
4　黒褐　○○　5より軽石少なくロームブロック多い　(H-3)
5　黒褐　○○　As-C・Hr-FPが混ざった黒褐色土が点在　ロームブロック　(H-4)
6　黒褐　○○　ロームブロック（40％）　粘りやや強い　(H-4)
7　黒褐　○○　ロームブロック混土　8よりややロームブロック少ない　(H-4)

1区　H－4号住居跡柱穴計測表

No.	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
P 4	楕円形	37.0	30.0	60.0

1区　H－4号住居跡　P4セクション
1　黒褐　○○　ロームブロック混土
2　灰黄褐　○○　ローム粒子　総社砂層少

Fig. 6　1区H－1・3・4号住居跡



1区　H－2号住居跡　セクション
1　灰黄褐　○○　As-C・Hr-FP（φ1㎜・1％）　ローム粒子　赤色粒
2　灰黄褐　○○　1より軽石少ない　ロームブロック少

1区　H－6号住居跡　セクション
1　黒褐　○○　As-C・Hr-FP（φ0.5㎜・1％）
2　暗褐　○○　ロームブロック（φ1～3㎜程度）中粒全体的に混ざる
3　暗褐　○○　ロームブロック（φ4～6㎜程度）大粒
4　灰黄褐　○○

1区　H－2号住居跡　竈セクション
1　暗褐　○○　As-C・Hr-FP（φ1㎜・1％）　焼土粒少　ローム粒子
2　黒褐　○○　As-C・Hr-FP（わずか）　焼土粒（φ1㎜・1％未満）
3　黒褐　○○　2より焼土の割合多（20％程）
4　黒褐　○○　灰混じり　ロームブロック　焼土（10％程）
5　黒褐　○○　上部灰層　下部地山　焼土粒

1区　H－7号住居跡　セクション
1　灰白　△△　シルト質
2　暗褐　○◎
3　明黄褐　△△　砂状
4　灰白　○◎　シルト質で1よりも細かい
5　黒褐　○○　焼土ブロック（φ10㎜程度）　炭を多く含む

0　1：30　1m　　0　1：60　2m

Fig.7　1区H－2・6・7号住居跡

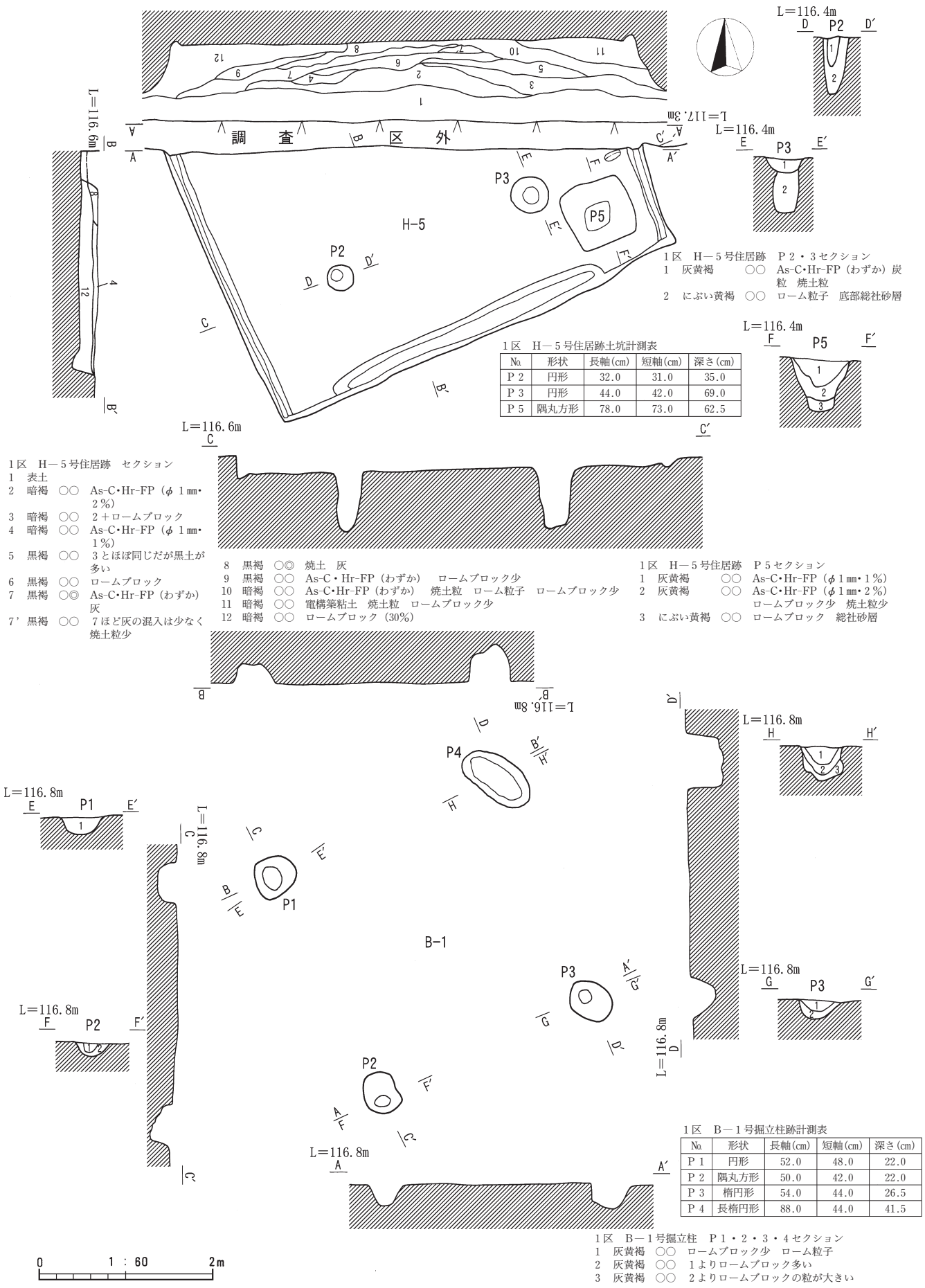
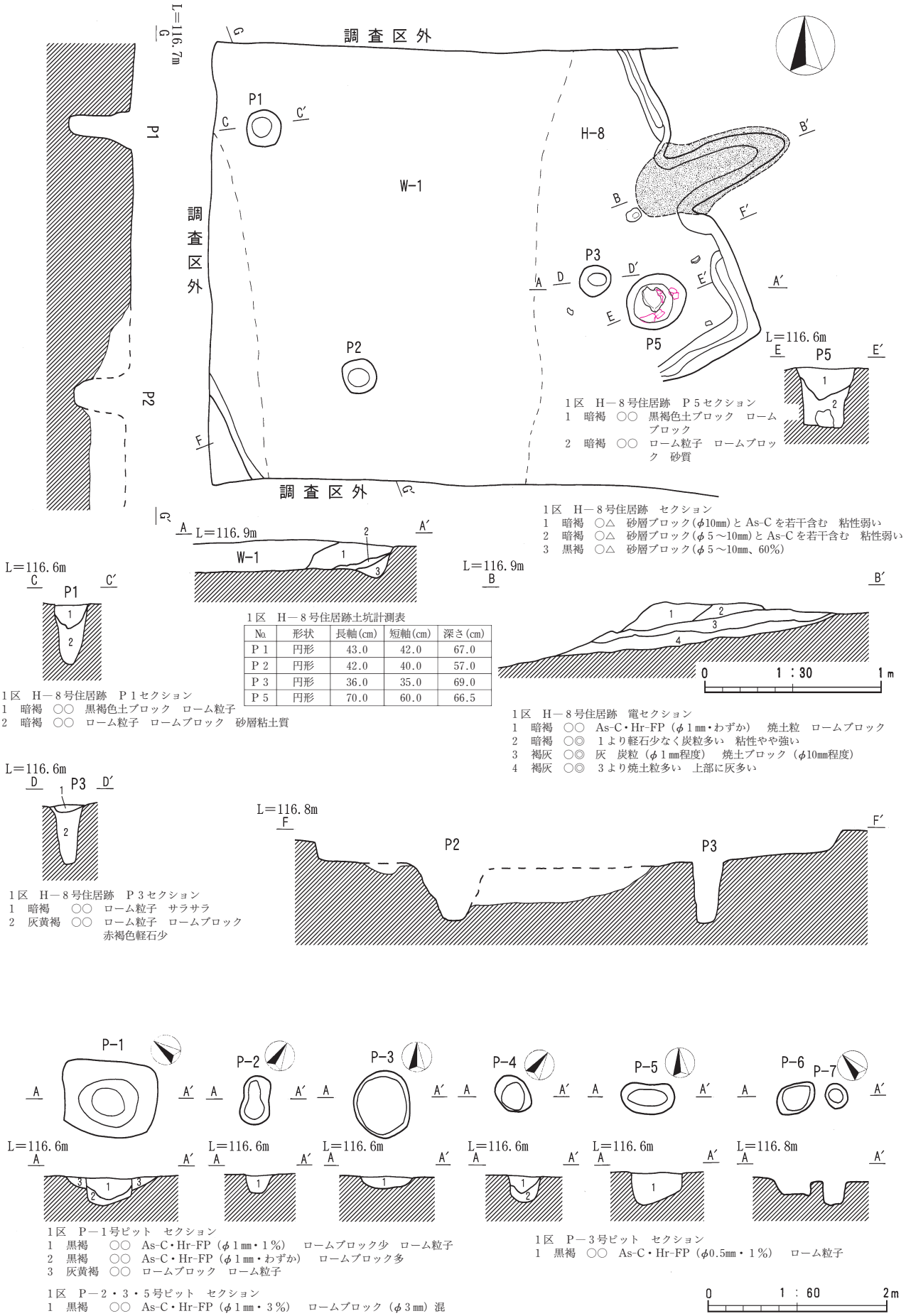


Fig. 8　1区H－5号住居跡、B－1号掘立柱跡



No	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
P 1	円形	43.0	42.0	67.0
P 2	円形	42.0	40.0	57.0
P 3	円形	36.0	35.0	69.0
P 5	円形	70.0	60.0	66.5

Fig. 9　1区H－8号住居跡、P－1～7号ピット

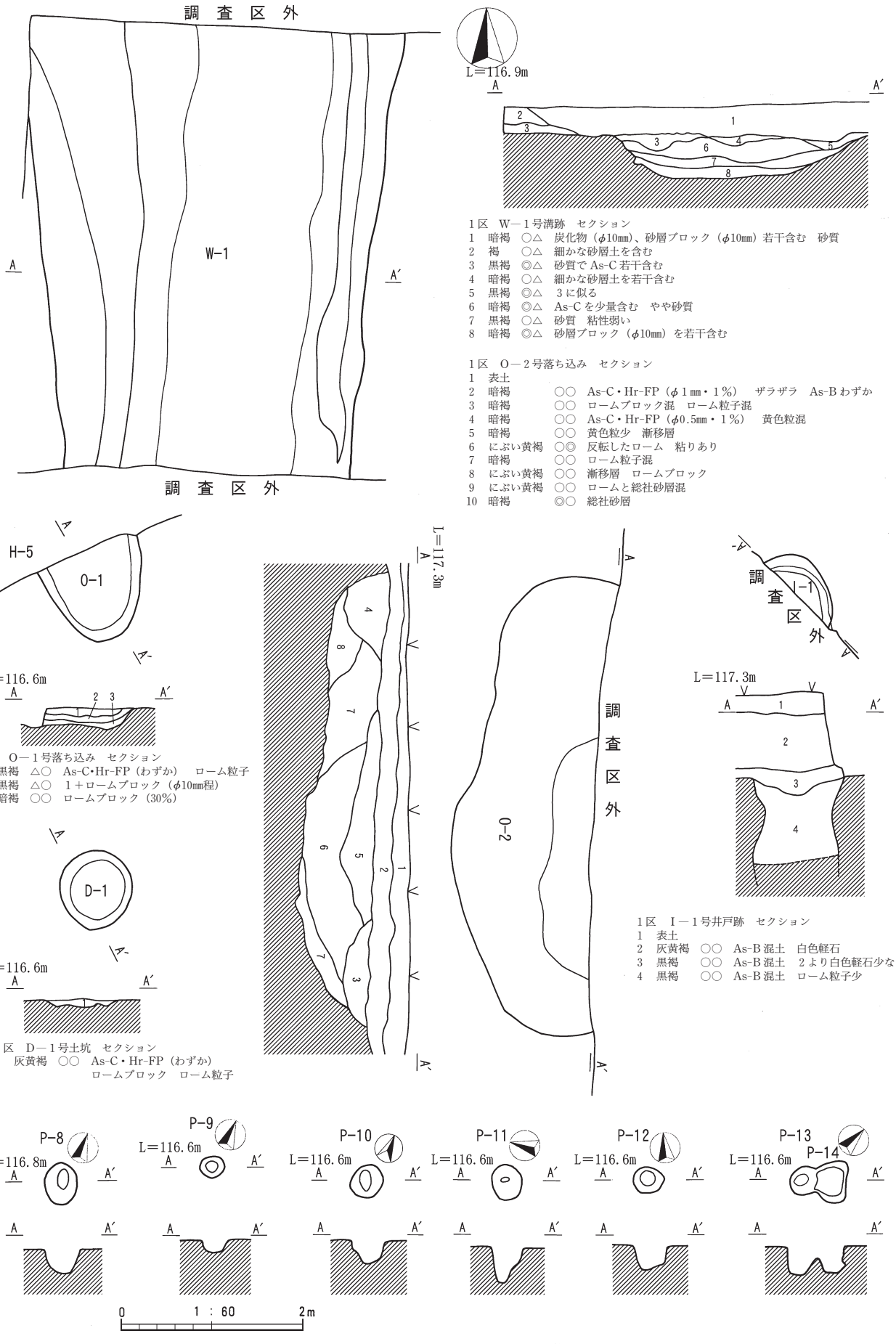


Fig.10 1区W－1号溝跡、I－1号井戸跡、O－1・2号落ち込み、P－8～13号ピット

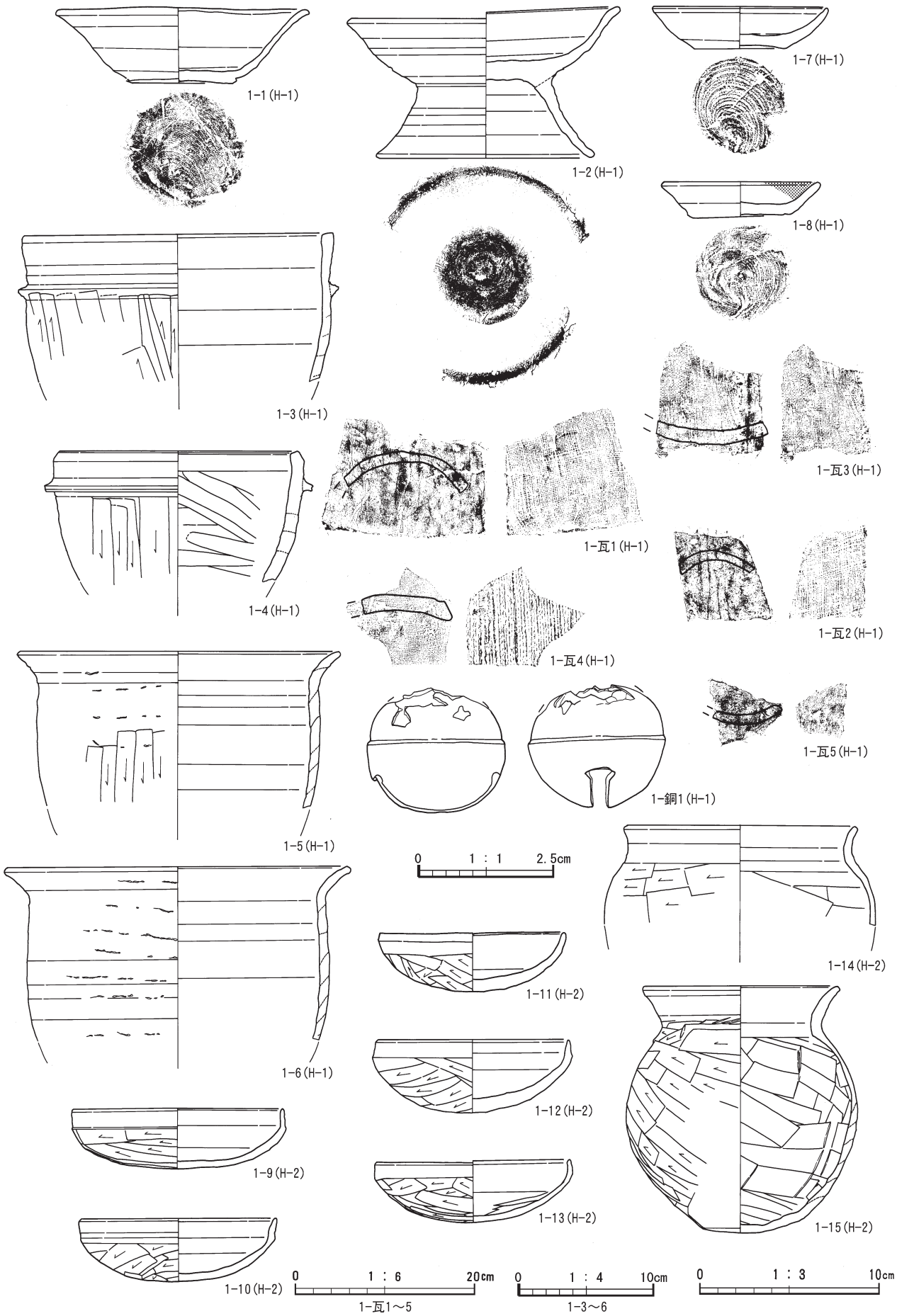


Fig.11　1区H－1・2号住居跡出土遺物

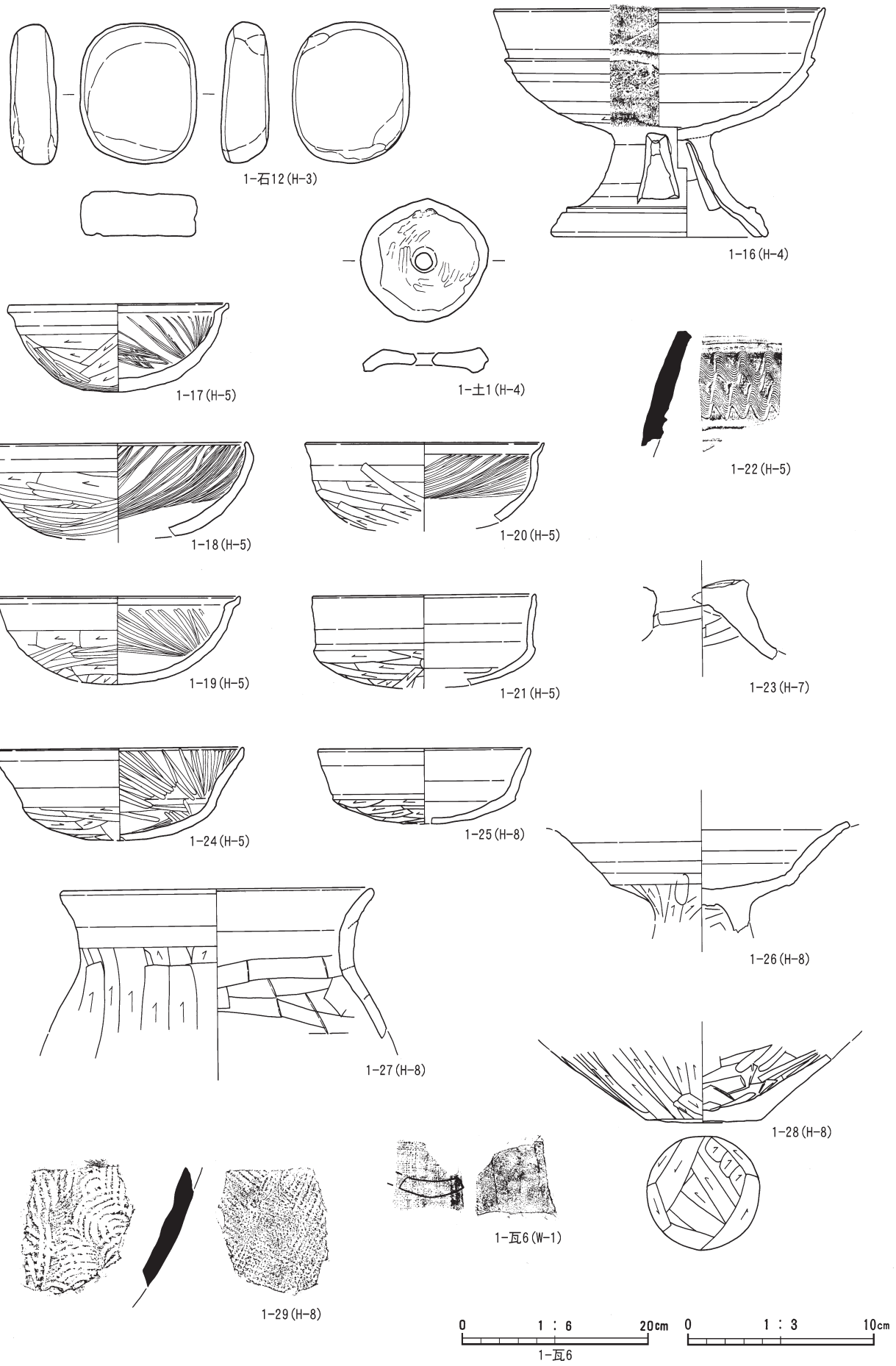


Fig.12　1区H－3～5・7・8号住居跡、W－1号溝跡出土遺物

２区

調査区の概要

本調査区は元総社中学校の南東に位置し、南北幅４m、東西幅6.5mの調査区である。標高は119mほどである。

検出された遺構は、時期不明の溝跡１条、轆轤成形の高台椀等を出土した井戸１基である。

２区　基本層序

Ⅰ層　　現耕作土。班鉄がよく発達し、Ⅱ層との境界にかけて特に凝集する。
Ⅱ層　黒褐色土　Hr-FP を少量不均質に混入する。
Ⅲ層　黒褐色土　砂質でにぶい黄褐色土のブロックを不均質に混入する。部分的に存在。
Ⅳ層　黒褐色土　As-C を均質に混入する。
Ⅴ層　褐灰色土　総社砂層起因のシルト質土を混入。下層にかけて漸移的に混入量は増加する。
※W－１号溝はⅡ層から掘り込まれる。Ⅰ－１号井戸はⅤ層を掘り込んで構築される。

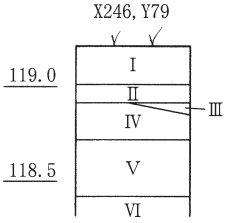


Fig.13　２区基本層序

(1)　溝跡

W－１号溝跡（Fig.15、PL.４）

位置　X243～245、Y78･79グリッド　**主軸方向**　N－38°－E　**形状等**　断面形状はやや丸みを帯びた「V」字状を呈する。長さ4.40m、最大上幅4.90m、最大下幅0.8m、深さ2.50m　**出土遺物**　瓦片数点　**時期**　不明　**備考**　覆土上層は総社砂層起因のシルト質土ブロックと黒褐色土により人為的に埋め土された状況がうかがえる。時間的にも短期間での作業であったようである。

(2)　井戸跡（Fig.15、PL.４）

Ⅰ－１号井戸跡

位置　X245･246、Y79グリッド　**形状等**　最大上幅1.6m、最大下幅(0.68)m、深さ(1.2)m　**出土遺物**　須恵器・高台椀（ほぼ完形）１点及び破片数点、石　**時期**　10世紀

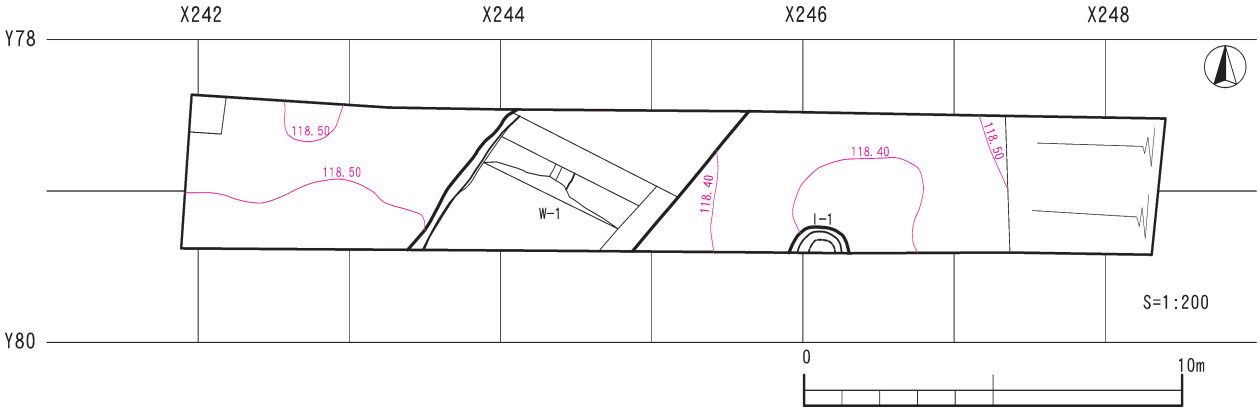


Fig.14　２区全体図

Tab.10　２区　古墳・奈良・平安時代出土土器観察表

番号	出土遺構 層　位	器種名	①口径　②器高 ③底径	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備　考
2－1	Ⅰ－1	須恵器	①14.6　②5.5 ③7.0	①粗粒　②良好 ③5YR7/1明褐灰 ④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部：口縁一部欠損、外傾から口縁部外反。内外面轆轤撫で。外面上位に煤と赤く焼け爛れた痕跡。底部：内面撫で、外面糸切り後付け高台、撫で調整。	1	酸化焔
2－2	Ⅰ－1	灰釉 皿	①―　②(1.7) ③（7.0）	①細粒　②良好 ③2.5Y7/1　④―	口縁部：外反、内外面撫で。体部：底部から外反して立ち上がり、膨らみを持って口縁部へ至る、内外面撫で。底部：内面撫で、外面糸切り後付け高台、撫で調整。釉はつけがけ。		
2－3	Ⅰ－1	椀	①10.4　②3.5 ③―	①粗粒　②良好 ③10YR8/3浅黄橙 ④3/4	轆轤整形。口縁部：やや外反、内外面撫で。体部：やや膨らみを持って外傾、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り離し後無調整。		酸化焔

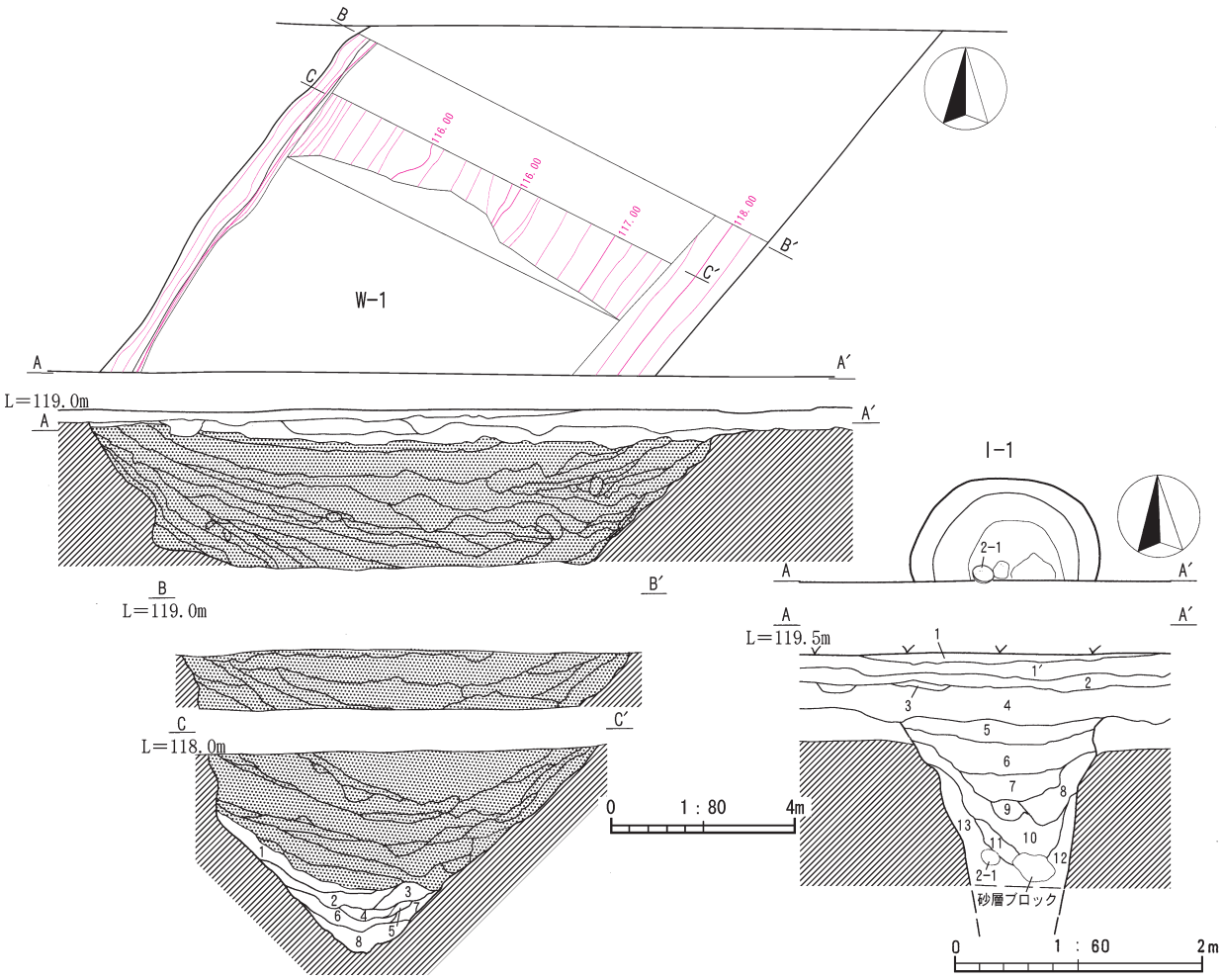


Fig.15　2区W－1号溝跡、Ⅰ－1号井戸跡

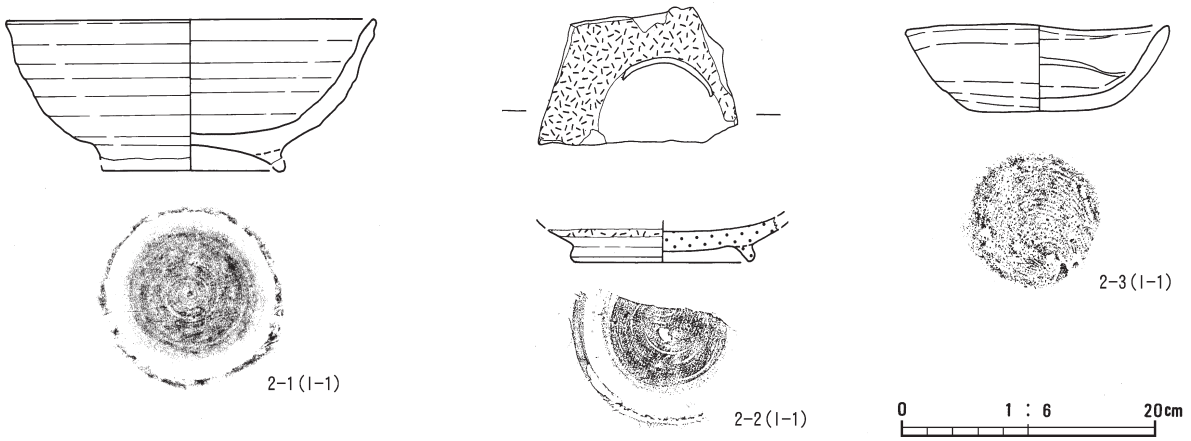


Fig.16　2区Ⅰ－1号井戸跡出土遺物

Fig.17　3 区全体図（1）

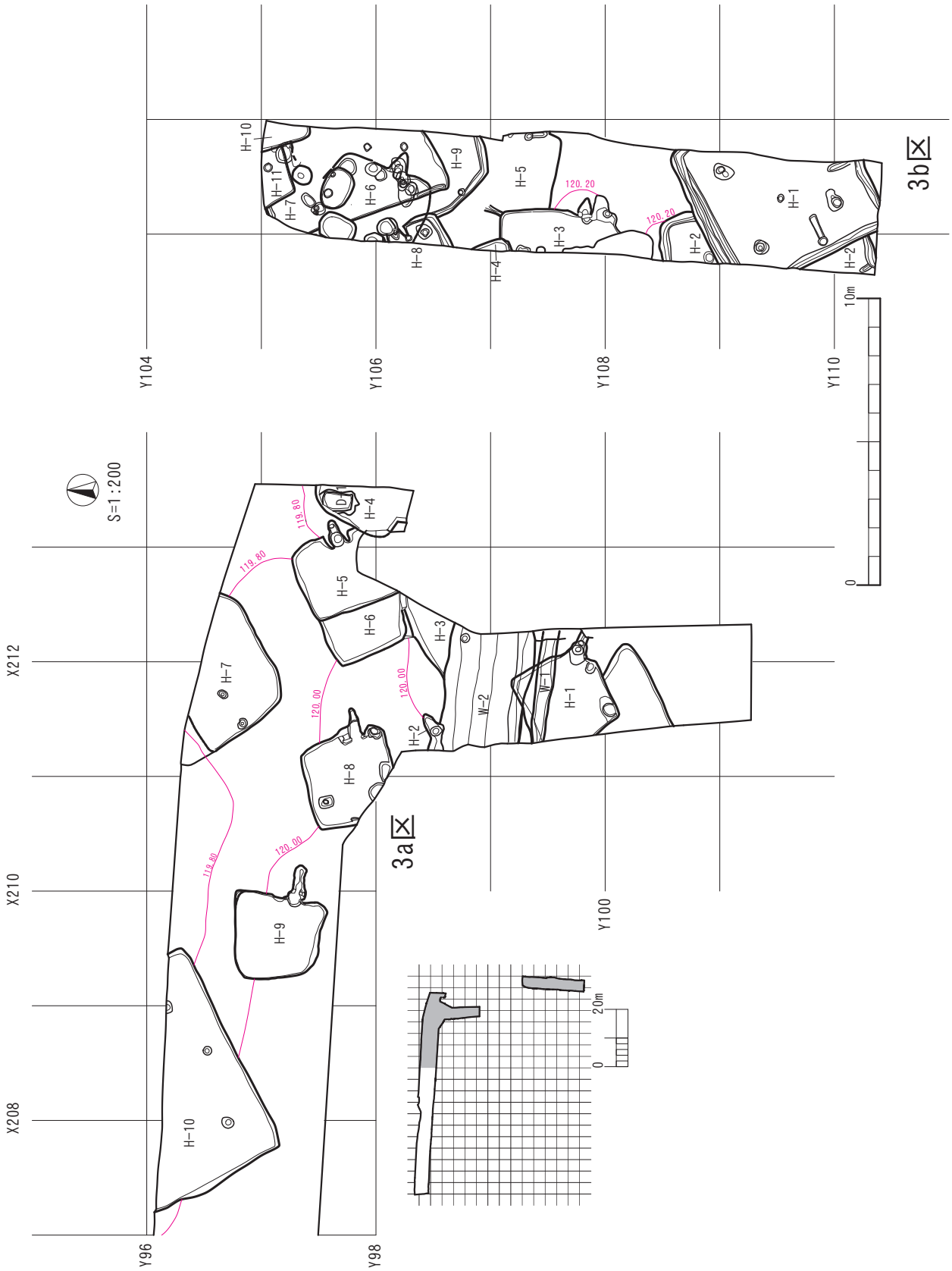


Fig.18　3 区全体図（2）

3 区

調査区の概要

本調査区は 2 つの調査区からなる。 3 a 区と呼称する調査区は国分尼寺方面から東流する牛池川が大きく南へ流路を変更する手前の右岸上に位置する。東西に長い調査区の北側は、牛池川を挟んで総社北小学校・総社中学校が所在する。標高は121m前後であり、牛池川河川敷との比高差は約 4 mを図る。また、3 b 区と呼称した調査区は、 3 a 区の南東20m程で隣接する。検出された遺構は、古墳時代から平安時代にかけての竪穴住居跡が 3 a 区では25軒、 3 b 区では13軒の計38軒を数える。ほかに中世と思われる溝跡 1 条、土坑などが検出された。

特筆される出土遺物としては、 3 b 区のH－9 号住居跡から出土した丸鞆が挙げられよう。

3 区基本層序

Ⅰ層　黒褐色土　　現耕作土。砂質土。
Ⅱ層　黒褐色土　　砂質土。As-C、Hr-FP をともに少量不均質に混入する。
Ⅲ層　極暗褐色土　Ⅱ層より漸移的に変化する。混入するAs-C、Hr-FP は少なくなり、総社砂層起因の砂質土のブロックが混入し始める。
Ⅳ層　黒褐色土　　混入物の少ない粒度が微細な均質土。Ⅴ層へは漸移的に変化する。
Ⅴ層　極暗褐色土　水成堆積のローム質土。総社砂層。
※Ｂ－１号掘立柱建物・溝はⅡ層を掘り込む。竪穴住居跡はⅢ層もしくはⅣ層を掘り込んで構築される。

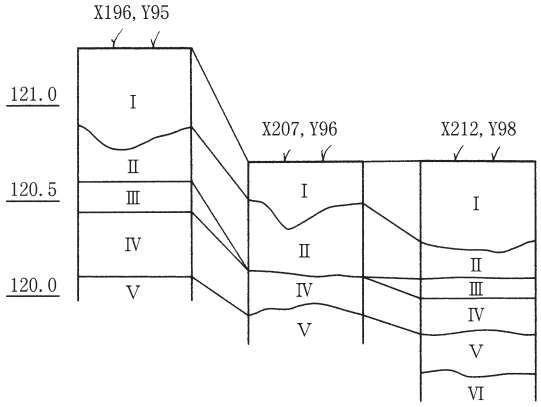


Fig.19　3 区基本層序

3 a 区

(1)　竪穴住居跡

Ｈ－１号住居跡（Fig.20、PL. 4 ）

位置　X211・212、Y99・100グリッド　**主軸方向**　N―68°―E　**形状等**　東西(3.15)m、南北3.20m、壁現高10cm　**面積**　8.65㎡　**床面**　ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。　**竈**　主軸方向N―115°―E、全長50cm、最大幅60cm、焚口部幅38cm　**貯蔵穴**　P_5　長軸48cm、短軸26cm、深さ33.5cm　**ピット**　P_6　長軸48cm、短軸46cm、深さ16.5cm　**重複**　W－１、２と重複し、本住居跡が古い。また、南に不定形の掘り込みが存在、断面観察からはその掘り込みの覆土を切って構築される。　**出土遺物**　土師器・坏、石　**時期**　6 世紀第 3 四半期

Ｈ－２号住居跡（Fig.21、PL. 5 ）

位置　X211、Y98グリッド　**主軸方向**　計測不能　**竈**　主軸方向N―57°―E、全長87cm、最大幅52cm、焚口部幅36cm　**重複**　W－２と重複し、本住居跡が古い。　**出土遺物**　土師器・坏　**時期**　6 世紀後半　**備考**　竈のみ検出

Ｈ－３号住居跡（Fig.20）

位置　X211・212、Y98グリッド　**主軸方向**　N―57°―E　**形状等**　東西(3.78)m、南北(1.54)m、壁現高32.5cm　**面積**　3.12㎡　**床面**　ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。　**竈**　未検出。　**ピット**　P_6長軸32cm、短軸31cm、深さ54.5cm　**重複**　W－２と重複し、本住居跡が古い。　**出土遺物**　土師器破片　**時**

期　6世紀後半

Ｈ－４ａ号住居跡（Fig.21、PL.５）

位置　X213、Y98グリッド　**主軸方向**　Ｎ－90°－Ｅ　**形状等**　東西(1.26)ｍ、南北(0.96)ｍ、壁現高35㎝　**面積**　0.96㎡　**床面**　ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。　**竈**　未検出。　**重複**　Ｈ－４ｂと重複し、本住居跡が新しい。　**出土遺物**　土師器片　**時期**　不明

Ｈ－４ｂ号住居跡（Fig.21、PL.５）

位置　X213、Y97・98グリッド　**主軸方向**　Ｎ－27°－Ｅ　**形状等**　東西(2.18)ｍ、南北(3.08)ｍ、壁現高28.5㎝　**面積**　[4.04]㎡　**床面**　ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。　Ｄ－１　長軸101㎝、短軸61㎝、深さ26.5㎝　**竈**　未検出。　**重複**　Ｈ－５、Ｈ－４ａ、Ｄ－１と重複し、本住居跡が古い。　**出土遺物**　土師器　**時期**　不明

Ｈ－５号住居跡（Fig.21、PL.５）

位置　X212・213、Y97・98グリッド　**主軸方向**　Ｎ－73°－Ｅ　**形状等**　東西2.84m、南北(3.08)ｍ、壁現高39㎝　**面積**　6.94㎡　**床面**　竈前面はややくぼむ。　**竈**　主軸方向Ｎ－66°－Ｅ、全長95㎝、最大幅115㎝、焚口部幅38㎝　**重複**　Ｈ－４ｂ、Ｈ－６と重複し、本住居跡が新しい。　**出土遺物**　土師器・坏、高坏　**時期**　6世紀第３四半期

Ｈ－６号住居跡（Fig.21、PL.５）

位置　X211・212、Y97・98グリッド　**主軸方向**　Ｎ－73°－Ｅ　**形状等**　東西(1.66)ｍ、南北(2.87)ｍ、壁現高40㎝　**面積**　[4.80]㎡　**床面**　ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。　**竈**　未検出。　**重複**　Ｈ－５と重複し、本住居跡が古い。　**出土遺物**　土師器破片　**時期**　不明

Ｈ－７号住居跡（Fig.22、PL.５）

位置　X211・212、Y96・97グリッド　**主軸方向**　Ｎ－59°－Ｅ　**形状等**　東西(4.64)ｍ、南北(3.68)ｍ、壁現高17.5㎝　**面積**　12.13㎡　**床面**　ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。　**竈**　未検出。　**ピット**　Ｐ$_{6}$　長軸31㎝、短軸28㎝、深さ35㎝　Ｐ$_{7}$　長軸36㎝、短軸25㎝、深さ41.5㎝　**出土遺物**　土師器、石　**時期**　6世紀第２四半期

Ｈ－８号住居跡（Fig.22、PL.５・７）

位置　X210・211、Y97・98グリッド　**主軸方向**　Ｎ－76°－Ｅ　**形状等**　東西3.24m、南北3.12m、壁現高44㎝　**面積**　9.20㎡　**床面**　ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。　**竈**　主軸方向Ｎ－75°－Ｅ、全長113㎝、最大幅50㎝、焚口部幅36㎝　**貯蔵穴**　長軸50㎝、短軸38㎝、深さ35.5㎝　**ピット**　Ｐ$_{6}$　長軸52㎝、短軸41㎝、深さ11.5㎝　**出土遺物**　土師器、須恵器、石　**時期**　6世紀第２四半期

Ｈ－９号住居跡（Fig.23、PL.６）

位置　X208・209、Y96・97グリッド　**主軸方向**　Ｎ－99°－Ｅ　**形状等**　東西3.00m、南北3.12m、壁現高25㎝　**面積**　8.51㎡　**床面**　ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。　**竈**　主軸方向Ｎ－100°－Ｅ、全長132㎝、最大幅70㎝、焚口部幅36㎝　**出土遺物**　土師器、須恵器　**時期**　9世紀第４四半期

Ｈ－10号住居跡（Fig.23、PL.６）

位置　Ｘ207～209、Ｙ96・97グリッド　**主軸方向**　Ｎ－65°－Ｅ　**形状等**　東西(8.00)ｍ、南北(5.24)ｍ、壁現高44cm　**面積**　22.75㎡　**床面**　ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。　**竈**　未検出。　**出土遺物**　土師器、須恵器、石　**時期**　６世紀第２四半期

Ｈ－11号住居跡（Fig.24）

位置　Ｘ205・206、Ｙ96.97グリッド　**主軸方向**　Ｎ－92°－Ｅ　**形状等**　東西(3.84)ｍ、南北(3.10)ｍ、壁現高42.5cm　**面積**　10.92㎡　**柱穴**　P_1　長軸40cm、短軸34cm、深さ54.5cm　**床面**　ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。　**竈**　主軸方向Ｎ－89°－Ｅ、全長137cm、最大幅(112)cm、焚口部幅(64)cm、壁周溝○　**ピット**　P_6　長軸40cm、短軸35cm、深さ54.5cm　**重複**　Ｈ－12、Ｈ－13、Ｈ－14と重複。Ｈ－14より新しく、Ｈ－12・Ｈ－13より古い。　**出土遺物**　土師器　須恵器　石　**時期**　６世紀第４四半期

Ｈ－12号住居跡（Fig.24）

位置　Ｘ205、Ｙ96グリッド　**主軸方向**　Ｎ－85°－Ｅ　**形状等**　東西(2.40)ｍ、南北(2.94)ｍ、壁現高21.5cm　**面積**　5.78㎡　**床面**　ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。　**竈**　主軸方向Ｎ－83°－Ｅ、全長72cm、最大幅100cm、焚口部幅25cm　**重複**　Ｈ－11、Ｈ－13と重複し、いずれの住居跡より新しい。　**出土遺物**　土師器、石　**時期**　７世紀

Ｈ－13号住居跡（Fig.24）

位置　Ｘ205、Ｙ96・97グリッド　**重複**　Ｈ－11、Ｈ－12、Ｈ－14と重複し、Ｈ－11、Ｈ－14より新しく、Ｈ－12より古い。　**時期**　不明

Ｈ－14号住居跡（Fig.24、PL.６）

位置　Ｘ203～205、Ｙ96・97グリッド　**主軸方向**　Ｎ－92°－Ｅ　**形状等**　東西6.16m、南北(5.32)ｍ、壁現高69cm　**面積**　31.05㎡　**柱穴**　P_1　長軸30cm、短軸27cm、深さ34.5cm　P_2　長軸36cm、短軸28cm、深さ38.5cm　P_4　長軸40cm、短軸31cm、深さ34cm　**床面**　ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。炉、中央北寄り。　**壁周溝**　○　**重複**　Ｈ－11、Ｈ－13、Ｈ－15と重複し、本住居跡がいずれよりも古い。　**出土遺物**　土師器壺　**時期**　５世紀第３四半期

Ｈ－15号住居跡（Fig.23、PL.６）

位置　Ｘ203・204、Ｙ96グリッド　**主軸方向**　Ｎ－96°－Ｅ　**形状等**　東西2.62m、南北3.06m、壁現高24.5cm　**面積**　7.56㎡　**床面**　ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。　**竈**　主軸方向Ｎ－96°－Ｅ、全長78cm、最大幅65cm、焚口部幅38cm　**重複**　Ｈ－14の覆土を切って構築。　**出土遺物**　羽釜、高台皿　**時期**　10世紀

Ｈ－16号住居跡（Fig.24、PL.６・８）

位置　Ｘ202・203、Ｙ96グリッド　**主軸方向**　Ｎ－95°－Ｅ　**形状等**　東西3.50m、南北(3.30)ｍ、壁現高42cm　**面積**　11.50㎡　**床面**　ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。　**竈**　主軸方向Ｎ－89°－Ｅ、全長76cm、最大幅87cm、焚口部幅56cm　**壁周溝**　○　**重複**　Ｉ－１、Ｗ－３、Ｈ－17、Ｈ－23と重複。Ｈ－17・23よりも新しく、Ｉ－１、Ｗ－１より古い。　**出土遺物**　高台椀　**時期**　９世紀

Ｈ－17号住居跡（Fig.25、PL.６・８）

位置　Ｘ202・203、Ｙ96・97グリッド　**主軸方向**　Ｎ－95°－Ｅ　**形状等**　東西3.28m、南北不明、壁現高46㎝　**面積**　3.11㎡　**竈**　主軸方向Ｎ－84°－Ｅ、全長58㎝、最大幅(52)㎝、焚口部幅(36)㎝　**重複**　Ｉ－１、Ｗ－３、Ｈ－16、Ｈ－23と重複し、Ｈ－23より新しく、Ｈ－16、Ｉ－１、Ｗ－３より古い。　**出土遺物**　土師器　**時期**　不明

Ｈ－18号住居跡（Fig.26、PL.７・８）

位置　Ｘ200・201、Ｙ96グリッド　**主軸方向**　Ｎ－88°－Ｅ　**形状等**　東西2.96m、南北3.56m、壁現高20.5㎝　**面積**　9.20㎡　**床面**　ほぼ平坦であるが硬化面は確認できなかった。　**竈**　主軸方向Ｎ－106°－Ｅ、全長68㎝、最大幅50㎝、焚口部幅21㎝　**重複**　Ｈ－19・22と重複し、Ｈ－19より古く、Ｈ－22より新しい。　**出土遺物**　高台椀　石　**時期**　９世紀

Ｈ－19号住居跡（Fig.26、PL.７・８）

位置　Ｘ200・201、Ｙ95・96グリッド　**主軸方向**　Ｎ－99°－Ｅ　**形状等**　東西2.68m、南北(1.62)m、壁現高16.5㎝　**面積**　4.28㎡　**床面**　ほぼ平坦であるが硬化面は確認できなかった。　**竈**　主軸方向Ｎ－107°－Ｅ、全長86㎝、最大幅61㎝、焚口部幅31㎝　**重複**　Ｈ－18、Ｈ－20と重複し、いずれよりも新しい。　**時期**　不明

Ｈ－20号住居跡（Fig.26、PL.７・８）

位置　Ｘ199・200、Ｙ96・97グリッド　**主軸方向**　Ｎ－86°－Ｅ　**形状等**　東西3.06m、南北3.86m、壁現高９㎝　**面積**　10.80㎡　**床面**　ほぼ平坦であるが硬化面は確認できなかった。　**竈**　主軸方向Ｎ－98°－Ｅ、全長76㎝、最大幅62㎝、焚口部幅32㎝　**重複**　Ｈ－19と重複し、本住居跡が新しい。　**出土遺物**　轆轤整形皿　**時期**　11世紀

Ｈ－21号住居跡（Fig.27、PL.７）

位置　Ｘ196、Ｙ96グリッド　**主軸方向**　Ｎ－98°－Ｅ　**形状等**　東西3.20m、南北3.13m、壁現高14.5㎝　**面積**　8.60㎡　**床面**　ほぼ平坦であるが硬化面は確認できなかった。東壁の調査区境に存在するが、形状規模等は不詳。　**壁周溝**　○　**重複**　Ｂ－１と重複し、本住居跡が古い。　**出土遺物**　高台椀　**時期**　９世紀後半

Ｈ－22号住居跡（Fig.27、PL.７・８）

位置　Ｘ201・202、Ｙ95～97グリッド　**主軸方向**　Ｎ－70°－Ｅ　**形状等**　東西3.68m、南北3.92m、壁現高36.0㎝　**面積**　13.94㎡　**柱穴**　$Ｐ_{1}$　長軸37㎝、短軸34㎝、深さ38.5㎝　$Ｐ_{2}$　長軸40㎝、短軸36㎝、深さ48.5㎝　$Ｐ_{3}$　長軸29㎝、短軸21㎝、深さ27㎝　$Ｐ_{4}$　長軸41㎝、短軸39㎝、深さ46㎝　**床面**　ほぼ平坦で中央部に硬化面あり。　**炉**　中央北寄り。　**壁周溝**　○　**重複**　Ｈ－18、Ｈ－19、Ｈ－23と重複し、Ｈ－23より新しく、Ｈ－18・Ｈ－19より古い。　**時期**　５世紀

Ｈ－23号住居跡（Fig.28、PL.７・８）

位置　Ｘ201・202、Ｙ96・97グリッド　**主軸方向**　Ｎ－62°－Ｅ　**形状等**　東西4.34m、南北3.94m、壁現高38.5㎝　**面積**　15.18㎡　**床面**　ほぼ平坦であるが硬化面は確認できなかった。　**炉**　未検出　**重複**　Ｗ

－３、Ｈ－16、Ｈ－17、Ｈ－22、Ｉ－１と重複し、いずれよりも古い。　**出土遺物**　須恵器　**時期**　５世紀

⑵　溝跡

Ｗ－１号溝跡（Fig.29　、PL.５）

位置　Ｘ211・212、Ｙ99グリッド　**主軸方向**　Ｎ－98°－Ｅ　**形状等**　長さ3.88ｍ、深さ29.5㎝、最大上幅60㎝、最大下幅40㎝。底部に狭い平坦面をもつＶ字状を呈する。　**時期**　不明

Ｗ－２号溝跡（Fig.29、PL.５）

位置　Ｘ211.212、Ｙ98.99グリッド　**主軸方向**　Ｎ－97°－Ｅ　**形状等**　長さ4.10ｍ、深さ113.0㎝、最大上幅310㎝、最大下幅60㎝。断面Ｕ字状。　**時期**　不明

Ｗ－３号溝跡（Fig.25）

位置　Ｘ202、Ｙ97グリッド　**主軸方向**　Ｎ－86°－Ｅ　**形状等**　長さ4.20ｍ、深さ17.5㎝、最大上幅70㎝、最大下幅64㎝。断面台形。　**時期**　不明

⑶　土坑、掘立柱建物

Ｄ－１号土坑（Fig.25）

位置　Ｘ213、Ｙ97グリッド　**形状等**　深さ25.0㎝、長軸102.0㎝、短軸62.0㎝

Ｄ－２号土坑（Fig.25）

位置　Ｘ213、97グリッド　**形状等**　深さ25.0㎝、長軸102.0㎝、短軸62.0㎝

Ｂ－１号掘立柱建物跡（Fig.28、PL.８）

位置　Ｘ195～197、Ｙ95・96グリッド

Ｐ－１　長軸76㎝、短軸53㎝、深さ57.5㎝

Ｐ－２　長軸102㎝、短軸92㎝、深さ47㎝

Ｐ－３　長軸96㎝、短軸90㎝、深さ54㎝

Ｐ－４　長軸71㎝、短軸69㎝、深さ49㎝

Ｐ－１～Ｐ－２の距離1.75ｍ、Ｐ－２～Ｐ－３の距離1.76ｍ、Ｐ－３～Ｐ－４の距離1.82ｍ

⑷　正確不明遺構

Ｘ－１（Fig.28）

位置　Ｘ213、Ｙ97グリッド　**形状等**　深さ25.0㎝、長軸102.0㎝、短軸62.0㎝

３ｂ区

⑴　竪穴住居跡

Ｈ－１号住居跡（Fig.29、PL.９）

位置　Ｘ213・214、Ｙ108～110グリッド　**主軸方向**　Ｎ－64°－Ｅ　**形状等**　東西(5.70)ｍ、南北6.18ｍ、壁現高43.5㎝　**面積**　23.15㎡　**柱穴**　$Ｐ_{1}$　長軸52㎝、短軸48㎝、深さ30㎝　$Ｐ_{2}$　長軸78㎝、短軸52㎝、深さ57.5㎝　$Ｐ_{4}$　長軸70㎝、短軸52㎝、深さ54.5㎝　$Ｐ_{6}$　長軸34㎝、短軸28㎝、深さ67㎝　$Ｐ_{7}$　長軸28㎝、短

軸20cm、深さ16cm　**床面**　中央部に硬化面あり。　**竈**　未検出。　**壁周溝**　○　**重複**　H－2と重複し、本住居跡が新しい。　**出土遺物**　須恵器器台、土師器高坏、刀子・釘　**時期**　6世紀第2後半

H－2号住居跡（Fig.29、PL.9）

位置　X213・214、Y108～110グリッド　**主軸方向**　N－74°－E　**形状等**　東西(4.00)m、南北7.24m、壁現高38.5cm　**面積**　16.57m　**柱穴**　P_4　長軸40cm、短軸35cm、深さ63cm　**床面**　ほぼ平坦であるが硬化面は確認できなかった。　**壁周溝**　○　**竈**　未検出。　**重複**　H－1と重複し、本住居跡が古い。　**出土遺物**　須恵器、釘　**時期**　不明　**備考**　本住居跡出土として記載した高台椀、灰釉陶器は覆土中に掘り込まれた攪乱より出土。

H－3号住居跡（Fig.30、PL.9）

位置　X213・214、Y107、108グリッド　**主軸方向**　N－90°－E　**形状等**　東西(1.70)m、南北(4.18)m、壁現高13.5cm　**面積**　6.33m²　**床面**　ほぼ平坦であるが硬化面は確認できなかった。　**竈**　主軸方向N－101°－E、全長73cm、最大幅54cm、焚口部幅28cm　**重複**　H－4、H－5と重複し、H－5より新しく、H－4より古い。　**出土遺物**　須恵器・大甕・壺、土師器・坏　**時期**　6世紀第4四半期

H－4号住居跡（Fig.30）

位置　X213、Y106・107グリッド　**主軸方向**　N－70°－E　**形状等**　東西(5.8)m、南北(13.2)m、壁現高35cm　**面積**　(0.38m²)　**床面**　ほぼ平坦で中央部に硬化面あり。　**竈**　未検出。　**重複**　H－3と重複し、H－3より新しい。　**時期**　重複関係からは7世紀以降

H－5号住居跡（Fig.30）

位置　X214、Y106・107グリッド　**主軸方向**　N－100°－E　**形状等**　東西(3.48)m、南北(2.46)m、壁現高3.5cm　**面積**　7.29m²　**床面**　中央部に硬化面あり　**竈**　未検出。　**重複**　H－3、H－9と重複し、いずれよりも新しい。　**出土遺物**　高台椀　**時期**　10世紀前半

H－6号住居跡（Fig.30、PL.10）

位置　X214、Y105・106グリッド　**主軸方向**　N－112°－E　**形状等**　東西(3.20)m、南北3.90m　**面積**　10.36m²　**床面**　ほぼ平坦で硬化面あり。　**竈**　主軸方向N－113°－E、全長89cm、最大幅78cm、焚口部幅26cm　**貯蔵穴**　P_5　長軸48cm、短軸42cm、深さ27cm　**重複**　H－7～9と重複し、いずれよりも新しい。　**出土遺物**　灰釉陶器、瓦、羽釜、土師器、鉄製品、須恵器、石　**時期**　10世紀前半

H－7号住居跡（Fig.30）

位置　X214、Y105グリッド　**形状等**　不明　**床面**　竈前面に硬化面あり。　**竈**　主軸方向N－110°－E、全長72cm、最大幅114cm、焚口部幅60cm　**貯蔵穴**　P_5　長軸72cm、短軸66cm、深さ18cm　**重複**　H－6、H－9、H－11と重複し、いずれよりも新しい。　**出土遺物**　高台椀　**時期**　10世紀後半

H－8号住居跡（Fig.31、PL.9・10）

位置　X213・214、Y105・106グリッド　**主軸方向**　N－62°－E　**形状等**　東西(1.58)m、南北(2.18)m、壁現高27cm　**面積**　1.76m²　**床面**　ほぼ平坦。　**竈**　主軸方向N－60°－E、全長(67)cm、最大幅99cm、焚口

部幅48cm　**壁周溝**　○　**貯蔵穴**　P_5　長軸57cm、短軸47cm、深さ47cm　**重複**　H－6、H－9と重複し、いずれよりも古い。　**時期**　不明

H－9号住居跡（Fig.31、PL.9・10）

位置　X214、Y106グリッド　**主軸方向**　N－96°－E　**形状等**　東西(3.84)m、南北(7.50)m、壁現高33cm　**面積**　23.03㎡　**床面**　ほぼ平坦であるが硬化面は確認できなかった。　**竈**　未検出。　**壁周溝**　○　**重複**　H－6～H－13と重複し、H－6～H－9より古く、H－10～H－13より新しい。　**出土遺物**　丸鞆　**時期**　不明

H－10号住居跡（Fig.31）

位置　X214、Y105グリッド　**主軸方向**　N－96°－E　**形状等**　東西(0.88)m、南北(0.86)m、壁現高3cm　**面積**　0.68㎡　**床面**　やや凹凸あり。　**竈**　未検出。　**重複**　H－9、H－11、H－13と重複し、いずれよりも新しい。　**時期**　不明

H－11号住居跡（Fig.31）

位置　X214、Y105グリッド　**面積**　1.7㎡　**床面**　ほぼ平坦。　**竈**　未検出。　**重複**　H－9、H－10、H－12、H－13と重複し、H－9、H－12、H－13より新しく、H－10より古い。　**時期**　不明

H－12号住居跡（Fig.31、PL.9）

位置　X214、Y105グリッド　**形状等**　不明。貯蔵穴のみ検出。　**竈**　未検出。　**重複**　H－7、H－9、H－11、H－13と重複し、いずれよりも新しい。　**出土遺物**　土師器　**時期**　5世紀第4四半期

H－13号住居跡（Fig.31）

位置　X214、Y105・106グリッド　**竈**　未検出。　**重複**　H－6、H－7、H－9～H－12と重複し、いずれよりも古い。　**出土遺物**　土師器坏　**時期**　6世紀後半

⑵　溝跡

W－1号溝跡（Fig.29）

位置　X213・214、Y106グリッド　**主軸方向**　N－88°－E　**形状等**　長さ3.90m、深さ31.0cm、最大上幅76cm、最大下幅47cm。断面台形状。　**時期**　不明

Tab.11　3区　住居跡一覧表

3a区

遺構名	位置	規模（m）			面積（㎡）	主軸方向	竈		周溝	主な出土遺物		
		東西	南北	壁現高(cm)			位置	構築材		土師器	須恵器	その他
H－1	X211・212 Y99・100	(3.15)	3.20	10.0	8.65	N－68°－E	東壁南寄り	粘土		○		石
H－2	X211 Y98					計測不能	竈のみ検出	粘土		○		
H－3	X211・212 Y98	(3.78)	(1.54)	32.5		N－57°－E						
H－4a	X213 Y98	(1.26)	(0.96)	35.0	0.96	N－90°－E				○		
H－4b	X213 Y97・98	(2.18)	(3.08)	28.5	(4.04)	N－27°－E				○		
H－5	X212・213 Y97・98	2.84	(3.08)	39.0	6.94	N－73°－E	東壁中央	粘土		○		石
H－6	X211・212 Y97・98					N－73°－E						

遺構名	位置	規　模（m）			面積（㎡）	主軸方向	竈		周溝	主な出土遺物		
		東西	南北	壁現高(cm)			位　置	構築材		土師器	須恵器	その他
H－7	X211・212 Y96・97	(4.64)	(3.68)	17.5	12.13	N－59°－E				○		石
H－8	X210・211 Y97・98	3.24	3.12	44.0	9.20	N－76°－E	東壁中央	粘土		○	○	石
H－9	X208・209 Y96・97	3.00	3.12	25.0	8.51	N－99°－E	東壁中央	粘土		○	○	
H－10	X207～209 Y96・97	(8.00)	(5.24)	44.0	22.75	N－65°－E				○	○	石
H－11	X205・206 Y96・97	(3.84)	(3.10)	42.5	10.92	N－92°－E	東壁	粘土	○	○	○	石
H－12	X205 Y96	(2.40)	(2.94)	21.5	5.78	N－85°－E	東壁中央	粘土		○		石
H－13	X205 Y96・97											
H－14	X203～205 Y96・97	6.16	(5.32)	69.0	31.05	N－92°－E			○	○		石
H－15	X203・204 Y96	2.62	3.06	24.5	7.56	N－96°－E	東壁南寄り	粘土			○	羽釜
H－16	X202・203 Y96	3.50	(3.30)	42.0	11.50	N－95°－E	東壁中央	粘土	○	○		石
H－17	X202・203 Y96・97	3.28	(1.18)	46.0	3.11	N－95°－E	東壁中央	粘土		○		石
H－18	X200・201 Y96	2.96	3.56	20.5	9.20	N－88°－E	東壁南寄り	粘土		○	○	石
H－19	X200・201 Y95・96	2.68	(1.62)	16.5	4.28	N－99°－E	東壁南寄り	粘土		○	○	
H－20	X199・200 Y96・97	3.06	3.86	9.0	10.80	N－86°－E	東壁南寄り	粘土			○	
H－21	X196 Y96	3.20	3.13	14.5	8.60	N－98°－E			○	○		
H－22	X201・202 Y95～97	3.68	3.92	36.0	13.94	N－70°－E			○			
H－23	X201・202 Y96・97	4.34	3.94	38.5	15.18	N－62°－E					○	

3ｂ区

遺構名	位置	規　模（m）			面積（㎡）	主軸方向	竈		周溝	主な出土遺物		
		東西	南北	壁現高(cm)			位　置	構築材		土師器	須恵器	その他
H－1	X213・214 Y108～110	(5.70)	6.18	43.5	23.15	N－64°－E			○	○		石
H－2	X213・214 Y108～110	(4.00)	7.24	38.5	16.57	N－74°－E			○		○	釘
H－3	X213・214 Y107・108	(1.70)	(4.18)	13.5	6.33	N－90°－E	東壁南寄り	粘土			○	かわらけ
H－4	X213 Y106・107	(5.8)	(13.2)	35.0	0.38	N－70°－E						
H－5	X214 Y106.107	(3.48)	(2.46)	3.5	7.29	N－100°－E				○	○	
H－6	X214 Y105・106						東壁南寄り	粘土		○	○	羽釜等
H－7	X214 Y105						？	粘土			○	鉄・石
H－8	X213・214 Y105・106	(1.58)	(2.18)	27.0	1.76	N－62°－E	東壁中央	粘土	○	○		
H－9	X214 Y106	(3.84)	(7.50)	33.0	23.03	N－96°－E			○			丸鞆
H－10	X214 Y105	(0.88)	(0.86)	3.0	0.68	N－96°－E						
H－11	X214 Y105											
H－12	X214 Y105									○		
H－13	X214 Y105・106											

Tab.12　3区　溝跡計測表

3ａ区

遺構名	位置	長さ(m)	深さ（cm）		上幅（cm）		下幅（cm）		主軸方向	断面形	時　期
			最大	最小	最大	最小	最大	最小			
W－1	X211・212 Y99	3.88	29.5		60.0		40.0		N－98°－E	V字形	
W－2	X211・212 Y98・99	4.10	113.0		310.0		60.0		N－97°－E	U字形	
W－3	X202 Y97	4.20	17.5		70.0		64.0		N－86°－E	台形状	

3 b区

遺構名	位置	長さ(m)	深さ (cm)		上幅 (cm)		下幅 (cm)		主軸方向	断面形	時　期
			最大	最小	最大	最小	最大	最小			
W－1	X213・214 Y106	3.90	31.0		76.0		47.0		N－88°－E	台形状	

Tab.13　3区　土坑・井戸跡計測表

3 a区

遺構名	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	出土遺物	備　考
D－1	X213、Y97	102	62	25		須恵器	
I－1	X202、Y96	110	95	(48.5)	楕円形		

Tab.14　3区　古墳・奈良・平安時代出土土器観察表

3 a区

番号	出土遺構 層　位	器種名	①口径　②器高 ③底径	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備　考
3a－1	H－1	土師器 甕	①20.4　②8.3 ③—	①粗粒　②良好 ③5YR7/2明褐灰 ④口縁部破片	口縁部：外反、内外面撫で。外面篦削り。胴部：上位に膨らみ、器最大径、内・外面撫で。底部欠損。	5	
3a－2	H－1 竈	土師器 小型壺	①11.4　②9.5 ③—	①中粒　②良好 ③2.5YR7/8橙 ④完形	口縁・体部：外傾、内外面横撫で、底部との交換点に稜有。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。	竈8	
3a－3	H－1	土師器 坏	①12.6　②4.4 ③—	①細粒　②良好 ③5YR7/6橙 ④ほぼ完形	口縁部：やや外反、内外面横撫で。底部：丸みを帯びた平底、内面撫で、外面篦削り。	2	
3a－4	H－1 竈	土師器 坏	①12.0　②3.3 ③—	①細粒　②良好 ③2.5YR7/6橙 ④1/3	口縁・体部：外傾、内外面横撫で、底部との交換点に稜有。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。	竈	
3a－5	H－1	土師器 坏	①13.6　②5.5 ③—	①粗粒　②良好 ③5YR7/6橙　④完形	口縁部：外傾、内面横撫で後暗文を施す、外面横撫で。底部：平底、内面撫で、線刻らしき線有り、外面篦削り。	8	
3a－6	H－1 竈	土師器 坏	①12.6　②4.4 ③—	①中粒　②良好 ③2.5YR7/8橙 ④完形	口縁部：外傾、内面横撫で、外面横撫で底部付近篦削り。底部：平底、内面撫で、外面篦削り。	竈1	
3a－7	H－1	土師器 坏	①24.5　②4.5 ③—	①中粒　②良好 ③2.5YR6/8橙 ④ほぼ完形	口縁部：短く直立、内外面横撫で。底部：丸底、内面撫で、外面撫で、篦削り。	7	
3a－8	H－1	土師器 長胴甕	①20.7　②40.3 ③3.0	①粗粒　②良好 ③2.5YR6/6橙 ④ほぼ完形	口縁部：器最大径、外反、内・外面撫で。胴部・底部：内外面撫で。外面篦削り。	竈7、7、31、37	
3a－9	H－1 竈	土師器 長胴甕	①20.6　②37.2 ③5.6	①粗粒　②良好 ③7.5YR6/6橙 ④ほぼ完形	口縁部：器最大径、外反、内・外面撫で。胴部・底部：内外面撫で。外面篦削り。	竈5、20、21、23、26、28、30、47	酸化焔
3a—10	H－1	土師器 長胴甕	①[21.0]　②(26.0) ③—	①中粒　②良好 ③7.5YR6/4にぶい橙 ④4/5	口縁部：器最大径、外反、内・外面撫で。胴部・底部：内外面撫で。外面篦削り。	46	酸化焔
3a—11	H－1	土師器 長胴甕	①21.5　②(32.0) ③—	①中粒　②良好 ③7.5YR6/4にぶい橙 ④4/5	口縁部：器最大径、外反、内・外面撫で。胴部・底部：内外面撫で。外面篦削り。	1	酸化焔
3a—12	H－2 竈	土師器 坏	①12.1　②4.4 ③—	①中粒　②良好 ③5YR1/6橙　④2/3	口縁•体部：外傾、　内外面横撫で。外面篦削り。底部：丸底。内外面横撫で。外面篦削り。	竈2	酸化焔
3a—13	H－2 竈堀り方	土師器 坏	①13.4　②(4.6) ③—	①中粒　②良好 ③2.5YR5/6明赤褐 ④1/2	轆轤整形。口縁・体部：底部から丸みを帯びて立ち上がり、やや外反、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り。	竈3	酸化焔
3a—14	H－3 覆土	土師器 甕	①[23.4]　②(12.5) ③—	①　② ③7.5YR7/3にぶい橙 ④口縁部破片	口縁部：「コの字」型、内面撫で、外面に指圧痕や、横撫で後、斜位の撫でを加えた痕跡が顕著に残る。胴部：内面撫で、外面上部横位の篦削り、下部は斜位の篦削り、一部縦位の篦削り。底部欠損。器の厚みが薄く、割れやすい印象。底部を破損させて、竈の煙道に転用されていた。	覆土	
3a—15	H－4	土師器 甑	①—　②2.8 ③5.7	①細粒　②良好 ③5YR7/4にぶい橙 ④低部破片	轆轤整形。口縁部：ほぼ直立、内外面轆轤撫で。鍔部：断面三角形状でほぼ水平に付く。胴部：内外面轆轤撫で。胴部内面下位に4箇所、段状となる窪み有り。脚部：水平方向に大きく外反。	6	
3a—16	H－5 竈	土師器 坏	①12.1　②3.7 ③—	①中粒　②良好 ③5YR6/8橙　④完形	口縁と底部の境に稜を有する。口縁部：ほぼ直立、内外面横撫で。外面篦削り。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。	竈1	
3a—17	H－5 竈	土師器 高坏	①13.6　②(4.3) ③(3.5)	①中粒　②良好 ③5YR7/6橙 ④ほぼ完形	坏部：大きく外傾、内・外面撫で。交換点に稜有。底部：浅い丸底、内面撫で、外面篦削り。	竈2	
3a—18	H－5	土師器 坏	①12.5　②3.9 ③—	①中粒　②良好 ③5YR6/6橙　④完形	轆轤整形。口縁・体部：底部から丸みを帯びて立ち上がり、やや外反、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り。	2	酸化焔
3a—19	H－7	土師器 壺	①[14.4]　②(9.4) ③—	①粗粒　②良好 ③7.5YR にぶい橙 ④破片	頸部短く外反。口唇部沈線状。口縁部横撫で。内面篦磨き。		酸化焔
3a—20	H－8	土師器 坏	①11.7　②3.6 ③—	①中粒　②良好 ③5YR6/6橙 ④ほぼ完形	口縁•体部：外傾、　内外面横撫で。外面篦削り。底部：丸底。内外面横撫で。外面篦削り。	3	
3a—21	H－8 竈	土師器 坏	①10.7　②3.4 ③—	①細粒　②良好 ③5YR6/6橙　④完形	口縁•体部：外傾、　内外面横撫で。外面篦削り。底部：丸底。内外面横撫で。外面篦削り。	竈2	
3a—22	H－8	土師器 坏	①14.4　②4.5 ③—	①粗粒　②良好 ③2.5YR6/6橙 ④完形	口縁•体部：外傾、　内外面横撫で。外面篦削り。底部：丸底。内外面横撫で。外面篦削り。	23	
3a—23	H－8 竈	土師器 坏	①11.3　②3.8 ③—	①中粒　②良好 ③5YR6/6橙　④完形	口縁と底部の境に稜を有する。口縁部：ほぼ直立、内外面横撫で。外面篦削り。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。	竈1	酸化焔焼成
3a—24	H－8	土師器 坏	①11.3　②4.2 ③—	①中粒　②良好 ③7.5YR8/3浅黄橙 ④ほぼ完形	口縁と底部の境に稜を有する。口縁部：ほぼ直立、内外面横撫で。外面篦削り。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。	4	酸化焔焼成気味

番号	出土遺構 層　位	器種名	①口径　②器高 ③底径	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備　考
3a—25	H－8	土師器 坏	①[13.8]　②4.8 ③—	①粗粒　②良好 ③5YR6/6橙　④2/3	口縁と底部の境に稜を有する。口縁部：ほぼ直立、内外面横撫で。外面篦削り。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。	1	
3a—26	H－8	土師器 坏	①[11.6]　②4.1 ③—	①中粒　②良好 ③10YR8/3浅黄橙 ④1/2強	口縁と底部の境に稜を有する。口縁部：ほぼ直立、内外面横撫で。外面篦削り。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。	6、7、8	
3a—27	H－8	土師器 坏	①11.8　②3.7 ③3/4	①中粒　②良好 ③5YR6/6橙　④3/4	口縁・体部：外傾、　内外面横撫で。外面篦削り。底部：丸底。内外面横撫で。外面篦削り。	13	酸化焔
3a—28	H－8	須恵器 椀	①12.2　②3.7 ③—	①粗粒　②良好 ③　　④4/5	轆轤整形。口縁・体部：外傾下体部から外反した口縁部に至る。底部：回転糸切り。	46、覆土	
3a—29	H－8	土師器 甕	①24.0　②24.5 ③—	①粗粒　②良好 ③5YR7/4にぶい橙 ④1/2	口縁部：外反、内外面撫で。外面篦削り。胴部：上位に膨らみ、器最大径、内・外面撫で。底部欠損。	34	
3a—30	H－8	須恵器 甕	①(14.0)　②23.4 ③—	①粗粒　②良好 ③7.5YR6/1褐灰 ④1/3	口縁部：外反。内・外面撫で。外面篦削り。砂粒含む。胴部：内・外面撫で。外面篦削り。砂粒含む。胴部中位以下欠損。	35、42、 49、61	
3a—31	H－9	須恵器 坏	①11.8　②3.8 ③—	①中粒　②良好 ③　　④3/4	轆轤整形。底部～体部扁球形。口縁部短く外折。内外面轆轤撫で。手持ち篦削り。	8 、12	酸化焔
3a—32	H－9 竈	須恵器 高台椀	①14.0　②5.6 ③7.1	①中粒　②良好 ③2.5YR5/6明赤褐 ④7/8	轆轤整形。口縁・体部：外傾。内外面轆轤撫で。底部：内面轆轤撫で、外面回転糸切り調整後、断面四角形の高台を取り付け。	竈 7	酸化焔
3a—33	H－9	高台椀	①13.2　②5.1 ③—	①中粒　②良好 ③　④2/3	轆轤整形。口縁・体部：外傾。内外面轆轤撫で。底部：内面轆轤撫で、外面回転糸切り調整後、断面四角形の高台を取り付け。	3	
3a—34	H－9	坏	①12.2　②4.6 ③5.8	①粗粒　②良好 ③10YR7/3にぶい黄橙 ④2/3	轆轤整形。底部～体部扁球形。口縁部短く外折。内外面轆轤撫で。手持ち篦削り。		酸化焔焼成気味
3a—35	H－9 竈	須恵器 高台椀	①14.8　②5.0 ③—	①中粒　②良好 ③　　④3/4	轆轤整形。口縁・体部：外傾。内外面轆轤撫で。底部：内面轆轤撫で、外面回転糸切り後断面四角形の高台を取り付け。	竈 3	
3a—36	H－9 竈	須恵器 高台椀	①[12.4]　②4.6 ③7.3	①粗粒　②良好 ③5YR6/4にぶい橙 ④3/4	轆轤整形。口縁・体部：外傾。内外面轆轤撫で。底部：内面轆轤撫で、外面回転糸切り後断面四角形の高台を取り付け。	竈10	酸化焔焼成気味
3a—37	H－10	土師器 坏	①12.4　②4.7 ③—	①中粒　②良好 ③10YR7/2にぶい橙 ④3/4	口縁と底部の境に稜を有する。口縁部：ほぼ直立、内外面横撫で。外面篦削り。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。	1 、覆土	酸化焔
3a—38	H－10	須恵器 高坏	①13.0　②(6.7) ③—	①中粒　②良好 ③10YR6/1褐灰 ④坏の部分のみ	轆轤整形。坏部：緩やかに外傾、内面轆轤撫で、端部やや外反。外面端部は轆轤撫で。脚部に近い場所は回転篦削り。脚部：欠損。	2	還元焔
3a—39	H－11	土師器 杯	①12.8　②4.4 ③—	①粗粒　②良好 ③7.5YR7/3にぶい橙 ④2/3	口縁・体部：外傾、　内外面横撫で。外面篦削り。底部：丸底。内外面横撫で。外面篦削り。	3	
3a—40	H－11	土師器 杯	①14.4　②4.5 ③—	①粗粒　②良好 ③2.5YR6/6橙 ④1/3	口縁と底部の境に稜を有する。口縁部：ほぼ直立、内外面横撫で。外面篦削り。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。	4、5、6	
3a—41	H－11、 H－17南	土師器 杯	①13.7　②3.9 ③—	①細粒　②良好 ③2.5YR7/1灰白 ④2/3	口縁と底部の境に稜を有する。口縁部：ほぼ直立、内外面横撫で。外面篦削り。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。	南、覆土	
3a—42	H－11	土師器 杯	①(13.2)　②5.3 ③—	①粗粒　②良好 ③2.5YR6/6橙 ④2/3	口縁・体部：外傾、　内外面横撫で。外面篦削り。底部：丸底。内外面横撫で。外面篦削り。	覆土	
3a—43	H－11	土師器 甑	①26.2　②34.6 ③11.0	①粗粒　②良好 ③10YR7/3橙 ④9/10	轆轤整形。口縁部：ほぼ直立、内外面轆轤撫で。鍔部：断面三角形状でほぼ水平に付く。胴部：内外面轆轤撫で。胴部内面下位に 4 箇所、段状となる窪み有り。脚部：水平方向に大きく外反。	24、34、 覆土	酸化焔
3a—44	H－12	土師器 杯	①10.8　②3.9 ③—	①細粒　②良好 ③2.5YR6/4にぶい橙 ④2/3	口縁・体部：外傾、　内外面横撫で。外面篦削り。底部：丸底。内外面横撫で。外面篦削り。	9	
3a—45	H－12	土師器 杯	①10.3　②3.2 ③—	①細粒　②良好 ③2.5YR6/6橙 ④1/2	口縁と底部の境に稜を有する。口縁部：ほぼ直立、内外面横撫で。外面篦削り。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。	12	
3a—46	H－12、 14	土師器 坏	①20.0　②3.5 ③—	①中粒　②良好 ③2.5YR6/8橙 ④3/4	口縁・体部：外傾、　内外面横撫で。外面篦削り。底部：丸底。内外面横撫で。外面篦削り。	17	
3a—48	H－14	土師器 小型壺	①12.4　②11.8 ③4.4	①粗粒　②良好 ③7.5YR7/4にぶい橙 ④完形	轆轤整形。口縁部：短く外傾、内・外面撫で。体部：内面撫で、外面上位撫で、下位回転篦削り。底部：平底気味、内面撫で、外面回転篦削り。	1	
3a—49	H－15 竈	須恵器 椀	①12.0　②3.8 ③—	①中粒　②良好 ③　　④3/4	轆轤整形。口縁・胴部：外傾した胴部から口縁部内に至る。底部：回転糸切り。	覆土	酸化焔
3a—50	H－15	須恵器 高台椀	①10.6　②3.5 ③5.4	①細粒　②中粒 ③7.5YR6/3にぶい褐 ④7/8	轆轤整形。口縁部：欠損。体部：内・外面轆轤撫で。底部：内面撫で、回転糸切り後、高台を取り付け。	1	酸化焔
3a—51	H－16 竈	須恵器 皿	①9.6　②2.5 ③—	①中粒　②良好 ③　　④3/4	轆轤整形。口縁部：外反。底部：回転糸切。	覆土	酸化焔
3a—52	H－16	土師器 坏	①9.6　②2.9 ③5.8	①中粒②良好(不均一) ③10YR6/2灰黄褐 ④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部：底部から丸みを帯びて立ち上がり、やや外反、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り。	10	酸化焔
3a—53	H－16	須恵器 坏	①9.9　②2.6 ③5.0	①中粒　②良好 ③10YR8/2灰白 ④完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内外面轆轤撫で。底部：内面撫で、手持ち篦削り。	9	酸化焔
3a—54	H－16	須恵器 カワラケ	①10.0　②3.0 ③5.6	①粗粒　②良好 ③10YR8/1灰白 ④完形	轆轤整形。口縁・体部：外形からやや外反、外・内面撫で。底部：内外面轆轤撫で。回転糸切りあり。	1	還元焔
3a—55	H－16	須恵器 高台椀	①14.9　②6.3 ③8.4	①中粒　②良好 ③7.5YR8/2灰白 ④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾。内外面轆轤撫で。底部：内面轆轤撫で、外面回転糸切り調整後、断面四角形の高台を取り付け。	2	酸化焔
3a—56	H－18	高台椀	①13.0　②4.8 ③6.8	①粗粒　②良好 ③2.5Y6/3にぶい橙 ④5/6	轆轤整形。口縁・体部：外傾。内外面轆轤撫で。底部：内面轆轤撫で、外面回転糸切り調整後、断面四角形の高台を取り付け。	竈 1	酸化焔焼成気味
3a—57	H－18	坏	①13.3　②4.6 ③5.8	①細粒　②良好 ③7.5YR8/1灰白 ④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内外面轆轤撫で。底部：内面撫で、手持ち篦削り。	1	酸化焔焼成気味

番号	出土遺構 層　位	器種名	①口径　②器高 ③底径	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備　考
3a―58	H－18	須恵器 高台椀	①[13.7] ②5.3 ③5.8	①粗粒　②良好 ③7.5Y6/4にぶい橙 ④3/4	轆轤整形。口縁部：欠損。体部：内・外面轆轤撫で。底部：内面撫で、回転糸切り後、高台を取り付け。	竈２	酸化焔焼成気味
3a―59	H－18 竈	カワラケ	①9.6　②2.8 ③―	①中粒　②良好 ③10YR7/1灰白 ④ほぼ完形	轆轤整形。口縁部：欠損。体部・底部：内外面轆轤撫で。回転糸切りあり。		
3a―60	H－20	カワラケ	①9.3　②2.5 ③―	①中粒　②良好 ③2.5Y5/1黄灰 ④3/4	轆轤整形。口縁部：欠損。体部・底部：内外面轆轤撫で。回転糸切りあり。	2	
3a―61	H－20	須恵器 カワラケ	①9.9　②1.8 ③―	①中粒　②良好 ③7.5YR7/6橙 ④完形	轆轤整形。口縁部：欠損。体部・底部：内外面轆轤撫で。回転糸切りあり。	3	
3a―62	H－20 竈	須恵器 皿	①11.8　②2.8 ③―	①粗粒　②良好 ③　　④ほぼ完形	轆轤整形。口縁部：外反。底部：回転糸切。	竈９	
3a―63	H－20	土師器 皿	①10.6　②2.3 ③6.5	①粗粒　②良好 ③2.5YR6/4にぶい橙 ④完形	轆轤整形。口縁・体部：大きく外傾した、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り、篦撫で後、付け高台。底部一部鉄付着、文字あり	竈６	
3a―64	H－21 D－１	高台椀	①10.8　②4.4 ③5.6	①中粒　②良好 ③10YR7/2にぶい黄橙 ④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾。内外面轆轤撫で。底部：内面轆轤撫で、外面回転糸切り調整後、断面四角形の高台を取り付け。		酸化焔焼成　気味
3a―65	H－23	須恵器 坏の蓋	①[15.8] ②5.8 ③―	①中粒　②良好 ③10YR6/1褐灰 ④1/5	轆轤整形。天井部：水平から緩やかに傾斜、内面轆轤撫で、外面回転篦削り、轆轤撫で。帰り有。摘み：ボタン状。	2	還元焔
3a―66	X－１	須恵器 カワラケ	①10.2　②2.9 ③5.6	①細粒　②良好 ③8/2灰白　④7/8	轆轤整形。口縁部：欠損。体部・底部：内外面轆轤撫で。回転糸切りあり。	1	
3a―67	X－１	須恵器 坏	①10.2　②2.9 ③5.4	①中粒　②粒好 ③10YR8/1灰白 ④3/4	口縁・体部：外傾、　内外面横撫で。外面篦削り。底部：丸底。内外面横撫で。外面篦削り。	2、4	酸化焔焼成　気味
3a―68	X－１	灰釉 高台皿	①(12.6) ②2.2 ③7.4	①細粒　②良好 ③7.5YR8/1灰白 ④2/3	轆轤整形。口縁・体部：大きく外傾、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り、篦撫で後、付け高台。内面中央に指圧痕有。	2、4	

3ｂ区

番号	出土遺構 層　位	器種名	①口径　②器高 ③底径	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備　考
3b―70	H－１	須恵器 壺	①―　　②(6.0) ③―	①中粒　②良好 ③7.5YR8/4浅黄橙 ④口縁部欠損	轆轤整形。口縁部：欠損、内・外面撫で。体部：内面撫で、外面上位撫で、下位回転篦削り。底部：平底気味、内面撫で、外面回転篦削り。	3、4	
3b―71	H－１	土師器 高坏	①―　　②(9.0) ③16.1	①中粒　②良好 ③5YR6/6橙 ④脚部分	脚部のみ残存。脚部は下外方に開いて下る。	6	酸化焔
3b―72	H－１	須恵器 高坏	①(11.0) ②11.7 ③	①粗粒　②良好 ③ N6/0灰　④1/3	轆轤整形。坏部：緩やかに外傾、内面轆轤撫で、端部やや外反。外面端部は轆轤撫で。脚部に近い場所は回転篦削り。脚部：欠損。	覆土	
3b―74	H－２	須恵器 高台皿	①13.2　②7.0 ③3.1	①中粒　②良好 ③10YR7/3にぶい黄橙 ④完形	轆轤整形。口縁・体部：大きく外傾、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り、篦撫で後、付け高台。底部一部鉄付着、文字あり	1	酸化焔焼成気味
3b―75	H－２	須恵器 高台椀	①13.8　②7.1 ③5.5	①粗粒　②不均一 ③5YR2/1黒 ④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内外面撫で。底部：回転糸切り後、２㎝弱の高さの外反する高台を付ける。	2	酸化焔
3b―76	H－２	灰釉 高台椀	①14.6　②4.3 ③6.6	①粗粒　②良好 ③10YR7/1灰白 ④ほぼ完形	轆轤整形。口縁部：やや外反、内外面撫で。体部：丸みを帯びて外傾、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転篦削り後、付け高台。	3	
3b―77	H－３	土師器 坏	①11.3　②4.0 ③―	①中粒　②良好 ③5YR6/6橙　④1/2	口縁・体部：外傾、　内外面横撫で。外面篦削り。底部：丸底。内外面横撫で。外面篦削り。	覆土	酸化焔
3b―78	H－３	土師器 坏	①11.6　②3.5 ③―	①細粒　②良好 ③2.5YR6/6橙 ④2/3	轆轤整形。口縁部：短く直立、内外面轆轤撫で。胴部：大きく膨らみ中位やや上で器最大径、内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り後、断面四角形の高台を付ける。	覆土	
3b―79	H－３	土師器 坏	①13.0　②4.0 ③―	①　　②良好 ③2.5YR5/8明赤褐 ④完形	口縁・体部：外傾、　内外面横撫で。外面篦削り。底部：丸底。内外面横撫で。外面篦削り。	4	
3b―	H－１	土師器 甕	①20.4　②8.3 ③―	①粗粒　②良好 ③5YR7/2明褐灰 ④口縁部破片	口縁部：一部破損、外反、内外面撫で。外面篦削り。胴部：上位に膨らみ、器最大径、内・外面撫で。	5	
3b―	H－２	須恵器 高台椀	①13.8　②7.1 ③5.5	①粗粒　②不均一 ③5YR2/1黒 ④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内外面撫で。底部：回転糸切り後、２㎝弱の高さの外反する高台を付ける。	2	酸化焔
3b―	H－３	土師器 皿	①10.0　②2.9 ③―	①中粒　②良好 ③　　④完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。底部：回転糸切り。	3	
3b―79	H－３	土師器 坏	①13.0　②4.0 ③―	①　　②良好 ③2.5YR5/8明赤褐 ④完形	口縁・体部：外傾、　内外面横撫で。外面篦削り。底部：丸底。内外面横撫で。外面篦削り。	4	
3b―80	H－３ 竈	須恵器 短頸壺	①10.2　②8.9 ③―	①細粒　②良好 ③10YR6/1褐灰 ④7/8	轆轤整形。口縁部：短く直立、内外面轆轤撫で。胴部：大きく膨らみ中位やや上で器最大径、内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り後、断面四角形の高台を付ける。	竈３	還元焔
3b―81	H－３ 竈	須恵器 甕	①(17.8) ②26.0 ③―	①粗粒　②良好 ③7.55YR6/1灰 ④2/3	轆轤整形。口縁部：欠損。体部：内外面轆轤撫で。外面に櫛目上工具を用いて模様をつけている。底部：欠損。	竈５	
3b―82	H－３ 覆土	土師器 甑	①9.8　②9.3 ③―	①中粒　②良好 ③7.5YR8/4浅黄橙 ④1/2	轆轤整形。口縁部：ほぼ直立、内外面轆轤撫で。鍔部：断面三角形状でほぼ水平に付く。胴部：内外面轆轤撫で。胴部内面下位に４箇所、段状となる窪み有り。脚部：水平方向に大きく外反。	覆土	
3b―83	H－３ 竈	土師器 甑	①11.4　②6.8 ③―	①粗粒　②良好 ③2.5Y5/1黄灰 ④1/2	轆轤整形。口縁部：ほぼ直立、内外面轆轤撫で。鍔部：断面三角形状でほぼ水平に付く。胴部：内外面轆轤撫で。胴部内面下位に４箇所、段状となる窪み有り。脚部：水平方向に大きく外反。	竈１	
3b―84	H－３ 竈	土師器 甕	①17.2　②(16.0) ③―	①粗粒　②良好 ③5YR6/3にぶい橙 ④2/3	轆轤整形。口縁部：欠損。胴部：内外面轆轤撫で。外面に櫛目上工具を用いて模様をつけている。底部：欠損。	竈２	

番号	出土遺構 層　位	器種名	①口径　②器高 ③底径	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備　考
3b—85	H－5	須恵器 高台椀	①[13.0] ②5.0 ③8.4	①粗粒　②良好 ③　　④1/4	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内外面撫で。底部：回転糸切り後、2㎝弱の高さの外反する高台を付ける。	1、2	還元焔
3b—86	H－6	須恵器 高台椀	①14.3　②6.5 ③—	①中粒　②良好 ③10YR6/4にぶい黄橙 ④3/4	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内外面撫で。底部：回転糸切り後、2㎝弱の高さの外反する高台を付ける。	34	
3b—87	H－6	須恵器 坏	①10.9　②3.0 ③—	①中粒　②良好 ③7.5YR6/6橙 ④ほぼ完形	口縁部：短く直立、内外面横撫で。底部：丸底、内面撫で、外面撫で、篦削り。	28	酸化焔焼成気味
3b—88	H－6 竈	須恵器 椀	①10.8　②3.3 ③—	①中粒　②良好 ③2.5YR8/3淡黄 ④1/2	轆轤整形。口縁・胴部：外傾した胴部から口縁部内に至る。底部：回転糸切り。	竈6	
3b—89	H－6	須恵器 カワラケ	①9.6　②2.5 ③—	①中粒　②良好 ③10YR7/3にぶい黄橙 ④ほぼ完形	轆轤整形。口縁部：欠損。体部・底部：内外面轆轤撫で。回転糸切りあり。	38	酸化焔
3b—90	H－6	須恵器 高台椀	①(12.0) ②4.9 ③7.6	①粗粒　②良好 ③5YR7/4にぶい橙 ④1/2	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内外面撫で。底部：回転糸切り後、2㎝弱の高さの外反する高台を付ける。	30	
3b—91	H－6 竈	須恵器 カワラケ	①10.3　②2.8 ③—	①中粒　②良好 ③　④ほぼ完形	轆轤整形。口縁部：欠損。体部・底部：内外面轆轤撫で。回転糸切りあり。	竈39	酸化焔
3b—92	H－6	須恵器 カワラケ	①9.0　②2.8 ③4.8	①中粒　②良好 ③2.5YR6/6橙 ④完形	轆轤整形。口縁部：欠損。体部・底部：内外面轆轤撫で。回転糸切りあり。	37	酸化焔
3b—94	H－6 竈	須恵器 羽釜	①[23.0] ②(25.6) ③—	①中粒　②良好 ③5YR7/6橙　④2/5	口縁部：長くほぼ直立、内外面撫で、外面は内面に比べて凸凹しており、粘土の輪積み痕が残る。胴部：やや膨らみを帯びて直立、調整は口縁部とほぼ同じ。やや斜め上に短く伸びる鍔を貼付。底部欠損。	竈2、36、覆土 X215 Y106	酸化焔
3b—95	H－6 竈	須恵器 羽釜	①21.4　②(24.5) ③—	①中粒　②良好 ③7.5YR6/4にぶい橙 ④1/2	口縁部：長くほぼ直立、内外面撫で、外面は内面に比べて凸凹しており、粘土の輪積み痕が残る。胴部：やや膨らみを帯びて直立、調整は口縁部とほぼ同じ。やや斜め上に短く伸びる鍔を貼付。底部欠損。	竈18、20、33、35、42、47、覆土	酸化焔
3b—96	H－6 竈	土師器 甕	①[26.2] ②(25.4) ③—	①粗粒　②良好 ③7.5YR8/3浅黄橙 ④—	口縁部：一部破損、外反、内外面撫で。外面篦削り。胴部：上位に膨らみ、器最大径、内・外面撫で。	竈2、20、23、29、30、43、覆土	酸化焔
3b—97	H－6 竈	須恵器 羽釜	①21.2　②(23.5) ③—	①中粒　②良好 ③7.5YR8/6浅黄橙 ④3/4	口縁部：長くほぼ直立、内外面撫で、外面は内面に比べて凸凹しており、粘土の輪積み痕が残る。胴部：やや膨らみを帯びて直立、調整は口縁部とほぼ同じ。やや斜め上に短く伸びる鍔を貼付。底部欠損。	竈4、5、9、10、11、14、21、27、31、45、覆土	酸化焔
3b—98	H－6 X214Y 106西	灰釉　高 台椀	①[17.3] ②7.0 ③—	①中粒　②良好 ③　　④1/4	轆轤整形。口縁部：やや外反、内外面撫で。体部：丸みを帯びて外傾、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転篦削り後、付け高台。	X214 Y106 西38	
3b—99	H－7 貯蔵穴	須恵器 椀	①11.8　②4.1 ③—	①粗粒　②良好 ③2.5YR8/2灰白 ④3/4	轆轤整形。口縁・胴部：外傾した胴部から口縁部内に至る。底部：回転糸切り。	貯2	
3b—100	H－7 貯蔵穴	須恵器 高台椀	①13.2　②4.6 ③—	①中粒　②良好 ③　　④1/2	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内外面撫で。底部：回転糸切り後、2㎝弱の高さの外反する高台を付ける。	貯6	
3b—102	H－8	土師器 坏	①12.4　②4.1 ③—	①中粒　②良好 ③2.5YR7/6橙 ④ほぼ完形	轆轤整形。口縁部：短く直立、内外面轆轤撫で。胴部：大きく膨らみ中位やや上で器最大径、内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り後、断面四角形の高台を付ける。	1	
3b—104	H－12	土師器 坏	①12.0　②4.5 ③—	①中粒　②良好 ③2.5YR6/6橙 ④ほぼ完形	口縁部：外傾、内面横撫で後暗文を施す、外面横撫で。底部：平底、内面撫で、線刻らしき線有り、外面篦削り。	1	
3b—105	H－12	土師器 小型壺	①—　②11.4 ③	①粗粒　②良好 ③10YR5/6赤 ④ほぼ完形	轆轤整形。口縁部：短く外傾、内•外面撫で。体部：内面撫で、外面上位撫で、下位回転篦削り。底部：平底気味、内面撫で、外面回転篦削り。	2	

Tab.15　3区　石器・石製品観察表

番号	出土遺構／層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重さ	石材	遺存度	備　考
3 a —69	X211Y99 覆土	臼玉	1.0	1.1	0.6	0.9	滑石	完形	
3 b —73	H— 1 覆土	不明石	2.4	2.8	0.9	9.5	滑石		
3 b —93	H— 6 覆土	臼玉		1.5	0.8	2.3	滑石	ほぼ完形	
3 b —103	H— 9	丸鞆		4.4	2.9	19.4	蛇紋岩	完形	

Tab.16　3区　土製品観察表

番号	出土遺構／層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	遺存度	備　　考
3 a —47	H—14 竈	土錘	4.2	1.4	1.1	ほぼ完形	
3 b —107	H— 7	土錘	4.2	2.6	2.1	完形	

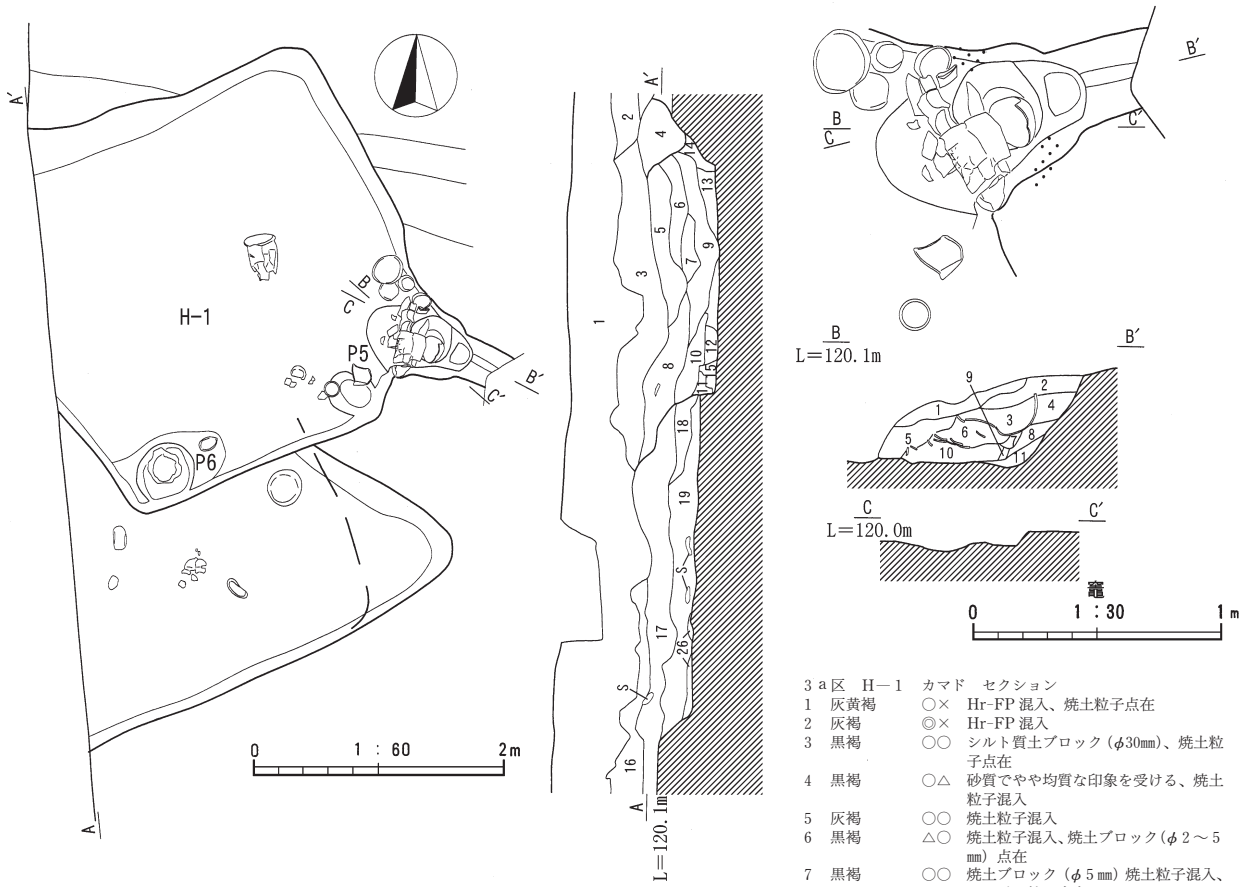
Tab.17　3区　鉄器・鉄製品観察表

番号	出土遺構/層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重さ	遺存度	備　　考
3 b —鉄 1	H— 7	刀子	(24.7)	(24.1)	(7.5)	83.0	ほぼ完形	
3 b —鉄 2	H— 9	鉄鏃	(4.2)	(1.8)	(0.3)	36.0	基部欠損	
3 b —鉄 3	H— 8	鉄鏃	(5.1)	(2.1)	(5.4)	79.0	先端・基部欠損	
3 b —鉄 4	H— 9	鉄斧	6.9	4.2	1.2	143.0	ほぼ完形	
3 b —鉄 5	H— 2	折頭釘	(3.8)	1.5	0.4	3.3	先端欠損	
3 b —鉄 6	H— 9	刀子	(19.5)	1.7	0.6	56.0	先端・基部欠損	
3 b —鉄 7	H— 9	刀子	(17.4)	2.7	0.4	48.2	基部欠損	
3 b —鉄 8	H— 1	折頭釘	(3.3)	1.8	0.4	5.1	先端欠損	
3 b —鉄 9	H— 9	刀子	(3.3)	0.9	0.4	2.8	基部のみ	

番号	出土遺構/層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重さ	遺存度	備　考
3 b ―鉄10	H ― 1	刀子	(5.4)	(1.8)	0.6	7.4	基部欠損	

Tab.18　3 区　瓦観察表

番号	出土遺構 層位	器種名	①長さ ②厚さ	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	備　考
3 b ―瓦 1	H ― 6	平瓦	① ②	①　②良好 ③　④	一枚作り。凹面：布目有り。「宮麿」の刻書有り側面：面取り 1 回。	
3 b ―瓦 2	H ― 6	平瓦	① ②	①　②良好 ③　④	一枚作り。凹面：布目有り。凸面：縄目有り。側面：面取り 1 回。	
3 b ―瓦 3	H ― 6	平瓦	① ②	①　②良好 ③7.5YR1/4褐灰 ④	一枚作り。凸面：縄叩き。凸面：叩き。側面：面取り 1 回。	
3 b ―瓦 4	H ― 6	平瓦	① ②	①　②良好 ③　④	一枚作り。凹面：布目有り。凸面：ナデ調整。側面：面取り 1 回。	
3 b ―瓦 5	H ― 6	平瓦	① ②	①　②良好 ③　④	一枚作り。凹面：布目有り。凸面：縄目有り。側面：面取り 1 回。	
3 b ―瓦 6	H ― 6	平瓦	① ②	①　②良好 ③　④	一枚作り。凸面：縄叩き。凸面：叩き。側面：面取り 1 回。	
3 b ―瓦 7	H ― 6	平瓦	① ②	①　②良好 ③　④	一枚作り。凹面：布目有り。凸面：縄目有り。側面：面取り 1 回。	
3 b ―瓦 8	H ― 6	平瓦	① ②	①　②良好 ③　④	一枚作り。凹面：布目有り。凸面：縄目有り。側面：面取り 1 回。	
3 b ―瓦 9	H ― 6	平瓦	① ②	①　②良好 ③　④	一枚作り。凹面：布目有り。凸面：縄目有り。側面：面取り 1 回。	
3 b ―瓦10	H ― 6	丸瓦	① ②	①　②良好 ③2.5Y7/2灰黄 ④	一枚作り。凹面：布目有り。凸面：ナデ調整。側面：面取り 1 回。	
3 b ―瓦11	H ― 6	平瓦	① ②	①　②良好 ③　④	一枚作り。凹面：布目有り。凸面：ナデ調整。側面：面取り 1 回。	



3 a区　H－1　セクション

1	黒褐	○×	砂質土混入
	暗褐	○△	Hr-FP 混入、砂質
2	黒褐	○×	Hr-FP（粒度小）混入、砂質
3	暗褐	○×	Hr-FP 混入
4	黒褐	○×	砂質で均質な層、Hr-FP 混入（W-１覆土）
5	黒褐	○×	Hr-FP 混入、砂層ブロック（φ２～20㎜）混入
6	黒褐	○×	Hr-FP 混入
7	極暗褐	○×	Hr-FP 混入、砂層ブロック（φ５～20㎜）点在
8	黒褐	◎×	Hr-FP 混入
9	黒褐	○×	Hr-FP 混入、砂層ブロック（φ５～10㎜）、焼土粒子点在
10	黒褐	○△	As-C（粒度小さい）混入、砂層ブロック（φ５～20㎜）点在
11	黒褐	○△	27層に酷似、27層より不均質
12	黒褐	○△	As-C 混入、砂層ブロック（φ10㎜）点在
13	極暗褐	◎×	As-C 点在
14	暗褐	◎△	砂層ブロック（φ５～20㎜）混入
15	暗褐	◎×	砂層ブロック（φ２～10㎜）砂層起因の砂質土
16	黒褐	◎×	Hr-FP、As-C、砂層ブロック（φ２～10㎜）混入
17	黒褐	◎×	As-C 混入、砂層ブロック（φ５～10㎜）点在
18	黒褐	◎×	As-C 混入
19	黒褐	◎×	As-C 混入、砂層ブロック（φ２～５㎜）点在
20	黒褐	◎×	砂層ブロック（φ５～10㎜）点在

3 a区　H－1　カマド　セクション

1	灰黄褐	○×	Hr-FP 混入、焼土粒子点在
2	灰褐	◎×	Hr-FP 混入
3	黒褐	○○	シルト質土ブロック（φ30㎜）、焼土粒子点在
4	黒褐	○△	砂質でやや均質な印象を受ける、焼土粒子混入
5	灰褐	○○	焼土粒子混入
6	黒褐	△○	焼土粒子混入、焼土ブロック（φ２～５㎜）点在
7	黒褐	○○	焼土ブロック（φ５㎜）焼土粒子混入、カーボン粒子点在
8	黒褐	△△	焼土粒子に混入
9	にぶい黄橙	△△	焼成灰層、焼土粒子点在
10	暗褐	△×	焼成灰、焼土粒子に混入
11	黒褐	△×	シルト質

3 a区　H－3　セクション

1	にぶい黄褐	◎◎	粘土ブロック（φ５～20㎜）、粘土粒子混入
2	黒褐	○◎	粘土ブロック（φ２～５㎜）、混入
3～7			W-２覆土
8	暗褐	×◎	As-C 混入
9	黒褐	×◎	As-C 混入
10	黒褐	×◎	As-C 混入
11	黒褐	○◎	As-C 混入
12	黒褐	○◎	As-C（粒度小）混入
13	黒褐	○◎	砂層ブロック（φ２～10㎜）混入、焼土粒子点在

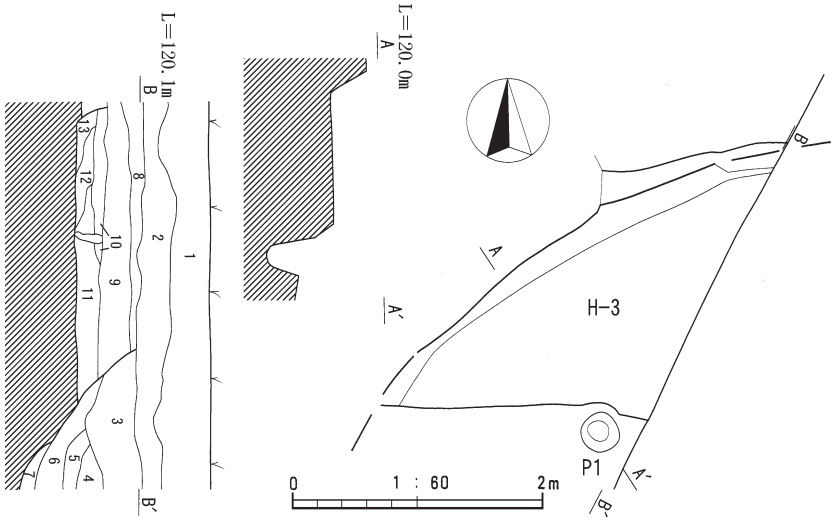
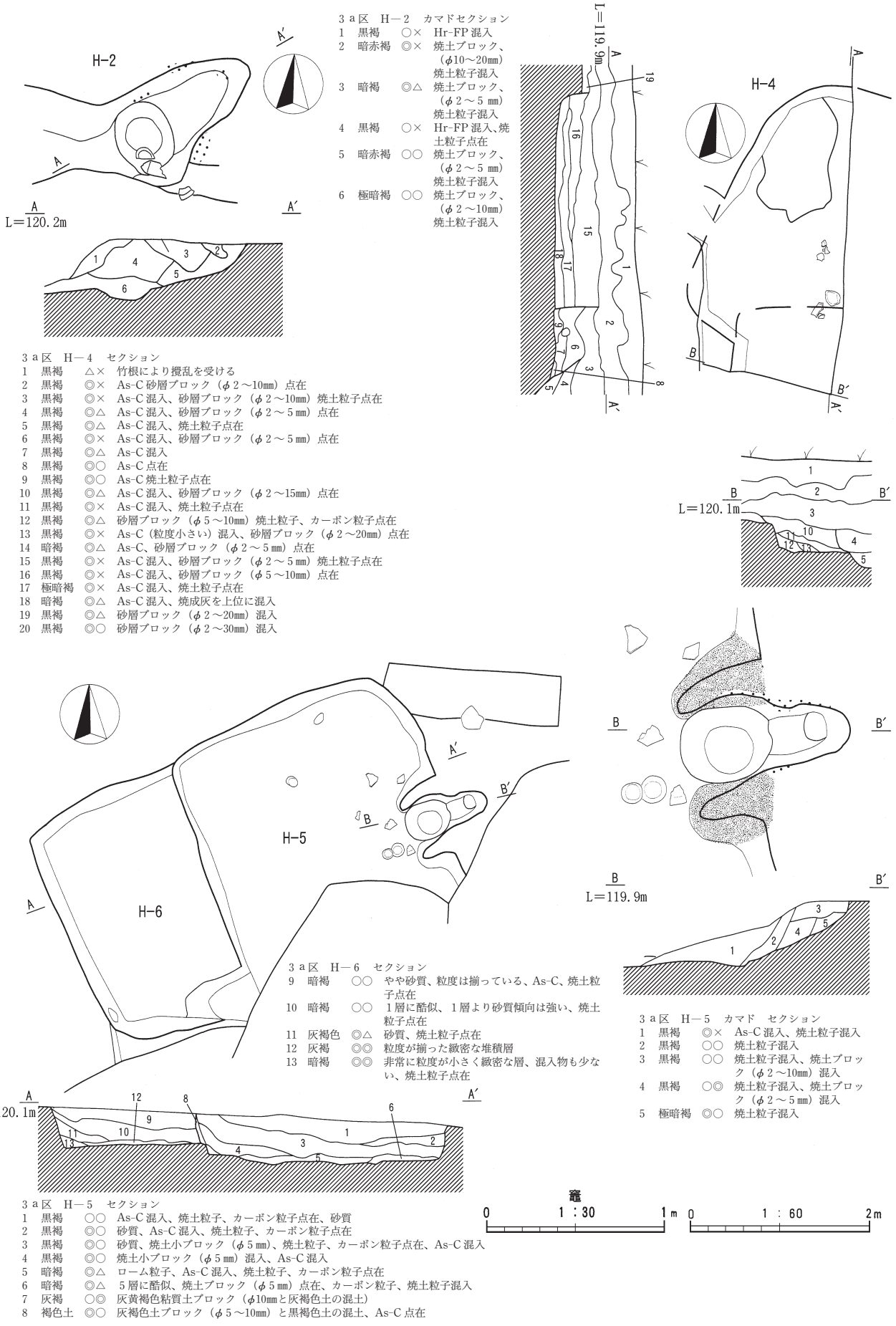


Fig.20　３ａ区Ｈ－１・３号住居跡



3 a区　H－2　カマドセクション

1	黒褐	○×	Hr-FP 混入
2	暗赤褐	◎×	焼土ブロック、（φ10～20㎜）焼土粒子混入
3	暗褐	◎△	焼土ブロック、（φ２～５㎜）焼土粒子混入
4	黒褐	○×	Hr-FP 混入、焼土粒子点在
5	暗赤褐	○○	焼土ブロック、（φ２～５㎜）焼土粒子混入
6	極暗褐	○○	焼土ブロック、（φ２～10㎜）焼土粒子混入

3 a区　H－4　セクション

1	黒褐	△×	竹根により攪乱を受ける
2	黒褐	◎×	As-C 砂層ブロック（φ２～10㎜）点在
3	黒褐	◎×	As-C 混入、砂層ブロック（φ２～10㎜）焼土粒子点在
4	黒褐	◎△	As-C 混入、砂層ブロック（φ２～５㎜）点在
5	黒褐	◎△	As-C 混入、焼土粒子点在
6	黒褐	◎×	As-C 混入、砂層ブロック（φ２～５㎜）点在
7	黒褐	◎△	As-C 混入
8	黒褐	◎○	As-C 点在
9	黒褐	◎○	As-C 焼土粒子点在
10	黒褐	◎△	As-C 混入、砂層ブロック（φ２～15㎜）点在
11	黒褐	◎×	As-C 混入、焼土粒子点在
12	黒褐	◎△	砂層ブロック（φ５～10㎜）焼土粒子、カーボン粒子点在
13	黒褐	◎×	As-C（粒度小さい）混入、砂層ブロック（φ２～20㎜）点在
14	暗褐	◎△	As-C、砂層ブロック（φ２～５㎜）点在
15	黒褐	◎×	As-C 混入、砂層ブロック（φ２～５㎜）焼土粒子点在
16	黒褐	◎×	As-C 混入、砂層ブロック（φ５～10㎜）点在
17	極暗褐	◎×	As-C 混入、焼土粒子点在
18	暗褐	◎△	As-C 混入、焼成灰を上位に混入
19	黒褐	◎△	砂層ブロック（φ２～20㎜）混入
20	黒褐	◎○	砂層ブロック（φ２～30㎜）混入

3 a区　H－6　セクション

9	暗褐	○○	やや砂質、粒度は揃っている、As-C、焼土粒子点在
10	暗褐	○○	１層に酷似、１層より砂質傾向は強い、焼土粒子点在
11	灰褐色	◎△	砂質、焼土粒子点在
12	灰褐	◎◎	粒度が揃った緻密な堆積層
13	暗褐	◎◎	非常に粒度が小さく緻密な層、混入物も少ない、焼土粒子点在

3 a区　H－5　カマド　セクション

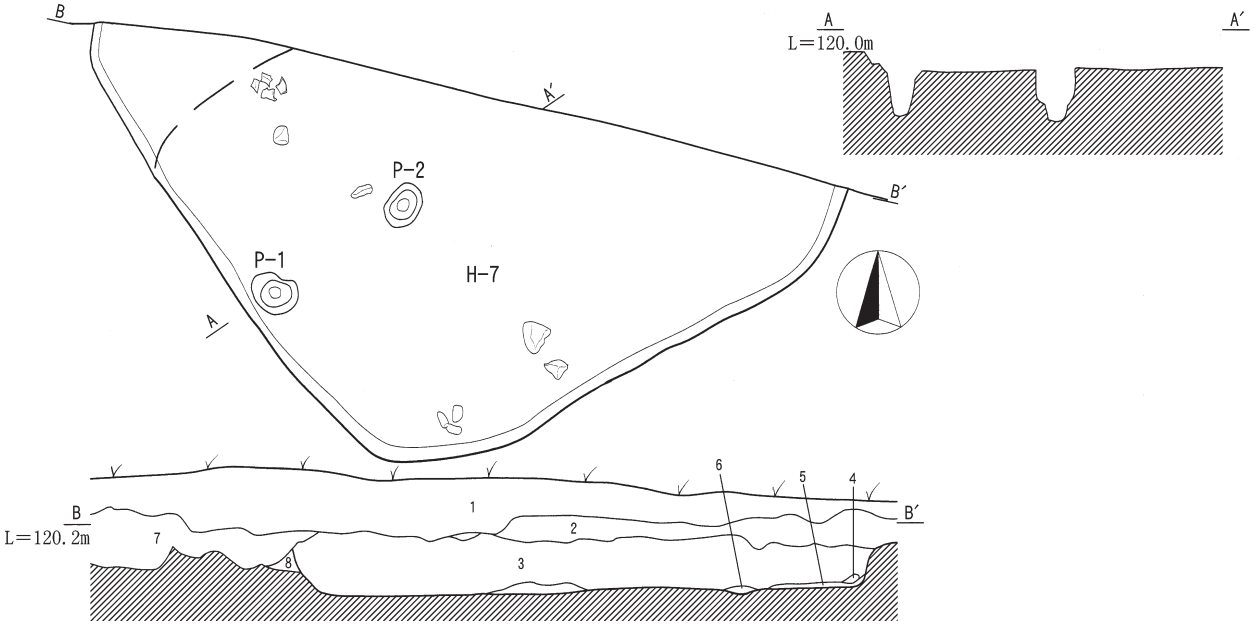
1	黒褐	◎×	As-C 混入、焼土粒子混入
2	黒褐	○○	焼土粒子混入
3	黒褐	○○	焼土粒子混入、焼土ブロック（φ２～10㎜）混入
4	黒褐	○◎	焼土粒子混入、焼土ブロック（φ２～５㎜）混入
5	極暗褐	◎○	焼土粒子混入

3 a区　H－5　セクション

1	黒褐	○○	As-C 混入、焼土粒子、カーボン粒子点在、砂質
2	黒褐	◎○	砂質、As-C 混入、焼土粒子、カーボン粒子点在
3	黒褐	◎○	砂質、焼土小ブロック（φ５㎜）、焼土粒子、カーボン粒子点在、As-C 混入
4	黒褐	◎○	焼土小ブロック（φ５㎜）混入、As-C 混入
5	暗褐	◎△	ローム粒子、As-C 混入、焼土粒子、カーボン粒子点在
6	暗褐	◎△	５層に酷似、焼土ブロック（φ５㎜）点在、カーボン粒子、焼土粒子混入
7	灰褐	○◎	灰黄褐色粘質土ブロック（φ10㎜と灰褐色土の混土）
8	褐色土	◎○	灰褐色土ブロック（φ５～10㎜）と黒褐色土の混土、As-C 点在

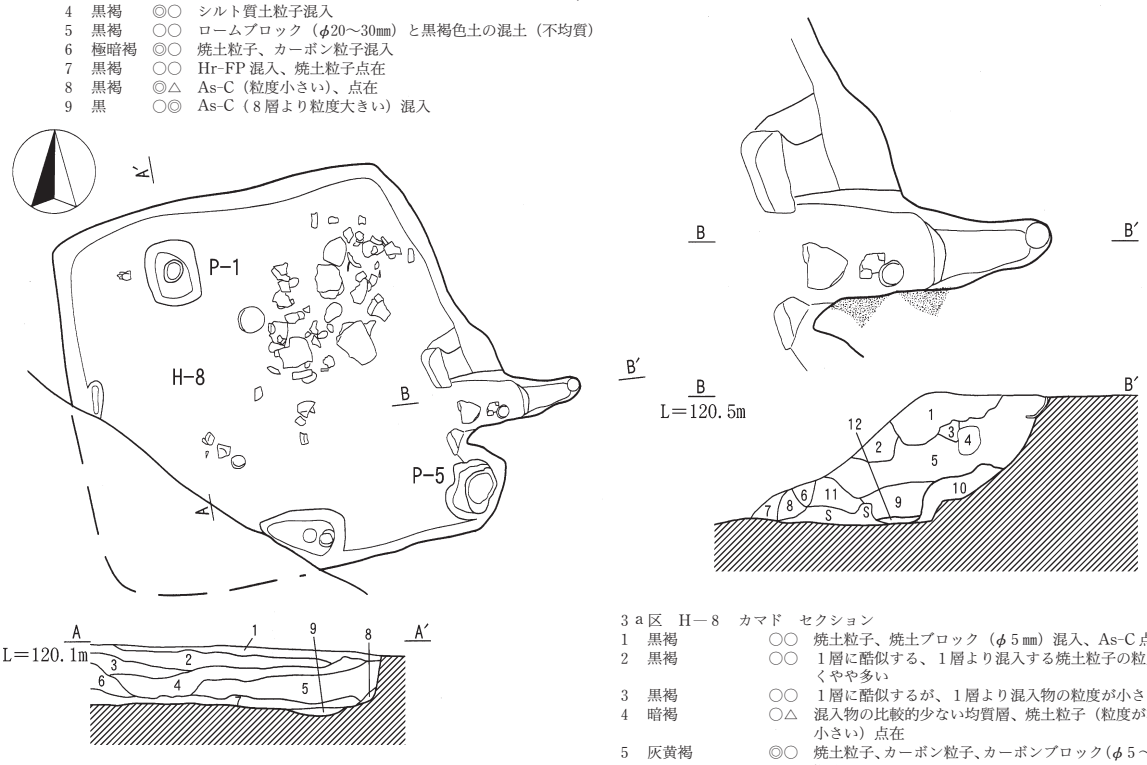
縮 0　1：30　1m　0　1：60　2m

Fig.21　３ａ区Ｈ－２・４～６号住居跡



3 a区　H－7　セクション

1	黒褐	△△	竹根、木根が著しい層、抜根により崩れやすい
2	黒褐	◎△	Hr-FP（粒度は非常に小さい）、As-C（ϕ 2㎜程度）混入、砂質でざらつく
3	極暗褐	◎×	Hr-FP、As-C 混入、焼土粒子、シルト質土ブロック（ϕ 5～10㎜）点在
4	黒褐	◎○	シルト質土粒子混入
5	黒褐	○○	ロームブロック（ϕ20～30㎜）と黒褐色土の混土（不均質）
6	極暗褐	◎○	焼土粒子、カーボン粒子混入
7	黒褐	○○	Hr-FP 混入、焼土粒子点在
8	黒褐	◎△	As-C（粒度小さい）、点在
9	黒	○◎	As-C（８層より粒度大きい）混入



3 a区　H－8　セクション

1	黒褐	◎△	As-C 混入、焼土粒子点在
2	黒褐	○×	As-C 混入
3	黒褐	○○	As-C（２層より少ない）混入
4	黒	○○	As-C、焼土粒子点在
5	黒褐	○○	粒度の小さい As-C 点在
6	黒褐	○○	As-C 混入、焼土粒子点在
7	黒褐	◎○	As-C（粒度小さい）、シルト質土ブロック（ϕ 3～5㎜）混入、焼土粒子、カーボン粒子点在

3 a区　H－8　カマド　セクション

1	黒褐	○○	焼土粒子、焼土ブロック（ϕ 5㎜）混入、As-C 点在
2	黒褐	○○	１層に酷似する、１層より混入する焼土粒子の粒度大きくやや多い
3	黒褐	○○	１層に酷似するが、１層より混入物の粒度が小さく緻密
4	暗褐	○△	混入物の比較的少ない均質層、焼土粒子（粒度が非常に小さい）点在
5	灰黄褐	◎○	焼土粒子、カーボン粒子、カーボンブロック（ϕ 5～10㎜）混入
6	黒褐	◎△	焼土粒子、As-C 混入
7	にぶい黄褐色土	◎△	粒度のやや大きい焼土粒子混入、粒度小さい灰黄褐色のシルト質土との混土（不均質）
8	にぶい黄褐	◎△	７層に酷似するが混入するシルト質土の量が多く、７層より均質に混じる、焼土粒子点在
9	暗褐	◎○	粒度の大きい焼土粒子に混入、焼土ブロック（ϕ 3～10㎜）点在
10	黒褐	○△	混入物の少ない均質層、粒度も非常に小さい
11	暗褐	○△	焼土粒子混入、焼土ブロック（ϕ 3～5㎜）点在
12	暗褐	○△	やや砂質で均質な層

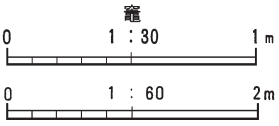


Fig.22　３ａ区Ｈ－７・８号住居跡

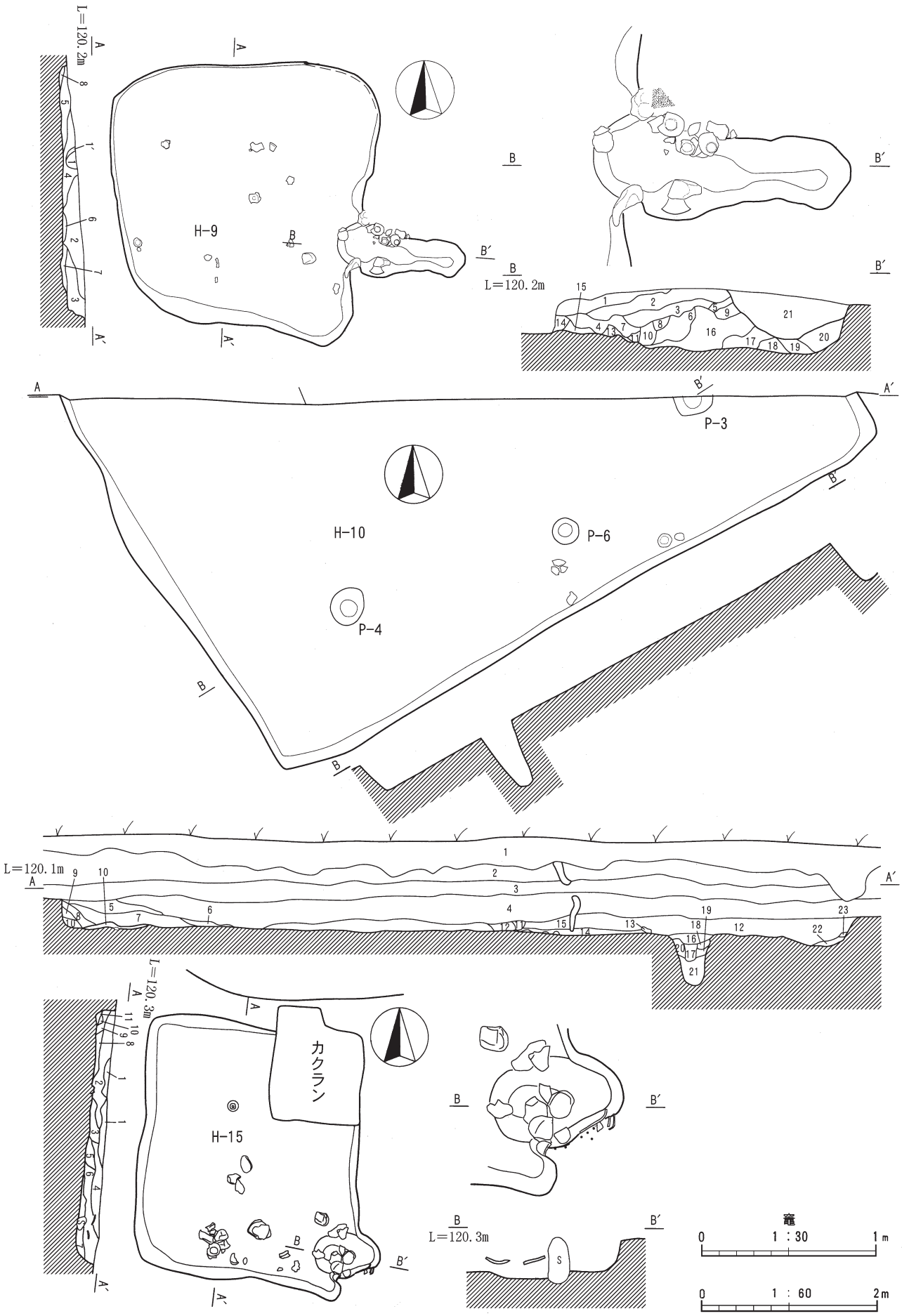


Fig.23　3 a 区H－9 ・10・15号住居跡

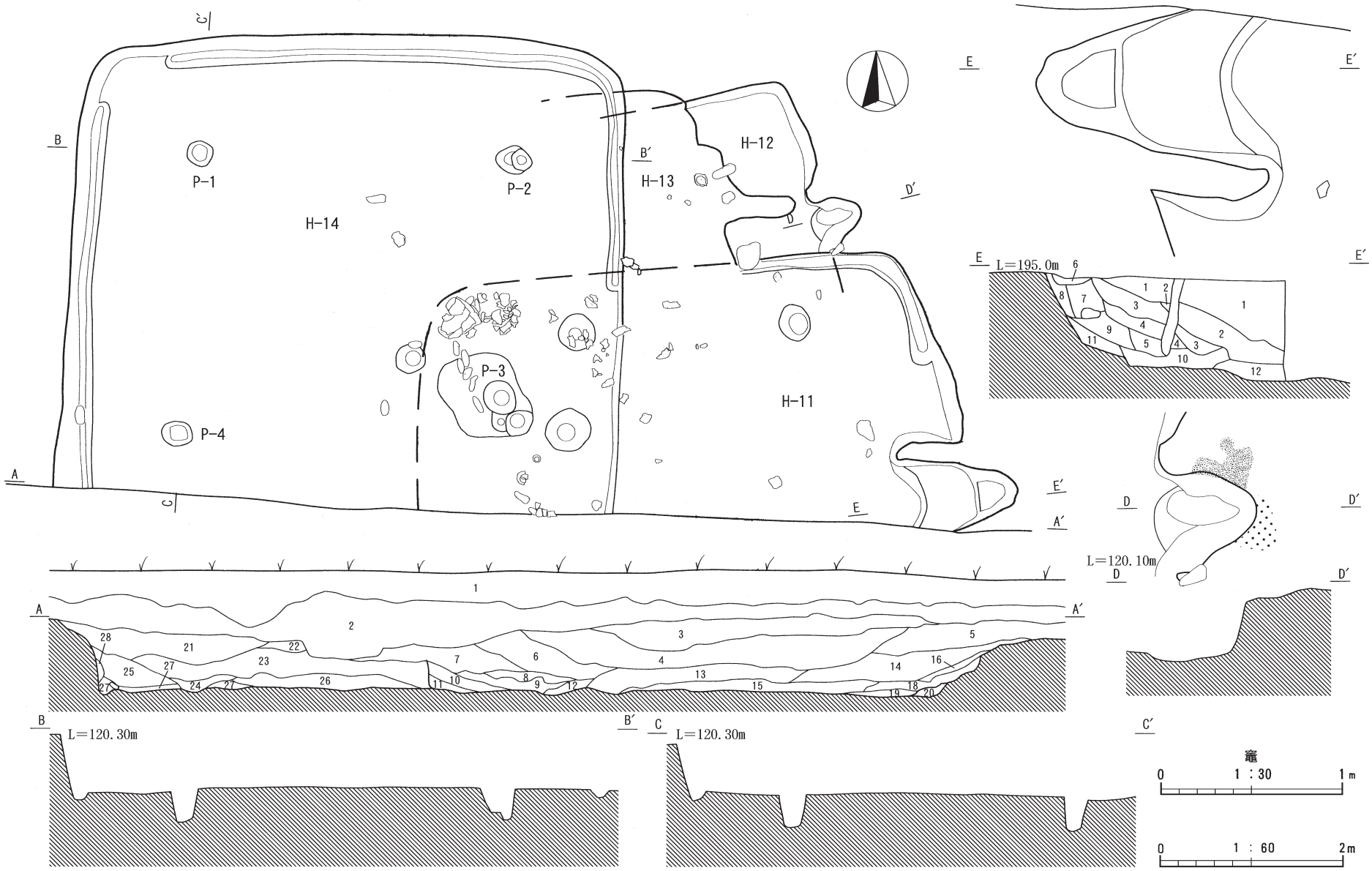


Fig.24　3 a区H—11～14号住居跡

3ａ区　H―9　セクション

1	灰褐	◎×	As-C 混入、明褐色ブロック（φ５～10㎜）混入
1′	暗褐	○△	混入物が比較的少ない
2	暗褐	◎△	As-C 混入、焼土粒子点在
3	暗褐	◎○	As-C（２層よりは少なく粒度は小さい）混入
4	黒褐	◎△	As-C（３層と同程度）混入
5	黒褐	◎△	As-C（粒度は４層より小さい）、カーボン粒子点在
6	黒褐	◎○	As-C（３、４層より少なく粒度も小さい）混入、焼土粒子点在
7	黒褐	◎△	As-C（５層と同程度）混入、焼土粒子点在
8	極黒褐	◎×	As-C（粒度小さい）混入、焼土粒子（粒度小さい）点在

3ａ区　H―9　カマド　セクション

1	黒褐	◎△	灰黄褐色シルト質土ブロック、カーボン粒子混入、やや砂質
2	黒褐	◎○	Hr-FP 混入、焼土ブロック点在
3	黒褐	○○	Hr-FP 混入、焼土粒子点在
4	暗褐	○△	灰黄褐色シルト質土ブロック混入、焼土ブロック点在
5	黒褐	◎△	灰黄褐色シルト質土ブロック混入
6	灰黄褐	◎○	シルト質土の大きなブロック
7	黒褐	◎○	灰黄褐色シルト質土粒子、焼土粒子混入
8	灰黄褐	◎△	灰黄褐色シルト質土粒子、ブロックの混土
9	黒褐	○○	灰黄褐色シルト質粒子混入、焼土粒子点在
10	黒褐	◎○	焼土粒子点在、灰黄褐色シルト質土ブロック点在
11	明赤褐	○○	焼土粒子とシルト質土の混土、焼土ブロック点在
12	黒褐	◎△	灰黄褐色シルト質土粒子混入、焼土粒子点在
13	黒褐	○△	焼土粒子点在
14	明褐	○×	灰黄褐色シルト質土粒子混入
15	黒褐	◎△	灰黄褐色シルト質土粒子混入
16	黒褐	◎△	Hr-FP、焼土粒子混入
17	黒褐	○△	16層に酷似、16層より Hr-FP の混入少ない
18	黒褐	◎△	焼土ブロック点在
19	黒褐	◎△	18層に酷似、18層より混入物少ない
20	黒褐	◎△	As-C 混入
21	黒褐	◎△	Hr-FP、焼土ブロック混入

3ａ区　H―10　セクション

1	黒褐	○×	やや砂質、竹根、木根等により攪乱を受ける
2	黒褐	◎×	砂質土、As-C（粒度小さい）混入
3	黒褐	◎△	As-C 混入、焼土粒子点在
4	黒褐	◎△	３層に酷似、３層より As-C の混入多め、焼土粒子混入
5	黒褐	◎×	As-C（粒度小さい）混入、焼土粒子混入
6	黒褐	○△	As-C 混入、砂層ブロック（φ２～20㎜）混入、焼土粒子点在
7	黒褐	○×	As-C 混入、砂層ブロック（φ２～10㎜）点在
8	黒褐	○×	As-C 混入、砂層ブロック（φ２～５㎜）混入
9	黒褐	○×	As-C 混入、焼土粒子混入
10	黒褐	◎×	As-C 混入、砂層ブロック（φ２～10㎜）混入
11	褐	◎×	砂層ブロック（φ２～10㎜）混入
12	暗褐	××	As-C 混入、砂層ブロック（φ２～５㎜）混入
13	褐	◎×	砂層起因の砂粒層
14	黒褐	◎×	As-C（粒度小さい）混入、砂層ブロック（φ２～３㎜）混入
15	黒褐	◎×	砂質土
16	暗褐	◎△	砂層ブロック（φ２～５㎜）混入、As-C 点在
17	黒褐	○×	砂質土、砂層ブロック（φ２～５㎜）点在
18	極暗褐	○△	砂層ブロック（φ２～５㎜）混入
19	黒褐	○△	砂層ブロック（φ２～10㎜）混入
20	極暗褐	○△	砂層ブロック（φ２～10㎜）混入
21	暗褐	○△	砂層ブロック（φ２～10㎜）混入
22	黒褐	◎×	砂層ブロック（φ２～20㎜）混入
23	黒褐	○×	砂層ブロック（φ２～５㎜）混入

3ａ区　H―11　カマド　セクション

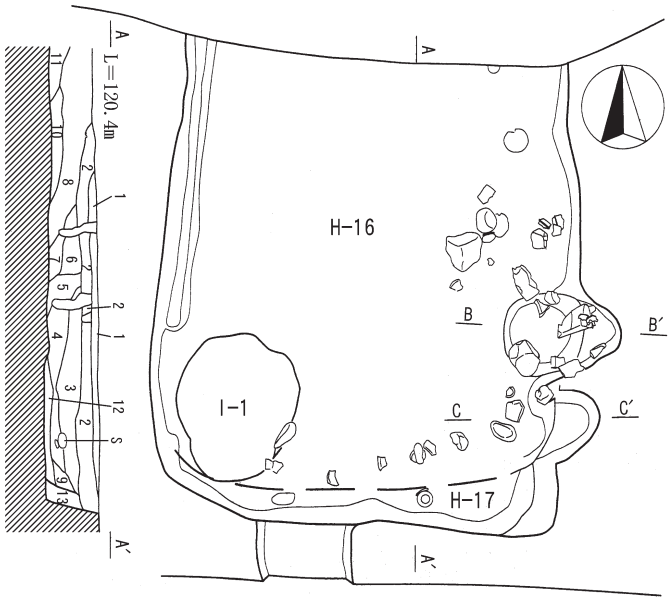
1	黒褐	○○	砂質でざらつく
2	黒褐	○○	１層に酷似、灰褐色粘土ブロック（φ２㎜）混入
3	黒褐	○○	１、２層に酷似、２層よりさらに混入物量多い焼土粒子点在
4	褐	○○	灰褐色粘土ブロック、粒子、焼土粒子混入
5	黒褐	○○	灰褐色粘土粒子、焼土粒子混入
6	黒褐	○×	２層に酷似
7	褐	○○	灰褐色粘土ブロック（φ３～10㎜）、粒子混入
8	黒褐	○○	粒度が小さく均質な層、混入物も少ない、土粒子点在
9	褐	○◎	灰褐色粘土ブロック（φ２～５㎜）粒子ともに混入
10	黒褐	○◎	灰褐色粘土粒子混入、焼土粒子点在
11	黒褐	○◎	灰褐色粘土粒子、焼土粒子混入
12	黒褐	○○	カーボン粒子、焼土粒子混入

3ａ区　H―11、14　セクション

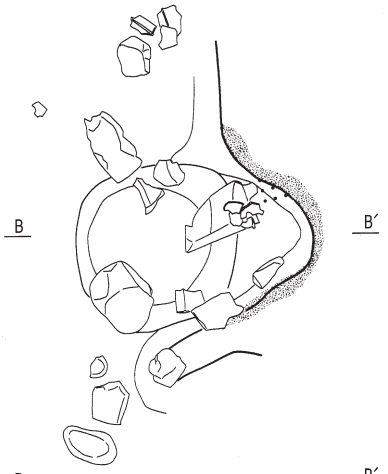
1	明赤褐		砂質土、現耕作土
2	黒褐	◎×	As-C 混入、焼土ブロック（φ２～５㎜）点在
3	極暗褐	◎×	２層に酷似、土師器小片点在
4	黒褐	◎○	As-C 混入
5	極暗褐	◎△	As-C 混入、２層または３層から13層へは漸移的に変化
6	暗褐	◎○	As-C 混入、灰白色粘土ブロック（φ２～５㎜）点在
7	暗褐	◎△	As-C 混入
8	黒褐	○○	灰白色粘土ブロック（φ２～10㎜）点在
9	黒褐	◎○	灰白色粘土ブロック（φ２～60㎜）混入
10	極暗褐	◎△	As-C 混入、砂層ブロック（φ５～10㎜）点在
11	黒褐	◎△	As-C 混入、砂層ブロック（φ２～５㎜）点在
12	極暗褐	○×	As-C 砂層ブロック（φ２～５㎜）点在
13	黒褐	◎○	As-C 混入、砂層ブロック（φ２～10㎜）点在
14	黒褐	◎○	As-C 砂層ブロック（φ２～５㎜）点在
15	黒褐	○△	As-C（粒度小さい）混入、砂層ブロック（φ２～５㎜）カーボン粒子点在
16	黒褐	○○	ローム粒子（粒度小さい）混入、焼土粒子混入
17	黒褐	○○	16層に酷似、16層より混入物の粒度大きい
18	黒褐	○○	砂層ブロック（φ２～３㎜）混入
19	黒褐	◎△	総社砂層起因の砂粒（粒度小さい）混入
20	黒褐	○○	灰白色粘土ブロック（φ２～10㎜）混入
21	黒	◎×	As-C 混入
22	黒褐	○△	As-C 混入
23	黒褐	○○	As-C 混入
24	黒	○△	As-C 混入、砂層ブロック（φ５～10㎜）混入、砂層起因の砂粒（粒度小さい）混入
25	黒褐	○△	As-C 混入
26	黒褐	○△	As-C 混入、カーボン粒子、焼土粒子ともに点在、砂層ブロック（φ２～10㎜）点在
27	黒褐	◎○	As-C 混入、砂層ブロック（φ２～20㎜）混入
28	黒褐	◎×	As-C 砂層ブロック（φ２～10㎜）混入

3ａ区　H―15　セクション

1	黒褐	◎△	As-C 混入
2	黒褐	◎○	As-C 混入、総社砂層起因砂層ブロック（φ５㎜）、焼土粒子点在
3	暗褐	◎○	As-C 混入
4	黒褐	◎△	As-C 混入、焼土粒子点在
5	極暗褐	◎△	As-C 混入
6	暗褐	◎○	As-C 混入
7	黒褐	◎○	６層に酷似、６層粒度小さく均質
8	黒褐	◎○	As-C 混入
9	極暗褐	◎○	As-C 混入
10	黒褐	◎○	As-C 混入、総社砂層起因砂層ブロック（φ45㎜）点在
11	黒褐	◎○	覆土中最も混入物少なく粒度の小さい均質層

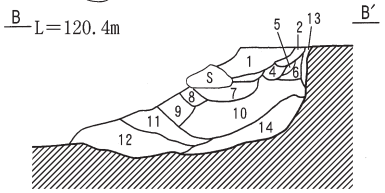


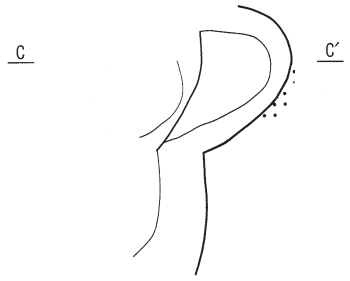
3ａ区　H―16・17　セクション
1　黒褐　◎○　Hr-FP 混入、砂質
2　黒褐　◎×　Hr-FP 混入、1 層に酷似、Hr-FP の粒度は 1 層より大きい、ローム粒子点在
3　黒褐　○○　ローム粒子混入、砂質
4　黒褐　○○　3 層に酷似、3 層より混入物少ない
5　暗褐　◎×　Hr-FP 混入、焼土粒子点在
6　黒褐　◎△　Hr-FP 混入、焼土粒子点在
7　黒褐　◎△　Hr-FP 混入
8　黒褐　◎×　Hr-FP（粒度小さい）混入
9　黒褐　○△　比較的目立った混入物が少ない均質で緻密な層
10　黒褐　◎×　Hr-FP（粒度非常に小さい）混入
11　黒褐　◎△　Hr-FP 混入、焼土粒子点在
12　黒褐　◎○　総社砂層ブロック（φ2㎜）点在
13　黒褐　○×　Hr-FP 点在

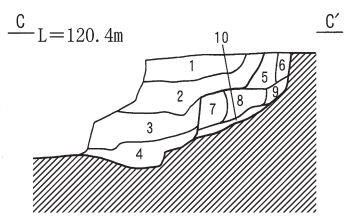


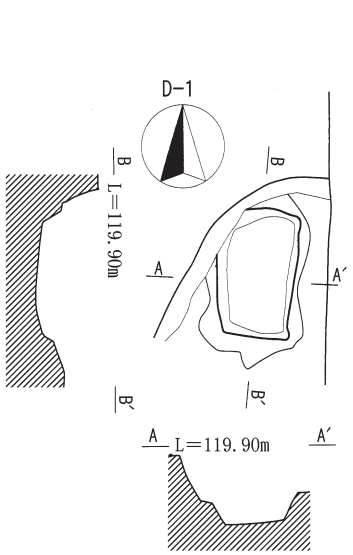
3ａ区　H―16　カマド　セクション
1　黒褐　◎○　Hr-FP（粒度小さい）混入、やや砂質、焼土粒子点在
2　暗褐　◎△　灰褐色粘質土ブロック（φ2～5㎜）、粒子混入
3　黒褐　○△　焼土ブロック（φ5～10㎜）混入
4　黒褐　◎○　灰褐色粘質土ブロック（φ2～3㎜）混入
5　にぶい褐　◎×　総社砂層起因のブロック
6　黒褐　○○　灰褐色粘質土粒子混入
7　暗褐　○○　灰褐色粘質土粒子混入
8　黒褐　◎○　灰褐色粘質土ブロック（φ2～3㎜）混入
9　黒褐　◎○　灰褐色粘質土粒子、Hr-FP（粒度小さい）混入
10　暗褐　○○　灰褐色粘質土粒子混入
11　黒褐　○△　灰褐色粘質土粒子混入
12　黒褐　○△　灰褐色粘質土ブロック（φ5㎜）、焼土粒子混入
13　暗褐　◎○　灰褐色粘質土粒子混入
14　黒褐　○○　焼土粒子混入

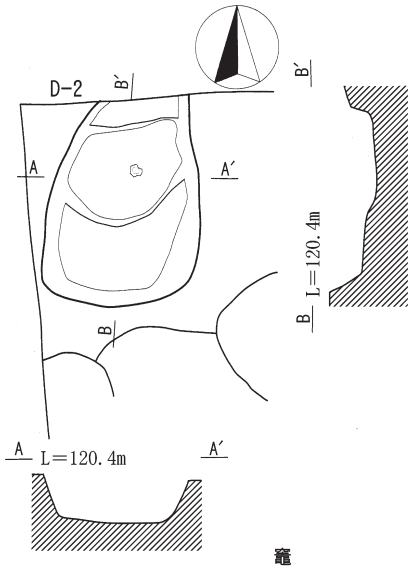
3ａ区　H―17　カマド　セクション
1　黒褐　◎○　Hr-FP 混入、焼土粒子混入焼土ブロック（φ3～5㎜）点在
2　黒褐　◎△　Hr-FP 混入、焼土粒子、総社砂層ブロック（φ5～20㎜）点在
3　黒褐　◎○　焼成灰、焼土粒子混入、Hr-FP 点在
4　極暗褐　○○　炭化材（φ5～20㎜）、焼土ブロック（φ5～10㎜）、焼土粒子混入
5　極暗褐　◎△　焼土粒子（粒度非常に小さい）混入
6　暗赤褐　◎△　焼土粒子混入、焼土ブロック（φ3～5㎜）点在
7　黒褐　◎○　粘土ブロック（焼成）（φ5～20㎜）、焼土ブロック（φ5㎜）混入
8　黒褐　○△　焼土ブロック（φ5㎜）混入
9　暗褐　◎○　焼土粒子混入
10　黒褐　○○　混入物が比較的少ない層
※ 1～4 層はH―16覆土











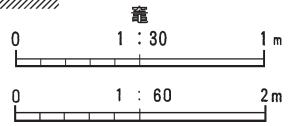
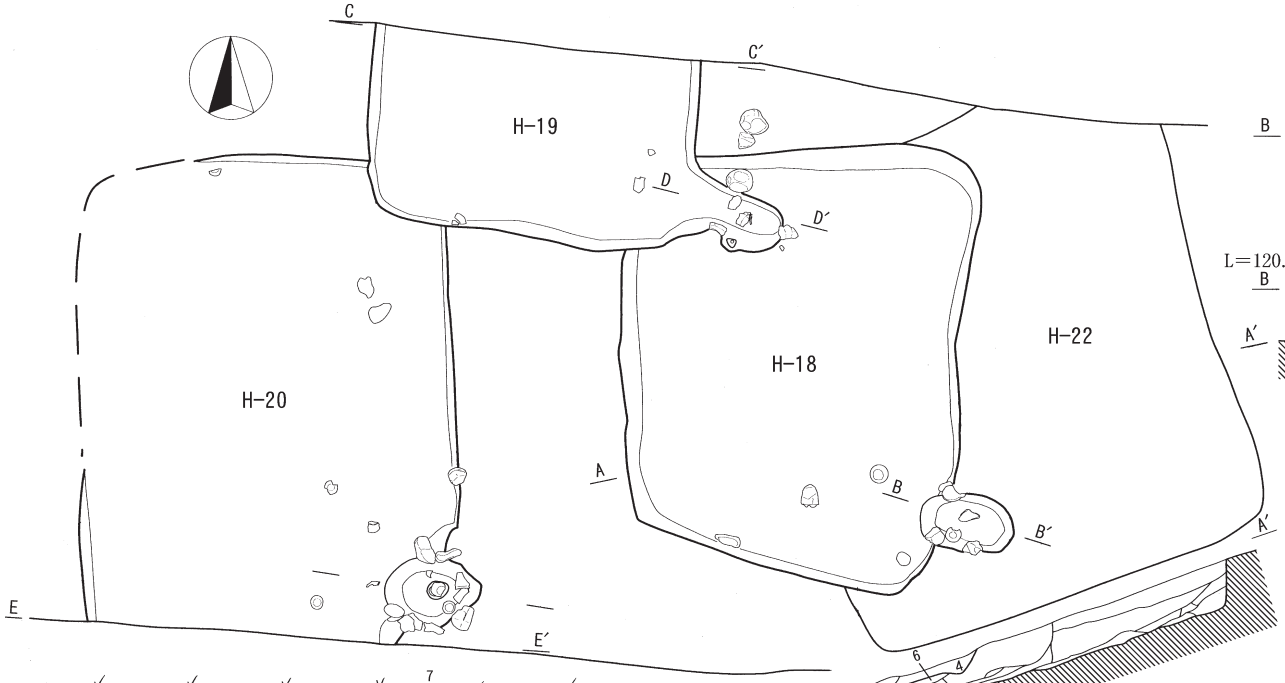
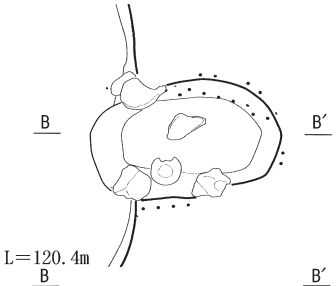


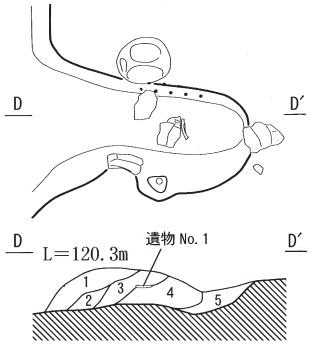
Fig.25　3ａ区H―16・17号住居跡、D―1・2号土坑





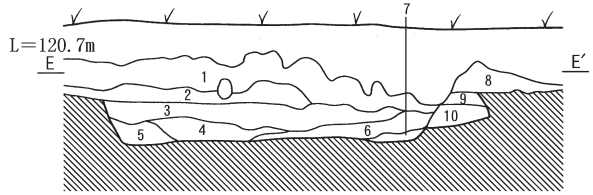
3 a区　H—18　カマド　セクション

1	黒褐	○○	Hr-FP(粒度が小さい)混入、焼土粒子、ブロック（φ2～5㎜）点在
2	黒褐	○○	Hr-FP 混入
3	暗褐	◎○	灰褐色粘質土ブロック（φ2～10㎜）粒子混入、焼土粒子点在
4	褐	◎×	焼成粘土ブロック（φ3～5㎜）、焼土粒子、炭化材（φ5㎜）混入
5	褐	◎△	焼土ブロック（φ2～5㎜）、焼土粒子混入
6	極暗褐	○○	Hr-FP（粒度小さい）混入、焼土粒子点在



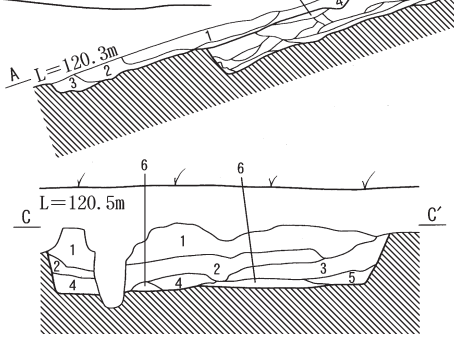
3 a区　H—19　カマド　セクション

1	極暗褐	○×	Hr-FP 混入、焼土粒子、カーボン粒子点在
2	黒褐	○×	カーボン粒子混入、カーボン材点在
3	黒	○△	焼土粒子点在、Hr-FP 混入
4	暗褐	○○	焼土粒子混入、混入物の密度は小さい
5	黒褐	○○	焼土粒子混入



3 a区　H—20　セクション

1	極暗褐	○△	As-C 混入
2	黒褐	○△	As-C 混入
3	極暗褐	○○	As-C 混入、遺物片混入
4	黒褐	○○	As-C（3 層より少ない）混入
5	極暗褐	◎△	As-C（粒度は 4 層よりさらに小さい）混入
6	黒褐	○○	As-C 混入
7	黒褐	○○	混入物小さい
8	黒褐	◎×	砂質で堅緻、As-C（粒度小さい）混入
9	黒褐	◎○	砂層ブロック（φ5㎜）、粘土混入、粘質土ブロック（φ2～5㎜）点在
10	黒褐	○○	焼土粒子混入



3 a区　H—19　セクション

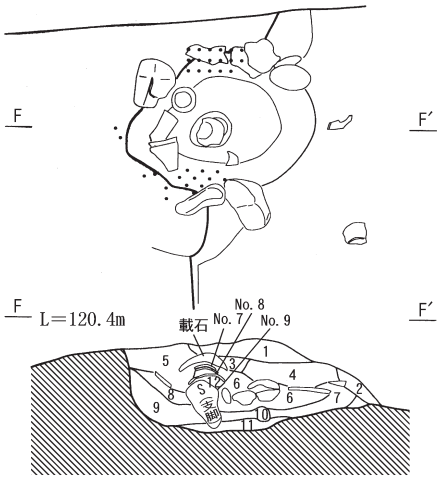
1	黒褐	◎×	As-C 混入、砂層ブロック（φ2～10㎜）点在
2	黒褐	◎×	As-C、砂層ブロック（φ2～5㎜）混入、焼土粒子点在
3	黒褐	◎×	As-C 混入、焼土粒子点在
4	黒褐	◎×	As-C（粒度微細）混入
5	黒褐	◎×	As-C 混入、焼土粒子、カーボン粒子点在
6	黒褐	◎×	As-C（粒度小さい）混入

3 a区　H—18　セクション

1	極暗褐	◎○	Hr-FP 混入、焼土粒子点在
2	黒褐	○○	Hr-FP 混入
3	暗褐	○○	Hr-FP 混入
4	黒褐	○○	Hr-FP 混入
5	黒褐	○○	Hr-FP 混入、焼土粒子点在
6	黒褐	○○	砂層ブロック（φ2～10㎜）混入

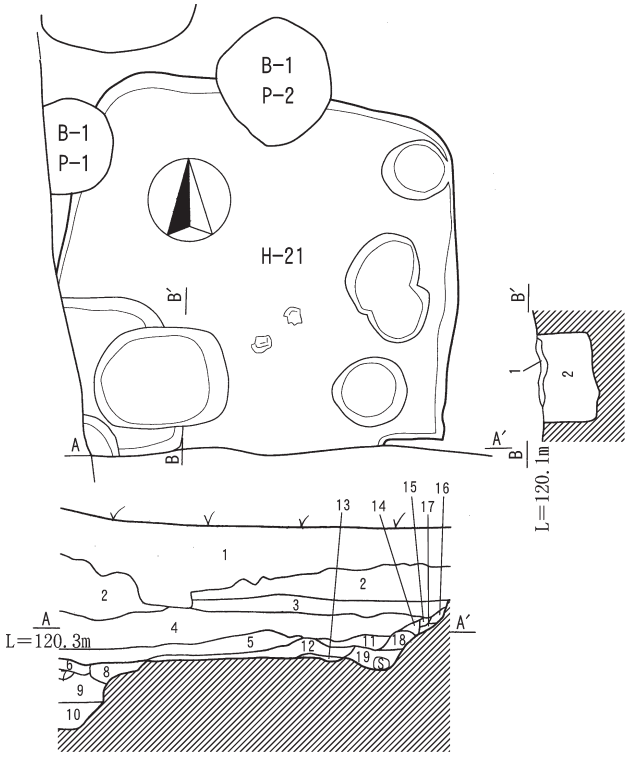
3 a区　H—20　カマド　セクション

1	黒褐	◎△	As-C、焼土粒子混入
2	黒褐	○△	1層に酷似、1層より混入物の粒度小さい
3	極暗褐	◎○	焼土粒子、Hr-FP（粒度小さい）混入
4	黒褐	◎×	As-C、焼土粒子混入
5	黒褐	◎△	As-C、焼土ブロック（φ2～15㎜）、焼土粒子混入
6	黒褐	△○	焼土ブロック（φ2～5㎜）焼土粒子点在
7	黒褐	○○	As-C、焼土粒子混入
8	明赤褐	○○	As-C 点在
9	黒褐	○○	混入物の少ない層
10	明赤褐	△○	焼土粒子混入
11	黒褐	△×	均質な灰層
12	暗赤褐	◎×	焼土ブロック



縮
0　1：30　1m
0　1：60　2m

Fig.26　3 a区H—18～20号住居跡

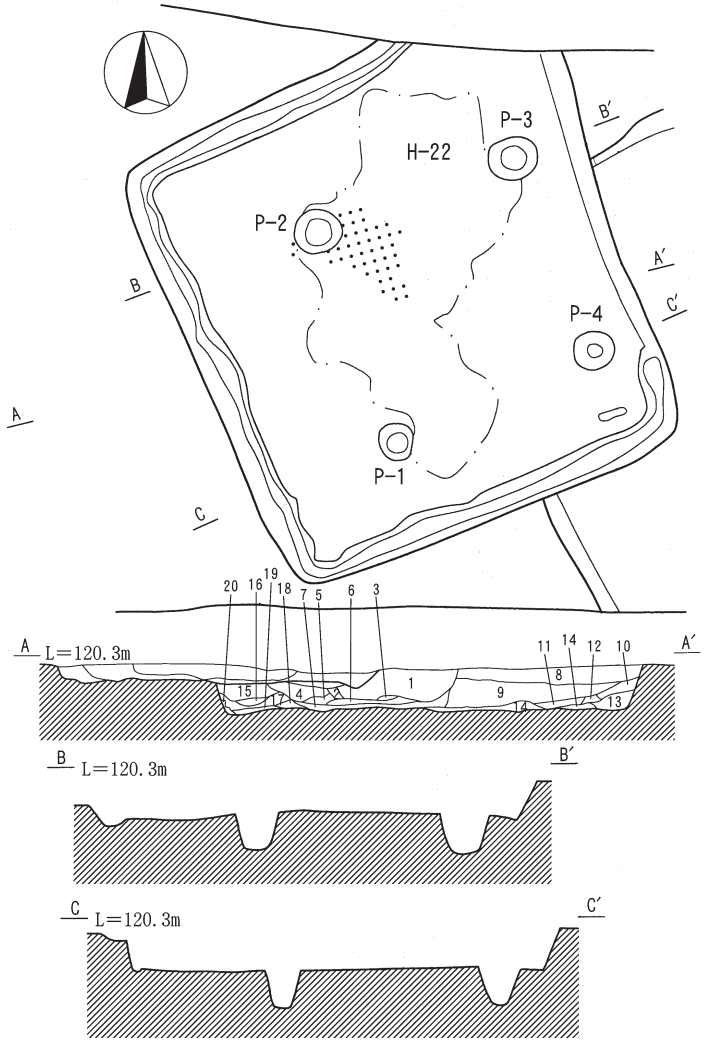


3 a区　H—21　セクション

1	黒褐	○×	現耕作土
2	黒褐	○×	砂質土、Hr-FP、As-C 混入
3	黒褐	○×	2層に酷似、2層から4層へ漸移的に変化する層
4	極暗褐	○×	2層に酷似、2層より Hr-FP、As-C の混入少なく均質、砂層ブロック（φ2～10㎜）点在
5	黒褐	○○	砂層ブロック（φ2㎜）混入
6	黒褐	◎△	ローム粒子混入、Hr-FP（微細）点在
7	黒褐	◎△	ローム粒子混入、Hr-FP（微細）点在
8	黒褐	◎○	7層に酷似、7層よりやや均質
9	黒褐	◎△	やや砂質、Hr-FP（微細）、ローム粒子混入
10	明赤褐	○×	砂層起因の砂粒混入
11	黒褐	◎×	砂層ブロック（φ1～2㎜）混入、焼土粒子点在
12	黒褐	◎△	砂層起因の砂粒混入、カーボン粒子点在
13	黒褐	○○	砂層ブロック（φ2～5㎜）混入
14	極暗褐	◎×	As-C 混入
15	暗褐	○×	砂層ブロック（φ2～5㎜）混入
16	極暗褐	◎△	砂層ブロック（φ2～5㎜）混入
17	黒褐	◎×	砂層ブロック（φ2～10㎜）混入
18	暗褐	○△	粘土ブロック（φ2～5㎜）混入、焼土粒子点在
19	黒褐	○○	焼土粒子、カーボン粒子混入

3 a区　H—21内P-1　セクション

1	黒褐	○△	やや砂質、H-21構築に伴なう貼り床土
2	暗褐	△×	砂質土



3 a区　H—22　セクション

1	極暗褐	○×	砂層ブロック（φ2～60㎜）混入、砂層起因の砂粒混入、As-C 混入
2	黒褐	○×	砂粒点在
3	にぶい黄褐	○×	砂層ブロック（φ2～5㎜）混入（ラミナを呈す）
4	黒褐	○×	砂粒混入
5	暗褐	○△	砂層ブロック（φ2～20㎜）混入
6	黒褐	◎△	砂粒混入、砂層ブロック（φ10㎜）点在
7	黒褐	◎○	砂粒混入
8	極暗褐	○×	As-C 混入、砂層ブロック（φ2～10㎜）点在
9	黒褐	○×	As-C 混入、砂層ブロック（φ2～10㎜）混入、焼土粒子点在
10	黒褐	○×	As-C 混入、焼土粒子点在
11	暗褐	○×	As-C 混入、砂層ブロック（φ2㎜）点在
12	暗褐	○×	砂層ブロック（φ2～10㎜）混入、カーボン粒子点在
13	黒褐	○×	As-C 混入、焼土粒子点在
14	黒褐	○×	砂層ブロック（φ10～20㎜）混入
15	黒褐	○×	砂層ブロック（φ2～3㎜）混入、カーボン粒子、焼土粒子点在
16	極暗褐	○△	砂層ブロック（φ1～2㎜）点在
17	黒褐	○△	As-C 混入、カーボン粒子点在
18	黒褐	○×	23層に酷似、焼土粒子点在
19	黒褐	○○	As-C（粒度小さい）点在
20	黒褐	○○	砂層ブロック（φ5～20㎜）混入

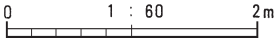
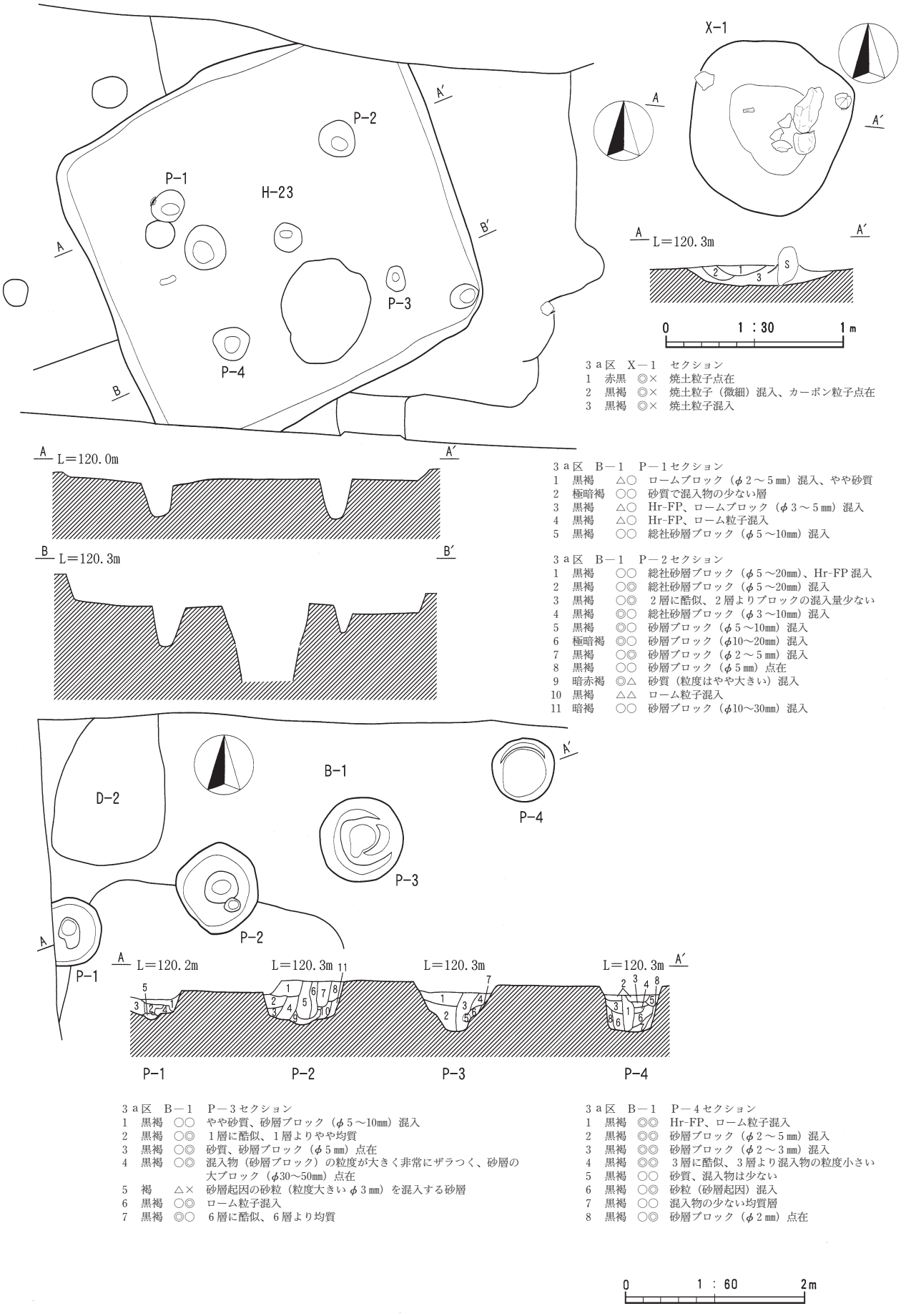


Fig.27　3 a区H—21・22号住居跡



3 a区　X－1　セクション
1　赤黒　◎×　焼土粒子点在
2　黒褐　◎×　焼土粒子（微細）混入、カーボン粒子点在
3　黒褐　◎×　焼土粒子混入

3 a区　B－1　P－1セクション
1　黒褐　△○　ロームブロック（φ２～５㎜）混入、やや砂質
2　極暗褐　○○　砂質で混入物の少ない層
3　黒褐　△○　Hr-FP、ロームブロック（φ３～５㎜）混入
4　黒褐　△○　Hr-FP、ローム粒子混入
5　黒褐　○○　総社砂層ブロック（φ５～10㎜）混入

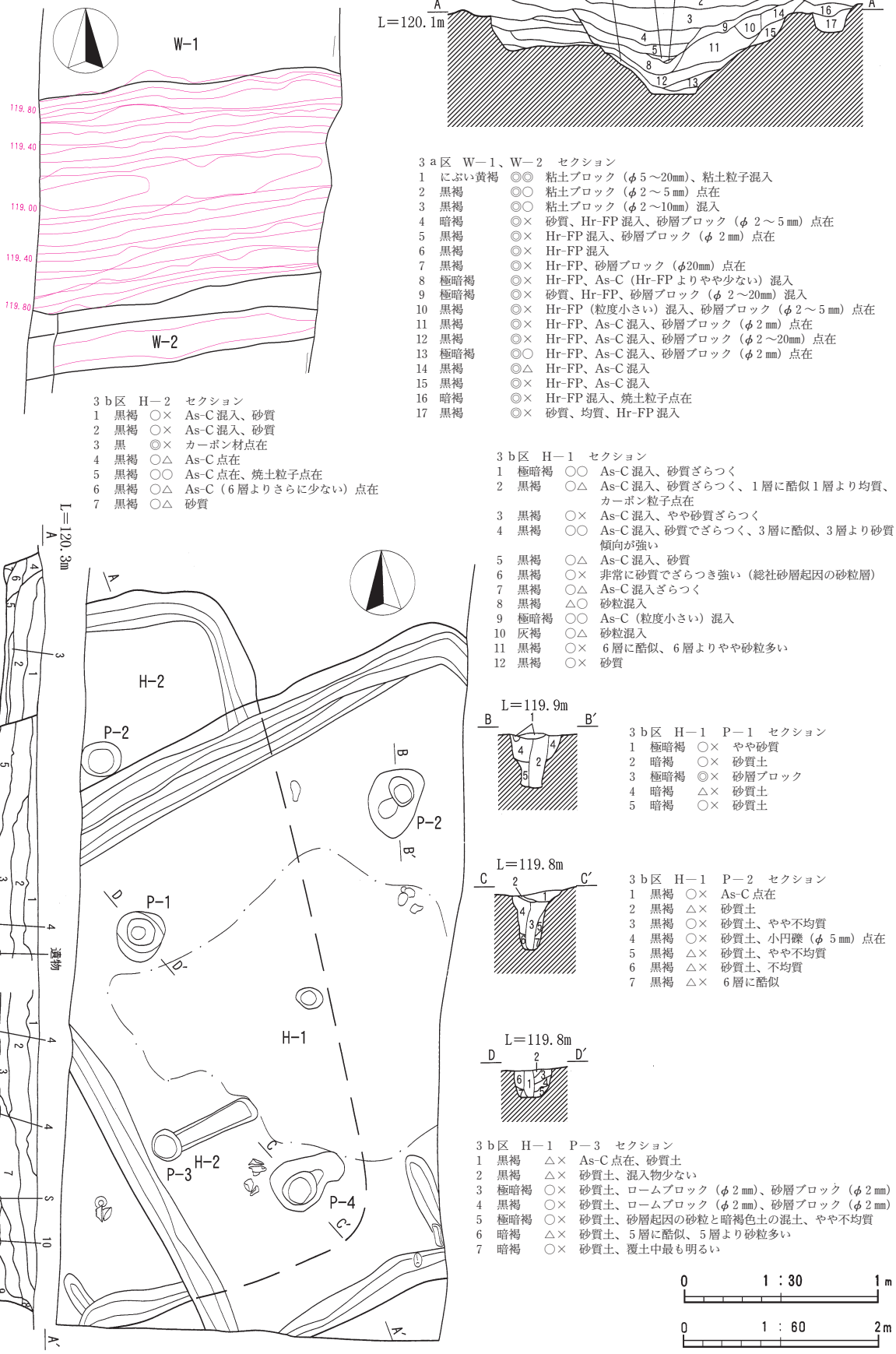
3 a区　B－1　P－2セクション
1　黒褐　○○　総社砂層ブロック（φ５～20㎜）、Hr-FP 混入
2　黒褐　○◎　総社砂層ブロック（φ５～20㎜）混入
3　黒褐　○◎　２層に酷似、２層よりブロックの混入量少ない
4　黒褐　◎○　総社砂層ブロック（φ３～10㎜）混入
5　黒褐　◎○　砂層ブロック（φ５～10㎜）混入
6　極暗褐　◎○　砂層ブロック（φ10～20㎜）混入
7　黒褐　○◎　砂層ブロック（φ２～５㎜）混入
8　黒褐　○○　砂層ブロック（φ５㎜）点在
9　暗赤褐　◎△　砂質（粒度はやや大きい）混入
10　黒褐　△△　ローム粒子混入
11　暗褐　○○　砂層ブロック（φ10～30㎜）混入

3 a区　B－1　P－3セクション
1　黒褐　○○　やや砂質、砂層ブロック（φ５～10㎜）混入
2　黒褐　○◎　１層に酷似、１層よりやや均質
3　黒褐　○◎　砂質、砂層ブロック（φ５㎜）点在
4　黒褐　○◎　混入物（砂層ブロック）の粒度が大きく非常にザラつく、砂層の大ブロック（φ30～50㎜）点在
5　褐　△×　砂層起因の砂粒（粒度大きいφ３㎜）を混入する砂層
6　黒褐　○◎　ローム粒子混入
7　黒褐　◎○　６層に酷似、６層より均質

3 a区　B－1　P－4セクション
1　黒褐　◎◎　Hr-FP、ローム粒子混入
2　黒褐　◎◎　砂層ブロック（φ２～５㎜）混入
3　黒褐　◎◎　砂層ブロック（φ２～３㎜）混入
4　黒褐　◎◎　３層に酷似、３層より混入物の粒度小さい
5　黒褐　○○　砂質、混入物は少ない
6　黒褐　○◎　砂粒（砂層起因）混入
7　黒褐　○○　混入物の少ない均質層
8　黒褐　○◎　砂層ブロック（φ２㎜）点在

0 1：60 2m

Fig.28　３ａ区Ｈ―23号住居跡、Ｂ－１号掘立柱建物跡、Ｘ－１号遺構



3ａ区　W－1、W－2　セクション
1　にぶい黄褐　◎◎　粘土ブロック（φ5～20㎜）、粘土粒子混入
2　黒褐　◎○　粘土ブロック（φ2～5㎜）点在
3　黒褐　◎○　粘土ブロック（φ2～10㎜）混入
4　暗褐　◎×　砂質、Hr-FP混入、砂層ブロック（φ2～5㎜）点在
5　黒褐　◎×　Hr-FP混入、砂層ブロック（φ2㎜）点在
6　黒褐　◎×　Hr-FP混入
7　黒褐　◎×　Hr-FP、砂層ブロック（φ20㎜）点在
8　極暗褐　◎×　Hr-FP、As-C（Hr-FPよりやや少ない）混入
9　極暗褐　◎×　砂質、Hr-FP、砂層ブロック（φ2～20㎜）混入
10　黒褐　◎×　Hr-FP（粒度小さい）混入、砂層ブロック（φ2～5㎜）点在
11　黒褐　◎×　Hr-FP、As-C混入、砂層ブロック（φ2㎜）点在
12　黒褐　◎×　Hr-FP、As-C混入、砂層ブロック（φ2～20㎜）点在
13　極暗褐　◎○　Hr-FP、As-C混入、砂層ブロック（φ2㎜）点在
14　黒褐　◎△　Hr-FP、As-C混入
15　黒褐　◎×　Hr-FP、As-C混入
16　暗褐　◎×　Hr-FP混入、焼土粒子点在
17　黒褐　◎×　砂質、均質、Hr-FP混入

3ｂ区　H－2　セクション
1　黒褐　○×　As-C混入、砂質
2　黒褐　○×　As-C混入、砂質
3　黒　◎×　カーボン材点在
4　黒褐　○△　As-C点在
5　黒褐　○○　As-C点在、焼土粒子点在
6　黒褐　○△　As-C（6層よりさらに少ない）点在
7　黒褐　○△　砂質

3ｂ区　H－1　セクション
1　極暗褐　○○　As-C混入、砂質ざらつく
2　黒褐　○△　As-C混入、砂質ざらつく、1層に酷似1層より均質、カーボン粒子点在
3　黒褐　○×　As-C混入、やや砂質ざらつく
4　黒褐　○○　As-C混入、砂質でざらつく、3層に酷似、3層より砂質傾向が強い
5　黒褐　○△　As-C混入、砂質
6　黒褐　○×　非常に砂質でざらつき強い（総社砂層起因の砂粒層）
7　黒褐　○△　As-C混入ざらつく
8　黒褐　△○　砂粒混入
9　極暗褐　○○　As-C（粒度小さい）混入
10　灰褐　○△　砂粒混入
11　黒褐　○×　6層に酷似、6層よりやや砂粒多い
12　黒褐　○×　砂質

3ｂ区　H－1　P－1　セクション
1　極暗褐　○×　やや砂質
2　暗褐　○×　砂質土
3　極暗褐　◎×　砂層ブロック
4　暗褐　△×　砂質土
5　暗褐　○×　砂質土

3ｂ区　H－1　P－2　セクション
1　黒褐　○×　As-C点在
2　黒褐　△×　砂質土
3　黒褐　○×　砂質土、やや不均質
4　黒褐　○×　砂質土、小円礫（φ5㎜）点在
5　黒褐　△×　砂質土、やや不均質
6　黒褐　△×　砂質土、不均質
7　黒褐　△×　6層に酷似

3ｂ区　H－1　P－3　セクション
1　黒褐　△×　As-C点在、砂質土
2　黒褐　△×　砂質土、混入物少ない
3　極暗褐　○×　砂質土、ロームブロック（φ2㎜）、砂層ブロック（φ2㎜）混入
4　黒褐　○×　砂質土、ロームブロック（φ2㎜）、砂層ブロック（φ2㎜）混入
5　極暗褐　○×　砂質土、砂層起因の砂粒と暗褐色土の混土、やや不均質
6　暗褐　△×　砂質土、5層に酷似、5層より砂粒多い
7　暗褐　○×　砂質土、覆土中最も明るい

Fig.29　3ａ区W－1号溝跡、3ｂ区H－1・2号住居跡

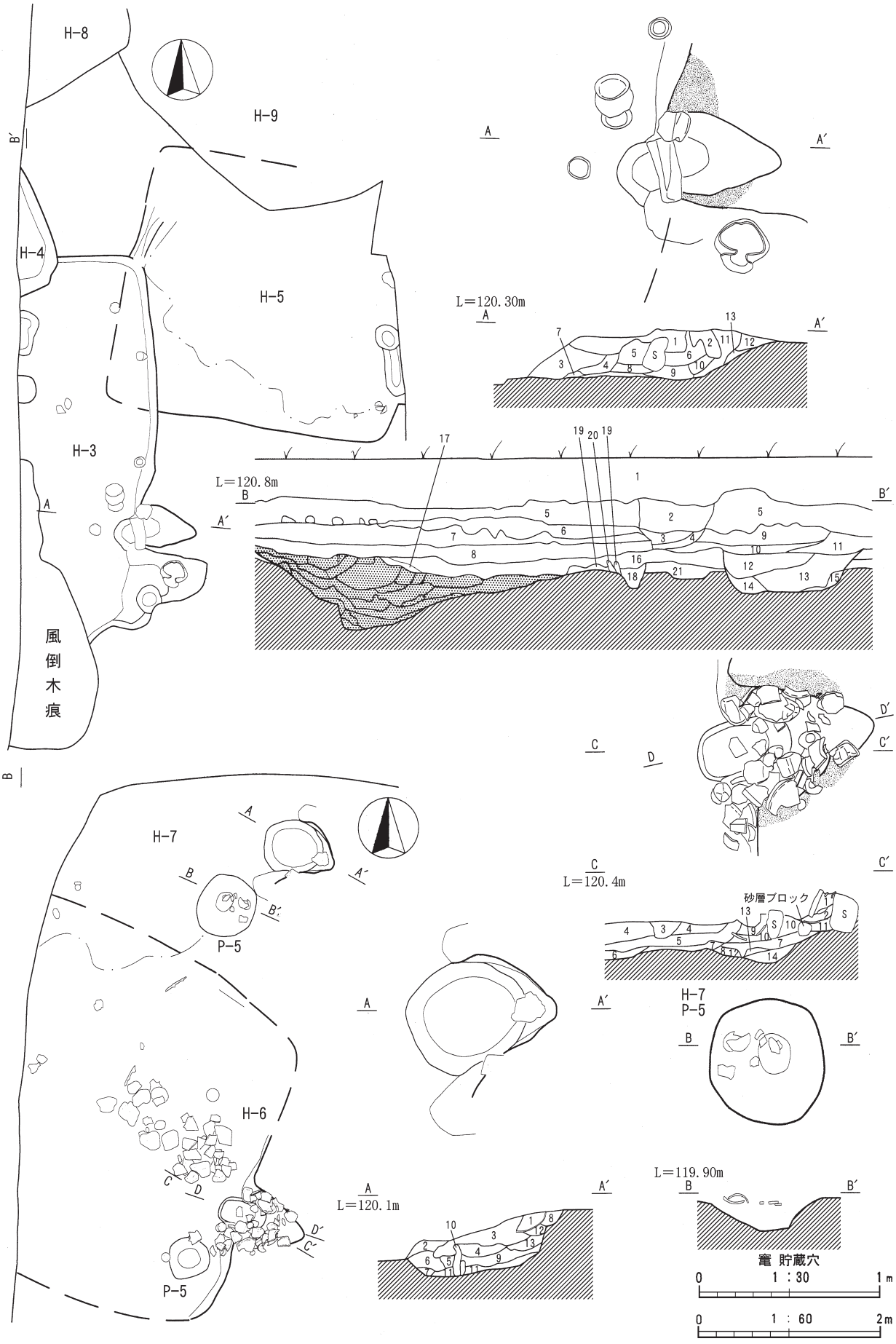


Fig.30　3 b区H－3～7号住居跡

3 b区　H―3　カマドセクション

1	黒褐	○△	Hr-FP（粒度小さい）混入
2	黒褐	○○	Hr-FP 混入、焼土粒子混入
3	黒褐	○×	砂質、灰白色粘土ブロック（φ５～10㎜）混入
4	黒褐	○×	砂質、焼土粒子点在
5	黒褐	○△	砂質、焼土粒子点在
6	黒褐	○○	緻密な層（粒度非常に小さい）、焼土粒子点在
7	明赤褐	○△	焼土ブロック（φ２～５㎜）、焼土粒子混入
8	黒褐	○○	焼土粒子点在
9	黒褐	○△	粒度の小さい緻密な層、混入物も少なく均質
10	明赤褐	○△	９層に酷似する、焼土粒子点在
11	明赤褐	○△	焼土粒子混入
12	黒褐	○×	均質で緻密な層
13	黒褐	○△	12層に酷似、12層より粒度大きく不均質

3 b区　H―3・4　セクション

1	黒褐	◎×	砂質、Hr-FP、As-C 混入
2	暗褐	◎×	砂質土、円礫（φ２～５㎜）点在
3	暗褐	◎×	砂質土
4	黒褐	◎×	砂質土
5	極暗褐	◎×	Hr-FP、As-C 混入、焼土粒子、角礫（φ10～20㎜）点在
6	暗褐	◎×	５層に似る、砂質非常にざらつく
7	黒褐	○×	Hr-FP 混入、焼土粒子点在
8	黒褐	○×	Hr-FP 混入
9	暗褐	○×	Hr-FP 混入、焼土粒子点在
10	黒褐	○×	Hr-FP 混入、焼土粒子点在
11	暗褐	◎×	Hr-FP 混入、As-C 粒点在
12	黒褐	◎×	Hr-FP 混入、焼土粒子点在
13	暗褐	○×	As-C 混入、砂質
14	黒褐	○×	砂質土、小円礫（φ５㎜）混入
15	暗褐	○×	砂質土、小円礫（φ５㎜）点在
16	極暗褐	○×	Hr-FP 混入
17	暗褐	○×	砂層起因の砂粒混入
18	暗褐	○×	砂質土
19	黒褐	○×	砂質土
20	黒褐	○×	砂質土、円礫（φ２～５㎜）点在
21	暗褐	○×	砂質土、焼土粒子点在

3 b区　H―6　カマドセクション

1	黒褐	◎○	As-C 混入
2	暗褐	◎△	
3	黒褐	◎×	As-C 点在、褐色粘質土ブロック（φ２～10㎜）混入
4	黒褐	◎×	As-C 混入、カーボン粒子点在
5	極暗褐	◎×	As-C 混入
6	黒褐	◎△	褐色粘質土ブロック（φ５～20㎜）混入 As-C 点在
7	黒	◎×	焼成灰層
8	黒褐	○×	焼成灰混入
9	黒褐	○×	焼成灰混入
10	黒褐	△△	焼成灰混入
11	暗褐	○△	焼土ブロック（φ２㎜）、粘土ブロック（φ２㎜）混入
12	暗褐	○×	焼成灰混入
13	黒褐	○×	12層に酷似、12層より不均質
14	極暗褐	○△	焼成灰、焼土粒子混入

3 b区　H―7　カマドセクション

1	暗褐	◎×	焼土ブロック（φ２～10㎜）、粒子混入
2	黒褐	○×	焼土粒子点在
3	暗褐	◎×	焼土粒子、As-C 混入
4	暗褐	◎×	焼成灰（灰褐色）、焼土粒子混入
5	黒暗褐	◎△	焼成灰、焼土粒子混入
6	黒褐	◎×	焼成灰、焼土粒子混入
7	黒褐	○△	焼成灰混入
8	暗褐	○×	焼成土粒子、焼土ブロック（φ５㎜）混入
9	灰褐	○×	焼成灰に焼土ブロック（φ５㎜）を不均質混入する層
10	黒褐	○×	焼土ブロック（φ５～30㎜）焼成灰の不均質混土層
11	極暗褐	○×	焼土粒子、焼成灰ともに混入
12	暗赤褐	○×	焼土ブロック（φ５～10㎜）、焼土粒子混入
13	灰褐	○×	焼成灰と焼土ブロック（φ５～20㎜）の混土層

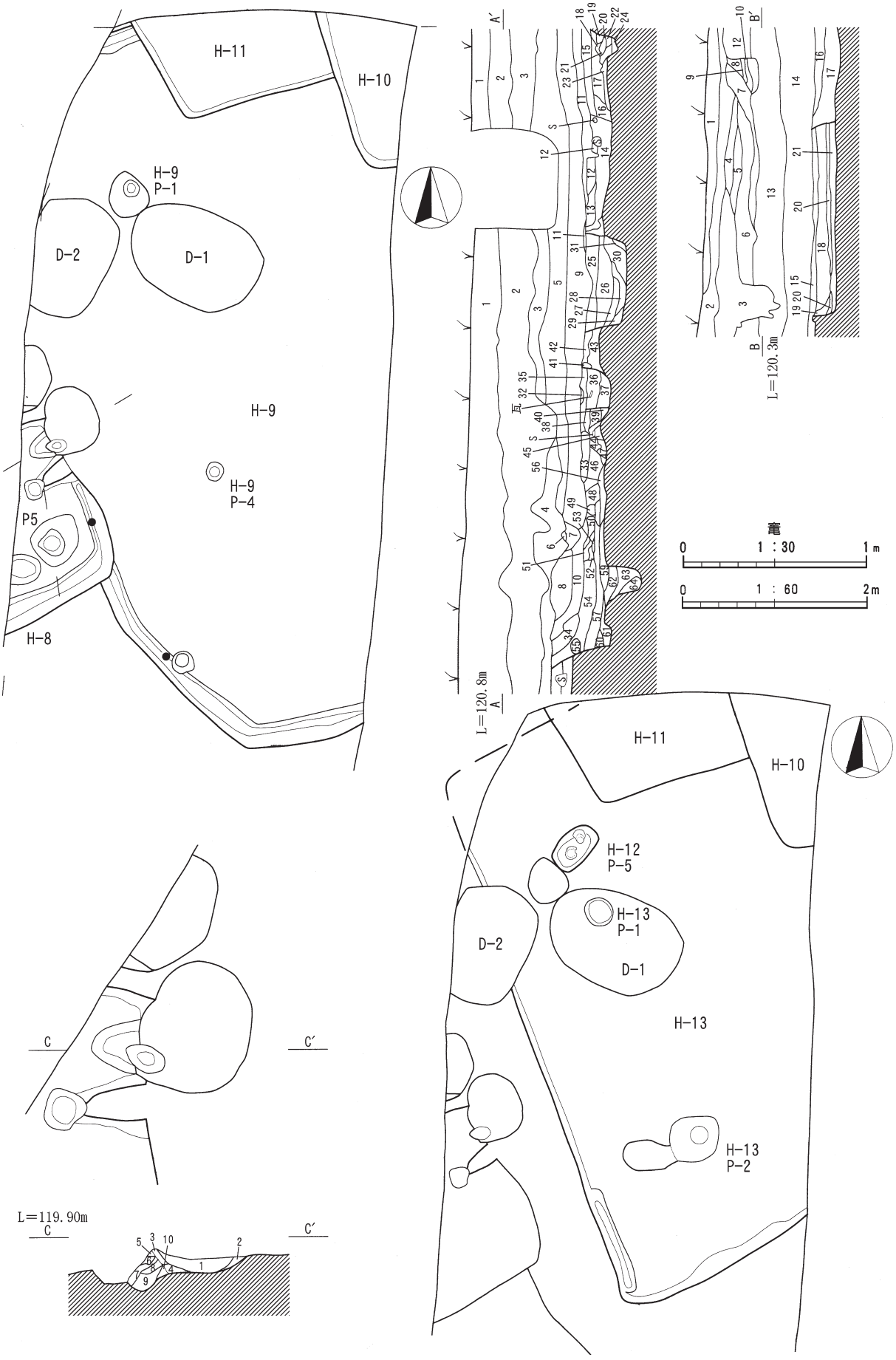


Fig.31　3 b区H－8～13号住居跡

3ｂ区　H―８・９、D―２セクション

1	黒褐	◎×	砂質、Hr-FP、As-C 混入
2	極暗褐	◎×	Hr-FP、As-C 混入、焼土粒子点在、角礫（φ10～20㎜）点在
3	暗褐	◎×	Hr-FP 混入
4	暗褐	◎×	Hr-FP 混入、As-C 粒子点在
5	暗褐	◎×	Hr-FP 混入（３層より多い）
6	黒褐	◎×	砂質土、砂層ブロック（φ５～８㎜）点在
7	極暗褐	◎×	粒度０、小さい砂質、円礫（φ５～20㎜）点在
8	暗褐	○×	Hr-FP 混入、砂層ブロック（φ２～10㎜）混入
9	暗褐	◎×	Hr-FP 混入、砂層ブロック（φ２～20㎜）、焼土粒子点在
10	暗褐	○×	砂層ブロック（φ２～10㎜）混入
11	暗褐	◎×	砂層ブロック（φ２～10㎜）混入、Hr-FP 点在
12	暗褐	◎×	砂層ブロック（φ２～10㎜）混入、Hr-FP 点在
13	暗褐	○△	砂層ブロック（φ２～10㎜）混入
14	黒褐	○×	砂層ブロック（φ２～５㎜）混入、Hr-FP 点在
15	黒褐	◎×	Hr-FP 混入、As-C 粒子、焼土粒子点在
16	黒褐	○×	砂層ブロック（φ２～５㎜）点在
17	暗褐	◎×	Hr-FP 混入、As-C ブロック、焼土粒子点在
18	黒褐	○×	As-C 粒子混入、焼土粒子点在
19	暗褐	○×	砂層ブロック（φ１～２㎜）点在
20	暗褐	○×	砂層ブロック（φ１～２㎜）混入、As-C 粒子混入
21	暗褐	○×	砂層ブロック（φ２～20㎜）混入
22	暗褐	○×	砂層ブロック（φ２～５㎜）混入、
23	黒褐	○×	砂層ブロック（φ２～30㎜）混入
24	暗褐	○×	砂層ブロック（φ２㎜）混入
25	暗褐	○×	砂層ブロック（φ２～20㎜）混入
26	黒褐	○×	砂層ブロック（φ２～10㎜）混入、As-C 粒、焼土粒子点在
27	黒褐	○×	砂層ブロック（φ２～５㎜）混入、砂層ブロック（φ20㎜）点在
28	暗褐	◎×	砂層ブロック（φ２～５㎜）混入
29	暗褐	○△	砂層ブロック（φ２～５㎜）混入
30	黒褐	○△	砂層ブロック（φ２～10㎜）混入
31	暗褐	○×	砂層ブロック（φ２～５㎜）
32	黒褐	○×	混入物少ない
33	極暗褐	◎×	Hr-FP、As-C 混入、砂層ブロック（φ１～２㎜）
34	暗褐	◎×	砂層ブロック（φ２～20㎜）混入
35	黒褐	○×	Hr-FP、砂層ブロック（φ２～10㎜）点在
36	極暗褐	○×	砂層ブロック（φ２～20㎜）混入
37	暗褐	○×	砂層ブロック（φ２～20㎜）混入、焼土粒子点在
38	黒褐	◎×	Hr-FP 点在、砂層ブロック（φ２～10㎜）点在
39	黒褐	○△	Hr-FP、焼土粒子、砂層ブロック（φ２～５㎜）点在
40	黒褐	○×	砂層ブロック（φ２～５㎜）混入
41	暗褐	○×	砂層ブロック（φ２～５㎜）混入
42	黒褐	◎×	Hr-FP 混入、焼土粒子点在
43	黒褐	◎×	砂層ブロック（φ２～５㎜）混入
44	極暗褐	○×	Hr-FP 混入、焼土粒子点在
45	黒褐	○△	Hr-FP 点在
46	黒褐	○△	Hr-FP、粘土粒子、焼土粒子点在
47	明赤褐	○△	焼土粒子混入
48	明赤褐	○×	焼土ブロック（φ５～10㎜）混入、粘土ブロック（φ10㎜）点在、焼土粒子混入
49	明赤褐	◎○	粘土粒子混入
50	褐	◎○	焼土粒子点在
51	黒褐	○×	砂層ブロック（φ２～20㎜）混入
52	暗褐	◎○	砂層ブロック（φ５㎜）点在
53	黒褐	○○	焼成灰中ラミナ
54	暗褐	○×	Hr-FP 混入、砂層ブロック（φ２～５㎜）、カーボンブロック（φ５～10㎜）点在
55	黒褐	○△	Hr-FP 点在
56	暗褐	◎△	砂層ブロック（φ10～20㎜）、焼土粒子点在
57	極暗褐	○△	カーボンブロック（φ20㎜）点在
58	極暗褐	◎○	焼成灰混入、焼土粒子、焼土ブロック点在
59	暗褐	○△	カーボンブロック点在
60	黒褐	○×	砂層ブロック（φ２㎜）点在
61	極暗褐	○×	砂層ブロック（φ２～５㎜）点在
62	暗褐	○△	砂層ブロック（φ２～10㎜）混入
63	黒褐	○×	砂層ブロック（φ５～10㎜）混入
64	暗褐	○△	砂層ブロック（φ５～21㎜）混入

3ｂ区　H―８　カマドセクション

1～4			粘土被覆 Pit
5～10			カマド
1	黒褐	○×	砂層ブロック（φ２～10㎜）混入
2	暗褐	○×	砂層起因の砂粒混入
3	にぶい黄褐	◎○	粘質土、貼り付け
4	暗褐	○×	砂層ブロック（φ２～10㎜）混入
5	暗褐	○×	焼成灰、焼土粒子点在
6	明赤褐	○×	焼成灰、焼土ブロック、粒子、混入
7	明赤褐	○×	焼土ブロック（φ５㎜）混入
8	暗褐	○×	焼土ブロック（φ２㎜）、砂層ブロック（φ２㎜）混入
9	明赤褐	○×	砂層ブロック（φ２～５㎜）混入、焼土粒子点在
10	暗褐	○×	砂層起因の砂質土（粒度微細）

3ｂ区　H―10・11　セクション

1	黒褐	◎×	非常に砂質、Hr-FP、As-C 混入、焼土粒子点在
2	暗褐	◎×	１層に酷似、１層より混入物の粒度大きい
3	暗褐	◎×	１層、２層に酷似、１層より混入物多く、２層より少ない、混入物の粒度は３層中最も大きい
4	暗褐	◎×	非常に砂質、上層に堅緻面あり、As-C 混入
5	暗褐	◎×	４層に酷似、As-C 少量（４層よりやや多い）混入
6	暗褐	◎×	砂質土、As-C 混入、焼土粒子点在
7	灰黄褐	◎×	砂質で均質な層
8	暗褐	◎×	砂質土、As-C（粒度小さい）混入
9	暗褐	◎×	砂質土、As-C 混入
10	暗褐	◎×	砂質土、As-C 混入
11	暗褐	◎×	砂質土、10層に酷似10層より均質
12	暗褐	◎×	As-C（粒度小さい）混入
13	暗褐	◎×	As-C（粒度やや大きい）混入、砂層ブロック（φ２～10㎜）点在
14	暗褐	◎×	13層に酷似、13層より混入物の粒度大きい、焼土粒子、ブロック（φ５㎜）混入
15	黒褐	◎×	As-C 混入、砂層ブロック（φ２～10㎜）混入、焼土粒子点在、上位は非常に堅緻（H-７の床面、貼り床層か）
16	暗褐	○×	As-C 混入、砂層ブロック（φ２～10㎜）点在、焼土粒子点在（H-10覆土）
17	極暗褐	○×	As-C（16層より少ない）混入、砂層ブロック（φ２～15㎜）点在、焼土粒子、カーボン粒子点在（H-10覆土）
18	暗褐	○△	As-C 混入、砂層ブロック（φ２～20㎜）混入、カーボン粒子、焼土粒子点在
19	暗褐	○×	砂層ブロック（φ２～20㎜）砂層起因の微細砂粒混入。
20	黒褐	◎△	H-11の貼り床層、砂層ブロック（φ２～20㎜）混入、一部ラミナ状に貼られる。
21	黒褐	○×	As-C（粒度小）混入、砂層ブロック（φ２～20㎜）点在

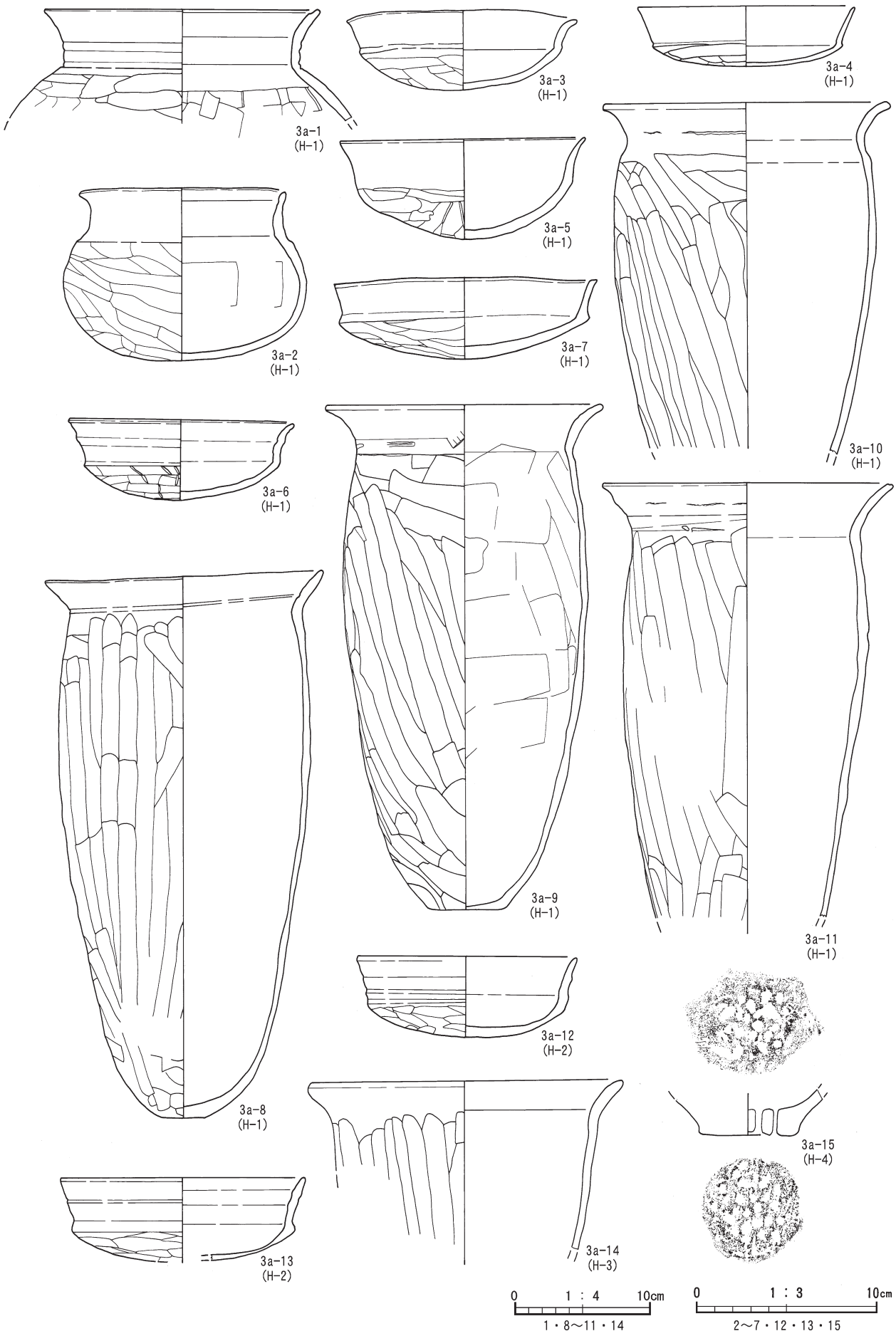


Fig.32　3 a 区H－ 1 ～ 4 号住居跡出土遺物

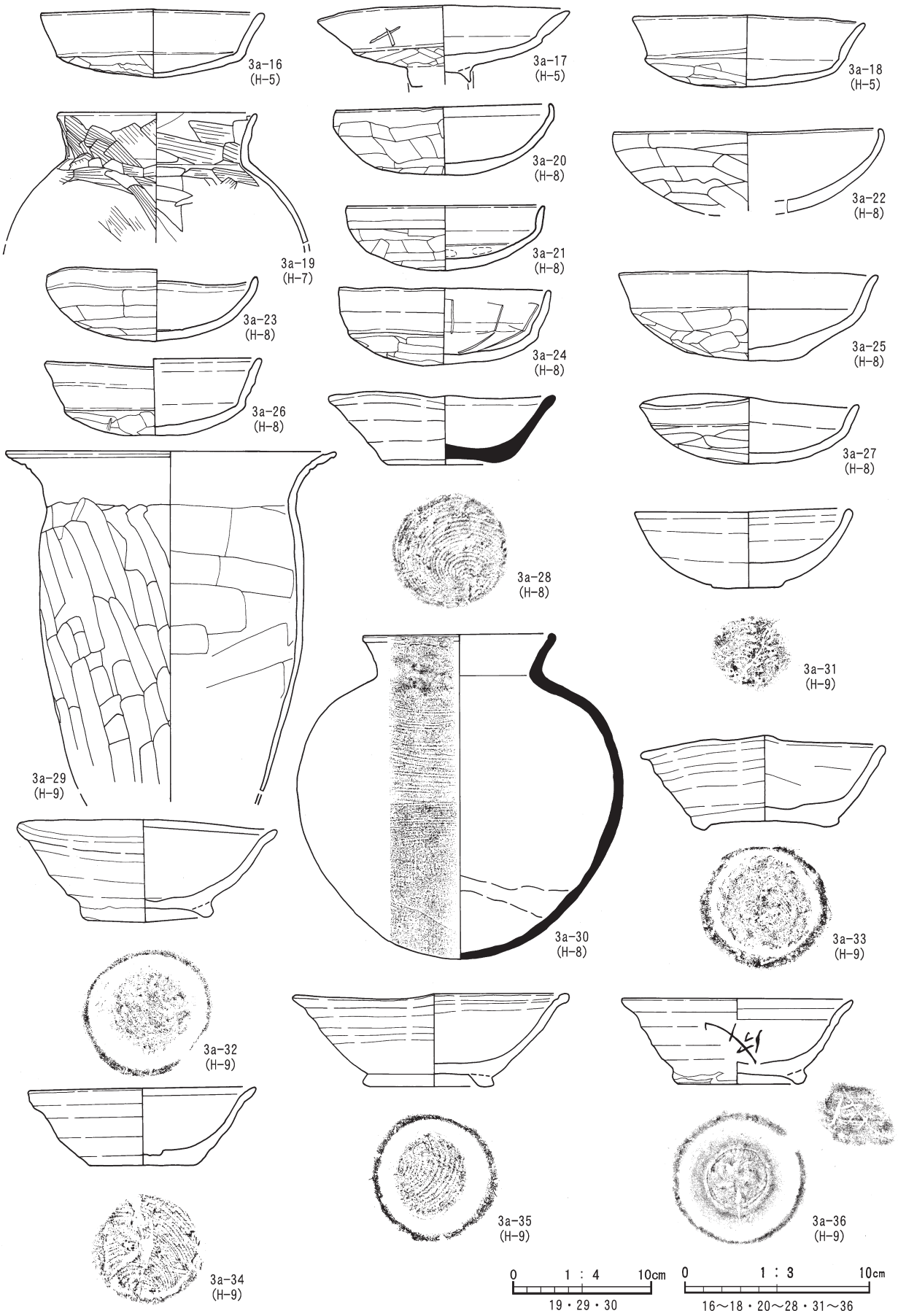


Fig.33　3 a 区H－5 ・ 7 ～ 9 号住居跡出土遺物

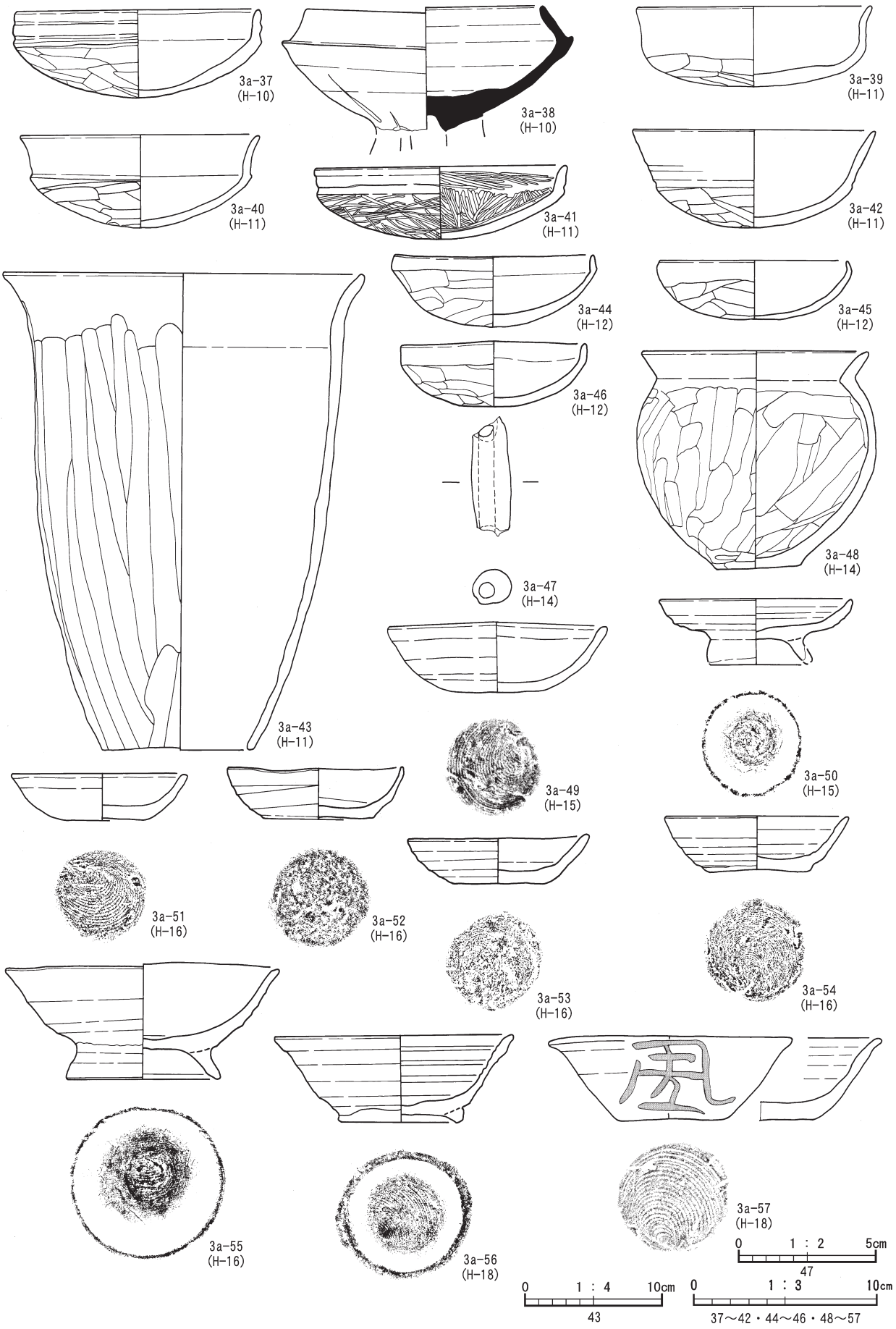


Fig.34　3 a区H—10～12、14～16・18号住居跡出土遺物

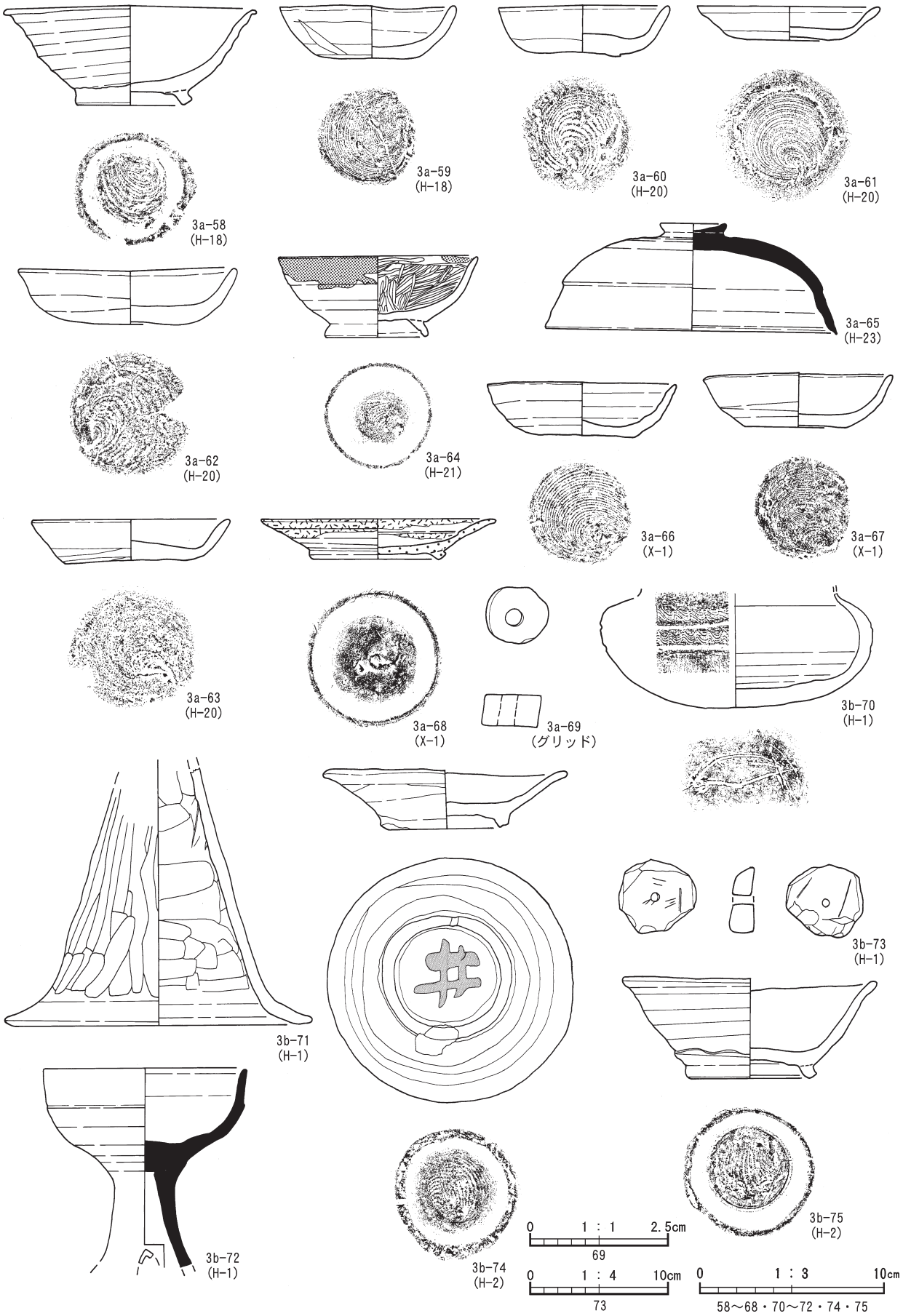


Fig.35　3 a 区H―18・20・21・23号住居跡、X―1 号遺構、3 b 区H―1 ・ 2 号住居跡出土遺物

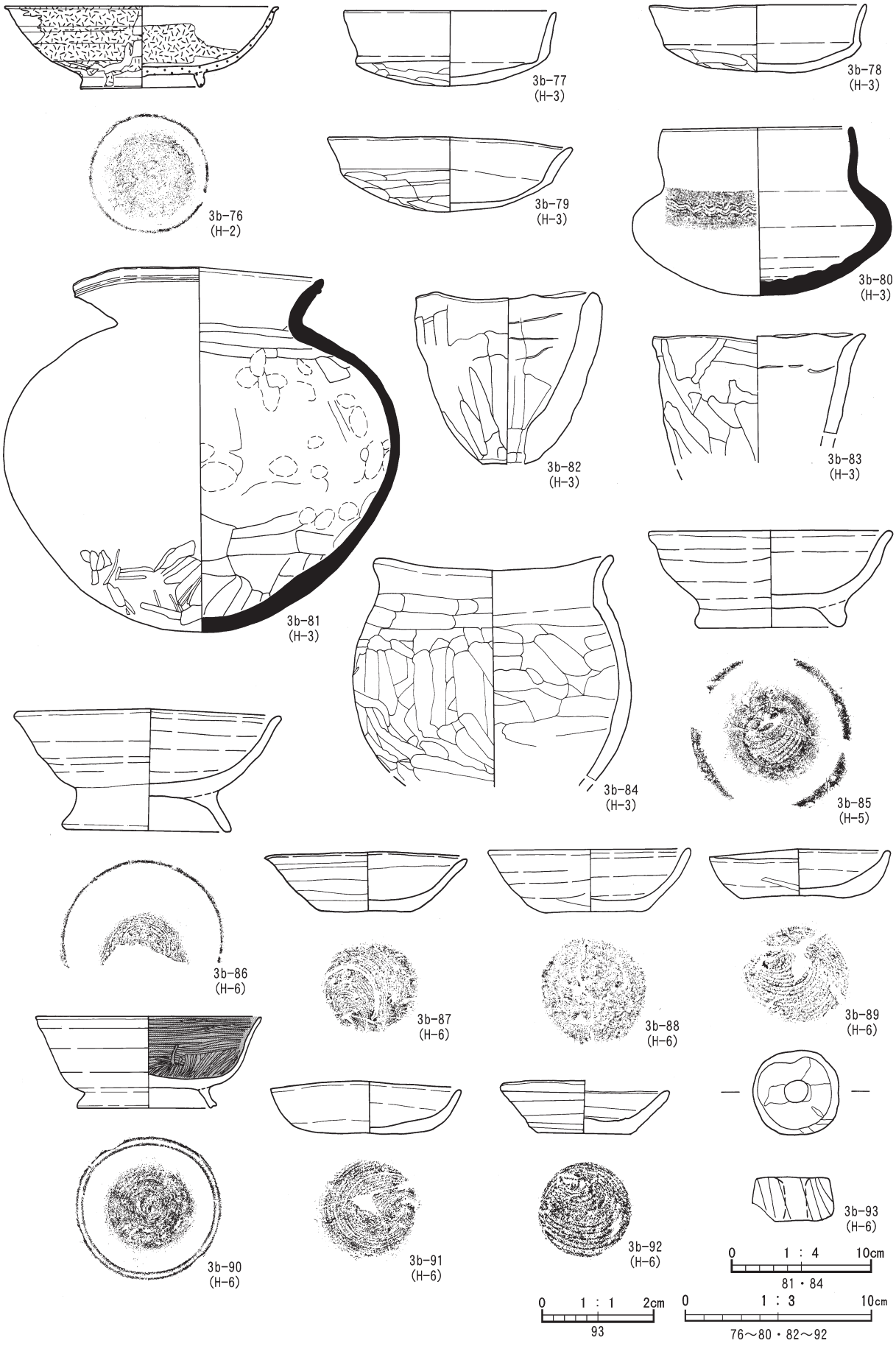


Fig.36　3 b区H－2・3・5・6号住居跡出土遺物

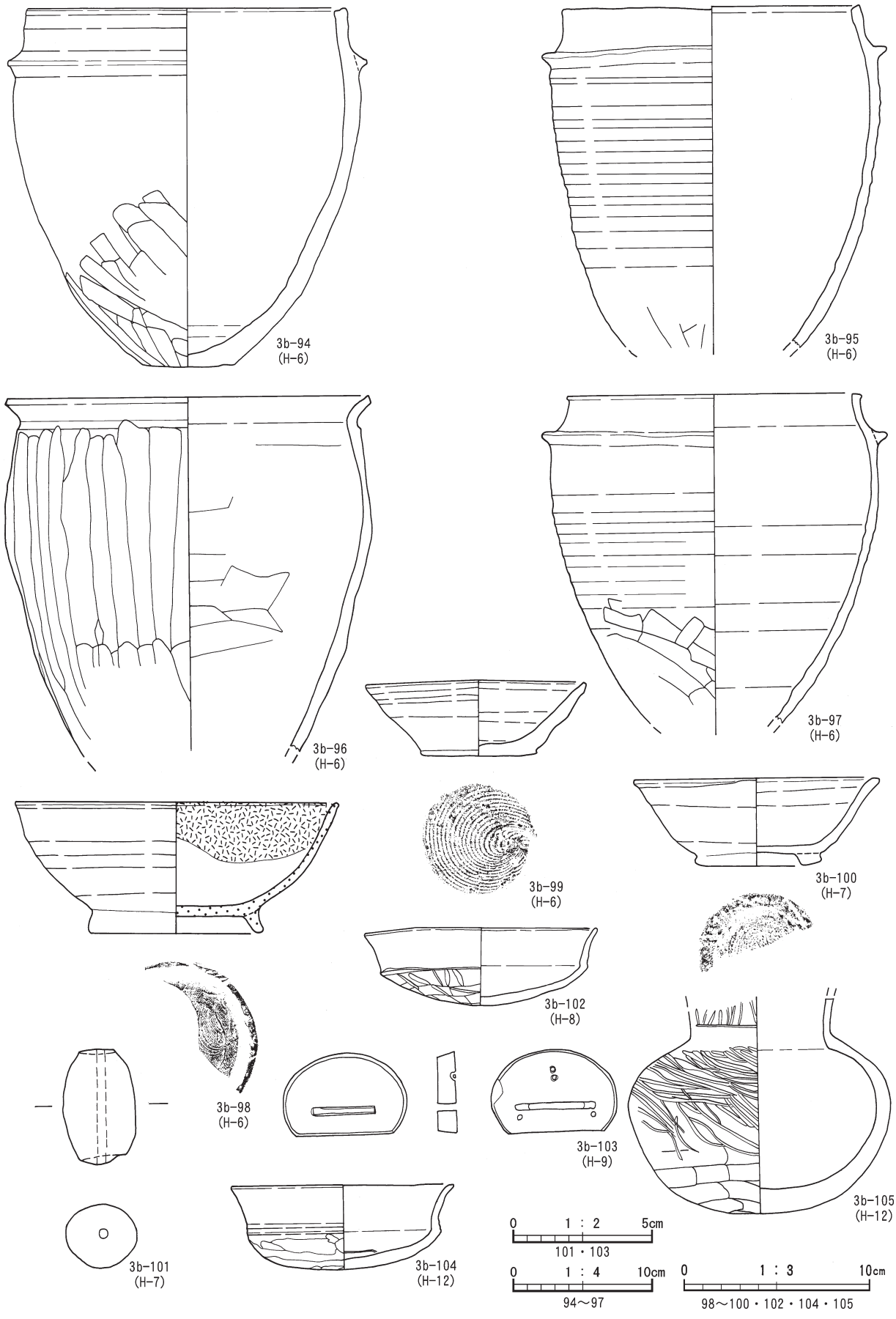


Fig.37　3 b区H－6～9・12号住居跡出土遺物

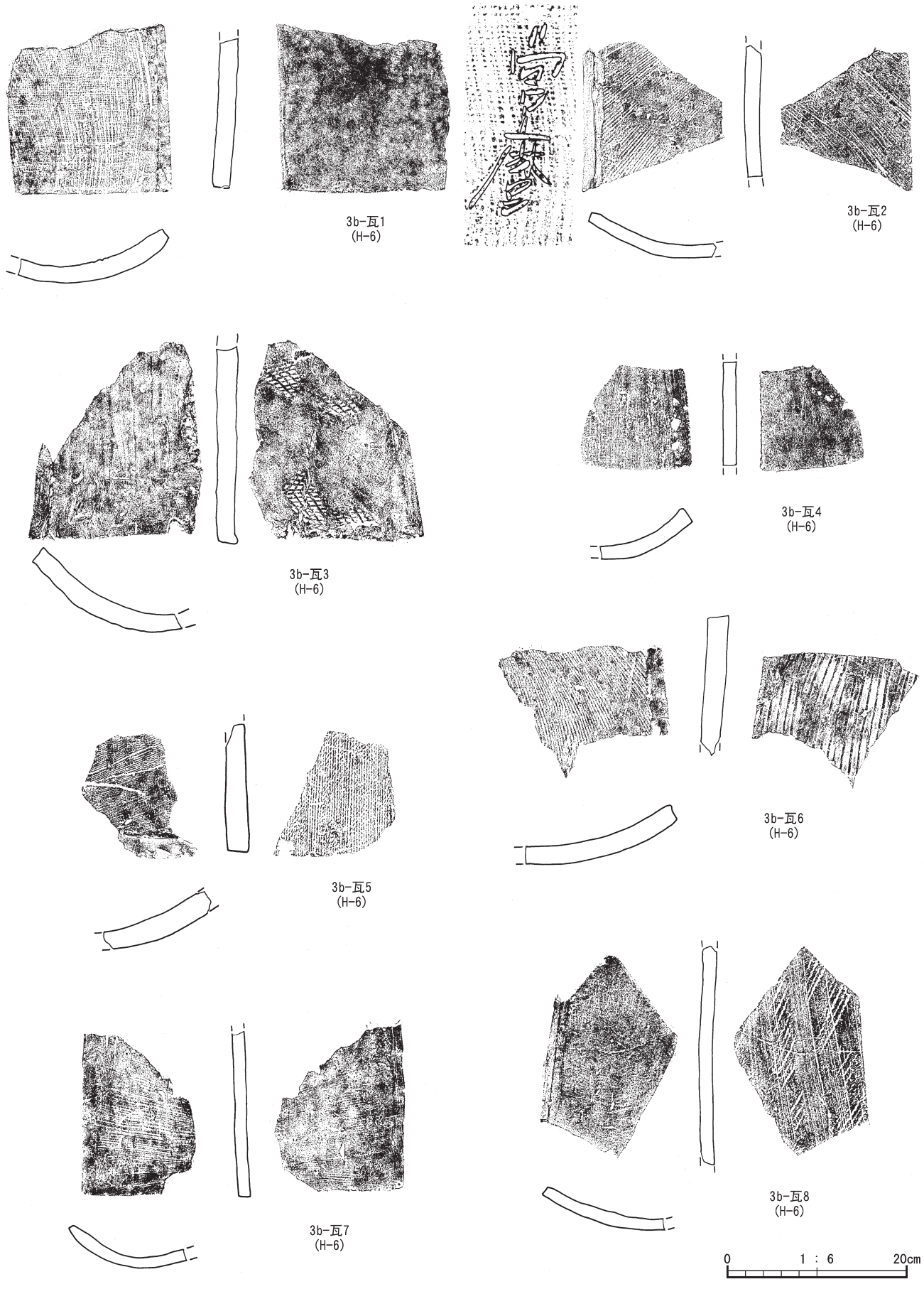


Fig.38　3 b区H－6号住居跡出土瓦(1)

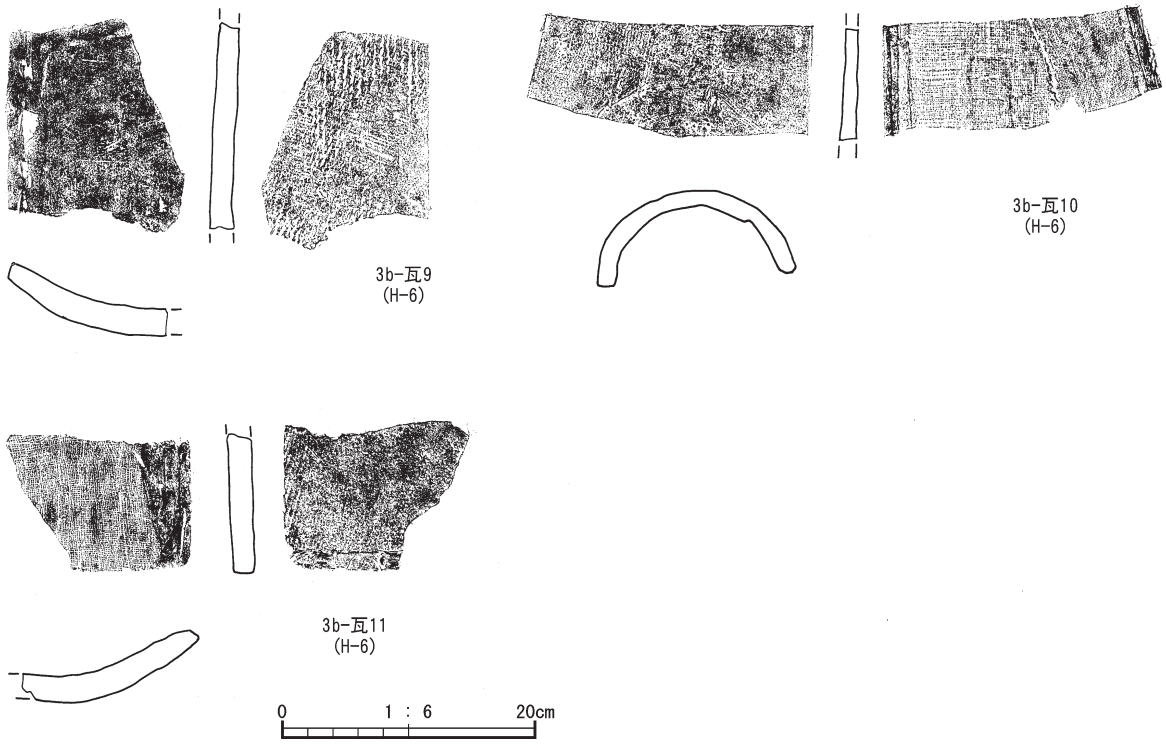


Fig.39　3 b区H－6号住居跡出土瓦(2)

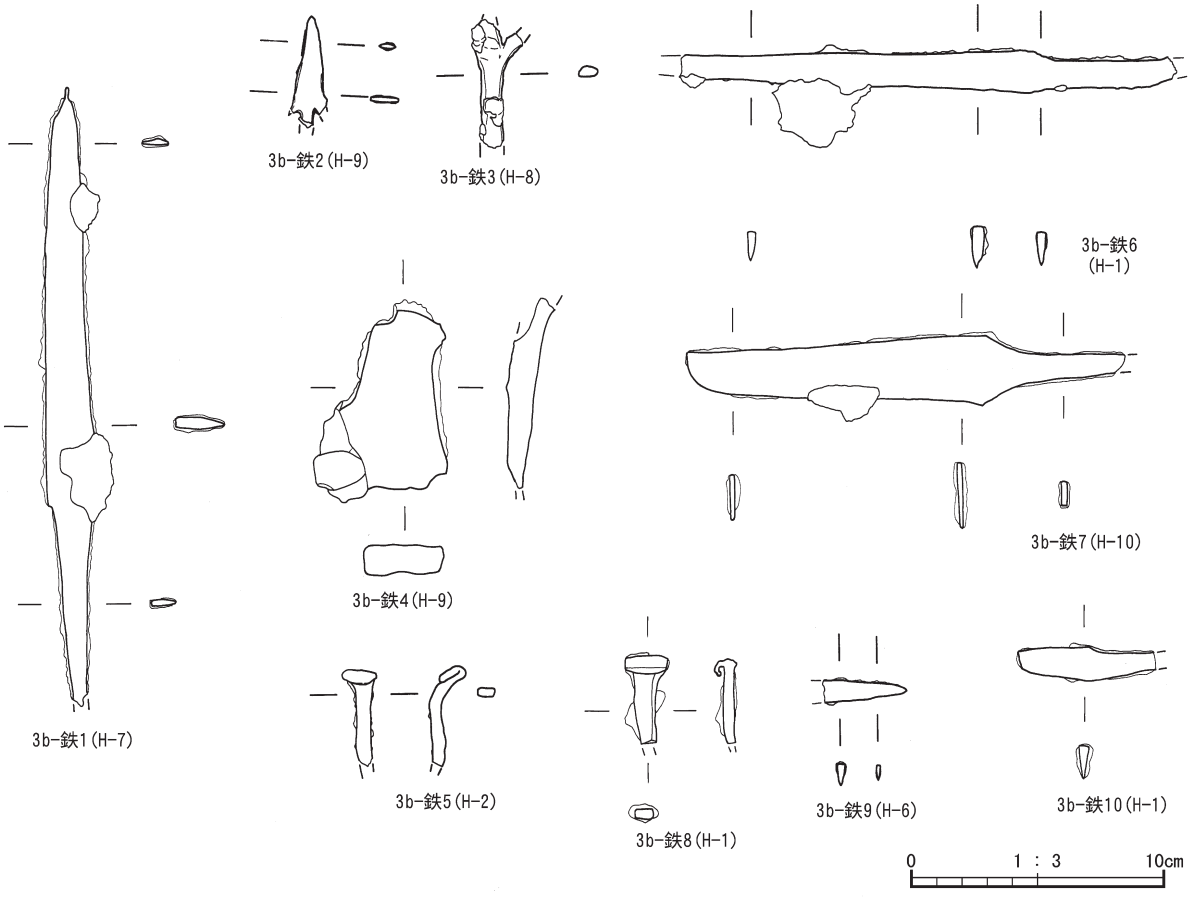


Fig.40　3 b区出土鉄製品

4区

調査区の概要

本調査区は3つの調査区からなる。4ａ区は、元総社北小学校の南西約170mの牛池川右岸上に位置し、標高121mほどである。検出した遺構は、覆土中から須恵器の大甕が出土したW－1号溝、その他ピットである。

4ｂ区は、4ａ区の南東約50mに位置する。遺構は保存状態は良くないが竪穴住居跡が5軒検出された。4ｃ区は4ｂ区の東、道を隔てた反対側にある。調査区が狭く、遺構（W－1号溝）の深度が深いところから、調査区内の一部の調査となり、W－1号溝の大まかな走行と深さを確認するにとどまった。

基本層序

4ａ区は、現表土を除去すると、粗粒の砂質土となり、遺構の確認面もこの面であった。

4ｂ区は、調査区の南半分ほどを攪乱されており、保存状態は非常に良くなかった。遺構確認面は、緻密な水成ローム（総社砂層の一部を成す）面で、基本層序として適当な場所はなかった。

4ｃ区も同様で現耕作土下が確認面で、やや堅緻な総社砂層面であった。

4ａ区

(1) 溝跡

W－1号溝跡（Fig.42、PL.11）

位置　X168･169、Y93～95グリッド　**主軸方向**　N－16°－E　**形状等**　最大上幅3.24m、最大下幅0.54m、深さ1.33m（南側1.27m、北側0.33m）　**出土遺物**　覆土中から須恵器の大甕が出土している。　**時期**　不明。出土した大甕は廃棄もしくは流れ込みと思われ、遺構の時期を推定できる遺物の出土はなかった。

4ｂ区

(1) 竪穴住居跡

H－1号住居跡（Fig.43、PL.11）

位置　X179・180、Y103・104グリッド　**主軸方向**　N－74°－E　**形状等**　東西4.42m、南北(3.78)m、壁現高15.5cm　**面積**　13.84㎡　**貯蔵穴**　長軸45cm、短軸43cm、深さ58.5cm　**床面**　ほぼ平坦である。　**重複**　H－3～5と重複し、いずれの住居跡よりも本住居跡が新しい。　**竈**　主軸方向N－74°－E。全長107cm、最大幅150cm、焚口部幅48cm。　**出土遺物**　土師器・甕・鉢　**時期**　6世紀第3四半期

H－2号住居跡（Fig.42、PL.11）

位置　X177・178、Y102・103グリッド　**主軸方向**　N－64°－E　**形状等**　東西(3.76)m、南北(2.60)m、壁現高29.5cm　**面積**　9.68㎡　**壁周溝**　あり　**貯蔵穴**　長軸70cm、短軸55cm、深さ55.5cm　**床面**　ほぼ平坦である。　**竈**　未検出。　**重複**　なし　**出土遺物**　土師器・坏　**時期**　6世紀第3四半期。なお、調査区の耕作者より本住居跡のあたりから出土したという須恵器の椀の寄贈を受けたが、本住居跡の貯蔵穴出土の土師器・坏とは時期が合わない。

H－3号住居跡（Fig.43、PL.11）

位置　X180･181、Y103グリッド　**主軸方向**　N－67°－E　**形状等**　東西(1.64)m、南北(1.92)m、壁現高37.0cm　**面積**　1.69㎡　**床面**　ほぼ平坦である。　**竈**　未検出。　**重複**　H－1、H－5と重複し、本住居跡はH－1より古く、H－5より新しい。　**出土遺物**　なし　**時期**　不明

Ｈ－４号住居跡（Fig.43、PL.11）

位置　X180、Y103グリッド　**主軸方向**　N―86°―E　**形状等**　東西(1.18)m、南北(0.68)m、壁現高28.5㎝　**面積**　0.62㎡　**貯蔵穴**　長軸50㎝、短軸40㎝、深さ19.5㎝　**床面**　貯蔵穴周辺のみの検出のため不明。　**竈**　未検出。　**重複**　Ｈ－１と重複し、本住居跡が古い。　**出土遺物**　なし　**時期**　不明。　**備考**　貯蔵穴周辺のみ検出・調査。

Ｈ－５号住居跡（Fig.43）

位置　X180、Y103グリッド　**主軸方向**　N―81°―E　**形状等**　東西(1.80)m、南北(1.20)m、壁現高15.5㎝　**面積**　1.98㎡　**床面**　攪乱により乱れるが、ほぼ平坦である。　**竈**　未検出。　**壁周溝**　あり　**重複**　Ｈ－１、Ｈ－３と重複し、本住居跡が言いずれよりも古い。　**出土遺物**　なし　**時期**　不明。　**備考**　南壁(壁周溝）の一部のみ検出・調査。

４ｃ区

Ｗ－１号溝跡（Fig.42、PL.10）

位置　X183、Y104・105グリッド　**主軸方向**　N－３°―W　**形状等**　最大上幅(3.36)m、最大下幅0.28m、深さ2.52m　**出土遺物**　なし　**時期**　不明。　**備考**　本年度調査の５区及び６区の溝と走行が一致するので蒼海城関係の堀と想定できる。

Tab.19　４ｂ区　住居跡等一覧表

遺構名	位置	規　模（m）			面積 (㎡)	主軸方向	竈		周溝	主な出土遺物		
		東西	南北	壁現高(㎝)			位　置	構築材		土師器	須恵器	その他
Ｈ－１	X179・180 Y103・104	4.42	(3.78)	15.5	13.84	N―74°―E	東壁中央	粘土		○		
Ｈ－２	X177・178 Y102・103	(3.76)	(2.60)	29.5	9.68	N―64°―E			○	○		
Ｈ－３	X180・181 Y103	(1.64)	(1.92)	37.0	1.69	N―67°―E						石
Ｈ－４	X180 Y103	(1.18)	(0.68)	28.5	0.62	N―86°―E						
Ｈ－５	X180 Y103	(1.80)	(1.20)	15.5	1.98	N―81°―E			○			

Tab.20　４区　溝跡計測表

遺構名	位置	長さ(m)	深さ（㎝）		上幅（㎝）		下幅（㎝）		主軸方向	断面形	時　期
			最大	最小	最大	最小	最大	最小			
４ａＷ－１	X168・169 Y93～95	不明	127.0	33.0	324.0		54.0		N―16°―E	V字状	
４ｃＷ－１	X183 Y104・105	不明	252.0		(336.0)		28.0		N－３°―W	V字状	

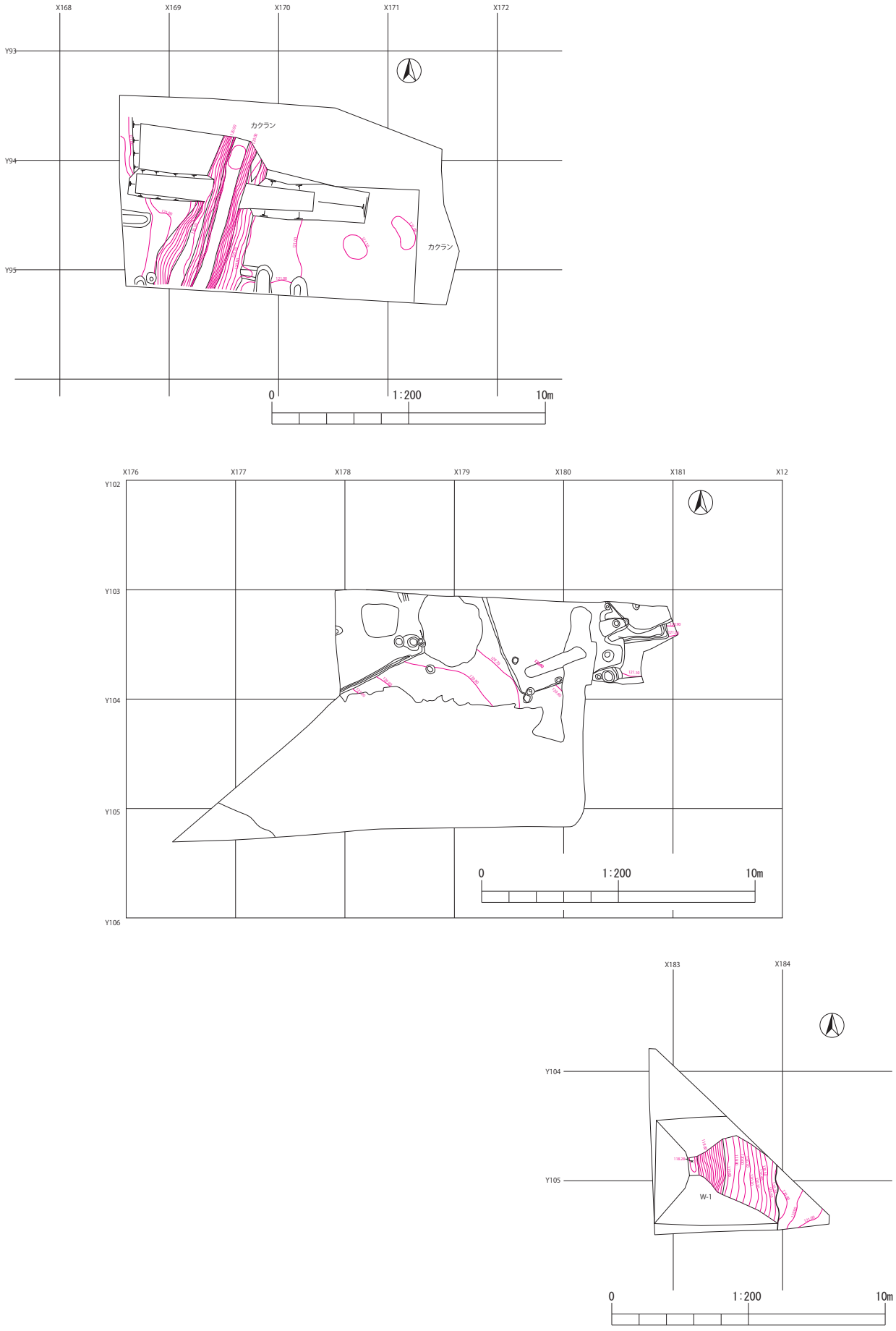
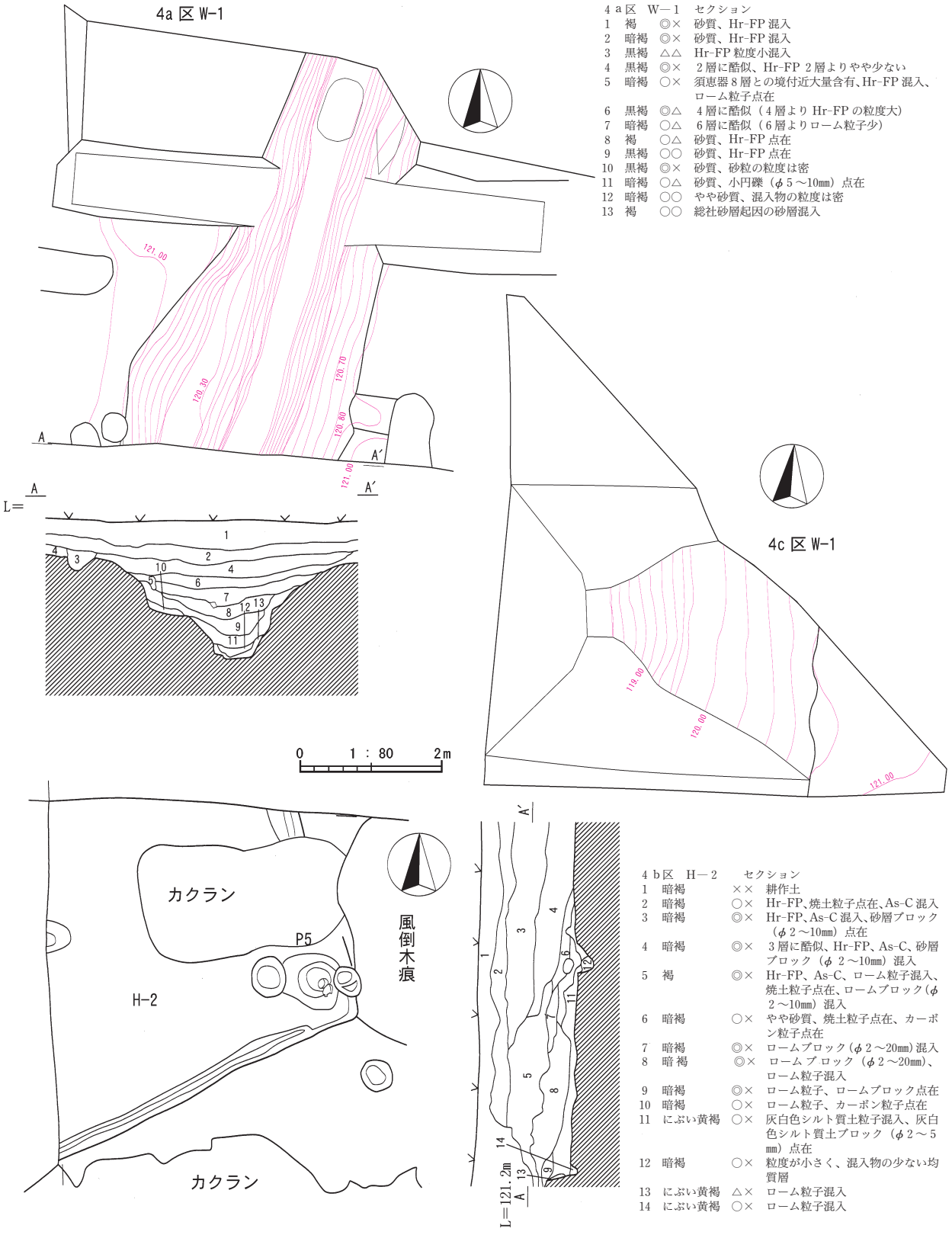

X168
X169
X170
X171
X172
Y93
Y94
Y95
カクラン
カクラン
0
1:200
10m
X176
X177
X178
X179
X180
X181
X12
Y102
Y103
Y104
Y105
Y106
0
1:200
10m
X183
X184
Y104
Y105
W-1
0
1:200
10m

Fig.41　4 区全体図

Tab.21　4区　古墳・奈良・平安時代出土土器観察表

番号	出土遺構 層　位	器種名	①口径　②器高 ③底径	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備　考
4 b－1	H－1	土師器 鉢	①21.8　②(9.4) ③—	①中粒　②良好 ③2.5YR5/6明赤褐 ④3/4	口縁部：外反、内外面撫で。外面篦削り。胴部：上位に膨らみ、器最大径、内・外面撫で。底部欠損。	13	
4 b－2	H－2 P 2	土師器 杯	①12.2　②3.5 ③—	①粗粒　②良好 ③2.5YR6/4にぶい橙 ④ほぼ完形	口縁部：短く直立、内外面横撫で。底部：やや丸底、内面撫で、外面篦削り。表面が剝離している。	1	
4 b－3	H－2 P 2	土師器 杯	①14.4　②3.5 ③—	①中粒　②良好 ③10YR6/6赤橙 ④5/6	口縁部：一部欠損、内外面横撫で。底部：やや丸底、内面撫で、外面篦削り。表面が剝離している。	2	
4 b－4	H－1	土師器 甕	①[17.2]　②23.3 ③—	①粗粒　②良好 ③7.5YR7/4にぶい橙 ④破片	口縁部：外反、内外面撫で。外面篦削り。胴部：上位に膨らみ、器最大径、内・外面撫で。底部欠損。	竈4、竈10	
4 b－5	H－1	土師器 長胴甕	①—　②26.2 ③3.6	①粗粒　②良好 ③5YR6/4にぶい橙 ④1/3	口縁部：器最大径、外反、内・外面撫で。胴部・底部：内外面撫で。外面篦削り。	竈、覆土、5、6、9、12、15	酸化焔
4 b－6	H－2 寄贈竈	須恵器 坏	①11.6　②3.0 ③—	①中粒　②良好 ③10YR7/4にぶい黄橙 ④3/4	口縁部：外傾、内•外面横撫で。胴部：内•外面横撫で。底部：平底。回転糸切りきりあり。		
4 b－7	H－2 寄贈竈	須恵器 高台椀	①12.3　②4.5 ③—	①中粒　②良好 ③10YR5/2暗灰黄 ④3/4	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後、付け高台。		
4 a－1	W－1	須恵器 大甕	①15.6　②31.2 ③—	①中粒　②良好 ③10YR5/2暗灰黄 ④3/4	轆轤整形。口縁部：内外面轆轤撫で。胴部：中位器最大径。外面叩き、中位に断面四角形の摘み有り。		



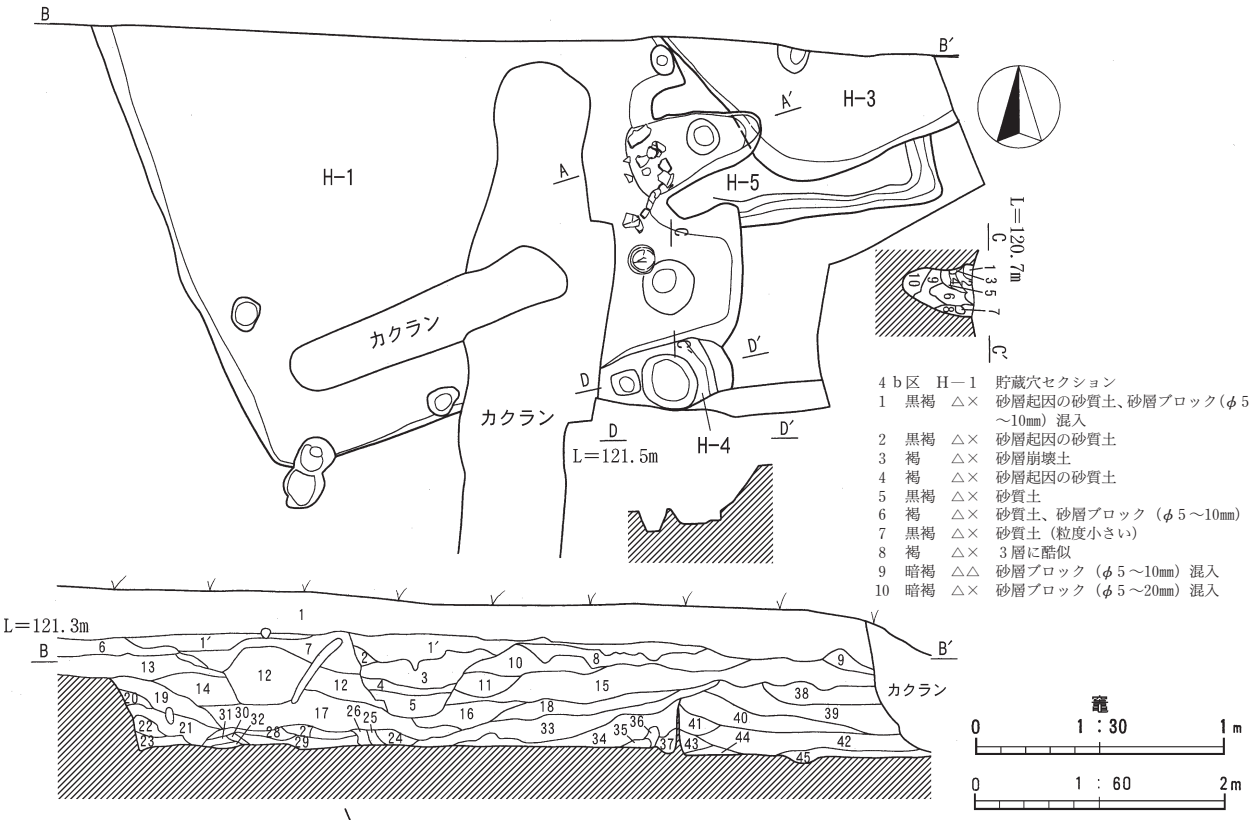
4 a区　W－1　セクション

1	褐	◎×	砂質、Hr-FP 混入
2	暗褐	◎×	砂質、Hr-FP 混入
3	黒褐	△△	Hr-FP 粒度小混入
4	黒褐	◎×	2層に酷似、Hr-FP 2層よりやや少ない
5	暗褐	○×	須恵器8層との境付近大量含有、Hr-FP 混入、ローム粒子点在
6	黒褐	◎△	4層に酷似（4層より Hr-FP の粒度大）
7	暗褐	○△	6層に酷似（6層よりローム粒子少）
8	褐	○△	砂質、Hr-FP 点在
9	黒褐	○○	砂質、Hr-FP 点在
10	黒褐	◎×	砂質、砂粒の粒度は密
11	暗褐	○△	砂質、小円礫（φ5～10㎜）点在
12	暗褐	○○	やや砂質、混入物の粒度は密
13	褐	○○	総社砂層起因の砂層混入

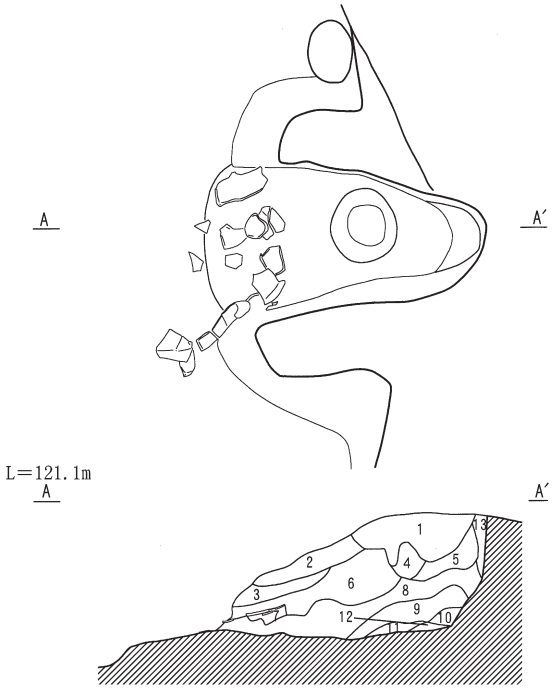
4 b区　H－2　セクション

1	暗褐	××	耕作土
2	暗褐	○×	Hr-FP、焼土粒子点在、As-C 混入
3	暗褐	◎×	Hr-FP、As-C 混入、砂層ブロック（φ2～10㎜）点在
4	暗褐	◎×	3層に酷似、Hr-FP、As-C、砂層ブロック（φ 2～10㎜）混入
5	褐	◎×	Hr-FP、As-C、ローム粒子混入、焼土粒子点在、ロームブロック（φ2～10㎜）混入
6	暗褐	○×	やや砂質、焼土粒子点在、カーボン粒子点在
7	暗褐	◎×	ロームブロック（φ2～20㎜）混入
8	暗褐	◎×	ロームブロック（φ2～20㎜）、ローム粒子混入
9	暗褐	◎×	ローム粒子、ロームブロック点在
10	暗褐	○×	ローム粒子、カーボン粒子点在
11	にぶい黄褐	○×	灰白色シルト質土粒子混入、灰白色シルト質土ブロック（φ2～5㎜）点在
12	暗褐	○×	粒度が小さく、混入物の少ない均質層
13	にぶい黄褐	△×	ローム粒子混入
14	にぶい黄褐	○×	ローム粒子混入

Fig.42　4 a区W－1号溝跡、4 b区H－2号住居跡



4ｂ区　H－1　貯蔵穴セクション
1　黒褐　△×　砂層起因の砂質土、砂層ブロック（φ5～10㎜）混入
2　黒褐　△×　砂層起因の砂質土
3　褐　　△×　砂層崩壊土
4　褐　　△×　砂層起因の砂質土
5　黒褐　△×　砂質土
6　褐　　△×　砂質土、砂層ブロック（φ5～10㎜）
7　黒褐　△×　砂質土（粒度小さい）
8　褐　　△×　3層に酷似
9　暗褐　△△　砂層ブロック（φ5～10㎜）混入
10　暗褐　△×　砂層ブロック（φ5～20㎜）混入



4ｂ区　H－1　カマドセクション
1　褐　　○△　焼土ブロック（φ2～5㎜）混入
2　にぶい黄褐　○△　焼土ブロック（φ2～5㎜）点在
3　褐　　○△　焼土粒子点在
4　明褐　○×　焼土粒子、ブロック（φ2～10㎜）混入
5　褐　　○△　焼土ブロック（φ2～5㎜）混入
6　褐　　○○　焼土粒子点在
7　にぶい褐　○○　焼土ブロック（φ2～5㎜）混入
8　褐　　○○　焼土ブロック（φ5～10㎜）混入
9　暗褐　△○　焼土ブロック（φ5～20㎜）混入
10　褐　　○◎　焼土粒子点在
11　褐　　△×　焼土粒子混入
12　褐　　○×　焼土粒子混入
13　褐　　○△　焼土ブロック（φ5～10㎜）点在

4ｂ区　H－2　セクション
1　暗褐　××　耕作土
1′　暗褐　△×　砂層ブロック（φ2～20㎜）混入
2　暗褐　○×　砂質、円礫（φ10㎜）点在
3　暗褐　◎×　砂層ブロック（φ2～10㎜）、小円礫混入
4　暗褐　◎×　小円礫（φ2～10㎜）混入
5　暗褐　◎×　4層に酷似、砂層ブロック（φ2～10㎜）、カーボン粒子点在
6　暗褐　○×　砂層ブロック（φ2～10㎜）点在
7　黒褐　◎×　砂質土
8　灰黄褐　○×　砂質土、下部にラミナ層
9　暗褐　○×　砂質土、均質土、Hr-FP混入
10　暗褐　○×　砂質土、小円礫（φ2～5㎜）混入
11　黒褐　◎×　砂質、砂層ブロック（φ2～10㎜）、小円礫（φ2～10㎜）混入
12　暗褐　○×　砂層ブロック（φ2～20㎜）混入
13　暗褐　○×　ローム粒子混入
14　暗褐　○×　Hr-FP混入、砂層ブロック（φ2～10㎜）混入
15　黒褐　◎×　砂質土、11層に酷似、やや均質
16　暗褐　◎×　砂質土、小円礫（φ2～5㎜）、砂層ブロック（φ2～5㎜）点在
17　暗褐　○×　砂層ブロック（φ2～20㎜）、カーボンブロック（φ5㎜）点在
18　暗褐　◎×　16層に酷似（16層より均質）
19　黒褐　○×　Hr-FP混入
20　暗褐　△×　粒度の小さい均質土、砂層ブロック（φ2～5㎜）点在
21　暗褐　○×　粒度の小さい均質土、砂層ブロック（φ2～30㎜）混入
22　にぶい赤褐　○×　砂層起因の砂粒ブロック状に混入
23　褐　　○×　砂層起因の砂粒（粒度小）混入
24　黒褐　○×　砂層ブロック（φ5～10㎜）点在、砂質土
25　黒褐　○×　砂層ブロック（φ5～20㎜）混入
26　暗褐　○×　砂層ブロック（φ2～5㎜）混入
27　暗褐　○×　砂層ブロック（φ2～10㎜）混入、Hr-FP混入
28　黒褐　○×　砂質、砂層ブロック（φ2～5㎜）混入
29　暗褐　○×　砂層ブロック（φ2～20㎜）混入
30　暗褐　○×　円礫（φ10㎜）点在
31　褐　　○×　砂層起因の砂質土
32　暗褐　○△　砂層ブロック（φ2～20㎜）混入
33　暗褐　◎×　小円礫（φ2～5㎜）混入、砂層ブロック（φ5～20㎜）点在
34　黒褐　◎×　Hr-FP（φ1～2㎜）混入、焼土ブロック（φ2～10㎜）、カーボンブロック点在
35　暗褐　○×　砂層起因の砂粒混入
36　にぶい黄褐　◎×　カマド構築粘土崩壊土混入
37　暗褐　◎×　砂層起因、砂粒、砂層ブロック（φ2～5㎜）点在
38　黒褐　◎×　砂質土、砂層ブロック（φ2～10㎜）点在
39　黒褐　◎×　砂質土、38層に酷似、38層より砂粒少ない
40　黒褐　◎×　砂質土、砂層起因の砂粒、Hr-FP混入
41　黒褐　◎×　砂質土、40層に酷似（40層よりHr-FPの粒度小さくやや少ない）
42　暗褐　◎×　砂質土、Hr-FP（粒度小）、砂層ブロック（φ2～10㎜）混入
43　黒褐　◎×　砂質土、砂層ブロック（φ2～5㎜）点在
44　暗褐　◎×　砂層ブロック（φ2～10㎜）混入
45　暗褐　◎×　砂層ブロック（φ2～5㎜）、砂層ブロック（φ10㎜）点在

Fig.43　4ｂ区H－1・2号住居跡

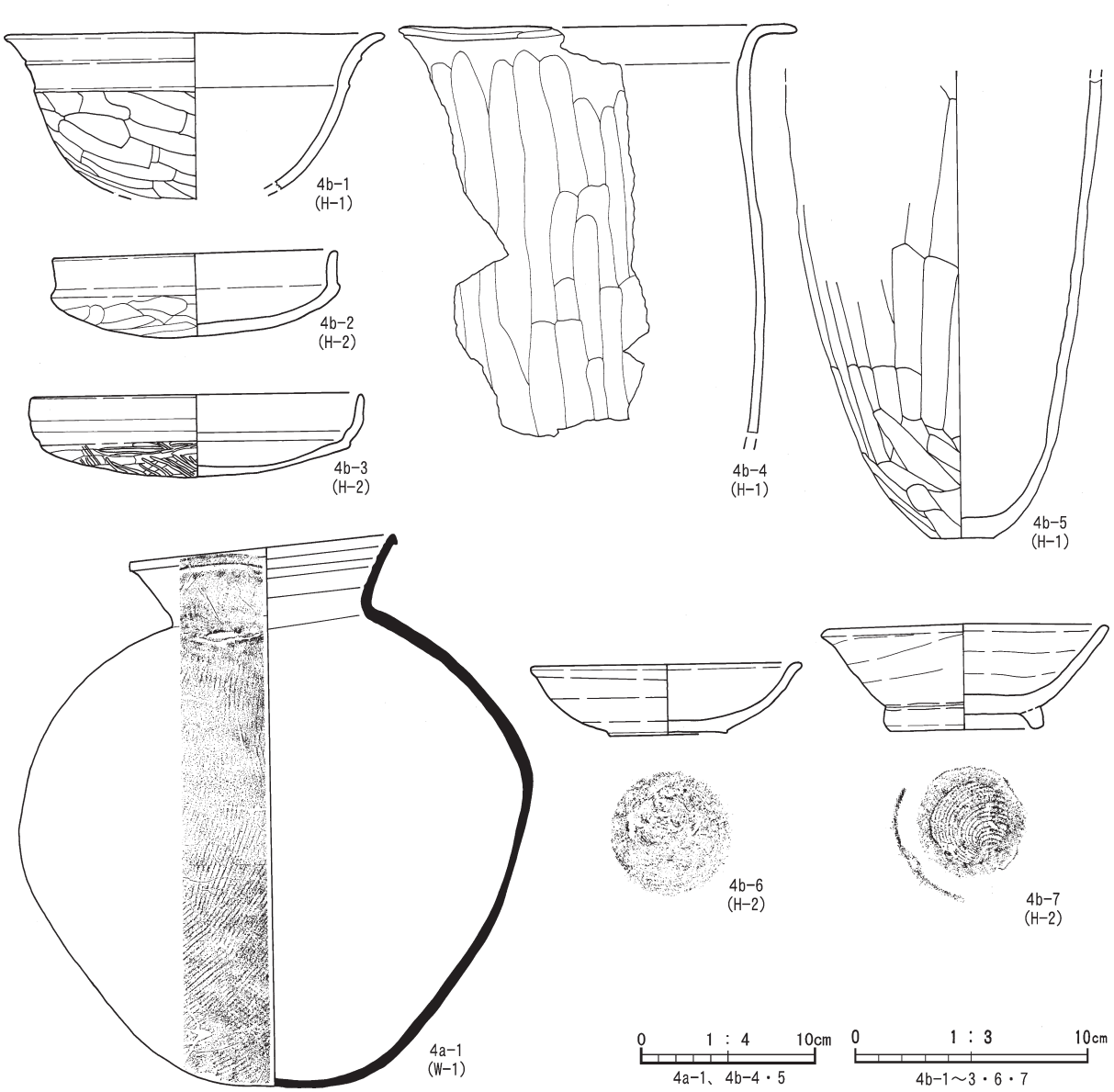


Fig.44　4 b区H－1・2号住居跡、W－1号溝跡出土遺物

5区

調査区の概要

本調査区は、4ｃ区の南約170mに位置し、標高120m程である。検出した遺構は、竪穴住居跡1軒と4ｃから本調査区の西を通り6区の西に抜ける大溝1条、時期不明の溝2条である。

遺構の保存状態は悪く、調査区中央から北にかけては、攪乱されており、検出遺構は比較的保存状態の良い南東からの検出であった。

基本層序

Ⅰ層　黒褐色土　　現耕作土。砂質土。Hr-FP少量不均質に混入
Ⅱ層　黒褐色土　　砂質土。Hr-FP少量不均質に混入
Ⅲ層　にぶい黄褐色土　総社砂層
※H－1はⅡ層から掘り込まれる。

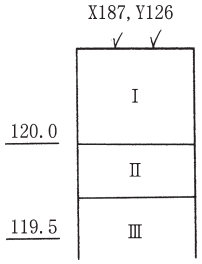


Fig.45　5区基本層序

⑴　竪穴住居跡

H－1号住居跡（Fig.47、PL.11・12）

位置　X186・187、Y126・127グリッド　**主軸方向**　N－50°－E　**形状等**　東西(1.56)m、南北(1.96)m、壁現高29㎝　**面積**　1.94㎡　**床面**　ほぼ平坦。　**竈**　未検出。　**壁周溝**　○　**出土遺物**　なし

⑵　溝跡

W－1号溝跡（Fig.46、PL.12）

位置　X186、Y126･127グリッド　**主軸方向**　N－17°－W　**形状等**　最大上幅0.82m、最大下幅0.76m、最小下幅0.64m、深さ12.5㎝、長さ3.24m　**時期**　不明

W－2号溝跡（Fig.46・47、PL.12）

位置　X186、Y126.127グリッド　**主軸方向**　N－172°－E　**形状等**　最大上幅1.1m、最大下幅0.8m、最小下幅0.42m、深さ27.5㎝、長さ3.90m　**時期**　不明

W－3号溝跡（Fig.46・47、PL.12）

位置　X184・185、Y125～127グリッド　**主軸方向**　N－176°－E　**形状等**　長さ7.18㎡　**時期**　不明

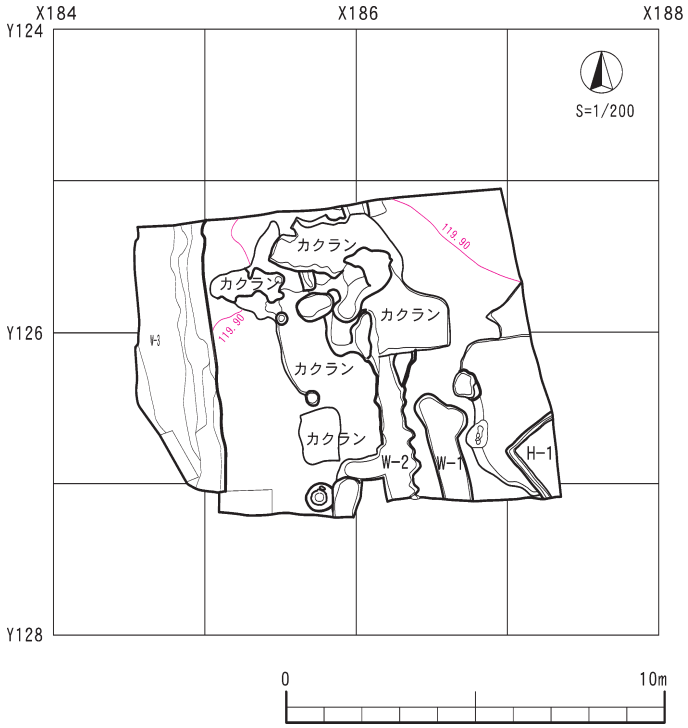


Fig.46　5 区全体図

Tab.22　5 区　住居跡一覧表

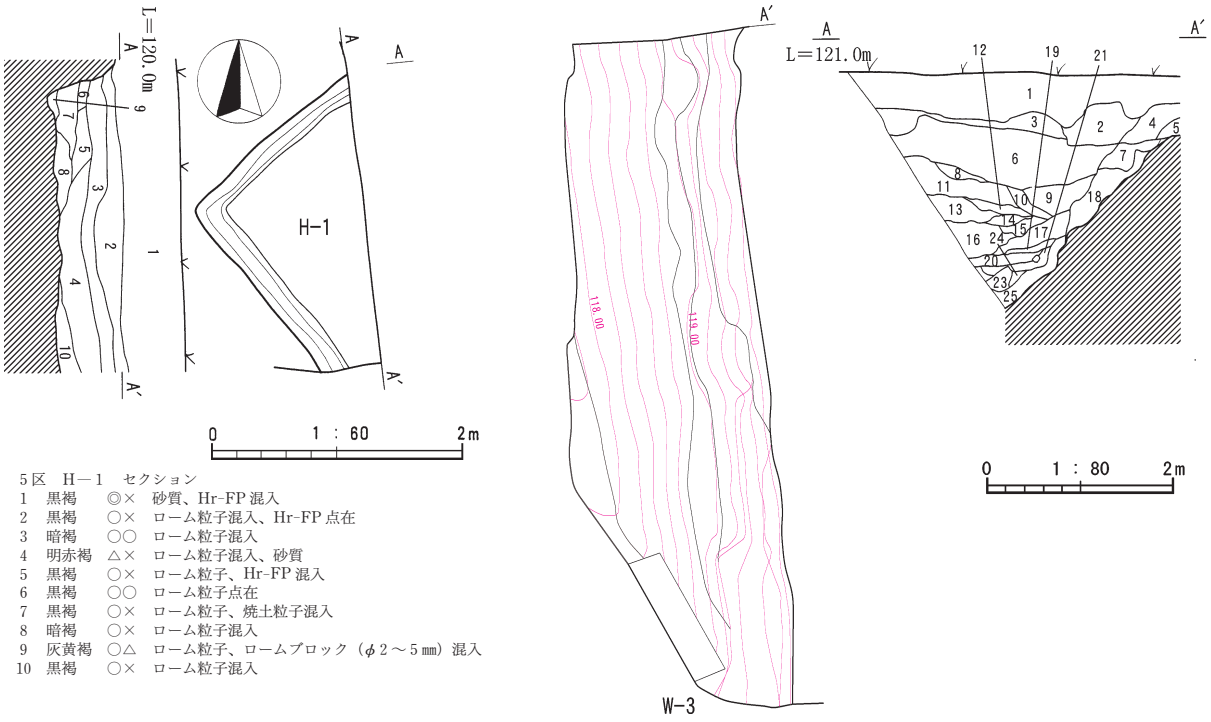
遺構名	位置	規　模（m）			面積 (㎡)	主軸方向	竈		周溝	主な出土遺物		
		東西	南北	壁現高(cm)			位　置	構築材		土師器	須恵器	その他
H－1	X186・187 Y126・127	(1.56)	(1.96)	29.0	1.94	N－50°－E			○			

Tab.23　5 区　溝跡、その他計測表

遺構名	位置	長さ(m)	深さ（cm）		上幅（cm）		下幅（cm）		主軸方向	断面形	時　期
			最大	最小	最大	最小	最大	最小			
W－1	X186 Y126・127	3.24	12.5		82.0	76.0		64	N－17°－W	V字状	
W－2	X186 Y126・127	3.90	27.5		110.0	80.0		42	N－172°－E	V字状	
W－3	X184・185 Y125～127	7.18							N－176°－E	V字状	

Tab.24　5 区　土坑計測表

遺構名	位　置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	出 土 遺 物	備　考
D－1	X185、Y127	78.0	72.0		円　形		
D－2	X186、Y126	86.0	66.0		長楕円形	なし	



5区　H－1　セクション
1　黒褐　◎×　砂質、Hr-FP 混入
2　黒褐　○×　ローム粒子混入、Hr-FP 点在
3　暗褐　○○　ローム粒子混入
4　明赤褐　△×　ローム粒子混入、砂質
5　黒褐　○×　ローム粒子、Hr-FP 混入
6　黒褐　○○　ローム粒子点在
7　黒褐　○×　ローム粒子、焼土粒子混入
8　暗褐　○×　ローム粒子混入
9　灰黄褐　○△　ローム粒子、ロームブロック（φ２～５㎜）混入
10　黒褐　○×　ローム粒子混入

5区　W－1　セクション
1　黒褐　○×　砂質、ローム粒子、Hr-FP 混入
2　灰褐　△×　ローム粒子混入
3　暗赤褐　○×　ローム粒子混入
4　暗赤褐　△△　ローム粒子混入
5　灰褐　△×　ローム粒子混入
6　灰褐　○×　ローム粒子混入
7　灰褐　○×　ローム粒子、ロームブロック（φ５～10㎜）混入
8　黒褐　◎△　ローム微細粒混入
9　灰褐　◎△　角礫（φ50㎜）点在。
10　暗褐　◎△　砂層ブロック（φ５～30㎜）、Hr-FP 点在
11　黒褐　◎△　ローム微細粒混入
12　黒褐　◎△　８層に酷似（８層よりブロック少ない）、Hr-FP 混入
13　暗褐　○△　ローム粒子混入、Hr-FP 混入
14　暗褐　○△　11層に酷似、11層より Hr-FP 多い、焼土粒子混入
15　暗褐　○△　砂層ブロック（φ３～５㎜）混入
16　黒褐　○△　ローム粒子混入
17　黒褐　○△　14層に酷似、砂質ブロック（φ10～25㎜）混入
18　にぶい黄褐　◎×　砂層ブロック（φ５～30㎜）混入
19　黒褐　○△　14、15層に酷似、砂層ブロックやや多し
20　黒褐　○△　ローム粒子、砂層ブロック（φ10㎜）混入
21　黒褐　○△　ローム粒子混入
22　灰褐　◎△　砂層ブロック（φ５～10㎜）混入
23　灰黄褐　◎△　砂層ブロック（φ30～50㎜）混入
24　黒褐　○△　砂層ブロック（φ30㎜）混入
25　灰黄褐　◎×　砂層ブロックそのもの

Fig.47　５区Ｈ－１住居跡、Ｗ－１号溝跡

６区

調査区の概要

本調査区は５区の南約50ｍに位置し、標高約120ｍほどである。検出された遺構は、古墳時代から平安時代にかけての竪穴住居跡が３軒、土坑２基、溝跡１条を数える。

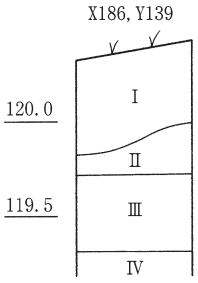


Fig.48　６区基本層序

基本層序
Ⅰ層　黒褐色土　現耕作土。Hr-FP 中量均質に混入
Ⅱ層　褐灰色土　褐灰色粘質土のブロック粒子を不均質に混入する。
　　Hr-FP を少量不均質に混入
Ⅲ層　黄褐色土　総社砂層
※遺構はⅡ層から掘り込まれる。

(1)　竪穴住居跡

Ｈ－１号住居跡（Fig.50、PL.12）

位置　X186・187、Y137～139グリッド　**主軸方向**　不明　**床面**　硬化面あり。焼土あり。　**竈**　主軸方向Ｎ－109°－Ｗ。全長92cm、最大幅90cm、焚口部幅34cm　**出土遺物**　轆轤整形椀・皿、臼玉、鉄製品　**時期**　９世紀後半

Ｈ－２号住居跡（Fig.51、PL.13）

位置　X187・188、Y136・137グリッド　**主軸方向**　Ｎ―71°―Ｅ　**形状等**　東西3.78㎡、南北2.37㎡　**面積**　6.23㎡　**柱穴**　P_2　最大幅46㎝、最小幅37㎝、深さ60㎝　**床面**　ほぼ平坦であるが硬化面なし。　**竈**　未検出。　**壁周溝**　○　**重複**　なし　**出土遺物**　須恵器・短頸壺・盤、土師器坏・甕　**時期**　７世紀後半　**備考**　元総社遺跡群（23）Ｈ－３と同一住居

Ｈ－３号住居跡（Fig.50、PL.13）

位置　X186～188、Y138、139グリッド　**主軸方向**　Ｎ―67°―Ｅ　**形状等**　東西4.85m、南北(3.43)ｍ　**面積**　10.36㎡　**柱穴**　最大46㎝、最小36㎝、深さ60㎝　**床面**　ほぼ平坦であるが硬化面なし。　**竈**　主軸方向Ｎ―68°―W。全長84㎝、最大幅(58)㎝、焚口部幅(25)㎝、煙道部長110㎝　**壁周溝**　○　**重複**　Ｉ－１に重複し、Ｉ－１より古い。　**出土遺物**　土師器・甕・坏　**時期**　６世紀第４四半期

⑵　溝跡

Ｗ－１号溝跡（Fig.51、PL.12・13）

位置　X184・185、Y137～139グリッド　**主軸方向**　Ｎ―17°―W　**形状等**　底部に狭い平坦面を有する断面Ｖ字状。　**時期**　不明

⑶　土坑、井戸跡（Fig.51）

Ｄ－１号土坑（Fig.51、PL.13）

位置　X188、Y138グリッド　**形状等**　円形　最大幅0.72m、最小幅0.62m

Ｄ－２号土坑（Fig.51）

位置　X188、Y137・138グリッド　**形状等**　長楕円形　最大幅1.92m、最小幅0.97m

Ｉ－１号井戸跡（Fig.49）

位置　X186、Y139グリッド　**形状等**　円形　最大幅1.00m、最小幅0.87m

Ｉ－２号井戸跡（Fig.49）

位置　X185・186、Y139グリッド　**形状等**　円形　最大幅0.90m、最小幅0.85m

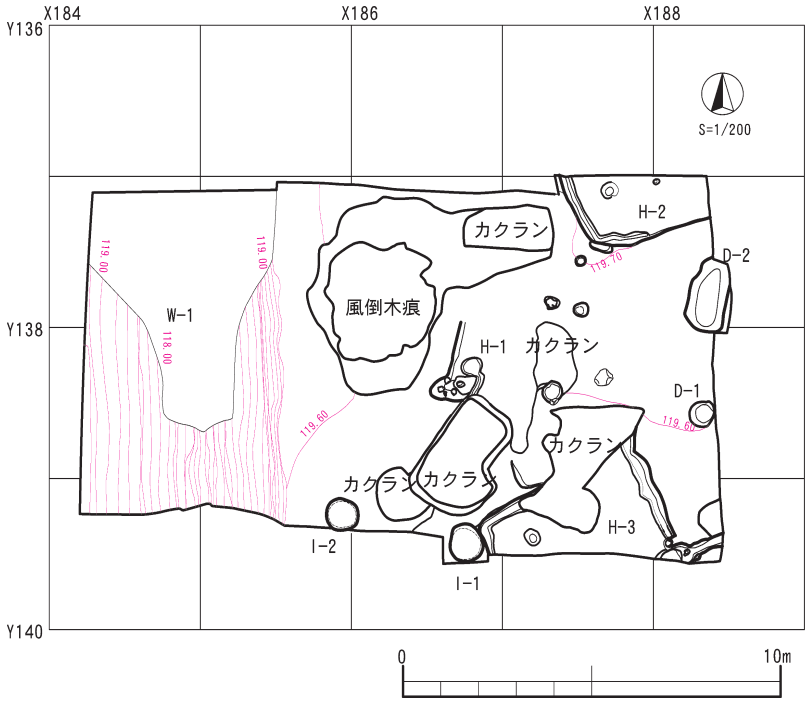


Fig.49　6 区全体図

Tab.25　6 区　住居跡一覧表

遺構名	位置	規　模（m）			面積（㎡）	主軸方向	竈		周溝	主な出土遺物		
		東西	南北	壁現高(cm)			位　置	構築材		土師器	須恵器	その他
H－1	X186・187 Y137～139	?	?	?	?	?	?	粘土			○	鉄等
H－2	X187・188 Y136～137	3.78	2.37		6.23	N－71°－E			○	○	○	鉄・石
H－3	X186～188 Y138・139	4.85	(3.43)		10.36	N－67°－E	東壁南寄り	粘土	○	○		

Tab.26　6 区　溝跡計測表

遺構名	位置	長さ(m)	深さ（cm）		上幅（cm）		下幅（cm）		主軸方向	断面形	時　期
			最大	最小	最大	最小	最大	最小			
W－1	X184・185 Y137～139	不明	256.0		52.0		24		N－17°－W	V字状	中世

Tab.27　6 区　土坑・井戸跡計測表

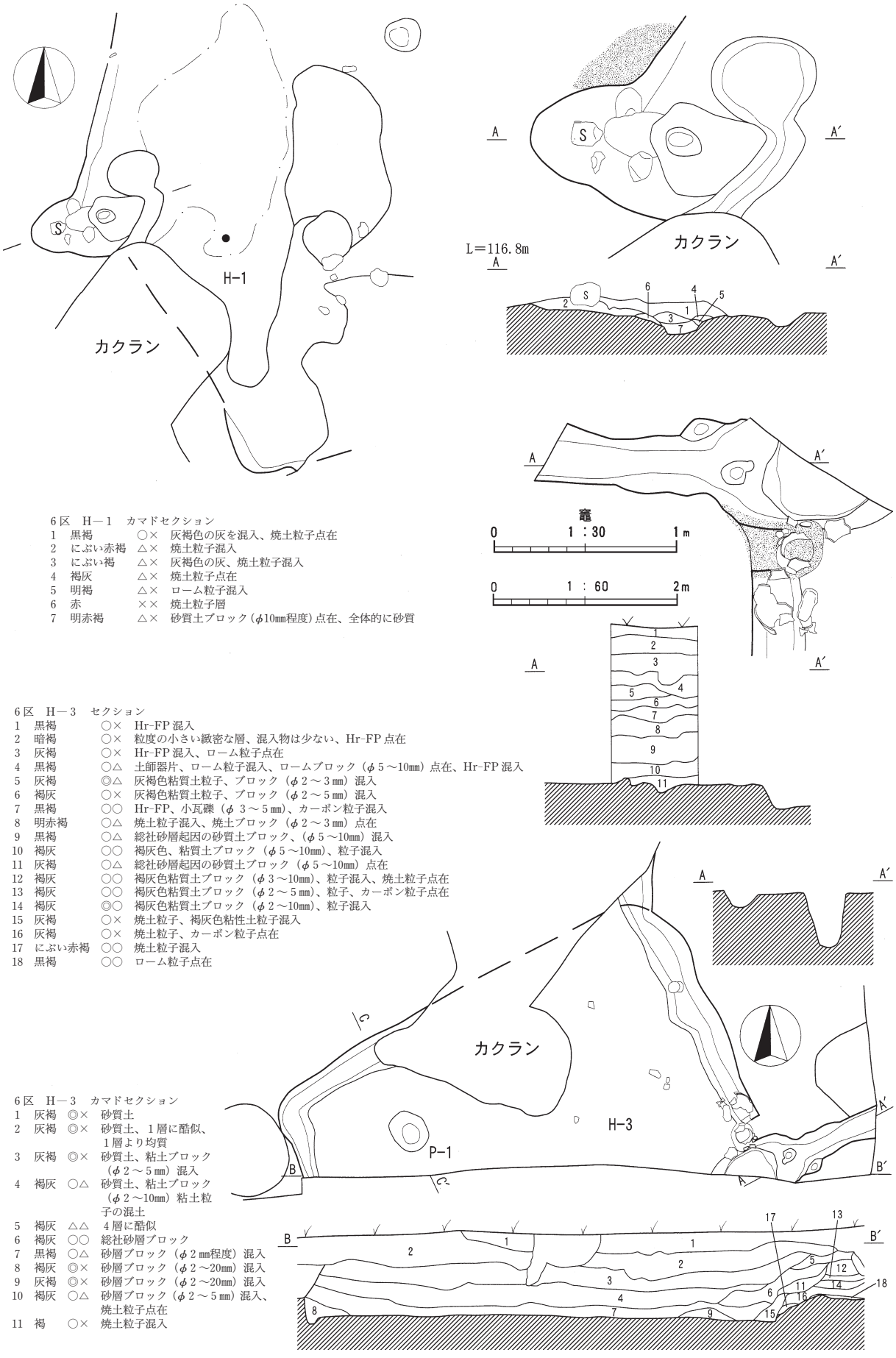
遺構名	位　置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	出 土 遺 物	備　考
D－1	X188、Y138	72.0	62.0	48.0	円　形	土師器	
D－2	X188、Y137・138	192.0	97.0	24.0	長楕円形		
I－1	X186、Y139	100.0	87.0		円　形		
I－2	X185・186、Y139	90.0	85.0		円　形		

Tab.28　6区　古墳・奈良・平安時代出土土器観察表

番号	出土遺構 層　位	器種名	①口径　②器高 ③底径	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備　考
6－1	H－1 覆土	土師器 カワラケ	①8.6　②1.8 ③4.0	①中粒　②良好 ③7.5YR6/4にぶい橙 ④7/8	轆轤整形。口縁部：欠損。体部・底部：内外面轆轤撫で。回転糸切りあり。		酸化焔焼成気味
6－2	H－1	須恵器 椀	①13.8　②4.5 ③—	①中粒　②良好 ③5YR4/8赤褐 ④3/4	轆轤整形。口縁部：外反、内外面撫で。体部：底部から外反して立ち上がり、膨らみを持って口縁部へ至る、内外面撫で。底部：内面撫で調整。	4	酸化焔焼成気味
6－3	H－1 覆土	須恵器 椀	①14.8　②4.2 ③6.7	①中粒　②良好 ③7.5YR5/3にぶい褐 ④4/5	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り。		酸化焔焼成気味
6－4	H－1	臼玉	①最大1.1長 ②最大厚0.7 ③—	①—　②— ③—　④ほぼ完形		2	
6－5	H－1	鉄 刀子	①最大長7.2 ②最大幅2.1 ③最大厚0.4	①—　②— ③—　④1/2		3	
6－6	H－1	鉄 鎌	①最大幅3.1 ②最大長(10.5) ③最大厚0.8	①—　②— ③—　④4/5		3	
6－7	H－2	土師器 坏	①10.4　②3.2 ③—	①中粒　②良好 ③5YR7/6橙 ④ほぼ完形	口縁部：やや外反、内外面横撫で。底部：丸みを帯びた平底、内面撫で、外面篦削り。	6、28	
6－8	H－2	土師器 坏	①11.3　②3.8 ③—	①中粒　②良好 ③5YR6/6橙　④3/4	口縁部：直立、内外面横撫で。底部：丸底、内面撫で指圧痕有り、外面篦削り。	16	酸化焔
6－9	H－2	土師器 坏	①11.8　②(2.9) ③—	①中粒　②良好 ③2.5YR6/4にぶい橙 ④3/4	口縁部：直立、内外面横撫で。底部：やや丸底、内面撫で、外面篦削り。	7、20	
6－10	H－2	土師器 坏	①12.8　②4.1 ③—	①中粒　②良好 ③5YR6/6橙 ④ほぼ完形	口縁部：一部欠損、直立、内外面横撫で。底部：丸底、内面撫で指圧痕有り、外面篦削り。	23、覆土	酸化焔
6－11	H－2	土師器 坏	①14.0　②4.8 ③—	①中粒　②良好 ③5YR6/4にぶい橙 ④9/10	口縁部：一部欠損、外傾、内外面横撫で。交換点に稜有り。底部：やや平底、内面撫で、外面篦削り。	9、10、 覆土	酸化焔
6－12	H－2 覆土	土師器 坏	①(10.0)　②3.1 ③—	①細粒　②良好 ③5YR6/3にぶい橙 ④1/3	口縁部：短く直立し少し内傾、内外面横撫で。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。		
6－13	H－2	須恵器 坏	①10.8　②3.4 ③—	①細粒　②良好 ③5YR6/6橙　④完形	轆轤整形。口縁部：やや外反、内外面撫で。体部：やや膨らみを持ち外傾。内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り。	34	
6－14	H－2	土師器 坏	①10.6　②3.4 ③—	①細粒　②良好 ③7.5YR6/3にぶい褐 ④ほぼ完形	口縁部：やや内傾、内外面撫で。体部：やや膨らみを持って外傾、内面撫で、外面篦削り後、撫で。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。	27、35	
6－15	H－2	須恵器 甕	①[18.0]　②(10.0) ③—	①粗粒　②良好 ③5YR6/6橙 ④口縁部破片	轆轤整形。口縁部：外反。内外面：横撫で。胴部：内面轆轤撫で、外面一部叩き目。底部：欠損。	25	
6－16	H－2	須恵器 盤	①[24.5]　②(5.4) ③—	①粗粒　②良好 ③5YR5/1灰　④2/3	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り。	12	還元焔
6－17	H－2	須恵器 甕	①　② ③	①　② ③　④		24	
6－18	H－2	須恵器 短頸壺	①5.1　②14.2 ③7.8	①粗粒　②良好 ③2.5YR6/1黄灰 ④完形	轆轤整形。口縁部：外傾。内・外面轆轤撫で。回転篦削り。胴部・底部：欠損。	13	
6－19	H－3	土師器 甕	①21.6　②(26.0) ③—	①粗粒　② ③5YR6/4にぶい橙 ④2/3	口縁部：やや直立から外反。内外面：横撫で。胴部：内面撫で、外面上位横方向に篦削り、中位縦方向篦削り、粘土付着。器径ほぼ口縁と同じ。底部：内面撫で、外面篦削り。	7、13	
6－20	H－3	土師器 坏	①11.8　②3.1 ③—	①細粒　②良好 ③2.5YR6/4にぶい橙 ④3/4	口縁部：直立、内外面横撫で。底部：やや平底、内面撫で、外面篦削り。	1	
6－21	H－3	土師器 台付甕	①(5.8)　②12.1 ③—	①中粒　②良好 ③7.5YR6/3にぶい褐 ④脚部分	脚部のみ残存。脚部は下外方に開いて下る。	6	酸化焔
6－22	D－1 覆土	土師器 カワラケ	①[9.6]　②2.3 ③5.2	①中粒　②良好 ③7.5YR7/4にぶい橙 ④1/2	轆轤整形。口縁部：欠損。体部・底部：内外面轆轤撫で。回転糸切りあり。		酸化焔焼成気味

Tab.29　6区　鉄器・鉄製品観察表

番号	出土遺構／層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重さ	遺存度	登録番号	備考
6－5	H－1	刀子	7.2	2.1	0.4		1/2	3	
6－6	H－1	鉄鎌	3.1	(10.5)	0.8		4/5	3	



6区　H－1　カマドセクション

1	黒褐	○×	灰褐色の灰を混入、焼土粒子点在
2	にぶい赤褐	△×	焼土粒子混入
3	にぶい褐	△×	灰褐色の灰、焼土粒子混入
4	褐灰	△×	焼土粒子点在
5	明褐	△×	ローム粒子混入
6	赤	××	焼土粒子層
7	明赤褐	△×	砂質土ブロック（φ10㎜程度）点在、全体的に砂質

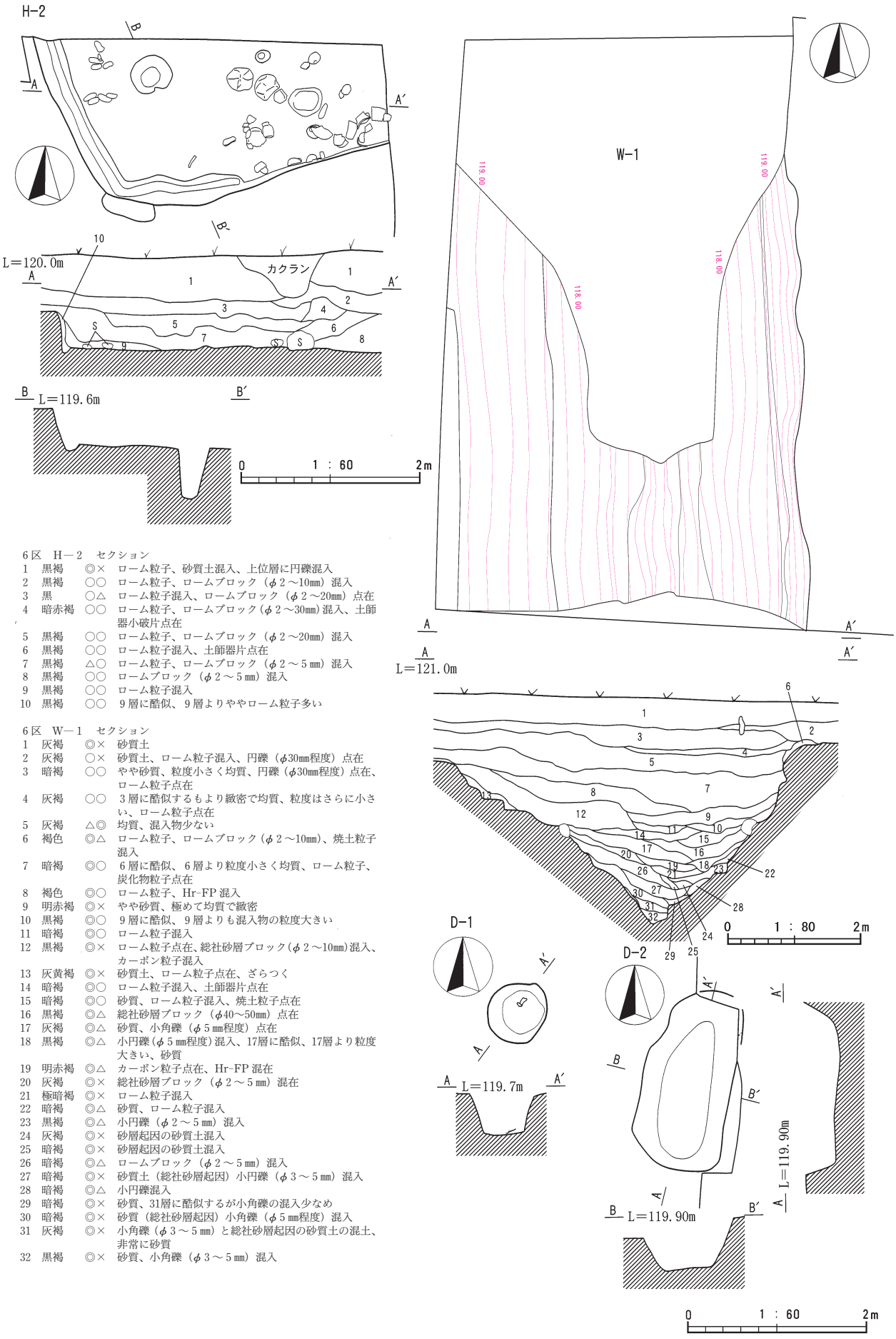
6区　H－3　セクション

1	黒褐	○×	Hr-FP 混入
2	暗褐	○×	粒度の小さい緻密な層、混入物は少ない、Hr-FP 点在
3	灰褐	○×	Hr-FP 混入、ローム粒子点在
4	黒褐	○△	土師器片、ローム粒子混入、ロームブロック（φ５～10㎜）点在、Hr-FP 混入
5	灰褐	◎△	灰褐色粘質土粒子、ブロック（φ２～３㎜）混入
6	褐灰	○×	灰褐色粘質土粒子、ブロック（φ２～５㎜）混入
7	黒褐	○○	Hr-FP、小瓦礫（φ ３～５㎜）、カーボン粒子混入
8	明赤褐	○△	焼土粒子混入、焼土ブロック（φ２～３㎜）点在
9	黒褐	○△	総社砂層起因の砂質土ブロック、（φ５～10㎜）混入
10	褐灰	○○	褐灰色、粘質土ブロック（φ５～10㎜）、粒子混入
11	灰褐	○△	総社砂層起因の砂質土ブロック（φ５～10㎜）点在
12	褐灰	○○	褐灰色粘質土ブロック（φ３～10㎜）、粒子混入、焼土粒子点在
13	褐灰	○○	褐灰色粘質土ブロック（φ２～５㎜）、粒子、カーボン粒子点在
14	褐灰	◎○	褐灰色粘質土ブロック（φ２～10㎜）、粒子混入
15	灰褐	○×	焼土粒子、褐灰色粘性土粒子混入
16	灰褐	○×	焼土粒子、カーボン粒子点在
17	にぶい赤褐	○○	焼土粒子混入
18	黒褐	○○	ローム粒子点在

6区　H－3　カマドセクション

1	灰褐	◎×	砂質土
2	灰褐	◎×	砂質土、１層に酷似、１層より均質
3	灰褐	◎×	砂質土、粘土ブロック（φ２～５㎜）混入
4	褐灰	○△	砂質土、粘土ブロック（φ２～10㎜）粘土粒子の混土
5	褐灰	△△	４層に酷似
6	褐灰	○○	総社砂層ブロック
7	黒褐	○△	砂層ブロック（φ２㎜程度）混入
8	褐灰	◎×	砂層ブロック（φ２～20㎜）混入
9	灰褐	◎×	砂層ブロック（φ２～20㎜）混入
10	褐灰	○△	砂層ブロック（φ２～５㎜）混入、焼土粒子点在
11	褐	○×	焼土粒子混入

Fig.50　6区H－１・３号住居跡



6区　H－2　セクション

1	黒褐	◎×	ローム粒子、砂質土混入、上位層に円礫混入
2	黒褐	○○	ローム粒子、ロームブロック（φ2～10㎜）混入
3	黒	○△	ローム粒子混入、ロームブロック（φ2～20㎜）点在
4	暗赤褐	○○	ローム粒子、ロームブロック（φ2～30㎜）混入、土師器小破片点在
5	黒褐	○○	ローム粒子、ロームブロック（φ2～20㎜）混入
6	黒褐	○○	ローム粒子混入、土師器片点在
7	黒褐	△○	ローム粒子、ロームブロック（φ2～5㎜）混入
8	黒褐	○○	ロームブロック（φ2～5㎜）混入
9	黒褐	○○	ローム粒子混入
10	黒褐	○○	9層に酷似、9層よりややローム粒子多い

6区　W－1　セクション

1	灰褐	◎×	砂質土
2	灰褐	○×	砂質土、ローム粒子混入、円礫（φ30㎜程度）点在
3	暗褐	○○	やや砂質、粒度小さく均質、円礫（φ30㎜程度）点在、ローム粒子点在
4	灰褐	○○	3層に酷似するもより緻密で均質、粒度はさらに小さい、ローム粒子点在
5	灰褐	△◎	均質、混入物少ない
6	褐色	◎△	ローム粒子、ロームブロック（φ2～10㎜）、焼土粒子混入
7	暗褐	◎○	6層に酷似、6層より粒度小さく均質、ローム粒子、炭化物粒子点在
8	褐色	◎○	ローム粒子、Hr-FP混入
9	明赤褐	◎×	やや砂質、極めて均質で緻密
10	黒褐	◎○	9層に酷似、9層よりも混入物の粒度大きい
11	暗褐	◎○	ローム粒子混入
12	黒褐	◎×	ローム粒子点在、総社砂層ブロック（φ2～10㎜）混入、カーボン粒子混入
13	灰黄褐	◎×	砂質土、ローム粒子点在、ざらつく
14	暗褐	◎○	ローム粒子混入、土師器片点在
15	暗褐	◎○	砂質、ローム粒子混入、焼土粒子点在
16	黒褐	◎△	総社砂層ブロック（φ40～50㎜）点在
17	灰褐	◎△	砂質、小角礫（φ5㎜程度）点在
18	黒褐	◎△	小円礫（φ5㎜程度）混入、17層に酷似、17層より粒度大きい、砂質
19	明赤褐	◎△	カーボン粒子点在、Hr-FP混在
20	灰褐	◎×	総社砂層ブロック（φ2～5㎜）混在
21	極暗褐	◎×	ローム粒子混入
22	暗褐	◎△	砂質、ローム粒子混入
23	黒褐	◎△	小円礫（φ2～5㎜）混入
24	灰褐	◎×	砂層起因の砂質土混入
25	暗褐	◎×	砂層起因の砂質土混入
26	暗褐	◎△	ロームブロック（φ2～5㎜）混入
27	暗褐	◎×	砂質土（総社砂層起因）小円礫（φ3～5㎜）混入
28	暗褐	◎△	小円礫混入
29	暗褐	◎×	砂質、31層に酷似するが小角礫の混入少なめ
30	暗褐	◎×	砂質（総社砂層起因）小角礫（φ5㎜程度）混入
31	灰褐	◎×	小角礫（φ3～5㎜）と総社砂層起因の砂質土の混土、非常に砂質
32	黒褐	◎×	砂質、小角礫（φ3～5㎜）混入

Fig.51　6区H－2号住居跡、W－1溝跡、D－1号土坑

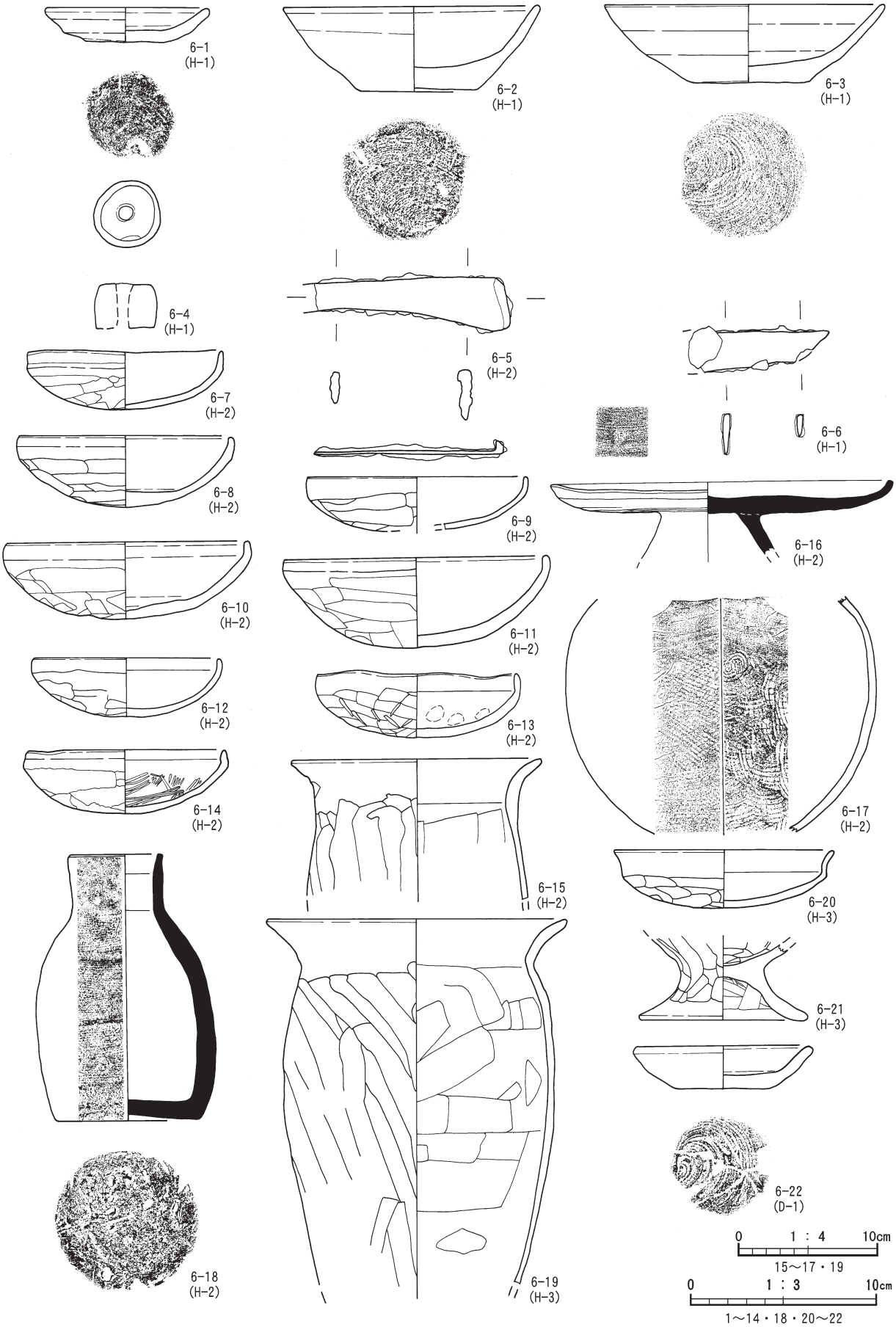


Fig.52　6区H－1～3号住居跡、D－1号土坑出土遺物

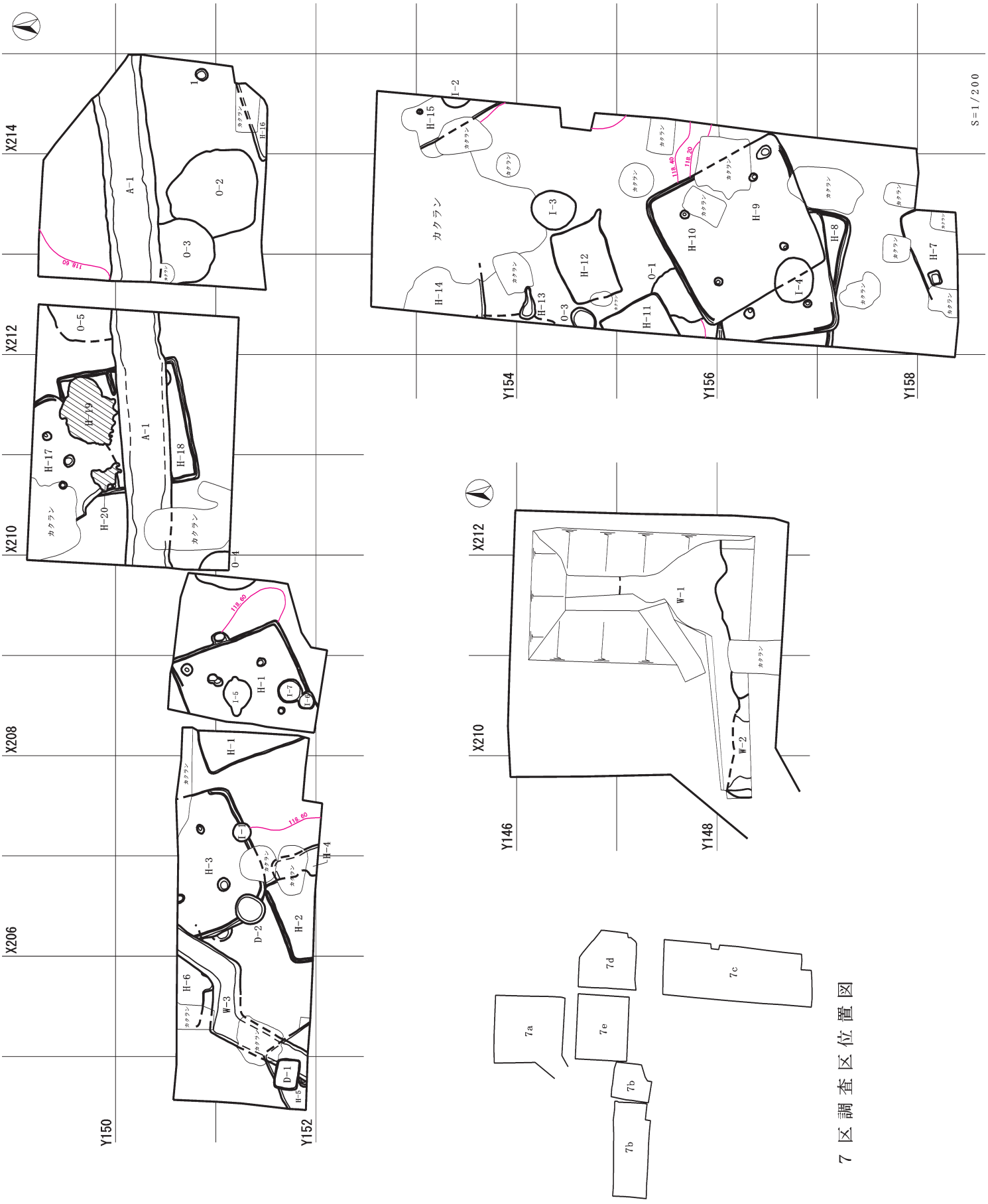
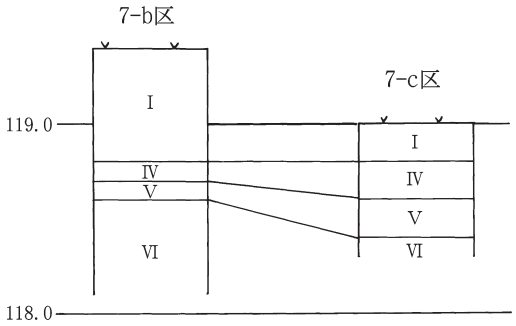

X214
X212
X210
X208
X206
Y150
Y152
Y154
Y156
Y158
Y146
Y148
S=1/200
7区調査区位置図
7a
7b
7b
7c
7d
7e

Fig.53　7区全体図

7区



10区　基本層序
Ⅰ　現表土
Ⅳ　As-C を多く含む黒褐色土
Ⅴ　砂を多く含む褐色土（総社砂層への漸移層）
Ⅵ　総社砂層（地山）

Fig.54　7区基本層序

層序

7区は西側を谷地、東側を牛池川に挟まれた台地上に位置している。付近は蒼海城の縄張図で「諏訪屋敷」とされていること、さらには調査においても蒼海城に関連する大溝が確認されていることから、少なからず造成作業が行われたことが考えられる。さらに調査区周辺は元総社地内でも古くから人家が密集している地域であることから攪乱の影響を受けていることが想定された。よって、表土の下に浅間Ｂ軽石を含む層が存在したと思われたが、明確に分層することはできなかった。しかし下層の浅間Ｃ軽石層を含む黒色土層、総社砂層への漸移層は確認することができた。ただし、調査位置によっては、浅間Ｃ軽石層を含む黒色土層も漸移層も明確にできない混合土の状態のまま地山の総社砂層に達する地点も見られた。

調査区概要

7区において確認された遺構は、竪穴式住居20軒、土坑３基、ピット１基、溝３条、道路状遺構１本、井戸７本、落ち込み５ヶ所が確認された。竪穴式住居は、古墳時代と推定されるものが12軒、奈良・平安時代と推定されるものが８軒確認された。溝については蒼海城の堀と考えられるものが１条確認された。その他、古代のものと考えられる道路状遺構が確認されている。

(1)　竪穴住居跡

Ｈ－１号住居跡（Fig.55、PL.15）

位置　Ｘ207～209、Ｙ150～152グリッド　**主軸方向**　Ｎ－67°－Ｅ　**形状等**　方形を呈し、東西4.98m、南北5.06m、壁現高6.5cmを測る。　**面積**　14.76㎡　**床面**　地山面を床面とする。堅緻面は確認されなかった。**竈**　東壁中央に構築され、主軸方向はＮ－69°－Ｅ、全長0.52m、最大幅0.6cmを測る。ほとんど破壊され、構築材は確認されなかった。　**貯蔵穴等**　検出されなかったが、東壁北隅付近に位置するピットが貯蔵穴の可能性が高い。柱穴は４ヶ所検出され、柱穴に向かうように、間仕切り溝も検出された。　**周溝**　北壁の一部・東壁・南壁で確認されている。なお西壁においては残存状態が良好でなかったため明確な周溝が確認できなかったが、全体の状況から全周していたものと推定される。幅12cm前後、深さ５～10cmを測り、断面は逆台形を呈する。　**重複**　住居中央部でＩ－５・６・７と重複する。重複関係は本住居跡→Ｉ－５・６・７の順である。　**出土遺物**　竈覆土から土師器坏が出土している。その他、土師器甕の破片が住居北壁寄りの床面直上から出土した。　**時期**　出土遺物から６世紀後半と考えられる。

Ｈ－２号住居跡（Fig.55、PL.16）

位置　Ｘ205・206、Ｙ151・152グリッド　**主軸方向**　Ｎ－67°－Ｅ　**形状等**　南半分が調査区外に位置し、北

側の一部が攪乱を受けているが、方形を呈すると考えられる。東西(3.54)m、南北(2.48)m、壁現高15㎝前後を測る。　**面積**　(5.19)㎡　**床面**　堅緻面は黒色粘質土による貼床。　**竈**　東壁中央に構築されているが、攪乱を受けているため右袖及び焚口部の一部を残して破壊されていた。構築材は灰褐色粘質土を用いる。焚口部は若干凹む。　**貯蔵穴等**　確認されなかった。　**周溝**　確認されなかった。　**重複**　H－4号住居跡と重複する。重複関係はH－4号→本住居跡。　**出土遺物**　出土遺物は少なく、土師器片程度。　**時期**　出土遺物が極めて少なく時期決定が難しいが、重複関係から8～9世紀頃を推定しておきたい。

H－3号住居跡（Fig.56、PL.16）

位置　X206・207、Y150・151グリッド　**主軸方向**　N－70°－E　**形状等**　北側が調査区外であるが、方形を呈する。東西5.62m、南北(4.30)m、壁現高16.5mを測る。　**面積**　(16.76)㎡　**床面**　地山面を床面とする。堅緻面は確認されなかった。　**竈**　焼土を含む土の堆積は認められたが、竈は検出されず。ただし、西壁に竈状の構築物をもつ。その主軸方向はN－73°－W、全長0.4m、最大幅0.66㎝を測り、構築材に粘土を使用する。　**貯蔵穴等**　貯蔵穴は確認されず。柱穴が3基確認された。その他床下土坑を有する。　**周溝**　全周していると考えられる。　**重複**　H－6号住居跡、W－3号溝、D－2号土坑と重複する。重複関係は本住居跡→H－6→W－3→D－2。　**出土遺物**　長胴甕、菰編石等。　**時期**　出土遺物等から6世紀と推定される。

H－4号住居跡（Fig.55、PL.16）

位置　X206･207、Y151グリッド　**主軸方向**　N－70°－E　**形状等**　南半分が調査区外に位置し、北側の一部が攪乱を受けているが、ほぼ方形を呈する。東西3.64m、南北(2.10)m、壁現高15.5㎝を測る。　**面積**　(4.43)㎡　**床面**　地山面を床面とする。堅緻面が一部で確認された。　**竈**　調査区内で確認されなかったが、南側壁に粘質土の堆積と構築材の砂質凝灰岩が確認できたため、調査区外に存在すると推定される。　**貯蔵穴等**　貯蔵穴は検出されず。柱穴は2基確認された。　**周溝**　精査を行なったが確認されなかった。　**重複**　H－2号住居跡と重複する。重複関係は本住居跡→H－2。　**出土遺物**　土師器坏。　**時期**　出土遺物等から6世紀後半と推定される。

H－5号住居跡（Fig.56、PL.16）

位置　X204～205、Y152グリッド　**主軸方向**　N－54°－E　**形状等**　大半は調査区外であるが、方形と思われる。確認された範囲で東西(2.86)m、南北(2.78)m、壁現高24㎝前後を測る。　**面積**　(4.06)㎡　**床面**　地山面を床面とする。堅緻面が一部で確認された。　**竈**　調査区内で確認されなかったが、南側壁に構築材の凝灰岩が確認できたため、調査区外に存在すると推定される。　**貯蔵穴等**　貯蔵穴は確認できなかった。柱穴は1基確認された。その他床下土坑を有する。　**周溝**　精査を行なったが確認されなかった。　**重複**　W－3号溝、D－1号土坑と重複する。重複関係は本住居跡→W－3→D－1の順である。　**出土遺物**　出土遺物は少なく、土師器片程度。　**時期**　出土遺物が極めて少なく時期決定が難しいが、6世紀後半頃と推定される。

H－6号住居跡（Fig.56、PL.16）

位置　X205、Y150グリッド　**主軸方向**　N－180°－E　**形状等**　後世の遺構による破壊や攪乱により竈付近のみ残存するため、詳細は不明であるが、部分的に残る南壁が直線的であることから方形を呈すると思われる。検出された範囲で東西(2.72)m、南北(1.16)m、壁現高9㎝前後を測る。　**面積**　(3.18)㎡　**床面**　地

山面を床面とする。　**竈**　南壁に構築され、主軸方位はN―180°―E。全長1.6m、最大幅164㎝、焚口部幅124㎝を測る。構築材は石を使用し、左袖は砂質凝灰岩の切石を使用し、右袖は川原石を使用している。なお、焚口部前で直列するように出土した甕２固体は転落した天井部の可能性がある。焚口部は若干凹み、煙道部にかけて緩やかに立ち上がる。煙道部先端付近はW―３号溝により破壊されている。　**貯蔵穴等**　確認されなかった。　**周溝**　確認されなかった。　**重複**　H―３号住居、W―３号溝と重複する。重複関係はH―３→本住居跡→W―３の順である。　**出土遺物**　土師器甕の他、焚口付近で土師器坏が出土している。　**時期**　出土遺物等から６世紀末と推定される。

H―７号住居跡（Fig.56、PL.17）

位置　X212～213、Y157～158グリッド　**主軸方向**　N―23°―W　**形状等**　西壁・東壁の一部は攪乱の影響を受け、南壁は調査区外であるが、方形と推定される。検出された範囲で東西(2.28)m、南北(3.76)m、壁現高５㎝を測る。　**面積**　(5.73)㎡　**床面**　地山面を床面とする。　**竈**　北壁に構築する。構築材等は確認できなかったが、周辺の覆土に粘土が含まれていた。また、焚口部の燃焼部分が被熱により赤化している。　**周溝**　精査を行なったが確認されなかった。　**重複**　なし。　**出土遺物**　土師器坏片を少量。　**時期**　出土遺物から６世紀前半と推定される。

H―８号住居跡（Fig.57、PL.17）

位置　X212・213、Y156・157グリッド　**主軸方向**　N―13°―E　**形状等**　西壁は調査区外であるが、東西に長軸を持つ長方形を呈する。検出された範囲で東西(5.86)m、南北(4.82)m、壁現高20㎝を測る。　**面積**　(24.75)㎡　**床面**　平坦な貼り床。　**貯蔵穴等**　貯蔵穴は確認されなかった。柱穴は４基確認された。　**周溝**　南壁と東壁の一部に周溝が確認された。幅10～18㎝前後、深さ10㎝前後を測る。　**重複**　H―９号住居、H―10号住居と重複する。重複関係は本住居跡→H―９→H―10の順である。　**出土遺物**　古式土師器（石田川式）破片。　**時期**　出土遺物から４世紀代と推定される。

H―９号住居跡（Fig.57、PL.17）

位置　X212・213、Y156～157グリッド　**主軸方向**　N―80°―E　**形状等**　方形を呈する。検出された範囲で東西4.82m、南北4.68m、壁現高28㎝を測る。　**面積**　(21.18)㎡　**床面**　平坦な貼り床。　**竈**　住居の重複により破壊されたが、焚口部の浅い掘りこみが確認できたため、東壁中央付近に構築されていたと推定される。ただし、規模・構築材等は不明。　**貯蔵穴等**　貯蔵穴が南東隅付近で確認された。柱穴は４基確認された。　**周溝**　南西隅で確認された。　**重複**　H―８号住居、H―10号住居と重複する。重複関係はH―８号→本住居跡→H―10号の順である。　**出土遺物**　土師器、須恵器片など。　**時期**　出土遺物等から６世紀末と推定される。

H―10号住居跡（Fig.58、PL.17・18）

位置　X212～214、Y155～157グリッド　**主軸方向**　N―61°―E　**形状等**　方形を呈する。検出された範囲で東西5.72m、南北6.00m、壁現高22㎝前後を測る。　**面積**　32.12㎡　**床面**　住居と重複している部分は平坦な貼り床で、重複していない部分は地山面を床面としている。　**竈**　焼土の分布から東壁の中央付近に構築されたと推定されるが、攪乱により破壊されている。　**貯蔵穴等**　南東隅で貯蔵穴が確認されている。柱穴が４基確認されている。その他床下土坑をもつ。　**周溝**　北壁及び東壁の一部で確認された。　**重複**　H―８号住居跡、H―９号住居跡と重複する。重複関係はH―８→H―９→本住居跡の順である。　**出土遺物**

土師器・須恵器片など。　**時期**　出土遺物等から７世紀前半と推定される。

Ｈ－11号住居跡（Fig.58、PL.18）

位置　Ｘ212、Ｙ154･155グリッド　**主軸方向**　Ｎ－61°－Ｅ　**形状等**　南東隅のみの確認であるが、方形と推定される。検出された範囲で東西(2.18)ｍ、南北(3.14)ｍ、壁現高11㎝を測る。　**面積**　(3.14)㎡　**床面**　平坦な貼り床。　**竈**　調査範囲内では確認されなかった。　**貯蔵穴等**　調査範囲内では確認されなかった。　**周溝**　なし。　**重複**　Ｄ－３号と重複する。本住居跡のほうが古い。　**出土遺物**　土師器坏、菰編石など。　**時期**　出土遺物等から７世紀後半と推定される。

Ｈ－12号住居跡（Fig.58、PL.18）

位置　Ｘ212、Ｙ153･154グリッド　**主軸方向**　Ｎ－69°－Ｅ　**形状等**　東西に長い長方形を呈する。東西3.10ｍ、南北2.18m、壁現高5.5㎝を測る。　**面積**　6.32㎡　**床面**　平坦な貼り床。　**竈**　南東隅に構築されている。焚口付近がやや窪む程度の痕跡を残すのみで、構築材等は不明。　**貯蔵穴等**　なし。　**周溝**　なし。　**重複**　なし。　**出土遺物**　土師器、須恵器片など。　**時期**　出土遺物が極めて少なく時期決定が難しいが、出土遺物から10世紀後半頃と考えたい。

Ｈ－13号住居跡（Fig.59、PL.18）

位置　Ｘ212、Ｙ153･154グリッド　**主軸方向**　Ｎ－80°－Ｅ　**形状等**　竈及びその周辺の堅緻面が確認できた程度で詳細は不明だが方形と推定される。検出された範囲で東西(0.74)ｍ、南北(2.92)ｍを測る。　**面積**　(1.10)㎡　**床面**　平坦な貼り床。　**貯蔵穴等**　確認できなかった。　**周溝**　不明。　**重複**　Ｈ－14号住居跡と重複する。本住居跡のほうが新しい。　**出土遺物**　酸化焔焼成の須恵器、羽釜片　**時期**　出土遺物から10世紀後半頃と推定される。

Ｈ－14号住居跡（Fig.59、PL.18）

位置　Ｘ121、Ｙ153グリッド　**主軸方向**　Ｎ－81°－Ｅ　**形状等**　残存状況が悪いため判然としないが、方形状と思われる。検出された範囲で東西(1.78)ｍ、南北(2.24)ｍ、壁現高26.5㎝を測る。　**面積**　(2.15)㎡　**床面**　地山面を床面とする。堅緻面が一部で確認された。　**貯蔵穴等**　調査範囲内では確認できなかった。　**周溝**　なし。　**重複**　Ｈ－13号住居と重複する。本住居跡のほうが古い。　**出土遺物**　床面直上からの出土遺物は石１点のみ。覆土から弥生式土器破片、土師器等が出土している。　**時期**　出土遺物が極めて少なく時期決定が難しいが、状況から６世紀代と推定される。

Ｈ－15号住居跡（Fig.59、PL.18）

位置　Ｘ215、Ｙ153･154グリッド　**主軸方向**　Ｎ－59°－Ｅ　**形状等**　残存状況が悪いため判然としないが、方形と推定される。検出された範囲で東西(1.94)ｍ、南北(3.92)ｍ、壁現高35㎝を測る。　**面積**　(4.38)㎡　**床面**　地山面を床面とする。　**周溝**　精査を行なったが確認されなかった。　**重複**　Ｉ－２号井戸と重複する。本住居跡のほうが古い。　**出土遺物**　土師器片などが極少量。　**時期**　出土遺物が極めて少なく時期決定が難しいが、状況から６世紀代と推定される。

Ｈ－16号住居跡（Fig.59、PL.19）

位置　Ｘ210･211、Ｙ149･150グリッド　**主軸方向**　Ｎ－72°－Ｅ　**形状等**　北西隅付近のみ確認されたため

判然としないが、方形と推定される。検出された範囲で東西(3.30)m、南北(0.92)m、壁現高36cmを測る。 **面積** (1.93)㎡ **床面** 地山面を床面とする。 **周溝** なし。 **重複** なし。 **出土遺物** なし。 **時期** 時期決定が難しいが、状況から6世紀代と推定される。

Ｈ－17号住居跡（Fig.60、PL.20）

位置 X210・211、Y149・150グリッド **主軸方向** N－43°－E **形状等** 西側が攪乱による影響を受け、北側は調査区外となるが、方形と推定される。検出された範囲で東西(3.96)m、南北(4.30)m、壁現高29.5cmを測る。 **面積** (11.32)㎡ **床面** 地山面を床面とする。 **竈** 調査区内では確認されなかったが、北側壁の東壁寄りで粘質土の堆積が認められたことから東壁に構築されていたと推定される。 **貯蔵穴等** 貯蔵穴は調査範囲内では確認できなかった。柱穴は2基確認された。 **周溝** 東壁で確認されたが、全周していたと推定される。 **重複** H－18号住居跡、H－19号住居跡と重複する。重複関係はH－18→本住居跡→H－19の順である。 **出土遺物** 土師器、須恵器片など。 **時期** 出土遺物から7世紀後半と推定される。

Ｈ－18号住居跡（Fig.60、PL.20）

位置 X210・211、Y149・150グリッド **主軸方向** N－79°－E **形状等** 方形を呈する。東西5.20m、南北5.40m、壁現高31.5cmを測る。 **面積** 24.47㎡ **床面** 地山面を床面とする。南壁寄り中央付近で床下土坑が確認された。東西2.0m、南北1.7m、深さ0.2mを測り、不定形な円形を呈する。 **竈** 確認できなかったが東壁中央よりやや南付近の覆土に粘質土が少量含まれていたことから、東壁に構築されていたことが推定される。 **貯蔵穴等** 貯蔵穴は南東隅付近で確認された。柱穴も4基確認された。そのほか床下土坑をもつ。 **周溝** 全周する。幅20cm前後、深さ8cmを測り、断面は逆台形を呈する。 **重複** H－17号住居跡、H－19号住居跡、H－20号住居跡、A－1号道路状遺構と重複する。重複関係は本住居跡→H－17号→A－1号→H－19号・20号の順である。 **出土遺物** 土師器片等など。 **時期** 出土遺物から、6世紀後半と推定される。

Ｈ－19号住居跡（Fig.61、PL.20）

位置 X211、Y149・150グリッド **主軸方向** N－82°－E **形状等** 堅緻面のみ確認されたため、詳細は不明。確認された範囲で東西(2.40)m、南北(2.30)mを測る。 **面積** (4.38)㎡ **床面** 平坦な貼り床。 **竈** 明確な痕跡は確認されなかったが、粘質土が面的に分布していたことから、これを竈の構築した痕跡と考えたい。 **周溝** なし。 **重複** H－17号住居跡、H－18号住居跡、A－1号道路状遺構と重複する。重複関係はH－18→H－17号→A－1号→本住居跡。 **出土遺物** 土師器、須恵器、灰釉陶器、羽釜片など。 **時期** 出土遺物から10世紀後半頃と推定される。 **備考** A－1号道路状遺構に伴っていると考えられた遺物の一部は、出土状況から本住居跡に伴う可能性が高い。

Ｈ－20号住居跡（Fig.61、PL.20）

位置 X210・211、Y150・151グリッド **主軸方向** N－152°－E **形状等** 堅緻面のみ確認されたため、詳細は不明。確認された範囲で東西(1.58)m、南北(1.44)mを測る。 **面積** (1.67)㎡ **床面** 平坦な貼り床。 **竈** 明確な遺構は確認できなかったが、構築材と推定される砂質凝灰岩の切石や礫片がまとまって出土し、その付近で灰の分布も認められたことから、竈跡と推定した。 **貯蔵穴等** 確認されなかった。 **周溝** 不明。 **重複** H－18号住居跡、A－1号道路状遺構と重複する。重複関係はH－18→A－1号→本住居跡。 **出土遺物** 酸化焔焼成須恵器坏、土釜など。 **時期** 出土遺物から11世紀後半頃と推定される。

⑵ 土坑・ピット（Fig.61）

7区においては、土坑が3基、ピットが1基確認されている。土坑のうち、D－1号土坑において底部から中国銭2枚が付着した状態で出土した他は特筆すべき遺物は出土していない。各土坑の詳細については一覧のとおり。

⑶ 溝跡

W－1号溝跡（Fig.61・62、PL.14）

位置　大規模な溝であり、確認できた位置はX210～212、Y146～148グリッドの範囲のみ。東西方向に走行する。　**主軸方向**　N－85°－E　**規模等**　調査した範囲内で長さ10.2m、最大幅8.06m、深さ4.06m　**形状等**　覆土の堆積状況から、溝は3時期にわたり改変されていたと推定される。Ⅰ期は溝を底面まで掘削した時期である。底面まで調査できなかったため溝の形状等詳細については不明。Ⅱ期はⅠ期の溝がやや埋没した後に南側法面際にⅠ期よりも小規模な薬研堀を設けたもの。Ⅲ期は溝全体が埋没し断面形状が逆台形となり底面が硬化する時期である。Ⅲ期は、その状況から溝が本来の機能を果たさなくなった後に道路として使われていたと推定できる。なお、Ⅲ期の覆土に地山のブロックを多く含まれることから、人為的に埋められたことが推定できる。　**重複**　W－2と重複する。重複関係は、本遺構が新しい。　**出土遺物**　Ⅲ期の覆土中から石臼が出土した。　**時期**　状況からⅠ期、Ⅱ期は中世、Ⅲ期は近世と推定される。

W－2号溝跡（Fig.62、PL.14）

位置　X209・210、Y148グリッド　南北方向に走行する。　**主軸方向**　N－180°－E　**規模等**　調査した範囲内で長さ1m、最大幅4.15m、深さ1.25m　**形状等**　逆台形。　**重複**　W－1号溝と重複する。重複関係は本遺構のが古い。　**遺物**　なし　**時期**　不明　**備考**　溝と判断したが、土層の堆積状況から風倒木痕の可能性が考えられる。

W－3号溝跡（Fig.62、PL.16）

位置　X204～206、Y150・151グリッド　クランクして走行する。　**主軸方向**　N－32°－E　**規模等**　調査した範囲内で長さ8.14m、最大幅1.09m、深さ0.28m　**形状等**　逆台形を呈する。　**重複**　H－3号住居跡、H－5号住居跡、H－6号住居跡と重複する。重複関係はH－3号、H－4号→H－6号住居→本遺構の順である。　**出土遺物**　土師器などの破片が少量。　**時期**　状況から中世以降と推定される。

⑷ 道路状遺構（Fig.62、PL.19）

位置　X209～214、Y149・150グリッド　東西方向に走行する。　**主軸方向**　N－88°－E　**規模等**　調査した範囲内での長さ20.7m、最大幅2.1m、硬化面の分布する高さの幅1.5m、掘り方の底部の幅0.6m、掘り方の深さ0.33m。　**形状等**　浅いU字形の掘り方をもつ。硬化面の分布が主軸方向へ帯状に確認できたが、掘り方の底部においても硬化する部分を持つ。　**重複**　H－18号住居跡、H－19号住居跡、H－20号住居跡と重複する。重複関係はH－18→本遺構→H－19・H－20の順である。　**出土遺物**　覆土から土師器片、須恵器片などが出土している。　**時期**　覆土の遺物と重複関係から8～9世紀頃に帰属すると推定される。

⑸ 井戸（Fig.63）

井戸は7本確認されている。いずれも近世以後に掘削された井戸で、最近まで使用されていた痕跡を残す井戸も存在した。位置・規模等については一覧のとおり。

⑹ 落ち込み（Fig.63、PL.18）

落ち込みは５ヶ所で確認されている。性格としては、土層の堆積状況からすべて風倒木痕と考えられる。遺構との重複関係では、すべての落ち込みが他の遺構よりも古いことから、かなり古い時期に形成された風倒木痕であると考えられる。各風倒木痕の位置・規模等については一覧のとおり。

Tab.30　７区　住居跡一覧表

遺構名	位置	規　模（m）			面積（㎡）	主軸方向	竈		周溝	主な出土遺物		
		東西	南北	壁現高(cm)			位　置	構築材		土師器	須恵器	その他
H－1	X207～209 Y150～152	(4.98)	(5.06)		(14.76)	N－67°－E	東壁中央	不明	有	坏・甕	—	—
H－2	X205・206 Y151・152	(3.54)	(2.48)		(5.19)	N－67°－E	東壁中央	粘土	有			
H－3	X206・207 Y150・151	5.62	(4.30)		(16.76)	N－70°－E	東壁中央	不明	有	坏・甕	—	菰石
H－4	X206・207 Y151	3.64	(2.10)		(4.43)	N－70°－E	東壁南寄	粘土　凝灰岩	—	坏	—	—
H－5	X204・205 Y152	(2.86)	(2.78)		(4.06)	N－54°－E	東壁南寄	粘土　凝灰岩	—			
H－6	X205 Y150	(1.16)	(2.72)		(3.18)	N－180°－E	南壁	粘土　凝灰岩	—	坏・甕	—	—
H－7	X212・213 Y157・158	(2.28)	(3.76)		(5.73)	N－23°－W	北壁中央	不明	—	坏	—	—
H－8	X212・213 Y156・157	(4.80)	(5.86)		(24.75)	N－13°－E	なし	—	有	甕	—	—
H－9	X212・213 Y156・157	4.82	4.68		(21.18)	N－80°－E	東壁中央	不明	有	坏	—	—
H－10	X205・206 Y151・160	5.72	6.00		32.12	N－61°－E	東壁中央？	不明	有	坏・甕	坏	—
H－11	X212 Y154・155	(2.18)	(3.14)		(3.14)	N－61°－E	未確認	不明	—	坏	—	—
H－12	X212 Y153・154	3.10	2.18		6.32	N－69°－E	東壁隅	不明	—	—	—	—
H－13	X212 Y153・154	(0.74)	(2.92)	—	(1.10)	N－80°－E	東壁隅？	粘土	—	—	羽釜	—
H－14	X212 Y153	(2.24)	(1.78)		(2.15)	N－81°－E	未確認	不明	—	—	—	菰石
H－15	X215 Y153・154	(1.94)	(3.92)		(4.38)	N－59°－E	未確認	不明	—	—	—	—
H－16	X210・211 Y149・150	(3.30)	(9.2)		(1.93)	N－72°－E	未確認	不明	—	—	—	—
H－17	X210・211 Y149・150	(3.96)	(4.30)		(11.32)	N－43°－E	東壁中央	粘土	有	坏	—	—
H－18	X210・211 Y149・150	5.20	5.40		24.47	N－79°－E	東壁中央	粘土？	有	坏・甕	—	—
H－19	X211 Y149・150	(2.40)	(2.30)	—	4.38	N－82°－E	不明	不明	—	—	羽釜	灰釉
H－20	X210・211 Y150・151	(1.58)	(1.44)	—	1.67	N－152°－E	不明	凝灰岩	—	土釜	坏	—

Tab.31　7区　土坑・ピット・井戸・落ち込み一覧表

遺構名	位　　置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	出土遺物	備　　考
D－1	X204 Y151	122	92	46	方形	古銭2点「永楽通宝」「(不明)」	
D－2	X206 Y151	94	86	54	円形	なし	近現代か
D－3	X212 Y154	(90)	90	60	円形	石、縄文式土器破片	
P－1	X214 Y150	50	45	26	円形	なし	
I－1	X207 Y150～151	70	70	—	円形	なし	
I－2	X214 Y155	(106)	(62)	—	円形	なし	近現代か
I－3	X213 Y154	(152)	(150)	—	円形	なし	近現代
I－4	X212 Y156	—	—	—	円形	なし	近現代
I－5	X208 Y151	156	110	—	円形	なし	近現代か
I－6	X208 Y151	68	(62)	—	円形	陶磁器片	近現代か
I－7	X208 Y151	98	(98)	—	円形	陶磁器片	近現代か
O－1	X212 Y155・156	308	232	84	不定形	なし	
O－2	X212・213 Y150	(340)	340	30	不定形	なし	
O－3	X213・214 Y150・151	(260)	(238)	50	不定形	なし	
O－4	X204 Y164				不定形	なし	
O－5	X204 Y165				不定形	なし	

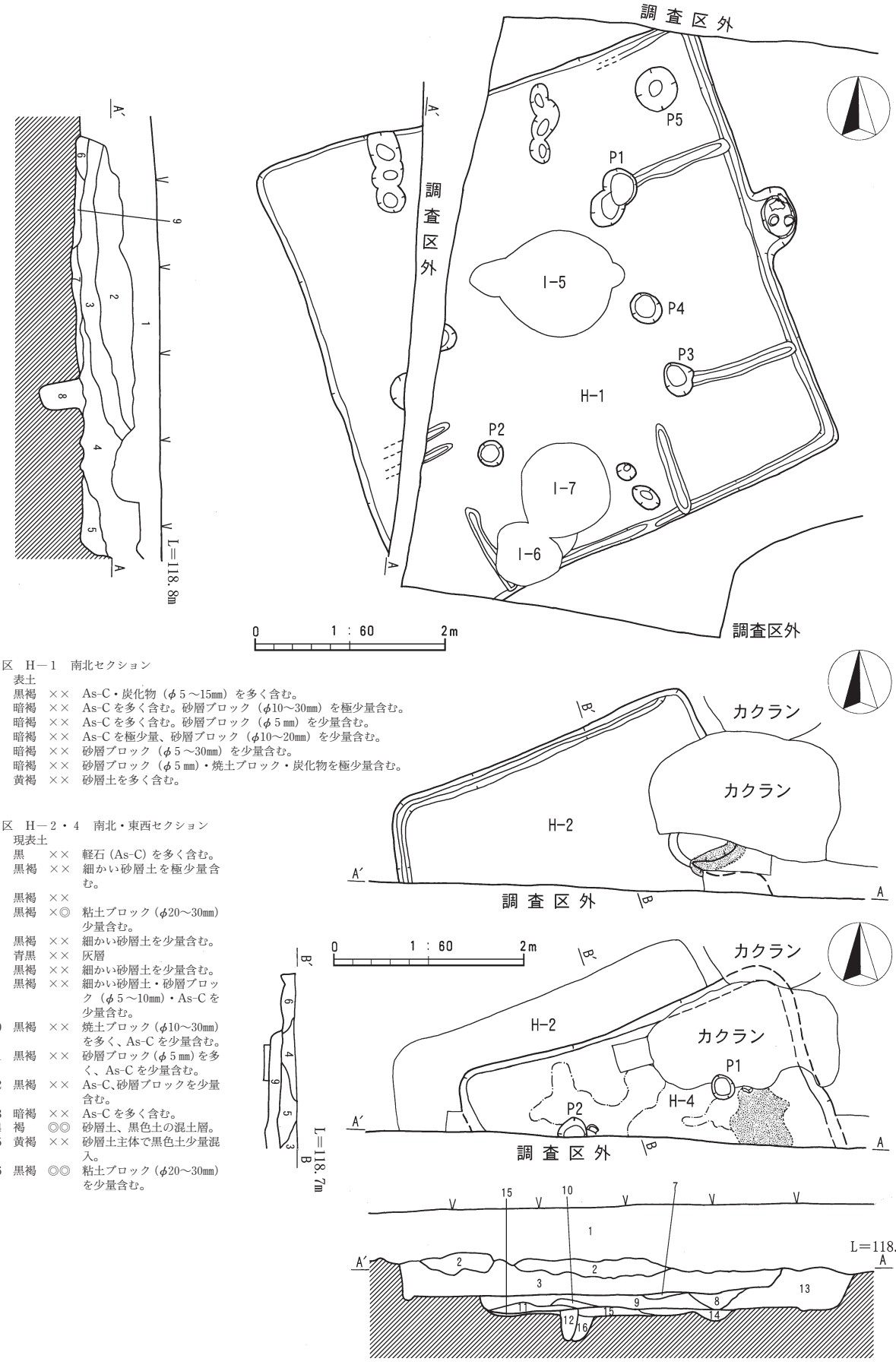
Tab.32　7区　溝跡・道路状遺構一覧表

遺構名	位置	長さ(m)	深さ (cm)		上幅 (cm)		下幅 (cm)		主軸方向	断面形	時　　期
			最大	最小	最大	最小	最大	最小			
W－1 (I期)	X210～212 Y146・148	(10.2)	(406)	—	(806)	—	—	—	N－85°－E	薬研？	中世
W－1 (II期)			(312)	—		—	36	—		薬研	中世
W－1 (III期)			(182)	—		—	—	—		逆台形	近世以後
W－2	X209～210 Y148	(1)	(125)	(115)	(415)	(395)	(235)	(225)	N－180°－E	逆台形？	不明
W－3	X204～206 Y150・151	8.14	28	10	109	94	78	56	N－32°－E	逆台形	中世以後
A－1	X209～214 Y149・150	(20.7)	33	—	210	—	150	—	N－88°－E	U字状	8・9世紀

Tab.33　7区　出土遺物観察表

番号	出土遺構 層　位	器種名	①口径 ②器高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備　考
7－1	H－1 竈	土師器 坏	①12.9 ②4.5 ③—	①細粒 ②良好 ③橙 ④完形	丸底の体部から口縁は外反して立上る。口縁と体部の境は緩やかな稜をなす。口縁部横撫で。体部篦削り。	1	
7－2	H－1 竈	土師器 坏	①(11.7) ②4.4 ③—	①細粒 ②良好 ③橙 ④ほぼ完形	丸底の体部から口縁は外反して立上る。口縁と体部の境は緩やかな稜をなす。口縁部横撫で。体部篦削り。	2	
7－3	H－4 床直	土師器 坏	①12.3 ②4.5 ③—	①細粒 ②良好 ③にぶい赤褐 ④完形	丸底の体部から口縁は外反して立上る。口縁と体部の境は僅かな稜をなす。口縁部横撫で。体部篦削り。	1	
7－4	H－6 床直	土師器 甕	①[20.0] ②31.0 ③5.7	①細粒 ②良好 ③明赤褐 ④3/4	口縁部は外反して開く。口縁部は横撫で。胴部外面は篦削りの後にミガキ。内面についても撫での後にミガキあり。	1	
7－5	H－6 床直	土師器 甕	①[22.2] ②(33.1) ③—	①細粒 ②良好 ③にぶい黄橙 ④3/4	長胴甕で、口縁部は外反して開く。最大径は口縁部。口縁部は横撫で。胴部外面は縦方向の篦削り、内面は横方向の板撫で。	2	
7－6	H－6 竈	土師器 坏	①(13.2) ②5.1 ③—	①細粒 ②良好 ③橙 ④1/3	平底気味の体部から口縁は内傾して立上る。口縁と体部の境は僅かな稜をなす。口縁部横撫で。体部篦削り。	4	
7－7	H－7 床直	土師器 坏	①[13.1] ②5.0 ③—	①細粒 ②良好 ③赤褐 ④3/4	丸底の体部から口縁は外反する。口縁部横撫で。体部篦削り。	3	
7－8	H－9 床直	土師器 坏	①[13.0] ②3.8 ③—	①細粒 ②良好 ③橙 ④ほぼ完形	平底気味の体部から口縁は内傾して立上る。口縁と体部の境は緩やかな稜をなす。口縁部横撫で。体部篦削り。	1	
7－9	H－10 床直	土師器 坏	①12.0 ②4.7 ③—	①細粒 ②良好 ③にぶい橙 ④ほぼ完形	丸底の体部から口縁は外反して立上る。口縁と体部の境は僅かな稜をなす。口縁部横撫で。体部篦削り。	5	
7－10	H－10 床直	須恵器 坏	①[11.8] ②3.9 ③—	①細粒 ②良好 ③オリーブ黒 ④ほぼ完形	体部は底部から緩やかに外傾し口縁部は僅かに外反する。口縁部及び体部は横撫で。底部篦削り。	4	
7－11	H－10 床直	土師器 甕	①[23.0] ②— ③—	①細粒 ②良好 ③にぶい橙 ④破片	長胴甕で、口縁部は外反して開く。最大径は口縁部。口縁部は横撫で。胴部外面は縦方向の篦削り、内面は横方向の板撫で。	3	
7－12	H－10 貯蔵穴	土師器 甕	①17.8 ②(9.0) ③—	①中粒含む ②良好 ③橙 ④口縁部付近	胴部が球形の甕。口縁部は「く」の字状に緩く開く。口縁部は横撫で。胴部の外面は篦削り。	1	
7－13	H－11 床直	土師器 坏	①11.2 ②3.3 ③—	①細粒 ②良好 ③橙 ④完形	丸底の体部から口縁は外反して立上る。口縁と体部の境は僅かな稜をなす。口縁部横撫で。体部篦削り。	1	
7－14	H－13 竈	須恵器 高台坏	①(15.2) ②5.6 ③7.5	①中・粗粒含 ②良好 ③橙 ④破片	高台部を持つ底部（回転糸切りか）から体部は内湾し、口縁部は僅かに外反する。	6	
7－15	H－13 竈	須恵器 羽釜	①[20.0] ②(20.2) ③—	①細粒 ②良好 ③明赤褐 ④破片	胴部は上位で張り、口縁部は短く内傾する。鍔は上方に突出する。外面は回転調整であるが、胴部中位下は縦位の篦削り。内面は口縁部のみ回転調整。	3.4	
7－16	H－14 覆土	土師器 手捏ね	①— ②(3.3) ③5.1	①細粒 ②良好 ③黒 ④ほぼ完形	底部・体部は撫で。体部立上り部分に指頭圧痕。		
7－17	H－14 覆土	弥生式 甕	①— ②— ③—	①細粒 ②良好 ③橙 ④頸部破片	胴部は櫛描波状文、頸部に簾状文。内面はミガキ。弥生時代後期の樽式。		
7－18	H－14 覆土	土師器 小甕	①(13.4) ②12.7 ③(5.8)	①細粒 ②良好 ③明黄褐 ④1/2	胴部は球形に近く、最大径を胴部中位付近としている。口縁部は頸部から短く外反して開く。口縁部横撫で。胴部斜め方向の篦削り。		

番号	出土遺構 層　位	器種名	①口径　②器高 ③底径	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備　考
7－19	H－17 覆土	土師器 坏	①［10.8］　②3.3 ③—	①細粒　②良好 ③明赤褐　④1/2	丸底の体部から口縁は外反して立上る。口縁と体部の境は僅かな稜をなす。口縁部横撫で。体部篦削り。	13	
7－20	H－17 床直	土師器 坏	①[10.9] ②3.9 ③—	①細粒　②良好 ③橙　④1/2	丸底の体部から口縁は内傾して立上る。口縁部横撫で。体部篦削り。	15	
7－21	H－18 覆土	土師器 甕	①—　　②22.0 ③[7.0]	①中粗粒含　②良好 ③橙　④1/4	胴部が膨らむ甕で、胴部から底部にかけてのみ残る。胴部は外面が縦の篦削り、内面は横撫でで一部に斜め方向の篦撫で。	3～6	
7－22	H－19 覆土	須恵器 坏	①11.1　②3.7 ③4.7	①中粒含　②良好 ③浅黄　④ほぼ完形	体部は内湾し、口縁部が外反する。轆轤整形で、底部は回転糸切りで未調整。	7	
7－23	H－19 覆土	須恵器 高台坏	①[11.8] ②5.0 ③［6.7］	①細粒　②良好 ③灰黄　④2/3	「ハ」の字状の高台を付し、体部は直線的に上方に開く。口縁部はやや外反する。轆轤整形。	20・28	
7－24	H－19 覆土	灰釉陶器 碗	①[15.3] ②5.1 ③[7.4]	①細粒　②良好 ③灰白　④3/4	底部は高台を付し、体部はやや丸みを帯びて開く。轆轤回転調整。	1	
7－25	H－19 覆土	須恵器 羽釜	①[20.1] ②6.1 ③—	①細粒　②良好 ③灰白　④口縁部付近	口縁部短く内傾する。鍔は上方に突出する。内外面轆轤整形。	14・19	
7－26	A－1	須恵器 高台椀	①—　　②5.0 ③—	①細粒　②良好 ③にぶい黄橙　④2/3	高台を付する底部（回転篦削り）から、体部は丸みを帯びて開く。内外面は轆轤整形だが、内面はミガキを施す。	6	
7－27	A－1	須恵器 高台椀	①11.5　②5.0 ③8.2	①細粒　②良好 ③浅黄橙　④ほぼ完形	底部に高台を付す。轆轤整形で、直線的に開く。口縁部に煤こげがあり、口縁部が部分的に欠損した後も使用されている。	4	H－18床面直上か
7－28	A－1	須恵器 高台椀	①［13.6］　②5.2 ③7.8	①細粒　②良好 ③橙　④2/3	体部は内湾し、口縁部が外反する。轆轤整形で、「ハ」の字状の高台を付す。黒色土器で、口縁部内面にミガキ、内面に放射状に広がり口縁部付近では螺旋状となる暗文あり。	1	
7－29	H－20 床直	須恵器 坏	①9.8　②2.1 ③4.8	①細粒　②良好 ③浅黄橙　④ほぼ完形	轆轤整形で底部は未調整の回転糸切り。	12	
7－30	H－20 床直	須恵器 坏	①[14.6] ②4.2 ③6.5	①細粒　②良好 ③にぶい橙 ④ほぼ完形	体部は直線的に開く。轆轤整形で、底部は回転糸切りで未調整。	11	
7－31	H－20 床直	須恵器 坏	①［14.1］　②5.0 ③5.7	①細粒　②良好 ③黄橙　④底部・体部	体部は直線的に開く。轆轤整形で、底部は回転糸切りで未調整。	7	
7－32	H－20 竈	土師器 土釜	①［27.0］　②13.7 ③—	①細粒　②良好 ③明褐　④口縁部付近	体部は内湾し、口縁部が直線的に外反する。全体的に横撫でによる調整。外面口縁部から下は斜め方向の撫でによる調整。	1～4 6	



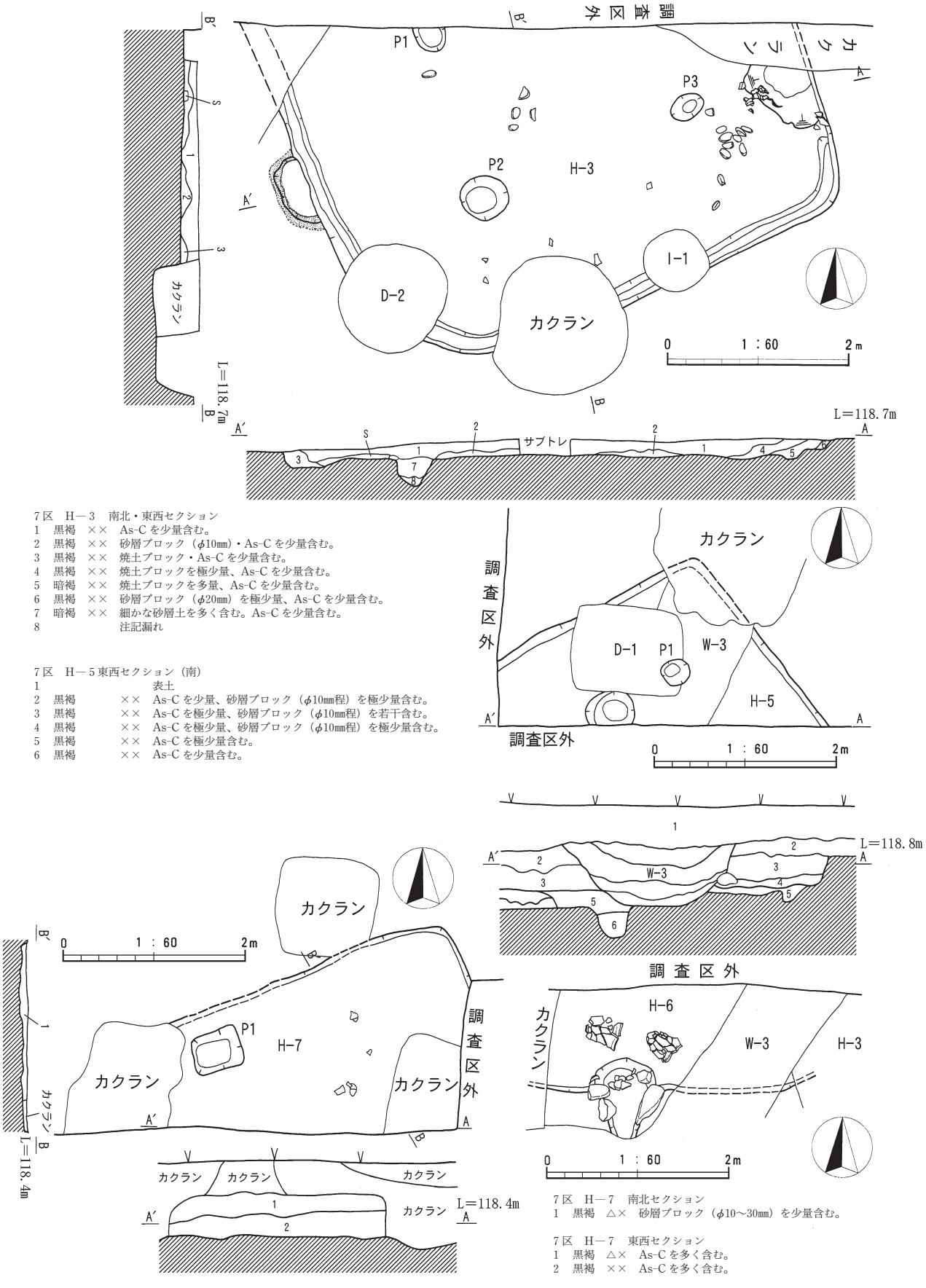
7区　H－1　南北セクション

1　表土
2　黒褐　××　As-C・炭化物（φ5～15㎜）を多く含む。
3　暗褐　××　As-Cを多く含む。砂層ブロック（φ10～30㎜）を極少量含む。
4　暗褐　××　As-Cを多く含む。砂層ブロック（φ5㎜）を少量含む。
5　暗褐　××　As-Cを極少量、砂層ブロック（φ10～20㎜）を少量含む。
6　暗褐　××　砂層ブロック（φ5～30㎜）を少量含む。
7　暗褐　××　砂層ブロック（φ5㎜）・焼土ブロック・炭化物を極少量含む。
8　黄褐　××　砂層土を多く含む。

7区　H－2・4　南北・東西セクション

1　現表土
2　黒　××　軽石（As-C）を多く含む。
3　黒褐　××　細かい砂層土を極少量含む。
4　黒褐　××
5　黒褐　×◎　粘土ブロック（φ20～30㎜）少量含む。
6　黒褐　××　細かい砂層土を少量含む。
7　青黒　××　灰層
8　黒褐　××　細かい砂層土を少量含む。
9　黒褐　××　細かい砂層土・砂層ブロック（φ5～10㎜）・As-Cを少量含む。
10　黒褐　××　焼土ブロック（φ10～30㎜）を多く、As-Cを少量含む。
11　黒褐　××　砂層ブロック（φ5㎜）を多く、As-Cを少量含む。
12　黒褐　××　As-C、砂層ブロックを少量含む。
13　暗褐　××　As-Cを多く含む。
14　褐　◎◎　砂層土、黒色土の混土層。
15　黄褐　××　砂層土主体で黒色土少量混入。
16　黒褐　◎◎　粘土ブロック（φ20～30㎜）を少量含む。

Fig.55　7区H－1・2・4号住居跡



7区　H－3　南北・東西セクション
1　黒褐　××　As-C を少量含む。
2　黒褐　××　砂層ブロック（φ10㎜）・As-C を少量含む。
3　黒褐　××　焼土ブロック・As-C を少量含む。
4　黒褐　××　焼土ブロックを極少量、As-C を少量含む。
5　暗褐　××　焼土ブロックを多量、As-C を少量含む。
6　黒褐　××　砂層ブロック（φ20㎜）を極少量、As-C を少量含む。
7　暗褐　××　細かな砂層土を多く含む。As-C を少量含む。
8　　注記漏れ

7区　H－5東西セクション（南）
1　　表土
2　黒褐　××　As-C を少量、砂層ブロック（φ10㎜程）を極少量含む。
3　黒褐　××　As-C を極少量、砂層ブロック（φ10㎜程）を若干含む。
4　黒褐　××　As-C を極少量、砂層ブロック（φ10㎜程）を極少量含む。
5　黒褐　××　As-C を極少量含む。
6　黒褐　××　As-C を少量含む。

7区　H－7　南北セクション
1　黒褐　△×　砂層ブロック（φ10～30㎜）を少量含む。

7区　H－7　東西セクション
1　黒褐　△×　As-C を多く含む。
2　黒褐　××　As-C を多く含む。

Fig.56　7区H－3・5～7号住居跡

7区　H－8・9・10　南北セクション

1	黒褐	××	As-C・砂層ブロック（φ10～20㎜）を少量含む。
2	黒褐	××	As-C を極少量、砂層ブロック（φ10㎜程）を少量含む。
3	黒褐	××	As-C・砂層ブロック（φ 5～20㎜）を多く含む。
4	暗褐	△×	As-C を少量、砂層ブロック（φ 5～10㎜）を多く含む。
5	黒褐	××	As-C を少量、砂層ブロック（φ 5～10㎜）を極少量含む。
6	黒褐	××	As-C を多量、砂層ブロック（φ10㎜程）を極少量含む。
7	暗褐	××	As-C を少量含む。
8	暗褐	××	砂層ブロック（φ10～20㎜）を少量含む。
9	黒	×△	As-C を極少量含む。
10	黒褐	×△	As-C を極少量含む。
11	暗赤褐	△△	焼土を多く含む。
12	黒褐	×△	As-C を少量、焼土、砂層ブロック（φ10㎜程）極少量含む。
13	黒	××	As-C を少量含む。
14	暗褐	◎△	細かい砂層土を少量含む。
15	褐	◎△	細かい砂層土を多く含む。
16	暗褐	××	砂層ブロック（φ10～30㎜）を多く含む。
17	黒褐	××	As-C・砂層ブロック（φ10㎜程）を少量含む。
18	黒褐	◎×	砂層ブロック（φ10㎜程）を少量含む。
19	黒褐	◎×	砂層ブロック（φ 5 ㎜程）を極少量含む。
20	黒	△×	砂層ブロック（φ10～50㎜程）を多く含む。
21	黒褐	××	細かい砂層土を少量含む。

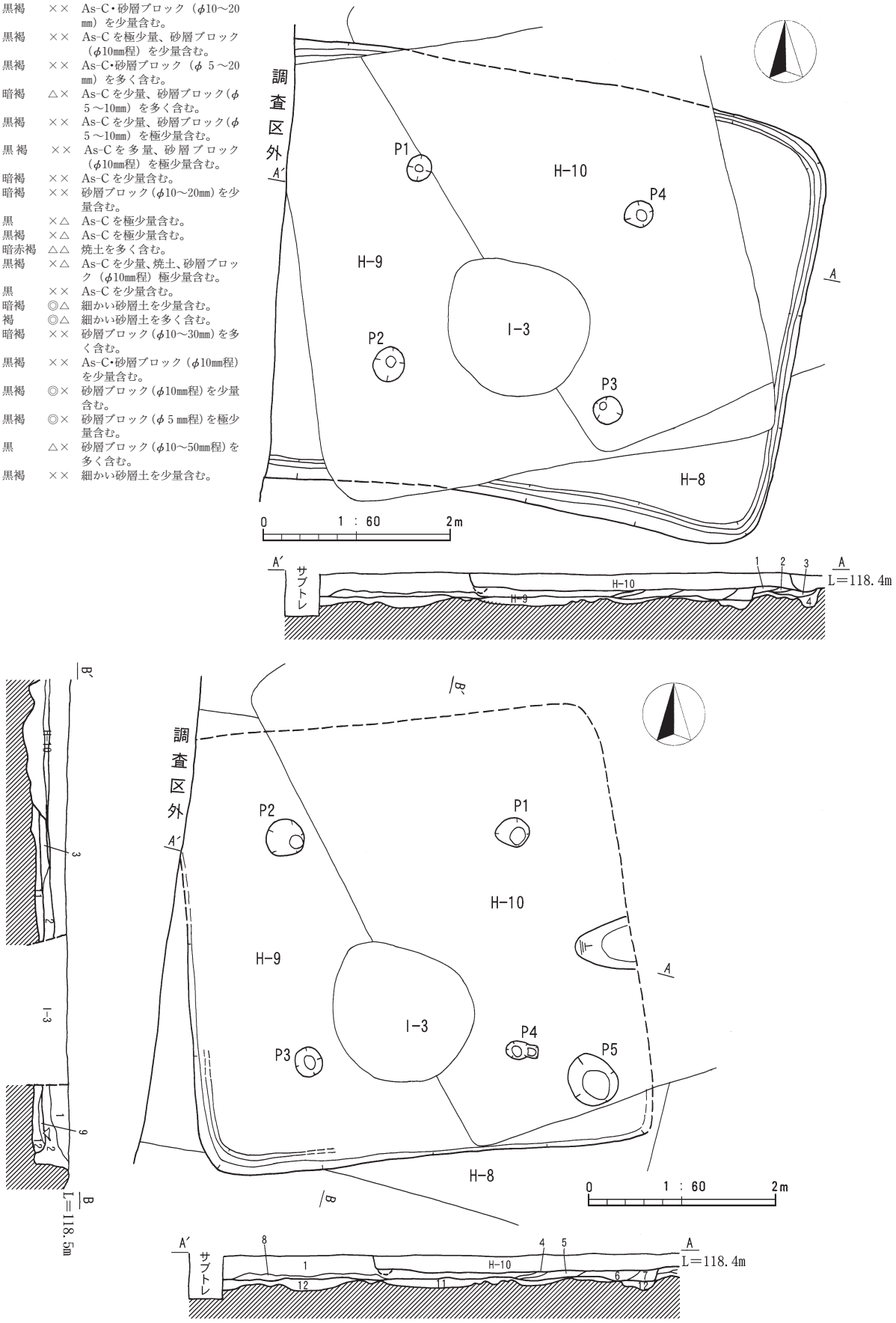
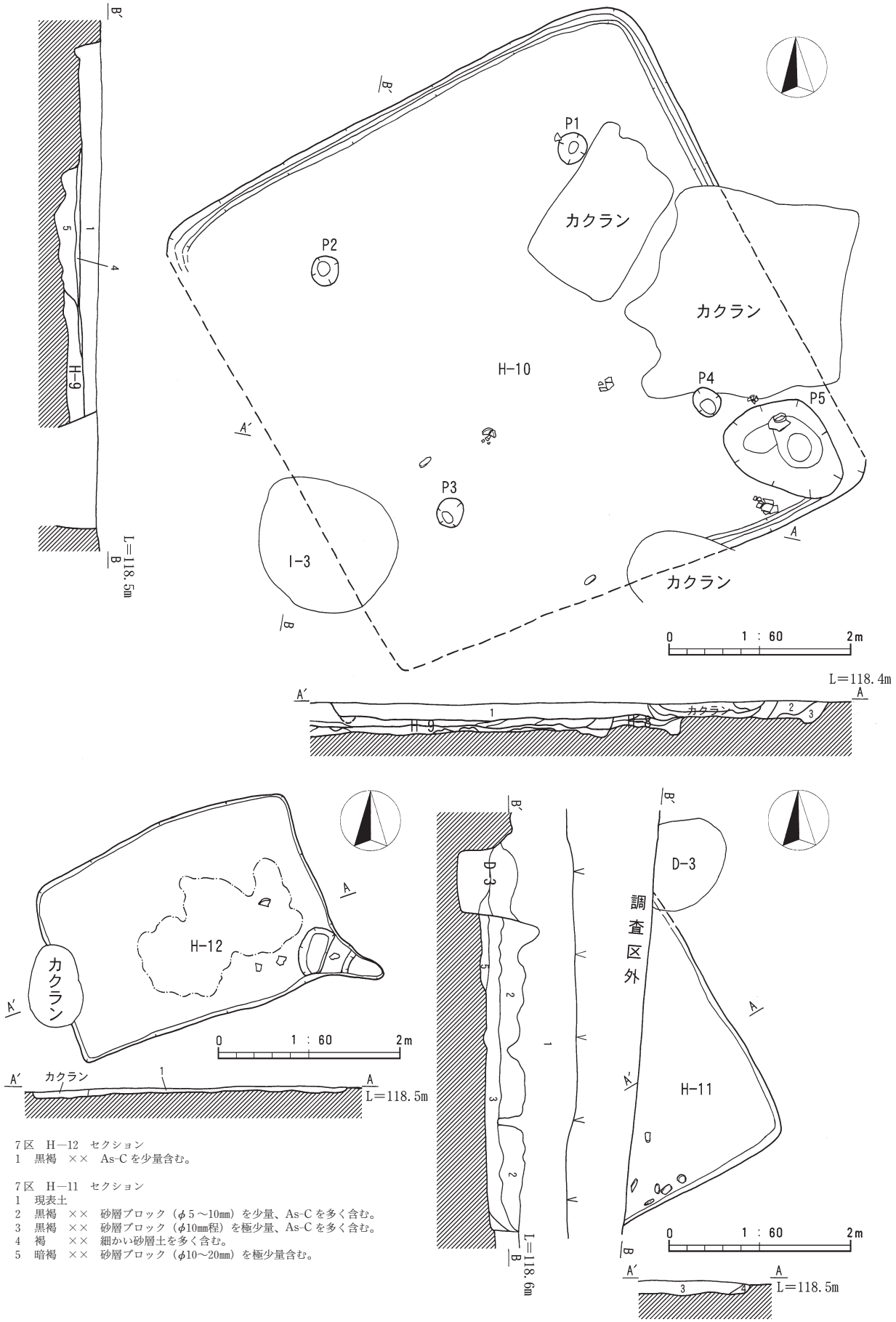


Fig.57　7区H－8・9号住居跡



7区　H—12　セクション
1　黒褐　××　As-C を少量含む。

7区　H—11　セクション
1　現表土
2　黒褐　××　砂層ブロック（φ5～10㎜）を少量、As-C を多く含む。
3　黒褐　××　砂層ブロック（φ10㎜程）を極少量、As-C を多く含む。
4　褐　　××　細かい砂層土を多く含む。
5　暗褐　××　砂層ブロック（φ10～20㎜）を極少量含む。

Fig.58　7区H—10～12号住居跡

7区　H―13・14　セクション
1　現表土
2　黒褐　××　As-B を多く含む。
3　黒褐　××　As-B を非常に多く含む。
4　黒褐　××　As-C を多く含む。
5　褐　　××　炭化物、砂層ブロック（φ10㎜）を若干含む。
6　黒　　△△　灰を少量含む。
7　黒褐　◎×　As-C を少量含む。
8　黒褐　××　As-C を多く含む。
9　黒褐　××　As-C を多く、細かい砂層土を少量含む。
10　褐　　××　細かい砂層土・砂層ブロック（φ20㎜）を極少量含む。
11　黒褐　××　As-C を少量含む。

7区　H―13　カマド　セクション
1　暗褐　　××　細かい砂層土を少量含む。
2　暗赤褐　××　焼土ブロックを少量含む。
3　褐灰　　××　灰を多く含む。
4　橙　　××　焼土を多く含む。
5　暗赤褐　××　焼土を少量含む。
6　暗褐　　××　細かい砂層土を少量含む。

7区　H―15　南北セクション
1　現表土
2　褐　　××　As-B、Hr-FP、As-C を多く含む。
3　褐　　△×　As-B 少量、灰多く含む。
4　褐　　△×　As-B 少量、砂層ブロック（φ５～10㎜）を少量含む。
5　褐　　△×　As-B を少量含む。
6　褐　　△×　砂層ブロック（φ５～10㎜）を少量含む。
7　暗褐　××　As-C を少量、砂層ブロック（φ10㎜程）を極少量含む。
8　暗褐　××　As-C を極少量、細かい砂層土を少量含む。
9　暗褐　××　砂層ブロック（φ10㎜程）を少量、As-C・黒色土ブロック（φ10㎜程）を多く含む。
10　暗褐　××　砂層ブロック（φ10㎜程）・As-C・黒色土ブロック（φ５～10㎜程）を極少量含む。
11　暗褐　××　砂層ブロック（φ10㎜程）極少量、As-C・細かい砂層土を少量含む。
12　黒褐　××　砂層ブロック（φ10㎜程）を極少量、黒色土ブロック（φ10～30㎜程）を多く含む。

7区　H―15　東西セクション
1　黒　　××　砂層ブロック（φ10㎜）を少量、黒色土ブロックを極少量含む。
2　暗褐　△×　砂層ブロック（φ10㎜）を多く、As-C 少量、黒色土ブロックを極少量含む。
3　黒褐　△×　砂層ブロック（φ10㎜）を極少量、黒色土ブロック（φ10～30㎜）を多く含む。
4　褐　　××　細かい砂層土を多く含む。

7区　H―16　セクション
1　現表土
2　黒褐　××　As-B・As-C 少量含む。
3　黒褐　××　砂層ブロック（φ10㎜）少量含む。
4　黒　　××　砂層ブロック（φ５～10㎜）少量、As-C 極少量含む。

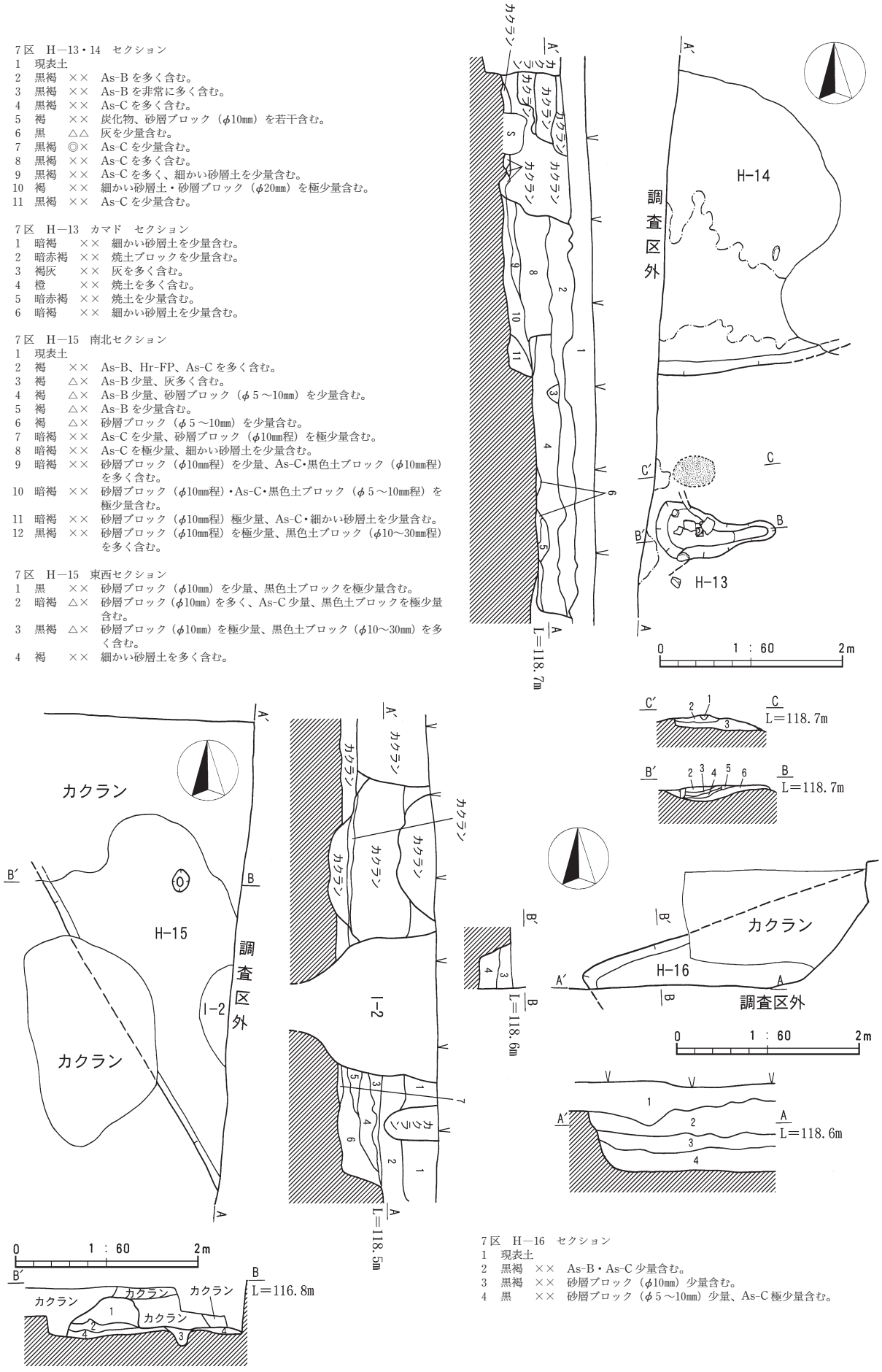
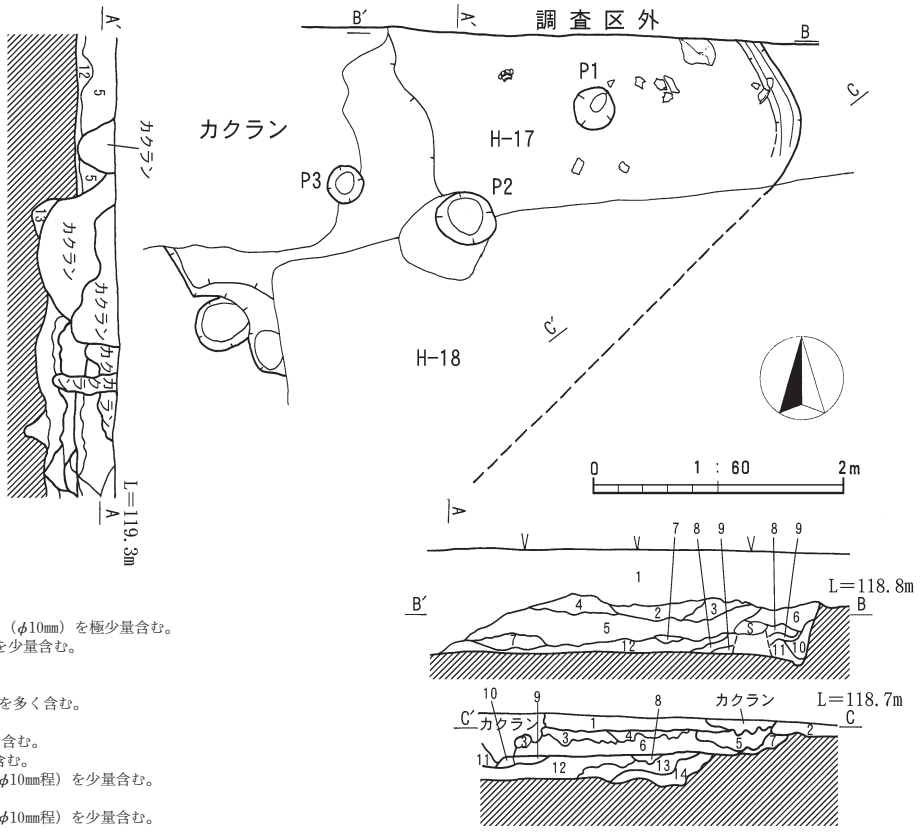


Fig.59　7区H―13～16号住居跡

7区　H―17　セクション
1　現表土
2　黒褐　××　As-B・As-C を少量含む。
3　暗褐　××　As-C を少量、砂層ブロック（φ10㎜程）を極少量含む。
4　暗褐　××　As-C を少量含む。
5　黒褐　××　As-C・砂層ブロック（φ10㎜程）を少量、細かい粘土を極少量含む。
6　暗褐　××　As-C を多く含む。
7　黒褐　××　As-C を多く含む。
8　黒褐　×△　As-C を少量、粘土・細かい焼土を多く含む。
9　黒褐　××　As-C・粘土を極少量含む。
10　暗褐　××　As-C・粘土を極少量含む。
11　黒褐　×△　炭化物・粘土を少量含む。
12　暗褐　××　細かい砂層土を多く含む。

7区　H―17・18・19　セクション
1　黒褐　××　As-C を多く、砂層ブロック（φ10㎜程）を極少量含む。
2　黒褐　××　As-C を多く含む。
3　黒褐　××　As-C を多く、細かい砂層土を少量含む。
4　黒褐　××　As-C を少量、Hr-FA ブロック（φ10㎜程）・砂層ブロック（φ10㎜程）を極少量含む。
5　黒褐　××　As-C を少量、Hr-FA ブロック（φ10㎜程）を極少量含む。
6　黒褐　××　As-C を多く含む。
7　暗褐　××　As-C を多く、Hr-FA ブロック（φ10㎜）を極少量含む。
8　暗褐　××　As-C を極少量、細かい砂層土を少量含む。
9　黒褐　××　As-C を極少量含む。
10　黒褐　××　As-C を極少量含む。
11　黒褐　××　As-C・Hr-FA を少量、黒色土を多く含む。
12　黒褐　××　As-C を少量含む。
13　暗褐　××　As-C を極少量、Hr-FA を多く含む。
14　黒褐　××　Hr-FA を多く、炭化物を少量含む。
15　暗褐　××　細かい砂層土・砂層ブロック（φ10㎜程）を少量含む。
16　にぶい黄褐　××　細かい砂層土を多く含む。
17　暗褐　××　細かい砂層土・砂層ブロック（φ10㎜程）を少量含む。



7区　H―18・19・A―1　セクション
1　黒　××　As-B を少量、As-C を多く含む。
2　黒褐　××　As-C を少量含む。
3　黒褐　××　As-C を多く、砂層ブロック（φ10㎜程度）を極少量含む。
4　黒褐　××　As-C を多く、砂層ブロック（φ5～10㎜）を極少量含む。
5　黒褐　××　As-C を多く、砂層ブロック（φ10～30㎜）を極少量含む。
6　黒褐　××　As-C、砂層ブロック（φ5～10㎜）を極少量含む。
7　黒褐　××　As-C を少量、砂層ブロック（φ10㎜程度）を極少量含む。
8　黒褐　××　As-C を多く含む。
9　黒褐　◎△　As-C を極少量、粘土ブロックを下部に層状に持つ。
10　黒褐　××　As-C を多く、Hr-FA ブロック（φ10㎜）を極少量含む。
11　黒褐　××　As-C、Hr-FA を少量、黒色土を多く含む。
12　黒褐　××　As-C を少量、細かい砂層土を若干含む。
13　黒褐　××　Hr-FA を少量、As-C を極少量含む。
14　黒褐　××　As-C を少量、砂層ブロック（φ5～10㎜）を極少量含む。
15　黒褐　××　As-C を少量含む。
16　黒褐　××　As-C を極少量、Hr-FA を少量含む。
17　黒褐　××　Hr-FA を少量含む。
18　黒褐　××　Hr-FA を少量含む。
19　褐灰　××　Hr-FA を少量含む。
20　灰黄褐　××　Hr-FA を多く含む。
21　褐灰　××　Hr-FA を少量含む。
22　灰黄褐　××　Hr-FA を多く含む。
23　黒褐　××　As-C を少量、砂層ブロック（φ5～10㎜）を極少量含む。
24　黒褐　××　As-C を少量、砂層ブロック（φ10㎜程度）・Hr-FA ブロック（φ30㎜）を極少量含む。
25　黒褐　××　Hr-FA を少量含む。
26　暗褐　××　As-C・Hr-FA を極少量含む。
27　黒褐　△△　As-C・砂層ブロック（φ10㎜程度）・粘土ブロック（φ30㎜）を少量含む。
28　黒褐　××　細かい砂層土・砂層ブロック（φ5～10㎜）を多く含む。
29　褐　××　細かい砂層土・砂層ブロック（φ10～50㎜）を多く含む。
30　暗褐　××　細かい砂層土・砂層ブロック（φ5～10㎜）を多く含む。

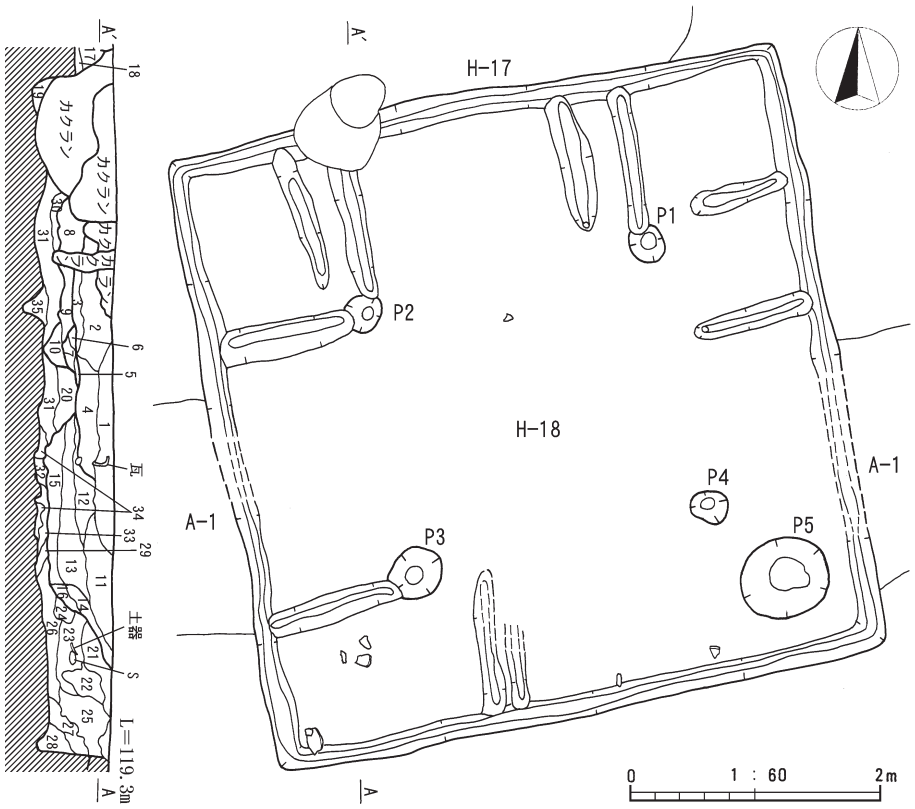
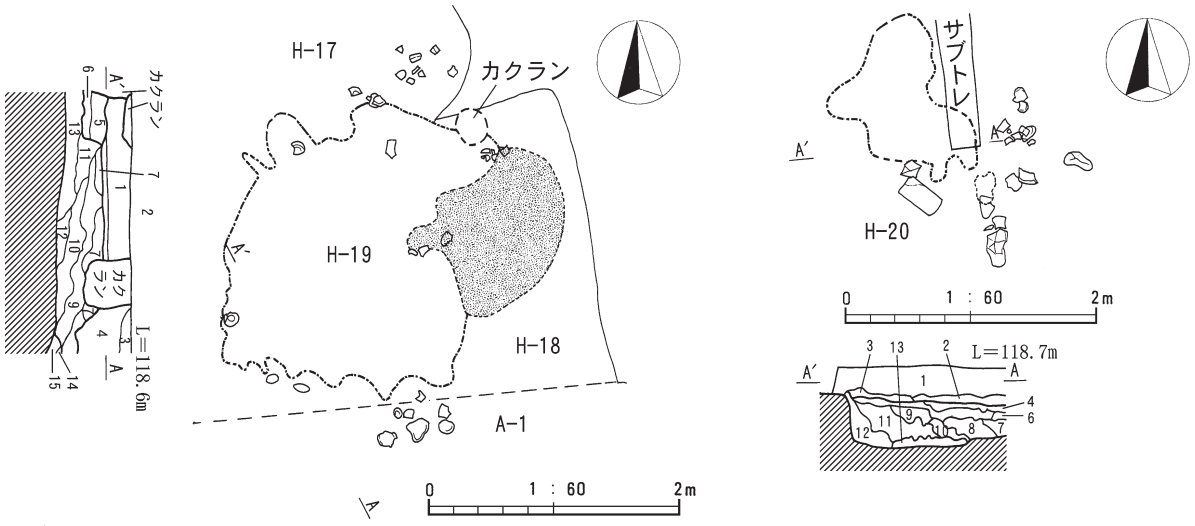
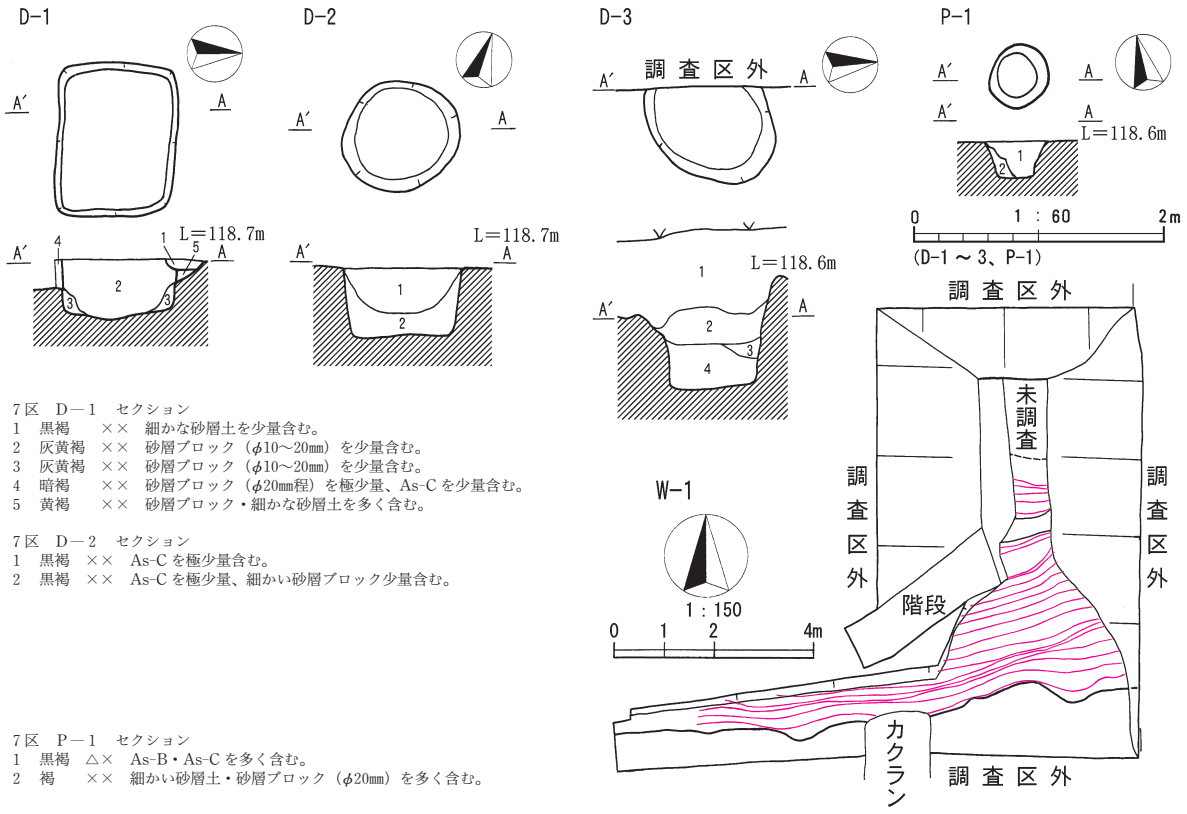


Fig.60　7区H―17・18号住居跡



7区　H—18・20・A—1　セクション
1　黒褐　△×　As-C を多く、砂層ブロック（φ5～10㎜）を極少量含む。
2　黒褐　××　As-C を多く、砂層ブロック（φ5～10㎜）を極少量含む。
3　黒褐　××　As-C を少量、砂層ブロック（φ5～10㎜）を極少量含む。砂質。
4　黒褐　××　As-C を多く、砂層ブロック（φ5㎜程）を極少量含む。
5　黒褐　××　As-C を少量含む。
6　黒褐　◎×　As-C を少量含む。
7　黒褐　××　As-C・Hr-FA を極少量含む。
8　黒褐　××　As-C を少量含む。
9　黒褐　××　As-C を少量、砂層ブロック（φ10㎜）を極少量含む。
10　黒褐　××　As-C、砂層ブロック（φ5～20㎜）を少量含む。
11　黒褐　××　Hr-FA、砂層ブロック（φ10～20㎜）を少量含む。
12　灰黄褐　××　Hr-FA を少量含む。
13　灰黄褐　××　Hr-FA を極少量含む。
14　灰黄褐　××　Hr-FA を少量含む。
15　灰黄褐　××　Hr-FA を少量、砂層ブロック（φ10～20㎜）を極少量含む。
16　灰黄褐　××　Hr-FA、砂層ブロック（φ10㎜程）を極少量含む。
17　灰黄褐　××　Hr-FA を少量含む。
18　黒褐　××　砂層ブロック（φ10㎜程）を極少量含む。
19　暗褐　××　Hr-FA を若干含む。やや砂質。
20　黒褐　××　砂層ブロック（φ10㎜程）を極少量含む。
21　暗褐　××　Hr-FA を少量、砂層ブロック（φ10㎜）を極少量含む。
22　黒褐　××　砂層ブロック（φ10～50㎜）を多く含む。

7区　H—18・20　セクション
1　黒褐　××　As-B を少量、As-C を多く含む。
2　黒褐　××　As-C を多く含む。
3　暗褐　△△　As-C・砂層ブロック（φ20㎜）を極少量含む。
4　黒褐　××
5　暗褐　××　As-C を多く含む。
6　黒褐　◎△　上位に灰の堆積。シルトブロック（φ10㎜程）を少量含む。
7　暗褐　××　Hr-FA を少量、砂層ブロック（φ20～30㎜）極少量含む。
8　黒褐　××　As-C・砂層ブロック（φ10㎜）を極少量含む。
9　暗褐　××　Hr-FA を多く含む。
10　黒褐　××　砂層ブロック（φ10㎜程）を少量含む。
11　黒褐　××　砂層ブロック（φ10㎜程）を極少量含む。
12　黒褐　××　砂層ブロック（φ10～20㎜）を極少量含む。
13　黒褐　××　Hr-FA を極少量含む。
14　黒褐　××　Hr-FA を極少量含む。
15　灰黄褐　××　Hr-FA を多く含む。
16　黒褐　××　Hr-FA を少量、細かい砂層土を極少量含む。
17　褐　××　細かい砂層土を多く含む。
18　黒褐　××　炭化物を多く含む。

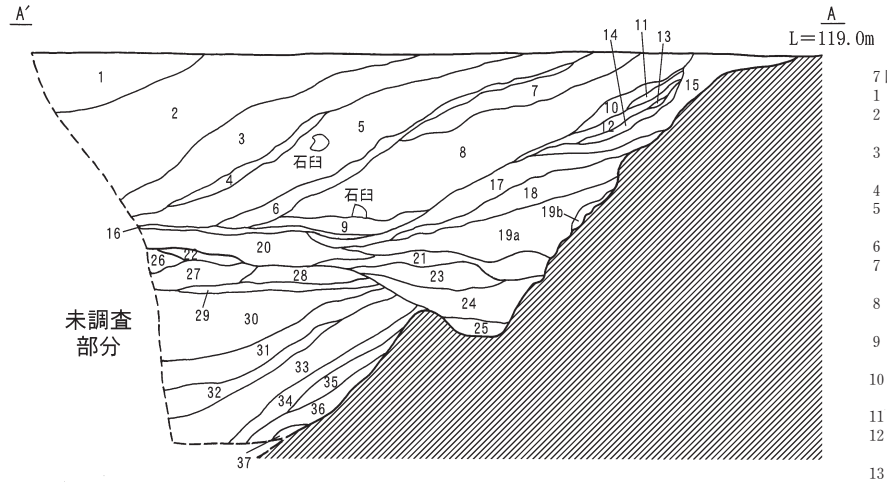


7区　D—1　セクション
1　黒褐　××　細かな砂層土を少量含む。
2　灰黄褐　××　砂層ブロック（φ10～20㎜）を少量含む。
3　灰黄褐　××　砂層ブロック（φ10～20㎜）を少量含む。
4　暗褐　××　砂層ブロック（φ20㎜程）を極少量、As-C を少量含む。
5　黄褐　××　砂層ブロック・細かな砂層土を多く含む。

7区　D—2　セクション
1　黒褐　××　As-C を極少量含む。
2　黒褐　××　As-C を極少量、細かい砂層ブロック少量含む。

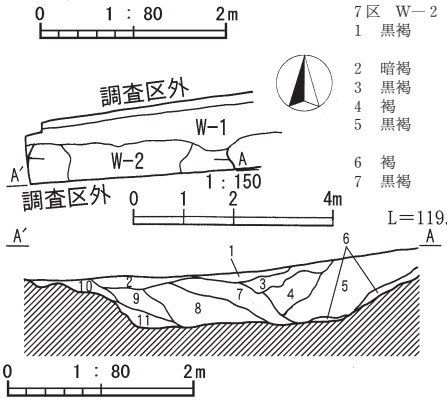
7区　P—1　セクション
1　黒褐　△×　As-B・As-C を多く含む。
2　褐　××　細かい砂層土・砂層ブロック（φ20㎜）を多く含む。

Fig.61　7区H—19・20号住居跡、D—1～3号土坑、P—1号ピット、W—1号溝跡



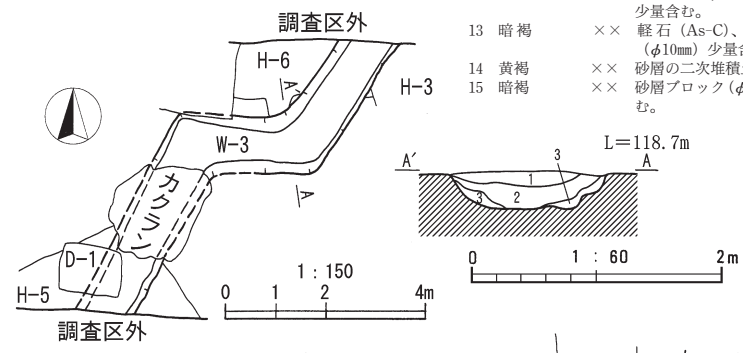
7区 W－1 セクション

1	黒褐	××	砂質。砂層ブロック（φ10㎜）を若干含む。
2	黒褐	××	1層よりも砂質。砂層ブロック（φ10㎜）を極少量含む。
3	黒褐	××	2層に似るが灰色強く砂質。砂層ブロック（φ10㎜）若干含む。
4	黒褐	××	砂質。砂層ブロック（φ10㎜）を極少量含む。
5	灰黄褐	×△	砂質。砂層ブロック（φ5～30㎜）を少量含む。川原石若干含む。
6	黒褐	××	砂質。砂層ブロック（φ10㎜）を極少量含む。
7	黒褐	×△	砂質。砂層ブロック（φ5～15㎜）を少量含む。
8	灰黄褐	×△	砂質。砂層ブロック（φ5～20㎜）を多く含む。川原石（拳大）、石臼片出土。
9	黒褐	×△	砂質。砂層ブロック（φ20～50㎜）を多く含む。
10	灰黄褐	×△	砂質。砂層ブロック（φ5～20㎜）を多く含む。
11	黒褐	××	砂質。砂層ブロック（φ20㎜）を極少量含む。
12	灰黄褐	××	10層に似る。砂層ブロック（φ5～10㎜）を多く含む。
13	黒褐	××	11層に似るが砂層ブロックなし。
14	灰黄褐	××	10層に似る。砂層ブロック（φ5～10㎜）を多く含む。
15	黒褐	××	軽石（As-C）を少量、細かな砂層土を少量含む。
16	黒褐	△◎	砂質。砂層ブロック（φ10㎜）を若干含む。
17	黒褐	××	砂質。砂層ブロック（φ10㎜）を少量含む。
18	黒褐	××	砂質。砂層ブロック（φ10～50㎜）を少量含む。
19	黒褐	×◎	やや砂質。砂層ブロック（φ10㎜）を少量含む。
20	黄褐	××	砂質。細かな砂層土を多く含む。
21	暗褐	×◎	砂質。軽石、細かな砂層土を極少量含む。
22	黒褐	××	砂質。
23	黒褐	××	22層に似る。砂質。
24	灰黄褐	××	砂質。砂層ブロック（φ5㎜）を多量に含む。
25	にぶい黄橙	××	砂を多く含む。
26	灰黄褐	××	砂質で粘質土ブロックを含む。
27	にぶい黄橙	△◎	粘質土のブロックを主とし、黒褐色の砂質土を少量含む。
28	灰黄褐	×△	砂質。砂層及び粘質土ブロック（φ10～20㎜）を多く含む。
29	黒褐	××	砂質。砂層ブロック（φ20㎜）を極少量含む。
30	黒褐	××	砂質。砂層ブロック（φ10㎜）を極少量含む。
31	暗褐	××	砂質。砂層ブロック（φ5～10㎜）少量、礫（φ5㎜）少量含む。
32	暗褐	××	砂質。31層に似るが、ブロックがやや多く、礫は同様。
33	暗褐	××	砂質。砂層ブロック（φ5㎜）を極少量含む。
34	暗褐	××	砂質。砂層ブロック（φ5～10㎜）を極少量含む。
35	暗褐	×◎	砂質。粘質土ブロック（φ10～50㎜）を多く含む。



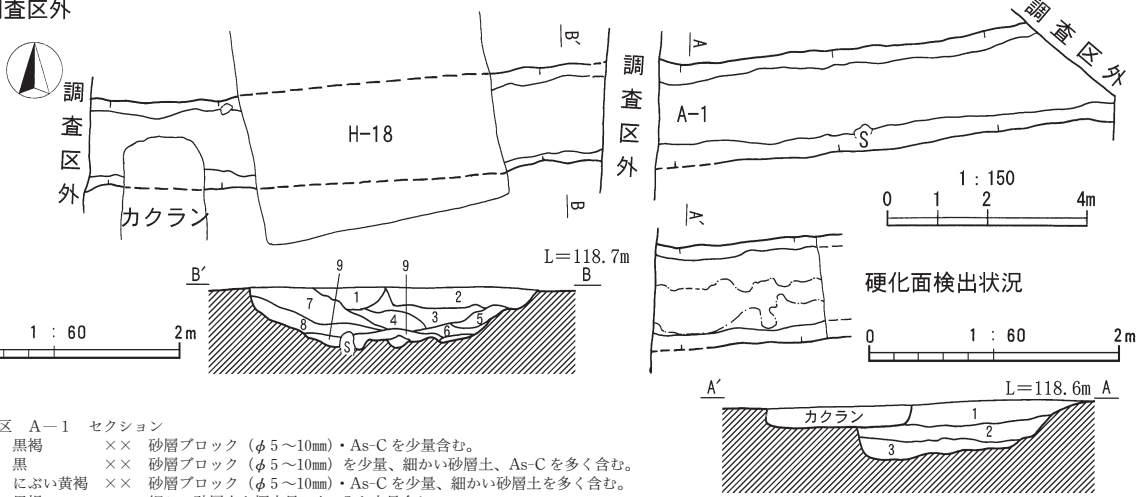
7区 W－2 セクション

1	黒褐	△×	軽石（Hr-FP？）極少量、砂層ブロック（φ5㎜）少量含む。
2	暗褐	××	軽石（As-C）、砂層ブロック（φ10㎜）少量含む。
3	黒褐	××	軽石（As-C）、砂層ブロック（φ10㎜）少量含む。
4	褐	◎△	砂層が風化したような土。
5	黒褐	××	軽石（As-C）、細かい砂層土少量含む。砂層ブロック（φ100㎜）若干含む。
6	褐	◎△	砂層の二次堆積土。
7	黒褐	××	軽石（As-C）少量、砂層ブロック（φ50㎜）若干含む。5層に似るがやや褐色が強い。
8	黒褐	××	軽石（As-C）を少量含む。砂層ブロック（φ10㎜）極少量含む。
9	褐	××	砂層土を多く含む。
10	黄褐	○△	砂層の二次堆積土
11	褐	××	砂層の二次堆積土。軽石（As-C）少量、砂層ブロック（φ50㎜・灰白色）を極少量含む。
12	にぶい黄橙	××	砂層が風化したような土。砂層ブロック（φ50㎜・灰白色）を極少量含む。
13	暗褐	××	軽石（As-C）、砂層ブロック（φ10㎜）少量含む。
14	黄褐	××	砂層の二次堆積土。
15	暗褐	××	砂層ブロック（φ50㎜）を少量含む。



7区 W－3東西セクション（北）

1	黒褐	××	As-Cを少量、砂層ブロック（φ5～10㎜）を極少量含む。
2	黒褐	××	As-Cを少量含む。
3	暗褐	××	細かな砂層を含む。



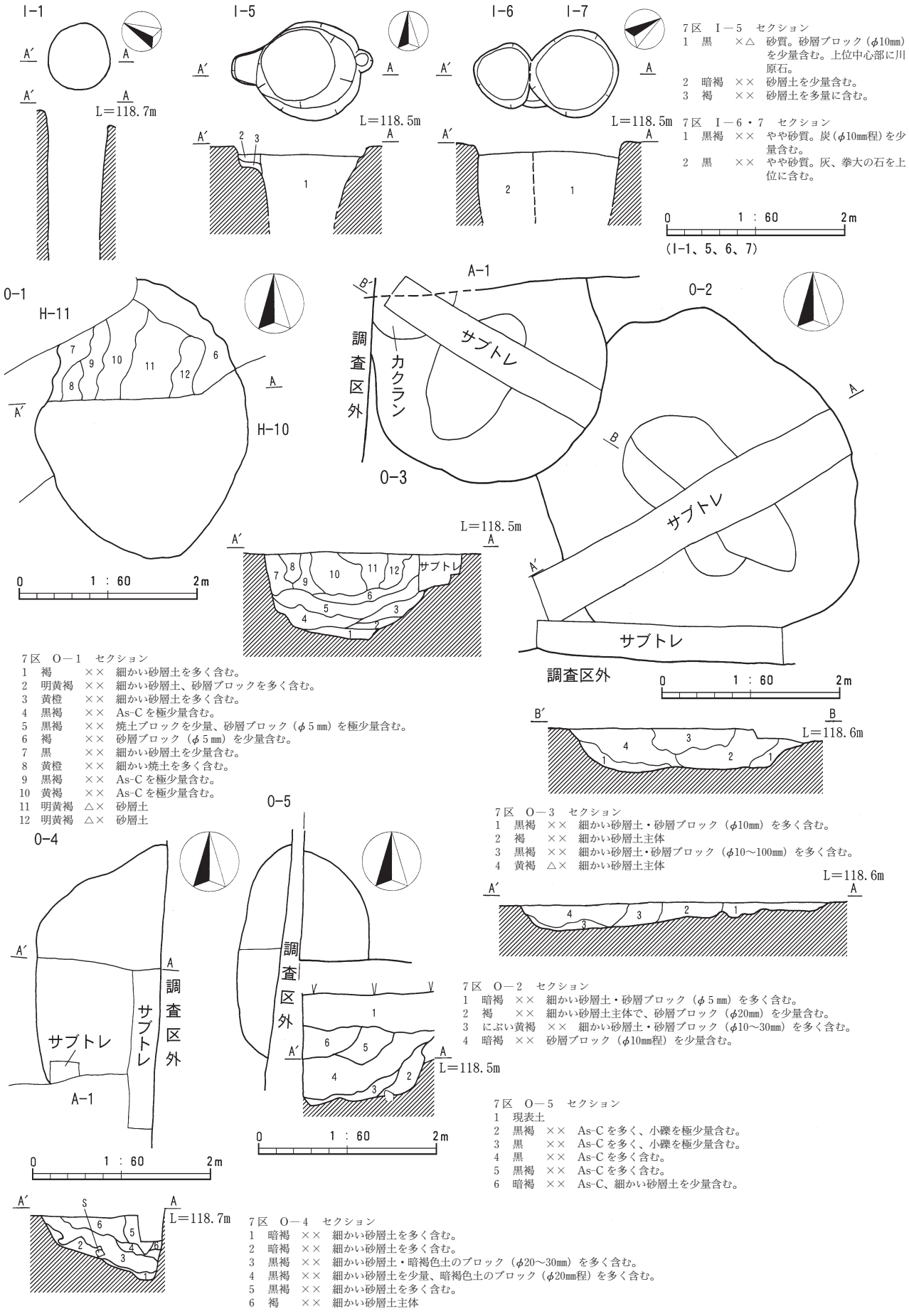
7区 A－1 セクション

1	黒褐	××	砂層ブロック（φ5～10㎜）・As-Cを少量含む。
2	黒	××	砂層ブロック（φ5～10㎜）を少量、細かい砂層土、As-Cを多く含む。
3	にぶい黄褐	××	砂層ブロック（φ5～10㎜）・As-Cを少量、細かい砂層土を多く含む。
4	黒褐	××	細かい砂層土を極少量、As-Cを少量含む。
5	黒褐	××	細かい砂層土を極少量、As-Cを少量含む。
6	黒褐	××	砂層ブロック（φ10㎜程）・As-Cを極少量含む。
7	黒褐	××	砂層ブロック（φ10㎜程）を極少量、As-Cを少量含む。
8	黒褐	××	砂層ブロック（φ10㎜程）を極少量、As-Cを少量含む。
9	暗褐	◎×	細かい砂層土を極少量、As-Cを少量含む。
10	暗褐	◎×	砂層ブロック（φ5～20㎜）を多く含む。

7区 A－1 セクション

1	暗褐	××	砂層ブロック（φ5～10㎜）を少量含む。
2	暗褐	◎×	砂層ブロック（φ5～10㎜）、As-Cを少量含む。
3	暗褐	××	砂層ブロック（φ10～20㎜）を多く含む。

Fig.62　7区W－1～3号溝跡、A－1号道路状遺構



7区　I－5　セクション
1　黒　　××△　砂質。砂層ブロック（φ10㎜）を少量含む。上位中心部に川原石。
2　暗褐　××　砂層土を少量含む。
3　褐　　××　砂層土を多量に含む。

7区　I－6・7　セクション
1　黒褐　××　やや砂質。炭（φ10㎜程）を少量含む。
2　黒　　××　やや砂質。灰、拳大の石を上位に含む。

7区　O－1　セクション
1　褐　　××　細かい砂層土を多く含む。
2　明黄褐　××　細かい砂層土、砂層ブロックを多く含む。
3　黄橙　××　細かい砂層土を多く含む。
4　黒褐　××　As-C を極少量含む。
5　黒褐　××　焼土ブロックを少量、砂層ブロック（φ５㎜）を極少量含む。
6　褐　　××　砂層ブロック（φ５㎜）を少量含む。
7　黒　　××　細かい砂層土を少量含む。
8　黄橙　××　細かい焼土を多く含む。
9　黒褐　××　As-C を極少量含む。
10　黄褐　××　As-C を極少量含む。
11　明黄褐　△×　砂層土
12　明黄褐　△×　砂層土

7区　O－3　セクション
1　黒褐　××　細かい砂層土・砂層ブロック（φ10㎜）を多く含む。
2　褐　　××　細かい砂層土主体
3　黒褐　××　細かい砂層土・砂層ブロック（φ10～100㎜）を多く含む。
4　黄褐　△×　細かい砂層土主体

7区　O－2　セクション
1　暗褐　××　細かい砂層土・砂層ブロック（φ５㎜）を多く含む。
2　褐　　××　細かい砂層土主体で、砂層ブロック（φ20㎜）を少量含む。
3　にぶい黄褐　××　細かい砂層土・砂層ブロック（φ10～30㎜）を多く含む。
4　暗褐　××　砂層ブロック（φ10㎜程）を少量含む。

7区　O－5　セクション
1　現表土
2　黒褐　××　As-C を多く、小礫を極少量含む。
3　黒　　××　As-C を多く、小礫を極少量含む。
4　黒　　××　As-C を多く含む。
5　黒褐　××　As-C を多く含む。
6　暗褐　××　As-C、細かい砂層土を少量含む。

7区　O－4　セクション
1　暗褐　××　細かい砂層土を多く含む。
2　暗褐　××　細かい砂層土を多く含む。
3　黒褐　××　細かい砂層土・暗褐色土のブロック（φ20～30㎜）を多く含む。
4　黒褐　××　細かい砂層土を少量、暗褐色土のブロック（φ20㎜程）を多く含む。
5　黒褐　××　細かい砂層土を多く含む。
6　褐　　××　細かい砂層土主体

Fig.63　7区Ⅰ－1・5～7号井戸、O－1～5号落ち込み

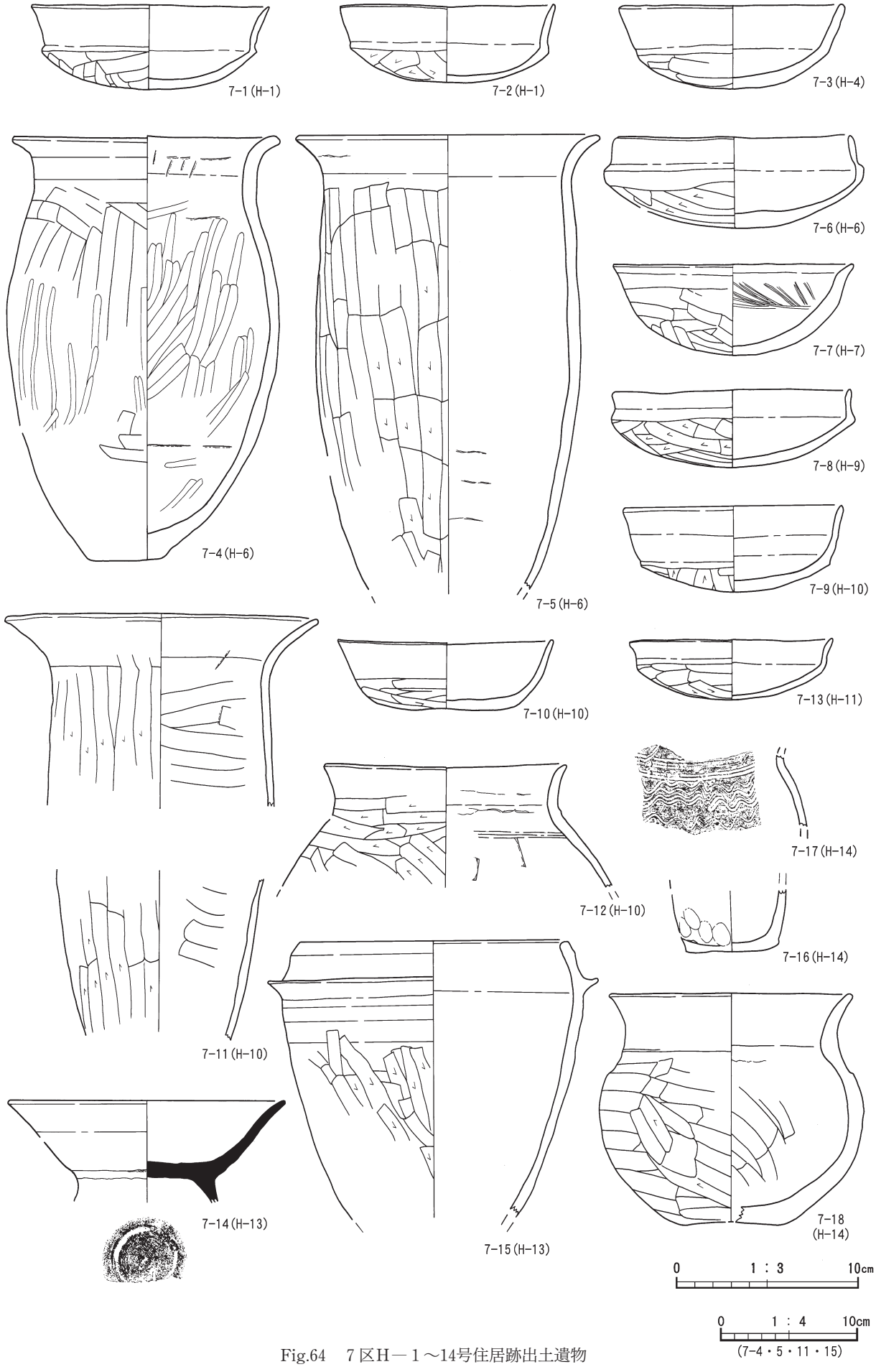


Fig.64　7区H－1～14号住居跡出土遺物

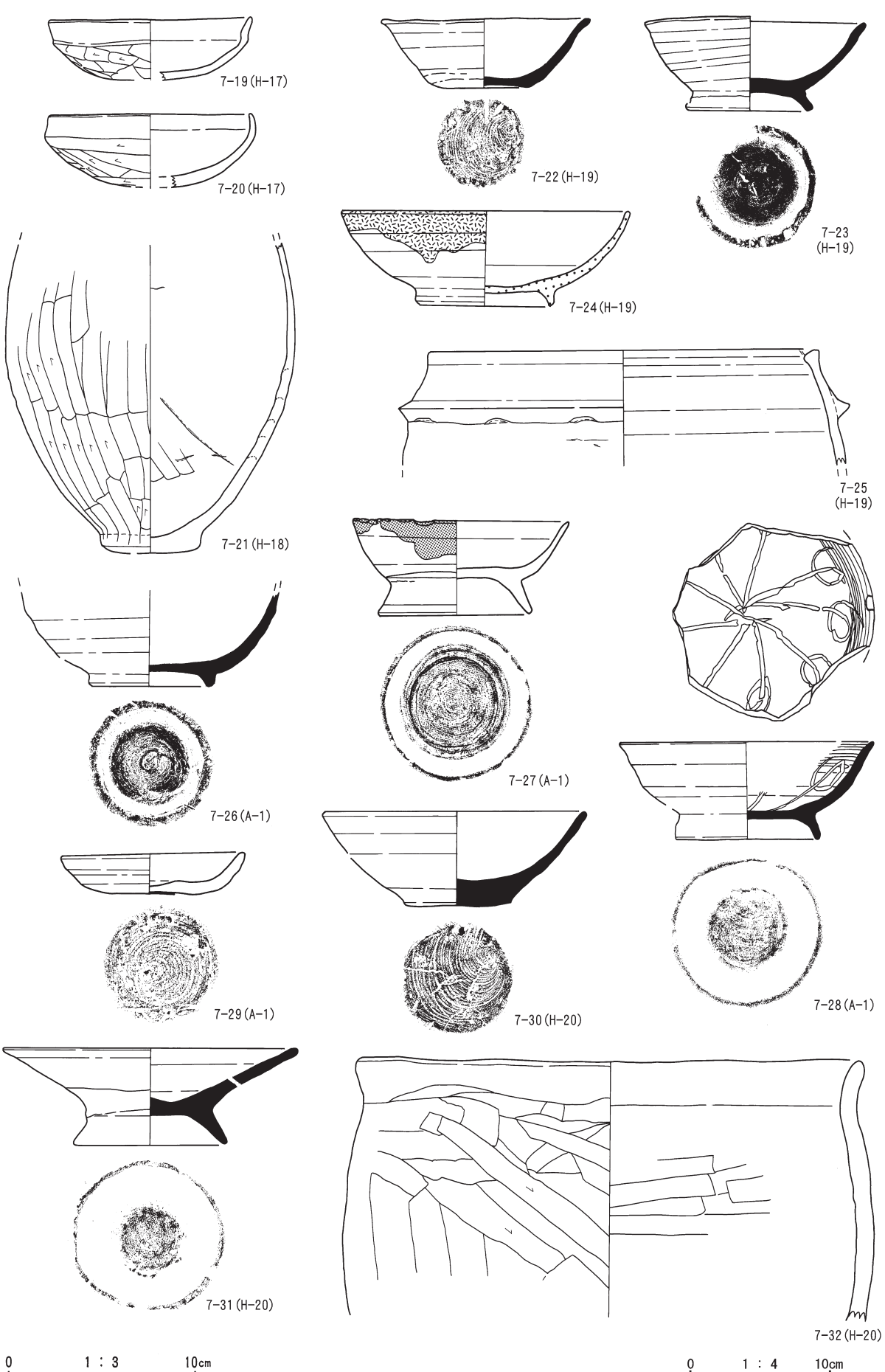
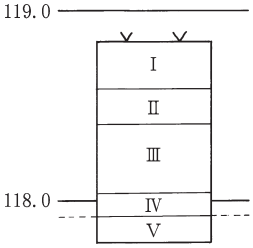


Fig.65　7区H—17～20号住居跡出土遺物

8区



8区　基本層序
Ⅰ　耕作土
Ⅱ　客土
Ⅲ　暗褐　○○　As-B 混土層
Ⅳ　黒褐　○○　As-C・Hr-FP 混土層
Ⅴ　黒褐　○○　総社砂層

Fig.66　8区基本層序

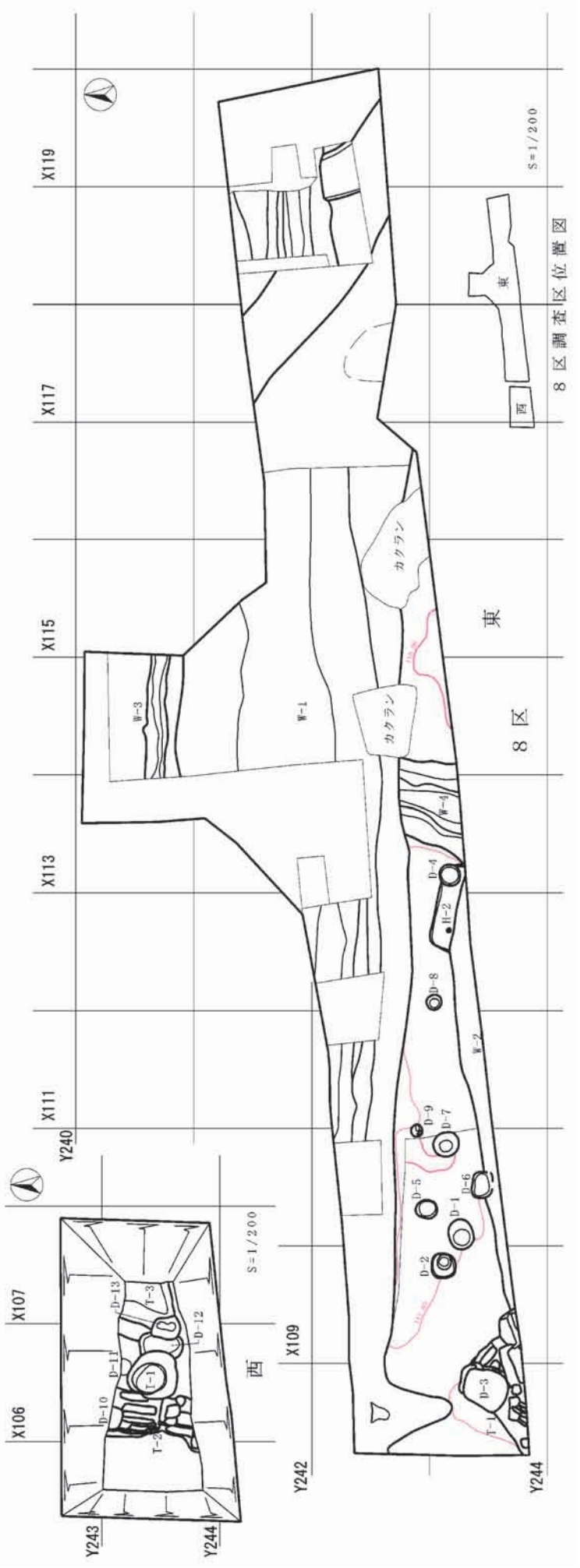


Fig.67　8区全体図

調査区の概要

平成22年度に発掘調査を行った元総社蒼海遺跡群（36）4区に隣接する調査区。竪穴住居跡2軒、溝4条、竈構築材採掘坑3基が検出された。調査区の大半が蒼海城の堀と考えられる溝跡であった。調査区西側の土坑から内耳鍋や片口鉢、石臼片、砥石などが検出され、中世の廃棄土坑と考えられる。その土坑を掘り下げてみると地山が四角く切り取られており、古代の竈構築材採掘坑であるとし、その後に中世の土坑が掘られたと考えられる。

⑴　竪穴住居跡

Ｈ－１号住居跡（PL.21）

位置　X110、Y243グリッド　**形状等**　床面と考えられる硬化面のみの検出であり、形状や面積、竈、貯蔵穴、周溝等は確認できなかった。　**出土遺物**　土師器13点、須恵器36点、石製品１点。そのうち須恵器坏１点、須恵器甕１点、平瓦２点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から９世紀から10世紀代と考えられる。

Ｈ－２号住居跡（Fig.68、PL.21）

位置　X112・113、Y243グリッド　**主軸方向**　Ｎ―102°―Ｅ　**形状等**　東西(3.03)ｍ、南北(0.80)ｍ、壁現高　8.5㎝。　**面積**　(2.07)㎡　**床面**　平坦な床面。　**竈**　東壁に施設されたと考えられるが、調査区外のため確認できず。　**貯蔵穴等**　検出されず。　**周溝**　精査を行ったが確認されなかった。　**出土遺物**　須恵器３点。　**時期**　覆土や出土遺物から10世紀代と考えられる。

⑵　竪穴状遺構

Ｔ－１号竪穴状遺構（Fig.70、PL.22）

位置　X108・109、Y243グリッド　**規模等**　東西(5.09)ｍ、南北(2.20)ｍ、壁現高　40.0㎝。　**面積**　(5.60)㎡　**底面**　地山が矩形に切り取られた竈構築材採掘坑と考えられる。　**重複**　Ｄ－３と重なり、新旧関係は本遺構→Ｄ－３　**時期**　覆土や遺構の特徴から古墳時代と考えられる。

Ｔ－２号竪穴状遺構（Fig.70、PL.22）

位置　X106、Y243グリッド　**規模等**　東西(1.51)ｍ、南北(2.90)ｍ、壁現高　45.5㎝。　**面積**　(4.38)㎡　**底面**　地山が矩形に切り取られた竈構築材採掘坑と考えられる。　**重複**　Ｄ―10、Ｉ－１と重なり、新旧関係は本遺構→Ｄ―10、Ｉ－１。　**出土遺物**　土師器８点、須恵器２点。そのうち須恵器蓋１点、石製紡錘車１点を図示。　**時期**　覆土や遺構の特徴から古墳時代と考えられる。

Ｔ－３号竪穴状遺構（Fig.70、PL.22）

位置　X107、Y243グリッド　**規模等**　東西(1.55)ｍ、南北(1.92)ｍ、壁現高　42.5㎝。　**面積**　(2.98)㎡　**床面**　やや凹凸した地山が広がる。　**出土遺物**　須恵器１点。そのうち須恵器長頸壷１点を図示。　**時期**　覆土や遺物から古墳時代と考えられる。

⑶　溝跡

Ｗ－１号溝跡（Fig.69・70、PL.22・23）

位置　X108～118、Y241～243グリッド　**主軸方向**　Ｎ―85°―Ｅ　**形状等**　逆台形。長さ47.00m、最大深100.0㎝、最大上幅740.0㎝、最大下幅330.0㎝　**重複**　Ｗ－４と重なり、新旧関係は本遺構→Ｗ－４。　**出土**

遺物　土師器13点、須恵器25点、瓦14点、縄文土器１点、石製品７点、中世５点、馬骨。そのうち板碑１点、摺り石１点、丸瓦１点、平瓦１点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から中世と考えられる。　**備考**　蒼海城の堀跡と考えられる。

W－２号溝跡（Fig.69、PL.23）

位置　X109～113、Y243グリッド　**主軸方向**　N－81°－E　**形状等**　長さ　14.99m　最大上幅　(83.0)cm　**重複**　H－２と重なり、新旧関係はH－２→本遺構。　**出土遺物**　土師器３点、須恵器20点、瓦１点、鉄製品２点、石製品１点、中世１点。　**時期**　覆土や出土遺物から中世と考えられる。

W－３号溝跡（Fig.69、PL.23）

位置　X114･115、Y140グリッド　**主軸方向**　N－87°－E　**形状等**　U字形。長さ4.18m、深さ21.0cm、最大上幅82.0cm、最大下幅41.0cm　**時期**　覆土から As-B 降下以降と考えられる。

W－４号溝跡（Fig.69、PL.23）

位置　X113・114、Y242・243グリッド　**主軸方向**　N－14°－E　**形状等**　U字形。長さ2.78m、深さ53.0cm、最大上幅280.0cm、最大下幅88.0cm　**重複**　W－１と重なり、新旧関係は本遺構→W－１。　**出土遺物**　土師器５点、須恵器22点、瓦２点、石製品13点、中世１点。そのうち内耳鍋１点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から中世と考えられる。

⑷　土坑・井戸跡（Fig.68・70、PL.22）

D－３号土坑（Fig.68、PL.21・22）

位置　X108、Y243グリッド　**形状等**　隅丸方形、長軸[156.0]cm、短軸[124.0]cm、深さ38.0cm。　**重複**　T－１と重なり、新旧関係はT－１→本遺構。　**出土遺物**　土師器35点、須恵器161点、瓦16点、石22点、鉄４点、中世79点。そのうち須恵器坏１点、須恵器甕１点、内耳鍋４点、カワラケ３点、香炉１点、灰釉陶器１点、砥石５点、板碑１点、土製円盤１点、丸瓦２点、平瓦５点、釘１点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から中世と考えられる。

他の土坑、井戸跡については、Tab.36土坑・ピット・井戸跡等計測表を参照のこと。

⑸　グリッド等出土遺物

土師器44点、須恵器26点、瓦３点、縄文土器１点、鉄製品２点、石製品２点、緑釉陶器１点、中世１点を出土。そのうち須恵器椀１点、丸瓦１点、平瓦１点を図示。

Tab.34　8区　住居跡等一覧表

遺構名	位置	規模（m）			面積（㎡）	主軸方向	竈		周溝	主な出土遺物		
		東西	南北	壁現高(cm)			位置	構築材		土師器	須恵器	その他
H－２	X112・113 Y243	(3.03)	(0.80)	8.5	(2.07)	N－102°－E			－		坏	瓦
T－１	X108・109 Y243	(5.09)	(2.20)	40.0	(5.60)	－			－			
T－２	X106 Y243	(1.51)	(2.90)	45.5	(4.38)	－			－		蓋	
T－３	X107 Y243	(1.55)	(1.92)	42.5	(2.98)	－			－		長頸壺	

Tab.35　8区　溝跡計測表

遺構名	位置	長さ(m)	深さ（cm）		上幅（cm）		下幅（cm）		主軸方向	断面形	時　期
			最大	最小	最大	最小	最大	最小			
W－1	X108～118 Y241～243	47.00	100.0	60.0	740.0	不明	330.0	70.0	N－85°－E	逆台形	中世
W－2	X109～113 Y243	14.30	不明	不明	83.0	不明	不明	不明	N－81°－E	不明	中世
W－3	X114・115 Y240	4.18	21.0	9.5	82.0	55.0	41.0	9.0	N－87°－W	U字形	中世
W－4	X113・114 Y242・243	2.78	53.0	24.5	280.0	246.0	88.0	28.0	N－14°－E	U字形	中世

Tab.36　8区　土坑・井戸跡計測表

遺構名	位　置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	出土遺物	備　考
D－1	X109・110 Y243	104.0	84.0	27.0	楕円形	土2・須2・鉄6	
D－2	X109 Y243	86.0	82.0	32.5	隅丸方形	土1	
D－3	X108 Y243	[156.0]	[124.0]	38.0	隅丸方形	土35・須161・瓦16・石22・鉄4・中世81	
D－4	X113 Y243	74.0	72.0	28.5	円　形		
D－5	X110 Y242・243	74.0	66.0	42.0	円　形	須2・瓦1	
D－6	X110 Y243	88.0	[68.0]	26.0	隅丸方形	須3・鉄1	
D－7	X110 Y243	90.0	84.0	22.5	円　形	須1	
D－8	X112 Y242・243	52.0	52.0	29.5	円　形		
D－9	X110・111 Y242	44.0	40.0	30.5	円　形		
D－10	X106 Y243	77.0	43.0	23.0	隅丸方形		
D－11	X106 Y243	56.0	30.0	不明	円　形		
D－12	X106 Y243	148.0	[92.0]	20.0	長楕円形		
D－13	X106・107 Y243	98.0	72.0	38.5	隅丸方形		
I－1	X106 Y243	170.0	164.0	147.5	楕円形		

Tab.37　8区　古墳・奈良・平安時代出土土器観察表

番号	出土遺構 層　位	器種名	①口径　②器高 ③底径	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備　考
8－1	H－1 床直	須恵器 坏	①11.0　②3.7 ③5.0	①細粒　②良好 ③灰白　④3/4	轆轤整形。口縁部から体部：内外面轆轤なで。緩やかに外傾する。底部：ほぼ平底。外面回転糸切り。	6	酸化焔
8－2	H－1 床直	須恵器 甕	①—　②— ③—	①細粒　②良好 ③灰　④胴部破片	轆轤整形。口縁部：欠損。胴部：内外面叩き。内面は当て具の青海波文、外面は叩き板の平行線が残る。底部：欠損。	9	
8－3	H－1 床直	須恵器 大甕	①—　②(13.0) ③[15.4]	①細粒　②良好 ③青灰　④底部破片	轆轤整形。口縁部：欠損。胴部：内外面叩き。内面は当て具の青海波文、外面は叩き板の平行線が残る。胴最下部：内外面なで。底部：平底。	10	平安
8－4	D－3 覆土	須恵器 坏	①11.8　②3.8 ③6.0	①細粒　②良好 ③浅黄橙④ほぼ完形	轆轤整形。口縁部から体部：内外面轆轤なで。緩やかに外傾する。口縁部に油煙付着。底部：平底。外面回転糸切り。	17	酸化焔
8－5	D－3 覆土	須恵器 甕	①—　②— ③—	①細粒　②良好 ③灰　④胴部破片	轆轤整形。口縁部：欠損。胴部：外面に6条1組の波状文を3段に施す。内面なで。底部：欠損。	73	
8－6	D－3 覆土	須恵器 甕	①—　②— ③—	①細粒　②良好 ③暗灰　④胴部破片	轆轤整形。口縁部：欠損。胴部：内外面叩き。内面は当て具の青海波文、外面は叩き板の縄目が残る。底部：欠損。		
8－7	D－3 覆土	かわらけ	①[6.9]　②2.0 ③4.6	①細粒　②良好 ③浅黄橙④2/3	轆轤整形。小型の器形。口縁部から体部：内外面轆轤なで。口縁部に油煙付着。底部：ほぼ平底。回転糸切り。	35	酸化焔
8－8	D－3 覆土	かわらけ	①7.6　②2.1 ③4.6	①細粒　②良好　③にぶい黄橙　④ほぼ完形	轆轤整形。小型の器形。口縁部から体部：内外面轆轤なで。すす付着。底部：ほぼ平底。回転糸切り。	32	酸化焔
8－9	D－3 覆土	かわらけ	①[8.5]　②2.2 ③5.4	①細粒　②良好 ③にぶい黄橙④3/4	轆轤整形。小型の器形。口縁部から体部：内外面轆轤なで。口縁部にすす付着。底部：ほぼ平底。回転糸切り。	123	酸化焔
8－10	D－3 覆土	内耳鍋	①32.0　②(17.8) ③[19.8]	①細粒　②良好 ③黄灰　④3/4	瓦質。轆轤整形。口縁部から胴上部：内外面轆轤なで。胴下部から底部：内面なで。外面横位の篦削り。指圧痕あり。口縁部：大きく開く「く」の字に屈曲して開く。内耳部：2耳一対のうち1つは欠損。底部：やや丸みをおびる。	42	中世
8－11	D－3 覆土	内耳鍋	①33.2　②(16.1) ③[20.2]	①細粒　②良好 ③灰黄　④2/3	瓦質。轆轤整形。口縁部から胴上部：内外面轆轤なで。指圧痕あり。胴中部から底部：内面なで。外面横位の篦削り。口縁部：「く」の字に屈曲して開く。内耳部：2耳一対のうち2つともに残存。底部：丸みをおびる。	75	中世
8－12	D－3 覆土	内耳鍋	①27.2　②14.9 ③[16.4]	①細粒　②良好 ③灰　④2/3	瓦質。轆轤整形。口縁部から胴上部：内外面轆轤なで。胴中部：内面なで。外面轆轤なで。指圧痕あり。胴下部から底部：内面なで。外面横位の篦削り。口縁部：「く」の字に屈曲して開く。内耳部：2耳一対のうち1つは欠損。底部：丸底。	27	中世
8－13	D－3 覆土	内耳鍋	①25.6　②(14.0) ③[15.6]	①細粒　②良好 ③灰　④1/2	瓦質。轆轤整形。口縁部：内外面轆轤なで。胴部から底部：内外面なで。外面指圧痕あり。口縁部：「く」の字に屈曲して開く。内耳部：2耳一対のうち1つは欠損。底部：丸底。	126	中世
8－14	D－3 覆土	須恵器 大甕	①—　②(5.4) ③[11.3]	①細粒　②良好 ③灰　④底部破片	轆轤整形。口縁部から胴中部：欠損。胴下部：外面指なで。内面なで。底部：やや上げ底。外面回転糸切り。	156	
8－15	D－3 覆土	片口鉢	①[24.2]　②(5.6) ③—	①細粒　②良好 ③灰　④口縁部破片	瓦質。轆轤整形。口縁部：外面指なで。内面なで。胴部から底部：欠損。	5	中世
8－16	D－3 覆土	香炉	①[7.8]　②5.7 ③[5.8]	①細粒　②良好 ③黒灰　④1/6	軟質陶器。轆轤成形。丸味が強く口縁部に向けて内湾する。口縁部と体部の境：外面に装飾として円形を一巡させる。口縁部から体部：内外面轆轤なで。底部：厚みを持つ。脚が3つ付くと想定されるが残存は1つ。	38	中世
8－17	D－3 覆土	古瀬戸 摺皿	①—　②0.8 ③[5.7]	①細粒　②良好 ③灰　④底部破片	轆轤整形。口縁部：欠損。体部から底部：内面を格子状に刻む。体部：外面轆轤なで。底部：平底。外面回転糸切り。	119	中世
8－18	D－3 覆土	灰釉 壺	①—　②— ③—	①細粒　②良好 ③浅黄　④底部破片	轆轤整形。口縁部から胴部：欠損。底部：内外面轆轤なで。濱掛け施釉。	79	中世
8－19	D－3 覆土	常滑焼 大甕	①—　②(12.0) ③—	①細粒　②良好 ③灰　④胴部破片	轆轤整形。口縁部：欠損。胴部：外面叩き。施釉。内面なで。底部：欠損。	69	中世
8－20	D－3 覆土	常滑焼 甕	①—　②(5.1) ③—	①細粒　②良好 ③黄灰　④口縁部破片	轆轤整形。口縁部：N字口縁。内外面なで。胴部から底部：欠損。		中世

番号	出土遺構 層　位	器種名	①口径　②器高 ③底径	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備　考
8－21	T－2 覆土	須恵器 蓋	①[11.7] ②(3.9) ③—	①細粒　②良好 ③灰　④1/4	轆轤整形。天井部から体部やや水平から緩やかに傾斜する。天井部：横位の手持ち篦削り。体部：内外面轆轤なで。返しなし。		
8－22	T－3 覆土	須恵器 長頸壺	①—　②(13.0) ③—	①細粒　②良好 ③灰　④1/3	轆轤整形。頸部：直立からわずかに外傾する。内外面轆轤なで。胴中部で最大径となる。胴下部：外面回転篦削り。底部：欠損しているが丸底と思われる。	1	
8－23	W－4 覆土	内耳鍋	①[25.6] ②(5.7) ③—	①細粒　②良好 ③灰　④口縁部破片	瓦質。轆轤整形。口縁部：内外面轆轤なで。内耳部：接合部のみ。口縁部：緩やかな「く」の字に屈曲して開く。胴部から底部：欠損。	5	
8－24	W－4 覆土	内耳鍋	①—　②(9.0) ③—	①細粒　②良好 ③灰　④口縁部破片	瓦質。轆轤整形。口縁部：内外面轆轤なで。頸部：緩やかに開く「く」の字に屈曲して開く。内耳部、胴部から底部：欠損。	4	
8－25	表採	須恵器 瓶	①—　②(3.1) ③—	①細粒　②良好 ③灰　④底部破片	轆轤整形。口縁部から胴部：欠損。底部：内面輪積み痕あり。外面轆轤なで。高台部：欠損。		

Tab.38　8区　石器・石製品観察表

番号	出土遺構／層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重さ	石材	遺存度	登録番号	備　考
8－石1	D－3　覆土	礫	14.90	7.15	3.55	560	安山岩	ほぼ完形	160	
8－石2	D－3　覆土	礫	10.95	3.45	2.45	120	泥岩	ほぼ完形	74	
8－石3	D－3　覆土	板碑	18.40	11.75	1.65	560	緑泥片岩	一部	16	
8－石4	D－3　覆土	砥石	8.90	4.60	3.80	260	流紋岩	ほぼ完形	22	
8－石5	D－3　覆土	砥石	8.80	3.95	3.14	120	流紋岩	ほぼ完形	6	
8－石6	D－3　覆土	砥石	8.55	2.95	1.00	25	頁岩	ほぼ完形		
8－石7	D－3　覆土	砥石	10.50	12.10	3.50	420	流紋岩	剝離片	177	
8－石8	D－3　覆土	砥石	21.90	15.50	4.50	2490	安山岩	ほぼ完形	34	
8－石9	D－3　覆土	叩き石	10.25	4.00	3.20	220	結晶片岩	ほぼ完形	181	
8－石10	D－3　覆土	石臼	(11.40)	(8.30)	9.65	(860)	安山岩	1/8		
8－石11	D－3　覆土	石臼	(9.65)	(6.90)	5.85	(420)	安山岩	1/10		
8－石12	T－2　覆土	紡錘車	4.20	3.80	1.05	19	滑石	完形		
8－石13	W－1　覆土	板碑	14.50	9.05	2.38	410	緑泥片岩	一部		
8－石14	W－1　覆土	摺り石	11.60	10.20	7.10	1040	安山岩	ほぼ完形		
8－石15	W－1　覆土	五輪塔	35.70	30.20	21.50	11700	角閃石安山岩	3/4		火輪
8－石16	W－4　覆土	石核	12.10	5.00	2.80	200	頁岩	1/10	10	

Tab.39　8区　鉄製品観察表

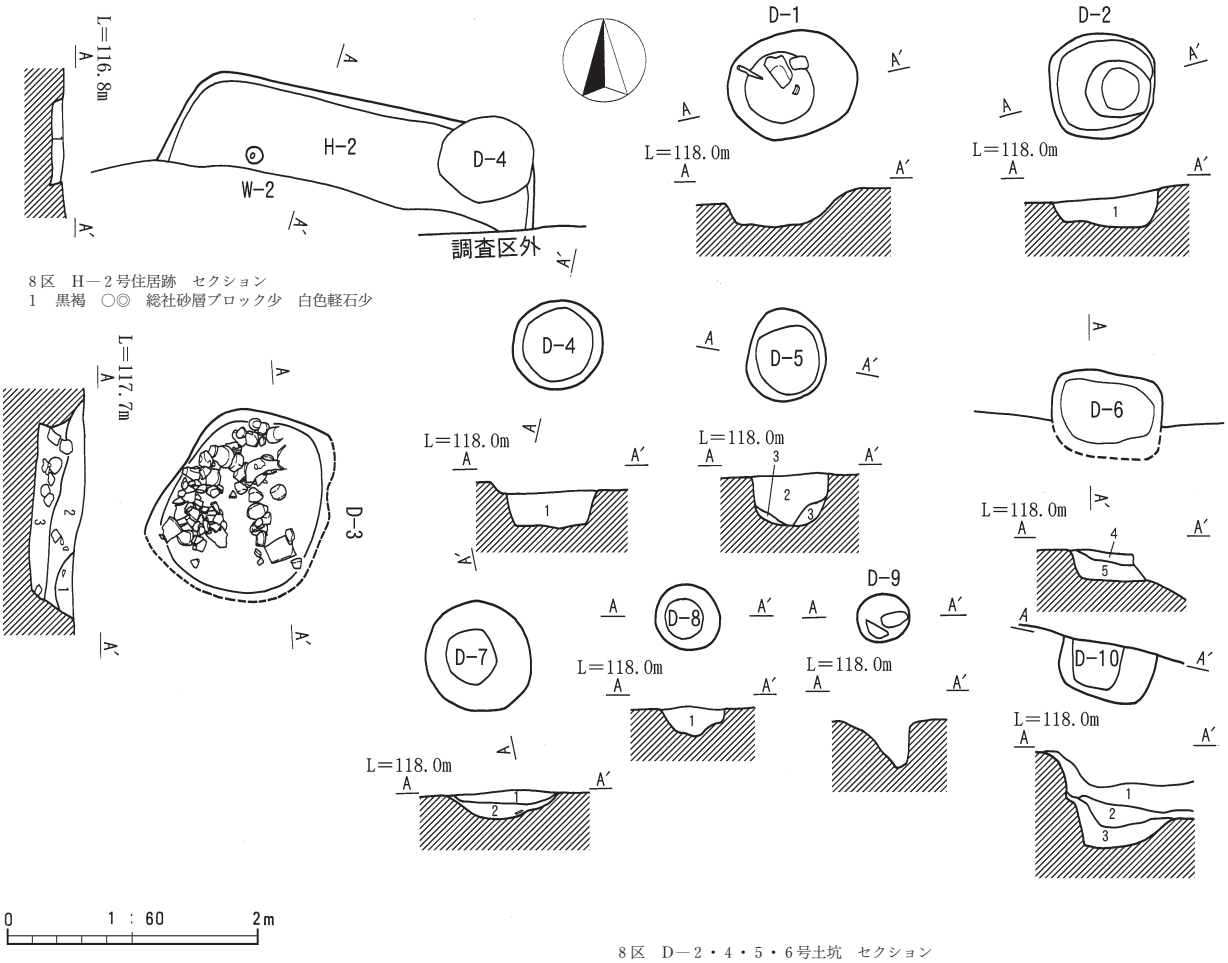
番号	出土遺構／層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重さ	遺存度	登録番号	備　考
8－鉄1	D－3　覆土	釘	9.20	1.90	1.30	25.00	ほぼ完形	120	

Tab.40　8区　土製品観察表

番号	出土遺構／層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	遺存度	登録番号	備　考
8－土1	D－3　覆土	円盤	5.10	5.10	1.00	完形	67	

Tab.41　8区　瓦観察表

番号	出土遺構 層位	器種名	①長さ ②厚さ	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
8－瓦1	H－1 床直	平瓦	①18.0 ② 3.1	①細粒　②良好 ③にぶい黄褐 ④破片	一枚作り。凹面：なで。凸面：格子状叩き具痕2箇所あり。面取り1回。	8	
8－瓦2	H－1 床直	平瓦	①20.0 ② 2.6	①細粒　②良好 ③灰白　④破片	一枚作り。凹面：布目あり。指圧痕あり。凸面：縄目文圧痕あり。側面：面取り3回。	11	
8－瓦3	D－3 覆土	丸瓦	① 8.8 ② 2.3	①細粒　②良好 ③灰　④破片	凹面：布目あり。凸面：篦なで。側面：面取り2回。	158	
8－瓦4	D－3 覆土	丸瓦	①13.5 ② 2.2	①細粒　②良好 ③灰　④破片	行基式。凹面：布目に布筒痕あり。凸面：篦なで。側面：面取り1回。	8	
8－瓦5	D－3 覆土	平瓦	① 8.1 ② 2.6	①細粒　②良好 ③灰白　④破片	一枚作り。凹面：布目あり。凸面：なで。側面：面取り3回。	76	
8－瓦6	D－3 覆土	平瓦	①11.1 ② 2.0	①細粒　②良好 ③橙　④破片	一枚作り。凹面：布目あり。凸面：なで。	46	
8－瓦7	D－3 覆土	平瓦	①12.8 ② 1.5	①細粒　②良好 ③暗オリーブ灰 ④破片	一枚作り。凹面：布目あり。凸面：なで。横位の線刻1条あり。側面：面取り1回。	111	
8－瓦8	D－3 覆土	平瓦	① 9.1 ② 1.7	①細粒　②良好 ③灰　④破片	一枚作り。凹面：布目あり。凸面：縄目文圧痕あり。	167	
8－瓦9	D－3 覆土	平瓦	① 8.7 ② 2.2	①細粒　②良好 ③褐灰　④破片	一枚作り。凹面：布目あり。凸面：なで。側面：面取り2回。	179	
8－瓦10	W－1 覆土	丸瓦	① 8.2 ② 1.6	①細粒　②良好 ③橙　④破片	凹面：布目あり。凸面：縄目文圧痕あり。側面：面取り2回。		
8－瓦11	W－1 覆土	平瓦	① 9.8 ② 2.2	①細粒　②良好 ③橙　④破片	一枚作り。凹面：布目あり。凸面：なで。側面：面取り1回。		
8－瓦12	W－4 覆土	丸瓦	① 9.2 ② 1.6	①細粒　②良好 ③灰白　④破片	凹面：布目あり。凸面：なで。側面：面取り2回。	6	
8－瓦13	表採	丸瓦	①19.0 ② 3.2	①細粒　②良好 ③灰白　④破片	行基式。凹面：布目あり。線刻文字あり。凸面：篦なで。側面：面取り1回。		
8－瓦14	表採	平瓦	①13.2 ② 2.6	①細粒　②良好 ③浅黄橙　④破片	一枚作り。凹面：布目あり。凸面：篦なで。側面：面取り2回。		



8区　H－2号住居跡　セクション
1　黒褐　○◎　総社砂層ブロック少　白色軽石少

8区　D－3号土坑　セクション
1　暗褐　○○　砂質　黄色粒　白色軽石粒　鉄分凝縮粒
2　暗褐　○○　1より砂質が弱く白色軽石多い　鉄分凝縮粒少
3　暗褐　○◎　粘性高い　ネバネバ　黄色粒　鉄分凝縮粒少

8区　D－2・4・5・6号土坑　セクション
1　暗褐　○○　ロームブロック（φ10㎜程）　鉄分凝縮粒　軽石粒
2　黒褐　○○　総社砂層ブロック（φ10㎜程）　鉄分凝縮粒
3　黒褐　○○　1よりブロック小さい
4　黒褐　○○　ザラザラ　炭　赤色粒
5　黒褐　○○　総社砂層ブロック（φ10㎜程）　鉄分凝縮粒

Fig.68　8区H－2号住居跡、D－1～10号土坑

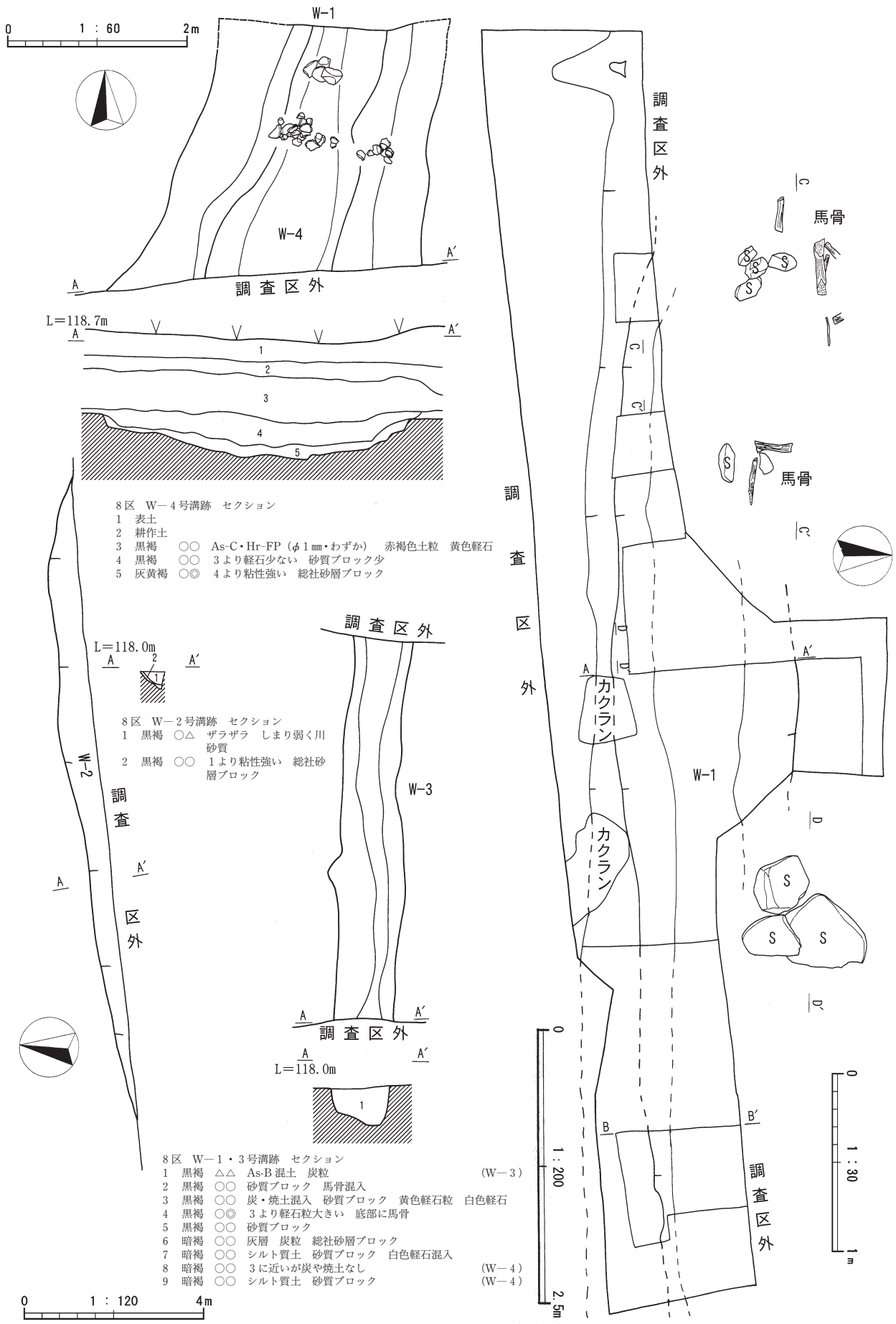
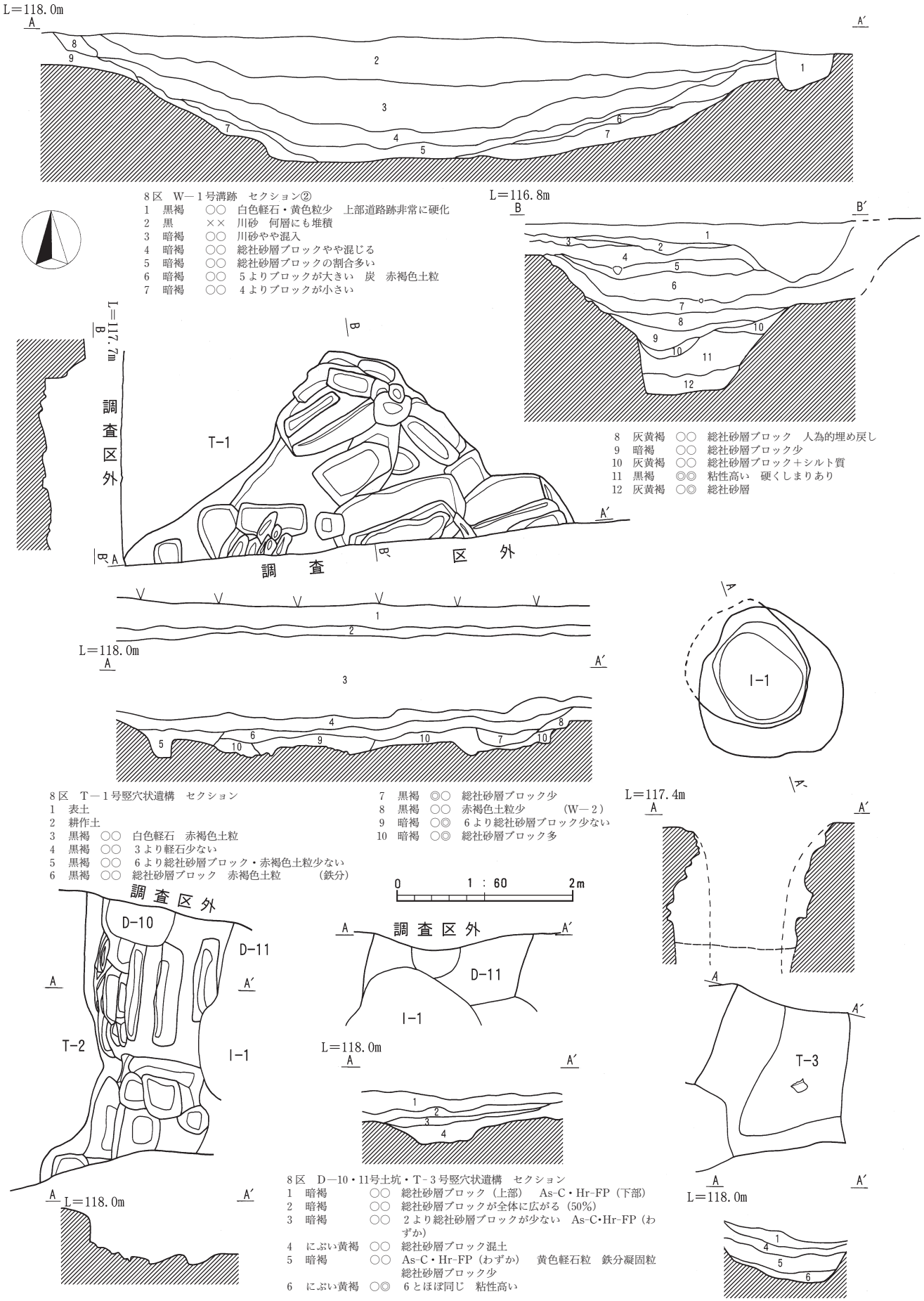


Fig.69 8区W－1～4号溝跡



8区 W—1号溝跡 セクション②
1 黒褐 ○○ 白色軽石・黄色粒少 上部道路跡非常に硬化
2 黒 ×× 川砂 何層にも堆積
3 暗褐 ○○ 川砂やや混入
4 暗褐 ○○ 総社砂層ブロックやや混じる
5 暗褐 ○○ 総社砂層ブロックの割合多い
6 暗褐 ○○ 5よりブロックが大きい 炭 赤褐色土粒
7 暗褐 ○○ 4よりブロックが小さい
8 灰黄褐 ○○ 総社砂層ブロック 人為的埋め戻し
9 暗褐 ○○ 総社砂層ブロック少
10 灰黄褐 ○○ 総社砂層ブロック＋シルト質
11 黒褐 ◎◎ 粘性高い 硬くしまりあり
12 灰黄褐 ○◎ 総社砂層

8区 T—1号竪穴状遺構 セクション
1 表土
2 耕作土
3 黒褐 ○○ 白色軽石 赤褐色土粒
4 黒褐 ○○ 3より軽石少ない
5 黒褐 ○○ 6より総社砂層ブロック・赤褐色土粒少ない
6 黒褐 ○○ 総社砂層ブロック 赤褐色土粒 (鉄分)
7 黒褐 ◎○ 総社砂層ブロック少
8 黒褐 ○○ 赤褐色土粒少 (W—2)
9 暗褐 ○◎ 6より総社砂層ブロック少ない
10 暗褐 ○◎ 総社砂層ブロック多

8区 D—10・11号土坑・T-3号竪穴状遺構 セクション
1 暗褐 ○○ 総社砂層ブロック (上部) As-C・Hr-FP (下部)
2 暗褐 ○○ 総社砂層ブロックが全体に広がる (50%)
3 暗褐 ○○ 2より総社砂層ブロックが少ない As-C・Hr-FP (わずか)
4 にぶい黄褐 ○○ 総社砂層ブロック混土
5 暗褐 ○○ As-C・Hr-FP (わずか) 黄色軽石粒 鉄分凝固粒 総社砂層ブロック少
6 にぶい黄褐 ○◎ 6とほぼ同じ 粘性高い

Fig.70 8区W—1号溝跡、T—1～3号竪穴状遺構、I—1号井戸跡、D—11号土坑

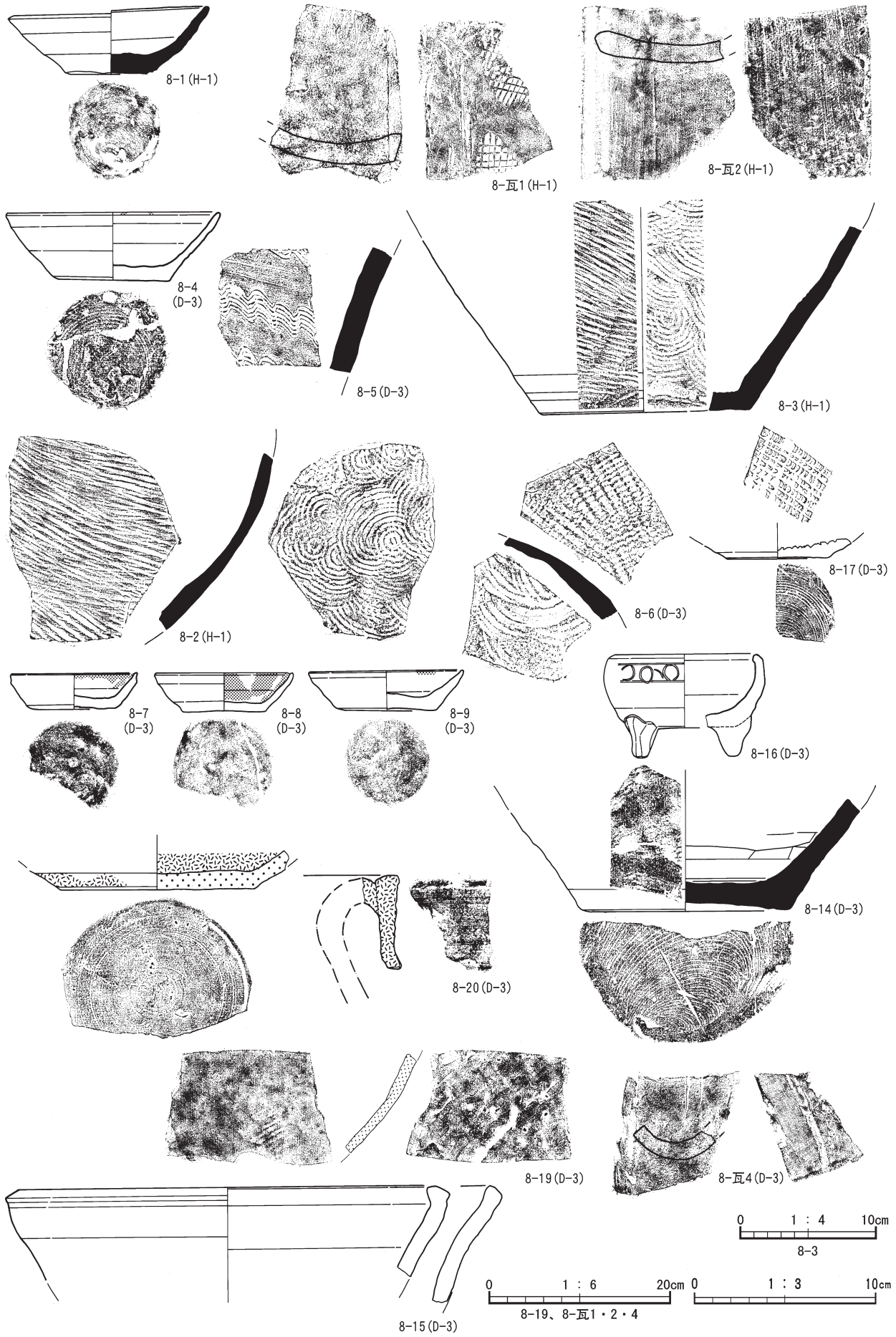


Fig.71　8区H－1号住居跡、D－3号土坑出土遺物

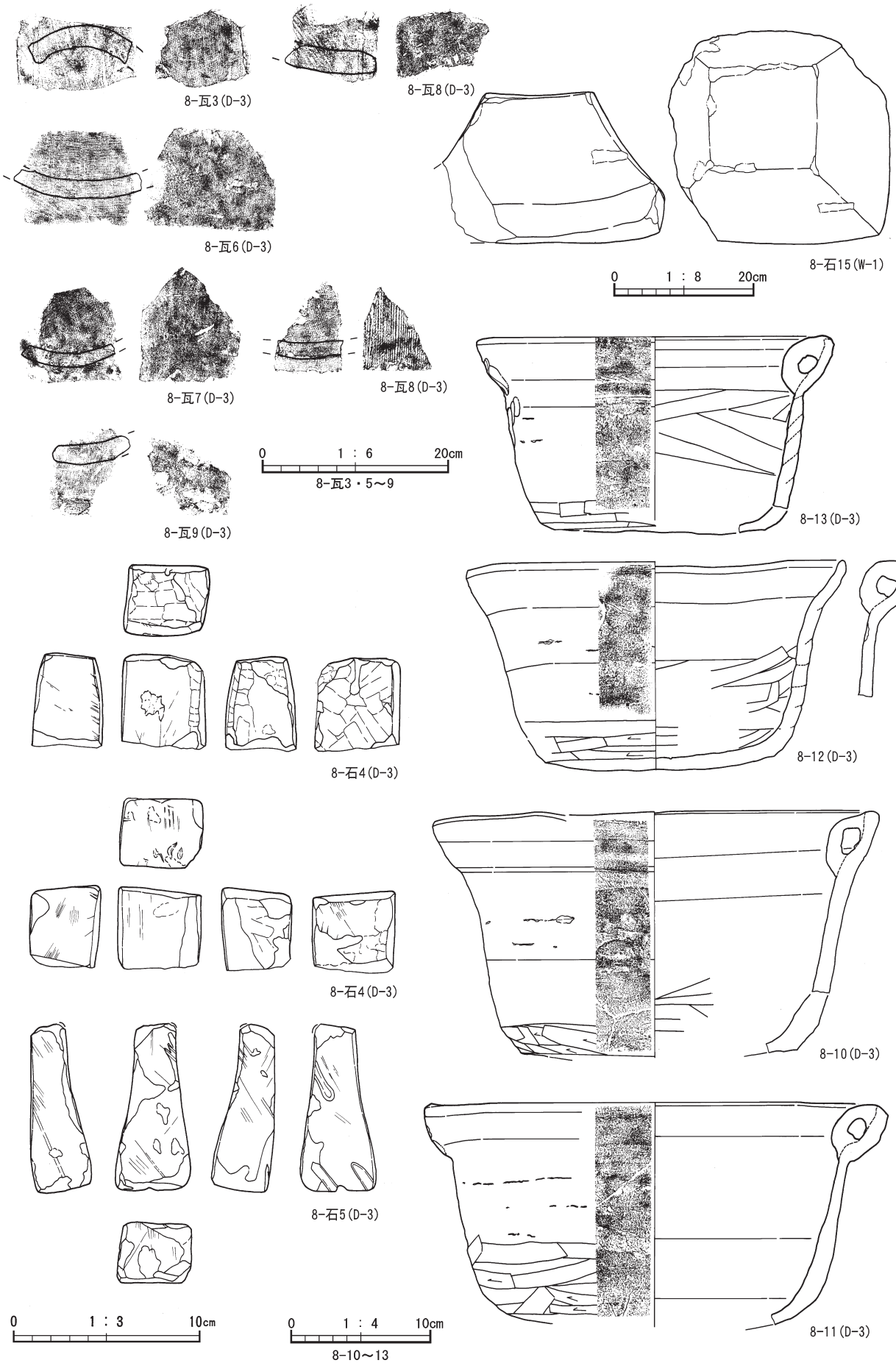


Fig.72　8区D－3号土坑、W－1号溝跡出土遺物

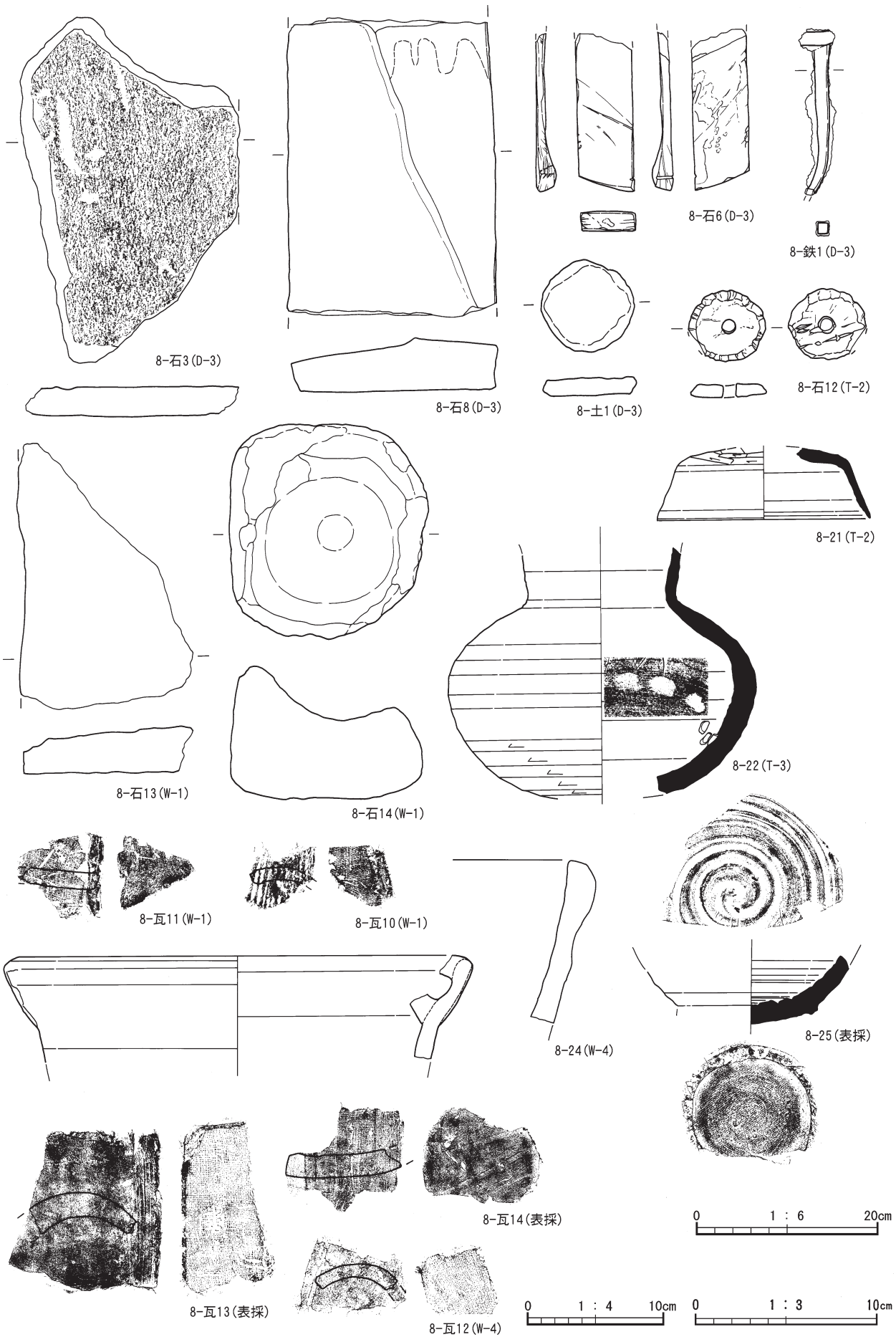


Fig.73　8区D－3号土坑、T－2・3号竪穴状遺構、W－1・4号溝跡出土遺物

9区

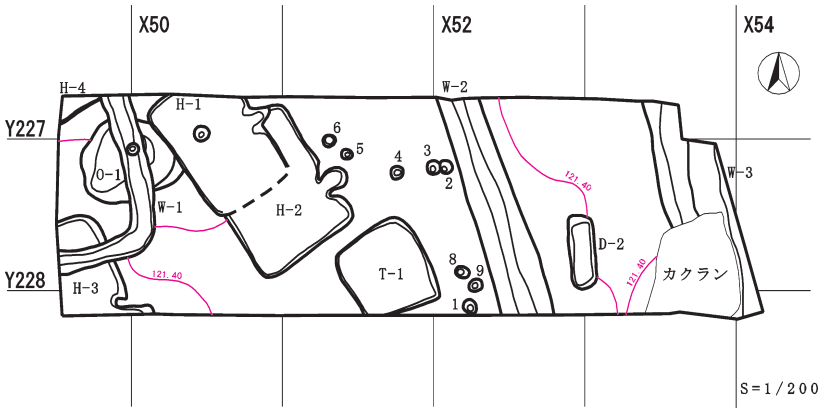
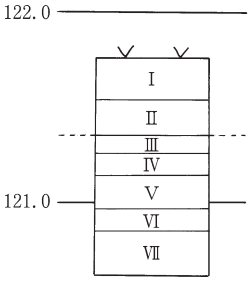


Fig.74　9区全体図



9区　基本層序

I	耕作土		
II	暗褐	○○	As-B 混土層
III	暗褐	○○	As-C・Hr-FP 混土層
IV	にぶい黄褐	○○	総社砂層への漸移層
V	黄褐	○○	総社砂層
VI	黄褐	○○	総社砂層　鉄分凝固ブロック
VII	黄褐	◎○	総社砂層　鉄分凝固

Fig.75　9区基本層序

調査区の概要

平成22年度に発掘調査を行った元総社蒼海遺跡群（35）2区に隣接する調査区。竪穴住居跡4軒、土坑2基、溝3条が検出された。調査区の西側に遺構が集中しており、北西部では覆土にAs-Bを含む逆L字形の溝が確認できた。平安時代の区画溝と考えられる。竈の構築材に複数の瓦が使用されている住居跡があり、その中には文字瓦が2枚確認できた。

(1)　竪穴住居跡

H－1号住居跡（Fig.76、PL.24）

位置　X50・51、Y226・227グリッド　**主軸方向**　N－56°－E　**形状等**　東西2.47m、南北[3.57]m、壁現高16.5cm。　**面積**　(7.56)㎡　**床面**　平坦な貼り床。　**竈**　東壁南寄りに施設。両袖に石を配置する。主軸方向N－58°－E、全長72.0cm、最大幅86.0cm、焚口部幅34.0cm。焚口部は若干凹み、煙道部は緩やかに立ち上がる。煙道は東壁より50cm程張り出す。　**貯蔵穴等**　検出されず。　**周溝**　精査を行ったが確認されなかった。　**重複**　H－2と重なり、新旧関係はH－2→本遺構。　**出土遺物**　土師器63点、須恵器42点、縄文土器1点、灰釉陶器2点。そのうち土師器墨書土器1点、須恵器高台椀2点、須恵器大甕1点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から9世紀後半と考えられる。

H－2号住居跡（Fig.76、PL.24）

位置　X50・51、Y226・227グリッド　**主軸方向**　N－56°－E　**形状等**　東西2.97m、南北3.86m、壁現高27.5cm。　**面積**　(10.70)㎡　**床面**　平坦な貼り床。　**竈**　東壁南寄りに施設。主軸方向N－56°－E、全長83.0cm、最大幅96.0cm、焚口部幅30.0cm。煙道部は緩やかに立ち上がる。煙道は東壁より50cm程張り出す。　**貯蔵穴等**　貯蔵穴を検出。46×34cmの隅丸方形で深さは7cm。　**周溝**　東壁竈・貯蔵穴付近以外ほぼ全周する。

幅13cm前後、深さ３cm程度であり、断面は逆台形。　**重複**　Ｈ－１と重なり、新旧関係は本遺構→Ｈ－１　**出土遺物**　土師器180点、須恵器22点、縄文土器１点、石製品１点、陶磁器２点。そのうち土師器杯１点、土師器甕１点、土師器台付甕１点、須恵器蓋１点、須恵器坏１点、須恵器高台椀１点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から９世紀後半と考えられる。

Ｈ－３号住居跡（Fig.77、PL.24）

位置　Ｘ49・50、Ｙ227・228グリッド　**主軸方向**　Ｎ－67°－Ｅ　**形状等**　東西(1.08)ｍ、南北(3.01)ｍ、壁現高44.0cm。　**面積**　(3.96)㎡　**床面**　平坦な貼り床。　**竈**　東壁中央に施設。主軸方向Ｎ－71°－Ｅ、全長[144.0]cm、最大幅[112.0]cm、焚口部幅[29.0]cm。５枚の瓦と６個の石で袖部から煙道部が構築されていた。焚口部は凹み、煙道部は急激に立ち上がる。煙道は東壁より75cm程張り出す。　**貯蔵穴等**　検出されず。　**周溝**　精査を行ったが確認されなかった。　**重複**　Ｗ－１と重なり、新旧関係は本遺構→Ｗ－１。　**出土遺物**　土師器113点、須恵器24点、瓦８点、縄文土器１点、鉄製品１点、陶磁器１点。そのうち土師器甕１点、須恵器坏１点、丸瓦２点、平瓦８点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から９世紀後半と考えられる。

Ｈ－４号住居跡（Fig.77、PL.25）

位置　Ｘ49、Ｙ226グリッド　**主軸方向**　Ｎ－62°－Ｅ　**形状等**　東西(1.76)ｍ、壁現高17.5cm。　**面積**　(0.51)㎡　**床面**　平坦な床面。　**竈**　東壁に施設されたと考えられるが、住居のほとんどが調査区外のため確認できず。　**貯蔵穴等**　検出されず。　**周溝**　精査を行ったが確認されなかった。　**出土遺物**　縄文土器１点、石製品１点。　**時期**　覆土からAs-B降下以前と考えられる。

⑵　竪穴状遺構

Ｔ－１号竪穴状遺構（Fig.76、PL.25）

位置　Ｘ52・53、Ｙ227・228グリッド　**主軸方向**　Ｎ－60°－Ｅ　**規模等**　東西2.03m、南北2.48m、壁現高13.5cm。　**面積**　(4.87)㎡　**時期**　不明。

⑶　溝跡

Ｗ－１号溝跡（Fig.78、PL.25）

位置　Ｘ49・50、Ｙ226・227グリッド　**主軸方向**　Ｎ－82°－Ｅ　**形状等**　逆台形。長さ8.38m、深さ12.0cm、最大上幅73.0cm、最大下幅52.0cm　**出土遺物**　土師器５点、須恵器３点、瓦１点。　**時期**　覆土や出土遺物からAs-B降下以前と考えられる。　**備考**　平安時代の区画溝と考えられる。

Ｗ－２号溝跡（Fig.78、PL.25）

位置　Ｘ52・53、Ｙ226～228グリッド　**主軸方向**　Ｎ－18°－Ｅ　**形状等**　逆台形。長さ5.98m、深さ60.0cm、最大上幅135.0cm、最大下幅47.0cm　**出土遺物**　土師器12点、須恵器４点、石製品１点、陶磁器１点。　**時期**　覆土や出土遺物から中世と考えられる。

Ｗ－３号溝跡（Fig.78、PL.25）

位置　Ｘ53・54、Ｙ226～228グリッド　**主軸方向**　Ｎ－11°－Ｅ　**形状等**　逆台形と思われる。長さ4.70m、深さ68.0cm、最大上幅(184.0)cm、最大下幅(59.0)cm　**出土遺物**　須恵器１点。　**時期**　覆土や周辺遺跡との関係から中世と考えられる。　**備考**　蒼海城の堀の一部である可能性も考えられる。

⑷ 土坑、ピット（Fig.77）

D－2号土坑（Fig.77、PL.25）

位置　X52・53、Y227グリッド　**形状等**　円形。長軸194.0cm、短軸68.0cm、深さ38.5cm。　**出土遺物**　土師器42点、須恵器2点、中世4点。そのうち須恵器高台椀2点、カワラケ4点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から中世と考えられる。

他の土坑、ピットについては、Tab.44土坑・ピット計測表を参照のこと。

Tab.42　9区　住居跡等一覧表

遺構名	位置	規模（m）			面積（㎡）	主軸方向	竈		周溝	主な出土遺物		
		東西	南北	壁現高(cm)			位置	構築材		土師器	須恵器	その他
H－1	X50・51 Y226・227	2.47	[3.57]	16.5	(7.56)	N－56°－E	東壁南寄り	粘土	－		椀、甕	
H－2	X50・51 Y226・227	2.97	3.86	27.5	(10.70)	N－56°－E	東壁南寄り	粘土	－	台付甕	坏	
H－3	X49・50 Y227・228	(1.08)	(3.01)	44.0	(3.96)	N－67°－E	東壁中央	瓦、粘土	－	甕	坏	
H－4	X49 Y226	(1.76)	－	17.5	(0.51)	N－62°－E			－			
T－1	X52・53 Y227・228	2.03	2.48	13.5	(4.87)	N－60°－E			－			

Tab.43　9区　溝跡計測表

遺構名	位置	長さ(m)	深さ（cm）		上幅（cm）		下幅（cm）		主軸方向	断面形	時期
			最大	最小	最大	最小	最大	最小			
W-1	X49・50 Y226・227	8.38	12.0	3.5	73.0	50.0	52.0	23.0	N－82°－E	逆台形	平安
W-2	X52・53 Y226～228	5.98	60.0	45.3	135.0	102.0	47.0	27.0	N－18°－W	逆台形	中世
W-3	X53・54 Y226～228	4.70	68.0	62.0	184.0	174.0	59.0	12.0	N－11°－W	逆台形	中世

Tab.44　9区　土坑・ピット計測表

遺構名	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	出土遺物	備考
D－1	X49・50 Y226・227	276.0	234.0	不明	円形		
D－2	X52・53 Y227	194.0	68.0	38.5	隅丸方形	土42・須2	
P－1	X53 Y228	42.0	34.0	23.0	楕円形		
P－2	X53 Y227	34.0	34.0	22.0	円形		
P－3	X52・53 Y227	36.0	34.0	25.0	円形		
P－4	X52 Y227	36.0	34.0	18.0	円形		
P－5	X52 Y227	30.0	26.0	27.0	円形		
P－6	X52 Y226・227	34.0	30.0	16.0	円形		
P－7	X52 Y226・227	42.0	40.0	21.0	円形		
P－8	X53 Y227	38.0	30.0	13.0	隅丸方形		
P－9	X53 Y227・228	40.0	32.0	15.5	円形		

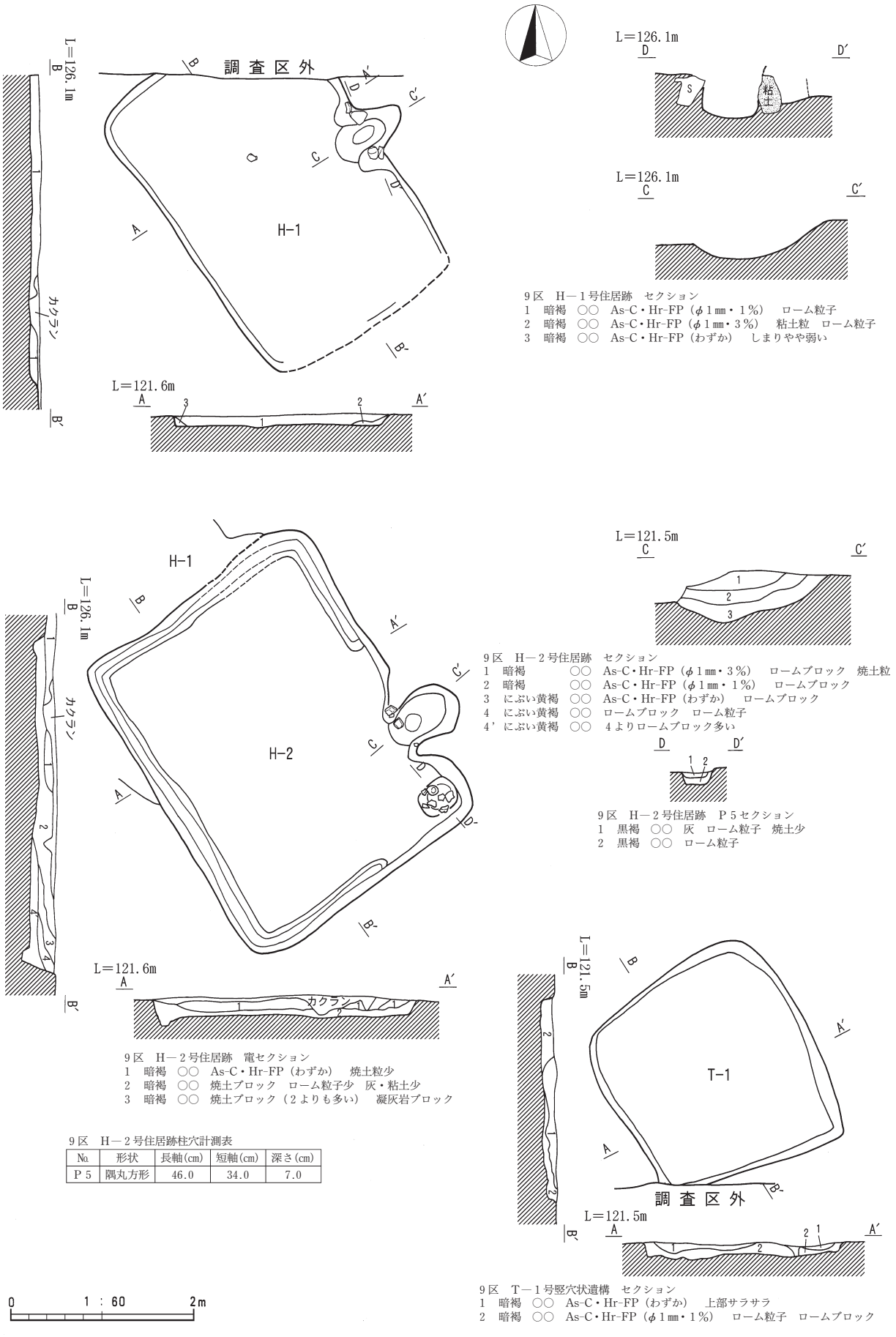
Tab.45　9区　古墳・奈良・平安時代出土土器観察表

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径 ②器高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
9－1	H－1 床直	土師器 坏	①— ②— ③—	①細粒 ②良好 ③橙 ④底部破片	口縁部から体部：欠損。底部：外面篦削り。内面なで。底部内面に墨書あり。	2	
9－2	H－1 床直	須恵器 高台椀	①[16.3] ②(6.3) ③—	①細粒 ②良好 ③灰 ④1/2	轆轤整形。口縁部から体部：内外面轆轤なで。底部：外面回転糸切りの後、高台を取り付ける。高台部：欠損。	36	
9－3	H－1 床直	須恵器 高台椀	①14.6 ②5.5 ③7.4	①細粒 ②良好 ③オリーブ黒 ④4/5	轆轤整形。緩やかに外傾し口縁端で短く外反する。口縁部から体部：内外面轆轤なで。黒色処理。底部：外面回転糸切りの後、高台を取り付ける。	30	
9－4	H－1 床直	須恵器 大甕	①— ②— ③—	①細粒 ②良好 ③灰白 ④口縁部破片	轆轤整形。口縁部：外面に鍔状の張り出し。内外面轆轤なで。内面に自然釉。胴部から底部：欠損。	37	
9－5	H－2 覆土	土師器 坏	①[12.4] ②3.4 ③[7.6]	①細粒 ②良好 ③にぶい赤褐 ④1/3	口縁部：内外面横なで。体部：内面横なで。外面なで。底部：平底。斜位の篦削り。	6	
9－6	H－2 床直	土師器 甕	①19.2 ②27.5 ③4.2	①細粒 ②良好 ③橙 ④ほぼ完形	口縁部：内外面横なで。胴上部：内面なで。外面横位の篦削り。胴上部で最大径となる。胴中部から胴下部：内面なで。外面縦位の篦削り。底部：平底。	14	
9－7	H－2 床直	土師器 台付甕	①— ②(6.2) ③[12.7]	①細粒 ②良好 ③にぶい橙 ④脚部	口縁部から胴中部：欠損。胴下部：内面横なで。外面縦位の篦削り。接合部：内面なで。外面横なで。台部：大きく外反して開く。内外面横なで。	18	
9－8	H－2 覆土	須恵器 蓋	①[18.0] ②(2.1) ③—	①細粒 ②良好 ③灰白 ④破片	轆轤整形。天井部から体部にかけて緩やかに傾斜する。体部：外面回転篦削りから轆轤なで。内面轆轤なで。返しあり。摘み：欠損。		
9－9	H－2 覆土	須恵器 坏	①12.1 ②3.6 ③6.6	①細粒 ②良好 ③灰白 ④完形	轆轤整形。緩やかに外傾する。口縁部から体部：内外面轆轤なで。底部：やや上げ底。外面回転糸切り。	30	

番号	出土遺構 層　位	器種名	①口径　②器高 ③底径	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備　考
9－10	H－2 床直	須恵器 高台椀	①—　②(2.2) ③10.4	①細粒　②良好 ③灰　④底部	轆轤整形。口縁部から体部：欠損。底部：内外面轆轤なで。外面回転糸切りの後、高台を取り付ける。高台部：内外面轆轤なで。	19	
9－11	H－3 床直	土師器 甕	①[22.0] ②(11.7) ③—	①細粒　②良好 ③明赤褐　④破片	口縁部：内外面横なで。胴上部：内面なで。外面横位つづいて縦位の篦削り。胴中部から底部：欠損。	39	
9－12	H－3 床直	須恵器 坏	①[12.8] ②3.8 ③[7.0]	①細粒　②良好 ③灰　④1/3	轆轤整形。緩やかに外傾する。口縁部から体部：轆轤なで。底部：上げ底。外面回転糸切り。	41	
9－13	D－2 覆土	高台付 皿	①11.4　②2.9 ③5.8	①細粒　②良好 ③浅黄　④ほぼ完形	轆轤整形。大きく外傾する。口縁部から体部：内外面轆轤なで。底部：外面回転糸切りの後、高台を取り付ける。高台部：内外面轆轤なで。	10	酸化焔
9－14	D－2 底面	高台付 皿	①[11.1] ②2.9 ③6.0	①細粒　②良好 ③明黄褐　④2/3	轆轤整形。大きく外傾する。口縁部から体部：内外面轆轤なで。底部：外面回転糸切りの後、高台を取り付ける。高台部：内外面轆轤なで。	5	酸化焔
9－15	D－2 底面	かわらけ	①10.2　②2.8 ③4.7	①細粒　②良好 ③橙　④完形	轆轤整形。小型の器形。口縁部：やや外反して開く。口縁部から体部：轆轤なで。底部：平底。外面回転糸切り。	1	酸化焔
9－16	D－2 覆土	かわらけ	①10.0　②2.8 ③4.6	①細粒　②良好 ③橙　④完形	轆轤整形。小型の器形。口縁部：やや外反して開く。口縁部から体部：轆轤なで。底部：平底。外面回転糸切り。	3	酸化焔
9－17	D－2 覆土	かわらけ	①9.6　②2.4 ③4.8	①細粒　②良好 ③浅黄橙　④ほぼ完形	轆轤整形。小型の器形。口縁部から体部：轆轤なで。底部：平底。外面回転糸切り。	9	酸化焔
9－18	D－2 覆土	かわらけ	①11.3　②2.9 ③5.6	①細粒　②良好 ③橙　④完形	轆轤整形。小型の器形。口縁部：やや外反して開く。口縁部から体部：轆轤なで。底部：平底。外面回転糸切り。	13	酸化焔

Tab.46　9区　瓦観察表

番号	出土遺構 層位	器種名	①長さ ②厚さ	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
9－瓦1	H－3 竈	丸瓦	①19.0 ② 2.1	①細粒　②良好 ③灰　④1/2	凹面：布目あり。凸面：なで。線刻文字「千」あり。側面：面取り2回。竈構築材に使用。	72	文字有
9－瓦2	H－3 竈	丸瓦	①38.8 ② 2.2	①細粒　②良好 ③浅黄　④ほぼ完形	行基式。凹面：布目あり。指なで文字「正」あり。凸面：なで。側面：面取り3回。竈構築材に使用。	66	文字有
9－瓦3	H－3 覆土	平瓦	①12.3 ② 2.4	①細粒　②良好 ③橙　④破片	一枚作り。凹面：布目あり。凸面：なで。側面：面取り2回。	51	
9－瓦4	H－3 覆土	平瓦	①10.1 ② 2.3	①細粒　②良好 ③灰白　④破片	一枚作り。凹面：布目あり。凸面：篦なで。側面：面取り2回。	53	
9－瓦5	H－3 覆土	平瓦	①13.5 ② 1.7	①細粒　②良好 ③灰　④破片	一枚作り。凹面：布目あり。凸面：縄目文圧痕あり。側面：面取り2回。	70	
9－瓦6	H－3 床直	平瓦	①11.5 ② 1.6	①細粒　②良好 ③暗オリーブ灰④破片	一枚作り。凹面：布目あり。凸面：なで。側面：面取り1回。	13	
9－瓦7	H－3 竈	平瓦	①12.3 ② 1.5	①細粒　②良好 ③灰　④破片	一枚作り。凹面：布目あり。凸面：なで。竈構築材に使用。	68	
9－瓦8	H－3 竈	平瓦	①30.5 ② 2.3	①細粒　②良好 ③黄灰　④一部	一枚作り。凹面：布目あり。凸面：篦なで。側面：面取り3回。竈構築材に使用。	67	
9－瓦9	H－3 竈	平瓦	①33.3 ② 2.0	①細粒　②良好 ③にぶい黄橙　④3/4	一枚作り。凹面：布目あり。凸面：縄目文圧の後、なで調整。側面：面取り1回。竈構築材に使用。	71	
9－瓦10	H－3 竈	平瓦	①25.4 ② 2.6	①細粒　②良好 ③にぶい黄　④1/2	一枚作り。凹面：なで調整。凸面：なで。側面：面取り2回。竈構築材に使用。	69	



9区　H－1号住居跡　セクション
1　暗褐　○○　As-C・Hr-FP（φ1㎜・1％）　ローム粒子
2　暗褐　○○　As-C・Hr-FP（φ1㎜・3％）　粘土粒　ローム粒子
3　暗褐　○○　As-C・Hr-FP（わずか）　しまりやや弱い

9区　H－2号住居跡　セクション
1　暗褐　○○　As-C・Hr-FP（φ1㎜・3％）　ロームブロック　焼土粒
2　暗褐　○○　As-C・Hr-FP（φ1㎜・1％）　ロームブロック
3　にぶい黄褐　○○　As-C・Hr-FP（わずか）　ロームブロック
4　にぶい黄褐　○○　ロームブロック　ローム粒子
4'　にぶい黄褐　○○　4よりロームブロック多い

9区　H－2号住居跡　P5セクション
1　黒褐　○○　灰　ローム粒子　焼土少
2　黒褐　○○　ローム粒子

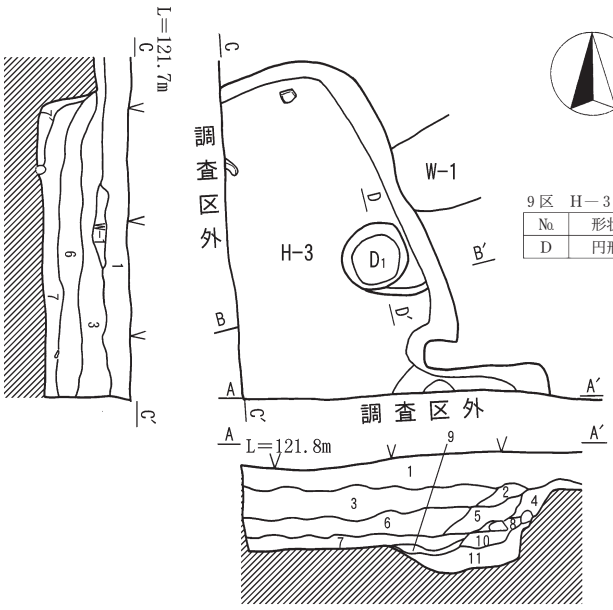
9区　H－2号住居跡　竈セクション
1　暗褐　○○　As-C・Hr-FP（わずか）　焼土粒少
2　暗褐　○○　焼土ブロック　ローム粒子少　灰・粘土少
3　暗褐　○○　焼土ブロック（2よりも多い）　凝灰岩ブロック

9区　H－2号住居跡柱穴計測表

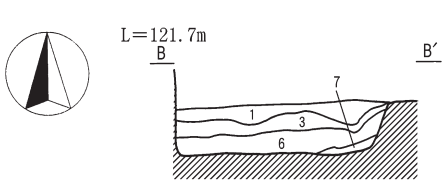
No.	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
P5	隅丸方形	46.0	34.0	7.0

9区　T－1号竪穴状遺構　セクション
1　暗褐　○○　As-C・Hr-FP（わずか）　上部サラサラ
2　暗褐　○○　As-C・Hr-FP（φ1㎜・1％）　ローム粒子　ロームブロック

Fig.76　9区H－1・2号住居跡、T－1号竪穴状遺構



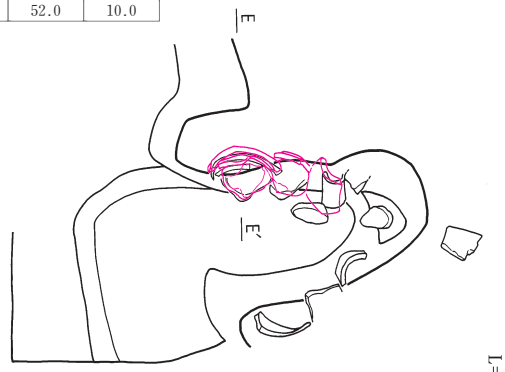
9区　H－3号住居跡　セクション
1　耕作土
2　暗褐　○○　As-C・Hr-FP（φ1㎜・1％）　粘土粒　焼土少
3　暗褐　△○　As-C・Hr-FP（わずか）　黄色軽石
4　暗褐　○○　粘土ブロック　竈構築材ブロック　煙道部
5　暗褐　○○　As-C・Hr-FP（φ1㎜・1％）　焼土ブロック
6　暗褐　○○　As-C・Hr-FP（φ1㎜・1％）　黄色軽石
7　暗褐　○○　As-C・Hr-FP（φ1㎜・1％）　赤褐色粒　ローム粒子
7'　暗褐　○○　As-C・Hr-FP（わずか）　ローム粒子多
8　褐　○○　竈構築粘土ブロック　砂岩ブロック　焼土粒
9　褐灰　○○　竈灰層
10　褐　○○　竈構築粘土多　灰　炭　焼土粒
11　褐　○○　焼土ブロック　粘土粒　灰

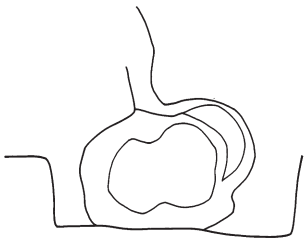


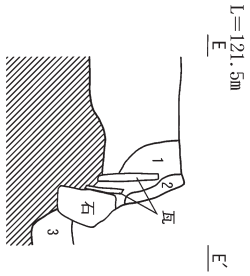
9区　H－3号住居跡床下土坑計測表

No.	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
D	円形	56.0	52.0	10.0

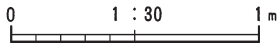
9区　H－3号住居跡　床下土坑セクション
1　暗赤褐　○○　ローム粒子＋鉄分

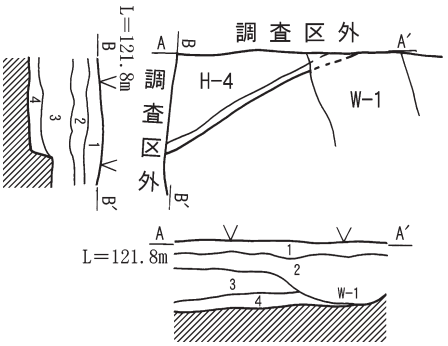




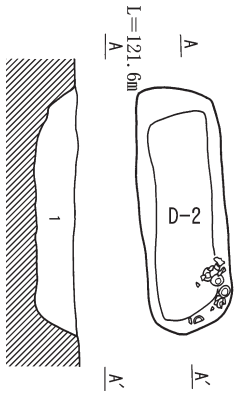


9区　H－3号住居跡　竈袖セクション
1　暗褐　○○　竈構築粘土　ローム粒子少
2　暗褐　○○　焼土ブロック　粘土粒　灰少
3　褐　○○　焼土ブロック　粘土粒　灰

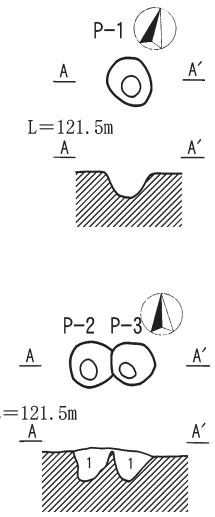


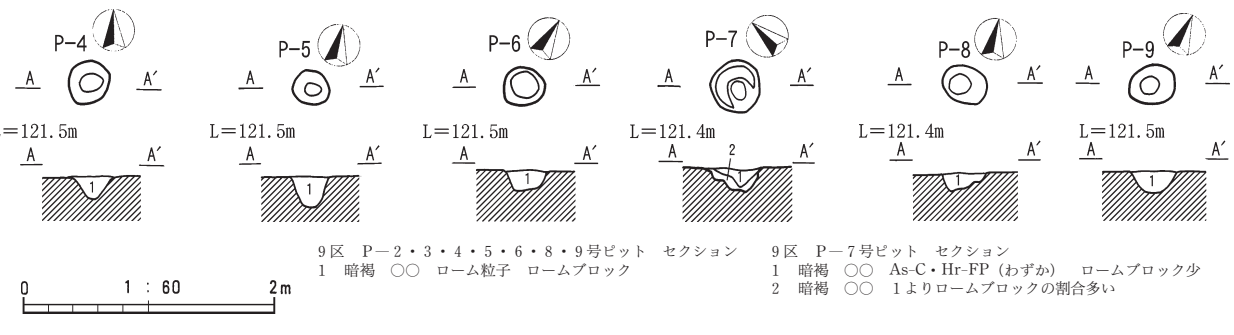


9区　H－4号住居跡　セクション
1　客土
2　耕作土
3　暗褐　○○　As-C・Hr-FP（φ1㎜・わずか）　黄色粒
4　暗褐　○○　ローム粒子　ロームブロック



9区　D－2号土坑　セクション
1　黒褐　○○　As-C・Hr-FP（わずか）
しまりやや弱い

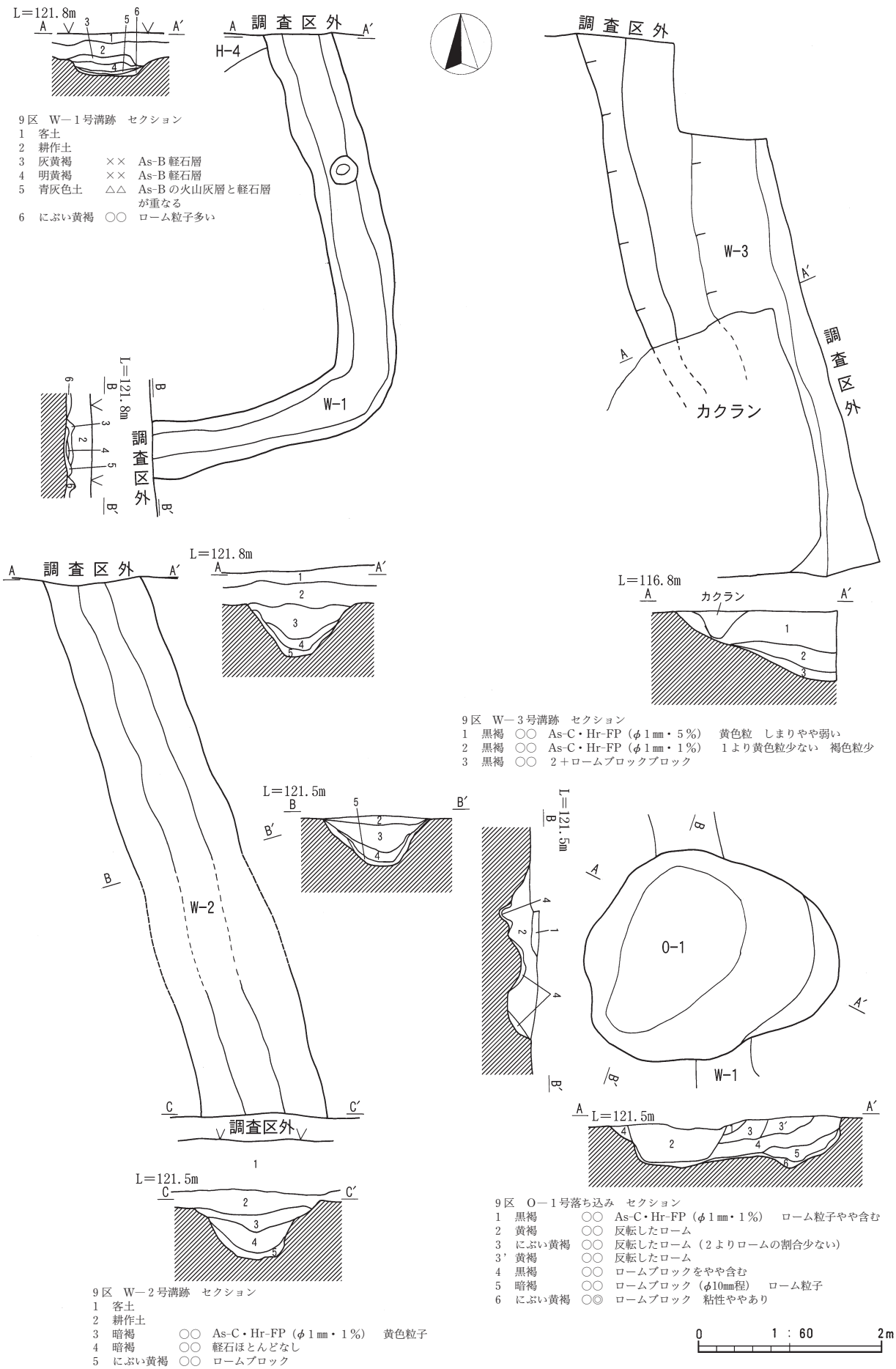




9区　P－2・3・4・5・6・8・9号ピット　セクション
1　暗褐　○○　ローム粒子　ロームブロック

9区　P－7号ピット　セクション
1　暗褐　○○　As-C・Hr-FP（わずか）　ロームブロック少
2　暗褐　○○　1よりロームブロックの割合多い

Fig.77　9区H－3・4号住居跡、D－2号土坑、P－1～9号ピット



9区　W－1号溝跡　セクション
1　客土
2　耕作土
3　灰黄褐　××　As-B軽石層
4　明黄褐　××　As-B軽石層
5　青灰色土　△△　As-Bの火山灰層と軽石層が重なる
6　にぶい黄褐　○○　ローム粒子多い

9区　W－3号溝跡　セクション
1　黒褐　○○　As-C・Hr-FP（φ1㎜・5％）　黄色粒　しまりやや弱い
2　黒褐　○○　As-C・Hr-FP（φ1㎜・1％）　1より黄色粒少ない　褐色粒少
3　黒褐　○○　2＋ロームブロックブロック

9区　W－2号溝跡　セクション
1　客土
2　耕作土
3　暗褐　○○　As-C・Hr-FP（φ1㎜・1％）　黄色粒子
4　暗褐　○○　軽石ほとんどなし
5　にぶい黄褐　○○　ロームブロック

9区　O－1号落ち込み　セクション
1　黒褐　○○　As-C・Hr-FP（φ1㎜・1％）　ローム粒子やや含む
2　黄褐　○○　反転したローム
3　にぶい黄褐　○○　反転したローム（2よりロームの割合少ない）
3’　黄褐　○○　反転したローム
4　黒褐　○○　ロームブロックをやや含む
5　暗褐　○○　ロームブロック（φ10㎜程）　ローム粒子
6　にぶい黄褐　○◎　ロームブロック　粘性ややあり

0　1：60　2m

Fig.78　9区W－1～3号溝跡、O－1号落ち込み

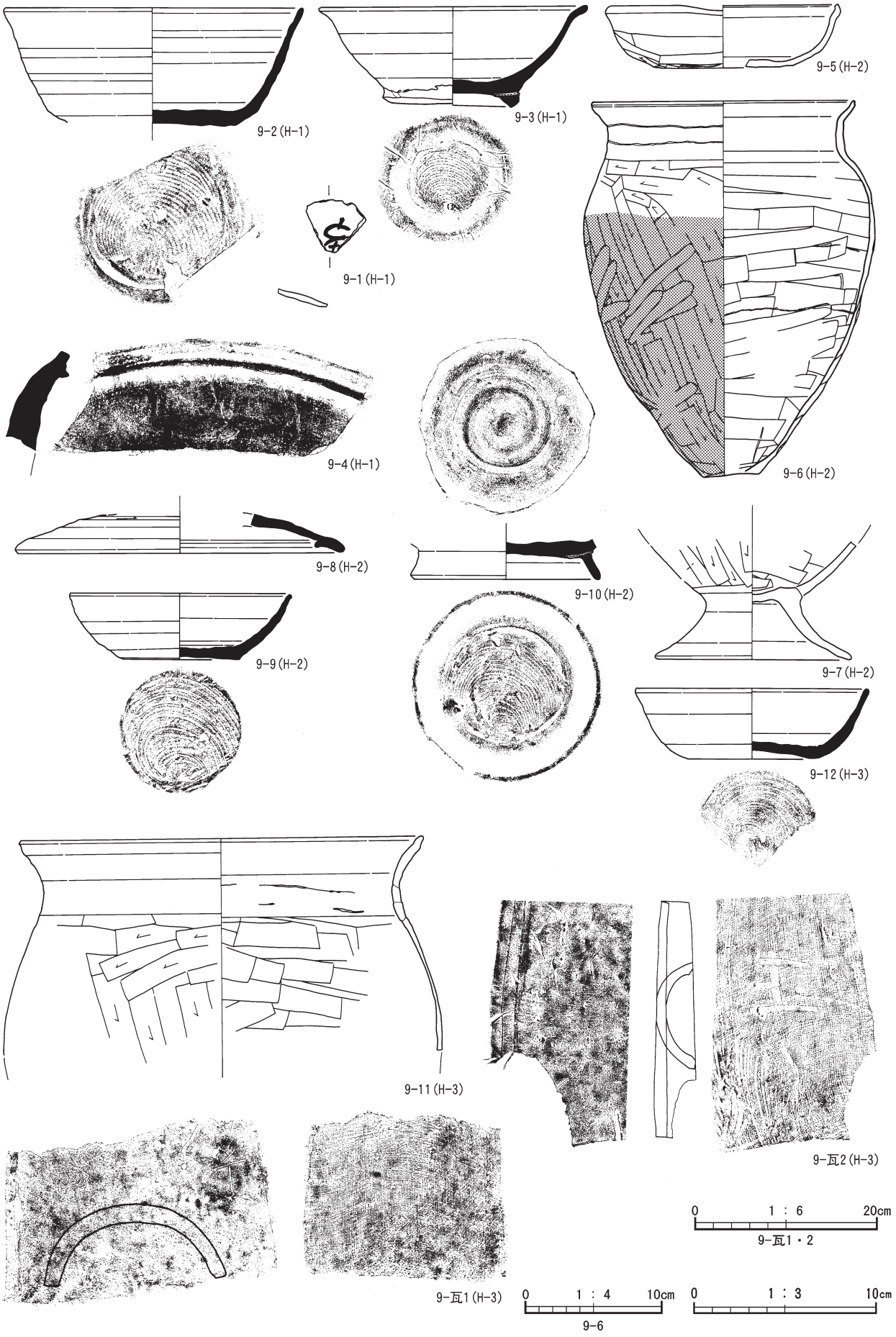


Fig.79　9区H－1～3号住居跡出土遺物

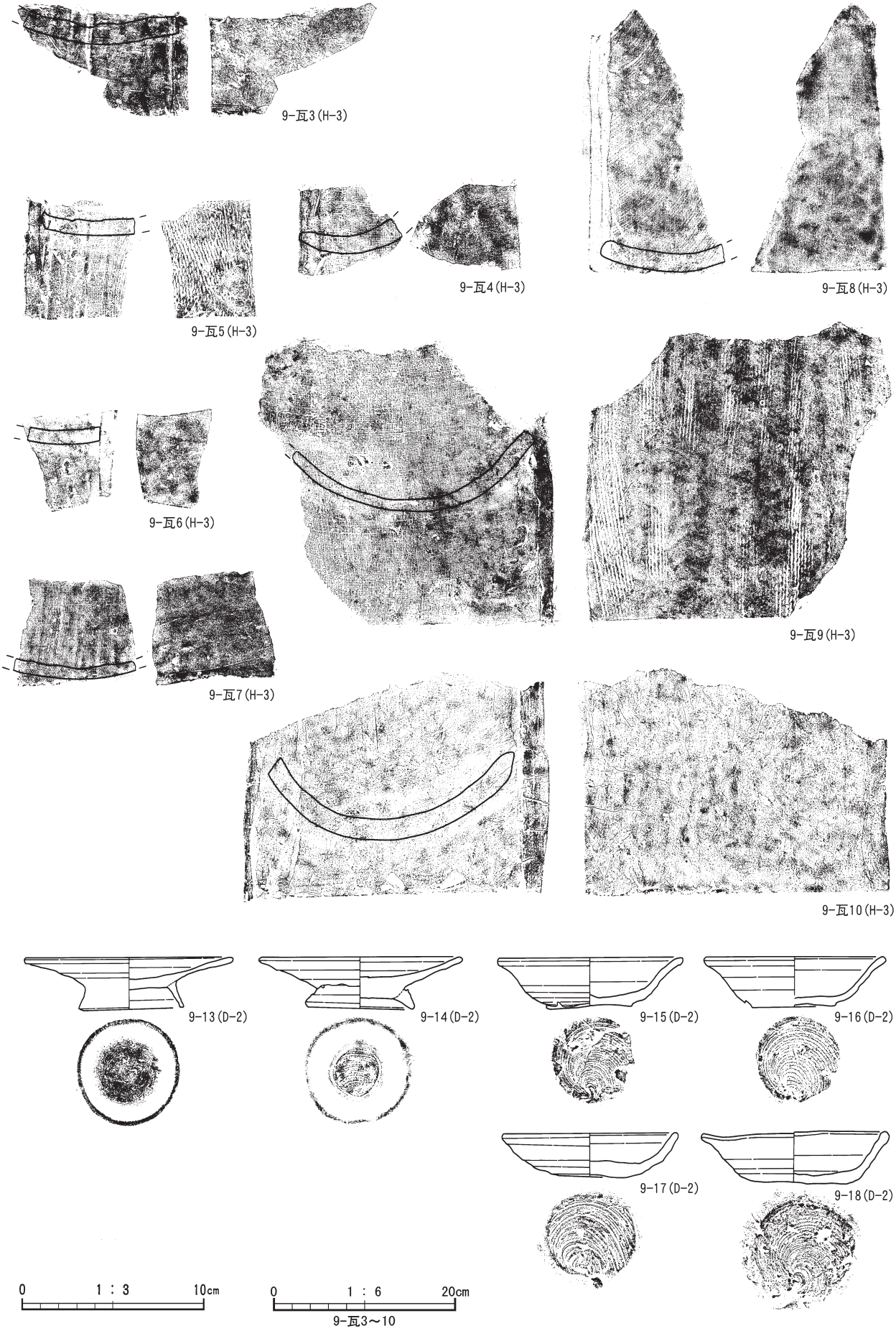


Fig.80　9区H－3号住居跡、D－2号土坑出土遺物

10区

調査区の概要

本調査区は蒼海遺跡群の南西部、染谷川の左岸に位置する。調査区東西に長い長方形を呈する。周辺は、住宅が立ち並ぶ一角で、調査前には、住宅が立っていた。遺構の保存状況はあまり良くなく、遺構は、竪穴住居跡が５軒、溝跡１条が検出された。

基本土層

厚さ約40cmの表土を除去すると、粗粒の砂質土となり、遺構確認面もこの面であり遺構の保存状況はあまり良くない。

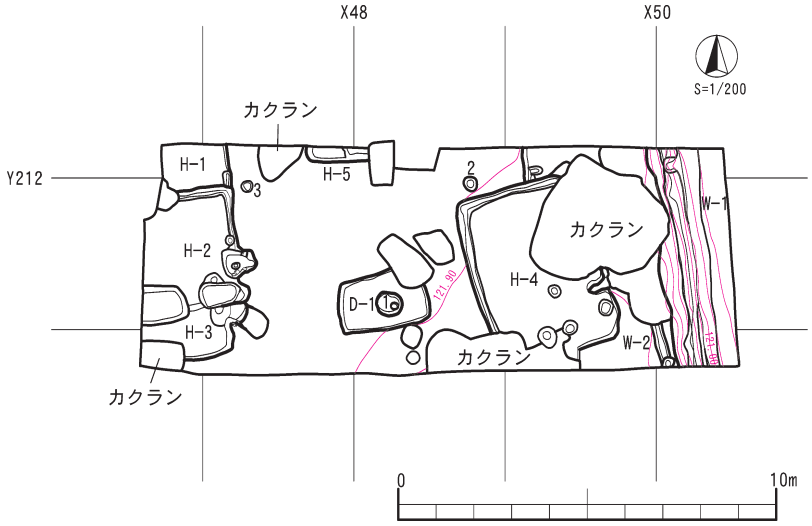


Fig.81　10区全体図

(1)　竪穴住居跡

Ｈ－１号住居跡（Fig.82、PL.26）

位置　Ｘ46・47、Ｙ211・212グリッド　**主軸方向**　Ｎ―85°―Ｅ　**形状等**　東西(1.82)ｍ、南北(1.36)ｍ、壁現高13.5cm　**面積**　2.30㎡　**床面**　シルト質粘土　**竈**　未検出　**壁周溝**　○　**重複**　Ｈ－２と重複し、Ｈ－２より古い。　**出土遺物**　轆轤整形椀　**時期**　不明

Ｈ－２号住居跡（Fig.82、PL.26）

位置　Ｘ46･47、Ｙ212グリッド　**主軸方向**　Ｎ―85°―Ｅ　**形状等**　東西(3.30)ｍ、南北(3.20)ｍ、壁現高17cm　**面積**　8.72㎡　**床面**　シルト質粘土　**竈**　主軸方向Ｎ―92°―Ｅ、全長96.0cm、最大幅80cm、焚口部幅52cm　**壁周溝**　○　**重複**　Ｈ－１・３と重複し、いずれよりも新しい。　**出土遺物**　轆轤整形椀･皿　**時期**　10世紀

Ｈ－３号住居跡（Fig.82、PL.26）

位置　Ｘ46・47、Ｙ212・213グリッド　**主軸方向**　Ｎ―78°―Ｅ　**形状等**　東西(2.98)ｍ、南北(1.36)ｍ、壁現高25cm　**面積**　3.55㎡　**床面**　ほぼ平坦　**竈**　主軸方向Ｎ―133°―Ｅ、全長(102)cm、最大幅78cm、焚口部幅46cm　**重複**　Ｈ－２と重複し、Ｈ－２より古い。　**出土遺物**　轆轤整形椀　**時期**　10世紀

Ｈ－４号住居跡（Fig.83、PL.26）

位置　Ｘ48・49、Ｙ212・213グリッド　**主軸方向**　Ｎ―70°―Ｅ　**形状等**　東西3.56m　南北(4.70)ｍ　壁現

高16cm　**面積**　15.30㎡　**床面**　ほぼ平坦　**竈**　主軸方向N－60°－E、全長(60)cm、最大幅(46)cm、焚口部幅(18)cm　**壁周溝**　○　**出土遺物**　轆轤整形椀、土師器・坏　**時期**　9世紀前半

H－5号住居跡（Fig.82、PL.26）

位置　X47･48、Y211グリッド　**主軸方向**　N－93°－E　**形状等**　東西(16.6)m、南北(0.40)m、壁現高11.5cm　**面積**　0.64㎡　**床面**　ほぼ平坦　**竈**　未検出。　**出土遺物**　轆轤整形椀　**時期**　不明

⑵　溝跡

W－1号溝跡（Fig.82、PL.26）

位置　X49・50、Y211～213グリッド　**主軸方向**　N－5°－W　**形状等**　断面箱状　**時期**　不明

W－2号溝跡（Fig.82、PL.26）

位置　X46、Y212グリッド　**主軸方向**　N－16°－W　**形状等**　断面箱状　**時期**　不明

⑶　土坑、ピット

D－1（Fig.83）

位置　X47･48　Y212･213グリッド　**主軸方向**　N－78°－E　**形状等**　長方形　最大幅2.30m、最小幅1.56m、深さ12.5cm

P－1（Fig.83）

位置　X48、Y212グリッド　**形状等**　円形　最大幅0.68m、最小幅0.66m

P－2（PL.26）

位置　X48、Y211・212グリッド　**形状等**　円形　最大幅0.42m、最小幅0.36m

P－3（Fig.81）

位置　X47、Y212グリッド　**形状等**　円形　最大幅0.32m、最小幅0.30m

Tab.47　10区　住居跡一覧表

遺構名	位置	規模（m）			面積(㎡)	主軸方向	竈		周溝	主な出土遺物		
		東西	南北	壁現高(cm)			位置	構築材		土師器	須恵器	その他
H－1	X46・47 Y211・212	(1.82)	(1.36)	13.5	23.0	N－85°－E			○	○	○	
H－2	X46・47 Y212	(3.30)	(3.20)	17.0	8.72	N－85°－E	東壁南寄り	粘土	○		○	瓦
H－3	X46・47 Y212・213	(2.98)	(1.36)	25.0	3.55	N－78°－E	東壁南寄り	粘土			○	
H－4	X48・49 Y212・213	3.56	(4.70)	16.0	15.30	N－70°－E	東壁中央	粘土	○	○	○	
H－5	X47・48 Y211	(16.6)	(0.40)	11.5	0.64	N－93°－E					○	

Tab.48　10区　溝跡計測表

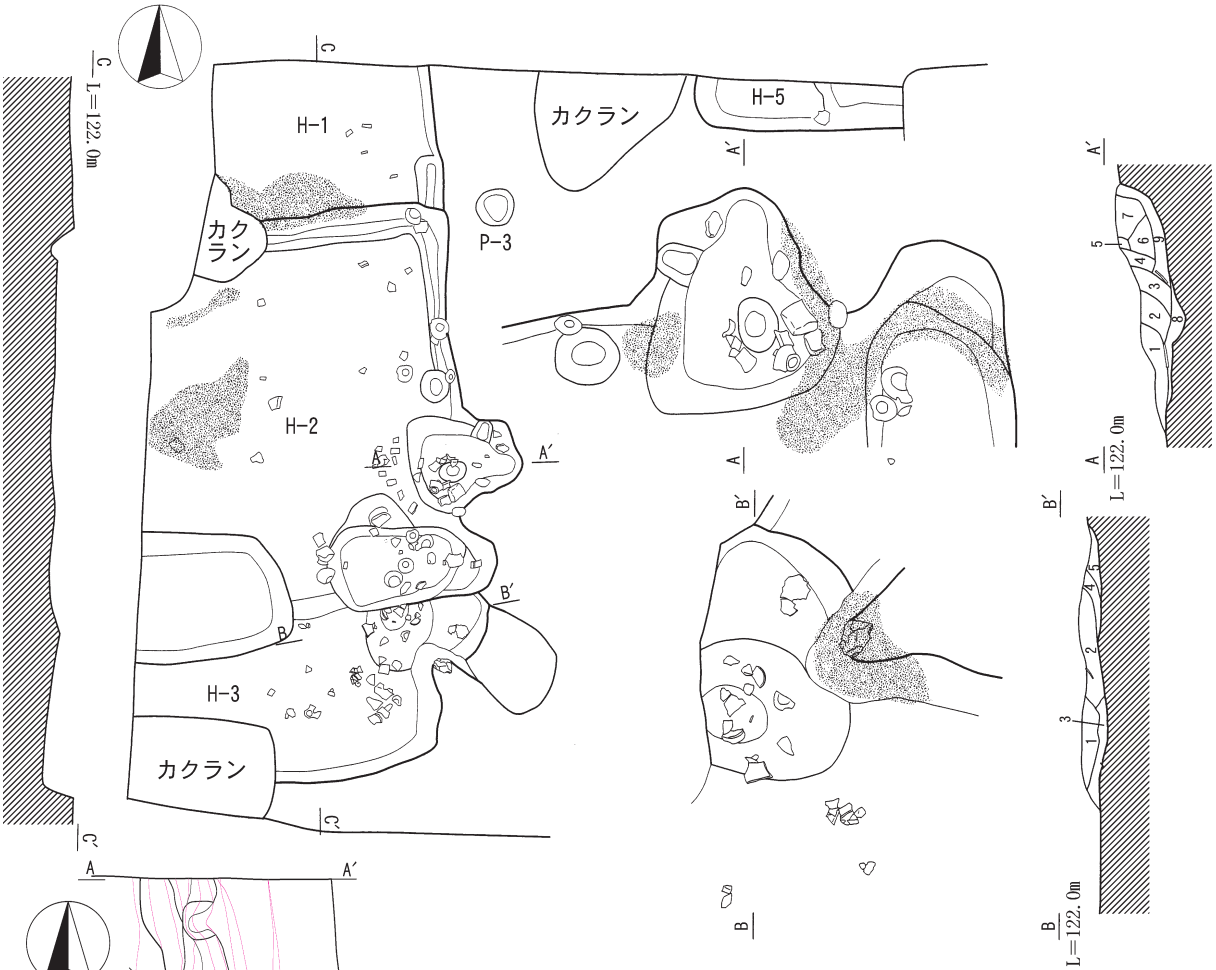
遺構名	位置	長さ(m)	深さ（cm）		上幅（cm）		下幅（cm）		主軸方向	断面形	時期
			最大	最小	最大	最小	最大	最小			
W－1	X49・50 Y211～213	5.8	96.0						N－5°－W	箱状	
W－2	X46 Y212	1.1	24.0		28.0		16.0	9.0	N－16°－W	U字状	

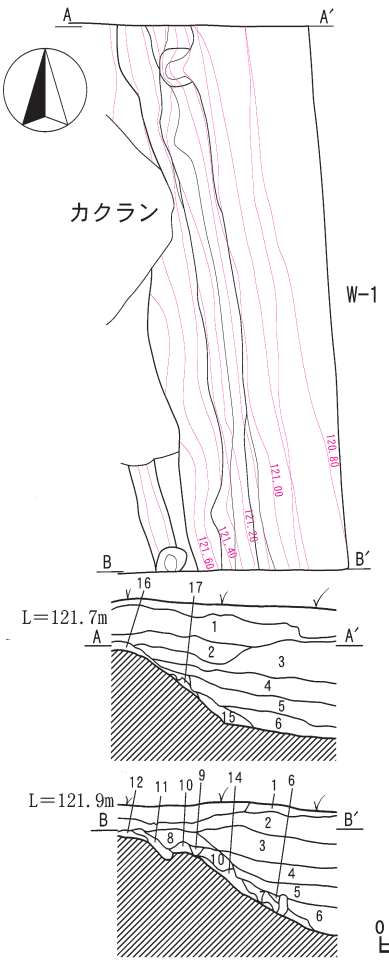
Tab.49　10区　土坑・ピット計測表

遺構名	位　　置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	出土遺物	備　　考
D－1	X47・48、Y212・213	230.0	156.0	12.5	長方形		
P－1	X48、Y212	68.0	66.0		円　形		
P－2	X48、Y211・212	42.0	36.0		円　形	須恵器	
P－3	X47、Y212	32.0	30.0		円　形		

Tab.50　10区　古墳・奈良・平安時代出土土器観察表

番号	出土遺構 層　位	器種名	①口径　②器高 ③底径	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備　考
10－1	H－1 覆土	須恵器 椀	①[14.2] ②(2.6) ③—	①中粒　②良好 ③2.5YR6/2 ④口縁部1/4	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り。		還元焔
10－2	H－2	須恵器 高台椀	①[13.6] ②5.5 ③6.0	①中粒　②良好 ③2.5YR6/6橙 ④3/4	轆轤整形。口縁部：欠損。体部：内・外面轆轤撫で。底部：内面撫で、回転糸切り後、高台を取り付け。	竈1	酸化焔焼成気味
10－3	H－2	須恵器 高台椀	①13.0　②5.3 ③—	①粗粒　②良好 ③10YR7/2にぶい黄橙 ④ほぼ完形	轆轤整形。口縁部：外反、内外面撫で。体部：やや膨らみを持って外傾、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後、付け高台。高台の接着後の撫で調整が雑。	竈10	酸化焔焼成気味
10－4	H－2	須恵器 高台椀	①—　②(5.1) ③7.8	①　② ③2.5Y8/3淡黄　④	轆轤整形。口縁部：外反、内外面撫で。体部：外傾、内外面撫で。底部：回転糸切り後、付け高台。	1	酸化焔焼成気味
10－5	H－2	須恵器 高台椀	①[14.8] ②5.8 ③6.6	①粗粒　②良好 ③10YR8/1灰白 ④1/3	轆轤整形。口縁・体部：丸みを帯びて外傾、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後、付け高台。	9	酸化焔焼成
10－6	H－2	須恵器 高台椀	①15.6　②6.5 ③7.5	①粗粒 ②良好(不均一) ③5YR7/4にぶい橙 ④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後、付け高台。2～3㎜ほどの膨らみが無数にあり、器表面が凸凹している。	6	酸化焔
10－7	H－2 竈	須恵器 高台椀	①13.4　②5.3 ③6.2	①粗粒　②良好 ③7.5YR6/4にぶい橙 ④3/4	轆轤整形。口縁・体部：やや膨らみを持って外傾、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後、付け高台。底部内面の中心が窪む。	竈貯蔵穴11	酸化焔焼成気味
10－8	H－2	須恵器 坏	①14.0　②5.8 ③5.2	①粗粒　②良好 ③7.5YR7/3にぶい橙 ④ほぼ完形	口縁部：外傾、内・外面横撫で。胴部：内・外面横撫で。底部：平底。回転糸切りきりあり。	35	酸化焔
10－9	H－2	土師器 台付甕	①[12.0] ②14.1 ③8.2	①中粒　②良好 ③7.5YR6/2灰褐 ④2/3	口縁部：やや直立から外傾。内外面：横撫で。胴部：内面撫で、外面上位横方向に篦削り、器最大径。外面中下位縦位に篦削り。脚部：、内面撫で、外面篦削り、胴部との接点付近は横撫で。断面四角形の脚を底部整形後取り付け、設置部分やや外反。	15、42、43	
10－10	H－2	土師器 椀	①[15.2] ②5.4 ③7.0	①中粒　②良好 ③10YR7/2にぶい黄橙 ④2/3	口縁部：短く直立、内外面横撫で。底部：丸底、内面撫で、外面撫で、篦削り。	39	酸化焔焼成気味
10－11	H－2 竈 貯蔵穴	須恵器 高台椀	①14.0　②5.8 ③—	①中粒　②良好 ③2.5Y7/2灰黄 ④3/4	轆轤整形。口縁・体部：底部から膨らみを持って立ち上がり外傾する、内外面撫で。底部から体部へ立ち上がる部分を篦削り。底部：内面撫で、外面回転篦削り、高さ4㎜ほどの短い高台を付ける。	竈 貯蔵穴12	還元焔
10－12	H－2 竈	須恵器 坏	①13.2　②3.5 ③7.3	①中粒　②良好 ③7.5YR7/1明褐灰 ④完形	口縁部：外傾、内・外面横撫で。胴部：内・外面横撫で。底部：平底。回転糸切りきりあり。	竈34	還元焔
10－13	H－2	須恵器 坏	①12.4　②3.6 ③5.5	①細粒　②良好 ③2.5Y8/1灰白 ④9/10	轆轤整形。口縁部：欠損。胴部下位：内･外面撫で。底部：平底。	貯蔵穴 36、37	酸化焔焼成気味
10－14	H－2	須恵器 高台椀	①(10.8) ②(4.0) ③5.8	①中粒　②良好 ③5YR6/4にぶい橙 ④高台2/3	轆轤整形。口縁・体部：外傾。内外面轆轤撫で。底部：内面轆轤撫で、外面回転篦削り調整後、削り出し高台を施す。	26､覆土、竈覆土	酸化焔焼成気味
10－15	H－2	須恵器 椀	①[12.5] ②3.8 ③[5.4]	①中粒　②良好 ③7.5YR6/4にぶい橙 ④1/4	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り。	32､覆土、竈覆土	酸化焔焼成気味
10－16	H－3	須恵器 高台椀	①[15.9] ②6.4 ③—	①中粒　②良好 ③10YR6/1褐灰 ④1/4	轆轤整形。口縁・体部：外傾し端部やや外反。内外面轆轤撫で。底部：内面轆轤撫で、外面回転糸切り未調整。	4	
10－17	H－3	須恵器 坏	①—　②(2.5) ③6.0	①中粒　②良好 ③10YR7/2にぶい黄橙 ④	轆轤整形。口縁･体部：外傾、内外面轆轤撫で。底部：内面撫で、手持ち篦削り。	13､覆土、竈4	還元焔
10－18	H－3	須恵器 高台椀	①12.0　②5.0 ③—	①中粒　②良好 ③2.5Y6/1黄灰 ④2/5	轆轤整形。口縁部：欠損。体部：内・外面轆轤撫で。底部：内面撫で、回転糸切り後、高台を取り付け。	12、14	
10－19	H －4 覆土	須恵器 椀	①[13.5] ②4.0 ③—	①中粒　②良好 ③2.5YR8/1灰白 ④1/4	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り。		
10－20	H－4	土師器 坏	①12.4　②3.5 ③—	①中粒　②良好 ③7.5YR6/4にぶい橙 ④3/5	口縁と底部の境に稜を有する。口縁部：ほぼ直立、内外面横撫で。外面篦削り。底部：丸底、内面撫で、外面篦篦削り。	8	酸化焔
10－21	H－4	須恵器 椀	①14.8　②4.0 ③—	①中粒　②良好 ③5Y6/1灰　④3/4	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り。	21、26	還元焔
10－22	H－4	須恵器 高台椀	①14.4　②4.7 ③[6.8]	①粗粒　②良好 ③ N5/0灰　④2/3	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り。	22	還元焔
10－23	H－4	須恵器 椀	①[14.5] ②4.0 ③—	①中粒　②良好 ③25Y6/1黄灰　④1/4	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り。	20	
10－24	H－4 覆土	須恵器 坏	①[12.4] ②3.8 ③5.6	①中粒　②良好 ③2.5Y7/1灰白 ④1/2	口縁部：外傾、内・外面横撫で。胴部：内・外面横撫で。底部：平底。回転糸切りきりあり。		酸化焔焼成気味
10－25	H－5	須恵器 高台椀	①15.8　②6.9 ③7.8	①粗粒　②良好 ③10YR5/1褐灰 ④1/3	轆轤整形。口縁・体部：外傾。内外面轆轤撫で。底部：内面轆轤撫で、外面回転篦削り調整後、削り出し高台を施す。	1	還元焔
10－26	D－1 覆土	灰釉	①—　②1.5 ③—	①細粒　②良好 ③2.5Y8/2灰白 ④1/2	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り。		





10区　H－2　カマドセクション
1　暗灰黄　○×　シルト質土混入
2　灰黄褐　△×　シルト質土混入、１層に酷似するが、混入の様相がやや不均質
3　にぶい黄褐　○△　１、２層に酷似、混入物の粒度がやや大きい
4　にぶい黄褐　○△　１、２、３層に酷似、混入物の粒度はさらに大きくなる
5　褐　○×　シルト質土のブロック
6　灰黄褐　○×　シルト質土と暗褐色土の混土、不均質
7　灰黄褐　○×　カーボン粒子点在
8　にぶい黄褐　○△　焼土ブロック（φ３～５㎜）混入。
9　にぶい黄褐　○×　砂質、ローム粒子、ブロック（φ３～５㎜）混入

10区　H－３　カマドセクション
1　褐　○×　焼土粒子、ローム粒子点在
2　明赤褐　○×　焼土粒子、焼土ブロック（φ２～５㎜）、Hr-FP 混入
3　明赤褐　○○　焼土粒子、焼土ブロック（φ２～10㎜）混入
4　褐　◎×　構成土壌の粒度非常に小さく、砂質、焼土粒子、焼土ブロック（φ２～５㎜）混入
5　暗褐　○×　Hr-FP 混入、焼土粒子点在

10区　W－１　セクション
1　暗褐　◎×　砂質土、Hr-FP 混入
2　褐　◎×　砂質土、１層に酷似、１層より混入する Hr-FP の粒度小さい
3　暗褐　◎×　砂質土、１層、２層に酷似、Hr-FP の混入少ない、総社砂層起因の砂質土ブロック（φ５～10㎜）点在
4　褐　◎△　砂質土、構成土壌の粒度小さい、Hr-FP 角礫（φ30㎜）、ローム粒子点在
5　暗褐　◎×　砂質土、総社砂層起因の砂粒混入、Hr-FP（粒度小さい）混入
6　黒褐　◎△　砂質土、砂粒以外の混入物は少ない
7　褐　○△　総社砂層起因の砂粒混入、ローム粒子点在
8　暗褐　○○　Hr-FP、ローム粒子混入
9　黒褐　△○　Hr-FP 混入
10　黒褐　○○　９層に酷似、Hr-FP 礫（φ20㎜）点在、やや砂質、ローム粒子、Hr-FP 混入
11　黒褐　○○　砂質土、Hr-FP 混入
12　褐灰　○○　ローム粒子、Hr-FP 混入
14　明褐　○△　ローム粒子混入
15　褐　○×　総社砂層起因の砂粒、混入
16　灰褐　○×　ローム粒子、Hr-FP 混入
17　褐　○×　ローム粒子混入、砂質

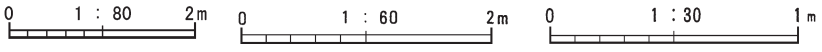
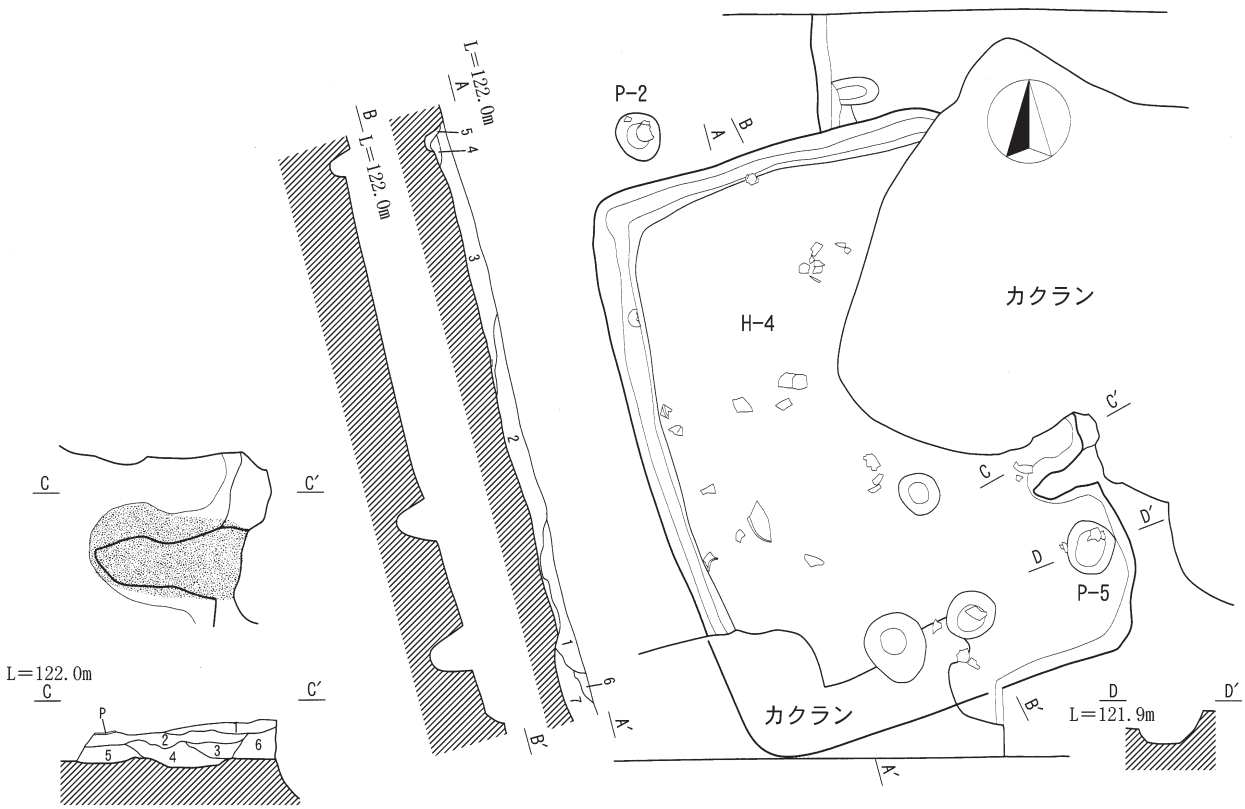


Fig.82　10区Ｈ－１～３号住居跡、Ｗ－１・２号溝跡

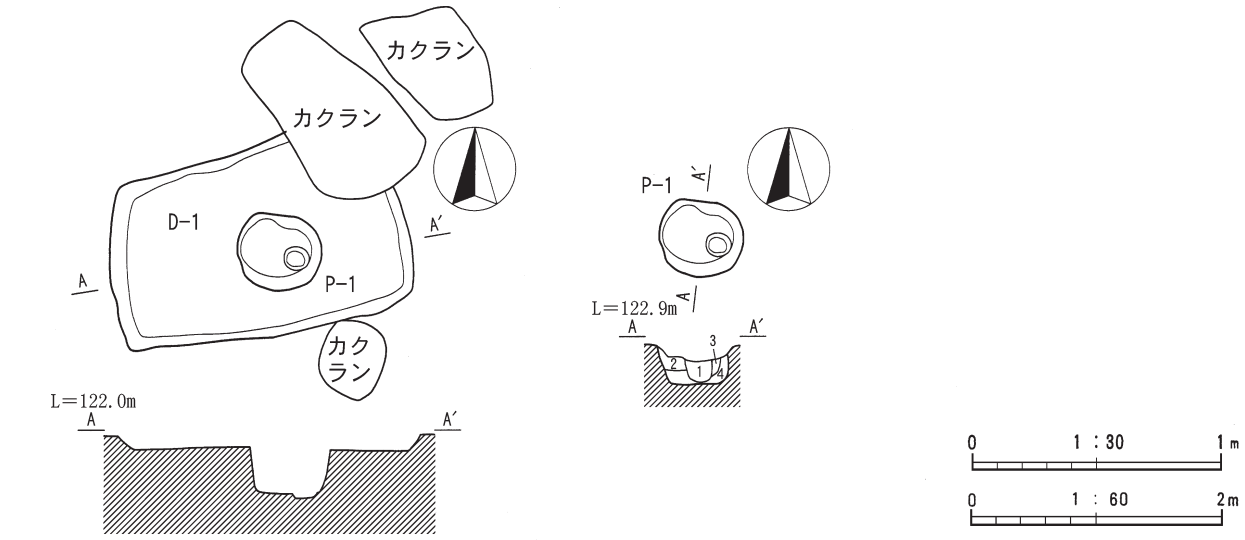


10区　H－4　セクション

1	黒褐	○×	砂質、焼土粒子、Hr-FP、土師器片、ローム粒子混入
2	黒褐	○×	1層に酷似、1層に比べ、焼土粒子の混入少ない
3	黒褐	○×	Hr-FP 混入、焼土粒子点在
4	暗褐	△×	総社砂層起因の砂質土の混入、焼土粒子点在
5	灰黄褐	△×	総社砂層起因の砂質土（崩壊土）
6	黒褐	○×	焼成灰、焼土粒子、Hr-FP 混入、砂質土
7	黒褐	○×	砂質土、Hr-FP、ローム粒子混入

10区　H－4　カマドセクション

1	暗褐	○×	砂質土、ローム粒子混入、焼土粒子点在
2	黒褐	○×	構成土壌の粒度は小さい、焼土粒子、ローム粒子混入
3	黒褐	○×	ローム粒子混入、焼土粒子点在
4	暗褐	○×	ローム粒子点在、焼土粒子点在
5	黒褐	○×	焼土微粒子混入、焼土ブロック（φ45㎜）点在
6	暗褐	○×	Hr-FP、ローム粒子混入



10区　P－1　セクション

1	灰褐	○×	総社砂層起因の砂質土、小円礫（φ5～10㎜）混入、Hr-FP 点在、砂質
2	褐	○×	総社砂層起因の砂粒、小円礫（φ5～10㎜）と暗褐色土との混土
3	褐	○×	2層に酷似、2層より暗褐色の混入少ない
4	にぶい黄褐	○×	総社砂層起因の砂質土、小円礫（φ5～10㎜）、暗褐色土混入

Fig.83　10区H－4号住居跡、D－1号土坑、P－1号ピット

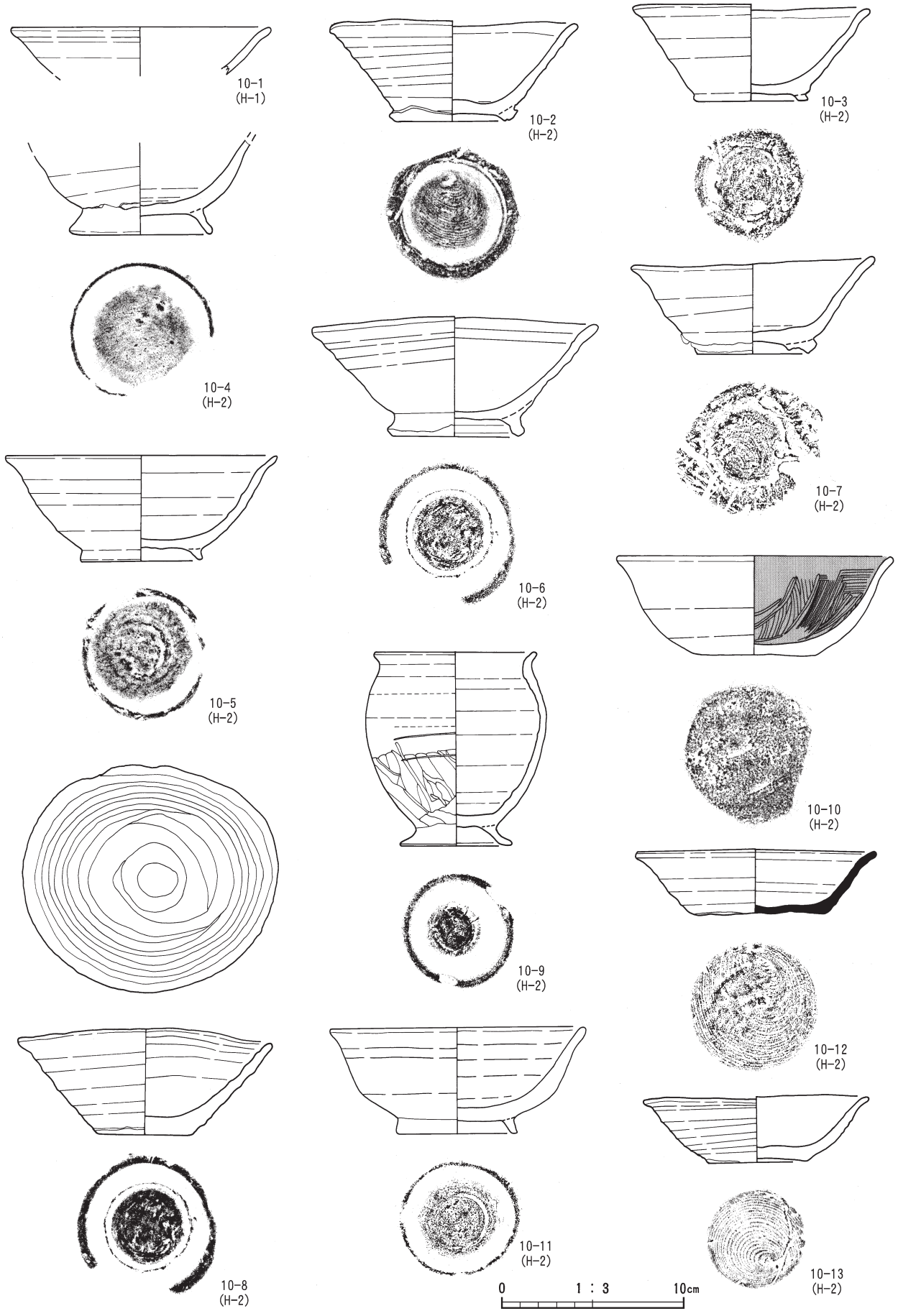


Fig.84　10区H―1・2号住居跡出土遺物

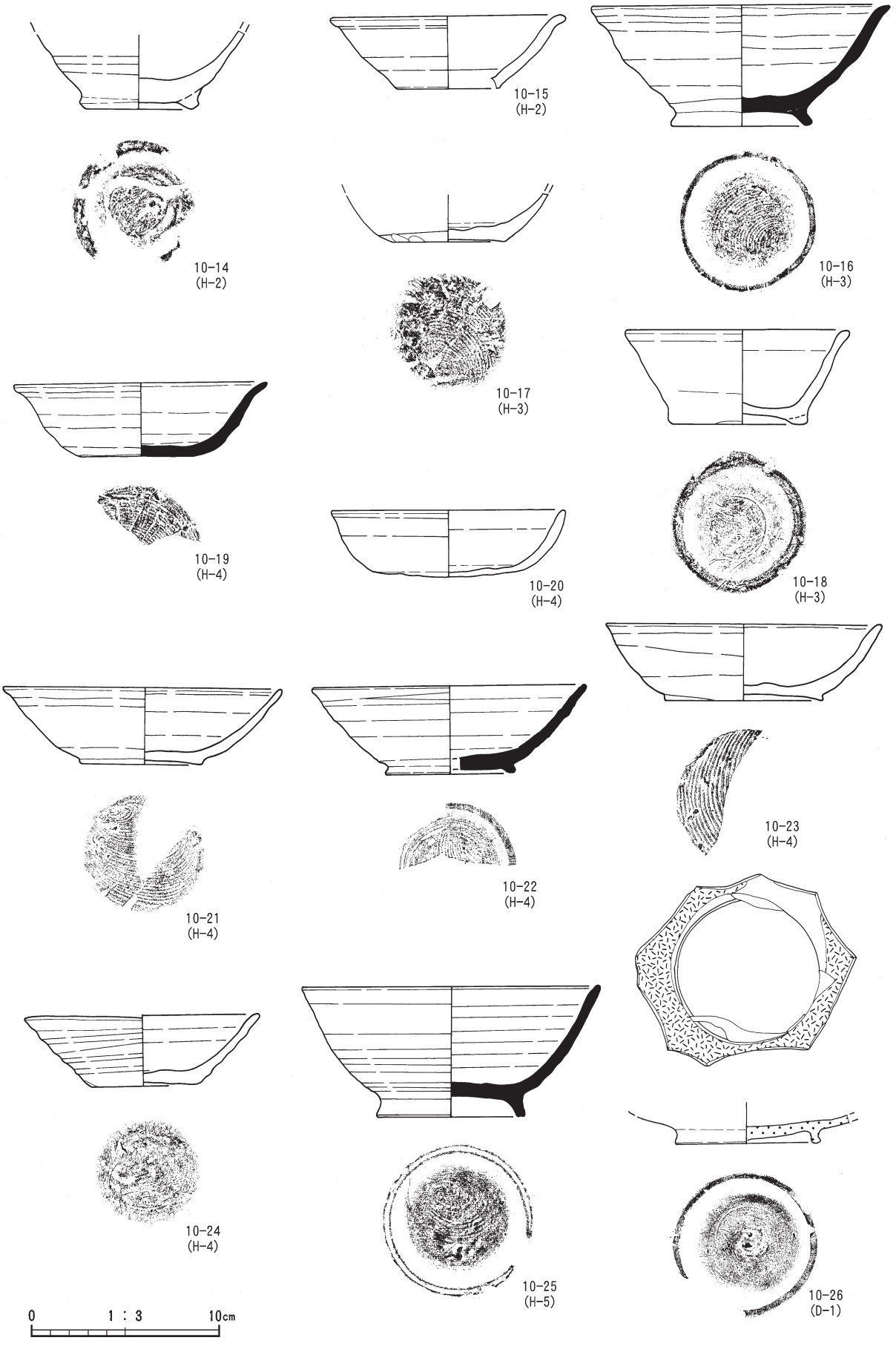


Fig.85　10区H－2～5号住居跡、D－1号土坑出土遺物

11区

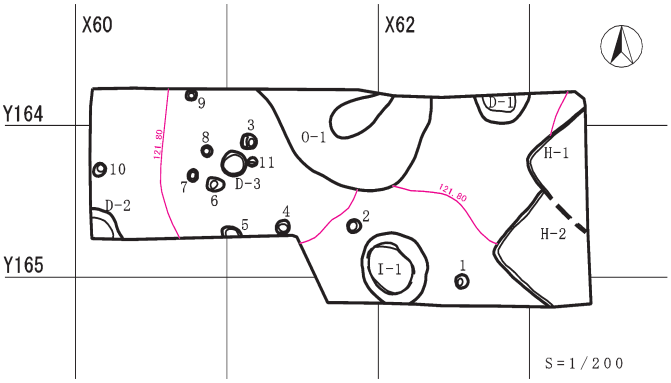


Fig.86　11区全体図

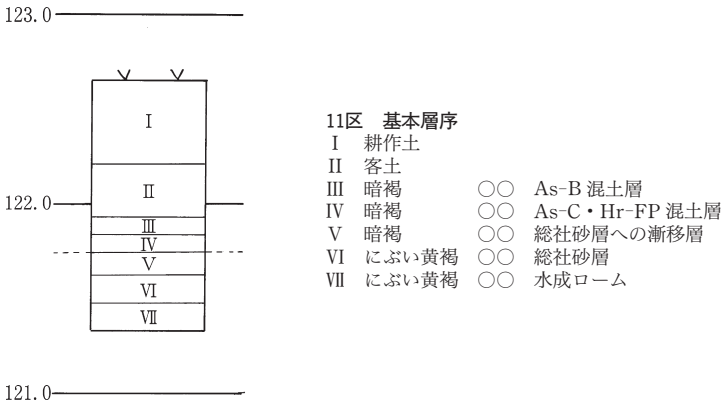


Fig.87　11区基本層序

調査区の概要

平成21年度に発掘調査を行った元総社蒼海遺跡群（26）６区と平成21年度に発掘調査を行った元総社蒼海遺跡群（24）32区の間に位置する調査区。竪穴住居跡２軒、土坑３基、井戸１基が検出された。調査区中央部では多くの石が検出された井戸跡が確認できた。それらの石はほとんどが川原石であり特に組まれている様子もなく、井戸を廃棄する際に投げ込まれたものであると考えられる。

(1)　竪穴住居跡

Ｈ－１号住居跡（Fig.88、PL.27）

位置　Ｘ62・63、Ｙ163・164グリッド　**主軸方向**　Ｎ―51°―Ｅ　**形状等**　東西(2.30)ｍ、南北(0.96)ｍ、壁現高　11.5cm。　**面積**　(1.64)㎡　**床面**　平坦な貼り床。　**竈**　東壁に施設されたと考えられるが、調査区外のため確認できず。　**貯蔵穴等**　検出されず。　**周溝**　精査を行ったが確認されなかった。　**重複**　Ｈ－２と重なり、新旧関係はＨ－２→本遺構。　**出土遺物**　土師器10点。そのうち土師器坏２点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から６世紀後半と考えられる。

Ｈ－２号住居跡（Fig.88、PL.27）

位置　Ｘ62・63、Ｙ164・165グリッド　**主軸方向**　Ｎ―41°―Ｅ　**形状等**　東西(3.88)ｍ、南北(2.30)ｍ、壁現高24.0cm。　**面積**　(6.73)㎡　**床面**　平坦な貼り床。　**竈**　東壁に施設されたと考えられるが、調査区外

のため確認できず。　**貯蔵穴等**　北西部の柱穴のみ検出。32×29cmの円形で深さは30.5cm。　**周溝**　精査を行ったが確認されなかった。　**重複**　H－1と重なり、新旧関係は本遺構→H－1。　**出土遺物**　土師器9点、縄文土器5点。そのうち土師器1点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から6世紀後半と考えられる。

⑵　土坑、ピット、井戸跡、落ち込み（Fig.89、PL.27）

土坑、ピットについては、Tab.52土坑・ピット・井戸跡等計測表を参照のこと。

⑶　グリッド等出土遺物

須恵器8点、瓦1点、黒曜石2点を出土。そのうち須恵器椀1点、土製円盤1点を図示。

Tab.51　11区　住居跡一覧表

遺構名	位置	規　模（m）			面積（㎡）	主軸方向	竈		周溝	主な出土遺物		
		東西	南北	壁現高(cm)			位　置	構築材		土師器	須恵器	その他
H－1	X62・63 Y163・164	(2.3)	(0.96)	11.5	(1.64)	N－51°－E			－	坏		
H－2	X62・63 Y164・165	(3.88)	(2.30)	24.0	(6.73)	N－41°－E			－	坏		

Tab.52　11区　土坑・ピット・井戸等計測表

遺構名	位　　置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	出 土 遺 物	備　考
D－1	X62 Y163	(154.0)	(76.0)	32.0	円　形	縄1	
D－2	X60 Y164	(87.0)	(85.0)	15.0	円　形		
D－3	X60・61 Y164	66.0	65.0	18.5	円　形		
P－1	X62 Y164・165	36.0	33.0	34.0	円　形		
P－2	X61 Y164	35.0	33.0	33.5	円　形		
P－3	X61 Y164	40.0	38.0	33.0	隅丸方形		
P－4	X61 Y164	39.0	34.0	35.5	円　形		
P－5	X60・61 Y164	52.0	(20.0)	27.0	長楕円形		
P－6	X60 Y164	44.0	34.0	25.5	隅丸方形		
P－7	X60 Y164	31.0	26.0	26.0	円　形		
P－8	X60 Y164	28.0	28.0	22.5	円　形		
P－9	X60 Y163	26.0	24.0	24.5	隅丸方形		
P－10	X60 Y164	36.0	30.0	16.5	楕 円 形		
P－11	X61 Y164	26.0	22.0	18.5	円　形		
O－1	X61・62 Y163・164	(466.0)	(271.0)	－	円　形	縄1	
I－1	X61・62 Y164・165	198.0	170.0	201.0	円　形	縄20・土74・須27・瓦5・石33・中世14	

Tab.53　11区　古墳・奈良・平安時代出土土器観察表

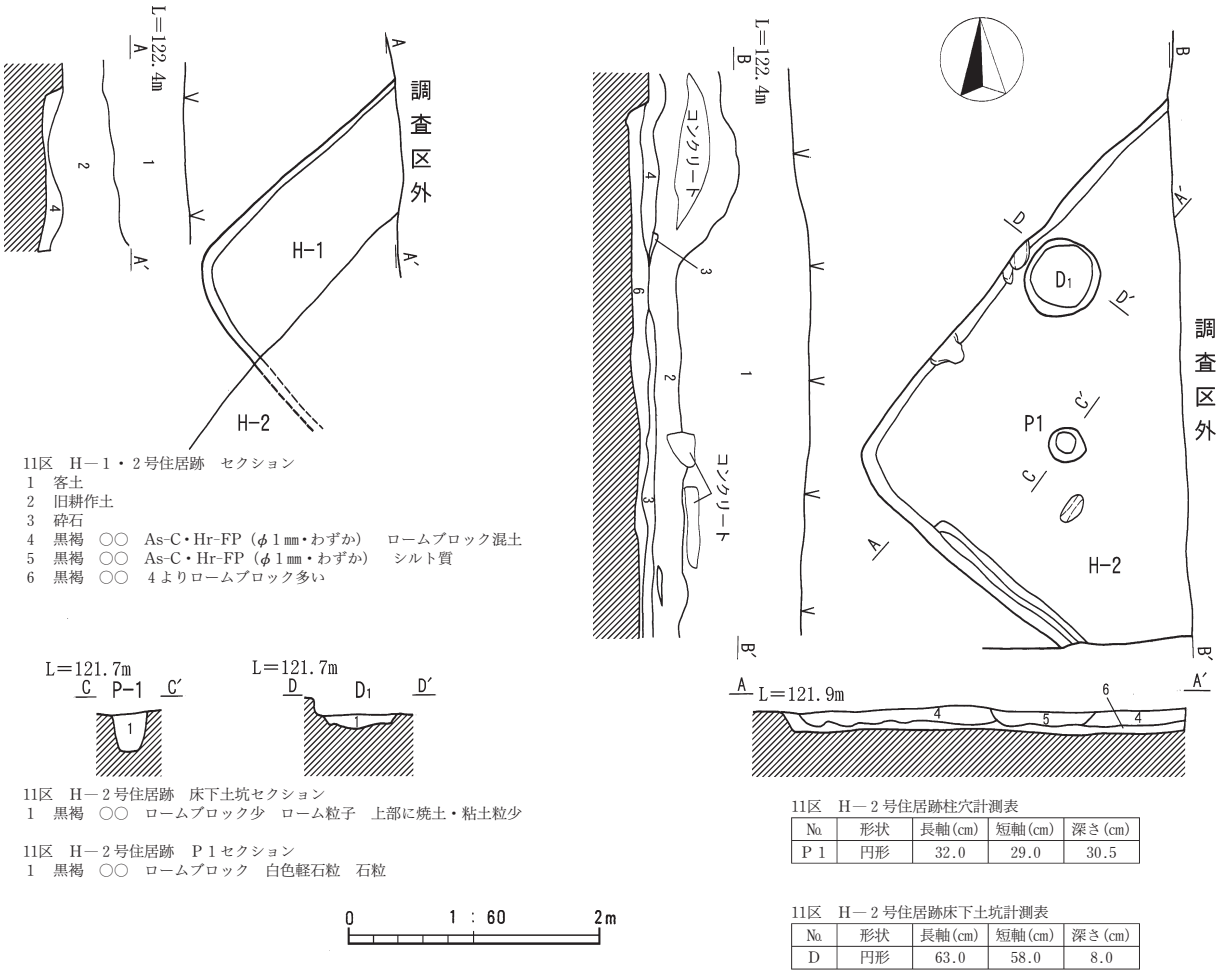
番号	出土遺構 層　位	器種名	①口径　②器高 ③底径	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備　考
11－1	H－1 床直	土師器 坏	①11.8　②4.2 ③—	①細粒　②良好 ③橙　④完形	口縁部：直立からやや外傾する。内外面横なで。体部：内面なで。外面横位の篦削り。底部：丸底。	1	
11－2	H－1 床直	土師器 坏	①11.9　②(4.1) ③—	①細粒　②良好 ③橙　④ほぼ完形	口縁部：直立から外傾し口縁端でやや外反する。内外面横なで。体部：内面なで。外面斜位の篦削り。底部：丸底。	2	
11－3	H－2 床直	土師器 坏	①11.4　②4.1 ③—	①細粒　②良好 ③橙　④完形	口縁部：直立から外傾し口縁端でやや外反する。著しく歪む。内外面横なで。体部：内面なで。外面縦位と横位の篦削り。底部：丸底。	1	
11－4	I－1 覆土	須恵器 蓋	①—　②— ③—	①細粒　②良好 ③灰　④破片	轆轤整形。天井部：内外面轆轤なで。体部：内面轆轤なで。外面回転篦削り。返しなし。摘み：欠損。		
11－5	I－1 覆土	須恵器 羽釜	①—　②— ③—	①細粒　②良好 ③にぶい橙　④破片	轆轤整形。口縁部：欠損。鍔部：ほぼ水平に張り出す。内外面轆轤なで。胴部から底部：欠損。		酸化焔
11－6	表採	土師器 小甕	①[16.4]　②(10.6) ③—	①細粒　②良好 ③にぶい黄橙　④1/5	口縁部：短く外傾する。すす付着。内外面横なで。胴部：内面なで。外面縦位から斜位の篦削り。底部：丸底。		

Tab.54　11区　石器・石製品観察表

番号	出土遺構／層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重さ	石材	遺存度	登録番号	備　考
11－石1	H－1　床直	不明	4.40	1.90	0.75	5.2	黒曜石	剝離片	6	
11－石2	I－1　覆土	板碑	7.60	5.45	1.00	60	緑泥片岩	一部	3	
11－石3	I－1　覆土	叩き石	11.65	4.95	3.26	300	安山岩	ほぼ完形	フクド	
11－石4	I－1　覆土	叩き石	7.90	4.15	2.96	120	結晶片岩	2/3	フクド	
11－石5	X62.Y163	不明	2.30	2.20	0.40	2.0	黒曜石	剝離片		

Tab.55　11区　土製品観察表

番号	出土遺構／層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	遺存度	登録番号	備　　考
11—土1	Ⅰ—1　覆土	円盤	7.10	6.70	1.70	完形		



11区　H—1・2号住居跡　セクション
1　客土
2　旧耕作土
3　砕石
4　黒褐　○○　As-C・Hr-FP（φ1㎜・わずか）　ロームブロック混土
5　黒褐　○○　As-C・Hr-FP（φ1㎜・わずか）　シルト質
6　黒褐　○○　4よりロームブロック多い

11区　H—2号住居跡　床下土坑セクション
1　黒褐　○○　ロームブロック少　ローム粒子　上部に焼土・粘土粒少

11区　H—2号住居跡　P1セクション
1　黒褐　○○　ロームブロック　白色軽石粒　石粒

0　1：60　2m

11区　H—2号住居跡柱穴計測表

No.	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
P1	円形	32.0	29.0	30.5

11区　H—2号住居跡床下土坑計測表

No.	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
D	円形	63.0	58.0	8.0

Fig.88　11区H—1・2号住居跡

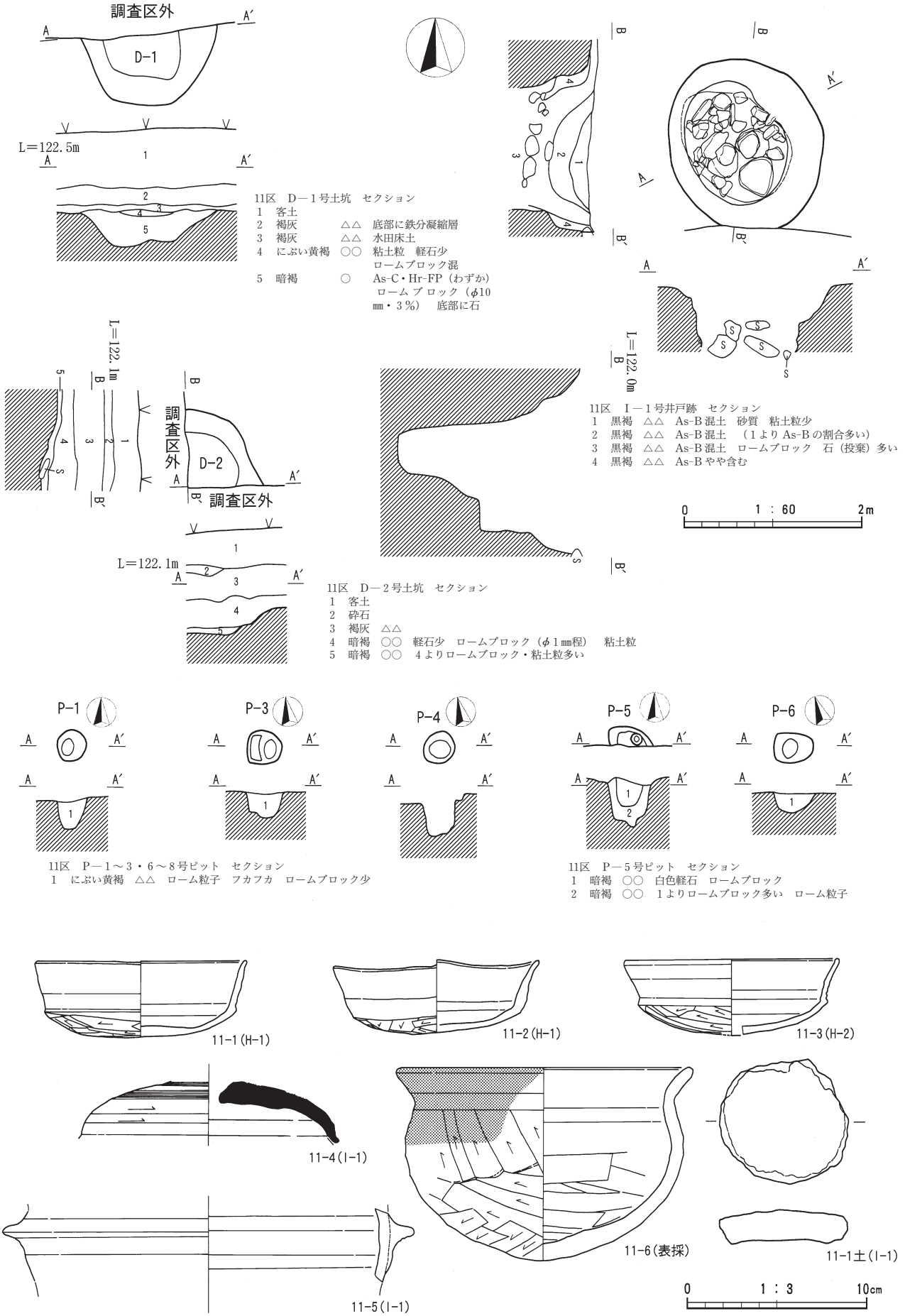


Fig.89　11区Ⅰ－1号井戸跡、D－1・2号土坑、P－1・3～6号ピットH－1・2号住居跡、Ⅰ－1号井戸跡出土遺物

13区

調査区の概要

本調査区は蒼海遺跡群の北西部、関越自動車道の東100m、推定上野国分尼寺の南方に位置する。標高126m程を図る。調査区は幅1.2m、長さ37mの調査区である。道路の拡幅幅のみの調査であり、竪穴住居跡１軒、溝跡２条のほか近年の耕作に伴うものと考えられる耕作溝が５条、確認調査された。周辺は、耕作地が広がるやや開けた地域である。

基本層序

厚さ約36cmの表土を除去すると、すぐに遺構確認面であり遺構の保存状況はあまり良くない。

(1)　竪穴住居跡

Ｈ－１号住居跡（Fig.91、PL.28）

位置　X36･37、Y64.65グリッド　**主軸方向**　N－72°－E　**形状等**　東西(3.06)m、南北(5.30)m、現高19cm　**面積**　4.27㎡　**床面**　ほぼ平坦である。　**竈**　主軸方向N－84°－E　全長(45)cm、最大幅(90)cm、焚口部幅(40)cm　**出土遺物**　土師器　**時期**　９世紀

(2)　溝跡

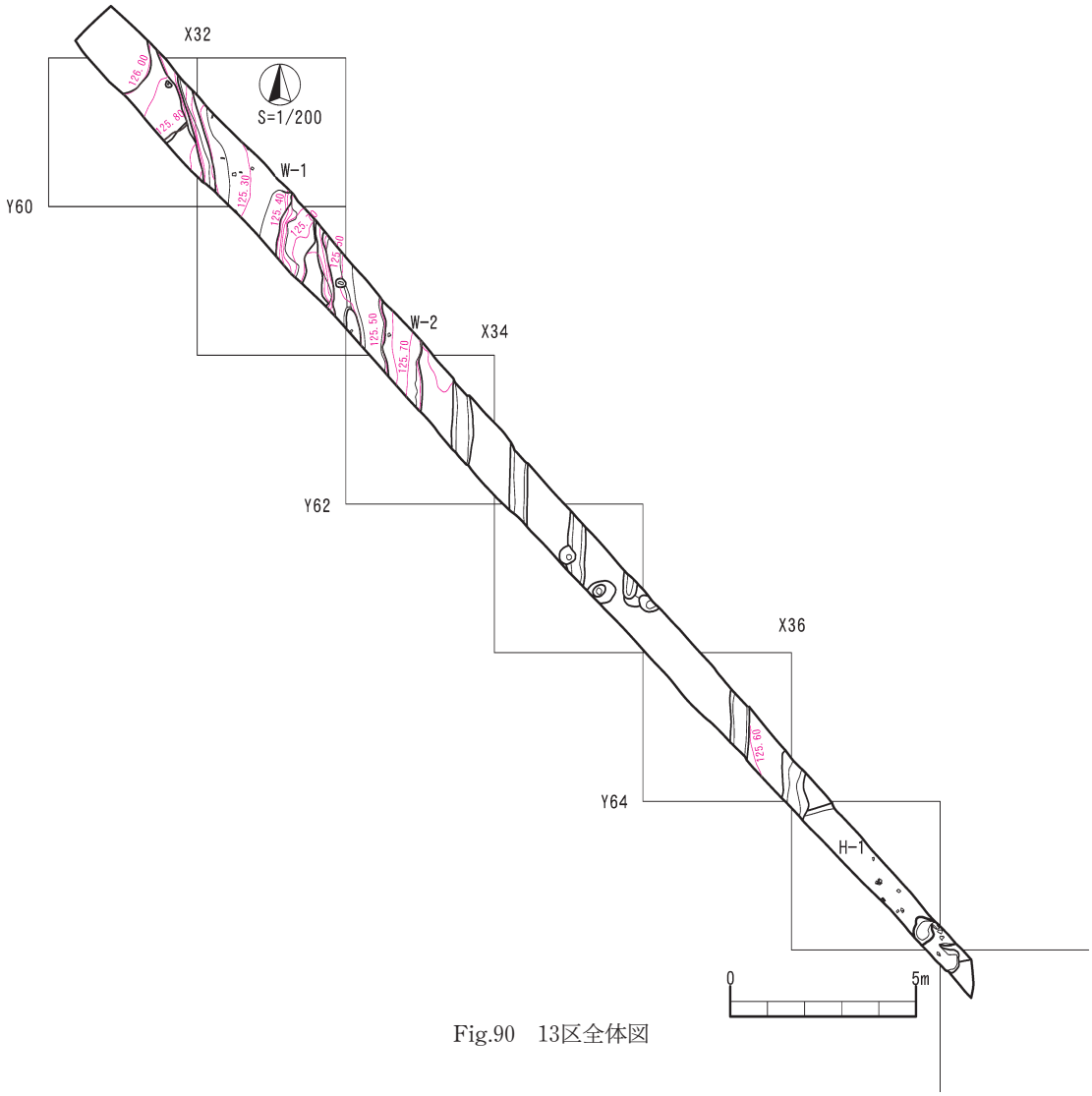


Fig.90　13区全体図

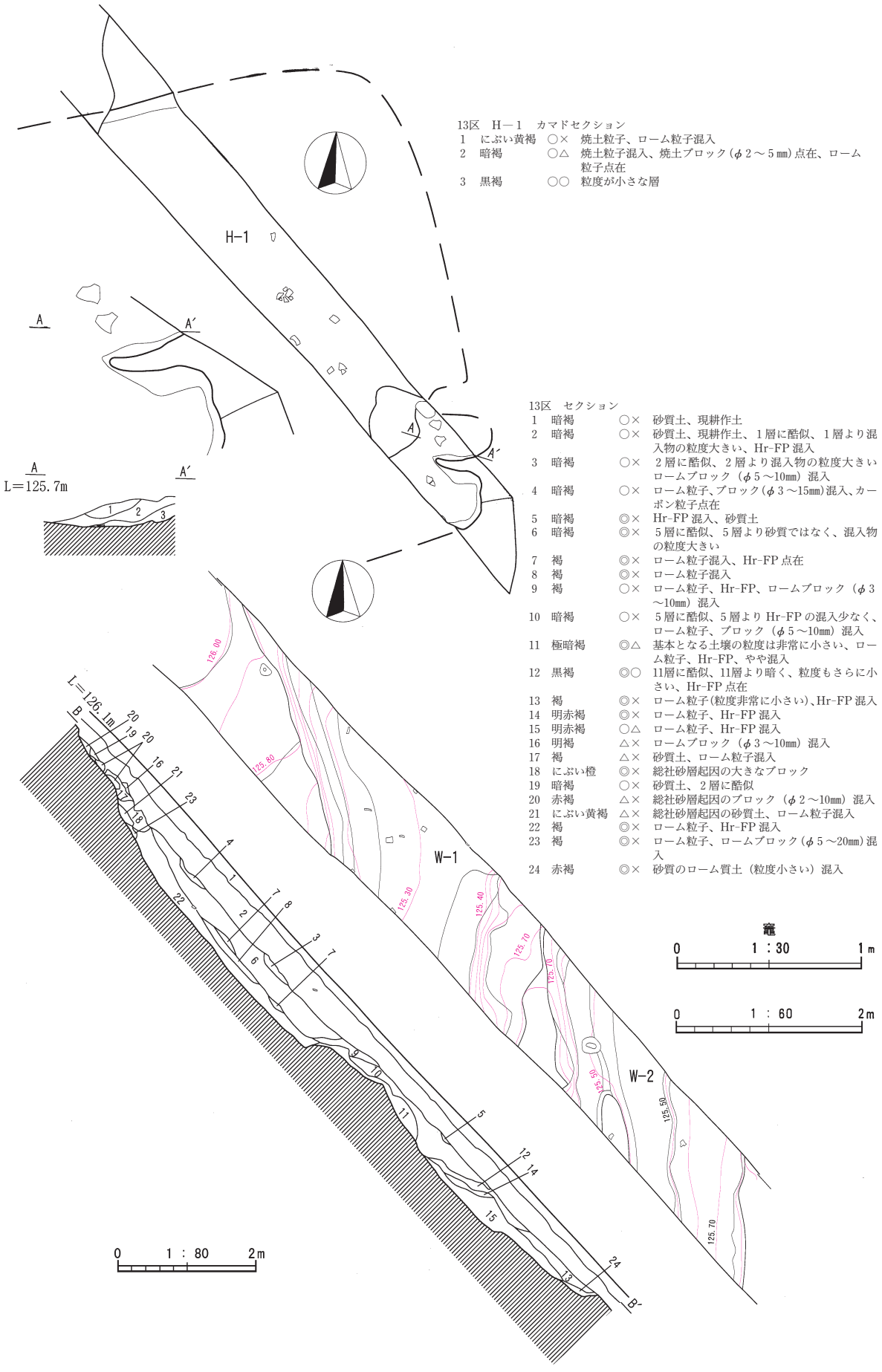


Fig.91　13区H－1号住居跡、W－1・2号溝跡

W－1号溝跡（Fig.91、PL.28）

位置　X31・32、Y58～60グリッド　**主軸方向**　N－10°－W　最長3.10m、最短1.00m、深さ66.5cm　**形状等**　断面箱状。　**時期**　不明

W－2号溝跡（Fig.91、PL.28）

位置　X32.33、Y60.61グリッド　**主軸方向**　N－10°－W　最長2.80m、最短0.46m、深さ50.5cm　**形状等**　断面形は皿状。　**時期**　不明

Tab.56　13区　住居跡一覧表

遺構名	位置	規　模（m）			面積（㎡）	主軸方向	竈		周溝	主な出土遺物		
		東西	南北	壁現高(cm)			位　置	構築材		土師器	須恵器	その他
H－1	X36・37 Y64・65	(3.06)	(5.30)	19.0	4.27	N－72°－E	東壁中央	粘土		○		

Tab.57　13区　溝跡計測表

遺構名	位置	長さ(m)	深さ（cm）		上幅（cm）		下幅（cm）		主軸方向	断面形	時　期
			最大	最小	最大	最小	最大	最小			
W－1	X31・32 Y58～60	?	66.5		310.0		100.0		N－10°－W	形	
W－2	X32・33 Y60・61	?	50.5		280.0		46.0		N－10°－W	形	

14区

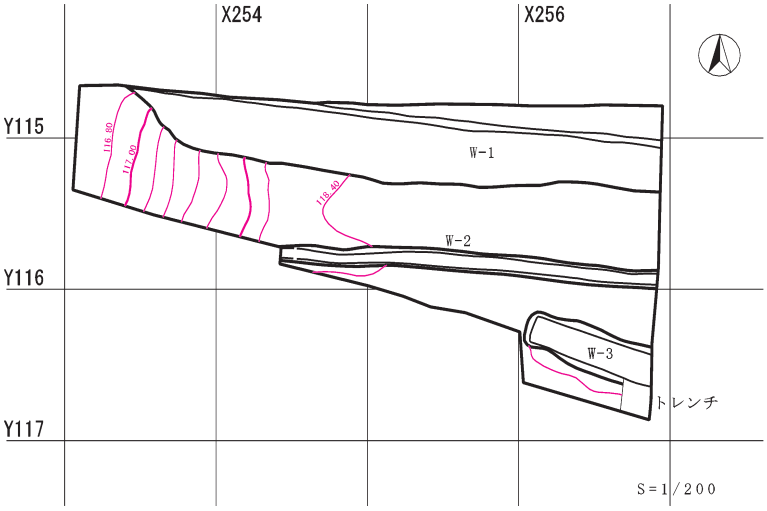
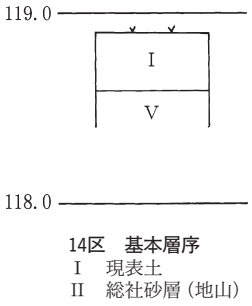


Fig.92　14区全体図



14区　基本層序
I　現表土
II　総社砂層（地山）

Fig.93　14区基本層序

層序について

14区は牛池川左岸に位置し、調査区西側と南側は牛池川の河岸段丘の崖線となっている。土層の堆積状況としては、表土の下層は砂層となっている。ただし、砂層といっても総社砂層の地山のように硬化したものではなく、河岸に堆積した小礫を含む砂の層で、ラミナが観察できるやわらかい砂層である。

調査区概要

14区においては3条の溝のみが確認された。W－1号溝は形状等から時期の特定も可能であるが、他の2条については遺物も少なく詳細は不明である。なお、調査区西側の崖線付近で古代の石切り場の有無を調べたが、存在しなかった。

(1)　溝　　跡

W－1号溝（Fig.93）

位置　X253～256、Y114・115グリッド　**主軸方向**　N－96°－E　**形状等**　薬研堀　**長さ**　14.3m　**幅**　最大値は、溝の北側が調査区外の部分もあるため、確認できる幅で230.0cm　**深さ**　最大値131.0cm、最小値122.0cm　**重複**　なし　**出土遺物**　土師器、須恵器、瓦、灰釉陶器片などを極少量。　**時期**　形状から中世と考えたい。

W－2号溝（Fig.93）

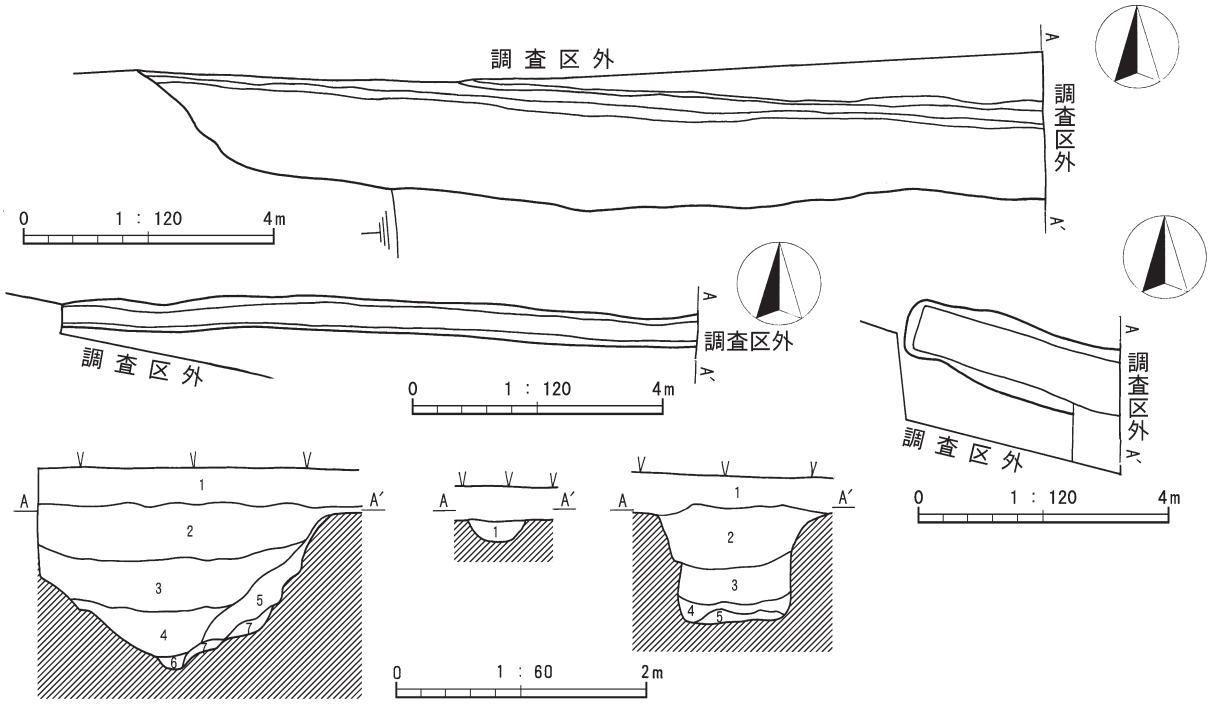
位置　X254～256、Y114・115グリッド　**主軸方向**　N－94°－E　**形状等**　U字形　**長さ**　10.0m　**幅**　最大値52.0cm　**深さ**　最大値16.0cm、最小値12.0cm　**重複**　なし　**出土遺物**　土師器片、鉄滓などを極少量。　**時期**　明確な根拠となる遺物等がないため不明。

W－3号住居跡（Fig.93）

位置　X256、Y116グリッド　**主軸方向**　N－110°－E　**形状等**　逆台形　**長さ**　3.7m　**幅**　最大値116.0cm　**深さ**　最大値86.0cm、最小値83.0cm　**重複**　なし　**出土遺物**　陶磁器片を極少量。　**時期**　近世以後と推測される。

Tab.58　14区　溝跡計測表

遺構名	位置	長さ(m)	深さ（cm）		上幅（cm）		下幅（cm）		主軸方向	断面形	時　期
			最大	最小	最大	最小	最大	最小			
W－1	X253～256 Y114・115	14.3	131.0	122.0	(230.0)	—	18.0	—	N－96°－E	薬研	中世か
W－2	X254～256 Y115	10.0	16.0	12.0	52.0	42.0	34.0	22.0	N－94°－W	U字形	不明
W－3	X256 Y116	3.7	86.0	83.0	116.0	86.0	76.0	68.0	N－110°－W	逆台形	不明



14区　W－1号溝　セクション
1　表土
2　黒褐　××　砂質で砂礫（φ5～10㎜）を多く含む。
3　黒褐　××　砂質で砂礫（φ10～20㎜）を多く含む。
4　黒褐　××　砂質で砂礫多く含む。砂層土（地山）の土を少量含む。
5　黒褐　××　砂層土（地山）を少量含む。
6　黒褐　××　砂層土（地山）、砂層ブロックを多く含む。
7　黒褐　××　二次堆積した砂層土（地山）。

14区　W－2号溝　セクション
1　表土

14区　W－3号溝　セクション
1　現表土
2　にぶい黄褐　××　砂を多く含む。
3　にぶい黄褐　××　砂を多く含む。
4　暗褐　××　砂を多く含む。
5　黒褐　××　4に似るが、黒色土を若干含む。

Fig.94　14区W－1～3号溝跡

Tab.59　14区　出土遺物観察表

番号	出土遺構 層　位	器種名	①口径　②器高 ③底径	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備　考
14－1	W－1 覆土	須恵器 坏	①—　②(1.2) ③5.2	①細粒　②良好 ③黒褐　④底部のみ	轆轤整形で底部は回転糸切りを未調整。		
14－2	W－1 覆土	灰釉陶器 高台坏	①[13.4]　②(5.2) ③—	①細粒　②良好 ③灰黄　④口縁部破片	口縁部は丸みを持って開き、口唇部は外反する。口唇部付近内面に轆轤引きによる沈線。		
14－3	W－2 覆土	灰釉陶器 高台坏	①[13.2]　②6.8 ③[7.2]	①細粒　②良好 ③灰白　④口縁部破片	口縁部は丸みを持って開き、口唇部は外反する。底部には高台を付す。		

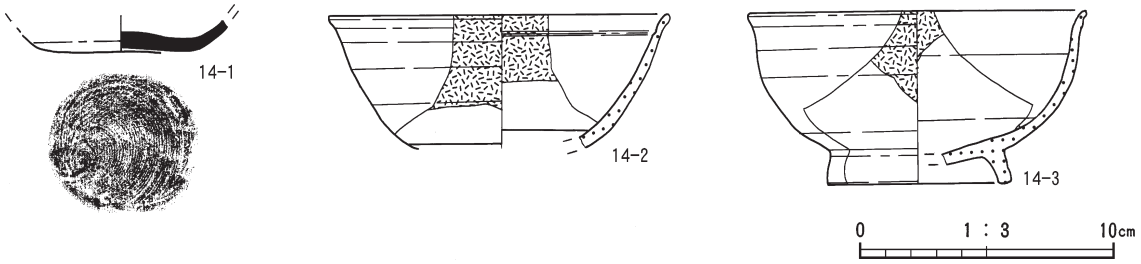
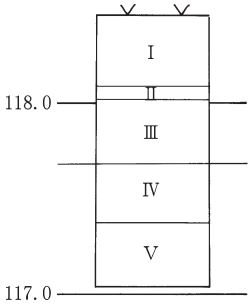


Fig.95　14区W－1・3号溝跡出土遺物

15区



15区　基本層序
Ⅰ　耕作土
Ⅱ　暗褐　○○　As-B 混土層
Ⅲ　暗褐　○○　As-C・Hr-FP 混土層
Ⅳ　暗褐　○◎　As-C・Hr-FP 混土層
Ⅴ　暗褐　◎◎　総社砂層への漸移層

Fig.96　15区基本層序

調査区の概要

南北に細長い調査区である。調査区全体が駐車場として使用されており、一面に砕石が敷き詰められていた。その砕石を剝がすと現代の水田耕作面となり、その下はすぐにAs-C混土となっており以降確認面は非常に浅かった。竪穴住居跡14軒、土坑14基、溝３条が検出された。古墳時代の住居跡では、７m四方の大型住居跡や床一面に炭が広がっていた焼失住居跡など確認できた。竈の支脚に重ねた土器を使用している住居跡が３軒あり、この辺りの住居跡の特徴と考えられる。

(1)　竪穴住居跡

Ｈ－１号住居跡（Fig.98、PL.30）

位置　X288・289、Y88・89グリッド　**主軸方向**　N－66°－E　**形状等**　東西(1.44)m、南北(2.94)m、壁現高10.0cm。　**面積**　(1.95)㎡　**床面**　地山を床面とする。　**竈**　竈本体は調査区外のため詳細は不明であるが東壁中央に施設されたと思われる。主軸方向N－66°－E、全長(76.0)cm、最大幅(57.0)cm、焚口部幅不明。　**貯蔵穴・周溝等**　住居跡のほとんどが調査区外のため確認できず。　**出土遺物**　土師器33点。そのうち土師器坏１点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から５世紀後半から６世紀前半と考えられる。

Ｈ－２号住居跡（Fig.98、PL.30）

位置　X288、Y91　**主軸方向**　N－63°－E　**形状等**　東西(0.92)m、南北(1.76)m、壁現高30.5cm。　**面積**　(0.76)㎡　**床面**　平坦な貼り床。　**竈**　東壁中央に施設されたと考えられるが、住居跡のほとんどが調査区外の

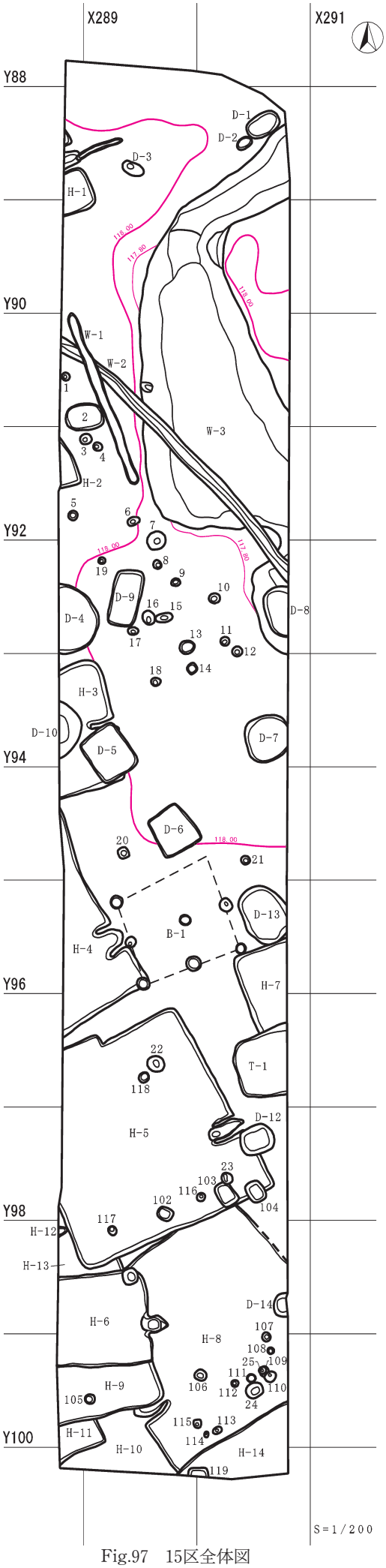


Fig.97　15区全体図

ため確認できず。　**貯蔵穴等**　検出されず。　**周溝**　精査を行ったが確認されなかった。　**出土遺物**　土師器９点。　**時期**　覆土や出土遺物から５世紀後半から６世紀前半と考えられる。

Ｈ－３号住居跡（Fig.99、PL.30）

位置　Ｘ288・289、Ｙ93・94グリッド　**主軸方向**　Ｎ―70°―Ｅ　**形状等**　東西(2.71)ｍ、南北4.54ｍ、壁現高43.5㎝。　**面積**　(8.45)㎡　**床面**　平坦な貼り床。南西部で多くの焼土を確認。　**竈**　東壁中央に施設。主軸方向Ｎ―75°―Ｅ、全長108.0㎝、最大幅129.0㎝、焚口部幅54.0㎝。左袖部からは袖石として使用されていた凝灰岩が検出された。右袖部はＤ－５で破壊され確認できなかった。焚口部は若干凹み、煙道部は急傾斜で立ち上がる。煙道は東壁からわずかに張り出す。　**貯蔵穴等**　北東部柱穴は39×37㎝の円形で深さは49㎝。南東隅の貯蔵穴は104×78㎝の隅丸方形で深さは66㎝。底部から石と多数の土器が検出された。　**周溝**　精査を行ったが確認されなかった。　**重複**　Ｄ－５と重なり、新旧関係は本遺構→Ｄ－５。　**出土遺物**　土師器102点、石製品６点。そのうち土師器坏２点、土師器甕１点、土師器甑１点、砥石３点、臼玉１点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から５世紀後半から６世紀前半と考えられる。

Ｈ－４号住居跡（Fig.99、PL.30）

位置　Ｘ289、Ｙ95・96グリッド　**主軸方向**　Ｎ―57°―Ｅ　**形状等**　東西(3.76)ｍ、南北(7.08)ｍ、壁現高31.0㎝。　**面積**　(11.24)㎡　**床面**　平坦な床面。一面に炭が広がっており焼失住居と考えられる。　**竈**　東壁南寄りに施設。主軸方向Ｎ―57°―Ｅ、全長86.0㎝、最大幅123.0㎝、焚口部幅56.0㎝。支脚として２つの土器が裏返しで重ねられていた。煙道部は急傾斜で立ち上がる。煙道は東壁からわずかに張り出す。　**貯蔵穴等**　南東隅の貯蔵穴は98×78㎝の長方形で深さは66㎝。　**周溝**　精査を行ったが確認されなかった。　**出土遺物**　土師器130点、須恵器３点。そのうち土師器坏３点、土師器高杯１点、土師器小甕１点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から５世紀後半から６世紀前半と考えられる。

Ｈ－５号住居跡（Fig.100、PL.31）

位置　Ｘ288～290、Ｙ96～98グリッド　**主軸方向**　Ｎ―65°―Ｅ　**形状等**　東西(7.40)ｍ、南北(7.58)ｍ、壁現高34.5㎝。北壁西寄りに(150)×50㎝の張り出し部を持つ。　**面積**　(47.56)㎡　**床面**　平坦な貼り床。　**竈**　東壁南寄りに施設。主軸方向Ｎ―68°―Ｅ、全長133.0㎝、最大幅89.0㎝、焚口部幅36.0㎝。左右の袖石が設置された形で残っており、天井石は焚口部手前で確認できた。支脚として２つの土器が裏返しで重ねられていた。焚口部は若干凹み、煙道部は緩やかに立ち上がる。煙道は東壁より20㎝程張り出す。　**貯蔵穴等**　検出されず。　**周溝**　精査を行ったが確認されなかった。　**重複**　Ｈ－８・13と重なり、新旧関係はＨ―13→本遺構→Ｈ－８。　**出土遺物**　土師器680点、須恵器10点、縄文土器５点、石製品３点。そのうち土師器坏３点、土師器甕３点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物、重複関係から５世紀後半から６世紀前半と考えられる。

Ｈ－６号住居跡（Fig.101、PL.31）

位置　Ｘ288・289、Ｙ98・99グリッド　**主軸方向**　Ｎ―84°―Ｅ　**形状等**　東西(3.48)ｍ、南北3.36ｍ、壁現高14.0㎝。　**面積**　(10.71)㎡　**床面**　平坦な貼り床。　**竈**　東壁中央に施設。主軸方向Ｎ―88°―Ｅ、全長95.0㎝、最大幅85.0㎝、焚口部幅41.0㎝。左右の袖石が切り石でしっかりと据えられていた。焚口部は凹み、煙道部は短く立ち上がる。燃焼部から煙道部は65㎝程東壁より張り出す。　**貯蔵穴等**　南東隅の貯蔵穴は48×43㎝の円形で深さ10㎝。　**周溝**　精査を行ったが確認されなかった。　**重複**　Ｈ－８・９・13と重なり、新旧関係はＨ―13→Ｈ－８→Ｈ－９→本遺構。　**出土遺物**　土師器98点、須恵器７点、縄文式土器１点、緑

釉陶器１点。そのうち須恵器高台椀２点、緑釉陶器托１点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物、重複関係から10世紀代と考えられる。

Ｈ－７号住居跡（Fig.101、PL.31）

位置　Ｘ290、Ｙ95･96グリッド　**主軸方向**　Ｎ－66°－Ｅ　**形状等**　東西(2.36)ｍ、南北(4.92)ｍ、壁現高46.0㎝。　**面積**　(5.79)㎡　**床面**　平坦な床面。北壁の一部から炭片を検出。　**竈**　東壁中央に施設されたと考えられるが、調査区外のため確認できず。　**貯蔵穴等**　検出されず。　**周溝**　精査を行ったが確認されなかった。　**重複**　Ｔ－１と重なり、新旧関係は本遺構→Ｔ－１。　**出土遺物**　土師器46点、須恵器１点。そのうち土師器坏１点、土師器高杯１点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から５世紀後半から６世紀前半と考えられる。

Ｈ－８号住居跡（Fig.100、PL.32）

位置　Ｘ289･290、Ｙ97～100グリッド　**主軸方向**　Ｎ－54°－Ｗ　**形状等**　東西(6.98)ｍ、南北(7.20)ｍ、壁現高32.0㎝。　**面積**　(44.37)㎡　**床面**　平坦な床面。　**竈**　西壁南寄りに施設。主軸方向Ｎ－56°－Ｗ、全長134.0㎝、最大幅130.0㎝、焚口部幅39.0㎝。支脚として２つの土器が裏返しで重ねられていた。煙道部は緩やかに立ち上がる。煙道は東壁より10㎝程張り出す。　**貯蔵穴等**　南西隅の貯蔵穴は78×71㎝の円形で深さ80.5㎝。　**周溝**　精査を行ったが確認されなかった。　**重複**　Ｈ－５・６・９・10・14と重なり、新旧関係はＨ－10→Ｈ－５→本遺構→Ｈ－14→Ｈ－９→Ｈ－６　**出土遺物**　土師器1184点、須恵器10点、鉄製品１点、石製品３点、灰釉陶器１点。そのうち土師器坏５点、臼玉２点、管玉１点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物、重複関係から５世紀後半から６世紀前半と考えられる。

Ｈ－９号住居跡（Fig.101、PL.32）

位置　Ｘ288･289、Ｙ99グリッド　**主軸方向**　Ｎ－76°－Ｅ　**形状等**　東西(3.86)ｍ、南北(2.16)ｍ、壁現高15.0㎝。　**面積**　(6.21)㎡　**床面**　平坦な貼り床。　**竈**　東壁に施設されたと考えられるが、重複関係により確認できず。　**貯蔵穴等**　検出されず。　**周溝**　精査を行ったが確認されなかった。　**重複**　Ｈ－６・８・10・11と重なり、新旧関係はＨ－10→Ｈ－11→Ｈ－８→本遺構→Ｈ－６。　**出土遺物**　東南隅に遺物が集中。土師器25点、石製品１点。そのうち土師器坏９点、土師器高杯１点、土師器小甕１点、土師器甕２点、土師器甑１点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物、重複関係から６世紀代と考えられる。

Ｈ－10号住居跡（Fig.103、PL.32）

位置　Ｘ288･289、Ｙ99･100グリッド　**主軸方向**　Ｎ－62°－Ｅ　**形状等**　東西(3.73)ｍ、南北(4.90)ｍ、壁現高32.5㎝。　**面積**　(8.57)㎡　**床面**　平坦な貼り床。　**竈**　東壁中央に施設されたと考えられるが、重複関係により確認できず。　**貯蔵穴等**　検出されず。　**周溝**　精査を行ったが確認されなかった。　**重複**　Ｈ－８・９・11と重なり、新旧関係は本遺構→Ｈ－11→Ｈ－８→Ｈ－９。　**出土遺物**　土師器201点、須恵器１点。そのうち土師器坏１点、須恵器高台椀１点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から５世紀後半から６世紀前半と考えられる。

Ｈ－11号住居跡（Fig.103、PL.32）

位置　Ｘ288･289、Ｙ99･100グリッド　**主軸方向**　Ｎ－64°－Ｅ　**形状等**　東西(2.00)ｍ、南北(4.15)ｍ、壁現高20.0㎝。　**面積**　(3.87)㎡　**床面**　平坦な貼り床。　**竈**　東壁中央に施設されたと考えられるが、重複

関係により確認できず。　**貯蔵穴等**　検出されず。　**周溝**　精査を行ったが確認されなかった。　**重複**　H－9・10と重なり、新旧関係はH－10→本遺構→H－9。　**出土遺物**　土師器20点。　**時期**　覆土や出土遺物から5世紀後半から6世紀前半と考えられる。

H－12号住居跡（Fig.98、PL.33）

位置　X289、Y99グリッド　**形状等**　竈煙道部のみの検出のため詳細は不明。　**竈**　東壁中央に位置すると考えられる。主軸方向N－75°－E、全長(38.0)cm、最大幅(36.0)cm、焚口部幅不明。　**出土遺物**　土師器1点。　**時期**　不明。

H－13号住居跡（Fig.101）

位置　X288・289、Y97・98グリッド　**主軸方向**　N－62°－E　**形状等**　東西(3.00)m、南北(3.58)m、壁現高18.5cm。　**面積**　(4.12)㎡　**床面**　平坦な床面。　**竈**　東壁中央に施設されたと考えられるが、重複関係により確認できず。　**貯蔵穴等**　検出されず。　**周溝**　精査を行ったが確認されなかった。　**重複**　H－5・6・8と重なり、新旧関係は本遺構→H－5→H－8→H－6。　**出土遺物**　土師器59点、須恵器1点。そのうち土師器1点を図示。　**時期**　出土遺物や重複関係から5世紀後半から6世紀前半と考えられる。

H－14号住居跡（Fig.103、PL.33）

位置　X289・290、Y99・100グリッド　**主軸方向**　N－59°－E　**形状等**　東西(4.76)m、南北(2.28)m、壁現高8.5cm。　**面積**　(6.03)㎡　**床面**　平坦な床面。　**竈**　東壁中央に施設されたと考えられるが、重複関係により確認できず。　**貯蔵穴等**　検出されず。　**周溝**　精査を行ったが確認されなかった。　**重複**　H－8と重なり、新旧関係はH－8→本遺構。　**出土遺物**　土師器20点。　**時期**　覆土や出土遺物から6世紀代と考えられる。

(2)　竪穴状遺構

T－1号竪穴状遺構（Fig.103、PL.33）

位置　X290、Y96グリッド　**主軸方向**　N－78°－E　**規模等**　東西(2.24)m、南北(2.45)m、壁現高10.0cm。　**面積**　(3.99)㎡　**重複**　H－7と重なり、新旧関係はH－7→本遺構。　**出土遺物**　土師器32点。　**時期**　7世紀以降と考えられるが、詳細は不明である。

(3)　溝跡

W－1号溝跡（Fig.104、PL.33）

位置　X288・289、Y90・91グリッド　**主軸方向**　N－70°－E　**形状等**　逆台形。長さ6.44m、深さ7.0cm、最大上幅40.0cm、最大下幅29.0cm　**出土遺物**　土師器6点、須恵器1点。　**時期**　7世紀以降と考えられるが、詳細は不明である。

W－2号溝跡（Fig.104、PL.33）

位置　X288～290、Y90～92グリッド　**主軸方向**　N－44°－W　**形状等**　U字形。長さ11.48m、深さ23.5cm、最大上幅52.0cm、最大下幅26.0cm　**出土遺物**　土師器63点、須恵器3点。　**時期**　7世紀以降と考えられるが、詳細は不明である。

W－3号溝跡（Fig.104、PL.33）

位置　X289･290、Y88～93グリッド　**主軸方向**　N－15°－W　**形状等**　逆台形。長さ(15.90)m、最大深93.0cm、最大上幅580.0cm、最大下幅380.0cm　**出土遺物**　土師器1,186点、須恵器6点、縄文土器11点。そのうち土師器坏28点、土師器高杯2点、土師器坩1点、土師器甑1点、土師器椀2点、土師器小甕3点。土師器甕13点、須恵器大甕1点、臼玉2点、砥石1点、土製円盤1点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から溝部は4世紀後半から5世紀前半と考えられる。

⑷　土坑、ピット（Fig.104～106）

土坑、ピットについては、Tab.62土坑・ピット・井戸跡等計測表を参照のこと。

⑸　グリッド等出土遺物

土師器1,208点、須恵器7点、縄文式土器26点、石製品6点、灰釉陶器1点、陶磁器1点を出土。

Tab.60　15区　住居跡等一覧表

遺構名	位置	規模（m）			面積（㎡）	主軸方向	竈		周溝	主な出土遺物		
		東西	南北	壁現高(cm)			位置	構築材		土師器	須恵器	その他
H－1	X288・289 Y88・89	(1.44)	(2.94)	10.0	(1.95)	N－66°－E	東壁中央	粘土	－	坏		
H－2	X288 Y91	(0.92)	(1.76)	30.5	(0.76)	N－63°－E			－			
H－3	X288・289 Y93・94	(2.71)	4.54	43.5	(8.45)	N－75°－E	東壁中央	凝灰岩、粘土	－	坏、甑		
H－4	X289 Y95・96	(3.76)	(7.08)	31.0	(11.24)	N－57°－E	東壁南寄り	粘土	－	坏、甕		
H－5	X288～290 Y96～98	(7.40)	(7.58)	34.5	(47.56)	N－65°－E	東壁南寄り	石、粘土	－	坏、甕		
H－6	X288・289 Y98・99	(3.48)	3.36	14.0	(10.71)	N－84°－E	東壁中央	石、粘土	－		高台椀	緑釉托
H－7	X290 Y95・96	(2.36)	(4.92)	46.0	(5.79)	N－66°－E			－	坏		
H－8	X289・290 Y97～100	(6.98)	(7.20)	32.0	(44.37)	N－54°－E	西壁南寄り	石、粘土	－	坏		
H－9	X288・289 Y99	(3.86)	(2.16)	15.0	(6.21)	N－76°－E			－	坏、甑		
H－10	X288・289 Y99・100	(3.73)	(4.90)	32.5	(8.57)	N－62°－E			－	坏	高台椀	
H－11	X288・289 Y99・100	(2.00)	(4.15)	20.0	(3.87)	N－64°－E			－			
H－13	X288・289 Y97・98	(3.00)	(3.58)	18.5	(4.12)	N－62°－E			－	坏		
H－14	X289・290 Y99・100	(4.76)	(2.28)	8.5	(6.03)	N－59°－E			－			
T－1	X290 Y96	(2.24)	(2.45)	10.0	(3.99)	N－78°－E			－			

Tab.61　15区　溝跡計測表

遺構名	位置	長さ(m)	深さ（cm）		上幅（cm）		下幅（cm）		主軸方向	断面形	時期
			最大	最小	最大	最小	最大	最小			
W－1	X288・289 Y90・91	6.44	7.0	4.5	40.0	26.0	29.0	20.0	N－70°－E	逆台形	中世
W－2	X288～290 Y90～92	11.48	23.5	9.5	52.0	30.0	26.0	4.0	N－44°－W	U字形	中世
W－3	X289～290 Y88～93	15.90	93.0	20.5	580.0	190.0	380.0	65.0	N－15°－W	逆台形	古墳

Tab.62　15区　土坑・ピット計測表

遺構名	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	出土遺物	備考
D－1	X290 Y88	123.0	76.0	28.0	長楕円形	縄1・土16	
D－2	X290 Y88	58.0	37.0	9.0	長楕円形		
D－3	X289 Y88	81.0	44.0	47.5	長楕円形		
D－4	X288・289 Y92・93	(243.0)	(140.0)	51.0	楕円形	縄6・土30・須2	
D－5	X288・289 Y93・94	179.0	150.0	19.5	隅丸方形	土41・須1	
D－6	X289・290 Y94	158.0	142.0	17.5	隅丸方形	土7	
D－7	X290 Y73	176.0	164.0	45.5	円形	土45	

遺構名	位　　置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	出土遺物	備　　考
D－8	X290・291 Y92	(176.0)	(76.0)	38.5	楕円形	土5	
D－9	X289 Y92	201.0	100.0	35.0	隅丸方形	縄3・土7	
D－10	X288 Y93	(230.0)	(76.0)	(35.5)	楕円形		
D－11	X290 Y91	[142.0]	[102.0]	38.5	楕円形		
D－12	X290 Y97	121.0	100.0	32.5	隅丸方形	土20	
D－13	X290 Y95	209.0	160.0	31.5	隅丸方形	土14	
D－14	X290 Y99	(82.0)	(44.0)	31.5	円　　形	土1	
P－1	X288 Y90	28.0	28.0	23.5	円　　形		
P－2	X288・289 Y90・91	130.0	94.0	5.5	楕円形		
P－3	X288・289 Y91	41.0	35.0	18.0	円　　形		
P－4	X289 Y91	32.0	28.0	23.0	円　　形		
P－5	X288 Y91	34.0	32.0	14.5	円　　形		
P－6	X289 Y91	46.0	28.0	11.0	長楕円形		
P－7	X289 Y91・92	69.0	64.0	16.0	円　　形	土1	
P－8	X289 Y92	30.0	28.0	19.0	円　　形	土2	
P－9	X289 Y92	33.0	26.0	11.0	楕円形	土1	
P－10	X290 Y92	40.0	36.0	16.0	円　　形	土1	
P－11	X290 Y92	32.0	32.0	14.5	円　　形		
P－12	X290 Y92・93	36.0	36.0	13.0	円　　形		
P－13	X289 Y92・93	54.0	46.0	13.0	円　　形		
P－14	X289・290 Y93	37.0	35.0	16.5	隅丸方形		
P－15	X289 Y92	60.0	31.0	49.5	長楕円形		
P－16	X289 Y92	50.0	44.0	21.0	楕円形		
P－17	X289 Y92	37.0	27.0	13.5	楕円形		
P－18	X289 Y93	34.0	29.0	18.0	円　　形	土1	
P－19	X289 Y92	26.0	24.0	13.5	円　　形		
P－20	X289 Y74	38.0	37.0	34.5	隅丸方形		
P－21	X290 Y74	32.0	30.0	29.0	円　　形	土1	
P－22	X289 Y96	63.0	56.0	22.5	円　　形	土2	
P－23	X290 Y97	42.0	38.0	33.0	円　　形		
P－24	X290 Y99	61.0	52.0	64.5	円　　形	土11	
P－25	X290 Y99	26.0	26.0	32.5	円　　形		
P－101	X289 Y98	56.0	56.0	55.5	隅丸方形	土5	
P－102	X289 Y97・98	55.0	46.0	33.5	隅丸方形		
P－103	X290 Y97	87.0	60.0	12.5	隅丸方形	土2	
P－104	X290 Y97	77.0	62.0	34.0	隅丸方形	土35	
P－105	X289 Y99	36.0	36.0	44.5	円　　形		
P－106	X289・290 Y99	43.0	38.0	40.5	円　　形		
P－107	X290 Y98・99	32.0	30.0	20.0	円　　形		
P－108	X290 Y99	24.0	24.0	17.5	円　　形		
P－109	X290 Y99	38.0	[34.0]	19.5	円　　形		
P－110	X290 Y99	42.0	36.0	21.0	円　　形		
P－111	X290 Y99	30.0	28.0	16.0	円　　形		
P－112	X290 Y99	26.0	25.0	34.0	円　　形		
P－113	X290 Y99	34.0	22.0	21.0	楕円形		
P－114	X290 Y99	20.0	16.0	18.0	楕円形		
P－115	X289・290 Y99	30.0	26.0	27.0	隅丸方形		
P－116	X290 Y97	31.0	28.0	36.0	円　　形	土1	
P－117	X289 Y98	34.0	28.0	40.5	楕円形		
P－118	X289 Y96	39.0	35.0	44.5	円　　形		
P－119	X289・290 Y100	(68.0)	(22.0)	50.5	隅丸方形	土1	

Tab.63　15区　古墳・奈良・平安時代出土土器観察表

番号	出土遺構 層　位	器種名	①口径　②器高 ③底径	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備　考
15－1	H－1 床直	土師器 坏	①13.6　②4.5 ③—	①細粒　②良好 ③橙　④4/5	口縁部：直立からやや外傾する。内外面横なで。体部：内面なで。外面横位の篦削り。すす付着。底部：丸底。	26	
15－2	H－3 覆土	土師器 坏	①13.6　②5.6 ③—	①細粒　②良好 ③橙　④完形	口縁部：内斜口縁。内外面横なで。体部：内面なで。放射状篦みがきを施す。外面横位の篦削り。底部：丸底。	15	
15－3	H－3 覆土	土師器 坏	①13.5　②4.7 ③—	①細粒　②良好 ③橙　④ほぼ完形	口縁部：内斜口縁。内外面横なで。体部：内面なで。放射状篦みがきを施す。外面なでから横位の篦削り。底部：丸底。	18	
15－4	H－3 床直	土師器 甕	①—　②(13.3) ③8.0	①細粒　②良好 ③にぶい黄橙④1/4	口縁部から胴上部：欠損。胴中部に最大径となる。胴中部から底部：内面なで。外面横位の篦削りの後、篦みがき。底部：平底。	28	
15－5	H－3 覆土	土師器 甑	①22.6　②27.8 ③9.6	①細粒　②良好 ③にぶい黄橙 ④ほぼ完形	口縁部：直立からやや外傾する。最大径。内外面横なで。胴上部：内面なで。外面縦位の篦削り。胴下部：内面なで。外面横位の篦削り。	14	
15－6	H－4 床直	土師器 坏	①15.0　②5.7 ③—	①細粒　②良好 ③橙　④完形	口縁部：内斜口縁。内外面横なで。体部：内面なで。放射状篦みがきを施す。外面縦位から横位の篦削り。底部：丸底。	23	
15－7	H－4 床直	土師器 坏	①[12.2]　②5.0 ③—	①細粒　②良好 ③橙　④1/2	口縁部：わずかに内湾する。内外面横なで。体部：内面なで。放射状篦みがきを施す。外面横位と斜位の篦削り。底部：丸底。	18	
15－8	H－4 覆土	土師器 坏	①11.6　②4.2 ③—	①細粒　②良好 ③橙　④ほぼ完形	口縁部：大きく外反する。内外面横なで。体部：内面なで。外面横位の篦削り。底部：丸底。	1	
15－9	H－4 覆土	土師器 高坏	①—　②(6.6) ③[9.3]	①細粒　②良好 ③橙　④脚部	坏部：欠損。脚部：直線的に下り、短く外反して開く。内面粘土塊充塡の後、なで調整。外面横なで。	4	
15－10	H－4 床直	土師器 小甕	①12.2　②14.9 ③6.4	①細粒　②良好 ③浅黄橙　④完形	口縁部：内外面横なで。胴部：内面なで。外面縦位の篦削り。胴中位で最大径となる。底部：肉厚。外面手持ち篦削り。	24	

番号	出土遺構 層　位	器種名	①口径　②器高 ③底径	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備　考
15—11	H—5 床直	土師器 坏	①13.3　②5.1 ③8.6	①細粒　②良好 ③橙　④ほぼ完形	口縁部：内斜口縁。内外面横なで。体部：内面なで。暗文を施す。外面横位の篦削り。底部：丸底。	125	
15—12	H—5 床直	土師器 坏	①[13.3] ②4.1 ③—	①細粒　②良好 ③橙　④1/2	口縁部：直立から外傾する。内外面横なで。体部：内面なで。外面横位の篦削り。底部：丸底。	76	
15—13	H—5 床直	土師器 坏	①[13.4] ②(4.1) ③—	①細粒　②良好 ③橙　④1/3	口縁部：直立からやや外傾する。内外面横なで。体部：内面なで。外面縦位の篦削り。底部：丸底。	118	
15—14	H—5 床直	土師器 甕	①—　②(9.9) ③7.4	①細粒　②良好 ③橙　④1/4	口縁部から胴中部：欠損。胴下部：内面なで。粘土付着。外面縦位の篦削り。底部：平底。	103	
15—15	H—5 覆土	土師器 甕	①[21.0] ②(16.5) ③—	①細粒　②良好 ③橙　④破片	口縁部：内外面横なで。最大径。胴上部：内面なで。外面縦位の篦削り。胴中部から底部：欠損。	57	
15—16	H—5 床直	土師器 甕	①[22.0] ②(14.3) ③—	①細粒　②良好 ③にぶい黄橙　④1/4	口縁部：内外面横なで。最大径。胴上部：内面なで。外面縦位の篦削り。胴中部から底部：欠損。	124	
15—17	H—6 覆土	須恵器 坏	①13.5　②5.1 ③7.0	①細粒　②良好 ③灰　④ほぼ完形	轆轤整形。緩やかに外傾し、口縁端で開く。口縁部から体部：轆轤なで。底部：外面回転糸切りの後、高台を取り付ける。	12	
15—18	H—6 覆土	須恵器 坏	①[13.7] ②(5.7) ③6.4	①細粒　②良好 ③灰白　④2/3	轆轤整形。緩やかに外傾し、口縁端で開く。口縁部から体部：轆轤なで。底部：外面回転糸切りの後、高台を取り付ける。	9	
15—19	H—7 覆土	緑釉 托	①[14.4] ②(1.7) ③—	①細粒　②良好 ③灰　④破片	轆轤整形。口縁部から体部：内外面轆轤なで。内外面施釉。内面中程に茶碗台受の断面三角形状の凸帯を１条巡らせる。底部から高台部：欠損。	16	黒笹90号窯式期
15—20	H—7 床直	土師器 坏	①[13.6] ②5.0 ③—	①細粒　②良好 ③橙　④1/3	口縁部：内斜口縁。内外面横なで。体部：内面なで。放射状篦みがきを施す。外面横位の篦削り。底部：丸底。	13	
15—21	H—8 覆土	土師器 高坏	①—　②(5.0) ③[10.2]	①細粒　②良好 ③橙　④脚部	坏部：欠損。脚部：外傾しながら下り接地面で開く。内外面横なで。接合部：内面粘土塊充塡。	9	
15—22	H—8 覆土	土師器 坏	①[12.3] ②5.2 ③—	①細粒　②良好 ③橙　④3/4	口縁部：やや外傾する。内外面横なで。体部との境に１条の溝。体部：内面なで。放射状篦みがきを施す。黒色処理。外面横位と斜位の篦削り。底部：丸底。	51	
15—23	H—8 床直	土師器 坏	①[11.2] ②(4.4) ③—	①細粒　②良好 ③橙　④1/2	口縁部：やや外傾する。内外面横なで。体部：内面なで。放射状篦みがきを施す。外面横位の篦削り。底部：丸底。	27	
15—24	H—8 覆土	土師器 坏	①[13.0] ②5.45 ③—	①細粒　②良好 ③橙　④1/2	口縁部：やや外傾する。内外面横なで。体部：内面なで。放射状篦みがきを施す。外面横位と斜位の篦削り。底部：丸底。	82	
15—25	H—8 覆土	土師器 坏	①[14.4] ②(4.8) ③—	①細粒　②良好 ③橙　④2/3	口縁部：大きく外傾する。内外面横なで。体部：内面なで。放射状篦みがきを施す。外面横位の篦削り。底部：丸底。	132	
15—26	H—9 床直	土師器 坏	①[12.2] ②3.9 ③—	①細粒　②良好 ③橙　④破片	口縁部：やや外傾する。内外面横なで。体部：内面なで。外面横位と斜位の篦削り。底部：丸底。	72	
15—27	H—9 床直	土師器 坏	①12.2　②5.2 ③—	①細粒　②良好 ③橙　④完形	口縁部：やや外傾する。内外面横なで。体部：内面なで。外面横位の篦削り。底部：丸底。	1	
15—28	H—9 床直	土師器 坏	①12.8　②4.3 ③—	①細粒　②良好 ③橙　④完形	口縁部：やや外傾する。内外面横なで。体部：内面なで。外面横位の篦削り。底部：丸底。	11	
15—29	H—9 床直	土師器 坏	①11.5　②4.2 ③—	①細粒　②良好 ③橙　④完形	口縁部：やや外傾する。内外面横なで。体部：内面なで。外面斜位の篦削り。底部：丸底。	12	
15—30	H—9 床直	土師器 坏	①11.8　②3.9 ③—	①細粒　②良好 ③橙　④ほぼ完形	口縁部：やや外傾し口縁端で短く外反する。内外面横なで。体部：内面なで。外面斜位の篦削り。底部：丸底。	13	
15—31	H—9 床直	土師器 坏	①11.4　②4.3 ③—	①細粒　②良好 ③橙　④ほぼ完形	口縁部：やや外傾する。内外面横なで。体部：内面なで。外面横位の篦削り。底部：丸底。	14	
15—32	H—9 床直	土師器 坏	①[11.6] ②3.7 ③—	①細粒　②良好 ③橙　④4/5	口縁部：やや外傾する。内外面横なで。体部：内面なで。外面横位の篦削り。底部：内面中央部に円形の凹みあり。丸底。	8	
15—33	H—9 床直	土師器 坏	①[12.2] ②3.9 ③—	①細粒　②良好 ③橙　④2/3	口縁部：やや外傾する。内外面横なで。内面に複数の工具痕あり。体部：内面なで。外面横位の篦削り。底部：丸底。	6	
15—34	H—9 床直	土師器 坏	①12.4　②4.0 ③—	①細粒　②良好 ③橙　④4/5	口縁部：やや外傾する。内外面横なで。体部：内面なで。外面横位の篦削り。底部：丸底。	7	
15—35	H—9 覆土	土師器 高坏	①15.7　②11.0 ③11.6	①細粒　②良好 ③橙　④ほぼ完形	口縁部にむかい大きく開く。口縁部から体部：内面なで。暗文を施す。外面横なで。脚部：緩やかに外傾しながら下り接地面に向かって大きく開く。内面なで。外面横なで。接続部内面に粘土塊を充塡する。	24	
15—36	H—9 床直	土師器 小甕	①[11.8] ②11.3 ③—	①細粒　②良好 ③橙　④完形	口縁部：ほぼ直立する。内外面横なで。胴部：内面なで。外面横位の篦削り。胴上部で最大径となる。底部：丸底。	3	
15—37	H—9 床直	土師器 甕	①20.8　②(14.5) ③—	①細粒　②良好 ③橙　④1/2	口縁部：内外面横なで。最大径。胴上部：内面なで。外面縦位の篦削り。胴中部から底部：欠損。	15	砂粒含む
15—38	H—9 床直	土師器 甕	①18.4　②(16.8) ③—	①細粒　②良好 ③にぶい橙　④1/2	口縁部：内外面横なで。最大径。胴上部：内面強めの篦なで。外面縦位の篦削り。胴中部から底部：欠損。		砂粒含む
15—39	H—9 床直	土師器 甑	①15.8　②13.6 ③—	①細粒　②良好 ③橙　④完形	口縁部：直立からわずかに外反する。内外面横なで。最大径。胴部：内面なで。外面縦位の篦けずり。底部：丸底。中央部に４cm程の穿孔。	5	
15—40	H—10 床直	土師器 坏	①[12.7] ②5.3 ③—	①細粒　②良好 ③橙　④1/4	口縁部：わずかに内湾する。内外面横なで。体部：内面なで。放射状篦みがきを施す。外面横位の篦削り。底部：肉厚な丸底。	23	
15—41	H—10 覆土	須恵器 高台椀	①[13.6] ②5.7 ③[6.6]	①細粒　②良好 ③浅黄橙　④1/3	轆轤整形。口縁部から体部：内外面轆轤なで。内面篦みがき。内黒。底部：回転糸切りの後、高台を取り付ける。	5	酸化焔
15—42	H—13 覆土	土師器 坏	①[11.2] ②3.8 ③—	①細粒　②良好 ③橙　④1/2	口縁部：やや外傾する。内外面横なで。体部：内面なで。外面横位の篦削り。底部：丸底。	2	
15—93	W—3 底部	土師器 甕	①—　②(9.2) ③4.8	①細粒　②良好 ③橙　④底部	口縁部から胴中部：欠損。胴下部：内面なで。外面縦位の篦削りの後、放射状の篦みがき。底部：平底。	253	

Tab.64　15区　石器・石製品観察表

番号	出土遺構／層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重さ	石材	遺存度	登録番号	備　考
15—石１	H—3　床直	砥石	7.50	5.60	4.24	240.0	流紋岩	ほぼ完形	11	
15—石２	H—3　床直	砥石	9.10	7.05	4.80	460.0	安山岩	1/2	Ｓ２	
15—石３	H—3　覆土	砥石	17.15	14.35	5.05	1900.0	閃緑岩	完形		Ｐ５底部
15—石４	H—3　床直	菰編石	15.45	7.10	5.05	740.0	礫岩	完形	Ｓ３	
15—石５	H—3　床直	菰編石	15.60	5.85	4.24	670.0	安山岩	完形	Ｓ１	
15—石６	H—5　床直	臼玉	0.75	0.75	0.18	0.1	滑石	完形	100	
15—石７	H—5　床直	菰編石	14.85	6.15	5.70	720.0	凝灰角礫岩	完形	Ｓ１	
15—石８	H—5　床直	菰編石	20.75	8.05	4.85	1140.0	凝灰角礫岩	完形	Ｓ２	
15—石９	H—5　床直	菰編石	15.75	715.00	4.72	760.0	砂岩	完形	Ｓ３	
15—石10	H—5　床直	菰編石	19.70	8.35	3.98	900.0	安山岩	完形	Ｓ４	

番号	出土遺構／層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重さ	石材	遺存度	登録番号	備　考
15―石11	H―5　床直	菰編石	15.30	7.00	4.79	930.0	砂岩	完形	S 5	
15―石12	H―5　床直	菰編石	10.95	5.90	4.08	400.0	安山岩	完形	S 6	
15―石13	H―5　床直	菰編石	13.80	5.55	4.16	460.0	砂岩	完形	S 7	
15―石14	H―5　床直	菰編石	12.50	6.45	3.24	400.0	砂岩	完形	S 8	
15―石15	H―8　覆土	臼玉	0.65	0.65	0.45	0.2	滑石	完形	1	
15―石16	H―8　覆土	臼玉	0.70	0.70	0.50	0.2	滑石	完形	50	
15―石17	H―8　床直	管玉	2.70	0.60	0.60	1.7	滑石	完形	100	
15―石18	W―3　覆土	臼玉	0.55	0.55	0.35	0.1	滑石	完形	577	遺物577内
15―石19	W―3　覆土	臼玉	0.65	0.65	0.35	0.2	滑石	完形		
15―石20	W―3　覆土	砥石	3.20	2.80	1.50	20.0	流紋岩	完形		

Tab.65　15区　土製品観察表

番号	出土遺構／層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	遺存度	登録番号	備　　考
15―土1	W―3　覆土	円盤	7.60	7.50	1.00	完形	11	

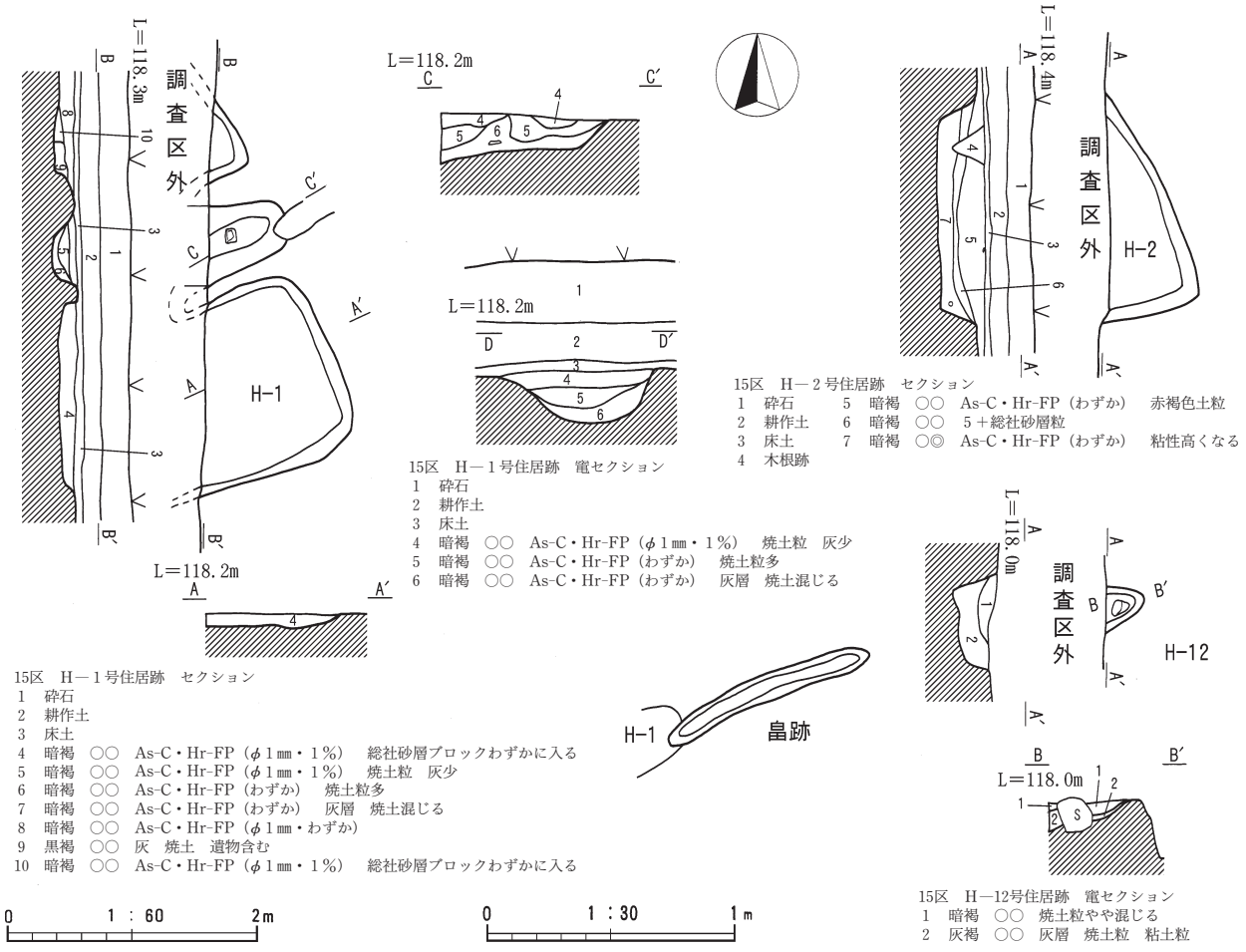
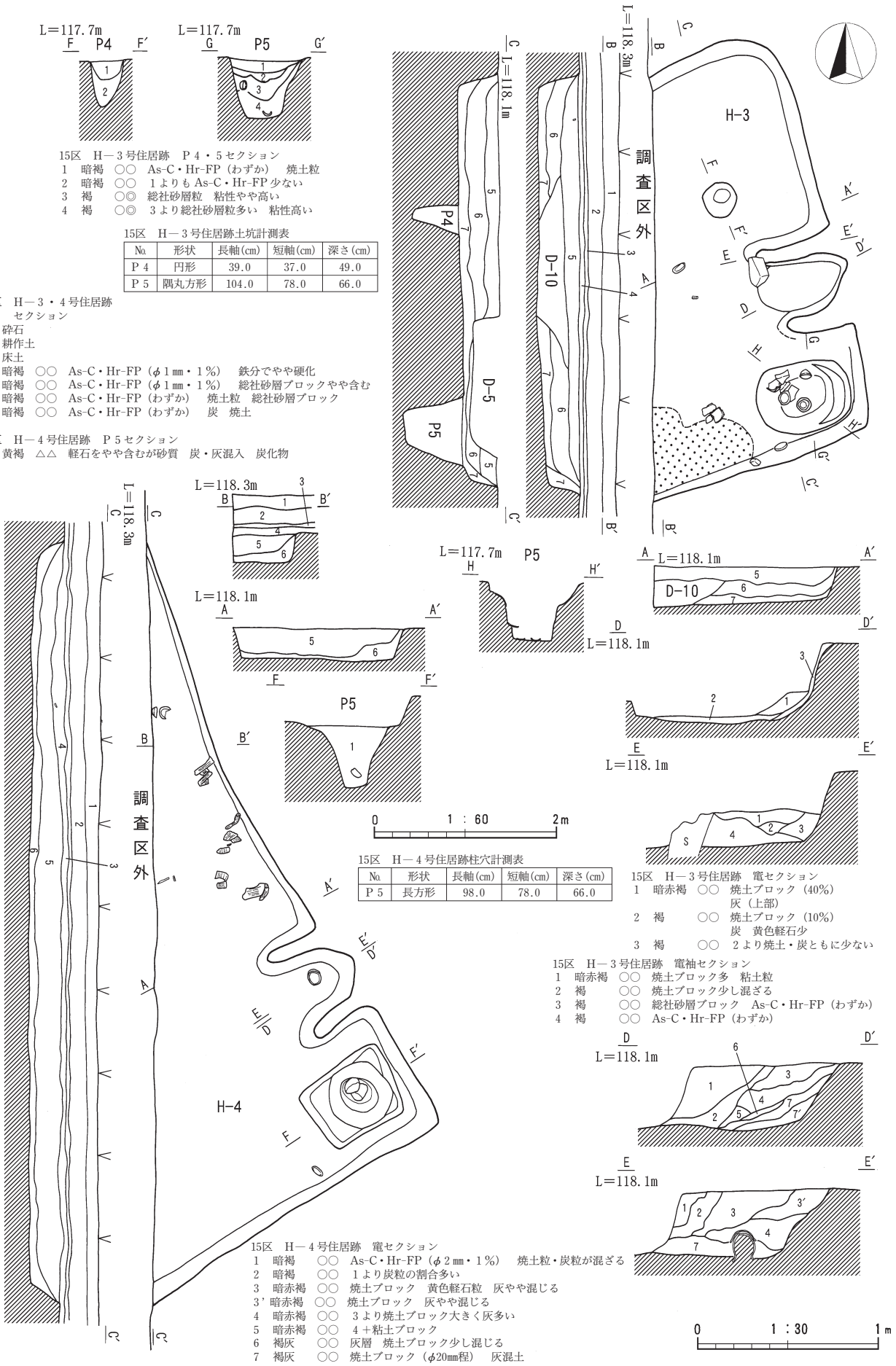


Fig.98　15区H―1・2・12号住居跡、畠跡



15区　H－3号住居跡　P 4・5セクション
1　暗褐　○○　As-C・Hr-FP（わずか）　焼土粒
2　暗褐　○○　1よりもAs-C・Hr-FP少ない
3　褐　○◎　総社砂層粒　粘性やや高い
4　褐　○◎　3より総社砂層粒多い　粘性高い

15区　H－3号住居跡土坑計測表

No.	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
P 4	円形	39.0	37.0	49.0
P 5	隅丸方形	104.0	78.0	66.0

15区　H－3・4号住居跡
セクション
1　砕石
2　耕作土
3　床土
4　暗褐　○○　As-C・Hr-FP（φ1㎜・1％）　鉄分でやや硬化
5　暗褐　○○　As-C・Hr-FP（φ1㎜・1％）　総社砂層ブロックやや含む
6　暗褐　○○　As-C・Hr-FP（わずか）　焼土粒　総社砂層ブロック
7　暗褐　○○　As-C・Hr-FP（わずか）　炭　焼土

15区　H－4号住居跡　P 5セクション
1　黄褐　△△　軽石をやや含むが砂質　炭・灰混入　炭化物

15区　H－4号住居跡柱穴計測表

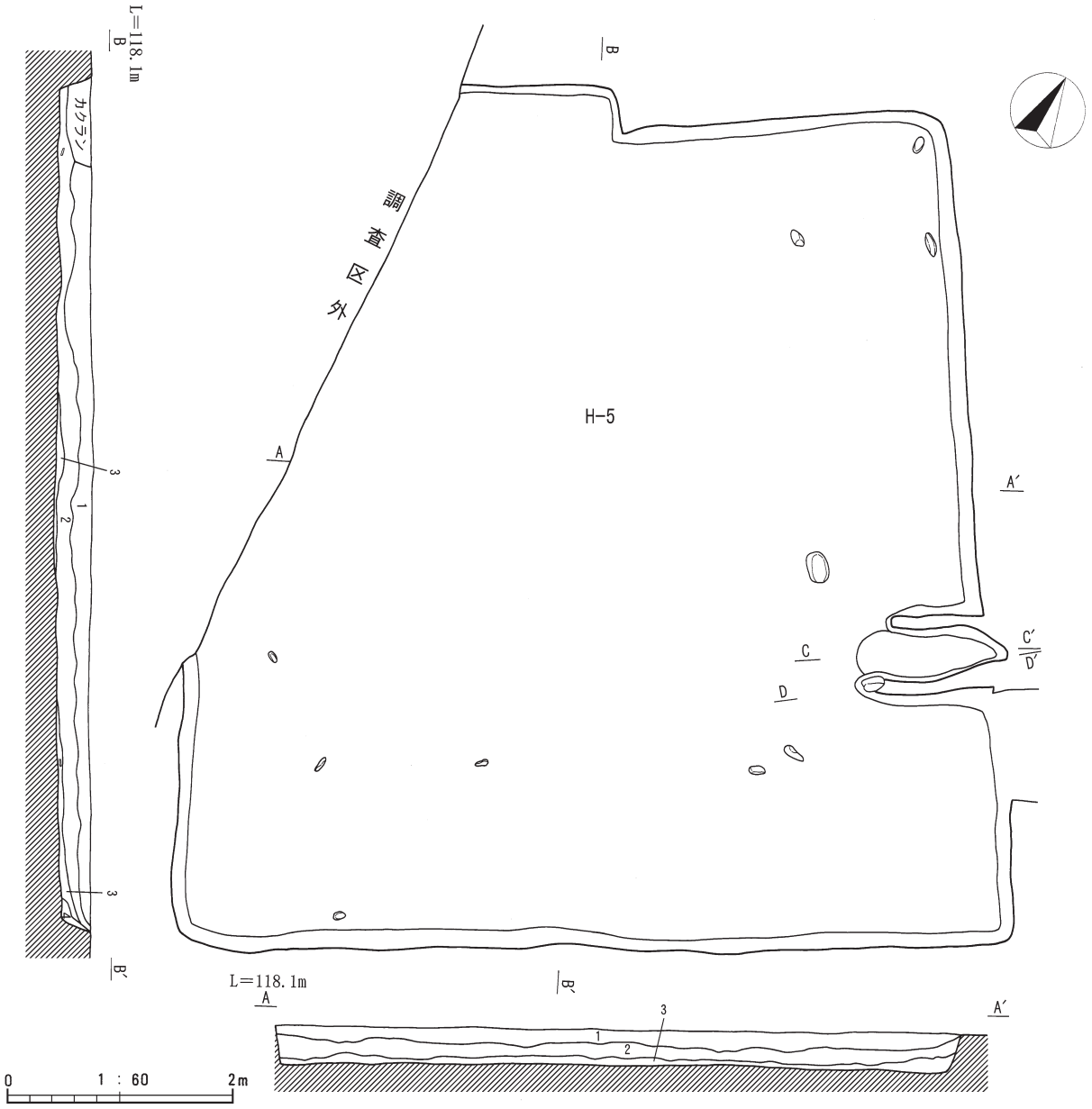
No.	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
P 5	長方形	98.0	78.0	66.0

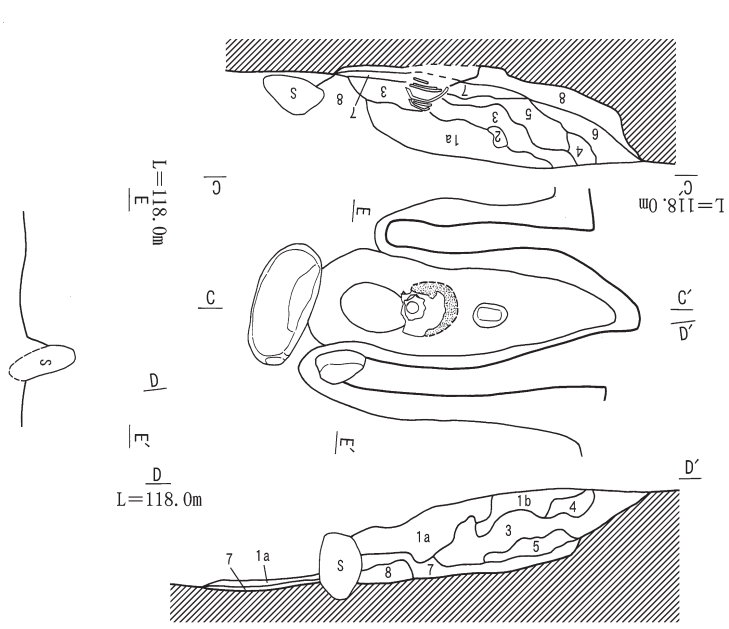
15区　H－3号住居跡　竈セクション
1　暗赤褐　○○　焼土ブロック（40%）
灰（上部）
2　褐　○○　焼土ブロック（10%）
炭　黄色軽石少
3　褐　○○　2より焼土・炭ともに少ない

15区　H－3号住居跡　竈袖セクション
1　暗赤褐　○○　焼土ブロック多　粘土粒
2　褐　○○　焼土ブロック少し混ざる
3　褐　○○　総社砂層ブロック　As-C・Hr-FP（わずか）
4　褐　○○　As-C・Hr-FP（わずか）

15区　H－4号住居跡　竈セクション
1　暗褐　○○　As-C・Hr-FP（φ2㎜・1％）　焼土粒・炭粒が混ざる
2　暗褐　○○　1より炭粒の割合多い
3　暗赤褐　○○　焼土ブロック　黄色軽石粒　灰やや混じる
3'暗赤褐　○○　焼土ブロック　灰やや混じる
4　暗赤褐　○○　3より焼土ブロック大きく灰多い
5　暗赤褐　○○　4＋粘土ブロック
6　褐灰　○○　灰層　焼土ブロック少し混じる
7　褐灰　○○　焼土ブロック（φ20㎜程）　灰混土

Fig.99　15区H－3・4号住居跡

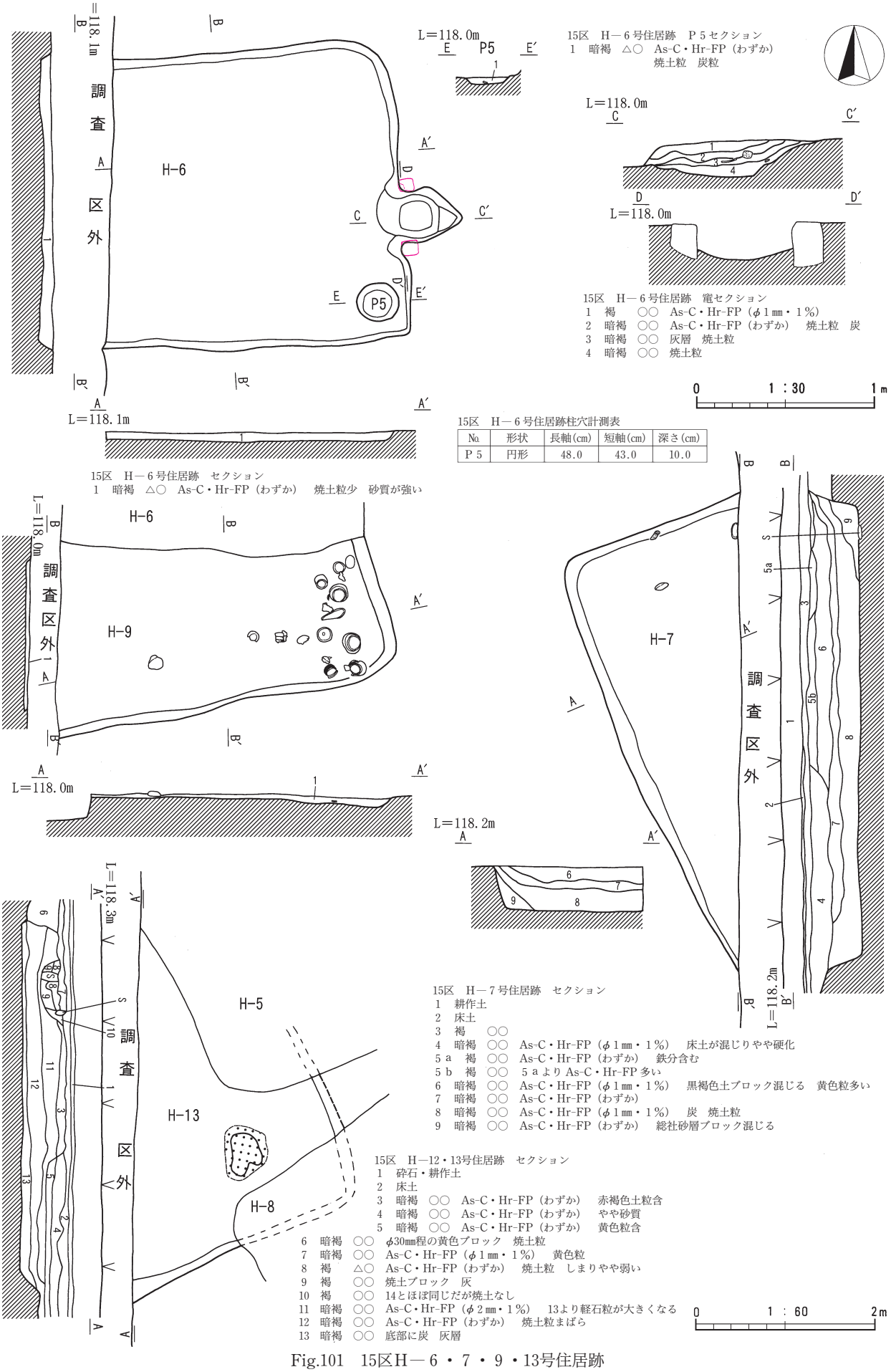




15区　H－５号住居跡　セクション
1　暗褐　○○　As-C・Hr-FP（φ２㎜・１％）　総社砂層ブロックやや含む
2　黒褐　○○　As-C・Hr-FP（φ２㎜・３％）　総社砂層ブロック細かく混入
3　暗褐　◎◎　As-C・Hr-FP（わずか）　２よりしまりあり粘性強い
4　暗褐　○○　As-C・Hr-FP（わずか）　３とほぼ同じだがしまりが弱い　総社砂層に近い

15区　H－５号住居跡　竈セクション
1ａ　暗褐　○○　As-C・Hr-FP（わずか）　焼土ブロック（下部）
1ｂ　暗褐　○○　１ａより焼土ブロック多い
2　褐灰　○○　粘土を含むブロック（上部）　焼土混じりブロック（下部）
3　暗褐　○○　焼土ブロック（30％）　やや灰混じる
4　赤褐　○○　焼土ブロック（30％）
5　暗褐　○○　焼土ブロック多く含む
6　暗褐　○○　５＋炭・灰
7　褐灰　○○　灰層＋焼土ブロック
8　暗褐　○○　粘土混じり　焼土ブロックやや混入

Fig.100　15区Ｈ－５号住居跡



15区　H－6号住居跡　P5セクション
1　暗褐　△○　As-C・Hr-FP（わずか）
焼土粒　炭粒

15区　H－6号住居跡　竈セクション
1　褐　○○　As-C・Hr-FP（φ1㎜・1％）
2　暗褐　○○　As-C・Hr-FP（わずか）　焼土粒　炭
3　暗褐　○○　灰層　焼土粒
4　暗褐　○○　焼土粒

15区　H－6号住居跡柱穴計測表

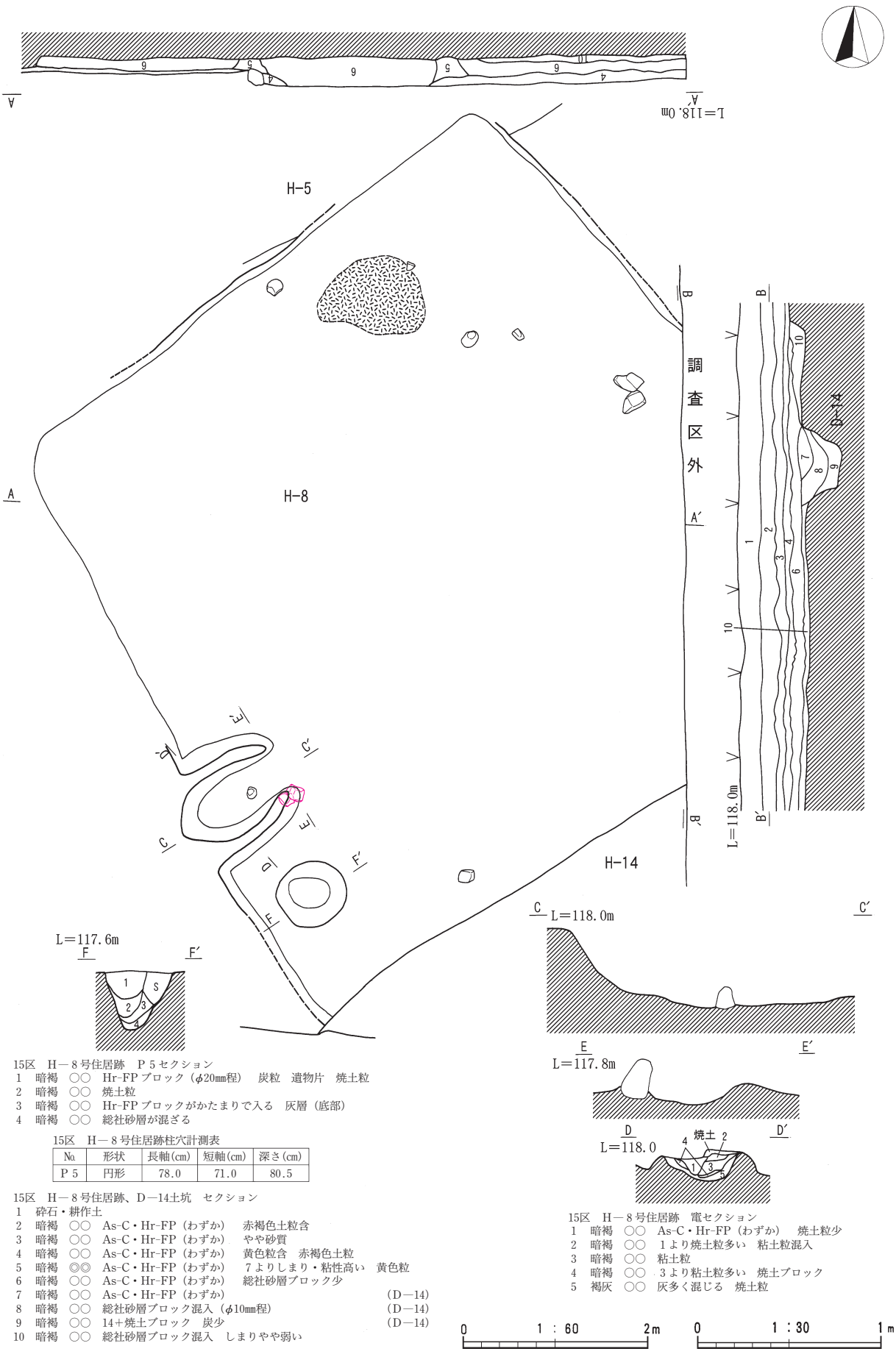
No.	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
P5	円形	48.0	43.0	10.0

15区　H－6号住居跡　セクション
1　暗褐　△○　As-C・Hr-FP（わずか）　焼土粒少　砂質が強い

15区　H－7号住居跡　セクション
1　耕作土
2　床土
3　褐　○○
4　暗褐　○○　As-C・Hr-FP（φ1㎜・1％）　床土が混じりやや硬化
5a　褐　○○　As-C・Hr-FP（わずか）　鉄分含む
5b　褐　○○　5aよりAs-C・Hr-FP多い
6　暗褐　○○　As-C・Hr-FP（φ1㎜・1％）　黒褐色土ブロック混じる　黄色粒多い
7　暗褐　○○　As-C・Hr-FP（わずか）
8　暗褐　○○　As-C・Hr-FP（φ1㎜・1％）　炭　焼土粒
9　暗褐　○○　As-C・Hr-FP（わずか）　総社砂層ブロック混じる

15区　H－12・13号住居跡　セクション
1　砕石・耕作土
2　床土
3　暗褐　○○　As-C・Hr-FP（わずか）　赤褐色土粒含
4　暗褐　○○　As-C・Hr-FP（わずか）　やや砂質
5　暗褐　○○　As-C・Hr-FP（わずか）　黄色粒含
6　暗褐　○○　φ30㎜程の黄色ブロック　焼土粒
7　暗褐　○○　As-C・Hr-FP（φ1㎜・1％）　黄色粒
8　褐　△○　As-C・Hr-FP（わずか）　焼土粒　しまりやや弱い
9　褐　○○　焼土ブロック　灰
10　褐　○○　14とほぼ同じだが焼土なし
11　暗褐　○○　As-C・Hr-FP（φ2㎜・1％）　13より軽石粒が大きくなる
12　暗褐　○○　As-C・Hr-FP（わずか）　焼土粒まばら
13　暗褐　○○　底部に炭　灰層

Fig.101　15区H－6・7・9・13号住居跡



15区　H－8号住居跡　P5セクション
1　暗褐　○○　Hr-FPブロック（φ20㎜程）　炭粒　遺物片　焼土粒
2　暗褐　○○　焼土粒
3　暗褐　○○　Hr-FPブロックがかたまりで入る　灰層（底部）
4　暗褐　○○　総社砂層が混ざる

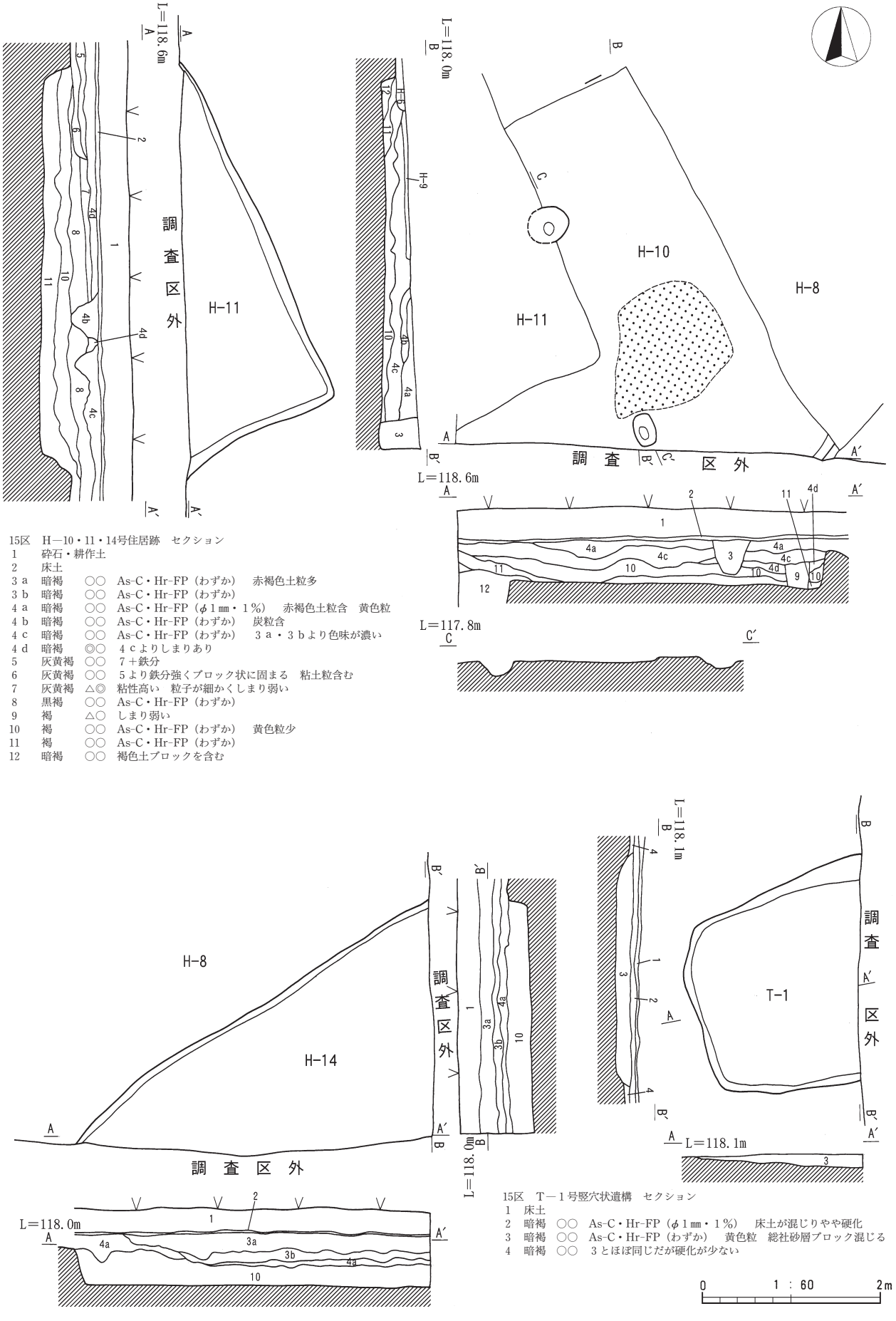
15区　H－8号住居跡柱穴計測表

No.	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
P5	円形	78.0	71.0	80.5

15区　H－8号住居跡、D－14土坑　セクション
1　砕石・耕作土
2　暗褐　○○　As-C・Hr-FP（わずか）　赤褐色土粒含
3　暗褐　○○　As-C・Hr-FP（わずか）　やや砂質
4　暗褐　○○　As-C・Hr-FP（わずか）　黄色粒含　赤褐色土粒
5　暗褐　◎◎　As-C・Hr-FP（わずか）　7よりしまり・粘性高い　黄色粒
6　暗褐　○○　As-C・Hr-FP（わずか）　総社砂層ブロック少
7　暗褐　○○　As-C・Hr-FP（わずか）　（D－14）
8　暗褐　○○　総社砂層ブロック混入（φ10㎜程）　（D－14）
9　暗褐　○○　14＋焼土ブロック　炭少　（D－14）
10　暗褐　○○　総社砂層ブロック混入　しまりやや弱い

15区　H－8号住居跡　竈セクション
1　暗褐　○○　As-C・Hr-FP（わずか）　焼土粒少
2　暗褐　○○　1より焼土粒多い　粘土粒混入
3　暗褐　○○　粘土粒
4　暗褐　○○　3より粘土粒多い　焼土ブロック
5　褐灰　○○　灰多く混じる　焼土粒

Fig.102　15区H－8号住居跡



15区　H－10・11・14号住居跡　セクション

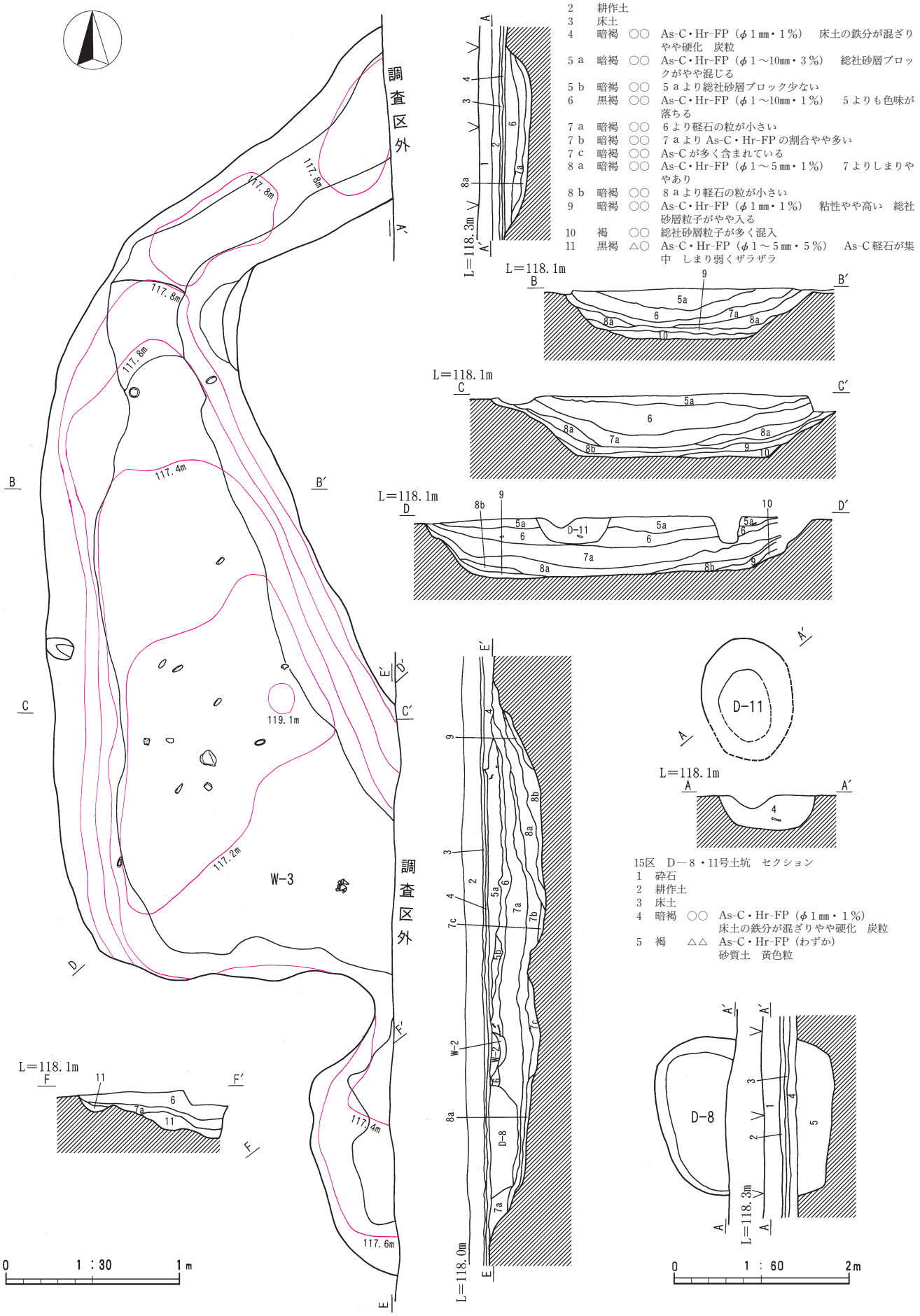
1	砕石・耕作土		
2	床土		
3 a	暗褐	○○	As-C・Hr-FP（わずか）　赤褐色土粒多
3 b	暗褐	○○	As-C・Hr-FP（わずか）
4 a	暗褐	○○	As-C・Hr-FP（φ1㎜・1％）　赤褐色土粒含　黄色粒
4 b	暗褐	○○	As-C・Hr-FP（わずか）　炭粒含
4 c	暗褐	○○	As-C・Hr-FP（わずか）　3 a・3 bより色味が濃い
4 d	暗褐	◎○	4 cよりしまりあり
5	灰黄褐	○○	7＋鉄分
6	灰黄褐	○○	5より鉄分強くブロック状に固まる　粘土粒含む
7	灰黄褐	△◎	粘性高い　粒子が細かくしまり弱い
8	黒褐	○○	As-C・Hr-FP（わずか）
9	褐	△○	しまり弱い
10	褐	○○	As-C・Hr-FP（わずか）　黄色粒少
11	褐	○○	As-C・Hr-FP（わずか）
12	暗褐	○○	褐色土ブロックを含む

15区　T－1号竪穴状遺構　セクション

1	床土		
2	暗褐	○○	As-C・Hr-FP（φ1㎜・1％）　床土が混じりやや硬化
3	暗褐	○○	As-C・Hr-FP（わずか）　黄色粒　総社砂層ブロック混じる
4	暗褐	○○	3とほぼ同じだが硬化が少ない

0　1：60　2m

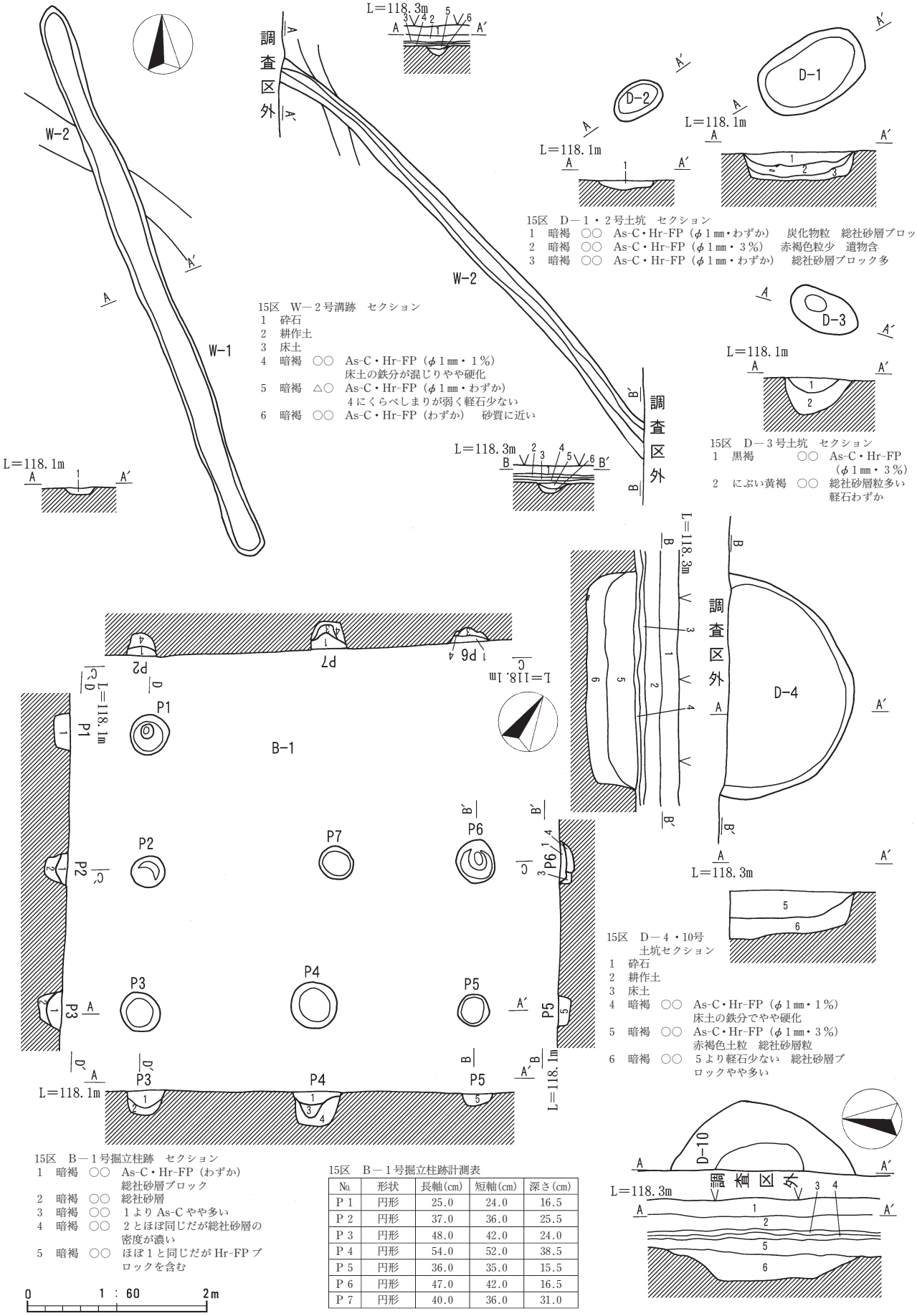
Fig.103　15区H－10・11・14号住居跡、T－1号竪穴状遺構



15区　W－３号溝跡　セクション
1　砕石
2　耕作土
3　床土
4　暗褐　○○　As-C・Hr-FP（φ１㎜・１％）　床土の鉄分が混ざりやや硬化　炭粒
5ａ　暗褐　○○　As-C・Hr-FP（φ１～10㎜・３％）　総社砂層ブロックがやや混じる
5ｂ　暗褐　○○　５ａより総社砂層ブロック少ない
6　黒褐　○○　As-C・Hr-FP（φ１～10㎜・１％）　５よりも色味が落ちる
7ａ　暗褐　○○　６より軽石の粒が小さい
7ｂ　暗褐　○○　７ａより As-C・Hr-FP の割合やや多い
7ｃ　暗褐　○○　As-C が多く含まれている
8ａ　暗褐　○○　As-C・Hr-FP（φ１～５㎜・１％）　７よりしまりややあり
8ｂ　暗褐　○○　８ａより軽石の粒が小さい
9　暗褐　○○　As-C・Hr-FP（φ１㎜・１％）　粘性やや高い　総社砂層粒子がやや入る
10　褐　○○　総社砂層粒子が多く混入
11　黒褐　△○　As-C・Hr-FP（φ１～５㎜・５％）　As-C 軽石が集中　しまり弱くザラザラ

15区　D－８・11号土坑　セクション
1　砕石
2　耕作土
3　床土
4　暗褐　○○　As-C・Hr-FP（φ１㎜・１％）　床土の鉄分が混ざりやや硬化　炭粒
5　褐　△△　As-C・Hr-FP（わずか）　砂質土　黄色粒

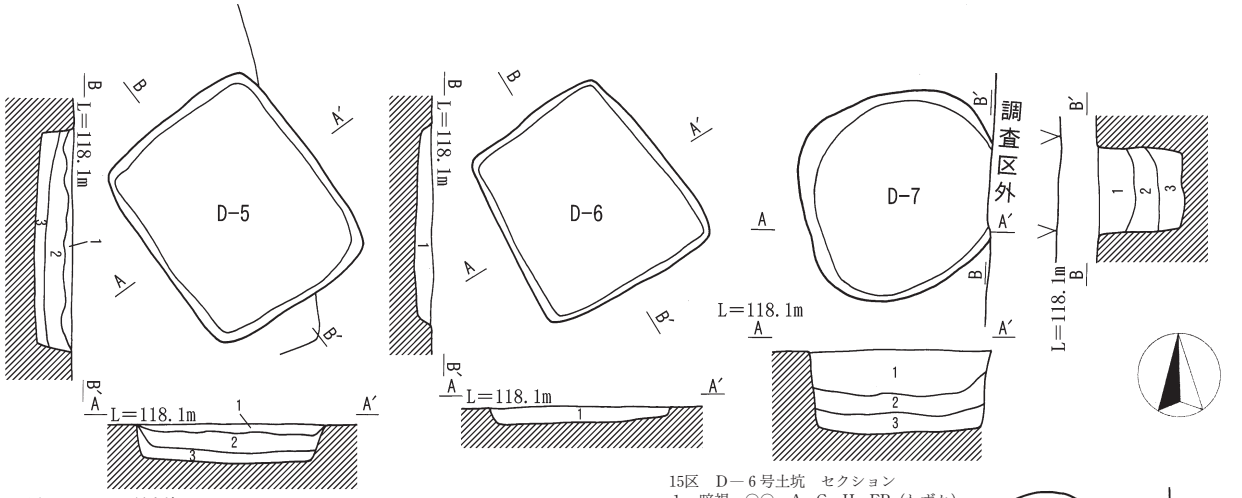
Fig.104　15区W－３号溝跡、D－８・11号土坑



15区　B－1号掘立柱跡計測表

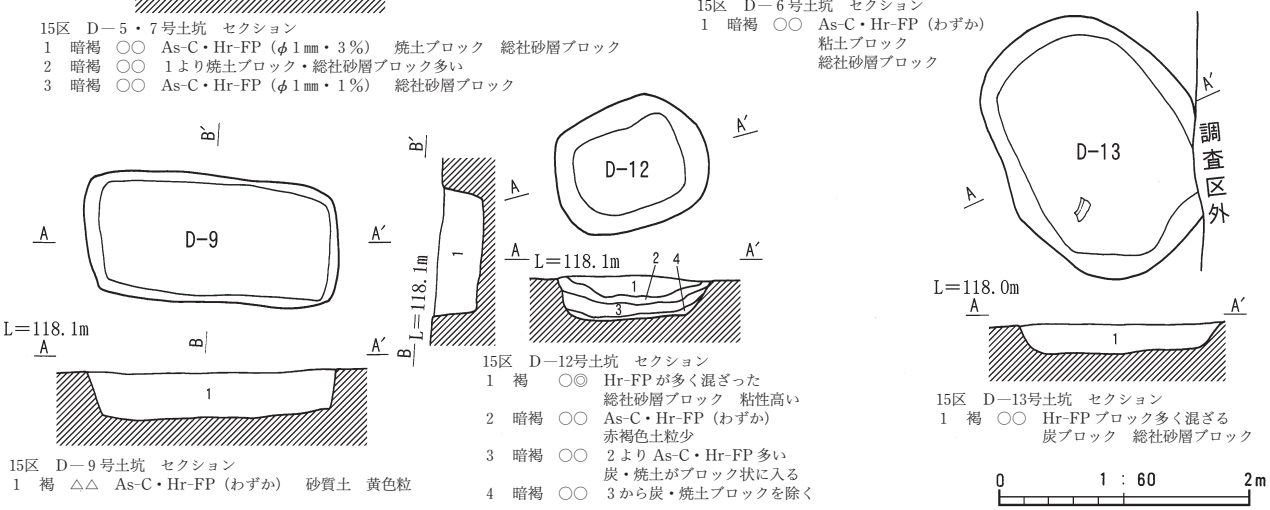
No.	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
P 1	円形	25.0	24.0	16.5
P 2	円形	37.0	36.0	25.5
P 3	円形	48.0	42.0	24.0
P 4	円形	54.0	52.0	38.5
P 5	円形	36.0	35.0	15.5
P 6	円形	47.0	42.0	16.5
P 7	円形	40.0	36.0	31.0

Fig.105　15区W－1・2号溝跡、B－1号掘立柱跡、D－1～4・10号土坑



15区　D－5・7号土坑　セクション
1　暗褐　○○　As-C・Hr-FP（φ1㎜・3％）　焼土ブロック　総社砂層ブロック
2　暗褐　○○　1より焼土ブロック・総社砂層ブロック多い
3　暗褐　○○　As-C・Hr-FP（φ1㎜・1％）　総社砂層ブロック

15区　D－6号土坑　セクション
1　暗褐　○○　As-C・Hr-FP（わずか）
粘土ブロック
総社砂層ブロック



15区　D－9号土坑　セクション
1　褐　△△　As-C・Hr-FP（わずか）　砂質土　黄色粒

15区　D－12号土坑　セクション
1　褐　○◎　Hr-FPが多く混ざった
総社砂層ブロック　粘性高い
2　暗褐　○○　As-C・Hr-FP（わずか）
赤褐色土粒少
3　暗褐　○○　2よりAs-C・Hr-FP多い
炭・焼土がブロック状に入る
4　暗褐　○○　3から炭・焼土ブロックを除く

15区　D－13号土坑　セクション
1　褐　○○　Hr-FPブロック多く混ざる
炭ブロック　総社砂層ブロック

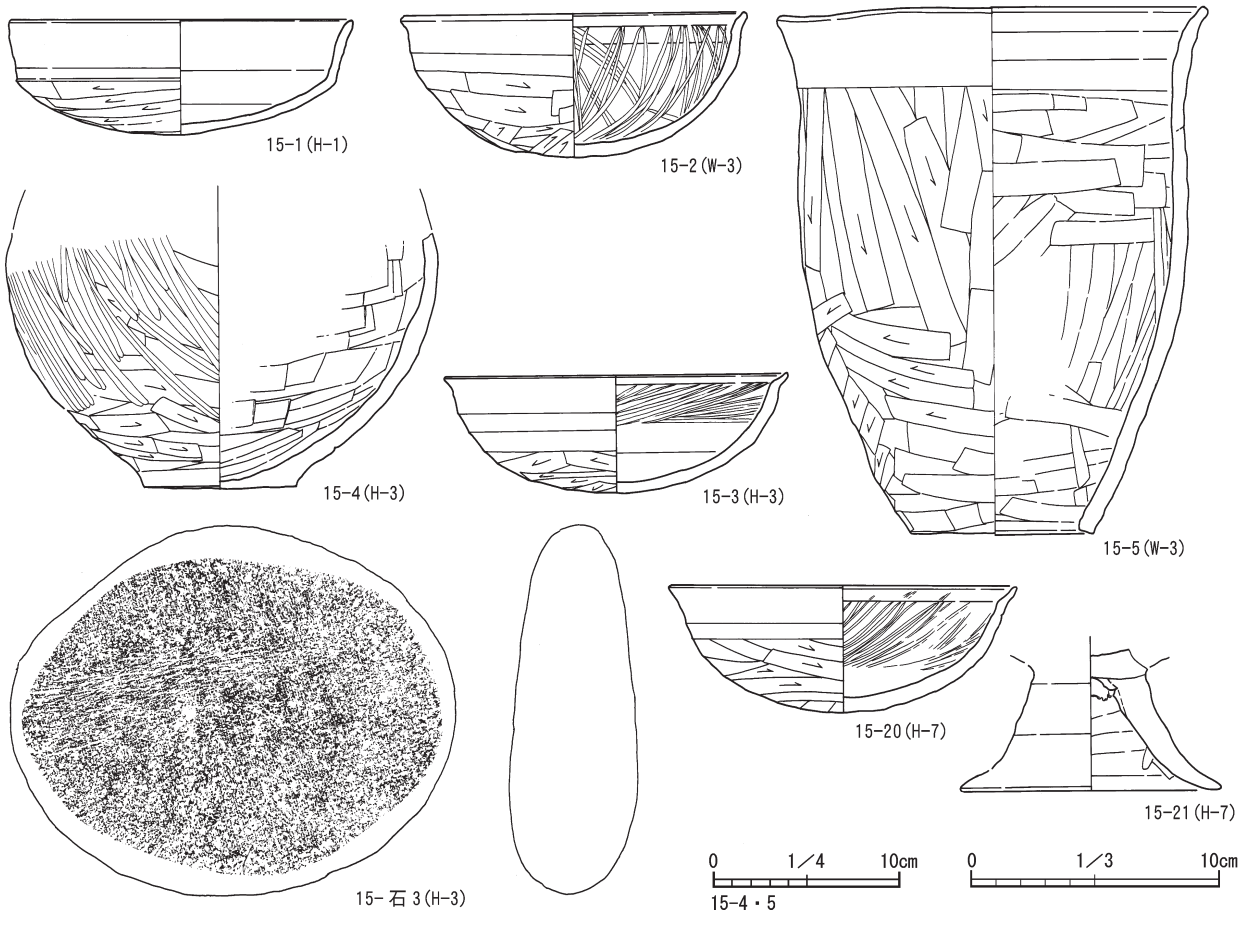


Fig.106　15区D－5～7・9・12・13号土坑、H－1・3・7号住居跡出土遺物

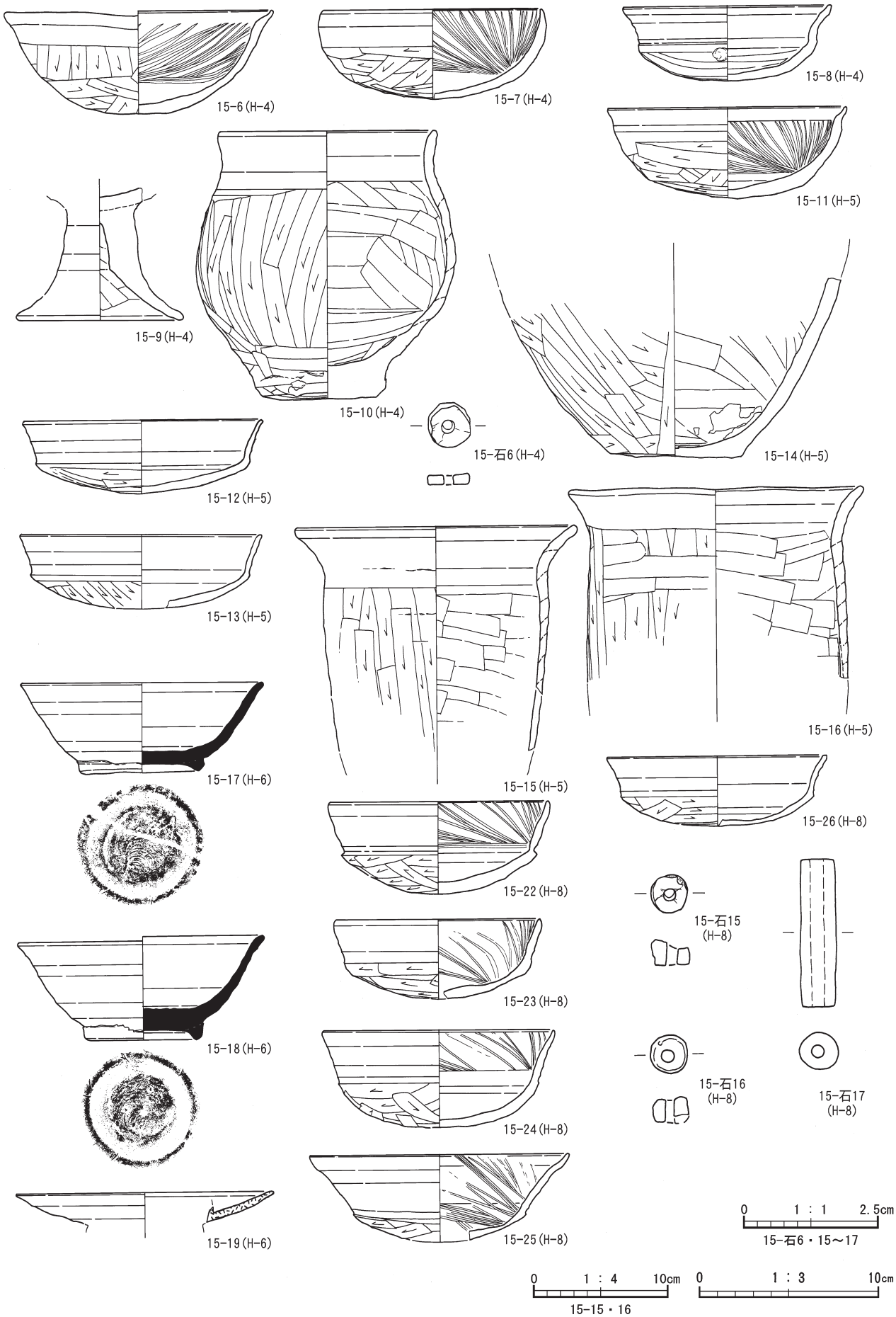


Fig.107　15区Ｈ－４～６・８号住居跡出土遺物

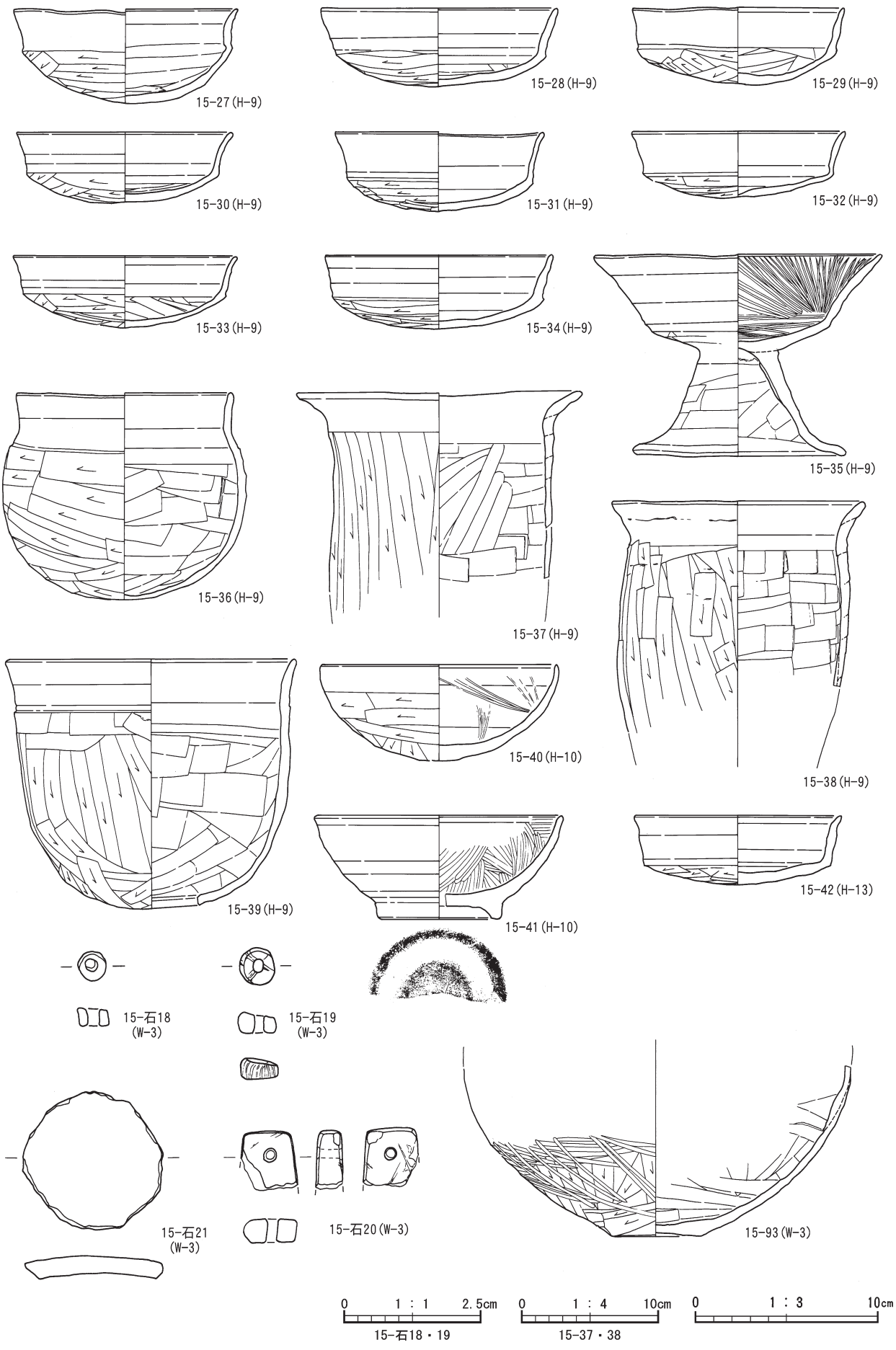


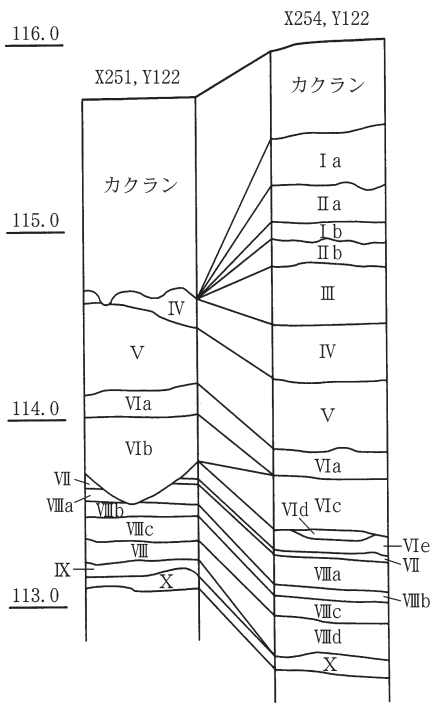
Fig.108　15区H－9・10・13号住居跡、W－3号溝跡出土遺物

16区

調査区の概要

本調査区は、牛池川が総社中学校の南で大きく南に流路を変えた下流約90mの地点で、牛池川の左岸あたる。東の台地との比高差は大きく約４ｍを測る。調査地は牛池川の氾濫原にあたり、砂礫の堆積・侵食により複雑な堆積状況を示す。

検出された遺構は竪穴住居跡１軒及びHr-FAに被覆された水田跡が確認・調査された。



16区　基本層序

Ⅰａ層　暗褐色土　Hr-FP中量不均質に混入する層。
Ⅱａ層　にぶい黄褐色土　Hr-FP（粗粒）。
Ⅰｂ層　暗褐色土　Hr-FP中量不均質に混入する層。
Ⅱｂ層　にぶい黄褐色土　Hr-FP（粗粒）。
Ⅲ層　灰褐色土　シルト質土。ラミナ発達。２層との境に厚さ２㎜の黒ボク土層あり。
Ⅳ層　褐灰色土　砂質土。Hr-FP点在
Ⅴ層　にぶい黄褐色土　シルト質土。ラミナ発達（水平堆積）粗粒堆積土中には班鉄が認められる粒度は層上位より下位にかけて細粒から粗粒へと変化。
Ⅵ層　主としてHr-FPで構成される層。
　ａ層　褐色色土　砂層。ラミナは認められない。構成する砂は細粒から中粗粒。
　ｂ層　にぶい黄褐色土　Hr-FP（粗粒）を多量混入。
　ｃ層　にぶい黄褐色土　Hr-FP（粗粒）を多量混入。
　ｄ層　にぶい黄褐色土　砂質土。ラミナ発達。
　ｅ層　にぶい黄褐色土　砂質土。粗粒。
Ⅶ層　灰黄褐色土　水成堆積の粘質土。
Ⅷ層　主としてHr-FPで構成される層。
　ａ層　暗褐色土　砂質土。中～粗粒。
　ｂ層　灰黄褐色土　砂質土。細～中粒。
　ｃ層　にぶい黄褐色土
　ｄ層　灰黄褐色土　ｃ層に酷似。砂質土。中～粗粒。ｃ層よりHr-FPの粒度大きい。
Ⅸ層　褐色土　Hr-FP点在
Ⅹ層　Hr-FAの降下堆積層　ラミナを呈することはないが、褐色・にぶい黄褐色・灰黄褐色の色調を順次呈するやや乱れた層序をなす。掘削当初は還元状態であり、鮮やかな青紫色を呈していたが、酸化して褐灰色に変化した。水田は本層によって被覆される。

※Ｈ－１はⅡａ層を掘り込み床面はⅢ層に達する。

Fig.109　16区基本層序

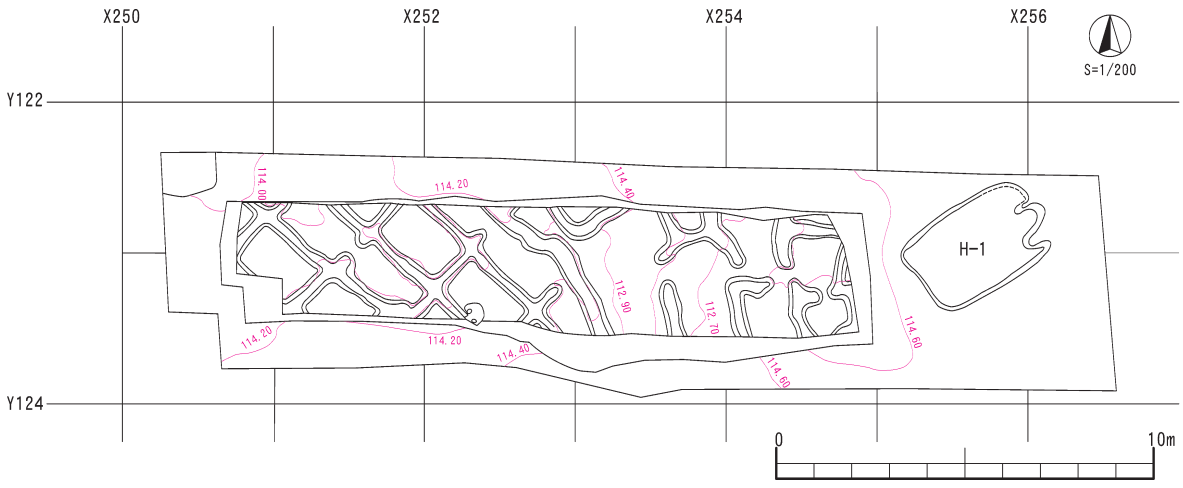
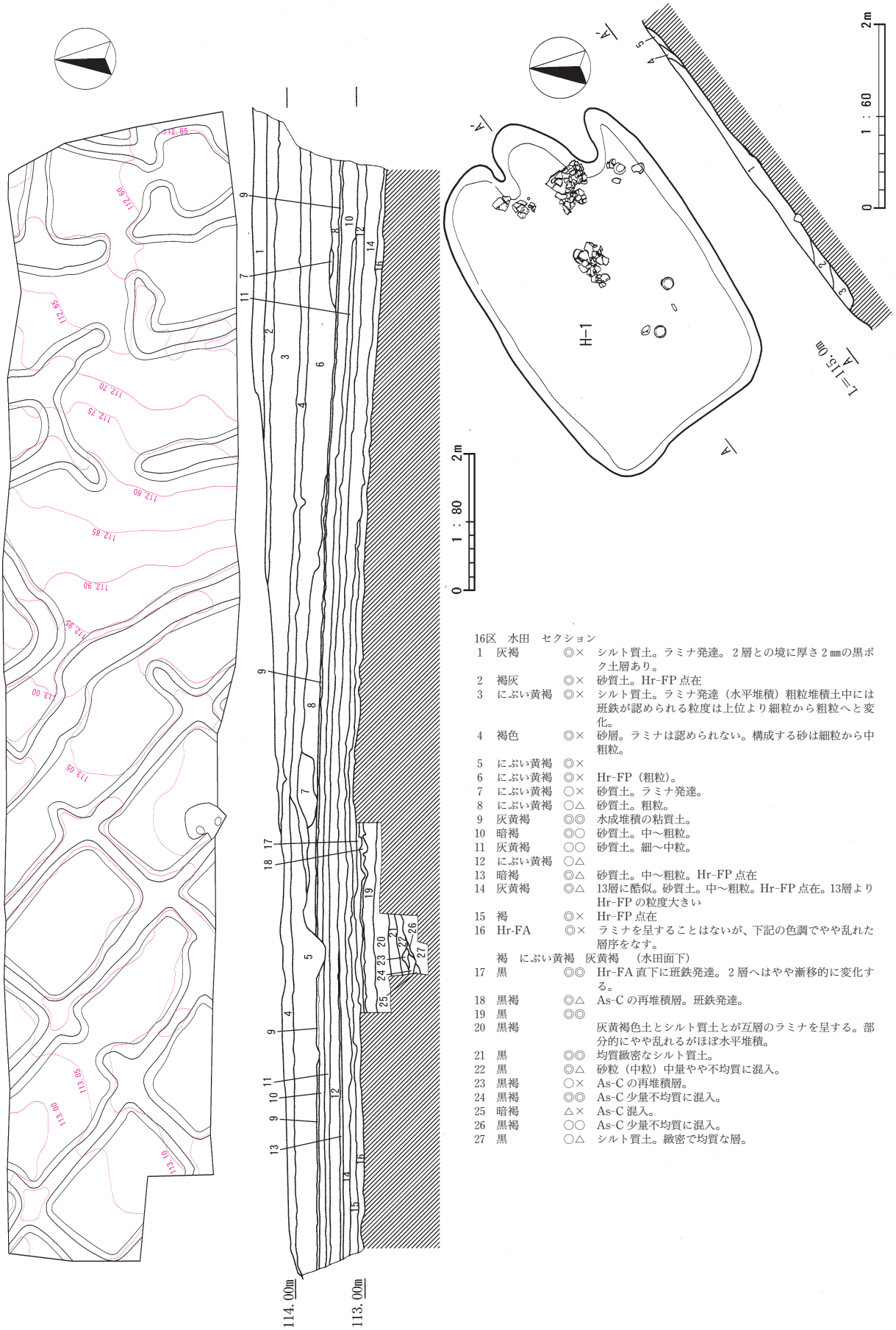


Fig.110　16区全体図



16区　水田　セクション

1	灰褐	◎×	シルト質土。ラミナ発達。2層との境に厚さ2㎜の黒ボク土層あり。
2	褐灰	◎×	砂質土。Hr-FP 点在
3	にぶい黄褐	◎×	シルト質土。ラミナ発達（水平堆積）粗粒堆積土中には班鉄が認められる粒度は上位より細粒から粗粒へと変化。
4	褐色	◎×	砂層。ラミナは認められない。構成する砂は細粒から中粗粒。
5	にぶい黄褐	◎×	
6	にぶい黄褐	◎×	Hr-FP（粗粒）。
7	にぶい黄褐	○×	砂質土。ラミナ発達。
8	にぶい黄褐	○△	砂質土。粗粒。
9	灰黄褐	◎◎	水成堆積の粘質土。
10	暗褐	◎○	砂質土。中～粗粒。
11	灰黄褐	○○	砂質土。細～中粒。
12	にぶい黄褐	○△	
13	暗褐	◎△	砂質土。中～粗粒。Hr-FP 点在
14	灰黄褐	◎△	13層に酷似。砂質土。中～粗粒。Hr-FP 点在。13層より Hr-FP の粒度大きい
15	褐	◎×	Hr-FP 点在
16	Hr-FA	◎×	ラミナを呈することはないが、下記の色調でやや乱れた層序をなす。
	褐　にぶい黄褐　灰黄褐　（水田面下）		
17	黒	◎◎	Hr-FA 直下に班鉄発達。2層へはやや漸移的に変化する。
18	黒褐	◎△	As-C の再堆積層。班鉄発達。
19	黒	◎◎	
20	黒褐		灰黄褐色土とシルト質土とが互層のラミナを呈する。部分的にやや乱れるがほぼ水平堆積。
21	黒	◎◎	均質緻密なシルト質土。
22	黒	◎△	砂粒（中粒）中量やや不均質に混入。
23	黒褐	○×	As-C の再堆積層。
24	黒褐	◎◎	As-C 少量不均質に混入。
25	暗褐	△×	As-C 混入。
26	黒褐	○○	As-C 少量不均質に混入。
27	黒	○△	シルト質土。緻密で均質な層。

Fig.111　16区H－1号住居跡、Hr—FA 下水田跡

⑴ 竪穴住居跡

Ｈ－１号住居跡（Fig.111、PL.34・35）

位置　X255・256、Y122・123グリッド　**主軸方向**　N－53°－E　**形状等**　東西3.74m、南北2.56m、壁現高13㎝　**面積**　8.30㎡　**床面**　ほぼ平坦である。　**竈**　主軸方向N－54°－E、全長104㎝、最大幅136㎝、焚口部幅56㎝　**出土遺物**　土師器、須恵器　**時期**　6世紀後半

⑵ 水田跡

Hr-FA 下水田跡（Fig.111、PL.34・35）

位置　X250～255、Y122～123グリッド　**長軸方向**　N－230°－W　**形状等**　形状及び規模が確認できる区画は6つあり、長軸長×短軸長がそれぞれ2.0×1.4m、2.0×1.2m、2.1×1.4m、2.2×1.2m、1.8×1.4m、2.1×1.4mの正区小区画水田である。　**備考**　X250～252、Y122・123グリッドでは比較的整然と畦畔が3列確認できる。東で畦畔の形状は乱れ等高線も東に向かって緩やかに傾斜する。畦畔が全く確認できない訳ではないので、水田として復旧する以前の状態か、何らかの事情で放棄された区域かもしれない。

Tab.66　16区　住居跡一覧表

遺構名	位置	規模（m）			面積（㎡）	主軸方向	竈		周溝	主な出土遺物		
		東西	南北	壁現高(㎝)			位置	構築材		土師器	須恵器	その他
Ｈ－１	X255・256 Y122・123	3.74	2.56	13.0	8.30	N－53°－E	東壁中央	粘土		○	○	

Tab.67　16区　古墳・奈良・平安時代出土土器観察表

番号	出土遺構 層　位	器種名	①口径　②器高 ③底径	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備　考
16－1	Ｈ－１	土師器 坏	①12.2　②4.0 ③—	①粗粒、内面剝離有 ②良好 ③2.5YR6/6橙 ④完形	口縁と底部の境に稜を有する。口縁部：ほぼ直立、内外面横撫で。外面篦削り。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。	1	
16－2	Ｈ－１	土師器 坏	①12.1　②4.3 ③—	①中粒　②良好 ③5YR6/6橙　④4/5	口縁・体部：外傾、内外面横撫で。外面篦削り。底部：丸底。内外面横撫で。外面篦削り。	3	酸化焔
16－3	Ｈ－１	土師器 坏	①12.2　②3.7 ③—	①中粒　②良好 ③7.5YR7/6橙 ④ほぼ完形	口縁と底部の境に稜を有する。口縁部：ほぼ直立、内外面横撫で。外面篦削り。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。	9、10、 11、12	酸化焔
16－4	Ｈ－１	土師器 坏	①12.0　②4.5 ③—	①中粒　②良好 ③5YR7/6橙　④3/4	口縁・体部：外傾、内外面横撫で。外面篦削り。底部：丸底。内外面横撫で。外面篦削り。	8	酸化焔
16－5	Ｈ－１	土師器 鉢	①19.4　②8.5 ③—	①粗粒　②良好 ③5YR7/6橙　④9/10	口縁部：内傾、内外面撫で。胴部：丸みを帯びている、内面篦削りと撫で、外面篦削り。外面上位に煤と赤く焼け爛れた痕跡有。	13、14	
16－6	Ｈ－１	土師器 長胴甕	①22.0　②37.0 ③—	①粗粒　②良好 ③2.5YR5/8明赤褐 ④1/2	口縁部：器最大径、外反、内・外面撫で。胴部・底部：内外面撫で。外面篦削り。	7	
16－7	Ｈ－１	土師器 甕	①(21.0)　②15.5 ③—	①粗粒　②良好 ③5YR6/4にぶい橙 ④口縁部胴中位1/3	口縁部：外反。内・外面撫で。外面篦削り。砂粒含む。胴部：内・外面撫で。外面篦削り。砂粒含む。胴部中位以下欠損。	11	
16－8	Ｈ－１	須恵器 甕	①(16.2)　②[26.4] ③—	①粗粒　②良好 ③7.5YR7/2明褐灰 ④2/3	轆轤整形。口縁部：ほぼ欠損、内外面轆轤撫で。胴部：中位器最大径。内外面轆轤撫で、一部叩き痕有り、中位に断面四角形の摘み有り。底部：一部欠損。内面轆轤撫で、外面篦削り調整。	5	酸化焔焼成気味
16－9	水田 直下 覆土	土師器 坏	①(4.7)　②(6.9) ③—	①中粒　②良好 ③5YR6/4にぶい橙 ④破片	轆轤整形。口縁部：欠損。胴部下位：内・外面撫で。底部：平底。		酸化焔焼成

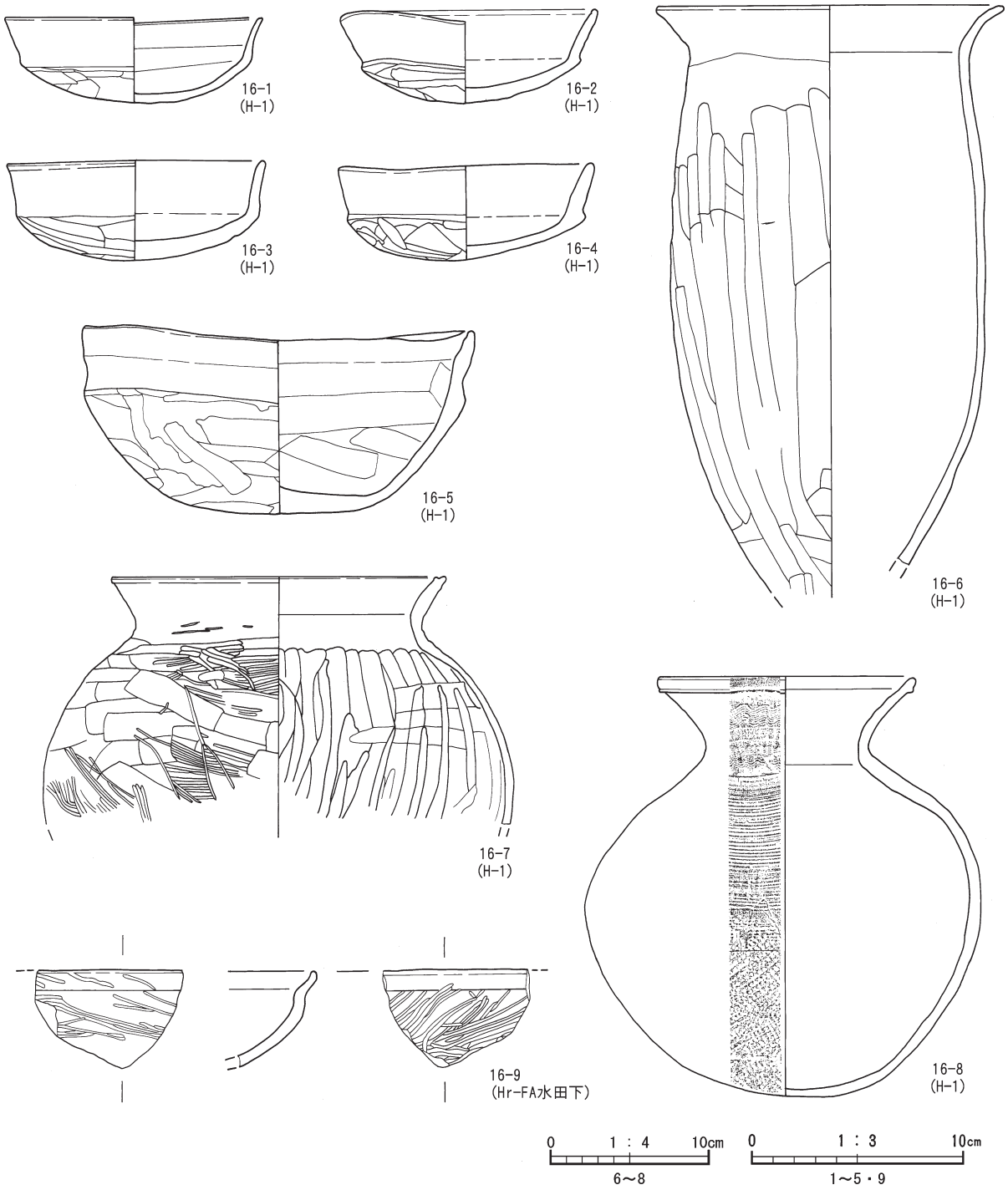


Fig.112　16区H－1号住居跡、Hr—FA 下水田跡出土遺物

Ⅴ　ま　と　め

1　前方後方形周溝墓について

本遺構は、元総社蒼海遺跡群(38)15区の北側、W―３号溝跡として名称をつけ調査した。このW―３号溝跡は浅間Ｃ軽石を多く含む緻密な黒色土が堆積していることやくびれ部の周溝と想定される曲線部があること、底面から４世紀代の甕形土器が出土したことから、前方後方形周溝墓の周溝の一部であると考えた。W―３号溝跡は周溝の北西部に当たると推定し、同じような規模の周溝を持つ前橋市富士見町原之郷の下庄司東原遺跡１号方形周溝墓を参考に復元してみるとFig.113のようになり、方台部の全長18.00m、後方部最大幅10.00m、前方部最大幅6.00m、くびれ部幅3.00mとなる。周溝を含めた全体の規模は東西19.00m、南北22.00mとなる。

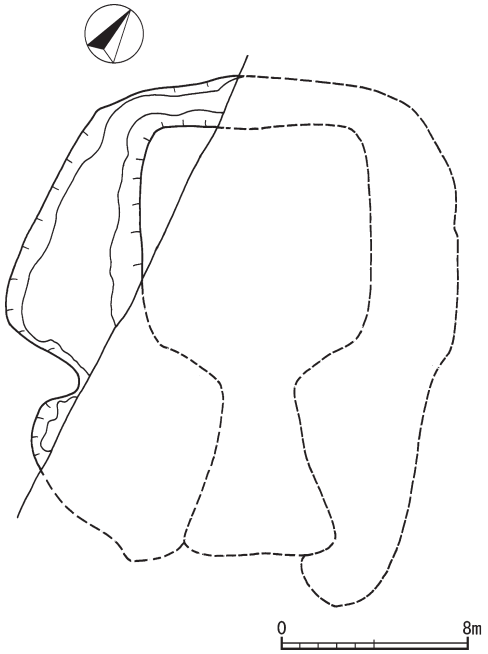


Fig.113　前方後方形周溝墓模式図

前方後方形周溝墓は、群馬県内では下佐野Ⅰ遺跡、鈴ノ宮遺跡、元島名遺跡、熊野堂Ⅱ遺跡、矢中村東遺跡(以上、高崎市)、堀ノ内遺跡（藤岡市)、伊勢崎・東流通団地遺跡（伊勢崎市)、屋敷内Ｂ遺跡（太田市)、下郷遺跡（玉村町）などで、前橋市内では、堤東遺跡（荒子町)、中山Ａ遺跡、東原Ｂ遺跡（以上、下大屋町)、富田高石遺跡（富田町)、内堀遺跡群上縄引遺跡（西大室町)、下庄司東原遺跡（富士見町原之郷）などで確認されている。前橋市内で確認された主な前方後方形周溝墓の規模はTab.68のとおりである。多くの前方後方形周溝墓の周溝外形が不整楕円形であるのに対して、下庄司東原遺跡１号周溝墓や東原Ｂ遺跡２号周溝墓は周溝外形にはくびれ部が存在しており、周溝外形が前方後方形になっている堀ノ内遺跡CK―２号に近い形状となっている。

Tab.68　前橋市内の主な前方後方形周溝墓の規模

	方台部(m)				周溝を含めた規模(m)	
	全長	後方部幅	前方部幅	くびれ部幅	長軸長	短軸長
本例	(18.00)	(10.00)	(6.00)	(3.00)	(22.00)	(19.00)
堤東２号周溝墓	25.00	14.50	6.50	3.30	30.00	24.00
中山Ａ１号周溝墓	15.00	8.00	4.00	2.00	19.40	15.10
東原Ｂ１号周溝墓	16.00	10.00	4.50	2.50	20.50	17.00
東原Ｂ２号周溝墓	16.00	9.80	6.20	2.50	18.00	18.00
東原Ｂ14号周溝墓	12.60	8.60	3.10	2.80	18.00	15.60
東原Ｂ16号周溝墓	11.90	8.60	2.90	1.30	17.60	16.20
富田高石３号周溝墓	23.40	13.20	5.40	3.67	26.66	(18.00)
下庄司東原１号周溝墓	18.80	9.60	5.50	2.90	20.70	14.40

2　古墳時代後期の祭祀跡について

(1)　概要

W―3号溝跡の南東部から大量の土器が出土した。これらの土器は東西1.90m×南北0.90mの長方形内に配置されており、あたかも木枠に収められていた状態を示していた。周辺の竪穴住居跡もほぼ同時期の土器を使用していることから、これらの集落に係わる祭祀跡と考えられる。なお、祭祀跡では土坑状の掘り込みや土壇状の高まりは確認できなかった。

本遺構から検出された土器は土師器の坏、椀、高坏、甕、鉢、坩、甑のほか、須恵器甕である。平面的な分布は、長方形の外周に大型の器形が置かれ、内側には小型の器形が重ねられて置かれていた。中央部では土師器坏が6つ重ねられた状態で置かれていた。垂直分布では、ほぼ1層に集約できると考えられ、外周の大型の土器の高さを越えて積み上げられている様子はなかった。完形や完形に近い遺物が多い中、接合により復元できた遺物も数点あった。そのほとんどが近接する地点から出土した破片同士で接合できたが、大型の器形の中には離れた地点から出土した土器片が接合する状況があった。これは破片を散布したというよりも後世の耕作による破損と想定した方が自然である。

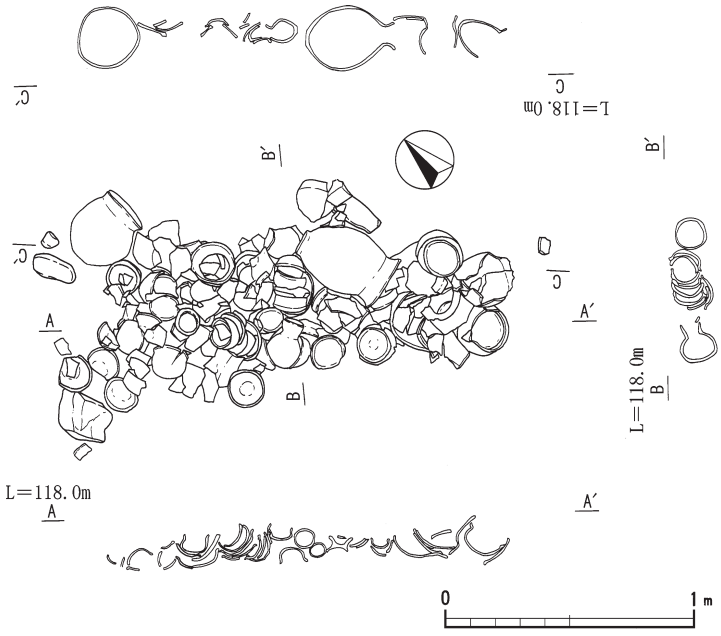


Fig.114　祭祀跡遺物出土状態

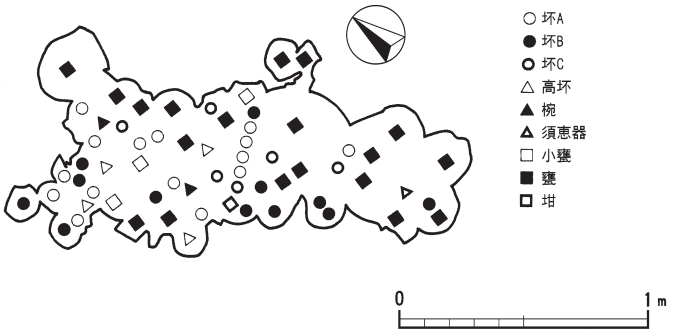


Fig.115　器種別出土状態

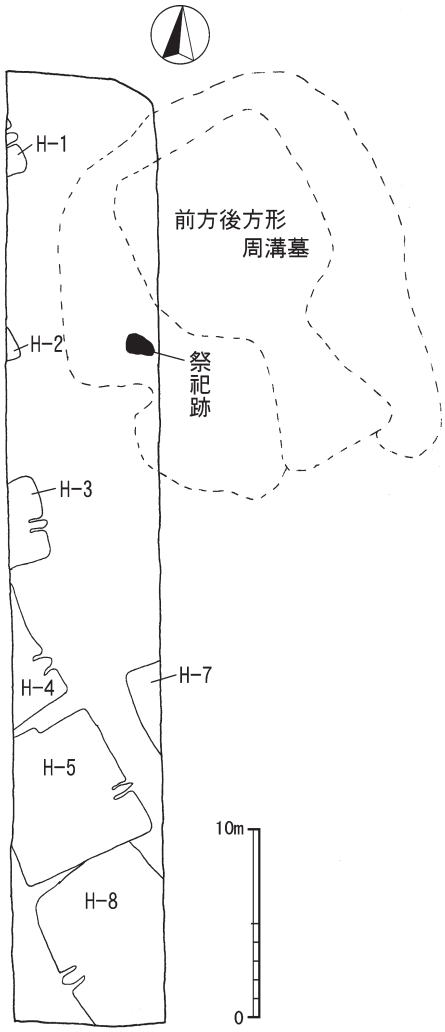


Fig.116　祭祀跡と住居跡

完形の土器や土器片を含めて、№をつけて取り上げた遺物は1,208点に及び、遺物洗浄、接合の整理作業を通して、器種が明確に判別できたものは100点に及んだ。その内訳はTab.69のとおりである。なお、土師器坏

については Tab.70のとおり 3 つに分類した。

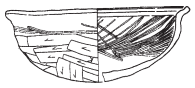
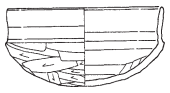
本遺構と同様の規模の祭祀跡としては高崎市箕郷町の下芝五反田遺跡 1 号土器集積が東西1.80m×南北1.1m、少し大きくなると高崎市寺尾町の寺尾東館Ⅰ遺跡 1 号祭祀が東西1.80m×南北2.00mとなる。なお、大規模な祭祀跡としては高崎市箕郷町の下芝天神遺跡 3 区器物集積遺構が知られており、その規模は東西10m、南北 5 mで2474個体の土器が検出された。

土器の出土量は、下芝五反田遺跡 1 号土器集積と比べてみてもそれほどの差はないが、石製模造品の数が少ない。Tab.69の「出土遺物の比率」は他の祭祀跡と大差はない。

Tab.69　祭祀跡出土遺物の内訳と比率

		完形・復元	口縁片	計	比率(%)
土師器	坏　A	21	15	36	20.5
	坏　B	25	26	51	28.9
	坏　C	10	7	17	9.7
	椀	3	0	3	1.7
	高　坏	17	1	18	10.2
	坩	1	0	1	0.6
	甑	1	0	1	0.6
	鉢	1	0	1	0.6
	甕	20	22	42	23.8
須恵器甕		1	5	6	3.4
土器計		100	74	176	100.0
臼玉		2	0	2	—
計		102	76	178	—

Tab.70　坏の分類

坏A	内湾口縁
坏B	内斜口縁 
坏C	須恵器模倣坏 

Tab.71　各遺跡の祭祀跡出土遺物

	土師器									須恵器	臼玉	計
	坏A	坏B	坏C	椀	高坏	坩	甑	鉢	甕			
蒼海（38）15区	36	51	17	3	18	1	1	1	42	6	2	176
寺尾東館Ⅰ遺跡	63	102	27	0	50	0	0	3	33	9	2,000	2,287
下芝五反田遺跡	39	18	2	0	3	0	0	6	6	0	44	118
下芝天神遺跡	799	881	61	0	261	64	0	75	139	6	302	2,588

⑵　土器の分類

本遺構出土土器の分類は以下の通りである。

①土師器坏…口縁の形態によって、 3 つに分類した。口縁部が内側に曲がる内湾口縁坏(坏A)、短い口唇部が外に開く内斜口縁杯（坏B)、須恵器坏蓋を模倣した模倣坏（坏C）である。坏Aは平均口径12.3㎝、平均器高5.5㎝の大きさである。なかには、Fig.117の47のように口径が11.1㎝、器高が6.2㎝と内椀がやや強く深さが目立つものがあった。内面に放射状暗文を施したものが大部分である。坏Bは平均口径13.5㎝、平均器高5.7㎝の大きさである。なかには、Fig.117の60のように口径が16.1㎝、器高が8.2㎝と大型ものがあった。坏Aと同じく内面に放射状暗文を施したものが大部分である。坏Cは平均口径12.4㎝、平均器高5.9㎝の大きさである。坏Aや坏Bにあった内面の放射状暗文は施されていない。

②土師器椀…坏の中で口径に比べて器高が高いものを椀として分類した。Fig.119の78、82は器高／口径比（器高÷口径×100)が60.0を越えており、坏全体平均器高／口径比の44.3を大きく上回っていた。なお、Fig.119の79は器高/口径比がやや高く、底部が平底のため椀と分類した。

③土師器高坏…坏部が残存している 9 個体の全てが前項の坏Ｂを載せており、その大きさは平均口径14.2㎝、平均器高5.4㎝である。脚部の大きさは、平均脚高4.2㎝、平均裾径9.5㎝である。脚部は短く、裾部は外反して開くものが多い。なかには Fig.119の74のように坏部内面と脚部外面に篦みがきが施されているものもある。

④土師器甕…明確に判別できた20点のうち、底部のみの 4 点を除いた16点を器高と胴部の形態で 3 つに分類した。器高20㎝を境に小型甕と大型甕に分け、大型甕を胴部最大径と胴部長の比較（胴部最大径÷胴部長×100）から球胴甕（95以上）と長胴甕（95未満）に分けた。小型甕は 2 個体。Fig.119の80は最大径が胴下部にあり、81は胴部外面に刷毛目が残るのが特徴である。大型球胴甕は 5 個体。Fig.117･118の85と91は口縁が直立し、86は胴部外面に刷毛目が残るのが特徴である。大型長胴甕は 9 個体。Fig.119の90は胴上部が最大径となり、87は胴下部外面に刷毛目が残るのが特徴である。

⑤土師器鉢…口縁径が器形最大径となる Fig.119の92を鉢と分類した。

⑥土師器坩・土師器甑・須恵器甕…それぞれ 1 個体ずつの検出のため、詳細は Tab.72遺物観察表を参照のこと。

⑶　まとめ

古墳時代の日常生活用具である土器を使用した祭祀跡として、樹木祭祀跡が挙げられる。群馬県内では、渋川市の中筋遺跡、黒井峯遺跡、西組遺跡、宮田愛宕遺跡、宮田瘤ノ木遺跡が知られている。樹木祭祀跡の特徴は、樹木痕の根回りを中心に不整楕円形に祭祀具（土師器や石製模造品）が置かれることである。

本遺構は樹木祭祀跡とは性格を異にしており、下芝五反田遺跡や下芝天神遺跡の祭祀跡に近く、農耕集落内で祭祀が行われていたのである。その特徴は、土器の配置で、大型の器形を長方形の外周に配置し、小型の器形を中に入れている点が共通している。もう 1 つの特徴は、祭祀跡の周辺に竪穴住居跡と畠跡が検出されている点である。下芝五反田遺跡や下芝天神遺跡は 2 つの特徴を備えているが、本調査区の中では畠跡が確認できなかった。しかし、北西60ｍにある総社甲稲荷塚大道西Ⅲ・Ⅳ遺跡で本遺構と同じ年代の畠跡が確認されている事から農耕集落内祭祀として捉えることができる。今後、元総社蒼海遺跡群の発掘調査が進んでいくなかで、祭祀を行ったこの農耕集落の様子がより詳しく解明できるものと考える。

〈参考文献〉

群馬県埋蔵文化財調査事業団編　『富田高石遺跡』　群馬県埋蔵文化財調査事業団　2010年
近藤雅順・稲垣慎太郎編　『総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2003年
高橋一彦・近藤薫編　『総社甲稲荷塚大道西Ⅲ遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2002年
群馬県埋蔵文化財調査事業団編　『下芝五反田遺跡』　群馬県埋蔵文化財調査事業団　1998年
群馬県埋蔵文化財調査事業団編　『下芝天神遺跡・下芝上田屋遺跡』　群馬県埋蔵文化財調査事業団　1998年
小林　修編　『宮田愛宕遺跡』　勢多郡赤城村教育委員会　1998年
黒沢元夫編　『寺尾東館Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡』　高崎市教育委員会　1996年
堀口　修編　『宮田瘤ノ木遺跡』　勢多郡赤城村教育委員会　1995年
前原　豊・伊藤　良・戸所慎策編　『内堀遺跡群Ⅴ』　前橋市教育委員会　1993年
群馬県教育委員会編　『中山Ａ・東原Ａ・Ｂ』　群馬県教育委員会・荒砥北部遺跡群調査会　1992年
羽鳥政彦編　『陣場・庄司原古墳群』　富士見村教育委員会　1991年
群馬県埋蔵文化財調査事業団編　『研究紀要８』　群馬県埋蔵文化財調査事業団　1991年
石井克己・早田　勉・井川達雄編　『黒井峯遺跡発掘調査報告書』　北群馬郡子持村教育委員会　1990年
渋川市教育委員会編　『市内遺跡Ⅲ』　渋川市教育委員会　1990年
群馬県埋蔵文化財調査事業団編　『研究紀要４』　群馬県埋蔵文化財調査事業団　1987年
群馬県教育委員会編　『荒砥北原遺跡』　群馬県教育委員会　1986年
群馬県教育委員会編　『堤東遺跡』　群馬県教育委員会　1985年
藤岡市教育委員会編　『Ａ１　堀ノ内遺跡群』　藤岡市教育委員会　1982年

Tab.72　祭祀跡出土遺物観察表

番号	器種名	①口径　②器高 ③底径	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術
43	土師器 坏A	①[13.0]　②5.7 ③—	①細粒　②良好 ③橙　④1/2	口縁部：内湾口縁。内外面横なで。体部から底部：内面なで。放射状暗文をまばらに施す。外面斜位の篦削り。底部：丸底。
44	土師器 坏A	①12.2　②5.6 ③—	①細粒　②良好 ③橙　④ほぼ完形	口縁部：内湾口縁。内外面横なで。体部から底部：内面なで。放射状暗文を密接して施す。外面斜位の篦削り。底部：丸底。
45	土師器 坏A	①12.1　②5.6 ③—	①細粒　②良好 ③橙　④完形	口縁部：内湾口縁。内外面横なで。体部から底部：内面なで。放射状暗文をまばらに施す。外面斜位と横位の篦削り。底部：丸底。
46	土師器 坏A	①11.9　②5.4 ③—	①細粒　②良好 ③橙　④ほぼ完形	口縁部：内湾口縁。内外面横なで。体部から底部：内面なで。放射状暗文を密接に施す。外面横位の篦削り。底部：丸底。
47	土師器 坏A	①11.1　②6.2 ③—	①細粒　②良好 ③橙　④完形	口縁部：内湾口縁。内外面横なで。体部から底部：内面なで。放射状暗文を密接に施す。外面斜位と横位の篦削り。底部：丸底。
48	土師器 坏A	①[12.1]　②5.3 ③—	①細粒　②良好 ③橙　④2/3	口縁部：内湾口縁。内外面横なで。体部から底部：内面なで。放射状暗文を密接に施す。外面斜位の篦削り。底部：丸底。
49	土師器 坏A	①12.8　②5.1 ③—	①細粒　②良好 ③橙　④4/5	口縁部：内湾口縁。内外面横なで。体部から底部：内面なで。放射状暗文をまばらに施す。外面斜位と横位の篦削り。底部：丸底。
50	土師器 坏A	①12.6　②5.2 ③—	①細粒　②良好 ③橙　④完形	口縁部：内湾口縁。内外面横なで。体部から底部：内面なで。放射状暗文を密接に施す。外面斜位の篦削り。底部：丸底。
52	土師器 坏A	①12.6　②5.6 ③—	①細粒　②良好 ③橙　④ほぼ完形	口縁部：内湾口縁。内外面横なで。体部から底部：内面なで。外面斜位と縦位の篦削り。底部：丸底。
54	土師器 坏B	①13.2　②5.9 ③—	①細粒　②良好 ③橙　④完形	口縁部：内斜口縁。内外面横なで。体部から底部：内面なで。放射状暗文を密接に施す。外面横位の篦削り。底部：丸底。
55	土師器 坏B	①13.8　②5.4 ③—	①細粒　②良好 ③橙　④ほぼ完形	口縁部：内斜口縁。内外面横なで。体部から底部：内面なで。放射状暗文をまばらに施す。外面横位の篦削り。底部：丸底。
56	土師器 坏B	①13.2　②5.1 ③—	①細粒　②良好 ③橙　④ほぼ完形	口縁部：内斜口縁。内外面横なで。体部から底部：内面なで。外面横位の篦削り。底部：丸底。
57	土師器 坏B	①12.0　②6.7 ③—	①細粒　②良好 ③橙　④完形	口縁部：内斜口縁。内外面横なで。体部から底部：内面なで。放射状暗文をまばらに施す。外面なでから横位の篦削り。底部：丸底。
58	土師器 坏B	①12.6　②5.3 ③—	①細粒　②良好 ③橙　④ほぼ完形	口縁部：内斜口縁。内外面横なで。体部から底部：内面なで。放射状暗文を密接に施す。外面横位の篦削り。底部：やや厚い丸底。
59	土師器 坏B	①14.0　②4.8 ③—	①細粒　②良好 ③橙　④3/4	口縁部：内斜口縁。内外面横なで。体部から底部：内面なで。放射状暗文を密接に施す。外面横位の篦削り。底部：丸底。
60	土師器 坏B	①16.1　②8.2 ③—	①細粒　②良好 ③橙　④ほぼ完形	やや大型の器形。口縁部：内斜口縁。内外面横なで。体部から底部：内面なで。放射状暗文を密接に施す。外面横位の篦削り。底部：丸底。
61	土師器 坏B	①13.7　②5.7 ③—	①細粒　②良好 ③橙　④ほぼ完形	口縁部：内斜口縁。内外面横なで。体部から底部：内面なで。放射状暗文をまばらに施す。外面薄めの放射状暗文。横位の篦削り。底部：丸底。
62	土師器 坏B	①12.4　②5.2 ③—	①細粒　②良好 ③橙　④完形	口縁部：内斜口縁。内外面横なで。体部から底部：内面なで。放射状暗文をまばらに施す。外面横位の篦削り。底部：丸底。
63	土師器 坏B	①12.8　②5.5 ③—	①細粒　②良好 ③明赤褐　④ほぼ完形	口縁部：内斜口縁。内外面横なで。体部から底部：内面なで。放射状暗文を密接に施す。外面横位の篦削り。底部：丸底。
64	土師器 坏B	①13.2　②5.6 ③—	①細粒　②良好 ③橙　④完形	口縁部：内斜口縁。内外面横なで。体部から底部：内面なで。放射状暗文をまばらに施す。外面横位の篦削り。底部：やや厚い丸底。
65	土師器 坏B	①14.2　②5.0 ③—	①細粒　②良好 ③橙　④ほぼ完形	口縁部：内斜口縁。内外面横なで。体部から底部：内面なで。放射状暗文をまばらに施す。外面横位の篦削り。底部：丸底。
66	土師器 坏B	①14.4　②(5.7) ③—	①細粒　②良好 ③橙　④ほぼ完形	口縁部：内斜口縁。内外面横なで。体部から底部：内面なで。放射状暗文をまばらに施す。外面薄めの放射状暗文。横位の篦削り。底部：丸底。
53	土師器 坏C	①[16.1]　②5.4 ③—	①細粒　②良好 ③橙　④4/5	須恵器模倣坏。口縁部：ほぼ直立する。内外面横なで。体部から底部：内面なで。外面横位の篦削り。底部：丸底。
68	土師器 坏C	①12.1　②6.1 ③—	①細粒　②良好 ③橙　④完形	須恵器模倣坏。口縁部：ほぼ直立する。内外面横なで。体部から底部：内面なで。外面横位の篦削り。底部：丸底。
69	土師器 坏C	①11.8　②5.4 ③—	①細粒　②良好 ③橙　④3/4	須恵器模倣坏。口縁部：ほぼ直立する。内外面横なで。体部から底部：内面なで。外面横位の篦削り。底部：丸底。
70	土師器 坏C	①12.8　②6.1 ③—	①細粒　②良好 ③橙　④完形	須恵器模倣坏。口縁部：ほぼ直立する。内外面横なで。体部から底部：内面なで。外面横位の篦削り。底部：丸底。
71	土師器 坏C	①12.8　②6.1 ③—	①細粒　②良好 ③橙　④ほぼ完形	須恵器模倣坏。口縁部：ほぼ直立からやや外形する。内外面横なで。体部から底部：内面なで。外面横位の篦削り。底部：丸底。
72	土師器 坏C	①12.6　②6.3 ③—	①細粒　②良好 ③橙　④ほぼ完形	須恵器模倣坏。口縁部：ほぼ直立する。内外面横なで。体部から底部：内面なで。外面横位の篦削り。底部：丸底。
74	土師器 高坏	①14.6　②10.4 ③9.3	①細粒　②良好 ③橙　④ほぼ完形	口縁部：内斜口縁。内外面横なで。多少口縁が歪む。体部から底部：内面なで。放射状暗文を密接に施す。外面横位の篦削り。接合部：粘土塊充填する。脚部：内面横なで。外面縦方向篦みがき。
75	土師器 高坏	①13.8　②9.5 ③10.6	①細粒　②良好 ③橙　④ほぼ完形	口縁部：内斜口縁。内外面横なで。体部から底部：内面なで。外面斜位の篦削り。接合部：粘土塊充填する。脚部：内外面横なで。
76	土師器 坩	①7.9　②16.7 ③—	①細粒　②良好 ③橙　④完形	口縁部：直立からやや外傾する。口縁端部：内外面横なで。口縁中部：内外面縦位の篦みがきを密度濃く施す。頸部：内外面横なで。体上部：外面縦位の篦みがき。一部なで。体中部で最大径。体下部から底部：外面横位の篦削り。底部：丸底。
77	土師器 甑	①[19.6]　②(23.2) ③7.8	①細粒　②良好 ③明黄褐　④口縁欠損	口縁部：欠損。胴上部：内外面横なで。胴中部で最大径となる。胴中部：内面なでの後、縦位の篦みがき。外面縦位の篦削り。胴下部：内外面なでの後、縦位の篦みがき。底部：単孔広口。
78	土師器 椀	①11.8　②7.4 ③—	①細粒　②良好 ③橙　④ほぼ完形	肉厚の器形。口縁部：やや内湾する。内外面：横なで。体部から底部：内面なで。外面：斜位の篦けずり。底部：丸底。
79	土師器 椀	①12.2　②6.8 ③6.3	①細粒　②良好 ③にぶい黄橙　④3/4	口縁部：内外面横なで。体上部で最大径となる。体部から底部：内面なで。一部に篦みがき。外面横位の篦削り。底部：肉厚の平底。外面手持ち篦削り。
82	土師器 椀	①12.6　②8.5 ③—	①細粒　②良好 ③橙　④ほぼ完形	口縁部：内斜する。内外面横なで。胴部：内面なで。外面斜位の篦けずり胴中部で最大径となる。底部：丸底。
80	土師器 小甕	①10.4　②7.5 ③—	①細粒　②良好 ③橙　④完形	口縁部から胴上部：内外面横なで。胴中部からやや下で最大径となる。胴中部：内外面なで。胴下部から底部：外面横位の篦けずり。底部：丸底。
81	土師器 小甕	①12.0　②12.7 ③5.2	①細粒　②良好 ③にぶい黄橙　④ほぼ完形	口縁部：大きく外に開く。内外面横なで。胴上部から胴中部：内面なで。外面縦位と斜位の刷毛目。胴中部で最大径となる。胴下部：外面横位の篦けずり。底部：とても肉厚な平底。
83	土師器 甕	①17.5　②28.4 ③7.3	①細粒　②良好 ③浅黄橙　④完形	口縁部：外反して開く。内外面横なで。胴部：内面横位のなで。外面縦位のなで。胴中部で最大径となる。底部：肉厚な平底。
84	土師器 甕	①20.2　②35.0 ③8.2	①細粒　②良好 ③橙　④ほぼ完形	口縁部：直立から大きく外反して開く。口縁端部大きく歪む。内外面横なで。胴部：内面横位のなで。外面縦位の篦削り。胴中部で最大径となる。底部：やや肉厚な平底。外面手持ち篦削り。
85	土師器 甕	①[17.5]　②22.7 ③6.0	①細粒　②良好 ③橙　④2/3	口縁部：直立やや外傾する。内外面横なで。胴部：内面横位のなで。外面斜位の篦削り。胴中部で最大径となる。底部：やや肉厚な平底。
86	土師器 甕	①17.1　②(27.0) ③—	①細粒　②良好 ③橙　④3/4	口縁部：外傾して直線的に開く。内外面横なで。胴上部から胴中部：内面斜位の篦削り。胴中位に輪積み痕あり。外面斜位の刷毛目。胴下部：内外面なで。底部：欠損。
87	土師器 甕	①16.3　②27.6 ③7.4	①細粒　②良好 ③灰黄　④3/4	上部と下部で中心線が17㎜程ずれる歪んだ器形。口縁部：直立から外反する。内外面横なで。胴上部から胴中部：内面横位のなで。外面縦位の篦削り。胴中部で最大径となる。胴下部：内面横位の刷毛目。外面縦位の刷毛目。底部：やや肉厚な平底。

番号	器種名	①口径 ②器高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術
88	土師器 甕	①[20.2] ②29.7 ③7.4	①細粒 ②良好 ③にぶい黄橙 ④2/3	口縁部：直線的に外傾する。内外面横なで。胴上部から胴中部：内面横位のなで。外面縦位の篦削り。胴下部：内外面横位のなで。底部：平底。
89	土師器 甕	①— ②(27.8) ③6.8	①細粒 ②良好 ③明黄褐 ④3/4	口縁部：欠損。胴部：内面なで。外面斜位の篦削り。胴中部で最大径となる。底部：やや肉厚な平底。
90	土師器 甕	①14.0 ②(14.2) ③—	①細粒 ②良好 ③橙 ④1/4	口縁部：直線的に外傾する。内外面横なで。胴上部から胴中部：内面なで。外面斜位の篦削り。胴上部で最大径となる。胴下部から底部：欠損。
91	土師器 甕	①[14.3] ②(17.9) ③—	①細粒 ②良好 ③橙 ④1/2	口縁部：ほぼ直立する。内外面横なで。胴上部から胴中部：内外面なで。胴中部で最大径となる。胴下部から底部：欠損。
92	土師器 鉢	①[20.8] ②13.8 ③6.3	①細粒 ②良好 ③浅黄橙 ④1/2	口縁部：外傾して開く。口縁端部が最大径となる。内外面横なで。胴部：内面横位のなで。外面横位の篦削り。底部：肉厚な平底。
94	土師器 甕	①18.7 ②(7.9) ③—	①細粒 ②良好 ③浅黄橙 ④口縁部	口縁部：直線的に外傾する。内外面横なで。胴部から底部：欠損。
95	土師器 甕	①[19.4] ②(10.3) ③—	①細粒 ②良好 ③にぶい橙 ④1/5	口縁部：やや外反しながら開く。内外面横なで。胴上部：内面横位のなで。外面縦位のなで。胴中部から底部：欠損。
96	須恵器 大甕	①[18.8] ②(8.4) ③—	①細粒 ②良好 ③灰 ④口縁部	轆轤整形。口縁部：内面轆轤なで。外面轆轤なでの後、12条1組の波状文を施す。胴上部：内面轆轤なで。外面轆轤なで。叩き板の平行線が縦位に残る。胴中部から底部：欠損。

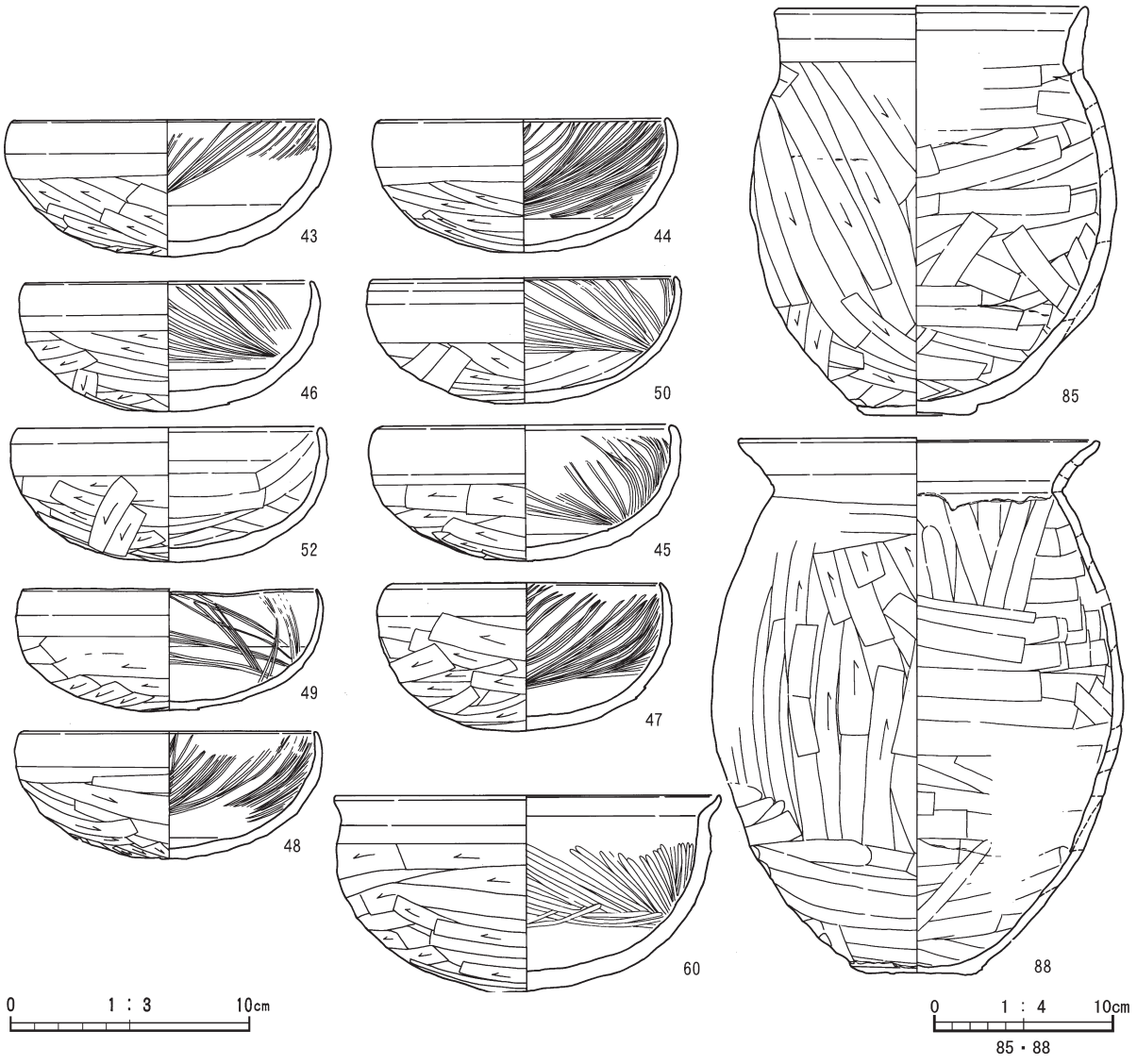


Fig.117　祭祀跡出土遺物(1)

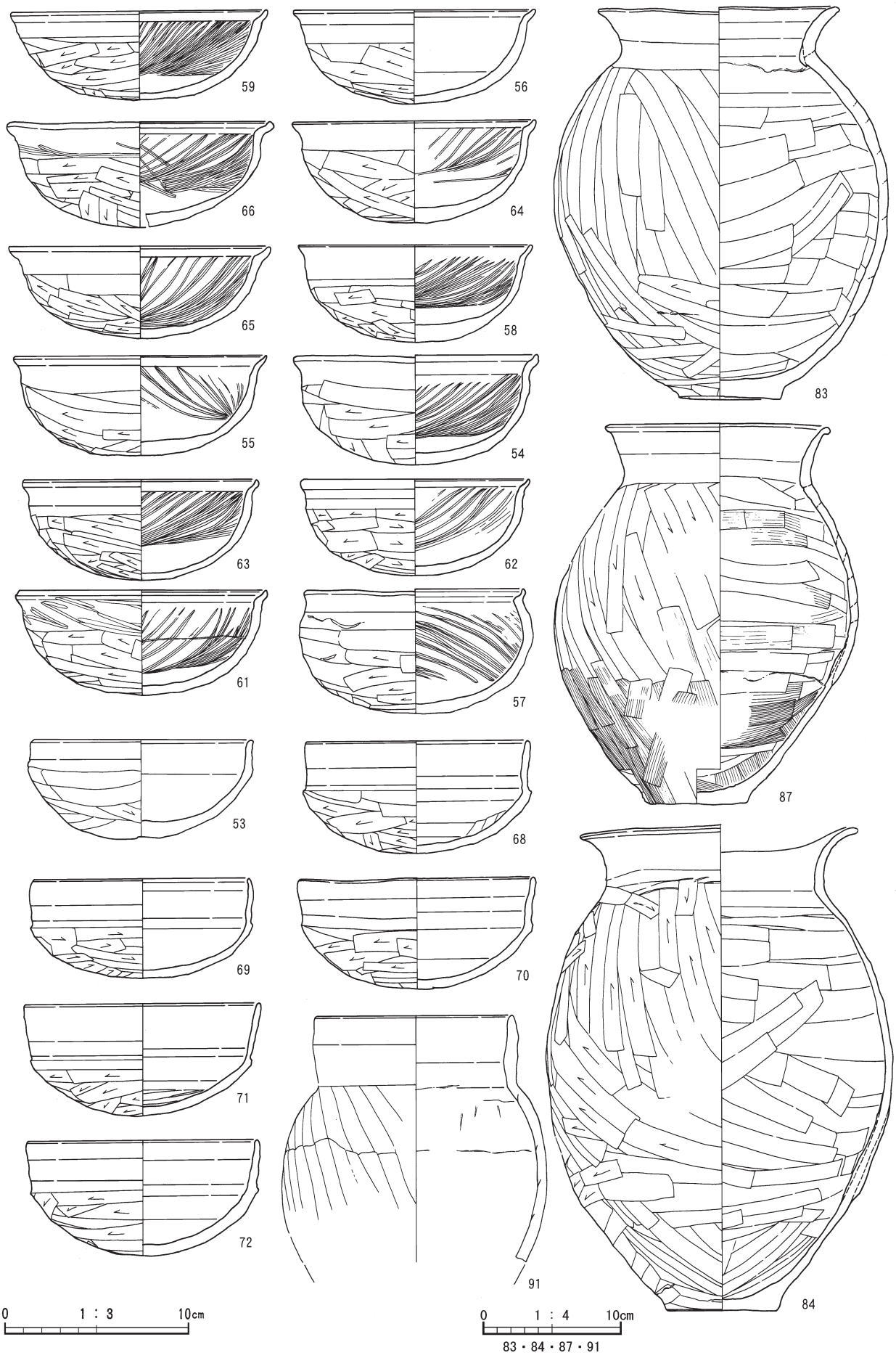


Fig.118　祭祀跡出土遺物(2)

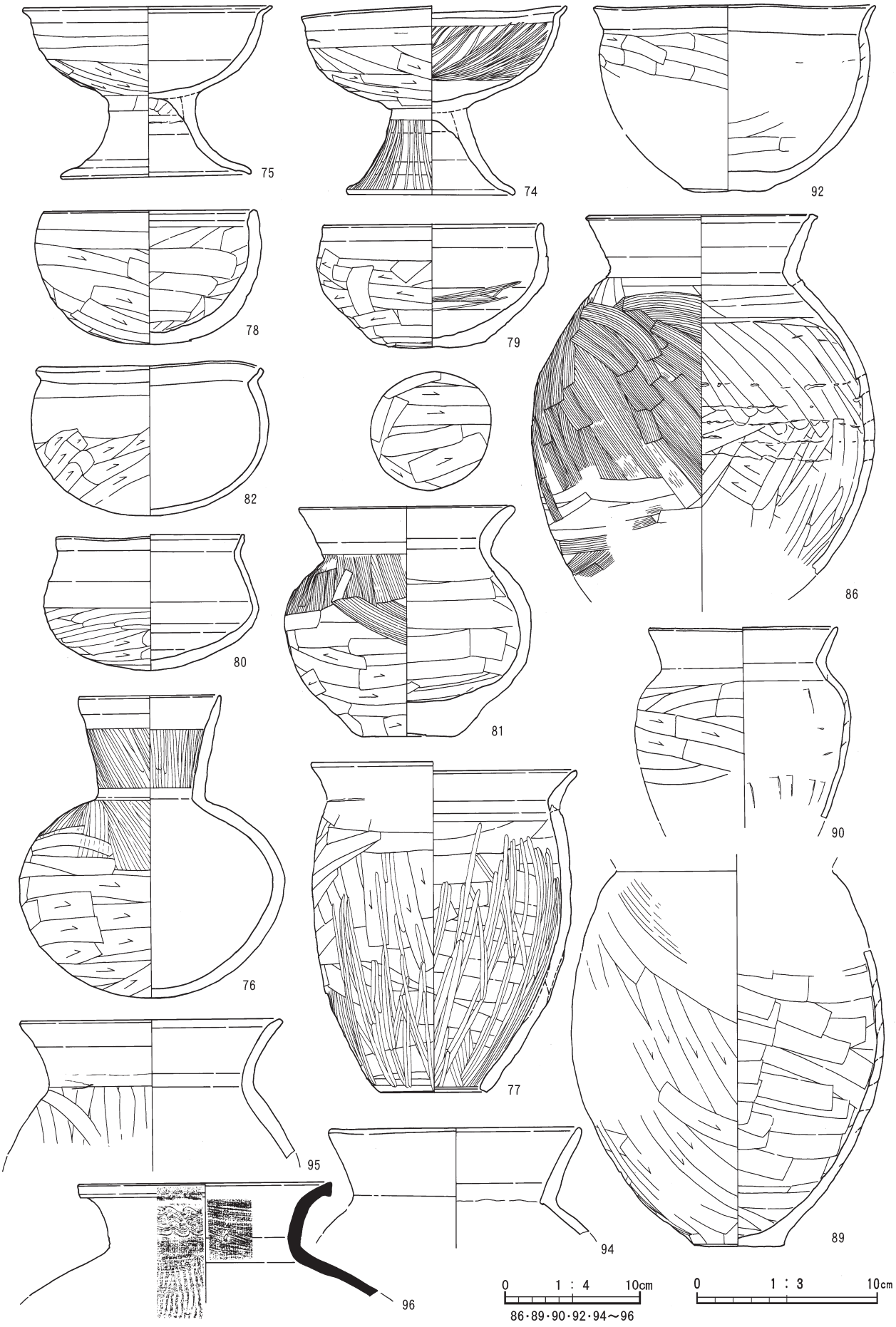


Fig.119　祭祀跡出土遺物(3)

図　　版

1区　調査区全景（上が北）

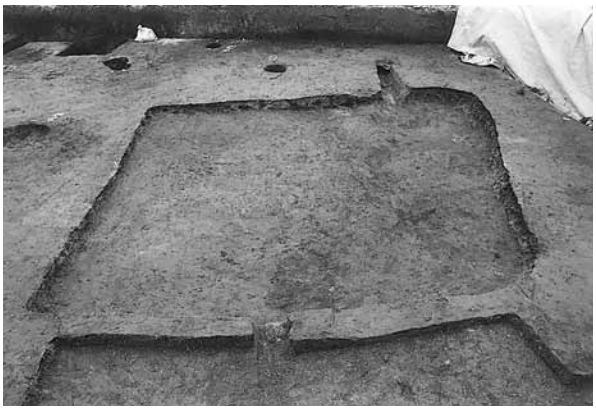
H－1号住居跡銅鈴出土状態（西から）

H－1号住居跡全景（西から）

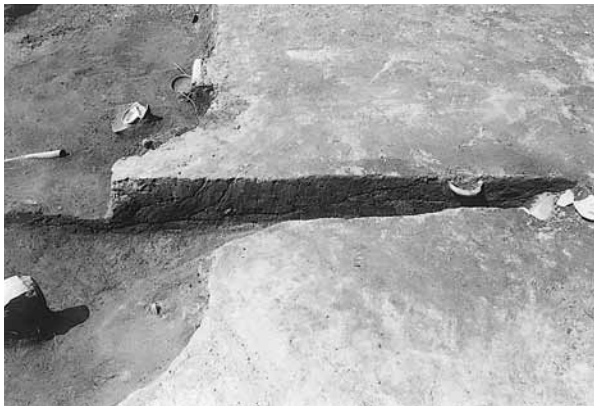
H－1号住居跡竈遺物出土状態（西から）

H－1号住居跡竈全景（西から）

1区　H－2号住居跡遺物出土状態（西から）



1区　H－2号住居跡全景（西から）



1区　H－2号住居跡竈セクション（南から）

1区　H－2号住居跡竈遺物出土状態（西から）

1区　H－2号住居跡竈全景（南から）

1区　H－3号住居跡全景（西から）

1区　H－4号住居跡全景（西から）

1区　H－4号住居跡竈遺物出土状態（西から）

1区　H－5号住居跡柱穴・貯蔵穴（西から）

1区　H－5号住居跡全景（西から）

1区　H－6号住居跡全景（西から）

1区　H－7号住居跡Hr－FA堆積状況（北から）

1区　H－7号住居跡全景（西から）

1区　H－8号住居跡遺物出土状態（西から）

1区　H－8号住居跡全景（西から）

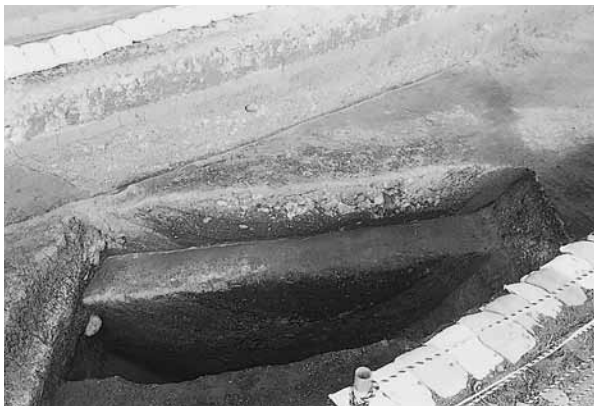
1区　W－1号溝跡全景（北から）

２区　調査区全景（東から）

２区　Ｗ－１号溝全景（西から）

２区　Ｗ－１号の土層堆積状況（南から）

２区　Ｗ－１号溝南壁の土層堆積状況（北から）



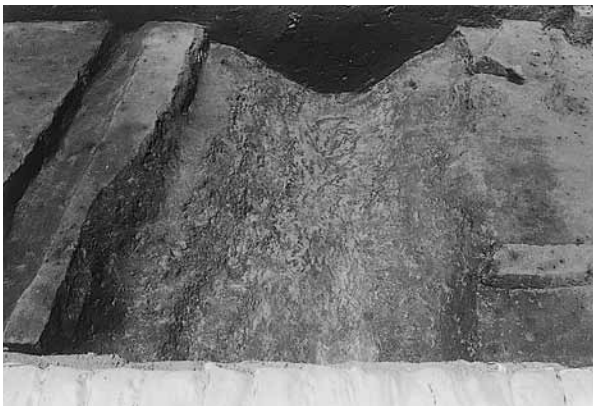
２区　Ｗ－１号溝北壁の土層堆積状況（南から）

２区　Ｉ－１号井戸の遺物出土状態

３a区　Ｈ－１号住居跡全景（西から）

３a区　Ｈ－１号住居跡竈遺物出土状態

3a区　H－2号住居跡竈全景（南西から）



3a区　W－1号(右)、2(左)号全景（西から）

3a区　H－4号住居跡全景（北西から）

3a区　H－5(奥)、H－6(手前)号住居跡全景（西から）

3a区　H－5号住居跡竈全景

3a区　H－7号住居跡全景（南西から）

3a区　H－8号住居跡全景（西から）

3a区　H－8号住居跡遺物出土状態（北から）

3a区　H－９号住居跡全景（西から）

3a区　H－10号住居跡全景（西から）

3a区　H－14号住居跡堀方（南から）

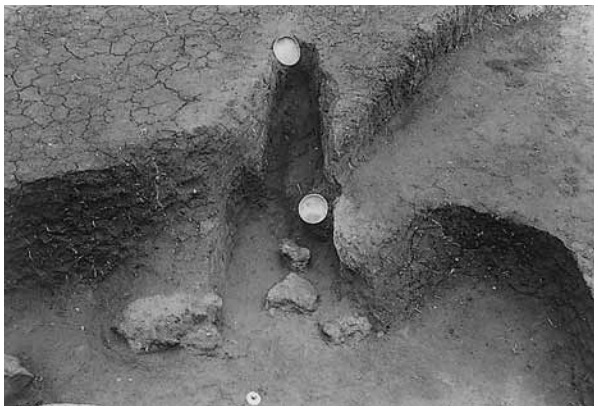
3a区　H－14号住居跡全景（東から）

3a区　H－14号住居跡遺物出土状態

3a区　H－15号住居跡全景（西から）

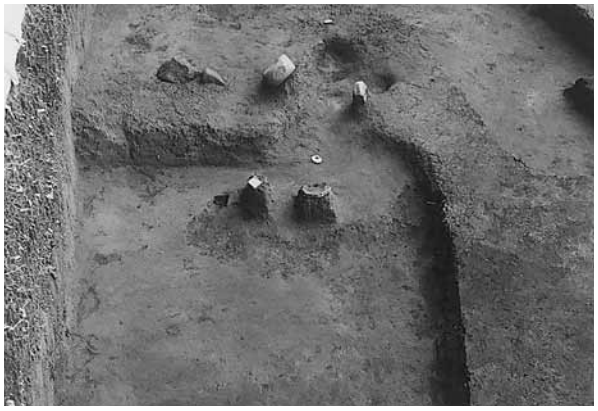
3a区　H－16(左)、H－17(右)号住居跡全景（西から）

3a区　H－16(奥)、H－23(手前)号住居跡重複状態（西から）



3a区　H－８号住居跡竈全景

3a区　H－18号住居跡全景（西から）



3a区　H－19号住居跡全景（西から）

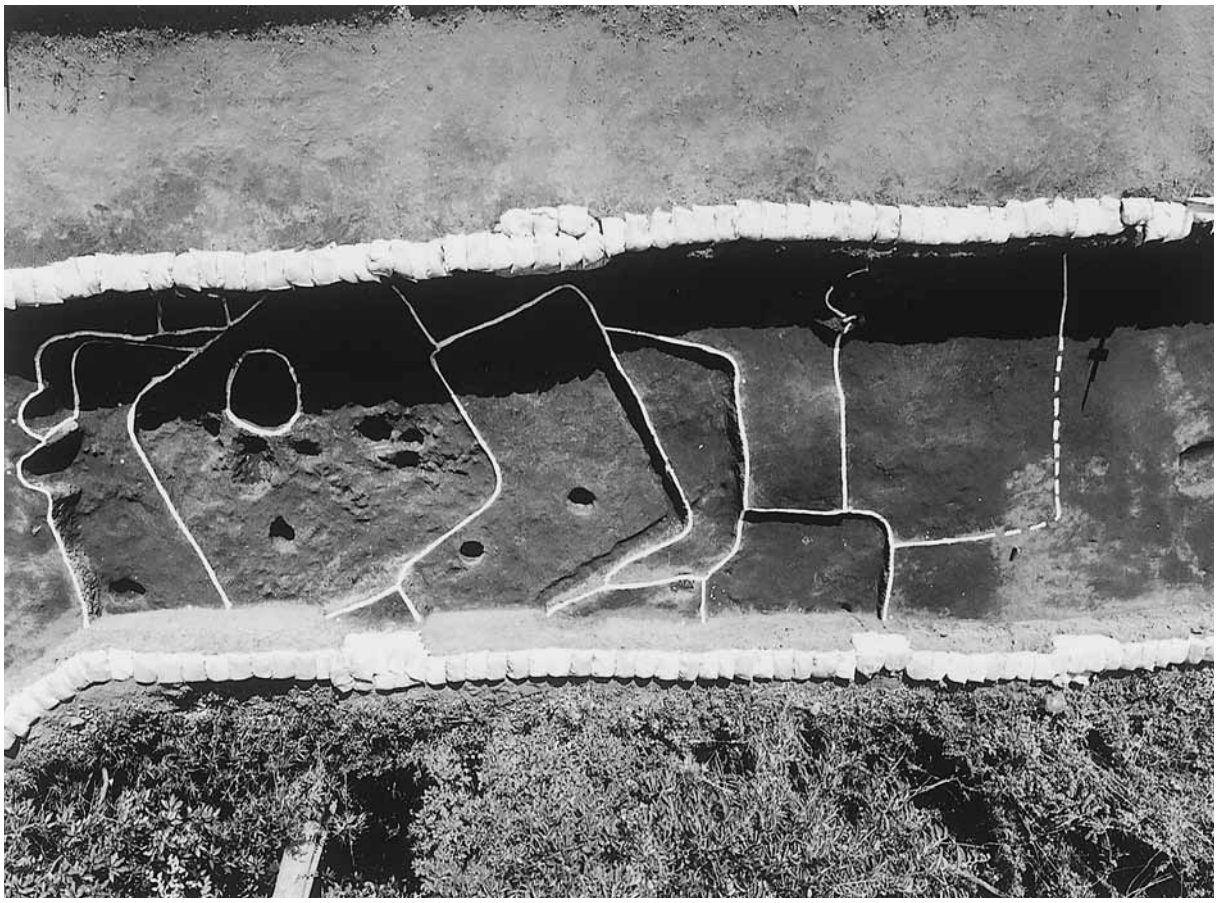
3a区　H－20号住居跡全景（西から）

3a区　H－20号住居跡竈全景

3a区　H－22号住居跡全景（南から）

3a区　H－22(手前)、H－23(奥)号住居跡重複状態（西から）

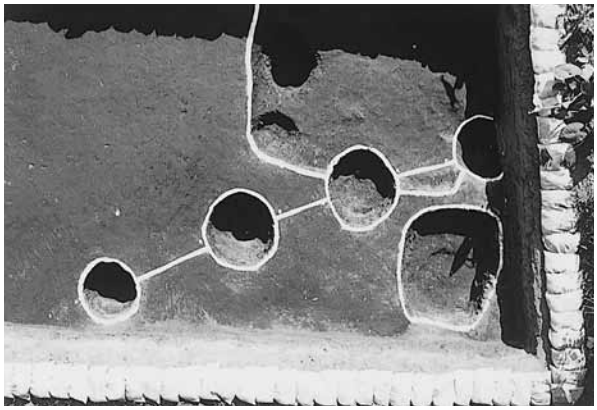
3a区　H－21号住居跡掘り方（北から）



3a区　住居跡の重複状態（左上からH－17、H－16、H－23、H－22、H－18、H－19、H－20：上空から、下が北）

3a区　B－1号掘立柱建物跡P4土層堆積状況（南から）

3a区　B－1号掘立柱建物跡P2土層堆積状況（南から）



3a区　H－21号住居跡B－1号掘立柱建物跡全景（上空から、下が北）

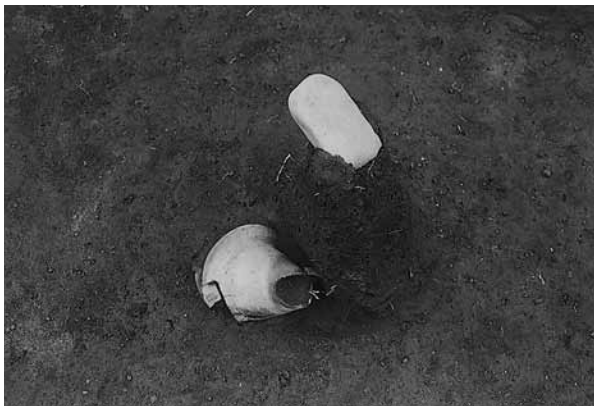
3a区　D－2号土坑全景（東から）

3b区　H－1(左)、2(右)号住居跡全景（北から）

3b区　H－1、2号住居跡西側土層堆積状況（北東から）

3b区　H－1号住居跡P1土層堆積状況（西から）

3b区　H－3号住居跡全景（北から）



3b区　H－1号住居跡遺物出土状態

3b区　H－8(右)、H－9(左)号住居跡全景（北から）

3b区　H－3号住居跡竈遺物出土状態

3b区　H－12号住居跡貯蔵穴全景（南東から）

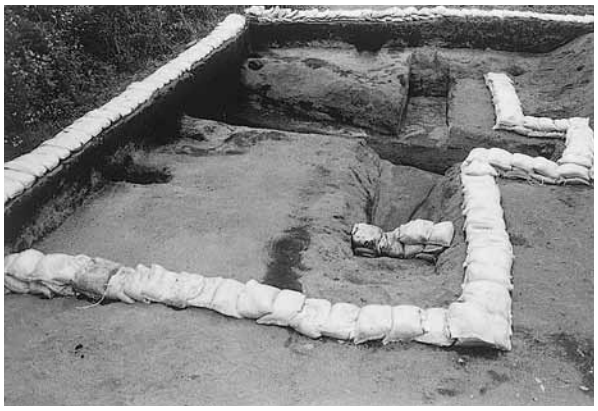
3b区　H－6号住居跡全景（北西から）

3b区　H－6号住居跡竈全景（北西から）

3b区　H－8号住居跡竈全景（西から）

3b区　H－9号住居跡丸鞆出土状態

4c区　調査区全景（上空から、上が北）



4a区　調査区全景（東から）

4a区　W－1号溝東側土層堆積状況

4b区　調査区全景（西から）

4b区　H－2号住居跡全景（西から）

4b区　H－1号住居跡竈遺物出土状態

4b区　H－2号住居跡貯蔵穴遺物出土状態

4b区　H－1(手前)、H－3(奥左端)、H－4(奥右端)号住居跡重複状態（西から）

5区　H－1住居跡全景（北から）

5区　調査区全景（上空から、上が北）

5区　W－3号溝跡全景（南から）

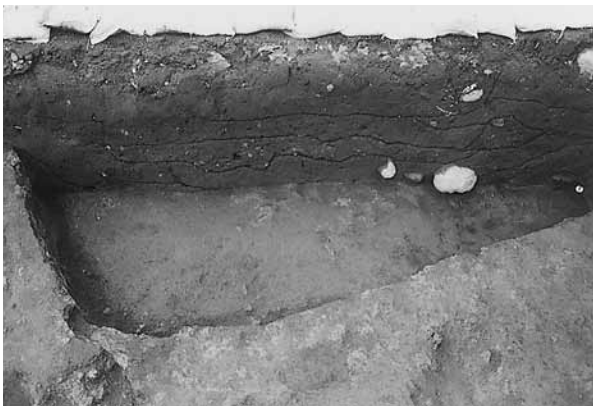
5区　H－1号住居跡東側土層堆積状況（西から）

6区　W－1号溝跡土層堆積状況（北から）

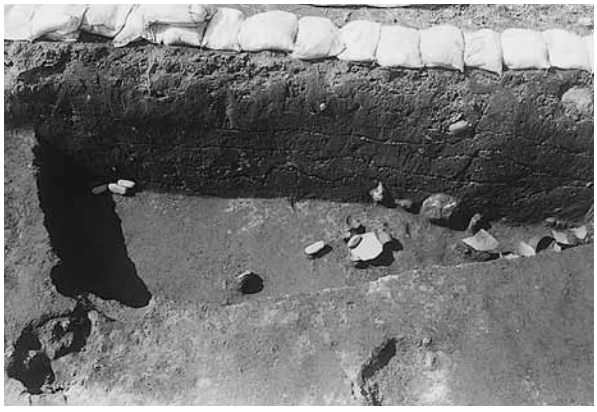
6区　H－1号住居跡全景（東から）

6区　調査区全景（上空から、上が北）

6区　H－3号住居跡全景（東から）



6区　H－2号住居跡土層堆積状況（南から）



6区　H－2号住居跡遺物出土状態（南から）

6区　D－1号土坑全景（西から）

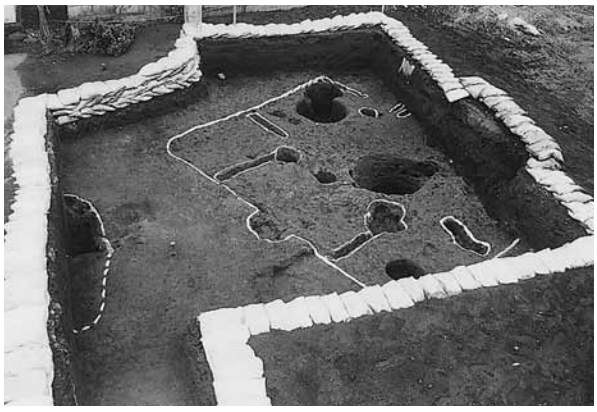
7区a地点　調査区全景（左が北）

7区　W－1号溝（北から）

7区　W－1号溝土層堆積状況（西から）

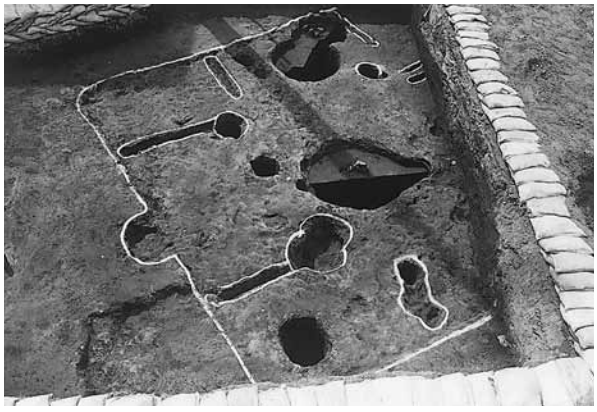
7区　W－2号溝全景（北から）

7区b地点(西半)　調査区全景（北から）



7区b地点(東半)　調査区全景

7区　H－1号住居跡竈遺物出土状態（西から）



7区　H－1号住居(東半)全景（北から）

7区　H－1号住居(西半)全景（北から）

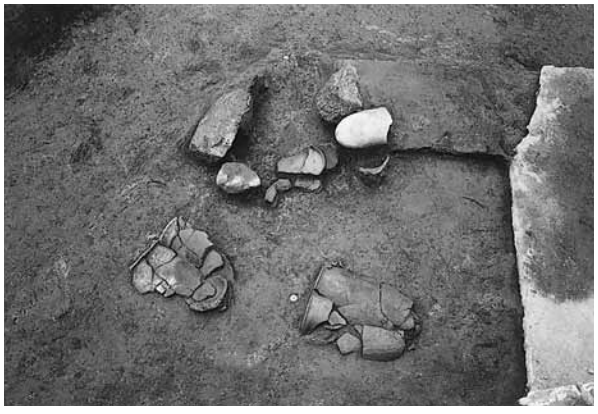
7区　H－2号住居跡全景（西から）

7区　H－3号住居跡全景（西から）

7区　H－4号住居跡全景（西から）

7区　H－5号住居跡全景（西から）

7区　H－6号住居跡全景（北から）

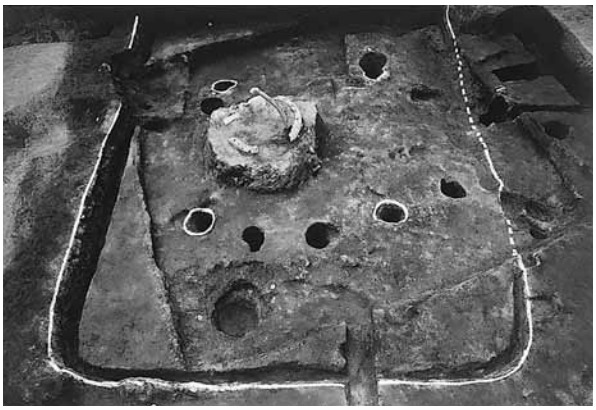


7区　H－6号住居跡竈遺物出土状態（北から）

7区　W－3号溝跡全景（南西から）

7区c地点　調査区全景（北から）

7区　H－7号住居跡全景（北から）



7区　H－8号住居跡全景（東から）

7区　H－9号住居跡全景（東から）

7区　H－10号住居跡全景（北西から）

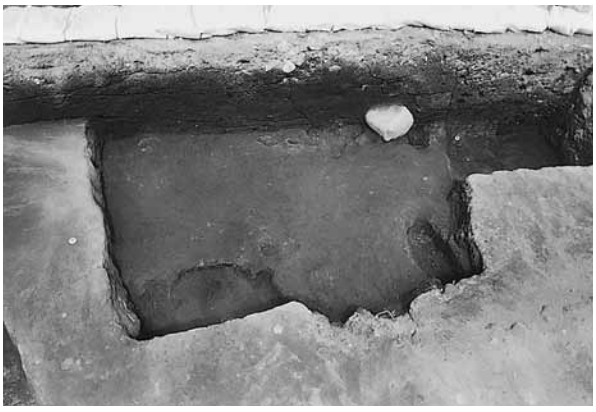
7区　H－10号住居跡貯蔵穴遺物出土状態（北西から）

7区　H－11号住居跡全景（東から）

7区　H－12号住居跡全景（南東から）

7区　H－13号住居跡全景（南から）

7区　H－13号住居跡遺物出土状態（南から）



7区　H－14号住居跡全景（東から）

7区　H－15号住居跡全景（東から）

7区　O－1号落ち込み土層堆積状況（南から）

7区d地点　調査区全景（西から）

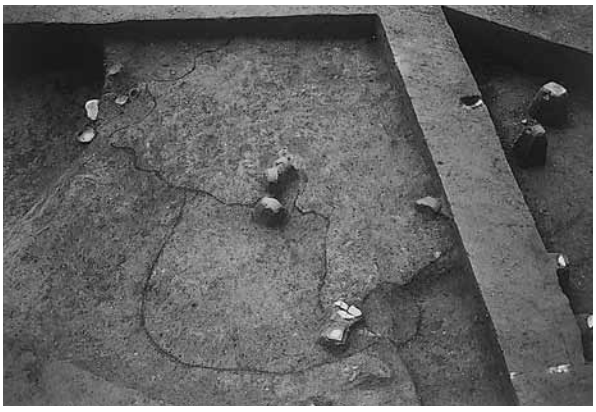
7区　A－1号道路状遺構(東半)全景（西から）

7区　H－16号住居跡全景（北から）

7区　A－1号道路状遺構硬化面（北東から）

7区e地点　調査区全景（西から）

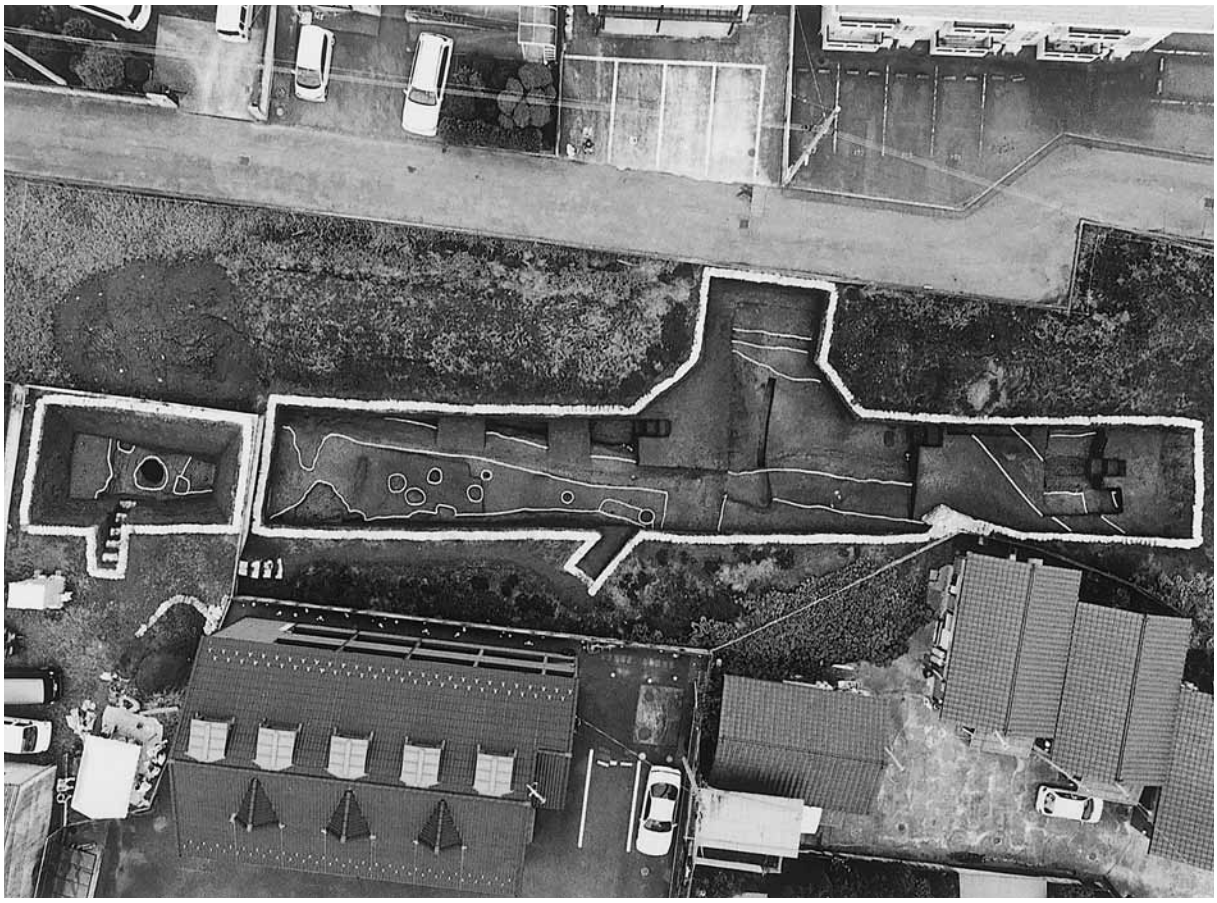
7区　H－17号住居跡全景（西から）



7区　H－19号住居跡全景（東から）

7区　H－19号住居跡南側遺物出土状態（南から）

7区　H－20号住居跡竈遺物出土状態（南西から）



8区　調査区全景（上が北）

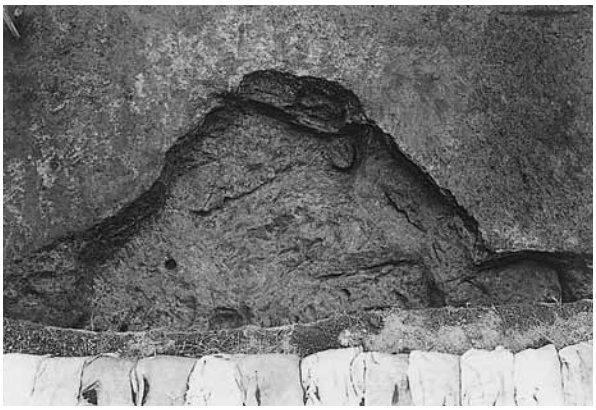
8区　H－2号住居跡全景（西から）

8区　D－3号土坑馬骨出土状態（北から）

8区　D－3号土坑遺物出土状態（北から）

8区　D－3号土坑遺物出土状態中位部（北から）

8区　D－3号土坑遺物出土状態下層部（北から）



8区　T－1号竈構築材採掘坑全景（南から）

8区　T－2号竈構築材採掘坑全景（東から）

8区　T－3号竈構築材採掘坑出土遺物（東から）

8区　T－3号竈構築材採掘坑全景（東から）

8区　I－1号井戸跡全景（東から）

8区　W－1号溝跡馬骨出土状態(1)（東から）

8区　W－1号溝跡馬骨出土状態(2)（東から）

8区　W－1号溝跡全景（西から）

8区　W－2号溝跡全景（西から）

8区　W－1号溝跡石製品等出土状態（西から）

8区　W－3号溝跡全景（西から）

8区　W－4号溝跡礫等出土状態（西から）

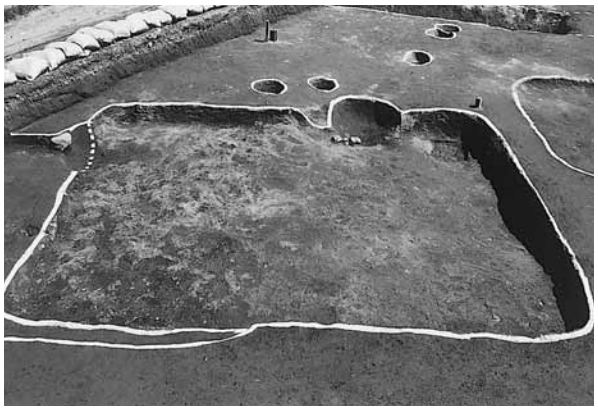
8区　W－4号溝跡全景（北から）

9区　調査区全景（南から）

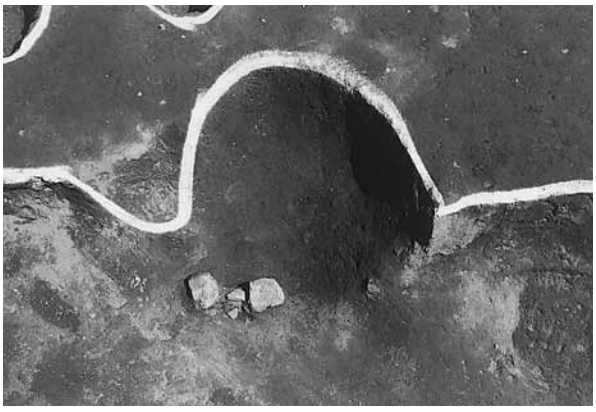
9区　H－1号住居跡遺物出土状態（西から）

9区　H－1号住居跡全景（西から）

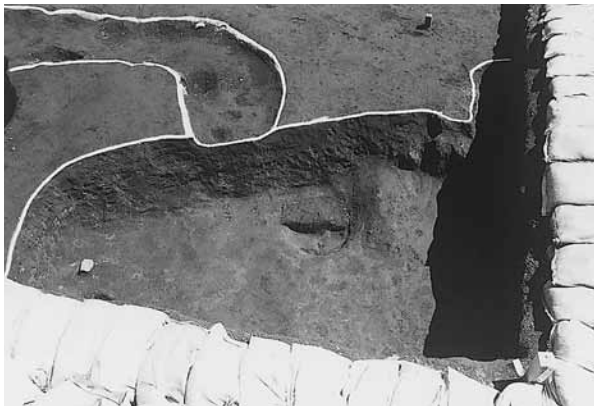
9区　H－2号住居跡遺物出土状態（西から）



9区　H－2号住居跡全景（西から）



9区　H－2号住居跡竈全景（西から）

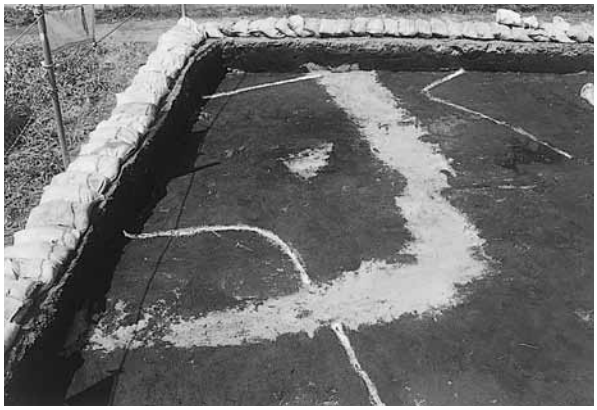


9区　H－3号住居跡全景（西から）

9区　H－3号住居跡竈瓦使用状態（西から）

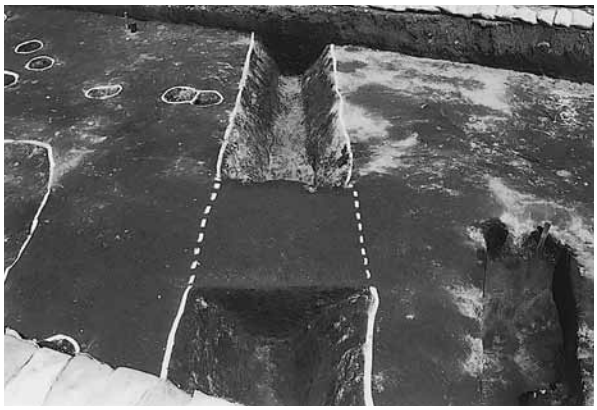
9区　H－3号住居跡竈全景（西から）

9区　H－4号住居跡全景（南から）



9区　W－1号溝跡As－B堆積状況（南から）

9区　W－1号溝跡全景（南から）

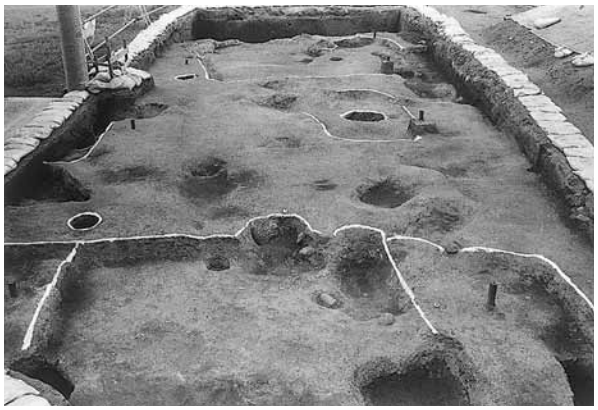


9区　W－2号溝跡全景（南から）

9区　W－3号溝跡全景（南から）

9区　T－1号竪穴状遺構全景（西から）

9区　D－2号土坑遺物出土状態（南から）

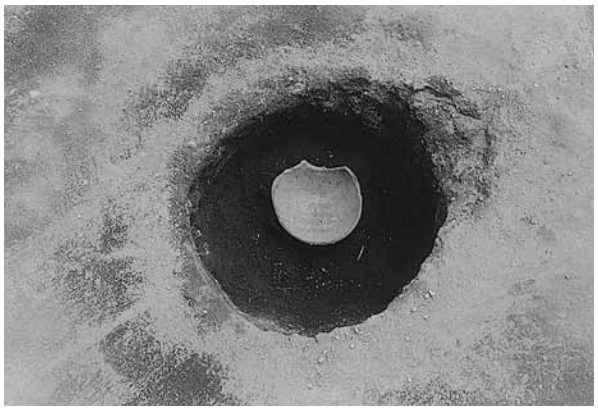


10区　調査区全景（西から）

10区　H－1（左）、2（右）号住居跡全景（西から）

10区　H－2号住居跡竈遺物出土状態

10区　H－3号住居跡、W－2号溝全景（西から）



10区　P2号ピット内遺物出土状態

10区　H－4号住居跡全景（北から）

10区　W－1号溝全景（南から）

10区　W－1号溝南壁土層堆積状況（北から）

11区　調査区全景（南から）

11区　H－１号住居跡遺物出土状態（西から）

11区　H－１号住居跡全景（西から）

11区　H－２号住居跡遺物出土状態（西から）

11区　H－２号住居跡全景（西から）

11区　D－２号土坑全景（西から）

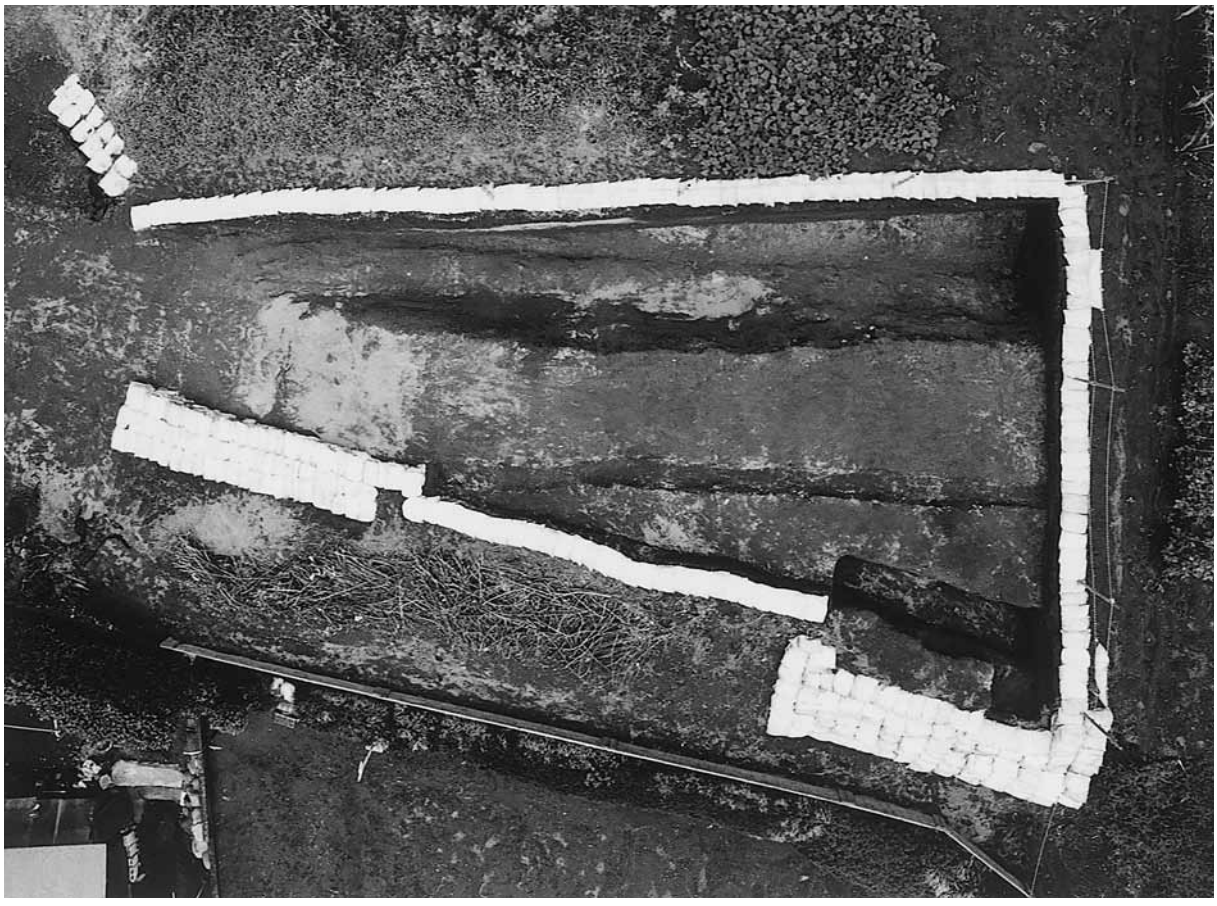
11区　I－１号井戸跡礫出土状態（北から）

11区　I－１号井戸跡竈全景（南東から）

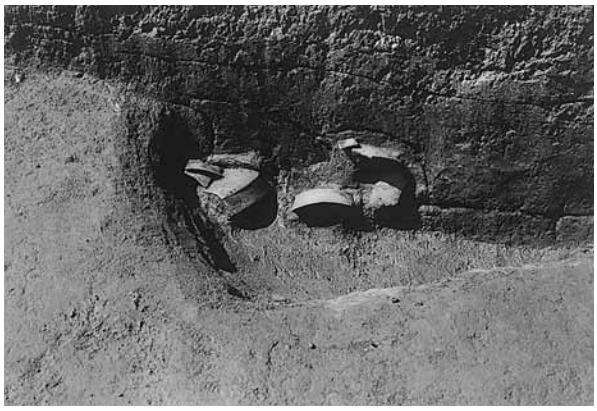
13区　調査区全景（北西から）

13区　H－1号住居跡土層堆積状況（南西から）

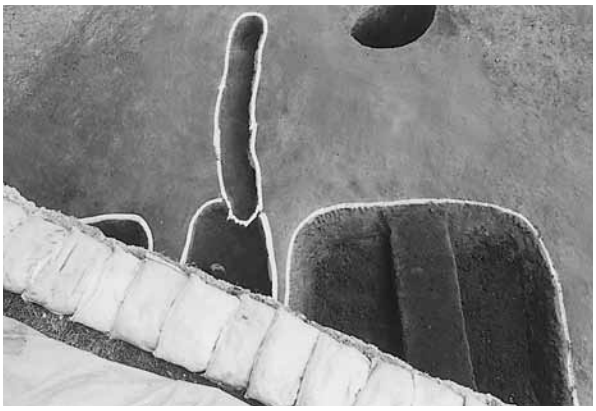
13区　W－1号溝遺物出土状態（南西から）



14区　調査区全景（上が北）



15区　H－１号住居跡遺物出土状態（東から）



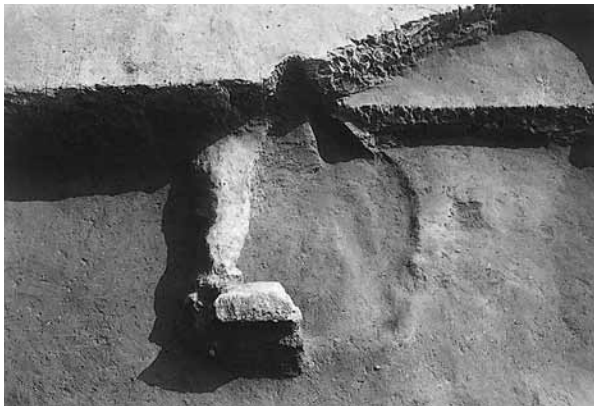
15区　H－１号住居跡全景（西から）

15区　H－１号住居跡竈全景（西から）

15区　H－２号住居跡全景（南から）

15区　H－３号住居跡貯蔵穴出土状態（西から）

15区　H－３号住居跡全景（西から）



15区　H－３号住居跡竈全景（西から）

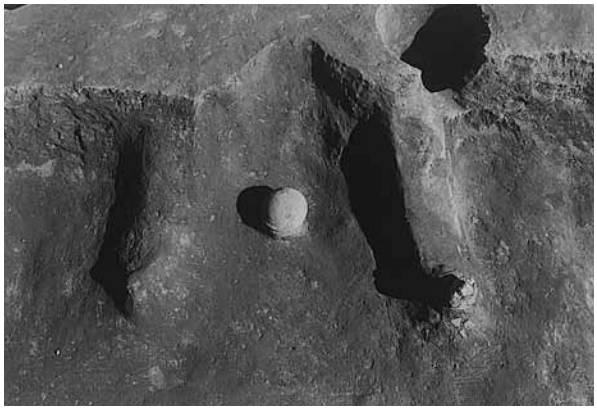
15区　H－４号住居跡全景（西から）

15区北　調査区北半全景（右が北）

15区南　調査区南半全景（北から）

15区　H－４号住居跡竈遺物出土状態（西から）

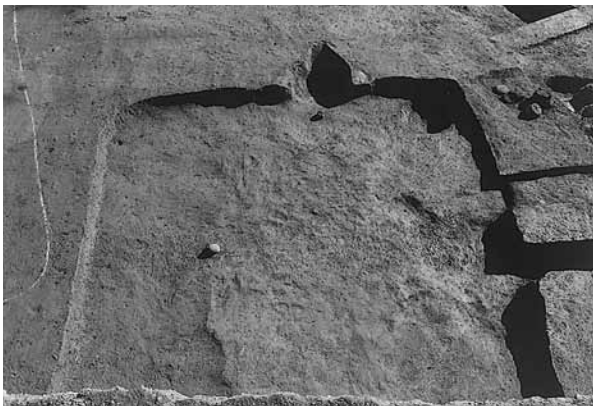
15区　H－４号住居跡竈セクション（南から）



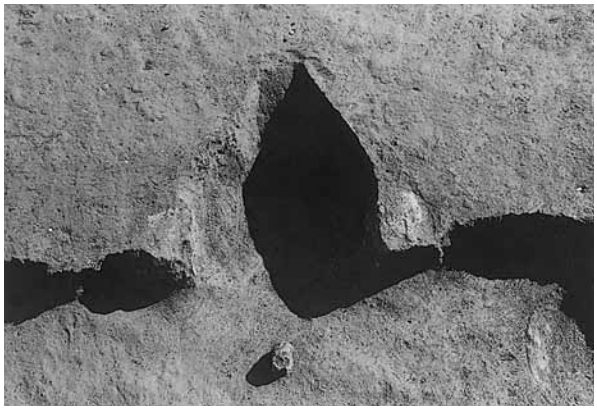
15区　H－４号住居跡竈全景（西から）

15区　H－５号住居跡全景（西から）

15区　H－５号住居跡竈全景（西から）



15区　H－６号住居跡全景（西から）



15区　H－６号住居跡竈全景（西から）

15区　H－７号住居跡全景（南から）

15区　H－８号住居跡全景（西から）

15区　H－８号住居跡竈全景（東から）

15区　H－９号住居跡遺物出土状態（西から）

15区　H－９号住居跡遺物近景①（西から）

15区　H－９号住居跡遺物近景②（西から）

15区　H－９号住居跡全景（西から）

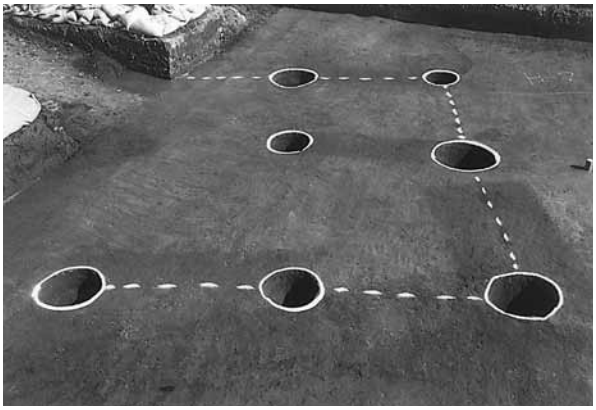
15区　H－10号住居跡全景（西から）

15区　H－11号住居跡全景（南から）

15区　H－12号住居跡竈全景（西から）

15区　H－14号住居跡全景（東から）

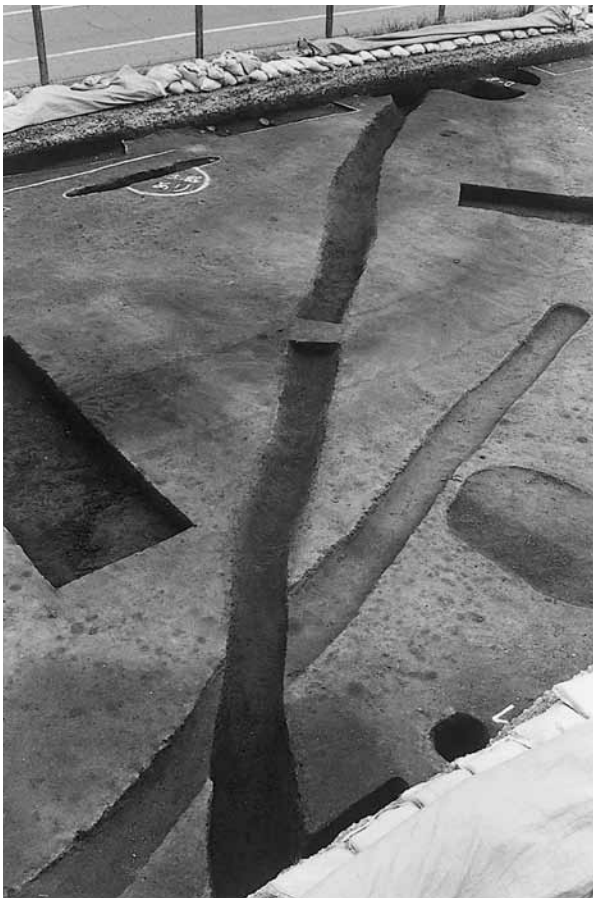
15区　T－1号竪穴状遺構全景（西から）



15区　B－1号掘立柱跡全景（西から）

15区　W－1号溝跡全景（東から）

15区　W－3号溝跡遺物出土状態（西から）



15区　W－2号溝跡全景（西から）

16区　調査区全景（東から）

16区　H－1号住居跡全景（東から）

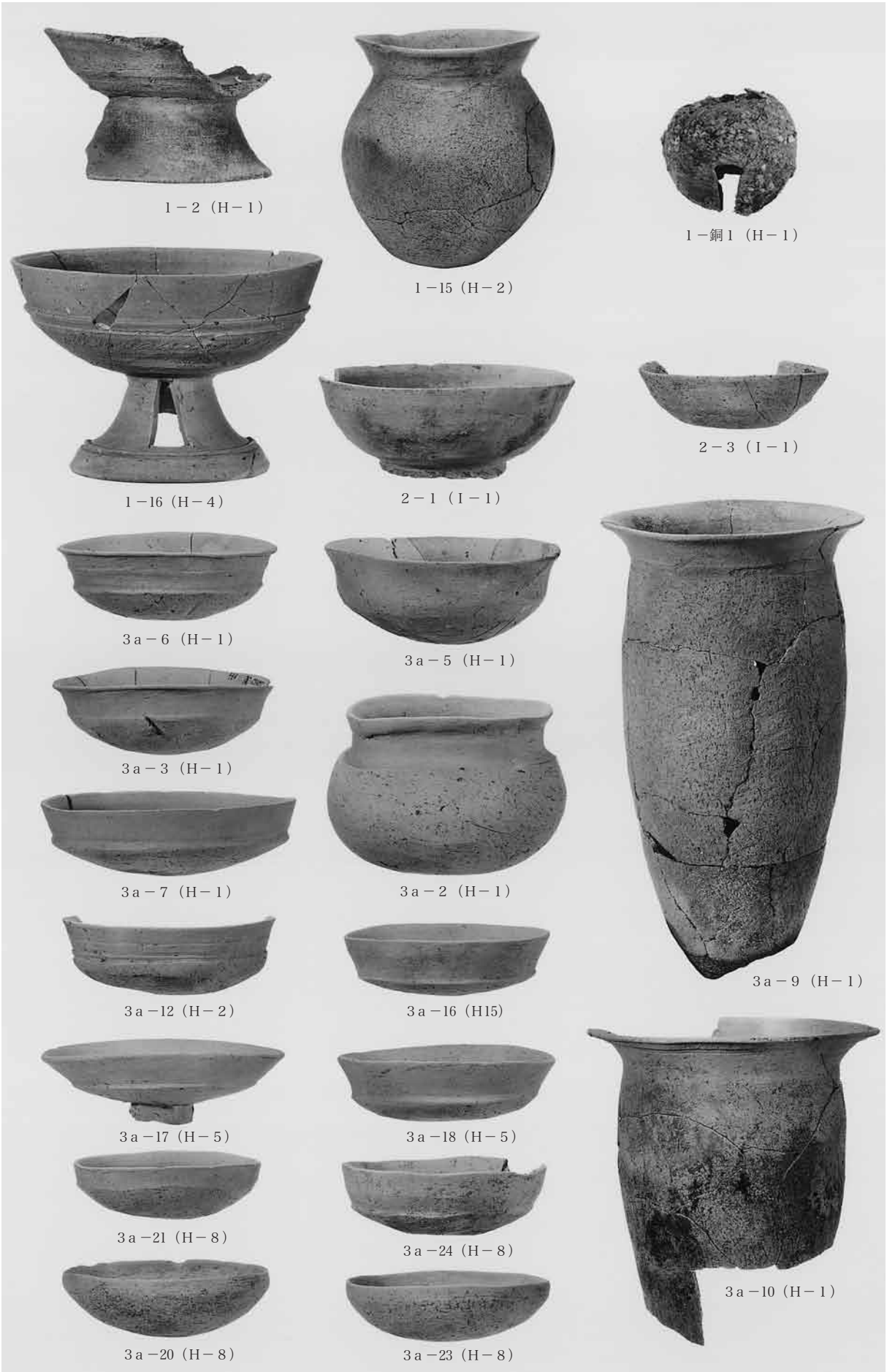
16区　H－1号住居跡全景（北から）

16区　H－1号住居跡遺物出土状態

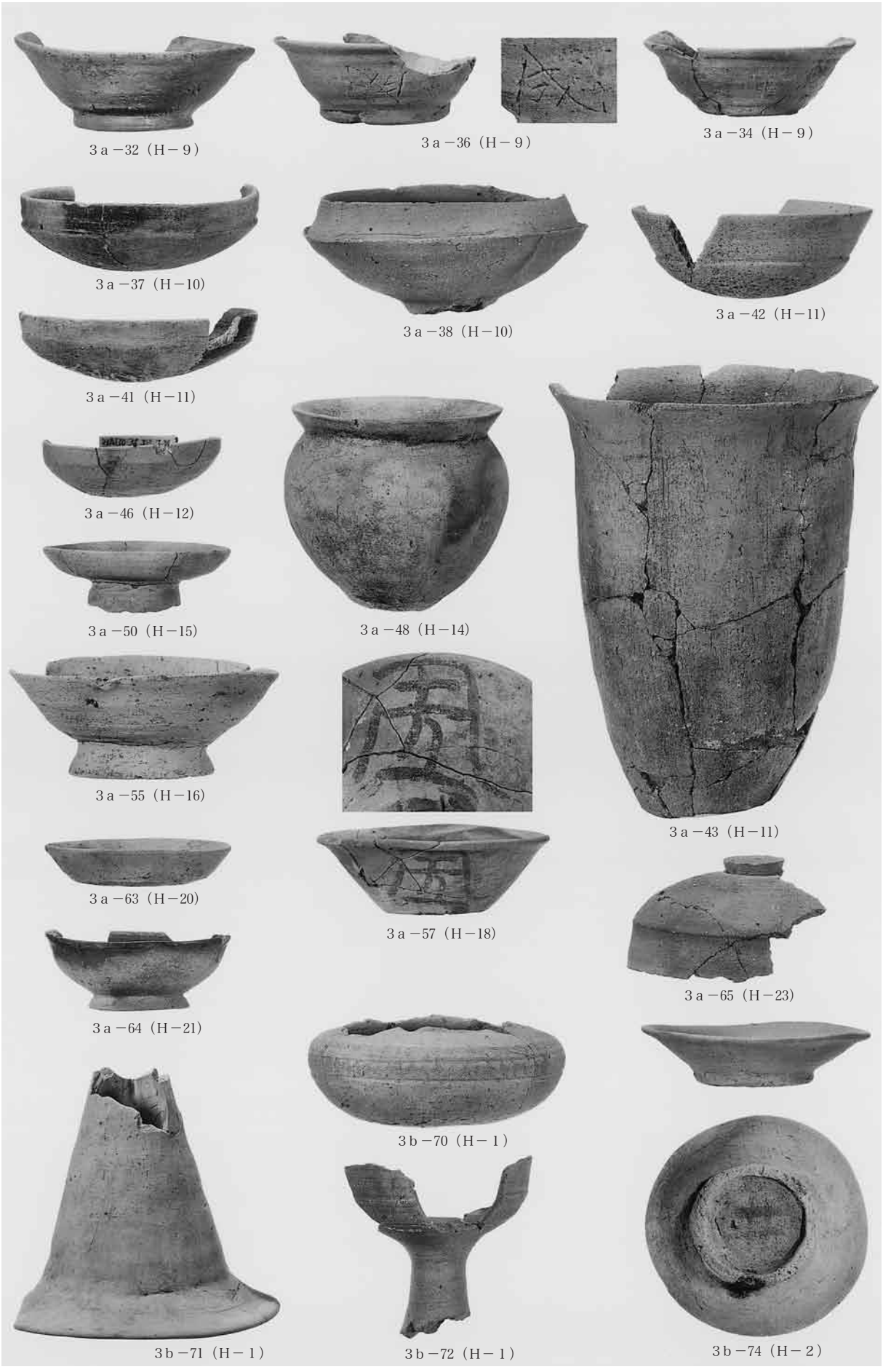
16区　水田跡遺物出土状態（西から）

16区　H－1号住居跡作業風景

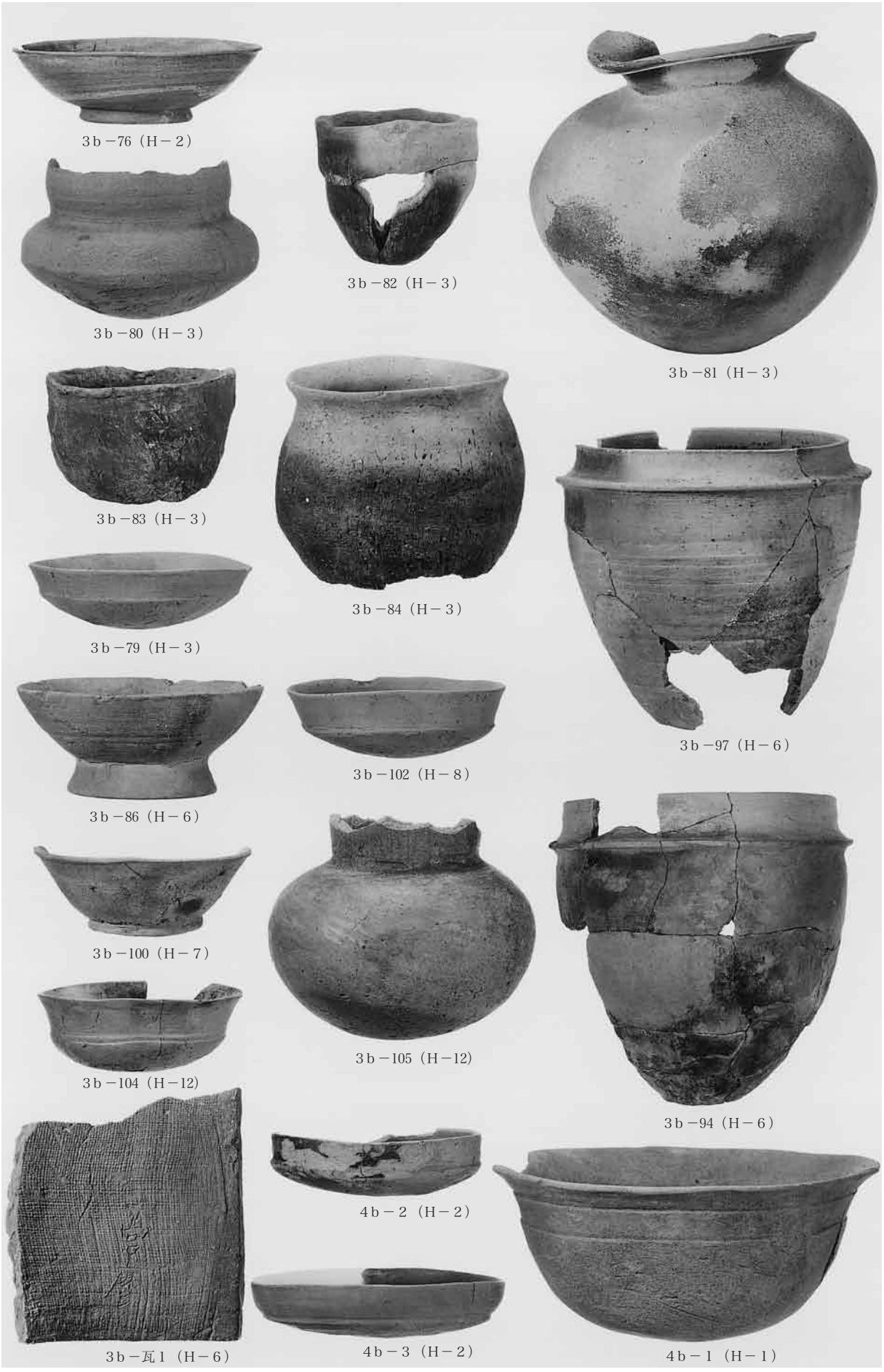
16区　H－1号住居跡全景（東から）



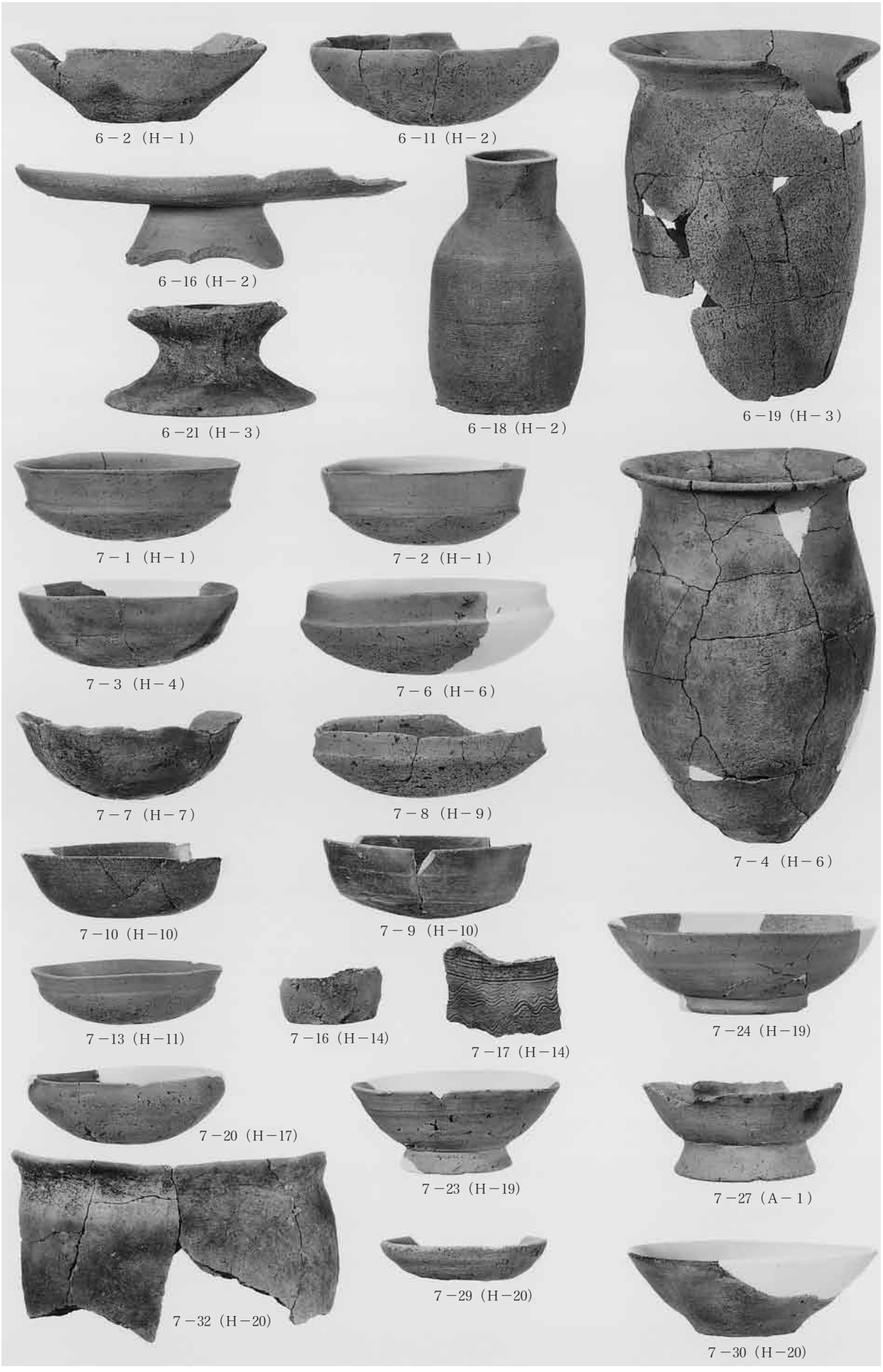
1－2（H－1）
1－15（H－2）
1－銅1（H－1）
1－16（H－4）
2－1（I－1）
2－3（I－1）
3a－6（H－1）
3a－5（H－1）
3a－3（H－1）
3a－7（H－1）
3a－2（H－1）
3a－9（H－1）
3a－12（H－2）
3a－16（H15）
3a－17（H－5）
3a－18（H－5）
3a－21（H－8）
3a－24（H－8）
3a－10（H－1）
3a－20（H－8）
3a－23（H－8）



3a－32（H－9）
3a－36（H－9）
3a－34（H－9）
3a－37（H－10）
3a－38（H－10）
3a－42（H－11）
3a－41（H－11）
3a－46（H－12）
3a－48（H－14）
3a－50（H－15）
3a－55（H－16）
3a－43（H－11）
3a－63（H－20）
3a－57（H－18）
3a－65（H－23）
3a－64（H－21）
3b－70（H－1）
3b－71（H－1）
3b－72（H－1）
3b－74（H－2）

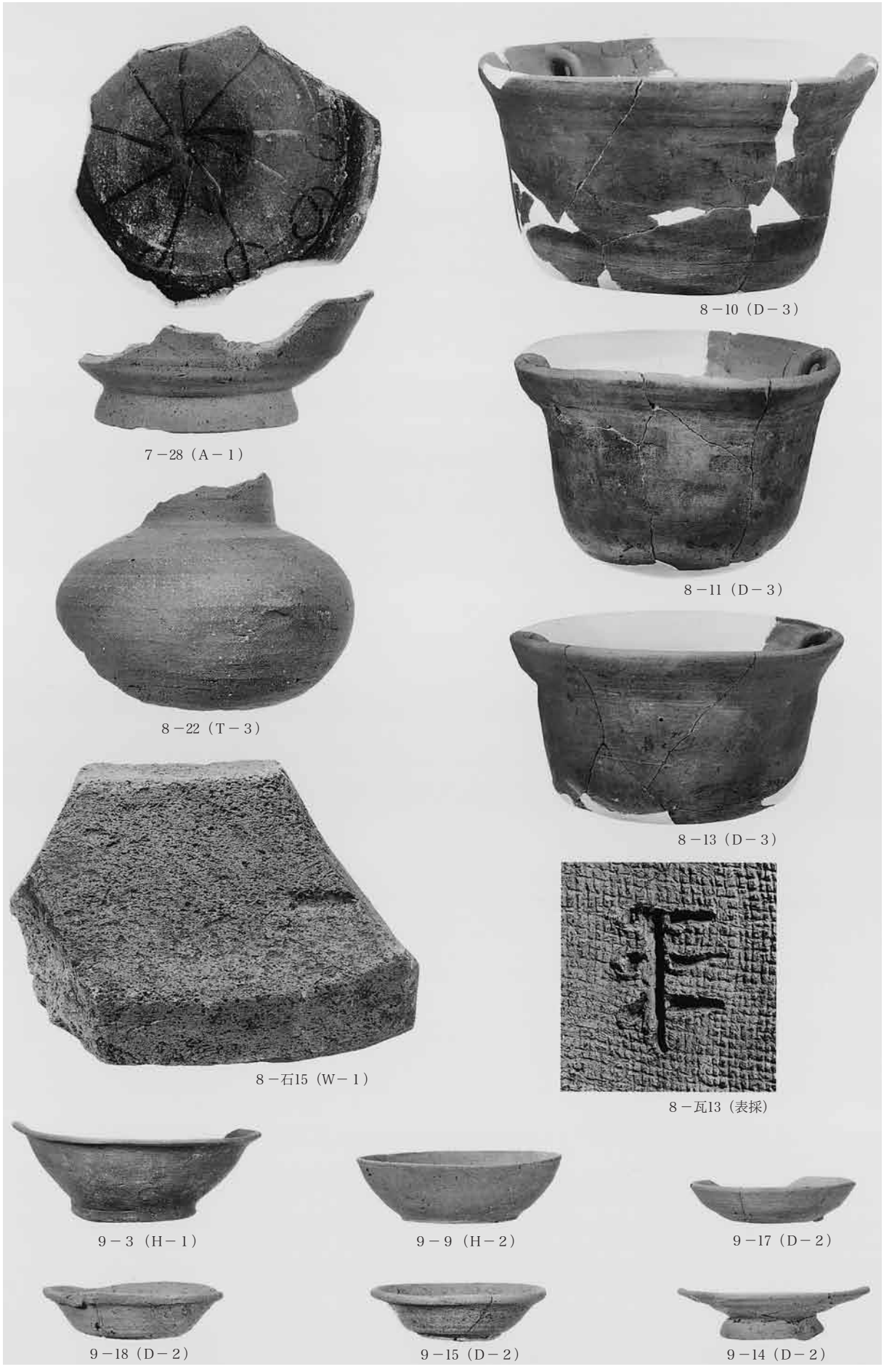


3b－76（H－2）
3b－80（H－3）
3b－82（H－3）
3b－81（H－3）
3b－83（H－3）
3b－84（H－3）
3b－79（H－3）
3b－97（H－6）
3b－102（H－8）
3b－86（H－6）
3b－100（H－7）
3b－105（H－12）
3b－94（H－6）
3b－104（H－12）
4b－2（H－2）
3b－瓦1（H－6）
4b－3（H－2）
4b－1（H－1）



6－2（H－1）
6－11（H－2）
6－16（H－2）
6－21（H－3）
6－18（H－2）
6－19（H－3）
7－1（H－1）
7－2（H－1）
7－3（H－4）
7－6（H－6）
7－7（H－7）
7－8（H－9）
7－4（H－6）
7－10（H－10）
7－9（H－10）
7－13（H－11）
7－16（H－14）
7－17（H－14）
7－24（H－19）
7－20（H－17）
7－23（H－19）
7－27（A－1）
7－29（H－20）
7－32（H－20）
7－30（H－20）

PL.40



8－10（D－3）

7－28（A－1）

8－11（D－3）

8－22（T－3）

8－13（D－3）

8－石15（W－1）

8－瓦13（表採）

9－3（H－1）

9－9（H－2）

9－17（D－2）

9－18（D－2）

9－15（D－2）

9－14（D－2）

9－瓦1（H－3）

9－瓦1（H－3）

9－瓦10（H－3）

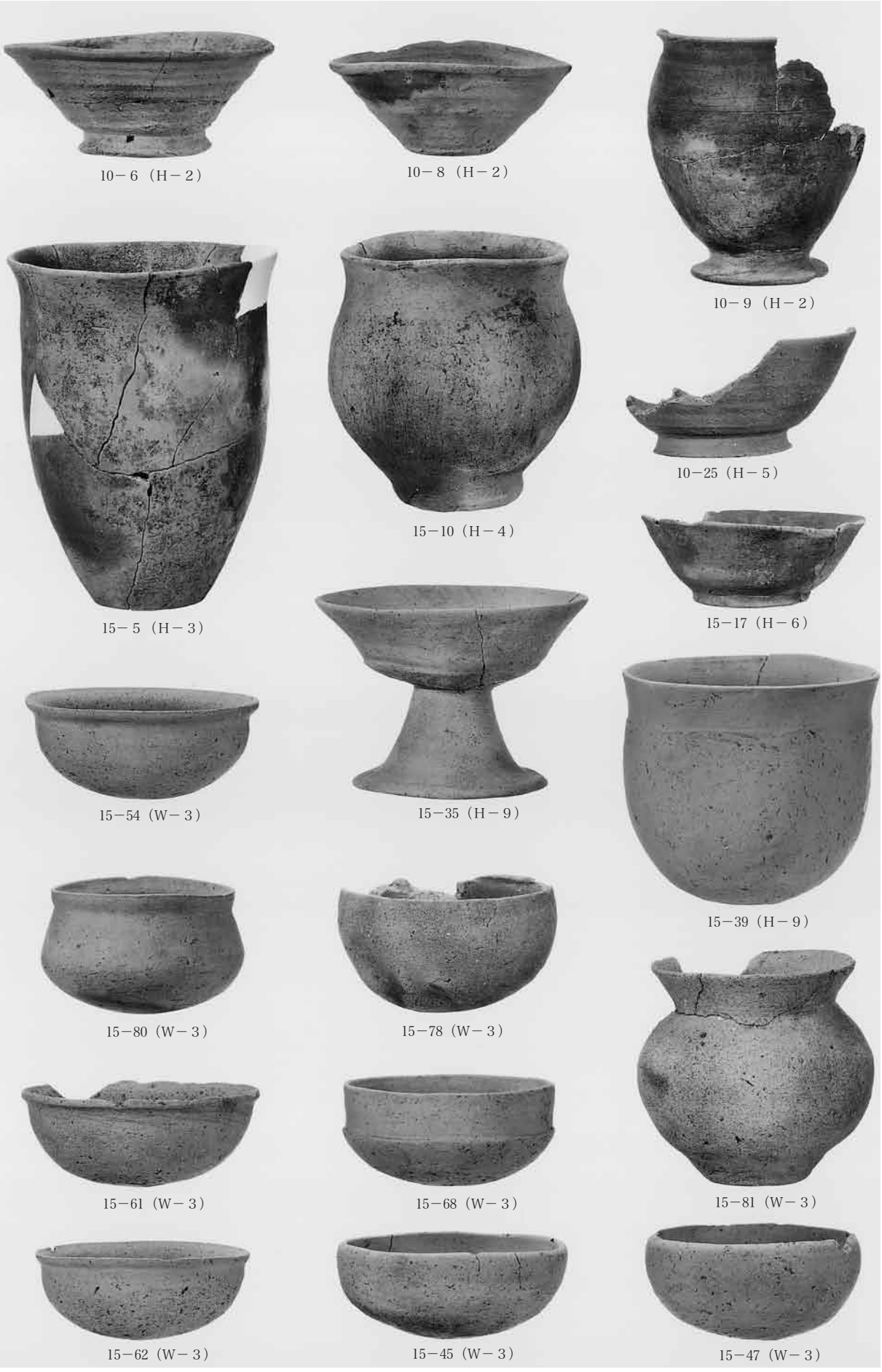
9－瓦2（H－3）

9－瓦2（H－3）

9－瓦9（H－3）

10－18（H－3）

10－22（H－4）



10－6（H－2）

10－8（H－2）

10－9（H－2）

10－25（H－5）

15－10（H－4）

15－5（H－3）

15－17（H－6）

15－54（W－3）

15－35（H－9）

15－39（H－9）

15－80（W－3）

15－78（W－3）

15－81（W－3）

15－61（W－3）

15－68（W－3）

15－62（W－3）

15－45（W－3）

15－47（W－3）

15－76（W－3）

15－77（W－3）

15－87（W－3）

15－83（W－3）

15－86（W－3）

15－84（W－3）

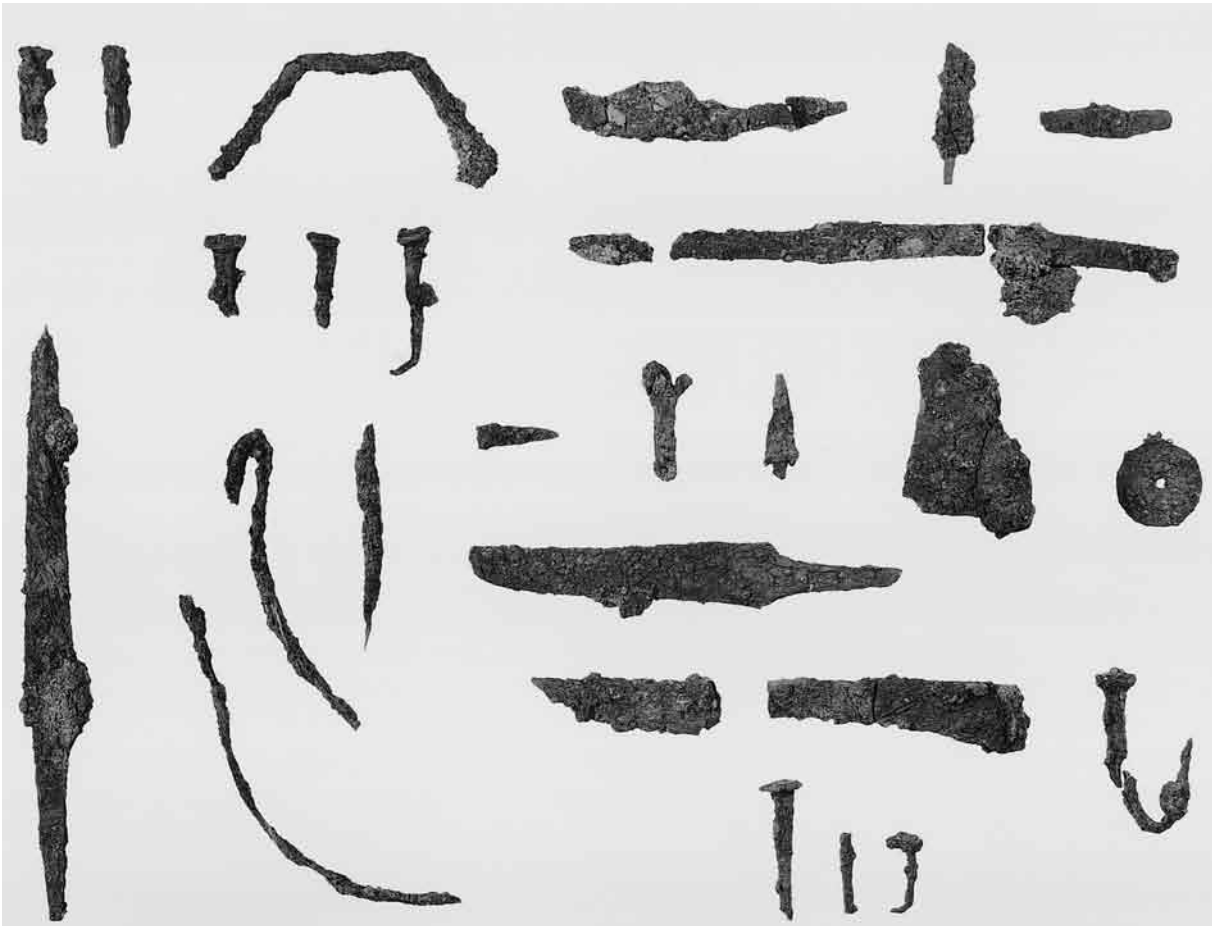
15－74（W－3）

16－5（H－1）

15－71（W－3）

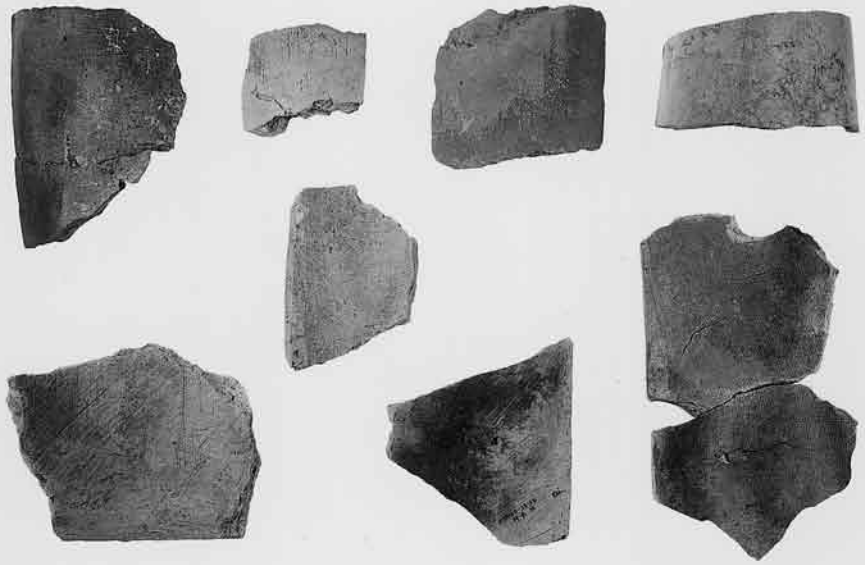
15－75（W－3）

16－1（H－1）



3b区　出土鉄製品集合

8区　D－3号土坑石集合



15－石18（W－3）

15－石19（W－3）

15－石6（H－4）

15－石15（H－8）

15－石16（H－8）

15－石17（H－8）

15区　臼玉・管玉

3b区　出土瓦集合

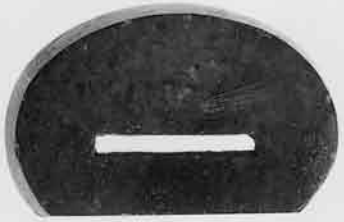
3b－73（H－1）

3a－69（グリッド）

3b－89（H－6）

3b－101（H－7）

3a－47（H－14）



3b－103（H－9）

抄　　録

フ リ ガ ナ	モトソウジャオウミイセキグン（38）
書　　名	元総社蒼海遺跡群（38）
副 書 名	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻　　次	
シ リ ー ズ 名	
シリーズ番号	
編 著 者 名	細野泰宏・藤坂和延・瀧澤重雄・並木勝洋・阿久澤智和
編 集 機 関	前橋市教育委員会
編集機関所在地	〒371-0018　群馬県前橋市三俣町二丁目10-2
発 行 年 月 日	西暦2012年３月30日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所 在 地	コ ー ド		位　　置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北　緯	東　経			
モトソウジャオウミイセキグン 元総社蒼海遺跡群（38）	マエバシシモトソウジャまち 前橋市元総社町 ほか	10201	23A 130-38	36°23′21″	139°02′07°	20110509 ～ 20111221	3,000㎡	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主 な 遺 物	特 記 事 項
元総社蒼海遺跡群（38）	集落跡	古墳～ 奈良・平安時代 中世	竪穴住居跡103軒 竪穴状遺構５軒 土坑42基他 溝跡37条他	土師器、須恵器、鉄製品、石製品、瓦 鉄製品、石製品	

元総社蒼海遺跡群（38）

2012年３月12日　印刷
2012年３月19日　発行

発行・編集　前橋市教育委員会
前橋市三俣町二丁目10－２
印　　刷　朝日印刷工業株式会社